桜はまた咲く!! 桜庭和志復活に向けて始動!!
2001 37
紙のプロレス
RADICAL
三沢戦直後の独占咆吼!!
次の標的は長州力だ!!
小川直也
4・18 ZERO-ONE
4・15 NOAH
4・9 新日本大阪ドーム
狂乱のプロレス絵巻から
見えたものを大分析!!
弁当に続き、
プロレス観も大増量!!
橋本真也
電車道まっしぐら!!
安田忠夫
復活!! 情念がさらに炎上!!
石川雄規
『PRIDE』に
大変なことが
起きている!!
堀辺正史骨法創始師範が
『PRIDE.13』徹底解剖!!
緊急対談!!
この2人の行方が
マット界を左右する!!
村上一成&
小路晃
●あの興奮再び! ReMix第2弾・ド直前情報!
●高木三四郎「日本のWWF化宣言」でファイヤー!!
オーちゃんの暴走が
純プロレスを巻き込む!!
長州!!
本性出せんのか
オラッ!!
風雲急を告げるリングス!!
危険な同期対談実現!!
山本憲尚vs成瀬昌由
『レッスルマニア』観戦座談会ボッ発!
WWF!! 他に比類なきプロレスの正体を探れ!!
シュート活字vsファンタジー活字の抗争までボッ発!
ジミー鈴木が田中正志に噛みついた!!
現地徹底取材!(原稿アリ!!)
アブダビ・コンバット大特集!!
現地独占スクープ対談!
田村潔司vsヘンゾ・グレイシー

山口日昇氏、島田裕二氏、澤野慎太郎氏、春一番氏、仙波久幸氏、ザ・グレート・サスケ氏、
そしてララ姉さん ほかたくさんの皆様の友情に心より感謝いたします。

迷わず行けよ 行けばわかるさ

アントニオ猪木

新日本プロレスリング オフィシャル・ビデオ

アントニオ猪木 "闘魂" ビデオシリーズ

大好評 発売中!!

希代のプロレスラー・アントニオ猪木の
闘魂あふれるファイトを選りすぐり収録!
これはプロレスの入門書であり聖書
(バイブル)である!

TOVH-1280 90分 税抜¥5,825

TOVH-1281 80分 税抜¥5,825

TOVH-1282 70分 税抜¥5,825

TOVH-1283 80分 税抜¥5,825

TOVH-1346 80分 税抜¥9,714

TOVH-1350 90分 税抜¥9,714

TOVH-1284 58分 税抜¥5,825

TOVH-1347 90分 税抜¥9,714

TOVH-1351 75分 税抜¥5,905

TOVH-1296 58分 税抜¥5,825

TOVH-1348 90分 税抜¥9,714

TOVH-1352 65分 税抜¥5,905

TOVH-1308 110分 税抜¥9,714

TOVH-1349 90分 税抜¥9,714

TOVH-1353 67分 税抜¥5,905

TOVH-1387 89分 税抜¥5,905

TOVH-1392 56分 税抜¥5,905

TOVH-1393 64分 税抜¥5,905

TOVH-1395 48分 税抜¥5,905

TOVH-1353 67分 税抜¥5,905

TOVH-1316 54分 税抜¥5,905

TOVH-1396 61分 税抜¥5,905

TOVH-1355 76分 税抜¥5,905

TOVH-1368 43分 税抜¥5,905

TOVH-1398 46分 税抜¥5,905

TOVH-1366 73分 税抜¥9,714

TOVH-1378 48分 税抜¥5,905

TOVH-1399 53分 税抜¥5,905

TOVH-1315 72分 税抜¥5,905

TOVH-1379 70分 税抜¥5,905

TOVH-1406 44分 税抜¥5,905

あなたが いたから 続けてこれた
あなたが いたから がんばれた
2001年4月 会社を辞め 東京を去り
私は人生の旅に出る

"人生に安住の地を求めてはいけない"
"修行とはやり直しの連続である"
"一歩 踏み出す 勇気"
あなたが いるから 笑っていける
あなたが いるから 進んでゆける

ありがとう 燃える闘魂 アントニオ猪木
ありがとう 永遠の憧れ アントニオ猪木

これからも あなたを 追ってゆきたい
これからも あなたを 見続けてゆきたい

平成13年4月吉日 木目 伊知郎

お求めは全国のCDショップ、書店、プロレス・ショップにて受付中! TOSHIBA-EMI LIMITED

内容についてのお問い合わせ:東芝EMI(株)ST本部・映像部 TEL 03(5512)1749 ご注文についてのお問い合わせ:同 営業本部・販売推進部3グループ TEL 03(5512)1558

小川!! おまえの一番やりたいことやってやるから上がってこい!!

（4・9大阪ドーム）

5・5 福岡で

長州力の“本性”は見れるのか？

（4・9大阪ドーム。この日の長州は、越中詩郎と組み、川田利明＆渕正信と対戦する前、小川直也と大乱闘を繰り広げた。これはその試合後のコメントである）

――試合前にとんでもないことが起こりました。

長州　俺にとっちゃ、とんでもないことでもなんでもない、うん。俺にとっては別に……。あんまり、〝とんでもない〟とみなさんが取ると、またアイツらうぬぼれちゃうしな。

――小川は「5・5（福岡ドーム）にやってやる」と。

長州　なに？　日にちまで指定してるのか？（ニヤリ）。まっ、アントニオ猪木の思うツボなのか。まあ、やるやらないは別にして、ハマるつもりはないよな!!

――長州さんは挑発は意に返さないと？

長州　あれって挑発なのか？　あんなもん、ここんとこの俺にとっては、うん。何か騒いだわりには何もしてこないな。だから、反対に俺は見られてるなと思って。俺が拍子抜けすることはないんだから、うん。小川も的を得てないよな。誰に噛みついても、みんな反応は鈍いだろうし。だからって、無視しているわけじゃないんだろうけど。あんまり1人で、ギャアギャア言っているとそのうち周りが誰もいないようになるよな。

　みんなアントニオ猪木の軍門に下ってどうのこうの言ってるけど、もともと俺たちは弟子でもあるしな。ただ30年みんなやってきて、何人かの選手は、やっぱり疑問を感じても当然だろうし、うん。それだけのことをやってきてるし。もし俺だったら、このマッチメークは作んないよな。まあ、そんなとこだよな、うん。

――疑問を感じるのは当然、というのは、例えば小川の主張、橋本の主張、そのあたりがわかる部分もある？

長州　通らない、通らないな！　橋本は100パーセント、通らない!!　何をほざきやがる。てめえが10年間、何やってきたか。何が沈んでいく？　フザけるなだよ！　お前が本隊でなかったら、とっくに沈んでたよ。それを目覚めたというんなら話はわかる。目覚めるのも10年かかり過ぎてるよ。みんなはそういうふうに取るよ。テメェ1人が浦島太郎になってほざいてるだけだよ、と、そのくらいのことは言ってやらないと、みんなの気持ちが済まねぇだろう。何をほざいてるんだ、テメェでやってみろって。矛先が違うんじゃねえかって。まあ、そういうことだな。まあ、俺が本腰入れて、もし本隊のワクから外れて、ケンカするんだったら、相手はただ1人だよ。アントニオ猪木しかいないでしょう。

　小川であろうが橋本であろうが、何を結託するか、ほっとけって。いっぱい矛先を向けたところで誰も取り上げない。こっちで取り上げると思ったら大間違いだよ。マスコミも勘違いして、10年も浦島太郎だった奴が、なにをフザけてるんだ!?　なにをやってみせようったってやりゃしねえ、俺の見てる範囲では。（中略）なにも俺は焦ってカムバックしたわけじゃないし。そういう部分では永田、中西、健介。そりゃあもう今は盛大に頑張ってる奴だよ。能書きをこいてるけど、（橋本は）追いつかないですよ。10年ひと昔ですよ。あいつが、息上げてトレーニングしたの10年間で見たことのあるヤツは俺に教えてくれ。何が堕ちて行くだ。堕ちていくのは、テメェ1人だけだ!!　という、みんなの、選手会になり代わって、みんなの総意を言いました。

●5・5福岡ドーム。長州＆中西組vs小川＆村上組が決定した（4・20時点）。長州が4・9のリング上から叫んだ、「小川ッ！　おまえの一番好きなことやってやるから上がって来い!!」の〝好きなこと〟とは何か？　5・5、長州は〝本性〟を見せるのか!?

4・9 新日本プロレス　大阪ドーム

「引けーッ！テメェら！」。橋本が健介を〝ノールールマッチ〟で破った後、乱闘を繰り広げる選手たちを一喝してリングから降ろさせたアントン総帥は、こんな闘魂メッセージを送った。

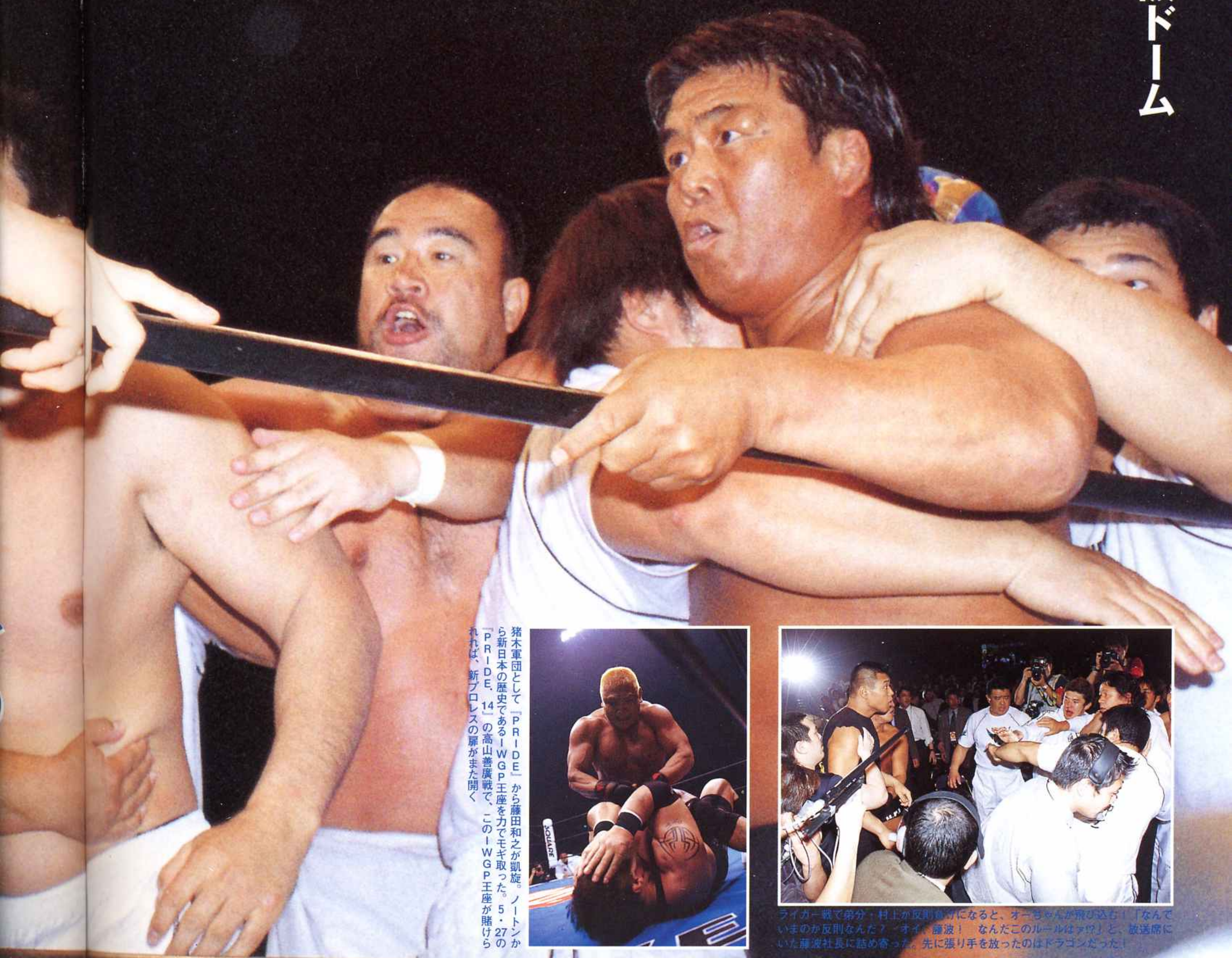
「聞いてくれ！　いま、新日本が存亡の危機にある！　今回、俺が乗り込んできたことは、このまま行ったら新日本が潰れてしまう。小川もそうだ、橋本もそうだ、みんな新日本から出た奴、それを放っぽり出した。俺にとってはみんな可愛い弟子たちだ。こいつらがみんな、熱い闘いを新日本のリングでやってもらいたい。今日はそれを見せてくれたと思う。ありがとう！（背広を脱ぎ出す）。新日本をひとつ暖かい目じゃない、厳しい目で見つめて、もし俺たちがなまけるようなことがあったら、叩き起こしてくれ！　行くぞーッ、1、2、3、ダーッ!!」

新日本に闘いを仕掛けた「新日本プロレス」の創設者・アントニオ猪木。このアントニオ猪木がやってきたプロレスを、作家の村松友視さんは、かつて「過激なプロレス」と命名した。

「過激なプロレス」とは何か？

それは試合の激しさや技術的な部分だけを指すのではない。人間には、博愛、向上心、優しさ、暖かさといった光の部分がある。そして、その裏には陰の部分もある。怒り、恨み、嫉妬心、見栄。つまり、一般的に言えば、人間の醜い部分だ。そこまでのすべてをさらけ出すことを「過激なプロレス」という。

醜い部分を単にさらすだけではただのバカだ。そういったものを「プロフェッショナル」として闘いに昇華させていかなければならない。これはときには〝苦痛〟を伴う。苦痛は何度も襲ってくる。しかし、「プロフェッショナルな世界」とは、高度を上げれば上げるほど、その苦痛を何度も乗り越えなければ構築していけない、ド厳しい世界なのだ。まさに安住の地などないっていうやつである。

しかし、ここ10年の新日本プロレスは、そういった〝苦痛〟を封じ込めるプロレスを展開し

猪木軍団として『PRIDE』から藤田和之が凱旋。ノートンから新日本の歴史であるIWGP王座を力でモギ取った。5・27の『PRIDE．14』の高山善廣戦で、このIWGP王座が賭けられれば、新プロレスの扉がまた開く

ライガー戦で弟分・村上が反則負けになると、オーちゃんが飛び込む！「なんでいまのが反則なんだ？　オイ、藤波！　なんだこのルールはァ!?」と、放送席にいた藤波社長に詰め寄った。先に張り手を放ったのはドラゴンだった！

“格闘戦国絵巻”が平成の世に出現!!

本性を見せた奴が勝つ!!

てきた。怒りやジェラシーなどを表現するにも、まるでマニュアルがあるかのようなプロレスだ。

そんな新日本の目を覚まさせようと、小川直也は99・1・4に〝仕掛けた〟。はからずも小川の標的にされた破壊王は、屈辱をバネにして目を覚まし、従来のプロレス界にはなかった磁場をつくる役割を邁進している。

長州力はかつて革命戦士と呼ばれた。いまはその革命が勃発しないように封じ込めている。長州力の本性はいったいどっちにあるのか？

99・1・4にファーストコンタクトをはたした小川と長州は、この日再び接触し、5・5にタッグで激突することが決まった。

長州の本性が出る闘いが見てみたい。長州、本性を出せんのかーーッ！【N・Y】

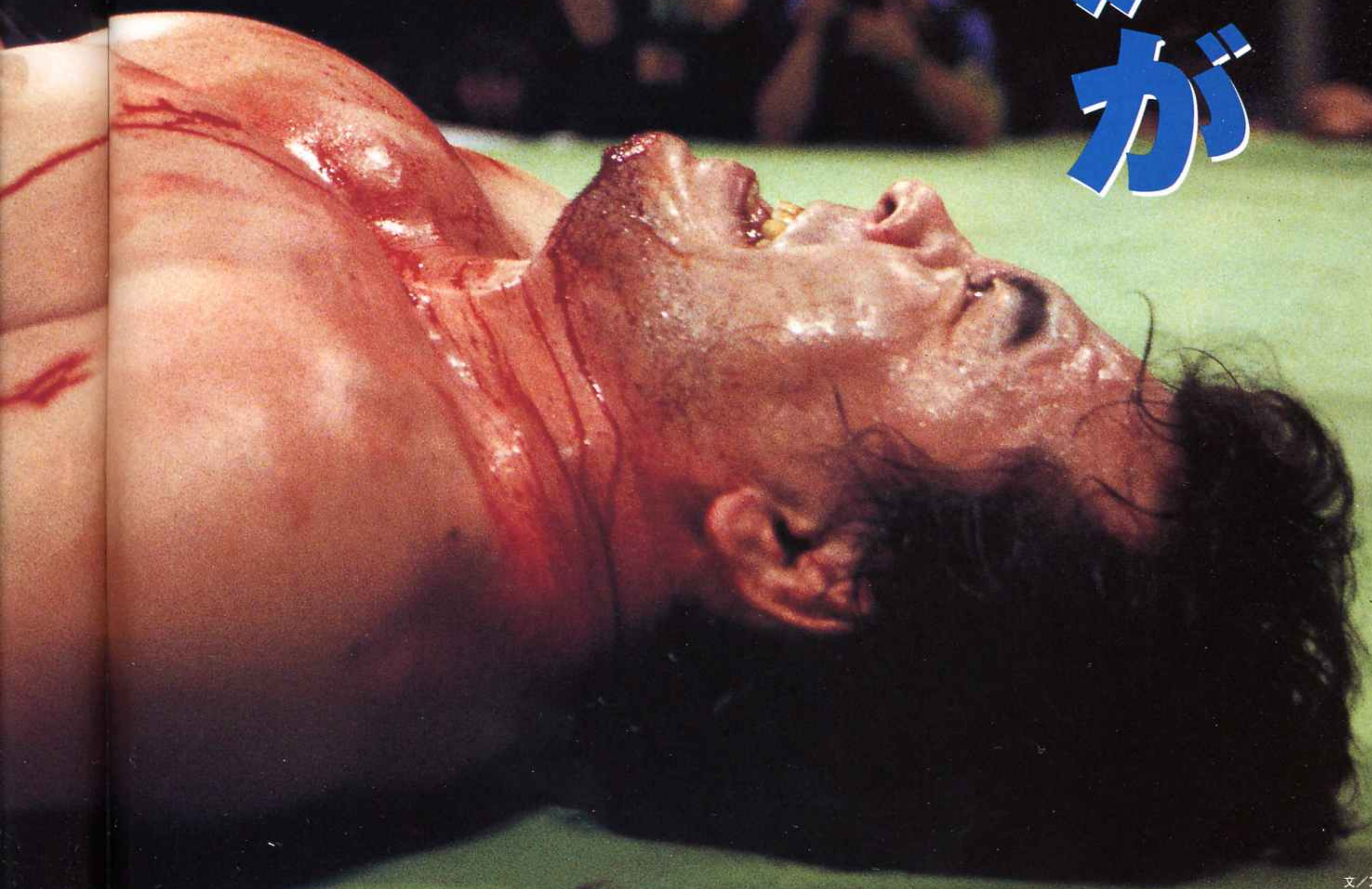
4・15 プロレスリング・ノア 有明コロシアム

〝マット界最後の秘境〟がその全貌を見せた!!

〝マット界最後の秘境〟——そう名付けたのはテレビがつく前のことだった。その〝秘境〟も地上波TV中継が4月からスタートを切った。そこで放送されるのは初代GHC王座決定トーナメント！ ノア最強は誰か？を決める大事なシリーズである。ここでその魅力が伝わっていけば、ノアが大爆発するに違いない！ そんなことを数ヶ月前に書いた。

4・15はノア二度目の有明コロシアム大会。そのメインイベントは三沢光晴vs高山善廣。結果はすでにご存じのように三沢の完勝。順当といえば順当な結果だったかもしれない。

しかし、この試合、結果だけで判断できるようなシロモノではなかった。

いわゆる「2・9プロレス」と呼ばれた脳天落下系の技を連発することなく決着する。

文／坂井ノブ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two three）

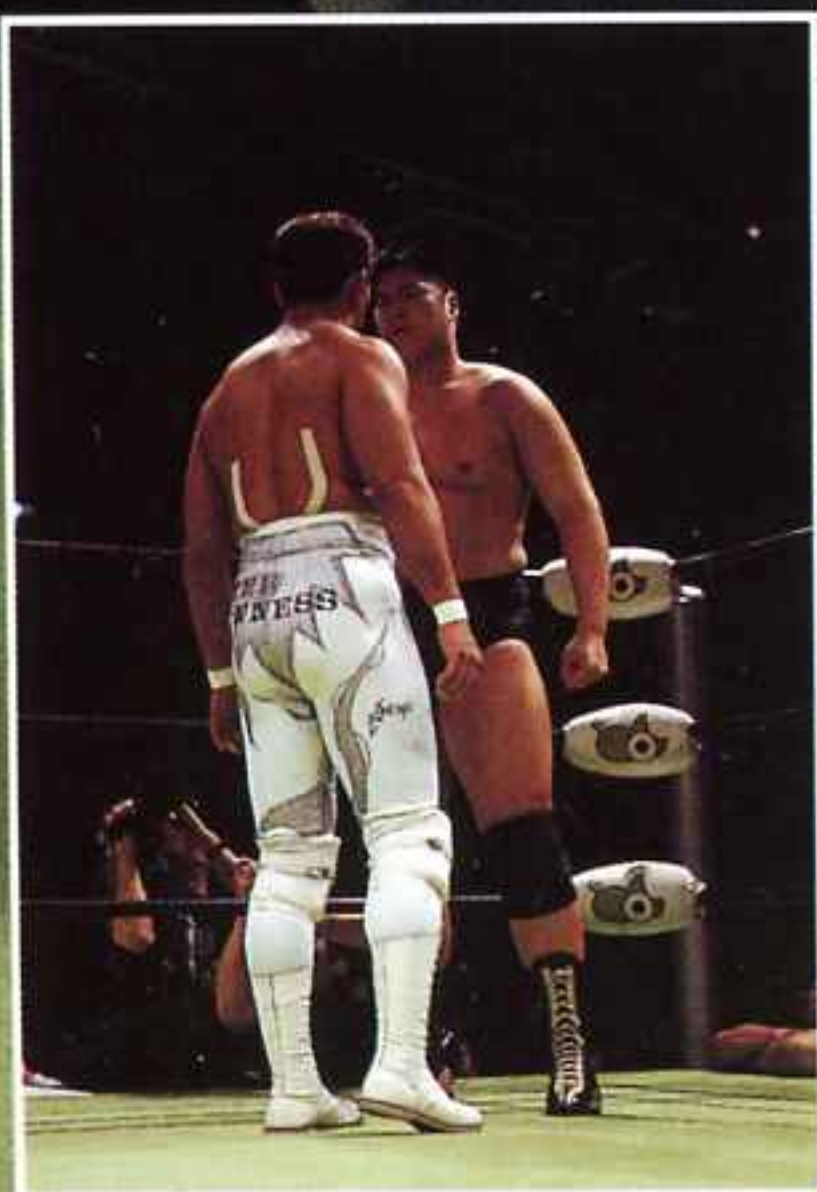
それでも、モノ凄い試合だった。

序盤の高山は、今まで見たことないほど激しく攻め立てる。蹴りの衝撃で三沢はアゴに6針もの裂傷を負ってしまうほど。しかし、流血で火が付いた三沢はエルボーを全力で高山の顔面に叩き込む。カニ挟みからのヒザ十字や逆十字など決め所で関節技を繰り出す意外すぎる展開を経て説得力500点のフィニッシュへ。文句のつけようがない、激しさの極限のような試合であった。

橋本や小川がやろうとしている「プロレス」がスキャンダラスな話題を振りまいて世間を巻き込みながら大きく展開させていくことであるのに対して、三沢がやろうとしている「プロレス」は会場に来た者を確実に納得させる凄い試合をやることである。ゆえに、ノアのリングは直接その目で見なければならない〝秘境〟だった。

しかし、これからはテレビがある。

この〝秘境〟をテレビで目撃した人は何を思うだろうか？ もはや〝秘境〟は〝秘境〟でなくなった！ この試合、〝秘境〟の奥にはこんなにも高度なプロレス文明があったのだということを多くの人が知る絶好の機会であったことは間違いない！ さあゴールド・ラッシュはこれからだ！

秋[illegible]めてテーピングで固めていた。ロングタイツは初着用。[illegible]と力皇のW[illegible]を相手に[illegible]試合を繰り広げた。森嶋も[illegible]と気持ちの[illegible]しゃ[illegible]を[illegible]らない頼もしい存在に[illegible]予感が漂ってきた。

高山もものの凄い攻撃で三沢を追い込んだ。[illegible]蹴りもさることながら、ジャーマンやタイガーといった各種スープレックスも抜群の高さと衝撃度！ 高山の[illegible]迫る攻撃が三沢を追い込んだからこその名勝負だった！

3月25日に桜庭がシウバに敗れたことを嘆き、「冗談まじりに桜庭選手に勝ったヤツとやらせてみな」と言ったという三沢。それは見た過ぎる！「ノアのプロレスはどんどん面白くなります！」という言葉に期待[illegible]

4・18 ZERO-ONE 日本武道館

S 新・プロレス内プロレス!!

〜の「新・プロレス内プロレス」〜

文／山口日昇
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two three）

4・18ZERO―ONE第2弾興行。出るア勢。3・2の「おまえらの思い通りにはしねぇよ、絶対！」という三沢の本音が出まくったマイク・アピールを考えれば、出ないことも十分考えられた。

ましてや三沢は、馬場さんの直系。ノアは、純プロレス〝最後の秘境〟でもあったのだ。その秘境中の秘境・三沢光晴が、小川直也と絡むことなど永久に訪れないだろうと思われていた。いや、今年の1月、橋本と絡んだことさえ、信じられない光景ではあった。

馬場さんは〝余計なこと〟を嫌った人だ。「プロレスはプロレス」という価値観を軸にして、まわりに何者も寄せつけない強固な世界を築いた。これをかつては「プロレス内プロレス」と呼んだ。三沢も〝余計なこと〟を嫌う。

身体を極限まで酷使し、試合内容を限界まで煮詰めてファンを満足させることを信条としている。

反対に小川と橋本は、〝余計なこと〟を仕掛けて、世界を動かそうとする猪木の弟子たち。

アントン総帥は、「プロレス」を軸にしながら、世界的なスパースター、ボクシングの世界王者モハメド・アリと闘ったり、馬場さんを挑発したり、馬場さんの団体からスター選手を引き抜いたり、政治の世界に進出したり、アントン・ハイセルというリサイクル事業をやったりした。まったく人生に保険をかけなかった。

馬場さんからすれば、すべてがナンセンスで〝余計なこと〟である。

おそらく、三沢の目には、小川や橋本の行動が〝余計なこと〟ばかりで、ナンセンス極まりなく映っていることだろう。

橋本真也は、「ZERO―ONEは俺の団体じゃない。みんなの団体だ！」と言った。

まったくもってナンセンスな考えだ。

「みんなの団体」なんて、そんなことふつうに考えれば実現不可能な話だからだ。

しかし橋本は、「利害を超越して、誰も出来ないこと、誰もやらないことを、夢としてそれに挑戦する。それが私のロマンである」というアントンイズムでバク進する。そこに狭いレベルでの嘘はないはずだ。

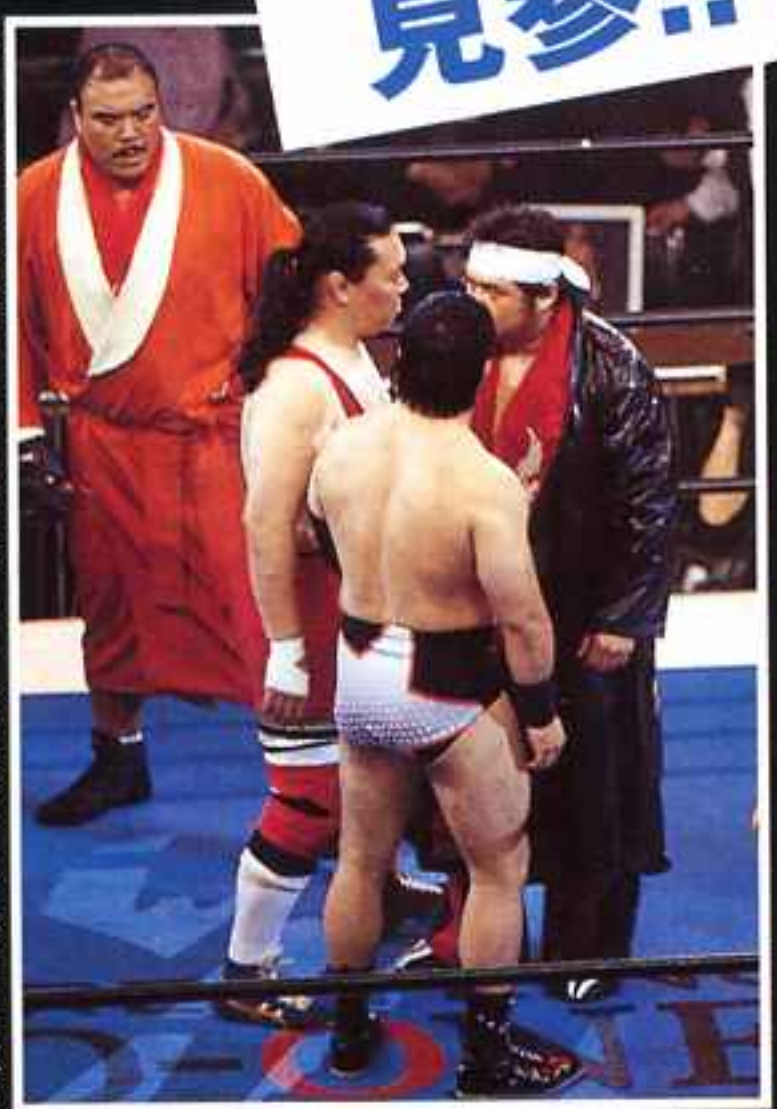
カード発表が前々日に行われたメイン、三沢＆力皇vs小川＆村上!! ゴング前の小川と三沢の睨み合いから最後まで、客席の熱気は尋常じゃないことこの上なし！ エネルギーが噴きだしまくる光景は、まさにプロレス新黄金時代だ

三沢が小川にエルボーをブチ込む！ こんなシーンが、まさかこんなに早く見れるとは思わなかった！ ノアとUFOの第二次接近遭遇は、いきなり三沢と小川の頂上対決が実現。直接の絡みは1分にも満たなかったが、濃密だった

最後は、元気な特攻隊長・村上をキリキリ舞いさせた三沢が貫禄のバックドロップ・ホールドでピン！ とにかく三沢の純プロレスラーとしてのたたずまい、色気、奥深さが伝わってきた一戦だった。「プロレス内プロレス」恐るべし

三沢が村上を葬った後、ノア勢に“集団リンチ”にあった小川。オーちゃんのこんな場面は初めてだ。かつての宿敵・破壊王が見かねて駆けつけ救出！ 破壊王は後日、橋本、小川、藤田、安田で「闘魂四天王」結成をブチ上げた

破壊王! 見参!!

旗揚げ第2弾興行というのに、メインではなく、安田を従えセミに登場した我らが破壊王！ 本田多聞＆井上雅央2人に標的にされた。しかし、自分の弁当にならって破壊力を大増量した橋本が、最後は雅夫の肩を文字通り破壊した!!

杉浦 貴! 合格です!!

アレクと対戦したノアの怪物・杉浦貴。まったく怯むことない闘いっぷりを披露。「杉浦コール」を自然発生させた。序盤のグレコスタイルの差し合いのウマさもさることながら、そのたたずまいは超一級品のものを持っている

新・過激なプロレスvs 新

～ノア勢が見せた情念の「

激動のマット界 戦国絵巻

そんな破壊王ロマン・ZERO—ONEが、奇跡の瞬間を生みだしてしまった。

4・18日本武道館――。

あの小川直也と、あの三沢光晴がリング上で対峙したのだ。

館内は、とてつもない熱気に包まれた。まるでプロレス黄金時代である。

試合は、三沢光晴が、〝余計なこと〟をする者たちへの怒りとジェラシーを「プロ」として昇華させた形で爆発させ、小川の暴走を封じ込んだ。純プロレスを練り込むだけ練り込んできた情念が、〝余計なこと〟をさせなかったのだ。

三沢光晴という人は、目の前にある小さな〝おいしい〟ものには目もくれない。本当に〝おいしい〟ものを知ってる人だろう。そのおいしいものを取るには、いまの時代〝アクセス〟しなければ取れないことも知っている。

外に出ていかなかった馬場さんのプロレスを「プロレス内プロレス」と呼ぶなら、外に出ていった三沢のプロレスは、「新・プロレス内プロレス」である。

今度、小川と三沢が対峙したとき、小川の「新・過激なプロレス」は暴走することができるだろうか。

このイニシアティブの獲り合いは面白すぎる。プロレスラーにとっては、たかがプロレスの〝たかが〟の部分にコンパスの軸を刺し、円をどれだけ大きく描いていけるかが勝負となる。その勝負には、格闘能力はもちろん、自己演出能力、表現力などが必要となってくる。つまり、プロレスとは、〝総合人間力〟を競う場なのだ。

されどプロレスの〝されど〟の部分が大きくなりすぎると、格闘技や世間からの白い目に持たなくていい類のコンプレックスを持ち、身動きが取れなくなってしまう。それが現在の新日本だ。身動きできなくなれば、〝総合人間力〟を競う場としては、とてもじゃないが機能していかない。

ZERO—ONEには、新日本が忘れたものが確実に落ちていた。

ビバ、ZERO—ONE!!

ノアより、ある意味で〇日本の方が"秘境"でしょ

長州？アントニオ猪木と争うレベルじゃないよ

小川直也

4・18 三沢戦翌日に大咆吼!!

聞き手／山口日昇
撮影／森"モーリー"鷹博
designed by hisa (Two Three)

武道館が揺れた！　燃えた！　唸りを上げた！

4・18ZERO－ONE第2弾興行で、急転直下！　小川＆村上vs三沢＆力皇という仰天カードが実現してしまった。

カード発表が前々日だったにも関わらず、当日券が3千枚以上、まさにUFOが飛ぶように売れた。館内は、純プロレスのみではなく、『PRIDE』などを含めても、近来希にみる大盛り上がり！　尋常じゃない熱を生みだした。

そのピークが、小川と三沢のゴング前の睨み合い。いつものように〝殺るか殺られるか〟のゴジラ目で圧倒しようとするオーちゃんに対し、三沢も威風堂々と正面から睨み返す！　まさにリアル異次元対決！　リアル王道vs闘魂！　生きててよかった!!　そう言いたくなるほど、興奮と至福の瞬間が訪れたのである。

試合は、ノア勢が、マット界の未確認飛行物体UFOに怯むことなく、三沢が特攻しきれない村上をガッチリとフォール！

小川直也が初めて〝おいしいところ〟を取れない珍しい展開となった。

純プロレスラーの凄み、色気とたたずまいを持つ三沢光晴というレスラーに、小川直也は追い込まれたのか？　純プロレスでもオーちゃんのケツに火が付いたのか？

オーちゃんは間髪入れず、この後、5・5福岡ドームで、村上と組み、因縁の長州組との対戦を控えている。

あの〝1・4事変〟（99・1・4）以来の遺恨決着戦だ。オーちゃんが長州力の〝本性〟を引き出せば、こっちも震えるほどの闘いになる可能性もある。なにせ、相手は天下の長州力だ。

オーちゃんのケツに火が付いた!?　さらに高度を上げていくために、もっと火よ、燃えさかれ！

ゴング前、オーちゃんが行った！「殺るか、殺られるか」光線を発射したが、三沢も真っ正面で受けて立つ。この視殺戦のときの館内は、まさに武道館が震えるような熱気だった

というわけで、このインタビューは、三沢との濃密で激しい探り合いを展開した翌日にオーちゃんを逆襲撃したものです。

（UFO公式出入り禁止カメラマン・モーリーを見つけるなり）

小川　あ！　なんでいるんだよ！　出入り禁止って言ったじゃねえかよ！

モーリー　い、いや。最近、「小川さんとはどういう関係なんだ？」ってよく聞かれるんですよ。

──ガハハハ！　どういう関係（笑）。

モーリー　「使いっ走りです」って答えてるんですけど。あと「小川さんは怖くないんですか？」とか。だから、もうそろそろ出入り禁止を撤回していただきたいんですけど。

小川　ダメだよ、出入り禁止！　早く撮って帰ってよ！（なにげに古い『週プロ』をパラパラ見ながら）あ、力皇（猛）だ！

──ファンじゃないんだから（笑）。

小川　いいレスラーだよなぁ。

モーリー　力皇は優しい顔してますよね。

小川　（モーリーをキッと睨んで）で、どうすんの？

──小川さん、三沢さんを見るときと同じ目をしてますよ（笑）。

モーリー　ま、まずインタビューカットを撮らせていただきまして、それからメインカットを撮って終了です。

小川　絶対それで終わりだよ！　終わらなかったらフイルム没収するからな！

──まあまあ（笑）。とっとと始めましょうか。

小川　なんか『紙プロ』も懐かしいなぁと。

──なぜ懐かしがる（笑）

小川　それだけ時代の動きは早いってことですよ（笑）。

──確かに（笑）。でも、ここのところは他の専門誌にも出てなかったですよね。

小川　ちょっとね、いろいろありまして、山に籠もってました。

──『ゴング』に出てたってわけでもなさそうだし（笑）。

小川　『ゴング』は読んでるんですけどね。ちょっと、自粛してまして……お騒がせしました（一礼）。

──本題に入りましょう（笑）。昨日はテンション上がりまくりですか？

小川　そんなにテンション高くなかったような気もしたんだけどなぁ。いつもイタコ状態だから（笑）。

──でも、あの三沢選手とのゴング前の睨み合いの緊張感は歴史に残りますよ。言ってみれば〝異種プロレス戦〟ですからね（笑）。

小川　面白きゃ、なんでもいいやと思って。

──いや、面白かったですよ！　もっと小川さんにガンガン行ってもらいたかったけど、ファンの熱が尋常じゃなかったですよ。ズバリ言って三沢選手と初めて当たった感触はどうなんですか？

小川　間髪入れずに当たった方がいいよね。こっちは久しぶりの試合だし。でもノアとは実現するのに先走っちゃって、「ここまできたら、やるのは1回だぞ」みたいになってたでしょ。だから、焦らされたっていうかね。あれだけファンに「やれ！」って言われてんのに、やらない男っていうのもなかなかいないよね。でも、それも作戦のうちなんだろうけどね。試合でも、こっちが「ヨッシャーッ！」ってなったときに、サラッとスカされるっていう感じだよね。力皇っていうのがチョコチョコ出てきやがるし（笑）。

──なんだか対グレイシーの桜庭選手みたいな戦法取りますよね（笑）。でも、三沢選手が試合決定後に、小川さんのことを「ウチじゃデビューもままならない」と練習生扱いしてましたよね。そういうのを聞いてカチンと来てなかったんですか？

小川　「まぁ、言わせとけ」みたいな感じですよ。

──そこらへんの心理戦も長けてるなって感じがしますよね。

小川　やって面白いよ！　だって、変化球が返ってくるから。俺、変化球受けられるからさ。どこぞのF社長みたいに、直球でも受け切れないみたいなのと違うから（笑）。F社長の場合、俺がプロの野球選手だとしたら、向こうはリトルリーグぐらいだからね。

──ガハハハ！　リトルリーグまで行きますか！　やったぜドラゴン！

小川　120～130キロぐらいの球は直

球でも怖くて受け切れないって感じだからね。

——高度なキャッチボールができない（笑）。その点、三沢選手は……。

小川　こっちが剛速球投げても、変化球で返ってくるね。だから、どっちが猪木直系なんだよっていう感じはあるよね。

——藤波社長より、三沢選手のほうが猪木イズムの体現者だと（笑）。

小川　ホントに体験してるかもよ。佐山さんが膝ケガしてるときとか、タイガーマスクとして入ってたんじゃないの？（笑）。一時期すり替わってたかもしれないな。

——ダハハ。グラウンドでは首根っこを押さえられてコントロールされてるようにも見えましたけど？

小川　グラウンドテクニックも、レスリング上がりだから相当あるだろうし。それは、お互い手の内探ってる部分はあるでしょ？

——たった1回の絡みで、実際は1分もやってないですからね。

小川　もっと長くやった感じしたけどね。ノアがあのスタイル一本で来たら、ノアの方が脅威になるよね。「プロレスのレベルはウチがトップだ」って自負してるだけのことはあるよ。

——そういうのは感じました？

小川　まず、こっちがパンチ打ち込んでも、若手（力皇）が頑張って受けてるし。ああいう若手、ハッキリ言って新日じゃいないから！

——力皇はノーガードで小川さんと向き合いましたからね。

小川　数少ないチャンスをものにしてるよね。だってキャリア1年足らずでしょ？　そりゃもう玉砕覚悟で、打たれても打たれても、前に進むしかないって感じで来るよな。1年目だったら、「何がなんでも」って気持ちがあるじゃない。俺もそういう初心は忘れてないけど、力皇はいま特にそういう時期じゃない？　あれをやるかやらないかで、ノアの中でも違ってくるだろうし。

三沢にはプロレスでやられた感じよりも呼吸でやられたね

Naoya Ogawa

——そういえば、小川さんは試合したのは今年初めてなんですよね（笑）。

小川　あ？　いや～、ホームヘルパーってあるけど、興行ヘルパーみたいな感じだからね（笑）

——なんか、あちこちで見かけるんですけどね（笑）。

小川　みんな「困った」って言うわりにはね、使わないっていう。なんなんだよ（笑）。

——なにかを恐れてるんでしょうね（笑）。

小川　うしろに会長（猪木）が見えちゃうのかなぁ？

——マスコミも"猪木vs馬場"みたいな書き方をしてるところもありましたけど、本人としては、そういう意識はあったんですか？

小川　それはいろんな要素がある中での一つの要素っていうかね。新しいプロレスを目指すための闘いっていうのも一つの要素だし。ノアのスタイルもあるし、いろんな要素が混ざり合ってるから。

——試合後の乱闘では、ノア勢に集団リンチ状態でしたね。あんなヒドイ目にあう小川直也を見るのは初めてです（笑）。

小川　セコンド5～6人だったのに、パッと見たら、「なんだ、この人数は！」って思って。気が付いたら10人ぐらいいるんだもん。どっから出て来たんだっていまだに不思議だよ。客に化けてたのかな？

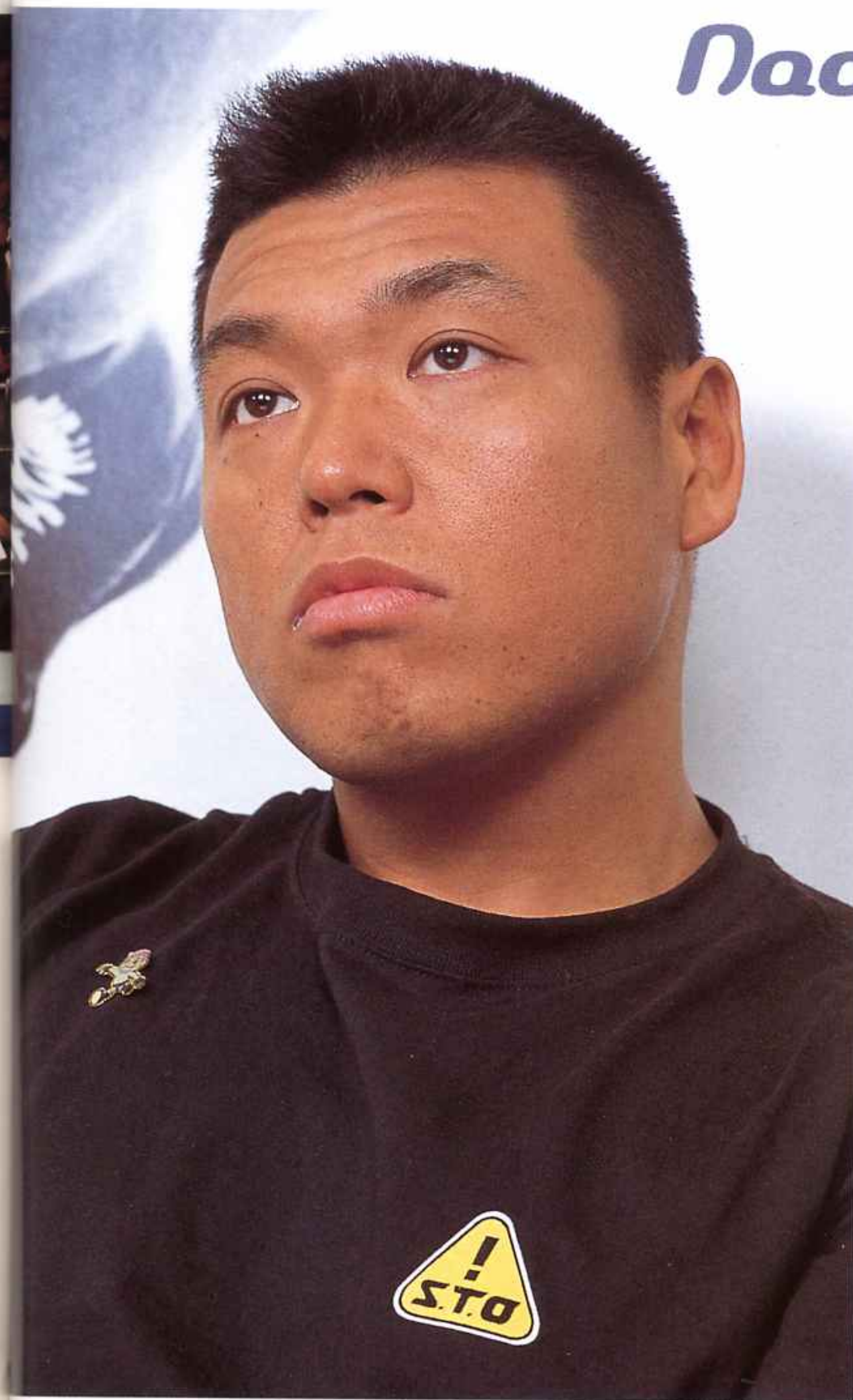
——そんなバカな（笑）。でも、橋本さんが援軍に来ましたね。

小川　助けに来てんだか、自分が目立ちたいんだか、わかんないよね（笑）。

4・18 ZERO—ONE PUTIT REVIEW

○三沢光晴　力皇 猛　（6分40秒 岩石落とし固め）　小川直也　村上一成●

小川が出ていくと、三沢はスカすように力皇とタッチ。なんと力皇はノーガードで小川のパンチを受け、「来い！」と誘った。この土性骨は武道館の天井まで届きまくった

特攻命の村上の無謀さをも封じ込む三沢のウマさと力強さ。エルボーを村上にガンガン打ち込んでいった。片足タックルなど、格闘能力の部分でも意地を見せまくった三沢だ

遂にリング上で対峙した大将同士。グラウンドで三沢が小川の首根っこを押さえつけコントロールする場面も見られたが、オーちゃんも豪快に綺麗に三沢を投げきった！

――ガハハハ！　そこまで言いますか。
小川　だって来るの遅いんだもん。歩いて来たんじゃないの？　小路（晃）が「やめてくれ！」「おまえら、ズルいぞ！」とかワメいてましたけどね。俺の方は防ぐので精一杯でしょ。蹴られ三昧でさ。

――襲撃三昧の男が、蹴られ三昧（笑）。

小川　それでフッと見たら、橋本真也が来てたけど、「なにやってんだよ、弁当屋！　遅えよ」と思ったよ。

――弁当屋！　破壊王弁当２００万食売れたらしいですからね（笑）。その橋本選手が試合後に「小川はなにしてんだ、バカタレ！　こうなったらノアに乗り込む。小川も恥をしのんで行く気はあるのか」って言ってましたね。

小川　……ちょっと待てよ、そうじゃないだろうが！（笑）。そっちはとっくに恥なんだよ！　わかるか、橋本！　橋本さんの場合は、掻いて掻いて恥じ掻いてで、とっくに恥捨ててるけどさ。なんでメインがＵＦＯ vs ノアになっちゃうの？　どこの団体の興行なんだよ！　橋本選手はどこの人なんだって疑問にまで陥っちゃったよ、この間（笑）。

――でも橋本選手は相変わらず面白くて、「ＺＥＲＯ―ＯＮＥは俺の団体じゃない！　みんなの団体だ！」って言い切るんですよ（笑）。

小川　……じゃあ、もうちょっとギャラ上げてもらわなきゃな。

――よく考えると、確かに「みんなの団体」って、いままでなかったなぁと思って。一般的に考えたら実現不可能でしょう、「みんなの団体」なんて（笑）。

小川　ダーッハッハッハ。みんなの歌みたいだね（笑）。

――猪木さんじゃないけど「利害を超越して、誰も出来ないこと、誰もやらないことを、夢としてそれに挑戦する。それが破壊王のロマンである」って感じなんですよね。それを実現したらパイオニアですよね（笑）。

試合後、ノア勢に袋叩きにあったオーちゃんは、「三沢！　数だけ揃えりゃいいってもんじゃねえぞ！　おまえら、今度まとめて勝負してやるからな、この野郎!!」とマイクを投げ捨てた

小川　いまメイン張るのもキツいからそう言ってるんじゃないの。投げちゃったんだろうね、お弁当で忙しくて（笑）。

――弁当で力尽きましたか（笑）。ノアに乗り込むのは、小川さんとしてはやる気満々ですか？

小川　橋本さんには「頼むから場を作ってください」と。俺が特攻隊長みたいになるのは嫌だからさ。橋本さんには屯田兵になってもらって、ノアの開拓者になってもらえれば。橋本さんは開拓者として一生名前が残るからおいしいよって。そのあとを俺が歩くから。

――小川さん、昨日の試合直後は「言い訳にはしたくないけど、作戦負けだ」って言ってましたね。

小川　スカされるっていうのがね。あそこまで行けば、プロだからやってくるだろうと思ったのに、あそこまで徹するっていうのは、キャラクターを利用するプロだよね。

――小川さんが出たら力皇にスッとタッチしたり（笑）。そういうとこはウマいですね。

小川　でも来るときは来るからね。よく会長が言う「ミリの世界」っていうか、「ここで仕掛ける」「ここは仕掛けない」っていう感覚には長けてるよね。３・２の乱闘のときのエルボーにしたってそうじゃない。まさか来ないだろうと思ってると来るし（笑）。試合でも、こっちのテンションがフッと下がったときにガッと来るからね。だから、昨日はプロレスっていうより、呼吸でやられたかなっていう。

――あ、それはわかりやすいですよね。

小川　ああいう状態が何回も続きゃ、「いい加減にしろ！」みたいになってくるからね。力皇がチョコマカチョコマカ、「俺が相手だ」みたいに出てくるし。「うるせぇんだよ、お前！」みたいになっちゃってペース狂ったね（笑）。

――タッグマッチ的には、昨日は村上選手があんまりアテになんなかったようですね。

小川　全然なんない！　なんの役にも立たないですよ、ホントに。１年坊主にあんなにいいようにやられちゃって情けなかったよ。３年間なにをやってたのっていう。並外れたルーキー相手なら別だけどさ、ああいう１年坊主にやられてちゃ、ヤバいと思うよな。チャンスを掴むのが難しいっていうのは、層が厚いから難しいわけであってさ、ウチはいとも簡単に破られちゃってチャンスつくっちゃうっていうのがなぁ（笑）。

――いきなり小川さんとこに来ちゃいますからね、頂上まで（笑）。

小川　あのゲートは薄いなぁ。簡単に破られちゃう。

試合後、ノア勢がオーちゃんを"集団リンチ"状態に。破壊王、小路晃、安田、アレク、杉浦など、"異種プロレス"な面子がリング上に入り乱れた。こんな磁場をつくった破壊王は凄い！

マウントを取った小川のパンチを防ぐ三沢。１分にも満たない両者の絡みだったが、一瞬一瞬が緊迫感に包まれていた。両者が動くたびに、武道館が揺れ動いた

袋だたきするやつのどこに「男気」があるんだよ！

Naoya Ogawa

――三沢さんは試合後に「やる前と終わってからでは気持ちの微妙な動きがある。思ったより全体的に力があった」って小川さんのことを言ってましたね。

小川　コメントも長けてるよね。貫いてるよ。絶妙な味を効かせてね（笑）。

――そんな三沢さんに向かって最後に破壊王は、「三沢社長！　男気はシッカリ受け取ったぜ、ありがとう！」とマイクで絶叫してました。

小川　集団リンチみたいなことするヤツのどこが「男気」なんだよ！　男気のかけらもねぇじゃねえかよ！　三沢が「お前ら、止めろ！」って言うなら男気はありますよ。それを黙って見過ごす番長みたいな奴がさ、なにが男気だよ。

――言われてみれば、そうですね（笑）。

小川　俺が一人でやられてんのにさ。「俺に手を出したらこんな目に遭うぞ」みたいなさ、そういう映画のシーンみたいだもん。

――破壊王はその後、「頭を下げろというなら何度でも頭を下げてもいいから、闘え、三沢ァァ！」って叫んでましたね（笑）。

小川　おかしいよ、それ！　「三沢、恥を知れ！」とか、ひと言いってやれば、客も「そうだ、そうだ！」ってなるのにさ。で、そのあとに「またやってやる！」みたいなことを言っときゃ「よっ、待ってました！　橋本、男だ！」ってなるじゃん（笑）。こっちが一番世の中が嫌がる袋叩きみたいなことされてるのに、それを見過ごして「ありがとう」はねえだろう（笑）。

――ガハハハ！　一応、興行をマイクで締めようと思ったんですかね？

小川　そのあとで締めろよ！　だから、自分でセリフを考えて来たんだろうね。「これしかない！」って。ナントカの一つ覚えでさ（笑）。

――『桃太郎侍』好きだから、最近、時代劇のセリフがかってますね、ますます。ホントに「ヨッ！　破壊王！」って声かけたくなるんですよね（笑）。

小川　教えときゃよかったかなぁ？　人間の心理というものを。

――試合直後に小川さんが、「ノアっていう団体は触れちゃいけない団体って言われるけど、蓋を開けてみると違った。ノアにはいい選手がゴロゴロいる」って言ってましたね。

小川　悪いけど、どこぞの団体より全然長けてると思う。唯一堂々と受けたのが三沢でしょう。橋本さんも含めれば、俺を受け切ったのはあの2人だけだからね。

――昨日思ったんですけど、三沢選手の小川さんみたいな存在に対するジェラシーって凄いものがあると思うんですよね。

小川　そのジェラシーをプロレスとしてリングの上で生かすわけでしょ。リングで生かせないヤツがいっぱいいすぎるよね。会長が『道』って詩を残していったじゃないですか。一番悲しかったのは、詩の中で「踏み出す勇気」って言ってるでしょ？　でもアントニオ猪木が新日本に置いていった言葉を、新日本の人は誰も吸収しなかった。なんでよその団体が踏み出してんのに。あれ、「踏み出す勇気」はどこ行っちゃったんだろうっていう感じだよね。

――そういう意味じゃ三沢さんは、はからずも闘魂が宿ってますよね。

小川　結局三沢さんが踏み出しちゃった。で、●日本は遅いという。あ、●日本にしといてくださいね（かわいらしく）。

――誰もがわかりますよ（笑）。

小川　ダーッハッッハ。全日本もあるじゃん！　あと大日本なんていうのもあるし。だから●日本にしといて。新●本じゃ思いっきりバレちゃうからさ。

――新日●でもバレますね（笑）。小川さんは三沢さんに対してジェラシーはない？

小川　ジェラシーとかは全然ないよ。ジェラシーっていうのは、自分が怠けてるからジェラシーになるんでしょ。人を見る余裕があるからジェラシーになっちゃうわけでしょ。

モーリー　ほぉーっ。

小川　君に話してんじゃないよ！　黙って写真撮ってろよ！

モーリー　い、いやぁ、勉強させて頂いて。

小川　サボッてんじゃねぇよ、撮らないんだったら出てけよ！　ただでさえ出入禁止なんだから。

――ガハハハ！　また対三沢の目になってましたねぇ。でも小川さんのレベルになると、他の格闘技を含めても、そんなにジェラシーを抱く存在っていないじゃないですか。それが逆に足かせにはならないですか？

小川　だから、自分を追い込んでやっていくしかないよね。誰も俺に付き合ってくれないから（笑）。

――ノアというプロレス界の秘境に分けいっていけばいいじゃないですか。

小川　秘境って言うけど、それはマスコミが作り上げた幻想であって、『インディ・ジョーンズ』みたいなもんだよ。みんな「崖っぷちだ」とか思ってても、周りの景色でわかんなかっただけで、よく見たら道があったみたいなさ。いまや秘境はむしろ●日本だよ！　ちょっと触れちゃいけないとこに触れると取材拒否とか始まるし、「こうしないと、お前らわかってんだろうな？」みたいな感じになるし、まさに現代の秘境は●日本だよ！

――はっは～。それは面白い見方ですね。

小川　むしろね、あったはずの橋が落っこっちゃった秘境だよ、あそこは。

――「おっかしいなぁ？　道があったはずなのに」（笑）。でも、その秘境から5・5、村上と組んで長州&中西組との対戦が発表されましたよね。

"猪木vs馬場の代理戦争"などという使い古されたフレーズを超えて、プロレスの新黄金狂時代をつくりえる熱を生んだこの日。次の小川と三沢のコンタクトはいつか？

小川　長州&中西組だったらやんないよ～って言ってんですけどね。
——は？　それはまたなぜですか？
小川　長州&飯塚組ならわかるよ。俺と中西って遺恨あった？　ねえじゃん！　俺と長州のシングルならわかるんだけどね。100歩譲ってタッグだったら、長州の直系っていうことなんでしょ？　飯塚か健介が妥当じゃないか。中西とは遺恨もなにもねぇもんな。それに、村上ともなんにもねーしな。ま、いいや。こっちはノアのことでいっぱいいっぱいだから。
——でも5・5はすぐそこですよ！（笑）。
小川　だから、やめようかと思って。
——ガハハハ！　は？
小川　だってつまんないんだもん。言っちゃ悪いけど、●日本の大阪ドームより、ZERO—ONEの武道館の方がお客さん入ってたと思うよ。
——ファンの熱気が違いましたよね。

袋叩きにあったオーちゃんを救出に入った破壊王は、「三沢、頭を下げろというなら何度でも頭を下げる！　闘えぇぇ、三沢!!」と絶叫！　この強引さが、新しい時代をこじ開けた！

小川　5・5の長州も、ファンの目っていうのは、そこまで行ってないんじゃねぇかな？「遅いよ！」って感じじゃないですか。
——むしろ、「対ノアっていうのは早すぎるだろ！」っていうくらい贅沢な早さでしたからね。
小川　時代のニーズに応えて早く行くっていうのはいまの時代を象徴してることですよ。要するにアメリカ的考えでパンパンパンッて行くのか、日本独特の、「根回し大好き日本計画」ってあるでしょ。
——「根回し大好き日本計画」（笑）。
小川　その違いじゃないかな？　だって、去年のいま頃なんか、ノアとやるなんて想像もしなかったことじゃない。長州とは去年の5月もあったし、遡れば99年の1月からじゃない。
——〝1・4事変〟のときですね。あれから、もう2年半ですよね。
小川　だから、お役所みたいなとこだね。

——長州監督が「小川は騒いだわりにはなにもしてこない」って言い方をしてますよね。「ケンカするんだったら、アントニオ猪木ただ一人だ」って。
小川　じゃあ、そうすりゃいいじゃん！
——ガハハハ！　また身も蓋もない。
小川　もうやめようよ、5・5は。やめやめ！　あとで記者呼ぼうかなぁ？　な～んかシラけんだよね。三沢との違い、わかるでしょ？　三沢の場合はフラフラしながらも、「隙あらば」みたいにこっちを狙ってるから油断できないんですよ。その感覚が違うんだよね。
——長州監督がアントニオ猪木を標的にするということに関しては、どう思います？
小川　すればいいじゃない。レベルが違うもん。アントニオ猪木のレベルと、長州力のレベルを一緒に考えてるから、こっちは「なに言ってんだろうな？」ってなっちゃうわけでしょ。会長のことヨイショするわけじゃないけど、どう考えたってレベルが違うじゃない！　計り知れないぐらいレベルが違うのに、同じ土壌に立とうとしてるから、「それはちょっと違うんじゃないの？」って。冷静にそれを言う人が誰もいないから俺が言ってるだけですよ（笑）。
——その長州監督には、4・9の乱闘のときにカブトムシタックル仕掛けられましたよね。
小川　カブトムシなんて失礼な（笑）。
——いや、小川さんが長州さんのことをカブトムシの雌の動きに似てるって言ってたんですよ！
小川　素晴らしい超高速クワガタタックル仕掛けられましたよ。カブトムシやクワガタをバカにしちゃダメですよ。
——あの長州さんと揉み合ってるときの小川さんの妙に醒めた目が印象的なんですよね。

小川　「次、わかってんだろうな」っていう気持ちだったからね（ギロリ）。いまはやらしとけって感じですよ。
——そういう目でしたね。藤波社長には張り手を食らってましたね。
小川　放送席に木村健悟さんがいるから、それを乗っ取ろうと思ったら藤波社長がいるから「あれ？」と思って、慌てて「藤波！」って言っちゃったんだよね。呼び捨てにした瞬間「ヤバかったな」と思いながらも「生放送だから、いっか」みたいなね（笑）。取り返しつかねぇし。で～も顔は怒ってたなぁ。
——怒ってましたねぇ（笑）。
小川　「なにも聞いてねぇ」って顔してたもんな。あれは藤波さんが解説席に座ってたのが間違いだから！（キッパリ）
——新日本全体の〝熱〟っていうのは変わってきたのは感じます？
小川　まだダメなんじゃないかなぁ？　俺の感覚としては。やっぱりトップの背中を見ながらみんながついてくるもんでしょ。今回のことについて冷静に言うと、橋本さんしかり、みんな自分が表に立ってやって行く。でも新日本は誰がやってんの？っていう。アントニオ猪木がやることに対してみんな不満ばっかタラタラ言って終わっちゃってる状況でどうすんだって。誰が引っ張っていくのか、わかんないんだもん。だから下の人がかわいそうだよ。
——そういう意味ではノアの方が熱はありますよね。
小川　ついて来る選手が多いでしょうね。若手とか、これからチャンスが転がり込んでくるだろうし。おまけに、あんな人数がいる中で社長がトップにいて、矢面に立って「俺がやるんだから、お前らついてこい」って言ったら、みんな文句言えないじゃん、あれを見せられちゃったらさ。「あの人につ

いていこう」っていう気になるじゃない。きっといまの新日本はそれがないんだろうね。

——ノアは現代風の「組」とか「一家」って感じですよね。

小川　だから、ちゃんと親分が威厳を保てるようなことしてるんじゃない。どっかと違って。

——昨日、小川さんが襲われたのは、まさにそういう構図ですもんね（笑）。

小川　いやぁ、ホントに。

——「三沢さんは引っ込んでてください、俺たちがやります」っていう（笑）。

小川　また人数が多いんだよ！　どうしようかと思ったよ、俺一人だしさ。村上はリング下にうずくまってるし、あのアホ。誰にやられたかわかんないけどさ。俺は力皇に不意打ち背中に喰らって、息詰まって大変だったんだよ。

——あんな姿の小川直也を見るのは初めてですからね。

小川　ぶちかましっていうの？　あれさぁ……横綱レベルじゃなくてホントによかったよ。でも幕内行ってんでしょ？

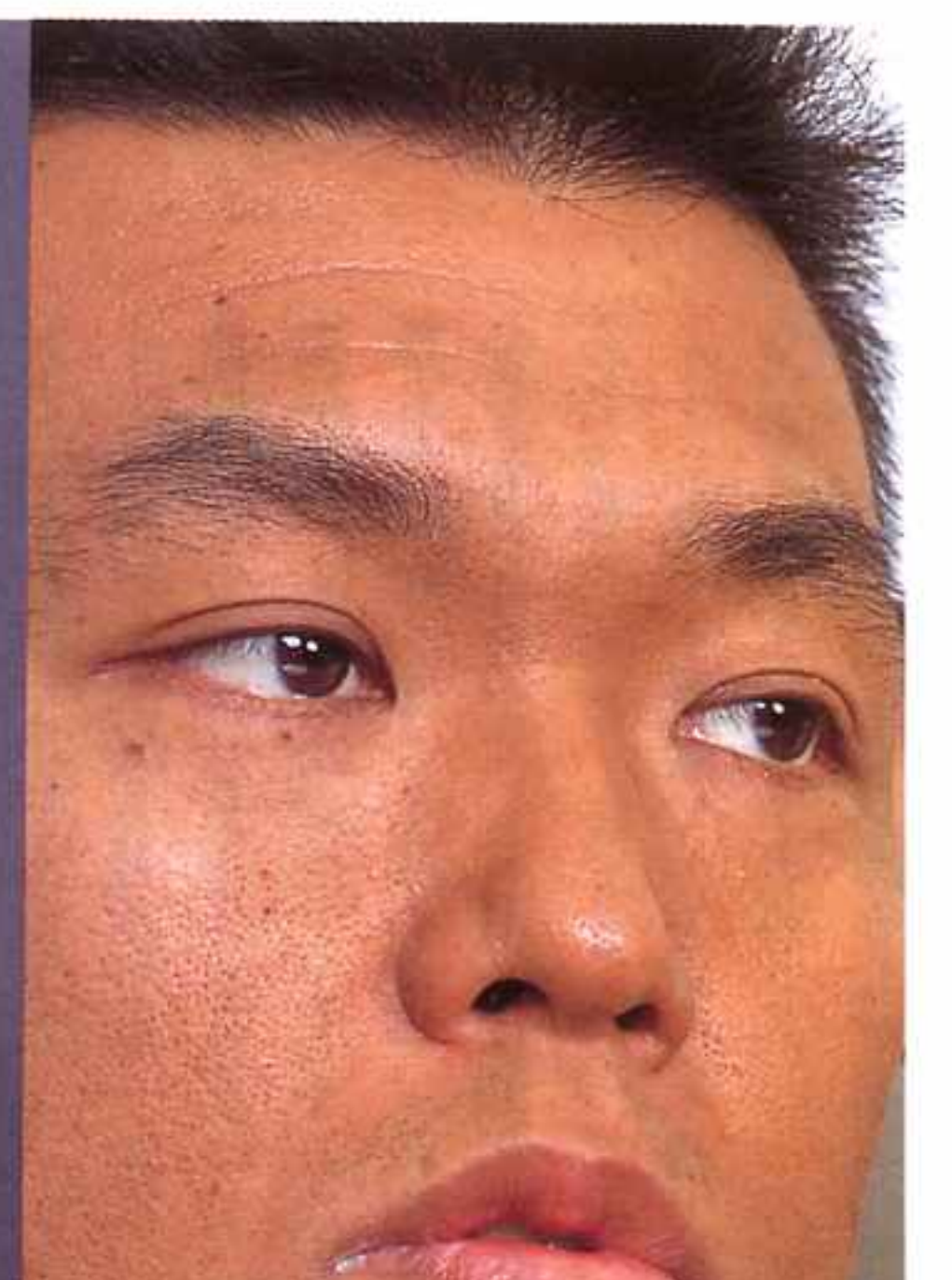
——小川さん、ノアの話だと進みますけど、問題は5・5なんですよ（笑）。

小川　面白くない！　つまんない！　片やエルボーでガンガン来て、片や超高速タックルでしょ。

——超高速タックルだったらいいじゃないですか（笑）。

小川　どうせカブトムシって入れるんでしょ？（笑）。あと長州にやられたのノド輪だもん。やっぱり違うよ。いつ殴って来るのか、待ってたんだけどさ。ホントにやる気あんのかなぁ、みたいな。片やエルボーで不意打ちみたいに食らったからね。燃え方が違うよ、こっちも。

——文字通りの超高速エルボーですからね。

小川　片や長州は「日にちまで指定してきやがった、この野郎。胸クソ悪い」なんて言ってるんでしょ。シビレたね（笑）。日にち指定しなきゃできないだろうって（笑）。

——でも、発表したということは、長州監督はやる気になってるわけですよね。

小川　コメントねぇじゃん！　永島っていう取締役がしゃべってるだけ。「お前、選手じゃねぇだろ、なんで長州の代弁してんだよ、マネージャーかよ！」って思うよね。ファンはお前の話なんか聞きたくない。あんたは裏方なんだから、みたいなさ。目立ちたくてしょうがねーんじゃないの。お前じゃねぇんだよ、選手が言えよ。

——でも猪木さんが、猪木軍団対新日本という抗争で、新日本に火をつけようとしてるわけじゃないですか。

小川　それに応える新日本の選手がいないからダメなんだよ。シラけてんだよ！

——タマとしてはいっぱいいるんですけどね。意識の問題なんでしょうね。

小川　猪木さんの考えてることがわかんないというか、そういうのがあるんだろうね。ジェラシーかなんかわかんないけどさ。

——そのジェラシーをリング上で出してほしいですね。

小川　出さないねぇ。内輪同士で揉めてさ。ファンだってそんなの見たくないじゃないですか。5・5だって遺恨だなんだっていうんだったら、遺恨のカードを作ってくれよと。

——やりたいんだか、やりたくないんだか、わかんないですもんね。

小川　興行主が「遺恨試合やります」って言ったんでしょ？　遺恨だったら俺と長州のシングルでOK！　タッグだったら長州&飯塚vs小川&村上のW遺恨でOKでしょう！

——遺恨の二重構造（笑）。選手としては中西選手に興味ないんですか？

小川　興味っていうか、それだったらいつでもできるじゃないですか。いま、なにをやることが大事か！　それをわかってるのかって言いたいんですよ、俺は！

——小川さんに期待してるファンは、「やっちゃってくれ、小川！」っていう一点だと思いますけどね。

小川　やらないのが一番いい薬になると思うんだけど（笑）。

——でも、リング上で長州力の本性を見たいですよ。小川さん相手の。

小川　俺はZERO—ONEやノアの方が面白いから！　やる方だって、面白い方に行きたいじゃない。やりがいのある方に。ハッキリ言って「頭おかしいんじゃないの？」って思うよ。だって、4・9であそこまで

やっといて「次は川田とシングル」だって（笑）。「どうしてそうなっちゃうの？」っていうのもあるしね。そのときは、あまりにも面白すぎて、「俺1ドル出しても見に行かねえぞ」って言ったけどね（笑）。

──ズバリ言って、ZERO―ONEの方が、新日本を見てる感じがしますね。

小川　ZERO―ONEはUFOのニーズにも応えてくれてるから（笑）。

──ノアが一家だったら、ZERO―ONEはホントに“みんなの団体”って感じだもんなぁ（笑）。

小川　みんなの団体っていうかね、こっちがズカズカ入っていってさ、「橋本、こうしなきゃダメだよ！」「そうかな？　じゃあお前に任せるから、頼んだぞ」って（笑）。それ聞いた瞬間「ハァ～ッ、もういいや、橋本さんは許そう。嫌いじゃないからいいや」って、最近そんな気持ちになってきたね（笑）。

──いつの間にか破壊王と共闘路線になってきましたね。

小川　共闘っていうか、闘う魂をわかってくれてますからね。

──ところでUFOの自主興行はどうなってるんですか？（笑）

小川　ま、これからですよね。いつも「これから」って言ってるけど（笑）。

──もう2年ぐらい言い続けてるような気がするなぁ（笑）。

小川　ホントは、ヒクソン戦を睨んでたけど、どうなるかわからないしね。タイソンっていう話もまったくわからないし。

──ヒクソンが「今年は試合しない」って明言しちゃいましたからね。

小川　諸事情があってのことだから、しょうがない。でも、いまみんなテレビ局の縛りとか、あるじゃないですか。俺たちがそれやっちゃうと、結局また最初の段階のような「自分たちは自分たちでやる」ってなって首締めちゃうんで、UFOが結局損な役回りなのか、得な役回りなのかわかんないけど、自分が出向いてやることで活性化するならしょうがないなって。

長州？一番嫌がってること
あんたがやってやるから

Naoya Ogawa

──でも、それが時代性ってものですよね。

小川　誰かがやらなきゃいけないからね。橋本選手みたいに、自分のとこでやって、自分だけが儲ける主義だと、ちょっと厳しいかもしんないけどね。「頭下げて出ててやる」って言ってるわりには、自分の興行ばっかしてるし（笑）。

──カードも決まってないのに「次は武道館だ！」って（笑）

小川　「でもメインは俺じゃない！」だって（笑）。なんだよ、それ！　ファンはそれがまた面白いって言うんだよね。いいねぇ。橋本選手には優しいファンがいっぱいいて（笑）。

──でも昨日の対戦で三沢株がグッと上がって「小川なんて大したことないぜ」っていうノアファンの声も上がってきてますよ。

小川　だからいいんですよ！　いきなり俺がガツンと行っちゃったら、ノアファンが怒っちゃうじゃん。新日が昔怒っちゃったじゃないですかぁ（笑）。そうなっちゃいけねぇなっていう。これからジワリと。意図的にやってますから。

──昨日は初めておいしいとこを取れなかった小川直也を見た気がしたけど、ホントはもっとおいしいとこを狙ってるような気がするんですよ、小川さんが（笑）。

小川　（ニヤリ）俺を追い込んだ気になってたら間違い、一気に行くときは一気に行きますよ。

──三沢選手とはもう一度必ずやる？

小川　やるように追い込みゃいいだろ。長州も詰めるとこまで詰めたし、このまま長州がスカしてると、ホントになくなっちゃうよって。あ～あ、5・5のこと聞かれてテンション下がっちゃった。川田とやっとけよ、みたいな。ノアのこと聞かれればテンション上がるんだけどね。ワクワクするよ（笑）。

──逆に言えば、それだけ新日本とはグチャグチャになってるから、実際にリング上で対峙したら面白いと思いますけどね、見る側としては。

小川　やってみたいんだけどね、長州とは。ここであんまり派手にやっちゃうとさ「やっぱ川田にする」とか言いかねないじゃん（笑）。だから慎重に。まあ、でも、ど～でもいいや。

──4・9で長州がリング上から「小川！おまえの一番やりたいことやってやるから上がってこい」と意味シンなこと言ってましたけど、“一番やりたいこと”って何を指して言ってると思いますか？

小川　あ？　こう言っておきますよ。じゃあ、あんたが一番イヤがってることやってやるからかかってこい！（ニヤリ）。

──これまた意味シンですね。あれだけテンションの高い試合の翌日の早くにありがとうございました。

モーリー　じ、じゃあ小川さん、メインカットをお願いします。

小川　まだ撮るの？　聞いてないよ！

モーリー　さ、さっき言いましたよ！　でも、いやぁ、昨日は興奮しましたよ。ボク、お金払って見に行きましたから。

小川　ホントに金払って入ったの？　招待券だろ？

モーリー　ホ、ホントですよ！　ちゃんとチケット買いましたよ！　ボク、つい呼んだんですよ。客席から「小川さ～ん」って。

──それ、呼んだんじゃなくて声援だよ！（笑）。

小川　いいから早く写真撮ってよ。

モーリー　小川さんを撮らせていただいたおかげで、誰の撮影でもビビらなくなりましたよ。

小川　プレッシャーは常に感じてないと。安住の地を求めるようじゃダメだよ！　あ、そういえば、「モーリーと天才は紙一重」ってことわざがあるらしいよ。

モーリー　そうなれるように頑張ります！

──モーリーが馬鹿になれるように頑張るそうです（笑）。

【4月19日　UFO事務所にて収録】

NEW・STO Tシャツをプレゼントしま～す

4・9では見事に長州力に引き裂かれ、4・18ZERO―ONEでは売場にファンが殺到したオーちゃんのNEW・Tシャツを3名にプレゼント！　応募方法はP159へ飛べーーッ!!

ZORO-ONE

橋本真也

破壊王節 またもや 大爆発！

遂に出る杭となった破壊王!! 打つ長州を一刀両断!!

聞き手／坂井ノブ
撮影／松本崇
試合写真／平工幸雄
designed by hisa (Two Three)

Shinya Hashimoto

小川!! 長州殺っちゃえ!!

新日解雇から約半年——いま、時代は破壊王一色である。3・2ZERO—ONE両国大会の大成功！　新聞紙上を連日賑わす破天荒発言！　破壊王弁当が200万食を超え、サンクスの株価が急騰！　3月20日、新日代々木大会のリング上から「新日本が落ちていくのを黙って見てられない！」とアピールすれば、観客も拍手喝采！　格闘技路線『真撃』も発進！　もはや向かうところ敵なしと思われるほどの快進撃ぶりだ。しかし、本誌的に引っかかったのは4・9大阪ドームでの佐々木健介戦である。ノールール戦と謳われながら、何とも煮え切らない試合内容となり、破壊王は涙を流して「むなしいな……」と切ない心情を吐露した。破壊王の胸に去来したモノは一体何だったのか？　その話題から今回のインタビューはスタートした。さあ！　今号も破壊王劇場スタートーッ！

激動のマット界
戦国絵巻

——今日はよろしくお願いします！　え〜、まずは4月9日の大阪ドーム大会は今年1月以来、久々の新日出場でしたけど、いかがでした？

橋本　……虚しかったよな。祝福されない結婚式みたいな感じだよ。

——しゅ、祝福されない結婚式（笑）。また、すごい比喩ですね！

橋本　やっぱり俺と新日本の間にそれだけ距離ができちゃったんだろうな。俺が「（いまの）新日本は違うんだ！」っていろいろ言ったところで、俺はもう新日本に戻れないからね。そこで俺がまだ悩んでるからさ、早くこれを抜けなきゃって思ってるよ。ハッキリと気持ちの踏ん切りをつけないと、次のことに取りかかれないよ。これも女と同じでさ、終わっても引きずるんだよ。

——出ましたね、得意の恋愛論（笑）。

橋本　やっぱり未練はあるんだ（笑）。だから新日本に対する愛情のかけ方っていうのを変えればいいんであって、いまはその途中だと思う。だからあんなに虚しかったんだろうな……。

——橋本さんは、ずーっと「新日本はこんなもんじゃない」と言ってますよね。

橋本　3月の代々木大会で言った言葉と、こないだの大阪ドームで言った言葉は意味が違うから。なぜかというと、俺が一言「新日本の腰抜けども！」って声をかけたら、あいつらみんな突っ込んで来たじゃん？　あれこそ新日本なわけやろ！

——そうですね。

橋本　でも裏を返せば、声を掛けなきゃ上がってこなかったわけだろ？　言われないと上がらないんだろ？　テメエんとこの大将クラスがやられたら、言われなくても上がって来いや！　それが新日本でしょ？　だから、若いヤツらが迷ってんだよな、自分を出していいものかどうかって。上の顔色ばっか伺ってるから、そういうことになるんだよ。くだらねえ！　気持ちがハジけたらハジけたらリングに上がってこいよ！

——「気持ちがハジけたら上がって来い！」ですか！　おお、名言だ。

橋本　そうじゃないか？　お客さんも新日本のリングに〝怒り〟を感じてないやろ？

——たしかに猪木さんが盛んに言ってる〝怒り〟の部分は足りないですね。

橋本　ただし、難しいのはアントニオ猪木は絶対にヒールではないんだよ。アントニオ猪木は絶対的にベビーフェイスなの。それはもう、変えようがないんだよ。ヘタこきゃ、新日本がヒールにされちゃうだろ？

——いや、その可能性はありますよね。長州（力）さんの方がよっぽどヒールっぽい印象はありますからねぇ。

4・9の試合後、長州は「もし、俺が本隊の枠から外れてケンカするんだったら、敢えて、ただ1人だよ。アントニオ猪木しかいないでしょ」と発言！

橋本　それに新日本本隊がいま誰がトップなのかハッキリしてない状態だからな。どうせ、このまま長州さんが乗っ取っちゃうでしょ？　今度の福岡ドームで小川（直也）がやるんだったら、ハッキリかたをつけてもらいたい。俺と長州さんがやることはないから。ハッキリ言われたよ。本人の口からね。

——はぁ〜！　本人が！　何か、今度の福岡ドームでは小川さんと対戦するみたいですけど……大阪ドームでは、小川さんと長州さんの乱闘シーンがありましたよね？　乱闘してるところに『パワーホール』が鳴って、長州さんが入って来るというもの凄い展開でしたけど（笑）。

橋本　あれ、客がバカにされてたね。そう思わなかった？

——いや、WWFみたいだなと思いました（笑）。

橋本　でもな、あんなもんに演出なんかいらないだろ？　なんでテーマ曲に乗って、歩いて出てくるんだよ？　走って出てくればいいじゃねえかよ。

——そうなんですよね。なぜかいつもと同じなんですよね、長州さんだけは。

橋本　たとえば会社が「小川に話題を取られないように」ってそういうふうに仕向けたとかさ、そういう裏が見え隠れするやろ！　そんなの素人でもわかるやん！　あんなゆったり歩いてきてさ、おかしいだろ？　怒ったら走ってくるじゃん。会長があれだけ何回も言ってるにもかかわらず……。

——あれは長州さんの中では、完成されたスタイルなんでしょうけど。それとこない

ああいう状況を作った全責任を俺に押し付けたんだろ、あのチャーシューが！

Shinya Hashimoto

だのドームの試合後に長州さんが橋本さんに対して「堕ちて行くのはてめえ一人だ！これは選手会に代わって、みんなの総意を言いました」ってコメントしてましたよね。最後に「選手会の総意」ってつけ加えるところはさすがと思ったんですけど（笑）。

橋本　フッフッフッ（と不気味な笑み）。選手会の気持ちもわからんヤツが、何言ってんだよ！　いままで選手会なんか放ったらかしにしてたのは一体誰なんだよ？　俺たちが選手会の意見を会社に持ってったのを、あの人が握りつぶしてたくせに（怒）。選手の気持ちをな、全然汲み取らない人が言う言葉じゃねえだろ！　まだ長州って名前のブランドがあるからさ、みんなあの人に対して黙ってるけど。「あんたほど人の気持ちをわかんない人はいないよ」って俺は言ってやりたい（怒）。

――猪木さんも、「長州、お前がガンなんだよ」とハッキリ言ったそうですけどね、やはり問題は大きいですか？

橋本　もう時代は変わんなきゃいけないんだよ！　それを変えなきゃいけないのは若いヤツでしょ？　そういう連中が最前線に出て来ないといけないのに……もう、俺も新日本の本隊にはいないんだから。

――やっぱり橋本さんが抜けてから、新日本隊の絶対的な大将がいないですもんねぇ。

橋本　そんな即席でできるもんじゃないからな。まあ、悩むんだったら悩めばええんや！　いい加減、腹を見せればええやろ！いつもどっかでカッコつけてたら、上がって行けないよ。ダメならダメって認めないと。ダメなことを認めたら、ホントの新日本に戻るだろうけどな。

――さっきの若手の話じゃないけど、「ハジけろ！」ってことなんですね。

橋本　ハジけたヤツは強いよ！　俺と藤田（和之）が、それを今回のドームで思い知らせたわけでしょ？　いまの（佐々木）健介なんか見てると、「一昨年の俺もあんな状態だったな」って思うもん。これからホントにあいつが変われるか変われないかの正念場や！

――正規軍のトップという立場ですからね。

橋本　でもな、●●●●●なんか俺に直接電話してきたよ。疑問に思ってるとこを俺に聞いてきたから。

――うわぁ～！　ホントですか？

橋本　でも、それって進歩じゃん！　別に俺が●●●●●と手を組んで、どうのこうのって話じゃないんだから。そういう悩みと試合とは関係ないんだから。でも、そうなってきたっていうことは、若い人たちがやっとこさ自分で動き出したってことだよ。みんな、それぞれ疑問を持ってるはずなのに、今までは言えなかったの。そういう状況を作ったのは一体誰なんだ!?　その全責任を俺に押し付けてんだろ、あのチャーシューが！

――アハハハ！　チャーシュー力は押しつけてきますか（笑）。

橋本　あの人はすべてZERO―ONEを悪者にしてるだろ？　でもな、どうせZERO―ONEができなくたって、新日本はこういう状態になってたよ！（さらに語気を強めて）間違いない！　自分の非を認めないで他人の責任にするから、いつまでたっても変わらねえんだよ！　これは悪口じゃないぞ、俺が新日本を愛するが故の苦言だと思ってくれ！

――じゃあ、そういう環境の中にいる健介さんの辛い部分なんかも、橋本さんは見えてしまうわけですね？

橋本　そりゃ俺が通ってきた道だからさ、よくわかるよ。それと「俺はもう新日本の中枢の人間じゃないんだなぁ」っていうのを実感してきてね……。立場上、そうじゃなきゃいけないんだけど……俺もさ、優しい部分があってな（しみじみ）。自分で言うのもなんだけど。

――だけど、今回の橋本vs健介戦は、小川vs橋本戦みたいな危険な試合を期待してるファンも一部にはいたと思うんですよ。そういう人たちから、不満の声は上がってますけれども。

橋本　小川は俺みたいに長い間新日本にドップリ浸かってもいないし、愛情もないだろうからね。そういう試合も小川ならできるかもしれない。やるんだったらやってくれって。俺と長州さんは二度と交わることはできねえんだから。なぜ試合もできなくなっちゃったような人間関係になっちゃったんだろうな？

――猪木さんは「そういう感情は試合でぶつけ合えばいいじゃん！」ってよく言ってますけど。

橋本　もうそんな部分の意識じゃなくなっちゃったんだもん。

――それは橋本さんの感情が、そうなっちゃったんですか？

橋本　お互いの意地だよ。あの人はあとがないところで自分の主張をしてるわけだよね。ここまできたら俺もあとには退けないからさ。誰かがやらなきゃダメなんだよ！

――いまの新日本は、ホントに誰が主導権を握ってるのか見えないですよね。長州さんなのか、藤波さんなのかっていう部分で。

橋本　俺は藤波社長には感謝してんだよ、小川戦のことに関していろいろしてくれて。でも、途中から袂を分かってしまったというのは、やっぱり主張の違いがあったと思うし。

――ぶつからざるを得なかったと。

橋本　衝突するんだったら半端なことできないよ。だって、和気あいあいとできるか？

――ムリですよね。ZERO―ONEの理念じゃないですけど、「破壊なくして創造なし！」ということなんですね。猪木さんもいまの新日本は、「暖かい目ではなく、厳しい目で見守ってくれ！」と言ってました。

橋本　あの日の試合後、会長は俺に「ホントにありがとう」って言ってくれたんだよ。でもさ、俺自身はまだ「新日本プロレスの橋本だ！」って意識がどっかにあるわけ。だから、会長にお礼を言われる筋合いなんかないわけじゃん。当たり前のことをしたと思ってるから。でも、会長が「よくやってくれた」って、他とは区別して見てくれたんだよ。

――「橋本も藤田も、みんなかわいい弟子だ」って言ってましたもんね。

橋本　俺は「アントニオ猪木にゴマ擦ってばかりだ！」とかよく言われるけど、ゴマ擦るよ、俺は！　アントニオ猪木が好きだから！

――ゴ、ゴマ擦るよって！

橋本　ちょっと前は殺したいほど憎んだし、その前はファンだったし、いろいろ長い時間をかけて、そうなったんだから！

――そういうところを隠さないのが橋本さんの一番の強みですよね。

橋本　俺、長州力だって昔はファンだったもん。

——いま聞くと、ものすごく意外な感じがしますけど（笑）。

橋本　部屋にポスター貼ってたし。それはそれでレスラーとしては認めてるよ、超一流の人だから。でも、それと人間性は関係ねえよ！　俺は長州さんの悪口を言いたいわけじゃないんや！　ええやろ！　まあ、このへんで

——う〜ん、根は深いですねぇ。根が深いといえば、猪木さんと三沢（光晴）さんも相当なものがありますけど、なんと昨日の記者会見で「猪木さんと三沢社長を引き合わせたい」って橋本さんが言ったんですよね？　これも凄いプランだなぁと思ったんですけど。

橋本　なぜ？　会長と三沢社長が会ったら悪いの？　それで三沢社長が会長のことを「嫌いだ！」ってよく言ってるけどさ。会っても挨拶ぐらいしかしたことない。話したこともないんだってな。

——まあ、嫌なんでしょうね。

橋本　でも、話すぐらいええやろ！　どっかの雑誌で対談企画ぐらい考えて欲しいよ。そういうことやればいいのに。ハナから「ダメだ」と思って何もできねえぞ。だから、プロレス界はこんな状態になっちゃったんだろ。会長なんかやる気でいるんだけどね。

——橋本さんも三沢さんと仕事抜きにして付き合ってきた部分もあるだろうし、三沢さんの性格というのもある程度把握してらっしゃると思うんですよね。もし、その話があった場合、三沢さんがどう反応すると思いますか？

橋本　それは話の持っていき方、ものの言い方じゃない？　両方とも立つようにしなきゃいけないよな。だって、会って仕事やろうが、やるまいが関係ねえじゃん。その人間に触れ合うってことが大事なんだよ。でも、そこまで嫌うことねぇだろ？と思うけどな。

——そうなんですけどね。馬場さんと猪木さんのプロレス観の衝突まで遡らないといけませんからね。

橋本　だけど、もう馬場さんの時代じゃないんだよ。そんなこと言ったら、馬場さんの奥さんと新日本は仕事してんだから。

——凄い時代になりましたよね。

橋本　そういう時代の中で、いま最も全日本のイメージを引きずってんのは三沢社長だよ。そこから出られなければ、自分たちだけでやってくようになるんじゃない？　せっかく外交ができてきたんだけど、また鎖国が始まるんじゃない？　この時代の中で鎖国なんかしたら、終わってくだけやろ！

——こういう時代の流れの中で、ZERO—ONEのスタンスってすごくいいですよね。しかも今度はオープンフィンガーグローブ着用のルールで『真撃』という大会も始めちゃうんですよね？

橋本　まだグローブの着用は正式に決めたわけじゃないよ。

——あっ、そうだったんですか？

橋本　なんかいろいろアイデア欲しいよ。リングが四角じゃなきゃいけないっていう定義もないしな。円形でも、八角形でも、なんでもいいんだよ（笑）。

——そんなところから決めなきゃいけないんですか（笑）。橋本さんは『真撃』のリングでどんな試合をやろうと思っているわけですか？

この２人の仲の悪さは相当根深いモノがあるが、試合を見る限りいろいろと複雑な感情が絡み合っただけでハジけた瞬間はなかった。橋本は感情が高ぶりすぎたか、試合後にむなしく涙をこぼした。

橋本　俺は「プロレス＝格闘技」だと思ってるからさ。プロレスにしかできないことをしたいし、プロレスだからこそ怖さがあるっていう部分もあるし。だからこそ難しいんだよ。俺が見てみたい試合もあるしな。金払って見れるんなら、見たいっちゅうの（笑）。

——試合当日、橋本さんが観客席にいたら驚きますけどね（笑）。

橋本　まあ、そういうイベントにしたいと思ってますよ。だからいいアイデアがあれば、俺らに寄せて欲しい。たとえば、人を投げて、何キロの衝撃があったとか、それぐらいはマットで計れるじゃん。そういうのを表示するのも、面白いやろ？　野球のスピードガンと一緒だよ。

——それは面白いですね！　またZERO—ONEとは違った形で夢がありますよ。

橋本　やっぱりZERO—ONEはプロレスっていう定義の中から出ちゃいけないと思うんだ。だけど『真撃』はいろんな人が入ってくるから、必然的に変えざるを得ないでしょ？　全部こっちに合わせるわけにいかないから。だから、現段階ではファンの人もオレたちが何をやりたいのか、わかんないかもしれないけど。

——橋本さんは当然わかってらっしゃるんですよね？

橋本　わかってねえよ！　そんな簡単にわかるか！

——アハハハ、自分でもわからない！　さすがです（笑）。

橋本　柔道の篠原なんか上がって来ねえかなって思ってるよ。

——いいですねぇ、オープンフィンガー・グローブを付けてる姿を想像しただけでたまんないですね。

橋本　大体、あの顔は普通に生きてける顔

波風立てなくて、何が面白いんや！　俺はそういう意識だよ！

じゃないぞ！　もう俺が篠原の試合を見たいんだ、ダーッハッハッ！

――闘ってくださいよ（笑）。僕らの印象では『猪木祭り』に近いのかなって感じなんですけどね。言うなれば『橋本祭り』というか。

橋本　（急に真顔で）そんな大それた謳い方しちゃいけないんですよ！　ただ、これは『猪木ボンバイエ』から教わったというかヒントを得たものなんで、『猪木ボンバイエ・橋本バージョン』って感じだけど（笑）。

――あくまで猪木さんののれん分けみたいな感じなんですね（笑）。『猪木ボンバイエ』はプロレスラーvs総合格闘家という図式でしたけど、『真撃』ではプロレスラーvsプロレスラーっていう試合も考えてるんですか？

橋本　もちろん。それが一番かな。いまアメリカのプロレス団体が総崩れになってきてるから、そっちから選手を呼んでくるかもしれないよ。もしかしたら猪木さんがアメリカに新団体を作るかもしれないし。

――げっ！　そんな構想もあるんですか？

橋本　どうなるかわかんないけど、これからはもっと世界に目を向けないといけないってことだよ。

――WWFなんか、ホントにすごいことになってますからね。

橋本　まあ、ただ日本っていうのも小っちゃいけど恐ろしい国だけどな。60年前には世界征服しようと企ててたんだから。

――橋本さんはそのへんの戦記モノも好きなんですか？

橋本　むしろ、俺は戦国時代の方が好きだけどな。太平洋戦争の戦記とかは生々しすぎるやろ……。

――そういえば、こないだ安田（忠夫）さんがアメリカ行ったとき、橋本さんは戦国武将の本を渡したそうですね。

『PRIDE．13』のリング上に上がった橋本真也。日頃から「俺を潰すのは簡単や！アントニオ猪木と俺を切り離せばいい」と公言しているだけに、絶大な信頼を寄せている。（撮影／乾晋也）

橋本　伊達政宗の本をあげたんだよ。あとは『小さいことにクヨクヨするな』っていうベストセラーになった本をやった。

――おお、いまの安田さんにはピッタリでしょうね（笑）。

橋本　だいぶ意識改革して帰ってきたよ。まだまだ1ヶ月半しか経ってないからな、これを継続するのが大変だろうけど。

――でも、意識が変わったから『PRIDE．13』で結果が出たと思うんですよね。橋本さんから見て、安田さんの勝利はいかがでしたか？

橋本　まぁ、安田にしては最高点やろ？　ただ、お客さんの立場から見たらつまんなかったかもしれないな。でも、あの試合中に何があったかというと……魂や！　安田は魂をぶつけてたよ（感慨深げに）。

――いや、ホントそうですね。橋本さんも『PRIDE』のリングに上がったのは、今回が初めてでしたよね？

橋本　うん、初めて。

――観客席からは驚きの声というか、多少ブーイングも混ざってたように感じたんですけど、どうでした？

橋本　まぁ、どっちでもいいじゃん。やっぱり、どこの団体でも固定ファンがいて、「そこに入って来て欲しくない」っていう意識があるから面白いんだよ。入って欲しくないところに入って行くから価値があるわけでしょ？　波風を立てなくて、何が面白いんや！　俺はそういう意識だよ。

――「当たり前のことだけやってどうする」ってことですね。だから橋本さんの行くところには常に波風が立っているわけですね（笑）。ZERO―ONEでの大乱闘なんて、まさに波風だらけでしたからね（笑）。

橋本　毎日安定した枠の中で踊ってて、それでいい人はいいよ。でも、もっと大きなものがあるでしょ。

――『PRIDE』やZERO―ONEはそういう窮屈なプロレス界から飛び出した人たちが集まってくる場になってますね。

橋本　だけど『PRIDE』も、これから苦しいんじゃないの？　あんなルールにするから。あれじゃ、いずれ誰か大ケガするぜ。まあ、他人のことはいいや。

――橋本さんは、『真撃』のルールはどうしようと思ってるんですか？

橋本　俺は目つぶしアリにしようかと思ってんだよ（笑）。

――それは史上初ですね！（笑）。

橋本　目潰し、痰かけアリ！　過激やろ？　ダーッハッハッハッ！

――アハハハハ！　痰まで（笑）。まあ、こないだのドーム大会で新日がやったノールール・マッチというのも考えもんですよね。『PRIDE』などを意識して、ああなったと思うんですけど。

橋本　ノールールったって、俺たちプロレスラーがやることなんだから。殺し合いじゃないんだよ。

――そうですねぇ……でも、橋本さんは「プロレスラーがやること」以上のことを最近はドンドンやってますよね。ZERO―ONE旗揚げに始まり、破壊王弁当、『真撃』、新日との抗争、ノアとの対抗戦……ありとあらゆるところで波風立ってますよ。

橋本　それは俺だけじゃなくて、ウチのスタッフがやってくれてる部分もあるから。大手の会社がやろうとしたら、簡単にできることだよ。いままでのプロレス界はそれを

激動のマット界 戦国絵巻

やってこなかったんだよな。やっぱり、より大きなモノに目を向けなきゃいけないでしょ？　そうやって自分たちの選手が社会的に認知されれば一番嬉しいじゃん？

――そうやって世間を視野に入れてるところは、素晴らしいと思います。どこまで行っても世間との闘いなんですね。

橋本　やっぱり俺たちは闘わずして生きられないんだよ。どっかでみんな他人なんだから、ぶつかり合ってんだから、すべて闘いなんや！　俺たちみたいなことを「やれ！」とは言わないけれども、ファンの人たちには俺たちを見て力をもらってほしいよな。俺も力をあげたいと思うし。俺はホントにファンの応援で助けてもらったからね。

――やっぱり、そういう部分があるからファンは橋本さんを支持しますよね。じつは前号の橋本さんのインタビュー記事、ムチャクチャ評判良かったんですよ！

橋本　（嬉しそうに）ホンマかぁ？

――読者ハガキとか読んでると、「ホント愛されてるんだなぁ」っていうのがビンビン伝わってきますからね。

橋本　（少し照れながら）やっぱり、それは俺が素だからじゃねえか？

――素ですか!?　そうですよね、浮気のことまでしゃべっちゃうスター選手ってなかなかいませんからね（笑）。

橋本　変にカッコつけようと思うとダメだよ、絶対にボロが出るから。

――そのへんは武藤さんにも蝶野さんにも感じるんですよね。みなさん、メチャクチャ面白いですモンね。

橋本　飾ってないでしょ？　だから、俺たちは新日のバスの中でよく怒られてたよ。

――誰が怒るんですか？

橋本　長州さん。「イビキがうるせえ！」とかさ（笑）。そんなのお構いなしに俺も寝るからな！

――そういえば藤田選手も「イビキがうるせえ！」って長州さんに怒られてたんですよね（笑）。何か不思議な共通点ですけど。

橋本　蝶野だってよく屁こいてたもん！　しかも、あいつスカすから臭えんだ！

――アハハハハ、スカしてましたか。

橋本　そんな感じで、俺たちはいつも素だったからな。

――そこらへんが精神的なタフさの土台をつくってるんでしょうね、きっと。そんな橋本さんにお願いがあるんですよ……。

橋本　何や？

――じつはですね、以前ウチで作っていた『Ｒｉｎｔａｍａ』という雑誌の超目玉企画だった「橋本真也の破壊王的人生相談」を復活出来ないかなぁと思いまして。やっぱり、橋本さんの人生観とか恋愛観って、読んでる人に勇気と希望を与えますから（笑）。

橋本　人生相談？　おお、望むところや！

――あっ、ありがとうございます！　じゃあ、読者からガンガン相談を募集しましょう！

橋本　「女性からの相談大歓迎」って書いておいてよ（笑）。

――アハハハハ、わかりました（笑）。

【4月12日、東京・ZERO―ONE事務所にて収録】

インタビュー後記その1■あまりにも素！　あまりにも破壊的！　登場するたびに読者ハガキのアンケートでもブッちぎりの反響を呼ぶ破壊王節を今号も十分堪能していただけただろうか？　次回からは連載という形で毎号登場していただける（予定）ので、皆さんも相談をガンガン送ってきて頂きたい。

Shinya Hashimoto

さて、そんな素敵な破壊王は先日もＺＥＲＯ―ＯＮＥ日本武道館大会を見事に大成功させてしまった。三沢光晴と小川直也という、現在のプロレス界を代表する両巨頭が橋本のプロモートするリングでぶつかったのだ。４・９の試合を帳消しにしてあまりある大仕事であったと言えよう。そこに至るまでの道のりは決して平坦ではなかったが、破壊王はタフなハートで乗り切ってしまった！　これからもまだまだ古いシステムを破壊してくれ！

インタビュー後記その２■この日、インタビュー後に破壊王弁当第二弾の試食会が行われた。その破壊的な内容は「紙の新聞」を参照していただきたい。その後、記者が取り囲み、破壊王との質疑応答が始まった。その中で長州力に対してハラワタが煮えくり返っているのが手に取るようにわかる爆弾発言がポンポン飛び出したので、その部分を抜粋してお届けしよう。他誌にはなぜか載っていない破壊的言葉の数々を！

橋本　（前略）なんで俺がここまで言われるのかっていうのがわからないね。会長が昨日「まだそんなこと言ってんなら俺がブッ潰す」って言ってたからね。俺は会長の怒りはよくわかるんだよ。新日本は会長を外して、俺まで外したんだから。もう俺と長州さんがやることはない！　しがらみがありすぎる。小川ができるんだったら、小川、（長州を）片付けろ！　（長州を）殺っちゃえよ！　ウダウダ言ってんじゃなくてさ。しがらみがない小川が適任じゃないの？　俺は選手と選手のさ、そういうもの以外のところで、こんな思いすんの嫌なんだよ。俺は絶対奪うよ、この時代を！　アントニオ猪木を敵に回したらお終いだぜ。創始者なんだから。闘魂を外して、なにが新日本だ！　闘魂を外して乗っ取ろうとしたの、誰だよ？　それで信念がホントにあるんだったらやってやるけど。全部こっちで責任を被るのはごめんだからよ。（中略）時代を変えようと思う人間は、人の二倍も三倍も知恵と体力がいるんだから。小川とは、いまは共通の敵を倒さないといけないと思ってる。

いかがだろう、この物騒きわまりない発言の数々！　他誌が誌面にしない理由も何となくわかるが、本誌はやります！　そうだ、これは橋本が言っているのではない、〝新日本への愛情〟が言わせているのだろう、きっと。

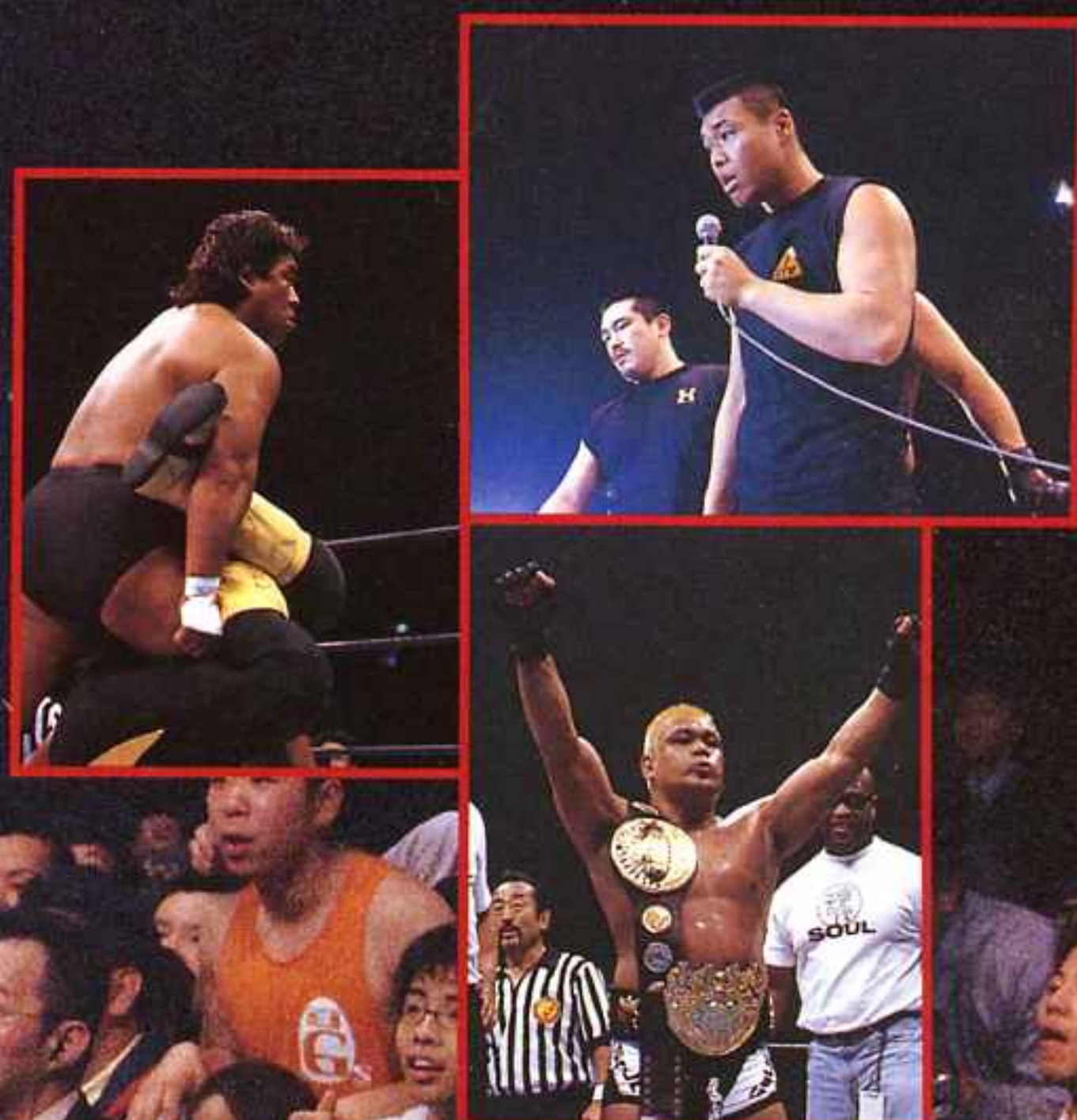
悩める子羊たちよ！ 悩みのタネを破壊王にカマし上げてもらえ！

職場、恋愛、家庭、身体、精神……生活の中のありとあらゆるところに悩みが転がっている現代社会。生きていくのが辛くなったら、迷わず破壊王の胸に飛び込んでみよう！　「女性大歓迎」なので、恥ずかしがらずに性の悩みなどもぶつけてみては？　破壊王もきっと喜んでくれるはずだ！

【お悩みはこちらまで】
あなたの氏名（ペンネーム可）、年齢、職業、性別をお書き添えて下記の住所かメールアドレスまで相談を送ってください。採用された方にはもれなく特製賞品を差し上げます。
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス　「破壊王に聞け！」係
e-mailアドレス：nobu@kamipro.com

ZERO-ONEとは別枠の格闘技大会が発進！『真撃』とは、一体何なのかーっ!?

ZERO-ONEがまたもやマット界をカマし上げる！　「プロレス部門」とは別に「ファイティング・アスリート部門」がスタートするのだ！　猪木ボンバイエに触発されて、橋本がスタートさせる新機軸である。プロレスラーに限らず、名を成した格闘家にも門戸を開く構えだという。次号であらためて詳しい実態はお伝えできるだろう。

『真撃』第1章
6月14日（木）大阪・大阪城ホール（19：00試合開始）
【チケット発売日】4月30日
【チケット料金】
RS：￥20000／SS：￥10000／S：￥6000／A：￥3000
【主催】毎日放送／ステージア
【お問い合わせ】ステージア　TEL.06-6344-4441
【出場予定選手】橋本真也、他

『SRS・DX』軍団が『紙プロ』を急襲!!

4・9新日本大阪ドームを叩っ斬れ!! 座談会

“闘い”“仕掛け”
“壮大な格闘絵巻”
そして“猪木の影”は
是か非か!?

本誌鬼畜編集長・山口日昇が『SRS・DX』の座談会に急遽出陣した後、マット界座談会事情にも渦が巻き起こった。『SRS・DX』の編集長・サダハルンバ谷川が「4・9新日本大阪ドーム」について語らせてくれと、名乗りを挙げてきたのだ！　サダハルンバは、いったいどんな闘いを仕掛けてくるのか？そこには恐ろしい結末が待ち受けていた……。

座談会出席者

山口日昇（『紙プロ』編集長）
吉田豪（『紙プロ』スーパーバイザー）
サダハルンバ谷川（『SRS・DX』編集長）
柳沢忠之（『SRS・DX』発行人）

〝幻の強豪〟『SRS・DX』発行人でもある柳沢忠之を従え、純プロレス音痴・サダハルンバが『紙プロ』に乗り込んできた。

テーマは「4・9新日本大阪ドームとは何か？」である。

4・9はゴールデンタイムで生中継されたが、ご存じの通り、「猪木がいると面白い」「あのノールールマッチなら『PRIDE』のほうが面白い」「まったくつまらない」「なんで放送終了間際に終わるんだ」など、初級者から上級者まで巻き込み、侃々諤々の議論を呼んだ。

4・18で小川と三沢が絡み、空前の熱を産み出したZERO—ONEムーブメントのほうが話題的にはデカイが、そのZERO—ONEも、やはり新日本プロレスから生まれたものだ。語ることは腐るほどある。

いったい新日本はどこへ行こうとしているのか。

そしてサダハルンバは、その新日本に対して何を言おうとしてるのか？

『紙プロ』は決戦場所を、先日『SRS・DX』から撤退したターザンがほぼ毎日行く（当然〝ごっつぁん〟で）という高級しゃぶしゃぶ屋に指定。一部読者には非常に期待されるであろうこの座談会だが、関係者には非難囂々を浴びせられる可能性もある。どちらにしても侃々諤々となることが予想されるが、ターザンの好きな高級しゃぶしゃぶ屋も侃々諤々だったのだった。

仲居さんA　あ！（撮影で同行したチョロのビールをこぼして）あらぁぁ、ごめんなさぁぁい。

谷川　えぇっ、またビールこぼしたんですか？　さっきの仲居さんにもこぼされたんですけど。ここはビールかける店なんですかぁ？

一同　ガハハハ！

仲居さんB　（キョロキョロしながら）あら？　どっかにガス栓があるはずなんだけど……。

山口　どっかにって、なんでそんなことくらい知らないんだよ、このクソババァ！　高級な店じゃないの、ここ？　高い金取りやがって。ボッタクリか、ここは？

仲居さんB　だってぇ、高級な店と言われても……。（鍋をセッティングしながら）あら、どうやるのかしら？

一同　ガハハハ！

仲居さんB　笑わないでください、必死なんですから！（逆ギレ）。

山口　なんだ、この店は！（笑）。もしかして、これはターザンの〝たり〟？　ターザンが好きな店だからなぁ、ここは。

豪　ここは個室だから、ターザンがいろんな仲居さんにちょっかい出してるんですよ。

山口　ウィンクとかしてね（笑）。

豪　で、そもそも、『SRS・DX』から山本さんが消えた理由っていうのは、なんなんですか？

谷川&柳沢　知〜らない。

山口　ガハハハハ！　なぜだ!?　編集長&発行人が知らなけりゃ、誰が知ってるんだよ。

谷川　あまり思い当たる節がないんだよなぁ。

あれは「ノールール」の試合じゃないです！〈谷川〉

豪　そもそも猪木さんのホームレス姿を表紙にしなかったことで、「あいつらなってない、だからやめる」っていう理由なんですよね？

谷川　でも、ボクは理由はわかんなかったけど、30回ぐらい謝りましたけどねぇ。

山口　ガハハハ！　謝罪の達人！　佐山聡イズムだなぁ。「すいませ〜ん。よろしくお願いしま〜す」（笑）。

谷川　「なんか怒ってんのかなぁ？」って思ったから、とりあえず謝りました。ずっと謝ってんのに、電話もかかってこないし。でも山本さんも「気にすんなよォォ！」とか言ってくれたんだけどねぇ……。（以下、しばらくターザン問題が続いた後に唐突に）あ、チョロ君はプロレス団体の人？

山口　は？　いきなりなにを言い出すんだ（笑）。

谷川　リングアナウンサーやってんだよ。メチャクチャうまいよねぇ。

豪　ああ、キャットファイトですよね？

谷川　そうそう！　フジテレビの番組にキャットファイトの解説で出たの。そのときにチョロ君がリングアナウンサーやってて、メチャうまいんだよ！

山口　こいつはキャットファイトに命賭けてるから（笑）。

豪　誌面に反映されないことばっかやってるんですよ。

山口　アメリカに取材に行かせりゃあ原稿落とすし。

柳沢　あ、落としてたねぇ。

豪　そこは珍しく読んでるんですね。

柳沢　原稿ないんだから、読んでねぇよ（笑）。

谷川　だけど、凄いよね、落とすんだもん！（笑）。

山口　さ、谷川さん、そろそろ、4・9（新日本大阪ドーム）の、藤田vsノートンの「ノールール」について語ってください、格闘技評論家として（笑）。ルール問題語るの好きでしょ。

豪　……っていうか、見たんですか？

谷川　見ましたよぉ、テレビで。

豪　ボクはまだ見てないんですよ、実は（笑）。

山口　「とにかくひどい！」って当日の夜に電話してきたじゃない。「ボクにも新日本を語らせてくださいよ〜」って言ってましたよね。ぜひ語ってもらいましょう。

谷川　言ったっけぇ？

山口　言った！

谷川　あ、そうでしたか。じゃあ、ボクが格闘技評論家としてズバリ言うと、あれは「ノールール」の試合じゃないです！（キッパリ）。

一同　ガハハハ！

山口　身も蓋もないなぁ。いいなぁ、格闘技雑誌はラクで（笑）。

谷川　あれは『PRIDE』がやってる「ノールール」の試合と全然違うでしょ。

豪　それは誰もが気付いてますよ（笑）。

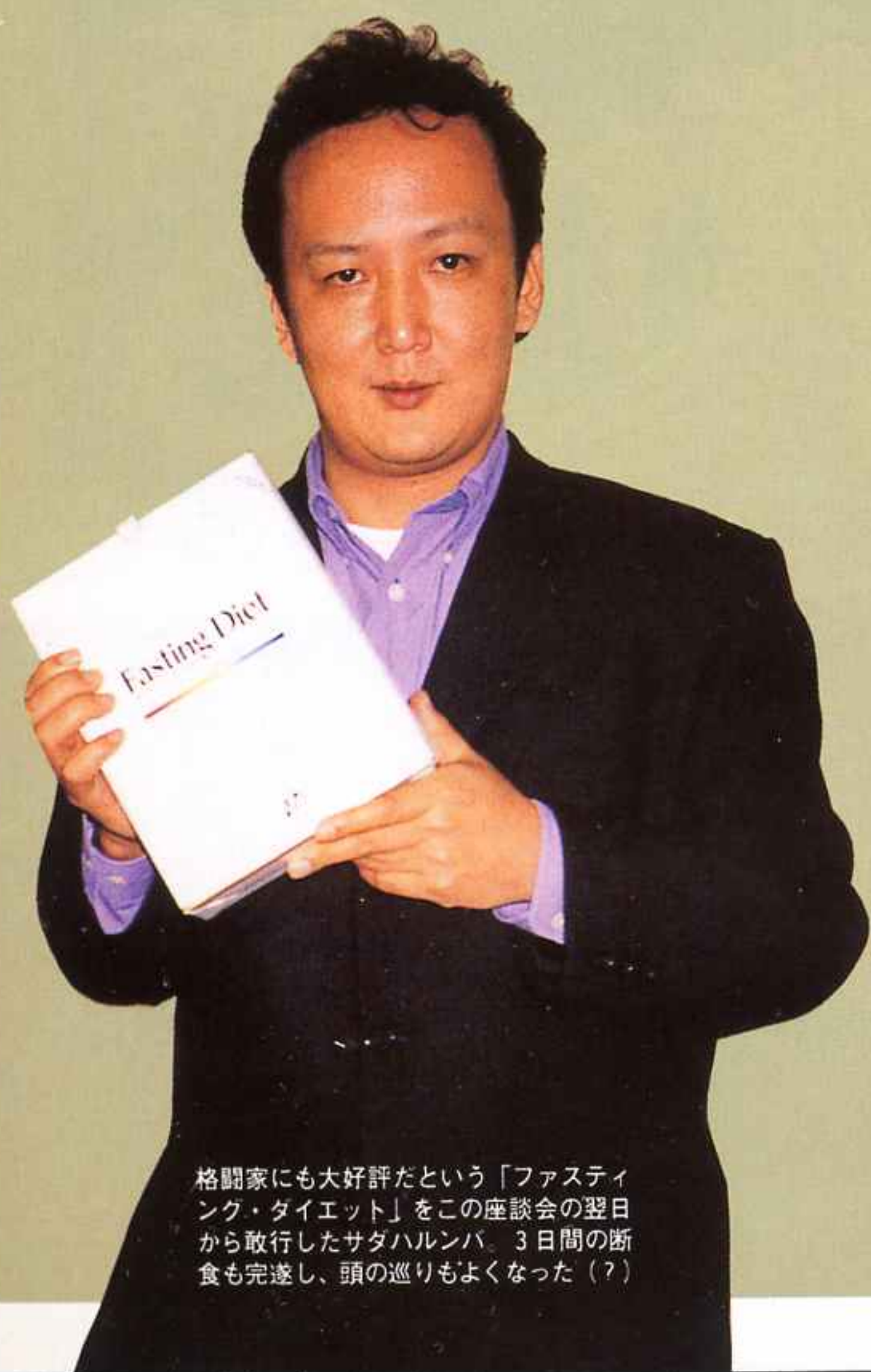
谷川　あ、気が付いてるの？　みんな気付いてないのかと思った。

一同　ガハハハ！

谷川　そうなのかぁ。でも一から言わないとねぇ、格闘技評論家の立場としては。

仲居さんB　失礼しま〜す。カニお持ちしましたぁ。

谷川　（カニの入った桶を見て）これ、美味しいよぉ。

山口　まだ食ってねぇじゃねえか！

格闘家にも大好評だという「ファスティング・ダイエット」をこの座談会の翌日から敢行したサダハルンバ。3日間の断食も完遂し、頭の巡りもよくなった（？）

しかも初めて来た店で（笑）。
一同　ガハハハ！
山口　で、なんで憤ってたんですか？
谷川　いや、憤ってないですよ、別に。憤ってたっけぇ？　会長（山口日昇のアダ名）はどう思ったんですか？
山口　俺のことはいいから、谷川さん語ってください。
谷川　う〜ん。「ノールール」って言ってて、「ノールール」じゃないと思いました。
豪　だから、それはみんなわかってますよ！
谷川　（氷の上に乗ってるカニにかぶりついて）ヒャ！　冷たい！
山口　恐ろしいな、サダハルンバは（笑）。それはお湯につけて食べるの！　しゃぶしゃぶなんだから（笑）。
谷川　ああ〜、冷たかったぁ。
山口　でもさ、それを言うなら、猪木さんの異種格闘技戦だって、「異種格闘技戦」という名のプロレスでもあるわけでしょ。
谷川　いや、あれは〜、面白かったですよ！
山口　じゃあ、今回の藤田vsノートン戦は面白くなかったわけ？
谷川　面白くなかったっていうか……藤田、やっちゃえばいいのに!!
山口　ガハハハ！　電話でも言ってましたね。「あんなデブやっちゃえばいいのに！」って。
谷川　だってさぁ、藤田ってメチャクチャ強いのにさぁ、苦戦してるような感じがしたから嫌だったなぁ。
豪　ネットの意見なんかも、「あんなの『ノールール』じゃない」っていうのと「藤田、やっちゃえばよかったのに」っていうのが多かったんですよね。
谷川　それは正しいですよね。そう思いました。
山口　社長（柳沢忠之のアダ名）はどうなの？　猪木さんが絡むまでの新日本と比べると。
柳沢　あんまり変わんないよね。
谷川　あ！　あの日は長州が勝ったね。長州力の一人勝ちだなって感じがした。猪木さんが長州に負けてたなぁ。
山口　それはどういう理由で？
谷川　あの興行には猪木さん的世界が全然感じられなかったし。
豪　小川（直也）の一人勝ちって説がけっこう多かったんですけどね。試合しないで、うまいこと渡ったなっていう。特に今回は。
谷川　残念ながら、小川さんはぁ、『ＰＲＩＤＥ』の方がいいなぁ、ボクは。
豪　試合だけ言えば、そうなっちゃうんですけどね。
谷川　でもいまは、長州とか、三沢とかといい感じで絡んでるよね。偉いなぁと思う。橋本とかさ、みんないい相手だよね、オーちゃんにとっては。
山口　まず、長州監督の話をしてくださいよ。
谷川　あの「ノールール」って長州側が言ったんでしょ？　あれにうまくはまっちゃったよねぇ。ボクは猪木さんがカードを変更したのは間違ってないと思うんですけど。「ノールール」って謳ったところで誤解が生まれたんじゃないかなぁと……まぁ、ありきたりな意見ですけどね。
一同　ガハハハ！
谷川　でも、ありきたりな意見なわりには、専門誌はどこも書いてないですよね。凄い不思議だったのは、ネットの反響とマスコミの反響が全然違いますね。
豪　東スポの柴田さんが「新日本は死んだ」みたいなこと書いてましたね。

面白くないっていうか、藤田やっちゃえばいいのに！〈谷川〉

谷川　柴田さん、新日本を嫌いになっちゃったのかなぁ？
豪　そんなわけはないですよ（笑）。
谷川　猪木さんの横でよく言うよねぇ、あんなこと。
柳沢　猪木さんは「人選ミスだ！」って言ってたよ（笑）。
一同　ガハハハ！
谷川　ボクが解説やってたら、絶対「新日本はこれからですよ！」って言うもんね！（小鼻を膨らませながら）。
豪　魂を売って（笑）。
谷川　うん。絶対に言う！
山口　サダハルンバは、いつ何時でも魂売れそうだもんなぁ（笑）。
谷川　ボクは（3・2の）ZERO―ONEの方が全然面白かったですね。ZERO―ONEの興行と、こないだの新日本の違いを説明してくださいよ、皆さん。ボクはZERO―ONEの試合後の乱闘と、こないだの長州と小川の駆け引きの場面は大きく違うと思うんですよ。
山口　谷川さんが最近好きな、「アングル」と「偶発の出来事」の違いってこと？（笑）。
谷川　うん……な、なんか……もっと詳しく説明してくださいよ、どう違うのか。
山口　簡単に言うなら、ZERO―ONEの乱闘の方が〝面白かった〟っていうことでしょ（笑）。
谷川　なんでなんで？　その二つはどういう差があるんですか？
豪　交わらないはずのものが交わったっていうのが単純に大きいですよね。
谷川　あぁ〜、なるほどぉ。
豪　長州と小川は前に白覆面が出てきたときとか、絡んでるじゃないですか。だから鮮度が落ちてるし。
谷川　でもね、ボクはあのときの乱

破壊王vs健介の試合後に、新日本とＺＥＲＯ―ＯＮＥ勢が大乱闘。この乱闘と、3・2両国の乱闘はどこか違う印象を受けたとサダハルンバはおっしゃってます

座談会
PUTIT REVIEW or サダハルンバ PUTIT写真集

』編集
ってない

手前が、まるで素人ヌードを撮られた女子大生のように顔出しを嫌がる、『ＳＲＳ・ＤＸ』発行人・柳沢忠之。元『紙プロ』の発行人でもあったりするのだ

プロレス＆格闘技界の佐山聡ともいえるサダハルンバ。そのキャラを隠れ蓑にプロレスを茶化しながらも、なにげに核心を突いたことも言ったりする（のか？）

この座談会の翌日から「ファスティング・ダイエット」（断食あり）に挑んだサダハルンバは、「これが最後」とばかりに肉とカニを食いまくる

4・9新日本大阪ドームを叩っ斬れ!!座談会

闘で唯一面白かったのはね、藤波さん！　藤波さんがビンタするのが早かったのはねぇ、あれは偶発的に見えたなぁ。凄い偶発的な感じがした。あのときのオーちゃんの顔と、藤波さんのビンタはね、とってもよかったなぁ、ホントに。ちょっとだけ。

山口　「とっても」と「ちょっとだけ」ってどっちなの？（笑）。で、藤田vsノートンはつまんなかったの？

谷川　だからぁ～、藤田ってねぇ、もっと凄いもん！

久々のGタイム生中継となった4・9　生中継のオープニングマッチはライガーvs村上！　わずか1分47秒で、素顔を晒したライガーの反則勝ちとなり、その後……

山口　じゃあ『PRIDE』で見てる藤田よりは凄くなかったと。

谷川　うん、凄くなかった。

山口　谷川さんは「藤田が株落とした」とも言ってましたよね。

谷川　言ってませんよぉ。株落としたっていうか、新日本プロレスで防衛戦とかやらずに、『PRIDE』で防衛戦やればいいんじゃないですか？

山口　橋本vs健介もノールールだったじゃないですか。あの試合はどうでした？

谷川　…………。あんまりなんにも思わなかったんだよなぁ。

山口　当日はかなり憤ってたじゃない。「新日本ブッ潰す！」ぐらいの勢いだったもん。

谷川　ウフフフぅ！　そんなの、ボクとは関係のない話ですからぁ。新日本は……だけど……あれはどうなんの？　ネットでは批判が多かったじゃないですか。その批判っていうのは、次に繋がる批判なんですか？　ボクはなんだか繋がらないような気がしたなぁ。

山口　さ、社長、そろそろ出番だよ（笑）。

柳沢　え？　もうカニ大丈夫？

山口　違うよ！　チックショ～、食ってばっかいやがって、ちょっとはしゃべってくれよォ（笑）。

柳沢　あっ！　豪ちゃん、カニはごまだれよりポン酢のほうがうまいぞ！

豪　どっちだっていいですよ、そんなの（笑）。いきなり鍋奉行（笑）。

山口　さあ、早く、新日本はどうだったの？

柳沢　ああ、4・9は、全体が「新日本が堕落した」ってアングルでしょ。

山口　猪木軍団vs新日本で、猪木軍団が堕落した新日本に追い込みをかけるっていうね。

柳沢　で、そのアングルが予想以上にリアルに伝わったっていう意味で、全然アリだよね。

山口　アングル的にはアリだよね。

柳沢　大アリですよ。

豪　問題なのは、堕落したのが新日本じゃなくてマッチメイクした猪木さん、みたいな見られ方をしてるっていう部分なんですよ。

柳沢　それはいつものことじゃないの？

山口　猪木さんに対する批判も結構あるんだよね。

柳沢　だから、新日本っていう場がダメだっていう、結果論としてそうなってるからいいんじゃない？

山口　社長は面白かったの？

柳沢　全然面白くねぇよ！

山口　ひとつもドキッとする瞬間はなかった？

柳沢　全くない！（笑）。

豪　ただ、火つけのポイントとしては、ヨシと。

谷川　じゃあ、今日の結論は面白くなかったってことですね。

山口　早いよ（笑）。でも、いま社長が言った意味では成功してるわけでしょ？　論議を呼ぶっていう部分で。

柳沢　単発的には成功なんだけど、猪木さんのやり方は、新日本を一旦潰すぐらいの勢いでファンも巻き込んでいかないと、選手も本当の危機感を持たないということでやってるわけでしょ？　そういう部分では、その通りになってるっていうかさ。

山口　そこまではいいんだけど、その上で、猪木アングルとしては、いままでと比べたら迫力がないっていう意見も多いんだよね。

谷川　それは選手がダメなんでしょ。役者がダメ。

仕掛けて結果がついてくるなんてほとんどないよ〈柳沢〉

柳沢　でも、仕掛けて、結果が思った通りについてくるなんてことは、猪木さんの現役時代ですら、ほとんどないよ（笑）。

豪　そうなんですよね。その誤解が凄いじゃないですか。猪木を知らない人たちが、もの凄い幻想持っちゃってるから、関わった以上は凄い面白くなるっていう変な思い込みがあって。だから、ガチをやるっていう期待まで持ってたと思うんですよ。それで「騙された！」みたいな、わかりやすい批判が出てる状態だと思うんですけど。そこに期待があったとしたら、新日内でひっくり返す

本誌鬼畜編集長と『SRS・DX』編集長・サダハルンバの、誰も夢と思ってない顔合わせが実現。

サダハルンバの天然ボケぶりには、ツッコミの金髪鬼・吉田豪と山口日昇もバカ負け。笑い殺される寸前だったりした。凄いぞ、サダちゃん！

もう書くことはなにもないのだが、前号で原稿を落としたチョロが、またもや失敗三昧！　ロクな写真が撮れてなかったのだ。いますぐ切腹しろ！（ターザン調）

4月1日エイプリル・フールに開店した格闘芸術ショップ『グレート・アントニオ』で売ってる豆腐パン（アントン大推薦）を手にサダポーズ。豆腐パンはマジウマ！

のは、難しいんじゃないですか？
柳沢 難しいねぇ。
谷川 だからぁ、やっちゃえばいいんですよ！ あのシステムの中では、やっちゃうのが一番いいんです！ ボクはそう思う！
山口 社長もやっちゃうのが一番いいと思う？
柳沢 やっちゃう奴がいなきゃダメなんじゃないの？
山口 でも相手がノートンじゃ、別にやっちゃってもしょうがないよね。やっちゃってもいい奴や状況が生まれないと面白くないのは確かだから、そういう、やっちゃってもいい奴を生み出すっていう意味では、猪木さんの仕掛けは成功してるけどね。
谷川 藤田がやっちゃえばよかったと思うけどなぁ～（しつこく）。
柳沢 俺は藤田を出す時点で、やらせるしかないケースだったと思うけどね。
豪 『PRIDE』を通過して出る以上は、元に戻ってもしょうがないってことですか？
柳沢 いや、『PRIDE』通過しなくてもなんでも、藤田ができるわけないじゃん、武藤や蝶野みたいな華のあるプロレスは（笑）。ハナからそうじゃないから新日本を出てるわけでしょ？
豪 そうじゃない人間を、あの位置に使う以上はっていうことですね。
柳沢 そうそう。その意味を持たせるには、やらせるしかないよね。〝なんちゃってバーリ・トゥード〟じゃダメだよ。
山口 後半2試合は、見事に〝なんちゃってバーリ・トゥード〟だったよね。でも、俺は現場にいたんだけど、面白かったんだよね。『PRIDE』でも高揚感はあるけど、実際は試合がつまんないってことはたくさんあるじゃない。そういうレベルの問題であって、その場にいること自体は全然つまんなくないの。
豪 生放送のやり方が悪かったから、テレビで見た人がみんな文句言ってるというか。
谷川 ほぇ～。現場は面白かったんだぁ。
山口 うん。その場にいるのは別に苦痛じゃない（笑）。ここ何年か、プロレスの会場にいると苦痛なときって多いんだけど、それがなかった。
柳沢 それは、その壮大なアングルの中に気持ちよくいれたんじゃないの？
山口 一時期の『PRIDE』の会場にいるような気持ちよさっていうところまではいかないんだけど、プロレスの会場でも苦痛じゃない自分がいるのが嬉しいっていうかさ（笑）。でね、ようやく本題に入りたいんだけど（笑）、猪木さんの「演劇論」っていう部分でさ……。
谷川 えぇえ！ そんなこと言っちゃっていいのぉ？ 演劇論なんて！
山口 アングルって大々的に言ってる人間が、なに言ってんだよ（笑）。

ビンスは体の張り方が凄いんですよ！〈豪〉

オーちゃんと藤波社長が揉み合ってる最中に、いきなりWWFのように『パワーホール』が流れ、越中を先頭にして長州監督が堂々と入場。そして長州は小川直也に突進していった

豪 表紙に「アングル」って打って怒られた人が（笑）。
山口 破壊王が怒ってたよ。『SRS・DX』の表紙見て「素人がアングルとか使いやがって！」って。
谷川 んあ～。それは確かに申し訳ない。
柳沢 ダーッハッハッハッハ。
谷川 言われてみればそうです。ボクが言うようなことじゃないよねぇ。
山口 「こいつらに、なにがわかってんだ！」って言ってたらしいよ。
谷川 んあ～。わかってないです。でも、わかってないヤツが言ってんだけど、当たってたんだよなぁ（笑）。
山口 ガハハハ。で、いま「プロレスは闘いだ」という部分や、「勝負論」vs「観客論」っていうモノサシでしか猪木さんって語られてないでしょ。猪木さんのいまの最大のライバルってビンス・マクマホンだよね？ 世界を視野に入れたときには。そのビンスができないことっていう部分で、勝負論と観客論の綱渡りをする日本のプロレスが「日本発世界」に繋がっていくわけでしょ。でも猪木さんが新日本に言いたいのは、勝負論と裏腹な部分で「おまえら、演劇論が足りねえよ」っていうことでもあるんじゃないかと思ったんだよね。
谷川 それはね、ボクが言うのもなんですけど、猪木さんがビンス・マクマホンを相手にしてること自体がダメですね。
豪 誰を相手にすればいいんですか？
谷川 桜庭ですよ、絶対！ 猪木さんはビンス・マクマホンより凄いよ。
豪 金銭面では完敗ですよ（笑）。ホームレスと大富豪ですからね。
谷川 でも、やっぱりフェイクなしって感じがするもんね、猪木さんは。
豪 ど、どういう意味ですか？
谷川 人生にフェイクなし。マクマホンなんかさ、フェイクだらけの男じゃない！
豪 逆に猪木さんがフェイクだらけで、ビンスがフェイクなしとも言えると思いますよ。
谷川 へぇ～、難しい話ですねぇ。
山口 ガハハハ！ 自分から振っといて。
谷川 猪木さん、マクマホンなんかと闘っていいの？
豪 もの凄く意識してるのは事実ですよね。
柳沢 マクマホンはね、フットボール（XFL）始めたじゃん。見てないけどさ、聞きかじった中で感じたのは、マクマホンがやろうとしたことはスポーツだけど、ガチンコの世界の中で、どうやってエンターテインメントを作るかっていうことにチャレンジしたわけでしょ。いま失敗してるけども。
山口 視聴率悪いらしいからね。でも、そこに踏み入れたでしょ。それはさすがだと思うんだよね。猪木さんは『PRIDE』で、その世界に足を踏み入れてるんだけれども、軸足にできない弱さが、いまの状況だよね。
豪 いま、軸足がどっちにもないじゃないですか。
柳沢 いや、軸足は新日でしょ。それは明らかじゃん。
豪 いや、新日を軸足にしたいのはわかるんですけど、まだ置ききれて

ないっていうか。

柳沢 新日っていうか、「プロレス」。軸足はプロレスなんだけど、軸足をプロレスに置いたときに、プロレスをどう考えるか。だからビンスみたいに、まったく違ったフットボールっていうものを持ってくれば、混乱はないよね。だけど、ビンスがバーリ・トゥードやってたら、逆に成功してるかもわかんないよね。時代の流れ的に、どう考えてもビンスがやってることは、ビジネス的な段階として、凄い当たり前っていうか。エンターテイメントとしての「プロレス」はダメだっていうことは、あそこまでエンターテインメント化したWWFでもわかってるわけじゃん。「あ、この先ヤバいな」っていう。

豪 完成しちゃって、その先がないっていう部分で。

柳沢 で、その先に足を踏み入れたときに、ガチンコというか、スポーツの世界でエンターテインメントってことを考えたわけでしょ？

谷川 だけどさ、ビンスはさ、ボクぐらいの程度だよぉ。

一同 ガハハハハハハハハハ！

豪 え？ その発言はバッシング喰らいますよ（笑）。

山口 チョロ、こいつ摘み出せーーッ！（笑）。

谷川 いや、ボクはビンスにはなれるよぉ！

豪 WWF見たことあります？（笑）。

谷川 テレビで見たよ。

豪 車イスに乗った女房の目の前で、浮気相手とキスしたりとかするんですよ！

谷川 あれなんか全然できるなぁ。

一同 ガハハハ！

豪 それ、見たいですよ（笑）。

谷川 できるっていうか、その程度の発想っていうのは……。

山口 だから、俺がさっき言った「演劇論」っていうのは、発想は別として、それができるかどうかであって。要はそれが観客に届くかどうかの問題じゃないですか。確かにビンスのような発想はたぶん誰でもできると思うんですよ。サスケでもやると思うんだよね、簡単に（笑）。

豪 ただ、WWFが凄いのは本物の素材を使ってることだと思うんですよ。日本だと「誰々の娘」とか言って、全然関係ない子を連れて来てやってるじゃないですか。WWFは、本当にそういう人たち同士がやってるから。

谷川 あ、そういう違いなんだぁ。へぇ～。

山口 発想に軸足を置いてビンスを見ちゃうと、凄いチンケに見えちゃうと思うの。

藤波社長に張られたオーちゃんに向かって、さらに入場花道を降りた監督が突進！ 夢の激突だが、なぜか醒めた目のオーちゃん。こっちのほうが怖い……

豪 そのあとの体の張り方の凄さっていうか。

谷川 体の張り方が凄いんだぁ～。でも、なんかできそうだけどなぁ～。

豪 谷川さんにはやってほしいですよ！（笑）。

谷川 猪木さんは、ちょっと違う感じがするんだけどなぁ～。なんか、等身大にしか見えないんだよね、ビンスって。

一同 ガハハハ！

豪 俺サイズ？（笑）。

谷川 そうそう。俺サイズなんだよなぁ～。

山口 じゃあ、ビンスがやってることは、テレビで谷川さんが着ぐるみ着てるのと一緒なんだ。

谷川 うん！

山口 ガハハハハ。いや、俺にとっても猪木さんとビンスじゃ全然違うんだよ。猪木さんの生の迫力からすれば、ビンスなんてフェイクだらけってサダハルンバが言うのも当然わかるんだ。だけど、今回の猪木さんの、猪木軍団vs新日本ていう仕掛けも、ビンスを意識してのものだっていう見方もあるわけでしょ。

豪 WWFとWCWの親子対決みたいなものというか。

谷川 でも逆に言うと、ビンスを意識してやってると思ったとたんに、メチャ冷めるなぁ。真剣だと思ってたもん。真剣に新日本プロレスを叩き潰して欲しいと思ってたのにぃ。

だって、ビンスはさ、ボクぐらいの程度だよぉ〈谷川〉

一同 ガハハハ！

豪 真剣に叩き潰すわけがないですよ！

山口 そこで、小川と藤波が乱闘してる中で、いきなり『パワーホール』が流れて、長州が出て来る。WWFみたいに。あれは「プロレスと格闘技は全く別のものだ」っていう長州の猪木さんに対する当てつけというか、猪木アングルに引っ掛かってたまるかという意地にも見れるんだよね。そういうものを考えていくと、非常に面白い。そこがサダハルンバが言った、長州が光ったっていうところじゃないの。

柳沢 素材っていうより、ビジネス構造の問題でしょ。そういう構造を意識して、選手たちがやってるのかどうか。裏方も含めてね。どういうカメラアングルで、マイクの音量から、セリフからなにから、どうやって完璧なエンターテインメントにしていくかっていうことを、WWFはやったから凄いわけでしょ。

豪 テレビの対応力は全然違いますからね。

柳沢 それに邪魔になるのは、猪木さんの「プロレス」ってものの軸足なわけでしょ。

山口 逆に言えば、「勝負論」が逆に足かせになっちゃうよね。

柳沢 基本的な、ビジネスの根本的なものがわかってないじゃん、プロレス社会の中って。それじゃ絶対いいエンターテイメントができるわけないで

しょ。だから、こっちもなにが見たいのかって話だよね。そういうのでいいんだったら、そういうものとして見ればいいわけで。

豪　猪木さんは、ＷＷＦにはない本当の確執みたいなものを見せようとしてるんですよね。

柳沢　それが、猪木さんは「まるごとエンターテイメントだ」って言って見せてるわけでしょ。それにしてはエンターテインメントっていう次元が、ＷＷＦとかからしてみれば、あまりにも新日は低すぎるから。だからビンスなんかはスポーツの世界で、偶発的な出来事が起きやすい場で、どうエンターテインメント化していくかってことに挑戦したって見た方が面白いよね。時代の風潮は絶対そうなんだろうと思うんだよ。

豪　ただ、そういうやり方での成功例がまだないっていう。

柳沢　だから、そういう意味で唯一、いま試行錯誤してる段階での『ＰＲＩＤＥ』なんだよね、可能性として。

豪　ドラマとガチの試合を、いかに両立させるかっていう。プロレスがスポーツ性を目指しちゃって、アングル的なものを捨てちゃったら、そりゃ『ＰＲＩＤＥ』が光るに決まってますよね、勝負論とアングルの両方があったら。

柳沢　それをエンターテイメントにできるかっていう。

谷川　ボクはそれが一番好きですね。

ビジネスの根本がわかってない。
プロレスの社会は〈柳沢〉

山口　それはみんな好きですよ。だから、それが「プロレス」を軸足に置いたときに、みんなこんがらがってくるんだよ。でも、偶然、いろんな面でいい方向に転がってるのが、唯一、ＺＥＲＯ－ＯＮＥってことでしょう。

柳沢　だから、試合の中身なんかどうでもよくて、４・９の興行を捉えてみたら、猪木さんの新日本がいかにダメかっていうアングルを出すっていう意味では、猪木さんが小川とは別次元で成功してるっていうこと。

豪　猪木さんのイライラは伝わってきましたからね。

柳沢　で、猪木さんはあの中で多少は面白くして、新日本そのものはダメだけど、「プロレス」は大丈夫だっていうのは当然理想論なんだけど、そうはいかないわけでしょ？

山口　『ＰＲＩＤＥ』が出てきてから、一番右端をＷＷＦとすると、一番左が『ＰＲＩＤＥ』というふうに、「プロレス」と「格闘技」の二極分化っていうことが言われてるでしょ。それで「プロレス」と「格闘技」は全く別モノだっていう風潮も実際に選手側にも出てきてる。その二極分化ってなにかって考えたら、つまり、「アングルで語るものがプロレス」で、「試合で語るものが『ＰＲＩＤＥ』」っていう二極分化でしょ。「プロレス」と「格闘技」の技術的な二極分化っていうよりは。

谷川　んあ～。それは確かにその通り！

山口　それで猪木さんの時代はなにが凄いかっていうと、「アングルで語れる部分」と、「試合で語れる部分」の二つが綱渡りしながら一緒にあったんだよね。そういう意味では「プロレス」と「格闘技」が概念として一緒の次元にあったわけだよね。

豪　試合に偶発性があったっていう意味でもあるわけですよね。

谷川　うん、その通りだ！　だから面白かったんだよねー。

山口　じゃあ、いまなんでそれを見せられないのって話だよね。

谷川　真面目な人が多いんでしょ。

山口　あなたみたいにもっと不真面目になれってこと？（笑）。

豪　みんな試合を練りこみたいわけですかね。

谷川　プロレスという"ルール"が決まってるからじゃないですか？"ルール"をキチッと決めたらダメですよ。

山口　暗黙の了解っていうレベルのものがなくなって、了解だけになってる（笑）。

柳沢　「俺をあんな格闘家たちと一緒にして欲しくない！」っていう気持ちがレスラーの中にあるんだよ。

豪　三沢的な考えですよね。「あいつらにはプロレスはできない」っていう。三沢が言うならわかるけど、最近は藤波まで「プロレスと格闘技は分けるべきだ」って言い出したじゃないですか（笑）。

柳沢　知らない（笑）。

豪　ついに、そこまで踏み切っちゃったんですよ。昭和の新日が大好きな社長としては、どうですか？

柳沢　……いいんじゃない？　それが時代の流れなんだから。「やれや、ほんなら」って感じ（笑）。豪ちゃん、ポン酢のほうがうまいぞ！

豪　だからどっちだっていいですって（笑）。で、社長は分ける派なんですか？

柳沢　どっちでもいい派（笑）。だから、どっちも成功してないんだって。だって「『ＰＲＩＤＥ』がパラダイス」って言える状況じゃないじゃん。

豪　取材にも喜んで行きますよね（笑）。

山口　パラダイスっていいなぁ。我々をパラダイスに連れてってくれる空間がほしいねぇ、心身共に（笑）。

柳沢　だから、どっちにしても成功例がないんだよ。

豪　結局、『ＰＲＩＤＥ』みたいなスタイルだと先が見えないっていうのが、ビジネス的にはあるわけじゃないですか。

柳沢　だから、先々まで考えられることがいいのかって話なのよ。それがいいんですかって問いかけでしょ？

豪　プロレスが先々考えすぎちゃったんですかね？

柳沢　だって、小川と長州で1年く

4・9新日本
大阪ドームを
叩っ斬れ!!
座談会

"ノールール"と謳われて行われたＩＷＧＰ戦。『PRIDE』で男を上げた藤田がＩＷＧＰを初戴冠！　しかし『PRIDE』の藤田と比べると……

らい引っ張られたとしたら、引くでしょ、ちょっと。
谷川 ああ、酔っぱらっちゃったぁ。ひと寝入りしたいなぁ～。
一同 ガハハハ！
山口 退屈？（笑）
谷川 そんなことないですよ。お金の話とか好きだから（キッパリ）。
山口 あ、そっち（笑）。
谷川 儲かるか、儲からないかっていうのは重要な話だよね。
豪 谷川さん、そういうのは気にするんですか？
谷川 それしか気にしないですよ（キッパリ）。
一同 ガハハハハハハ！
柳沢 でもホント、いまのプロレスを語るなり見るなりする上で、ビジネス的なこともわかってないと、わかんないでしょ？
山口 そうそう。そういう意味で、一番わかってるのはビンスなんですよ、プロレス界の中では。
柳沢 ZERO―ONEとかもそうだけど、これからは、ああいうビジネス構造が主体になっていくでしょ。
山口 まあ、ビジネス面での話はまた今度するとして、話を戻すと、さっき言った「演劇論」じゃ誤解を生みすぎるから「演出論」にしておきます（笑）。いま猪木さんが新日本をどう変えたいのかっていう部分では、自己演出の迫力が足りないんだっていうことでもあるんじゃないかと思ったんだよね。
谷川 ああ～。それならわかる。
山口 たとえば、去年の『力道山メモリアル』で橋本が村上に試合前に襲われて、包帯グルグル巻きにしてメインに登場して、「小川ァ、村上になんで試合前に俺を襲わせた～！」って叫んだときあったでしょ（笑）。そのときに猪木さんが「久しぶりに俺は怒ってる」「なんで怒ってるなら怒ってるで、さっさとリングに駆け上がって、小川をやらねぇんだ」って言ってた。それは確かに勝負論からも見れるんだけども、人間の人生は全て演技だっていう部分での自己演出論でもあるわけじゃない。たとえば、4・9で小川と藤波が揉み合ってるときに、テーマ曲と共に入ってきた長州。
柳沢 越中を前にしてふつうに歩いて入ってきてたね（笑）。

メインとして行われた破壊王vs健介の遺恨マッチ。しかし、その遺恨が「プロ」の試合として昇華されたとは思えない内容だった。これが新日本なのか？

勝負論も自己演出論もメビウスの輪で繋がってるんだよ〈山口〉

山口 それを見た橋本が今度は「あそこでホントに怒ってるんだったら走って来いよ」って言ってたんだよ（笑）。だから猪木さんが問いかけてるのは、勝負論とは裏腹の部分で転がる「自己演出論」っていうのも含まれてると思うんだよなぁ。だって、自己演出って生半可じゃできないよ。〝人斬りの哲〟って言われたヤクザの親分が銃弾5発受けて死んだとか、企業戦士と呼ばれたサラリーマンが過労死したりとか、作家だというがゆえに小説書きながら絶命したとか、みんな役割という意味での〝鎧〟を着てるわけだよね。その鎧が重ければ重いほど命がけになってくる。レベルの高い自己演出は、命がけだよね。プロレスラーの自己演出っていう意味で言えば「強くなる」っていうのは当然含まれてくるだろうし。
だから、猪木さんの言いたいことは、「勝負論」からでも「演出論」から入っても、どっちを入り口にしても「やるんなら命がけでやれや、命がけで！」っていうことだと思うんだよねぇ。ダメ？
谷川 んあ～。
山口 金の話の方がいい？（笑）。
豪 いまの新日じゃ中途半端だから腹立たしいっていうか、「勝負論」も「演劇論」も足りないグレーゾーンなわけですよね。
柳沢 いまの新日本とかじゃ、その演劇論のレベルが低いもんなぁ。俺は演劇っていう言葉のイメージからしたら、橋本なんか超一流だよ。『力道山メモリアル』の試合後に「け、警察の方ですか？」って控え室前で言ってたでしょ。あれなんてさ、俺はもう倒れるもん（笑）。あんなの猪木さんにはできないもんなぁ。
豪 橋本は涙とかはリアルなんですけどね。
谷川 ガードマンに「け、警察の方ですか」っていうのは、あれは凄いよ！　「なぜ襲わせたんだ」っていうのは説明調なんだけど、「警察の方ですか」っていうのはメチャクチャいいねぇ！　もの凄いリアリティがあるよ！
柳沢 だから、あの「警察の方ですか」なんていうのは、日本版WWFとしてはバツグンだよね。
山口 そういうことができるのは、よく考えてみると猪木軍団しかいないんだよ。小川、橋本、村上。みんな「自己演出」っていう部分でも闘ってるもんね。
柳沢 でも猪木さんは村上のレベルを求めてるわけじゃないでしょ（笑）。
山口 もちろん、それはそうですよ。だから、猪木さんは欲深いから「単なるWWF」でも「単なる格闘技」でも嫌なわけでしょ（笑）。それに対して長州は、「格闘技」は別モノで、「単なるプロレス」でも練り込んでいけばいいわけだよね。
谷川 長州的演出論みたいに見えちゃうの、全てのものが。
山口 その長州的演出論に対して、猪木さんは「ノー」って言ってるわけでしょ。

豪　長州的演出論って地味じゃないですか。

谷川　地味っていうか、なんかつまんないですよね。驚くものがなにもない。

山口　あくまで猪木さんの中では、勝負論と演出論が、なんかメビウスの輪のように繋がってて、それが「単なるプロレス」でも「単なる格闘技」でもないものをつくってると思うんだよなぁ。で、4・9を見て、まさしく自己演出っていう部分での厳しさが足りないなと思ったんだよね。魂を込めて自己演出していくものがないっていうか。もし4・9を演出論の方向から突き詰めてやってったら、凄え面白くなるのにと思った。

谷川　ボクはね、思わないですねぇ。

山口　いや、だから（笑）、非常にガチでやっちゃえばいいんですよ！　それはよくわかるけど、そうしたら『PRIDE』とかの役割がなくなるじゃない。

谷川　それでもいいと思う。それやるんなら、ホントに怖いですよ。

豪　新日がガチンコをやる！

谷川　一部でもいいから、やり始めたら。長州vs小川なんて、絶対ガチンコやってほしいなぁ。みんなでガチやってればいいのに。

山口　その気持ちはわかるんだけど、それもなんか微妙に違うような気がするんだよね。

豪　どうなんですか、社長！

柳沢　隠語の使い方のイメージの問題だと思うけど、ガチンコ、シュートって言い方しててさ、ガチンコっていうと「用意ドン」の喧嘩なんだけど、シュートっていうのは、仕掛けてくってイメージでしょ。プロレスの強みっていうのは、シュートがあることなんだよね。ガチンコはシュートにはかなわないんだよ。

谷川　それは言える！

豪　なのに、そこが語られなくなっちゃって、ガチかヤオかのつまらない二元論になっちゃったわけじゃないですか。

柳沢　だから“仕掛けろ”ってことだよ。結果はプロレス的に収まったって、間で仕掛けてくれればいいよ。

豪　同感です！　プロレスはそういうものを探して楽しむものでもあったはずなんですよね。

柳沢　そういうことを藤田がやればいいんであって。

谷川　ああ〜、なんかスッキリしたなぁ。

一同　ガハハハ！

豪　全然言ってることが違うじゃないですか！　谷川さんが言ってたのは「ガチンコやれ」ってことでしたよね？

谷川　いや、ボクが言いたかったのは、そんなようなことです（笑）。

一同　ガハハハ！　そんなようなこと（笑）。

山口　このキャラクターは『SRS・DX』でもっと活かして欲しいなぁ。

豪　完全にshow氏が潰してますよね。

谷川　でもshowは面白いよぉ〜。ボクね、山本さんに去られても、また頑張ろうと思うけど、showを失うとヤバいと思うよ。

一同　ガハハハ！

豪　それ、どういう危機感なんですか？（笑）。

谷川　あの座談会で面白かったの、実はshowだよぉ！　ボクを完全に食ってるもんなぁ。

柳沢　なんちゅうレベルだ（笑）。

豪　ターザンが聞いたら一番怒りますよ（笑）。

山口　いまのはガチンコ発言としてはグーです（笑）。

谷川　でもボクは山本さん好きだけどなぁ。

（※ここでターザンが狙っているという仲居さんCが登場）

豪　山本さん、最近いつ来ました？

仲居さんC　言っていいのかなぁ？　昨日。

山口　昨日も来たの？

仲居さんC　ビックリしちゃったぁ。ノアの……高山さんと。

豪　フリーになったんですよ、今度『PRIDE』出るから。

仲居さんC　あ、そうなんですか？

谷川　あ！　明日、ノア対高山やるんだよね（これは4・15ノアのGHC王座決定戦・三沢vs高山の前日に収録）。

一同　ノア対高山！

山口　単位が違うよ！（笑）。

柳沢　団体対個人だもんなぁ（笑）。

谷川　（話をまったく聞かずに）あ〜、今日は話が面白かったなぁ。

一同　ガハハハ！

谷川　じゃあ、次回は4・18のZERO—ONEが終わったあとに、この続きをやりましょうよ。ボクがZERO—ONEを格闘技チックに語るからさぁ。会長が出た『SRS・DX』の座談会、評判いいよ。会長面白いもんなぁ。難しい話もできるしさ。会長って頭いいねぇ。

一同　ガハハハ！

山口　いや、サダハルンバにはかなわない、ホントに（笑）。この座談会、まとまるのかな？

谷川　ガチンコとシュートが違うってことがわかっただけでいいでしょ。みんな学んだでしょ、たぶん。「はぁ〜ん」って。

山口　ガハハハ！　みんな「はぁ〜ん」て学ぶんだ（笑）。

谷川　あ、ZERO—ONEっていえば、ボクねぇ、橋本とは仲よくなれる感じがする。一緒に映画とか見に行きそう。

一同　ガハハハ！

豪　ぜひとも行ってくださいよ（笑）。プロレスの話とかしなくていいですから。

谷川　プロレスの話はさ、別に聞くこともないけどさ……なんかいいなぁ。あの人は好きだわ。映画見たりとか、アイスクリーム食べたりとか。

豪　デートしたいんですか！（笑）。それ、『紙プロ』でやってくださいよ（笑）。

山口　よ〜し、サダハルンバ！　おまえが一番やりたいことやってやるから上がって来い！（4・9の長州調）

【4月14日／新宿の高級しゃぶしゃぶ屋にて収録】

座談会後記■生中継された4・9は不評だったが、後日、通常の『ワールド・プロレリング』枠で録画中継されたものは大好評だった。長州の控え室のコメント、小川＆村上の会場から去るときの映像などを挟み込み、リングのマイクアピールにはテロップが付くなど再編集されたものだったが、これはいったい何を物語るのか。やっぱり新日本から目が離せない！

“ガチンコ”は“シュート”にかなわないんだよ〈柳沢〉

午後８時。ホームレス姿のシルエットが入場ゲートに。「バカヤローッ!!　俺のこの叫びが聞こえるかッ!!　魂の回顧。いまこそ燃える闘いと熱い魂を、このリングに呼び戻せ！」

天才アラーキーがプロレスラーとサシで勝負した！
格闘を職業とする男たちが、身体を張ってさらけ出した、
タイマン写真集!!
南部虎弾プロデュース
知性は肉体の中にある!!

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから』
（アラーキー談）

格闘男

天才・アラーキーが
11人のプロレスラーと
ひとりひとりサシで勝負した!!

撮影 **荒木経惟**／プロデュース **南部虎弾**（電撃ネットワーク）
定価 **¥2500**（税込） **全国書店で絶賛発売中!!**
（書店にない場合は、「ワニマガジン社発売の『格闘男』を注文します」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

「男を張る」——そんな言葉がピッタリとハマる11人のプロレスラーたちが大勢登場しているこの写真集。**桜庭和志、藤田和之、村上一成、アレクサンダー大塚**らがこの写真集でしか見れない、"生身"をさらけ出した超貴重なカットが満載だ。コレを買わずに新世紀マット界を語ることなかれ！ 全プロレスファン必見だ！

お問い合わせ■発売：プロレスをおもしろがる会　TEL.03-5459-9199
発行：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911

強い男の強い本

「ナーシャ!!　読まないヤツがバカなんだ!!』
（石川雄規談）

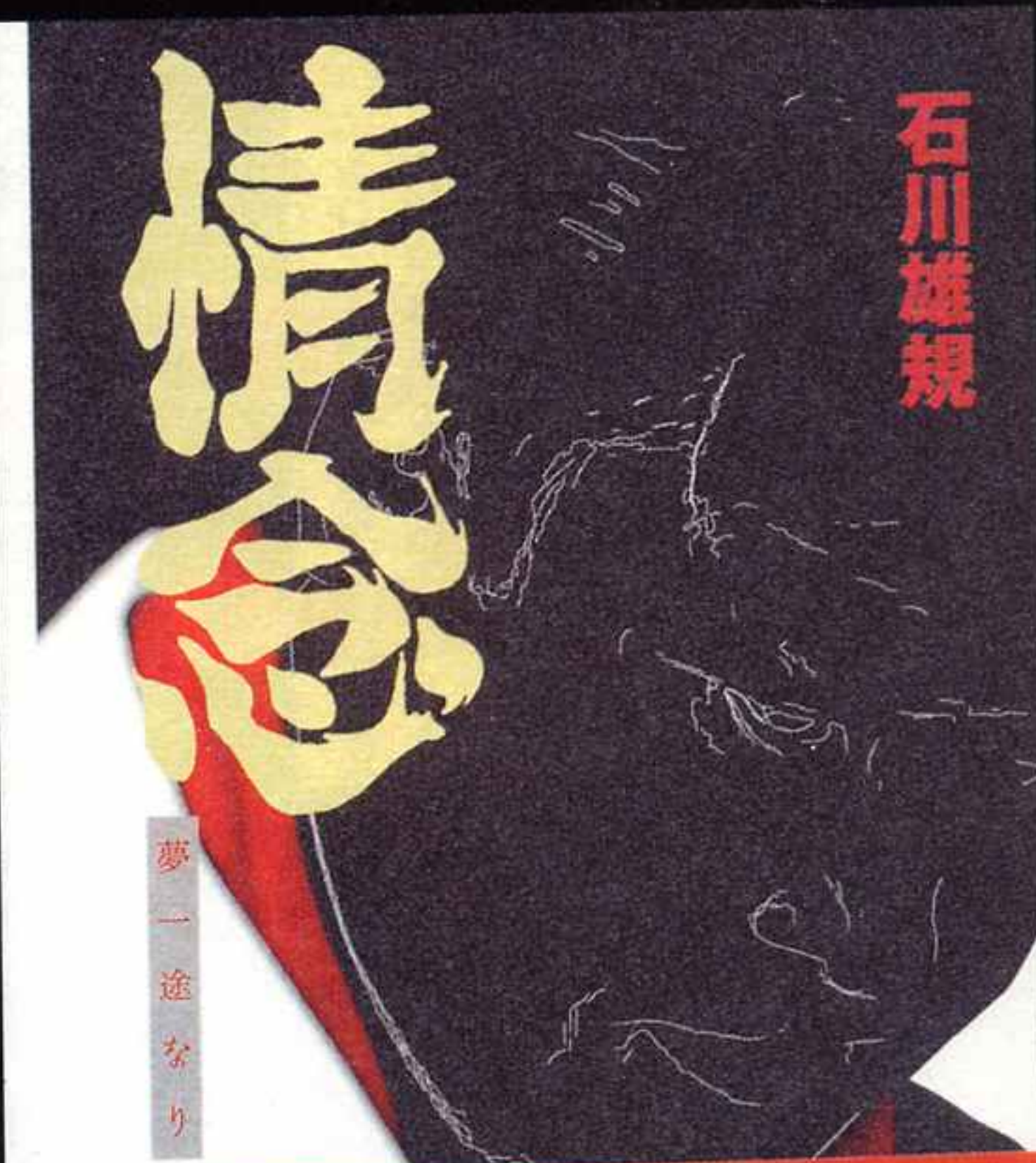
情

夢一途なり
石川雄規・著

本誌で約2年半続いた
ドラマチックな自叙伝的
連載エッセイに
大幅加筆＋書き下ろし！

定価 **¥1619**（税抜）　**全国書店で絶賛発売中!!**
（書店にない場合は、「ワニマガジン社の『情念』をください」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

バトラーツの代表取締役社長・**石川雄規**が、夢を追って追って追いまくった半生を振り返ったドラマチックな自伝が遂に完成！　創作劇場も満載だ。また、ゴーストライターも一切使っていない、正真正銘本人が執筆した、鮮烈なるプロレス界初の自伝である。

お問い合わせ■発売：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911
発行：（株）ダブルクロス　TEL.03-3403-5188

ユウキが一番！
アントニオ猪木

「格闘技内格闘技」を超え──

過激な格闘技」へ!?

桜を散らせた「PRIDE」よ、どこへ行く座談会

「13か、何かとんでもないことが起きなきゃいいが」というコピー通り、サクKO負け！　ヘンゾ失神！　コールマン、グレーテスト18クラブ王者に！　破壊王登場！　などなど、とんでもないことが次々と起こった『PRIDE・13』。過激ルールと猪木プロレスという麻薬を手にした『PRIDE』は、はたしてどこへ行こうというのか！

試合写真／平工幸雄
design by さおとめの事務所

ノブ　さて、今日は「桜庭、敗れる！」という大事件が起こった、3・25『PRIDE、13』の問題点について語りましょう！

ジャイ子　グフフフフぅ。ハ〜〜〜イ！

山口　ちょっと待て！　なんでここにジャイ子（見栄や嫉妬などを爆発させる大女スタッフ）がいるんだよ！

ガンツ　今回は、担当の読者ページが、これ以上ないぐらい不評だった幸田珍が追放された後ですけど、タマリン（元・体当たり系編集部員）が辞めたときといい、人が辞めると必ず編集部に現れますよね（笑）。

山口　こいつは存在自体が隙間産業だね。デカいくせに（笑）。

ジャイ子　みんな会いたいでしょ〜！

豪　うわ！　そういえばボク、さっきジャイ子から突然、「気が合うねぇ、付き合おうか？」って言われましたよ（笑）。

ジャイ子　違うよぉ！「付き合ってあげようか？」って言ったのぉ（クネクネ）。

山口　おまえ、飛ばすね（笑）。「どうしてもサービス精神が旺盛なので、ここでなにかを言わなきゃいけねぇのかな（アントン調）」って感じだな、このキ●ガイ！

チョロ　俺は「チョロメ〜ン、ハメ撮りしたことあるぅ？」って聞かれました（笑）。

豪　間違ったサービス精神の塊だね、この巨人（笑）。

ノブ　（まったく気にせず）バカはほっといて、そろそろ座談会を始めましょう。

ガンツ　掴みはOKということで（笑）。

チョロ　だけど『PRIDE・13』も、掴みはOKでしたよね。あの重要無形文化財総合認定保持者の太鼓！（大倉正之助氏による試合前の太鼓デモンストレーション）

山口　あれはモチベーション高い（笑）。

豪　でも、あのオープニングといい、あの桜庭vsシウバ戦前の映像といい、あの大会は散々「桜は散るか？」で煽りまくってたわけじゃないですか。ボクはそこに「常勝・桜庭」を負けさせようという流れが最初からあったような気がするんですよ。明らかに「桜を散らそうとしてるな」という。

ノブ　いままでの「グレイシー神話崩壊か？」がサクに変わった、と。

ガンツ　確かに会場受付でもらった、次回『PRIDE、14』（5・27）の宣材にも、「衝撃の新展開」って書いてありましたから、『PRIDE』側としたらサクの敗北は予想の範疇なのかもしれませんね。

豪　だから、桜庭vsヒクソン戦とかの流れがもうなくなりそうだから、1回リセットしようとしたんじゃない？　同じようなカードでもまた盛り上がるように。桜庭だけが突き抜けた状態だったから、いかに桜庭を落としてK―1的な並列の世界にするかってルールになったわけでしょ？

山口　『PRIDE』エグゼクティブ・プロデューサーの猪木さんが、「そろそろ桜庭を負けさせなきゃ面白くねぇだろう。そういうルールを作ったらどうだい？」って悪魔の囁きをしてるという妄想も成り立つんだよなぁ。あくまでも妄想だけど（笑）。

豪　猪木さんは桜庭よりも、明らかにブラジル人選手の方が好きだろうし（笑）。

山口　でも、図らずも『PRIDE・13』では、『ゴン格』にも書いてあったけど、「猪木的世界」vs「桜庭的世界」の構図になってたね。やっぱり記憶に残ったのは、猪木さんと、ショッキングな負け方をした桜庭だろうから。

チョロ　あと、重要無形文化財総合認定保持者ですね！

ノブ　おまえ、しつこいよ！　面白くねぇんだよ!!（マジギレ）。

山口　（無視して）猪木劇場も、桜庭の負けも、いろんな意味を含めて考えてみるとOKなんだけどね。

豪　でも、いままでの『PRIDE』って、桜庭が突き抜けた世界がむちゃくちゃ面白くて、そこに猪木っていう明らかに異質なものが入ってくるイデオロギー闘争の緊張感みたいなものが魅力だったわけじゃないですか。それがいまは、桜庭が押し出されて、どんどん猪木色が強くなろうとしている。それがなんだか居心地悪いんですよ。

山口　俺が今回、サクの敗戦をヨシとするのには深い意味があるから。

ノブ　どんな意味ですか？

山口　それは絶賛発売中の『さくぼん』参照ーーッ！（笑）。

ガンツ　露骨な宣伝ですねぇ（笑）。

山口　もしくは、なぜか俺が出てる『SRS・DX』（4／26号）の座談会参照ーーッ！（笑）。

豪　なんで自分とこの座談会やる前に、他誌で語っちゃってるんですか！（笑）。

山口　だってサダハルンバ（谷川＝『SRS・DX』編集長）と柳沢忠之（同発行人）が、気持ちよく話させてくれるんだもん。焼き肉も食わせてもらったしさ（かわいらしく）。

豪　それじゃ〝ごっつぁん体質〟のターザンと、まるで一緒ですよ！（笑）。

山口　まぁ、桜庭vsシウバ戦が面白いっていう理由は、『PRIDE』の流れは置いといて、試合内容のみでも語れるということだよね。いま試合内容だけで熱を持って語れる試合って、純プロレスでも新プロレスでも、ありそうでないじゃん。

ノブ　会長（山口日昇のアダ名）は絶賛してましたよね。

桜を散らせた「PRIDE」よ、どこへ行く

俺が今回、桜庭の敗戦をヨシとするのは深い意味があるから（山口）

『PRIDE・13』翌日、なんとスポーツ新聞6紙が「サク敗れる」を一面にもってきた。この日は他のスポーツもニュースが多かったのだが、サクが敗れるというのは、今やそれらを上回るほどのニュースなのだ。

◀◀◀ 3.25 PRIDE.13 PUTIT REVIEW

BEST FIGHT賞

NEXT PAGE GO!

座談会出席者、思い出の写真展付プロフィール

坂井ノブ with 竹本幹夫
スモーノブのくせに体重を落とした裏ではその実力アップぶりが囁かれているが、逆ギレ癖と不自由な日本語は変わらない

吉田豪 with ムツゴロウさん
ジャイ子に「私と吉田さんは阿吽の呼吸ぅぅ」「甘えたいのぉ？」と、真っ昼間からセクハラを受けまくりの本誌スーパーバイザー

山口日昇 with サク・マシン
最近は「聞茶」に凝っている。「女は23歳までしか認めん！」と破壊王ばりに断言するが、本当は何歳でもいい本誌鬼畜編集長

ジャイ子 with 修斗クン
「何発ですかぁ？」「交わりたいのぉ？」など、唐突に真っ昼間からセクハラを繰り返す（特に吉田豪）、巨大女スタッフ

堀江ガンツ with 田村、ヘンゾ
アブダビ土産に巨大なラクダ人形を買ってきて迷惑がられたり、4・20現在、そのアブダビボケぶりは絶賛進行中

松澤チョロ with オクタゴンガール
前号では、アメリカくんだりまで取材に行き、見事にUFCとKOTCの原稿を落とした、切腹もののキャットファイター

山口　会場で見たときは「あちゃ〜、変な負け方したなぁ」と一瞬思ったんだけど、ビデオで何回も繰り返して見ると、面白いんだわ、これが（笑）。

豪　桜庭の気の強さは見えましたよね。

山口　うん。ホント、KOKに出てるロシア勢なんかもそうだけど、一発殴られたら二発殴り返すっていう気迫？サクの場合、いままでそれが伝わらないような戦略を取ってたけど、あのムキになりようは、格闘技者というか、俺の幻想の中での〝プロレスラー〟が一番持つべきモチベーションなんだよ。例え不得意な打撃の局面でも、火が付いたら止まらないっていうさ（笑）。

豪　でもファンにはそれがあまり伝わってないんですよね。「シウバにガンつけられて目ェそらしてた！　気が弱い」みたいな。そんなの、桜庭が睨みつけるわけねぇだろっていう（笑）。あえて睨まないとこでイラついてるのがわかるのに。なんで打撃に付き合ったか考えてみろって感じですよ。

山口　あのゴング前のシウバのガン付けに相当頭に来てるというのはわかったけどね。あのサクのプロとしての負けず嫌いっぷりは実にいいなぁ。それに加えて、這いつくばりながらも蹴りをかわしたり、額でブロックしたり、新ルールにも、すでに対応してる片鱗は見えるしね。

豪　先に打撃入れたのも凄いし（笑）。

山口　立ち上がり、最初に入れたの桜庭だもんね。シウバをひざまづかせたから。そのとき、一瞬「俺、打撃に目覚めるかも……」って思ったらしいよ（笑）。まぁ、負けは負けだし、それに関しては何を言われても仕方ないけど、俺は桜庭が〝ある星の下に生まれてきた人〟だっていうのは、確実に感じたね。要は（ビート）たけしのバイク事故みたいな感覚なんだよ、今回は。

ジャイ子　むぅ〜。よくわからな〜い。

山口　うるさいよ、逆ピグミー族！

『PRIDE』躍進の原動力であった「桜庭」と「グレイシー」という両輪が、揃って「4ポイントからのヒザ蹴りOK」という新ルールの餌食になってしまった。『PRIDE』は今後、このままバイオレンスな打撃天国となっていくのか？　それとも、再びサクとグレイシーの復権はあるのか？

このままヒクソン戦が流れでもしたら、例え今回シウバに勝っても、「そろそろ桜庭には飽きたなぁ」っていう空気が流れてたかもしれないでしょ。ビートたけしも、これ以上人気が出ようがない。あとは落ちていくだけっていうときに、バイク事故という〝偶然の事故〟にあった。それをバネに、次のステージに昇っていけたわけでしょ。だから、今回の桜庭の敗戦は、俺から見ると、高いレベルでの〝偶然の事故〟みたいなもんなんだよね。凡人には、次のステージに進むきっかけとなる、〝偶然の事故〟って、なかなか降りかからないから。降りかかった本人たちは、凡人にはわからない辛さを味わってるだろうけどね（笑）。

豪　その意見には乗れないんですよね。たけしのバイク事故でのリセットってタイミング的に良かったと思うんですよ。でも桜庭の場合はまだ落ちてもないのに、強引にリセットさせられちゃったって思いが凄い強くて。いまはそのときじゃねぇだろっていう。高田延彦とか佐野巧真とかがリセットされるんならわかりますけどね（笑）。

山口　もちろん、桜庭が次のステージに上がる復活の仕方をしてくれるだろうっていう願望込みの見方だよ、これは。

ガンツ　ボクは一刻も早く日明兄さんをリセットさせたいですけど（笑）。

山口　大きく出たな、おまえ！　やってもらおうじゃねえか（笑）。

豪　だから、前の大会が膠着三昧だったりカードが手詰まりしたぐらいで、なんで桜庭をリセットさせてんだってことですよ。あのルールでやったら桜庭が光らなくなる道しかないじゃないですか。桜庭らしい試合ができなくなるようなルールだから。

山口　だから、ルール的には「制限」をなくした方が公平ってことなんだろうけど、結局、今回のルールは、公平にしてるように見えて、膝蹴りと顔面蹴りを4ポイント状態で許したっていう「制限」をつけただけなんだよな。

豪　そういうのが得意な膠着系の人にとって有利なルールになっただけなんですよ。あれは技術的な面白さを出せないルールでしょ。冒険できないルールなんだから。

山口　でもね、バーリ・トゥードが出てきたときに、グラウンドで顔面パンチがあるだけで「こんな野蛮なルールじゃ技術の攻防なんて見れるわけがない」って声が随分あったでしょ。それに対して、旧『PRIDE』ルールは、純バーリ・トゥードとは違うルールだったにせよ、桜庭たちが顔面ありでもレベルを上げてきたよね。今回の新ルールになっても、桜庭たちなら、またさらに高度を上げてくれるだろうっていう希望はあるんだよね。

豪　だけど、あれってK―1が「KOが少なくなってきたから、ヒジ有りルールで流血試合を増やそう」とか言い出したようなものじゃないですか。そりゃあ、そういうルールに対応できるようにもなるんだろうけど、そんなの海外で勝手にやっててくれっていうか。せっかくメジャー化できるレベルの激しさと、技術の攻防が見られるルールが完成してたわけじゃないですか。

山口　熱いねぇ、この金髪鬼！（笑）。

豪　桜庭が選手として手詰まりになったからルールを変えるんならわかるけど、桜庭側が詰まってるんじゃないんですよね。

山口　うん。サクが完全に手詰まりになったときに『PRIDE』がこういう仕掛けをしていくんだったら、スンナリ乗れるんだろうね。ルール変更に反対意見を唱えてる人たちも。

○ヒース・ヒーリング（1R 0'22'' V1アームロック）ソボレフ・デニス●
掣圏道の刺客またもや散る！

何気に『PRIDE』無敗街道を走るヒーリングが、掣圏道の刺客を全く寄せ付けず、わずか22秒でV1アームロックで勝利。

○ガイ・メッツアー（1R 2'25'' KO）イーゲン井上●
メッツァー膠着王からマイクの鬼へ

すっかり膠着王ぶりが鳴りを潜めたメッツァーがイーゲンをKO！　その後エンセンへの不可解なアピールを行った。黒幕は誰だ？

○ビクトー・ベウフォート（1R 4'09'' スリーパーホールド）ボビー・ソースワース●
まずはビクトー完勝

サクとの再戦を執拗にせまるビクトーが第1試合に登場。フランク・シャムロックのスパーリング・パートナーを危なげなくチョーク葬。

技術の攻防のない〝真の闘い〟なんて別に見たくもないですからね（豪）

豪　だから、ボクは明らかに自滅の道を選んでるとしか思えませんね。
山口　でも、元のルールに戻したら、「桜庭のためにルールを戻した」とか言われるでしょ。
豪　非難されるから戻さないとは思うんですけど、戻さなきゃしょうがないですよ。新ルールの方が〝真の闘い〟とか言ってるけど、技術の攻防のない〝真の闘い〟なんて、別に見たくもないですからね。
山口　それはあるよな。「格闘技は決闘だ」という観点で見れば、「技術の攻防」っていう言葉自体には面白みを感じないけど、やっぱり、試合には技術の攻防がないと面白くないよ。だから、「総合格闘技」というものと、別物にしたいわけでしょ。「総合格闘技」はスポーツ、あるいは競技。でもこっちは〝本物の闘い〟〝本能的な闘い〟だっていうふうに。でも、果たして、ルールの制限がないってことだけが〝本物の闘い〟なの？っていう問題提起はしなきゃダメだよな。俺はKOKでも、さっき話したロシア勢のように、全然〝本能的な闘い〟をしてる選手もいると思うし、見る側の〝見方〟の問題だと思うけどね。
ガンツ　だけど、『PRIDE』の場合、「究極の闘いをしろ」と言いながら「面白い試合しなさい」って、どっちなんだって話ですよね。
山口　だからKOKへの対抗設置プラス膠着対策だけで今回のルール設定をしちゃったんだったら、ちょっと意識が低すぎるよね。

『PRIDE』名物アントン劇場。この日は藤田、カシンだけならまだしも、破壊王まで登場！　『PRIDE』とはまったく関係ない4・9新日、大阪ドーム大会のあおりに終始した。「これがあるから『PRIDE』は単なる格闘イベントじゃない」と言う意見もあるが、はたしてこのままでいいのか？

豪　「こっちが本当の闘いですよ」って主張している匂いはプンプンしますよね。
山口　「こっちは決闘。向こうは競技」っていう差別化ね。だから、なんで、あのルールにしなきゃいけないのかっていうビジョンが見えないことに対しては俺もノーだよ。
ガンツ　今回は膠着をなくすためのルール変更なわけじゃないですか。でも膠着をなくしたいなら前のルールにブレイクを入れれば済む話なんですよね。実際『PRIDE．6』はブレイク有りで凄く面白かったんだから。
豪　そう、ただレフェリーの権限を強めればいいだけの話なんだよ。
ガンツ　それをブレイクするのに反則取って、イエローカード出して両者を立たせるとか、回りくどいことやってるじゃないですか。それって「膠着はさせたくない、でもリングスの真似はしたくない」っていうだけですよ！
山口　リングス大好きのキミとしたら、そう言いたいんだ（笑）。
豪　ちょうどUFC―Jがなくなったっていうのも、グッドタイミングだったわけでしょ。たぶん「UFCと近いルールはウチの独占」っていうのもあっただろうし。
山口　ただ、ルールを変えたことが悪いって言っちゃうと……。
豪　ボクは断じてそう言いますよ！
山口　いや、ルールを変えたことより、明確な方向性がないのが悪いね。『PRIDE』をどうしたいのかっていう。
豪　今回のことで、ほぼ毎回通っている数少ない興行を勝手に変えられたことに対するイライラが凄くあって、自分がいかに『PRIDE』が好きなのか気付きましたよ。みんな、凄い冷めてんですよね。「いいんじゃないの、別に」って感じで。『PRIDE』寄りの雑誌とかそうじゃないですか。
山口　ああ、『SRS・DX』的には、「今回はルールを変えたことで、反響がこれだけあったから、語れるということは素晴らしい」というところに帰着させたいわけだよね。でもそれは自作自演なんだよな。ターザンが音頭を取って「膠着は悪」って騒いで、その膠着をなくすためにルールを変えってマッチポンプだもん。結局、「猪木的世界」を取るのか、「桜庭的世界」を取るのか、どっちなんだってなったら、オレは「桜庭的世界」を取らなきゃ『PRIDE』には未来はないと思うよ。
豪　それなのに、今回は「桜庭的世界」を捨てたようにしか見えないわけですよね。
山口　ただ、『PRIDE』サイドとしては、「桜庭的世界と猪木的世界、両方が同居してるのが『PRIDE』だ」っていう言い逃れできる土壌があるわけでしょ。
ノブ　今回も「猪木さんが大部分を乗っ取った。でも、桜庭が負けたことによって、桜庭は一人勝ちした。負けるが勝ちである」っていう意見はありましたよね。でもいままで気持ちよかったのは、桜庭が最後に勝って持っていったからですよね？
豪　そうそう。で、猪木さんがなんかやってオイシイとこ持ってきながらも、最後にサクがひっくり返すっていう。だけど今回は全然持っていけてないのは事実でしょ。
山口　もう一つ、「猪木劇場があるから『PRIDE』は単なる格闘技イベントで終わらない」って見方ね。それは全く逆の話であって、これまで桜庭が面白い試合をしてたから、ただの格

○マーク・コールマン（1R 1'19" レフリーストップ）アラン・ゴエス●

衝撃！ゴエスも失神！

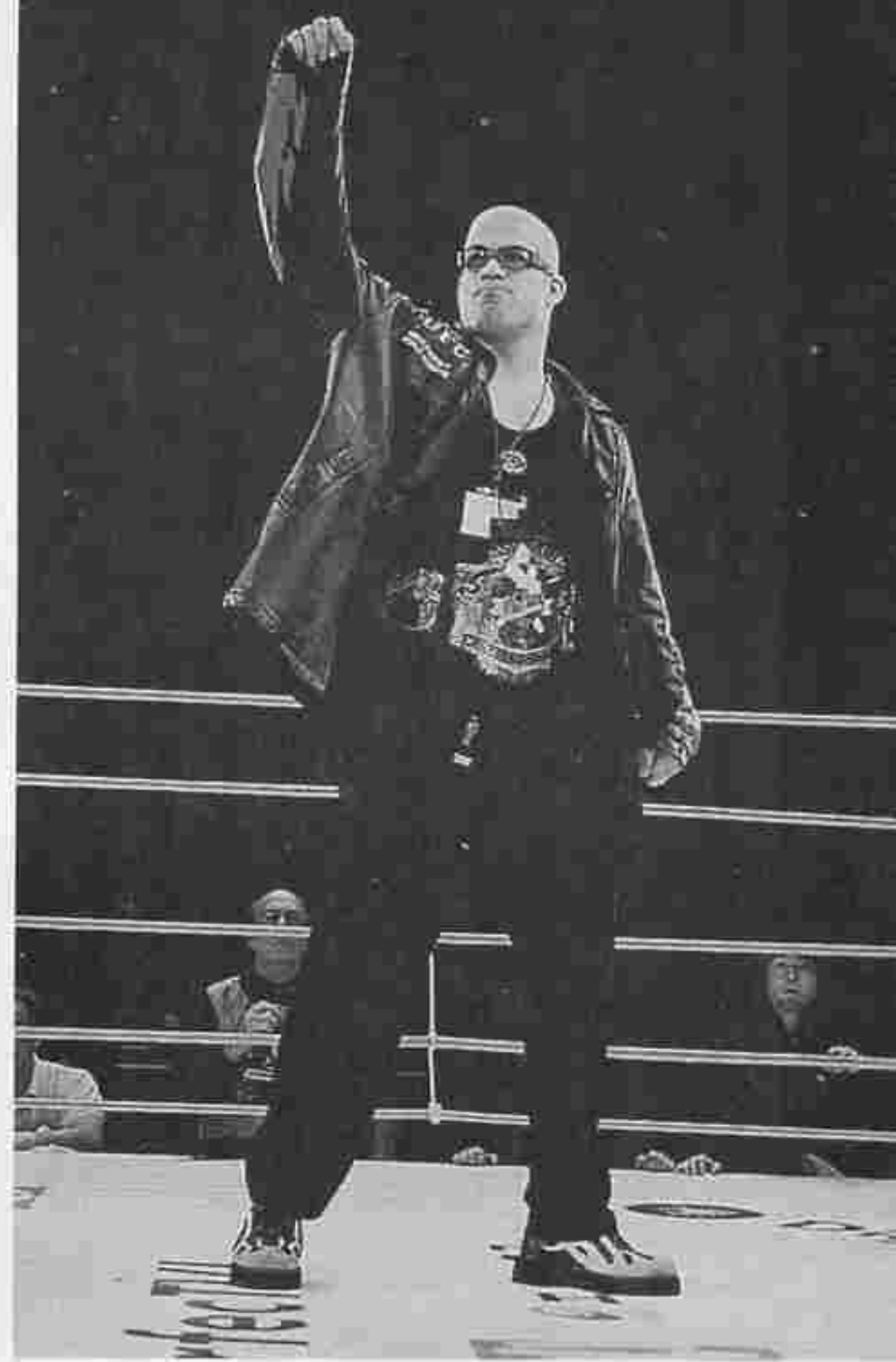
プロレス進出が噂されるコールマンと、猪木信者で将来はプロレス転向も考えているゴエスが、グレーテスト18クラブのベルトを掛けて闘うという、明らかに『PRIDE』より『猪木祭り』向きのこのカード。ゴエスは『猪木祭り』と勘違いしたかのような、カポエラキック（？）で観客で幻惑させるが、コールマンにもの凄いタックルで倒され、恐怖の4ポイントニーを喰らい失神。いろいろ物議を醸すも、コールマンの完勝に終わった。

○ダン・ヘンダーソン（1R 1'40" KO）ヘンゾ・グレイシー●

衝撃！ヘンゾが失神！

第1回KOKを沸かせた二人が、スポーツ性の高いKOKとは正反対の『PRIDE』新ルールで激突。このルールは打撃に自信があるアマレスラーに断然有利であることを如実にしらしめることとなった。ヘンダーソンは自分からはタックルに行かず、タックルをガブってのヒザを叩き込むという新『PRIDE』必勝法で盤石。最後はタックル潰した後の左フックでヘンゾを完全KO！　新ルールによる格闘環境の変化が最も顕著な一戦だった。

桜を散らせた『PRIDE』よ、どこへ行く

「猪木的世界」と「桜庭的世界」なら、「桜庭的世界」を取るべきだよ（山口）

ゲストとして登場した、現在アメリカVT界最大のスター、UFCミドル級王者ティト・オーティズ。昨年4月にシウバを破っている強豪だ。『PRIDE』参戦はあるのか？

闘技イベントでは終わらなかったわけでしょ。じゃあ例えばパンクラスに猪木さんが出てきて「バカヤロー!!」ってガナったら、単なる格闘技イベントでは終わらないのかって話でさ、それはまた全然違う話じゃん。

豪 寛水流大会に猪木さんが出たら、単なる格闘技イベントじゃないのかって（笑）。猪木さんが『PRIDE』に出てきて新日の話しかしないっていうのは、確かに面白いんですけどね（笑）。

山口 それは猪木さんが面白いだけであって、『PRIDE』が面白いってことでもないよね（笑）。

豪 結局、新日にも『PRIDE』にもアンチを掲げてるような状態じゃないですか、いまの猪木さんって。

山口 新日本への嫌がらせの仕方って迫力あるでしょ、猪木さんの場合（笑）。『PRIDE』に対しては、別に嫌がらせしようって気は見えないよね。

豪 でも『PRIDE』のリングで新日の話しかしないっていうのは、十分な嫌がらせですよ（笑）。

山口 そうか（笑）。だから、『PRIDE』の方向性とかに関しては、猪木さんは本気になってないでしょう。

ノブ 今後、コールマンとかが上がって、『PRIDE』と新日がリンクしていくっていう構想の下にやってるんでしょうけどね。

ガンツ でも、ああいうことをする猪木さんに対して「アントニオ猪木なら何をしても許されるのか！」って感じで盾つく『PRIDE』の選手がいないっていうのが寂しいというか、腑抜けだと思いますね。

豪 谷津くらいなわけでしょ（笑）。

山口 「猪木的世界」と「桜庭的世界」が同居してるのは、ホントにダイナミックで面白いんだよ。でも、猪木さんに対して本気で噛みついていくヤツがいて、それに対してまた猪木さんが返すっていう構図になれば、もっと面白いわけでしょ。プロレスと『PRIDE』がやり合いながら高度を上げていかなきゃ意味ないわけだから。だから、純プロレスがいま面白くなってきてるのは、非常にいいことだと思う。それは猪木さんの功績でしょう。でも、『PRIDE』に出てくる猪木さんは〝キャラクターグッズ〟になってるからね。「猪木的世界」を導入することで『PRIDE』は面白くなった。ただ、それに頼りすぎるなってことだよ。

豪 マイクにしてもネタ下ろしの場であり、最後に持ちネタで締めるだけだし（笑）。やっぱり、『PRIDE』は猪木に染まりすぎちゃいけないんですよ。3・25は明らかに『猪木祭り』だったじゃないですか（笑）。

山口 「そういうわけで、リベンジマッチが決まったようです」だもんな（笑）。

豪 それでハイアンが「いま呼ばれて来ましたけど、なんですか？」（笑）。

山口 あれは「偶然の出来事をドラマにしていく」んじゃなくて、アングルがあるのに偶然に面白くなっちゃった「NG大賞」みたいなもんでしょ（笑）。

ノブ その前の石澤の「猪木さん、リベンジさせてください！」っていうところは、前号の座談会で会長が言ってた「大衆演劇にプライドを持ってない人の大衆演劇」ですからね。

山口 俺は「プロレス＝大衆演劇」っていう意味で言ったわけじゃないよ（笑）。昔、村松（友視）さんが梅沢富美男のいる梅沢武男劇団を追っ掛けてたんだよね。俺もよく見に行ってたんだけど。で、その劇団は、ふだんシモキタのキャパ2～300人の劇場でやってるんだけど、歌舞伎にも負けない豪華な衣装で、一流芸人にも負けない志を持って、ブロードウェイにも負けないことをやってるの。「大衆演劇」っていうことに卑屈にならずに、他のメジャーな演劇に負けないという情念と実力を磨いてたわけ。「しょせん大衆演劇でしょ」という世間の目を射返すように、梅沢富美男が「夢芝居」というヒット曲を歌って世間に打って出たりしながらね。

ジャイ子 むぅ～。その歌なら知ってるぅ。

山口 （無視して）つまり、「大衆演劇」というものにコンパスの軸を刺しながらも、「大衆演劇」のワクに収まらない〝円の広げ方〟をしてるのが素晴らしいと言ってたわけ、村松さんは。それはまるっきりプロレスに当てはまることでしょ。「しょせんプロレス」と世間から白い目で見られながらも、その視線をいかに射返すかっていう作業を猪木さんはズッとやってきたわけだから。自分のいる世界に軸を置いて、どれだけ円を広げていけるかっていうさ。〝プロレスラー〟という名の下に、政治にも出て行く、ブラジルに横断鉄道を引く夢を描く、アントンハイセルもやると（笑）。こっちが想像もつかないような世界観の広げ方をしていったわけじゃん。

ノブ モハメド・アリとまでやりましたからね。

山口 じゃあ、いま『PRIDE』がなにを軸にして円を広げようとしてるのかっていうのが見えないんだよね。ホントに『PRIDE』にプライド持ってんのかよって感じることもあるよ（笑）。むしろ橋本たちのZERO—ONEの方が軸がしっかりしてて、世界を広げていこうとしてるじゃん。それは破壊王弁当とかも含めて（笑）。それ

○トレイ・テリグマン（3R 判定0-3）イゴール・ボブチャンチン●

ボブチャンチン 伏兵に敗れる！

あのボブチャンチンが、伏兵テリグマンに敗れるという、ある意味サクの敗戦以上の番狂わせといえるこの一戦。序盤ボブチャンチンはいつものように、KO狙いで大振りのロシアンフックをぶんぶん振り回す。しかし、ボクシング技術に長けるテリグマンは、そのほとんどを寸前で見切る。するとボブちゃんはスタミナ切れ！ 『PRIDE』いちの強打を誇るボブちゃん打倒の秘策は打撃だった、というコロンブスの卵のような一戦だった。

●佐竹雅昭（3R 判定1-2）安田忠夫○

ヤスティ 大バクチに勝つ！

バクチで家庭を滅ぼし、膨大な借金を背負った安田が、ロスで裸一貫出直し、『PRIDE』出場という“大バクチ”を打つという、試合内容云々より、生き様が問われたこの試合。安田はひたすら電車道で突進する作戦。これで佐竹の打撃の間合いを殺すことに成功。結果、コーナーで膠着という展開が続いてしまったが、練習期間わずか2ヶ月の安田にこれ以上望むのは酷。安田なりの全力を出しきった判定勝ちを言えるだろう。

ノブ プロレスを軸にバトルプレイス、ブレーンで違うアングルやるわけだし。てるだけなんですよね。それ以上にギなのは、『PRIDE』の外の〝上がり〟じゃないから嫌なんだよね。ウィ

ノブ　プロレスを軸にバトルプレイス、破壊王弁当と円を広げてますよね（笑）。

豪　あと「真撃」ね（笑）。だから、『PRIDE』は桜庭を軸にしようっていうんじゃなくて、むしろ桜庭をコンパスの逆側の先に置いて酷使しまくってるだけでしょ。

ノブ　だんだん擦り減ってますよね。

山口　桜庭が世間に打って出る一つのアイテムになっちゃってるもんね。だから、「野蛮だと言われようが、スポーツじゃないと言われようが、『PRIDE』は世界最強の格闘技、あるいは世界最強の男を決める〝場〟なんだ」ということを軸に置くんだったら、今回のルール改正はOKだよ。でも、総合格闘技として世界に普及させてボクシングのようにしていきたいんだったら、このルールじゃダメでしょ。真剣勝負をエンターテインメントとして楽しんでもらうっていう目的でもいまのルールじゃダメ。だから、『PRIDE』の軸が見えないことが、一番の問題なんだよ。何が目的で『PRIDE』をやってるの？っていう。「総合格闘技内総合格闘技」じゃなく、『PRIDE』は「過激な総合格闘技」を目指す、というなら、あのルールにしたのはわかるけどね。「総合格闘技」というワクには収まらないものを目指す、というならね。

ガンツ　ああ。昔は、馬場さんのプロレスを「プロレス内プロレス」と言って、猪木プロレスを「過激なプロレス」と言ってましたからね。

山口　それも村松用語だけどね。あと、いままで桜庭にオンブにダッコで引っ張ってきたわけでしょ。猪木さんを出してみたり。だから、『PRIDE』内でもアングルが錯綜してるわけ（笑）。猪木さんは猪木さんのアングルやるわけだし、『PRIDE』のブレーンはブレーンで違うアングルやるわけだし。そのブレーンの中でもまたアングルが違ったりしてるんだよね。明確な方向性が打ち出されてない。そこに俺は違和感を感じるんだよ。

豪　その錯綜するアングルの中で「今回は『桜散る』にしとこう」っていう共通認識だけはあったんだと思うんですよね。リセットして、1回並べ直してみようっていう。パンフで谷川さんが書いてたじゃないですか。「桜庭が勝った方が面白いですか？　負けた方が面白いですか？」とか。つまり、最初っから「負けた方が面白いでしょ？」って押し付けてたんですよ。その「負けたほうが面白い」って思わせる流れの中で、桜庭が負けただけだから。

山口　偶発という名のアングル？（笑）。

豪　それが気に入らないっていうのが大いにありますよね。マスコミが語らないでいいK—1的世界にしたいのかもしれないですけど。

山口　あともう一つ言えるのは、『PRIDE』に出て〝飛び級〟した人たち、つまりスターになった人たちが、その後に何をやるのかを見せる時期にきてんじゃないかな？

豪　藤田がIWGPに挑戦とか、谷津がアブダビ行ったりとかですか（笑）。

ノブ　大刀光がDDTに出たり（笑）。

山口　だから、そういうふうにスケールが小さくなっちゃってるわけさ（笑）。いまはね、『PRIDE』が最終的な行き場というか、学年で言えば3年生みたくなってるでしょ。

豪　小学生じゃなくて、中高生の場合。

山口　うん。「でも、これからまだ先があるんじゃないの？」っていうさ。だから『PRIDE』に出て飛び級した人たちを『PRIDE』に縛るのは、オレは反対。

豪　でも実際、PRIDEは金で縛ってるだけなんですよね。それ以上にギャラが貰える場もなければ、『PRIDE』以上に華々しい場ってないだけなんですよね。

山口　それがないから、それをつくれるヤツが今度、もの凄く光ってくると思うんだよ。

豪　いま無理矢理「IWGP挑戦」とかの流れを作っちゃうわけじゃないですか。でもそれってなんの夢でもないですよね。ステイタス作るために昔のベルト持ってきたりとか、いろいろ頑張ってるけど。だからホントに致命的なのは、『PRIDE』の外の〝上がり〟の形が一つもないっていうことですよ。『PRIDE』から上がるにはどうしたらいいか。

山口　それを真剣に考えてる人がいないんだよな。「『PRIDE』に出れば、それでいい」ってなっちゃってるから。

豪　「とりあえず『PRIDE』に出る」っていう形になっちゃうじゃないですか、アレクとかを筆頭に。とりあえず組まれて、とりあえず出てで、闘いにモチベーションが感じられないでしょ。いまの時代はプロレスが〝上がり〟じゃないから嫌なんだよね。ウィリー・ウィリアムスなんかの時代と違って〝下がり〟でしょ、新日に出るっていうのは（笑）。

山口　「二コマ戻る」って感じだもんね（笑）。

ノブ　アメリカはしっかり〝上がり〟になってるんですよね。

豪　そう。もはやWWFに出るぐらいでしょ、いまの正しい〝上がり〟って。

山口　だから、その『PRIDE』だけを〝上がり〟にしないためにも、猪木さんが新日本で頑張ってるんでしょう。帰っていくべき故郷を矮小化しないために。

ノブ　それができるのが破壊王だと思うんですよ。

豪　ZERO—ONEが〝上がり〟になればいいんだよね。それと、『PRIDE』は、いまは佐竹とか、飛び級できてない選手が何回もリングに上がったりするじゃないですか。落第した選手を平気で使う、あの不思議なシステムがどうもわからない。

山口　だから、いまはまだ〝団体〟システムと〝場〟の中間でしょ。そこからまず脱却するべきだと思うんだよね。本当に〝場〟にしたいなら、本当にオープンにしてみろって話でさ。いままでは俺も無理して「『PRIDE』は〝場〟だ」とか言ってきたけど……。

全員　無理して！（笑）。

山口　無理してっていうか、そうなってほしいという願望というかさ（笑）。でも実際には〝団体〟システムと〝場〟の中間だよね。まぁ、それは過渡期においてはしょうがないことだけど、それを完全なる第三者的な〝場〟にしたら、『PRIDE』はパイオニアになるわけだよね。プロレスラーであれ、アマチュアの大物であれ、マッチメイカーが認めたら出れる〝場〟にすれば。

新日本プロレスと『PRIDE』を股に掛けて、強大化していく一方の「猪木軍団」。安田とマーク・コールマンもこれから重要な戦力として、プロレスとVTをボーダーレスに活躍していくことになるのか？

桜を散らせた『PRIDE』よ、どこへ行く

『PRIDE』の外の〝上がり〟の形が一つもないのが致命的なんですよ（豪）

でも、そのマッチメイカーも錯綜してるんだよね（笑）。誰に責任があるかもよくわからないし、猪木さんがマッチメイク全般をしてるわけでもないし。表に出て「『PRIDE』をこうする」って宣言して、責任取れるマッチメイカーがいないと難しいかもなぁ。
ガンツ　前田日明や石井館長のような存在が、第三者的な〝場〟を設定するということですよね。
豪　結局、今回の『PRIDE．13』でなにが一番面白かったかっていったら、ボクからしてみればターザンだったわけですもんね。試合終わった瞬間に「俺の一人勝ちですよぉぉぉ〜！みんな、ざまぁみろ！」っていう（笑）。
山口　ガハハハ。お前が「膠着、膠着」って変に騒ぐからおかしなことになってんじゃねぇかって（笑）。
豪　ひどいルールを試行させて、自分は勝手にイチ抜けちゃうっていう（笑）。
山口　「この、マッチポンプ野郎！」とガナったらスッキリしました（笑）。要はさ、『PRIDE』に出た選手がなにを望んでるかっていうと、役者の世界でいうなら、みんな〝座長〟になりたいわけでしょ。藤田にしたって誰にしたって〝座長〟として〝座長興行〟を打ってみたいみたいわけじゃん、役者になったんなら。その〝座長〟への近道として『PRIDE』に出て飛び級を狙うわけだよね。だから、藤田は今度4・9（新日本大阪ドーム）でやるべきことは、IWGPを獲るとか、ノールールマッチがどうとかじゃなくて、ドームに来た客を藤田一点に集中させることができるかどうかでしょ。（※注：これは4・9前に収録）そのモチベーションを持ってプロレスができるかどうかだから。藤田初の〝座長興行〟なんだから。
ノブ　桜庭はそれをやってたから、迫力も出たし……。
山口　そうそう。桜庭は『PRIDE』で一番〝飛び級〟した人でしょう。で、その同じ『PRIDE』っていう土俵だけども、桜庭は何度も〝座長興行〟をやったわけでしょ。だから乗れたわけだよね。みんな『PRIDE』に出ていっても、〝座長興行〟をやりたがんないでしょ。橋本は『PRIDE』に出てないのに、なぜか座長になっちゃったけど（笑）。でも、それは『PRIDE』と同等の価値がある小川直也戦というのがあったから、できたんだよね。そのときの屈辱をバネにしてさ。だから、みんな〝座長〟を目指せっていうことだよ、せっかくプロレスラーになったんだから。
豪　ただ、サクは〝座長〟になりたがっていたようには全然見えないんですけどね。やらされてる感じがして。
山口　でも、結局はサクの〝座長興行〟を何回も切り札にしてきて、ファンもそれで感動したっていう事実があるわけだから。高田の代わりに座長を務めてきたわけだからね。
豪　例えば、アレクなんかは〝座長〟になる気満々だったわけじゃないですか。
山口　その欲は大切だよね、プロなんだから。でも、残念ながら〝座長〟としての役割を、いまははたしてないでしょう、バトラーツでも。
ノブ　バトには石川社長という〝座長〟がいますからね。それに、いまのアレクじゃ〝座長〟の器じゃないですよ！
豪　じゃあ、なんの器なの？　ダチョウぐらい？（笑）
ノブ　い、いや、言い過ぎましたけど、バトラーツは、みんな〝座長〟になりたい欲は持ってるはずなのに、誰も本当の意味で〝座長〟になりたがってないんですよ！　アレクもあんなもんじゃないってことを言いたいんですよ！
山口　熱いね、おまえはアレクのことになると（笑）。でも、猪木さんも「座長になりたいんなら、自分の力でやってみろや」っていうことを言いたいんだと思うよ。昔っから言ってたよね。「藤波も、長州も自分のやりたいことあるんだったら、自分で会社作れよ」って。その「会社を作れよ」っていうのをみんな曲解しちゃったんだけど（笑）。
豪　額面通りにジャパン・プロレスつくって飛び出したり、無我やってみたり（笑）。
山口　〝座長興行〟って言っても、額面通りに自分で興行を打つっていうことだけじゃなくてさ、要は自分の力で客を呼んで、客を満足させてみろってことだよね。いまはみんな一選手っていうのにこだわりすぎてるよな。組織の歯車っていう意味でもそうだし、目的がないっていうのもそうだし、熱がないんだよ、熱が！
ガンツ　なんか会長、前田日明みたいになってますよ（笑）。
山口　だってね、桜庭だって、「重たいものは背負いたくない」とか、「一選手でいい」って言ったりするけど、全然そうじゃないでしょう。思いきりマット界を背負って闘ってたでしょ。
豪　一選手にこだわりながら背負ってたってことですよね。
山口　そう。見せ方がわかりづらかっただけで、やってることは猪木さんがやってきたことと同等の価値があると思うけどね。
豪　一番エースらしいエースだったわけですよね。
山口　うん。そこをみんな見過ごして、表面的に桜庭の真似ばっかしようとするんだよ（笑）。いまのレスラーはさ、イザとなると「やらされてるから」とか、「それはボクの役割じゃないです」とか、バカじゃないのか、ホントに！　だんだん腹立ってきたなぁ、クッソー。
豪　一体誰に怒ってんですか？（笑）。
山口　わかんない（笑）。だからノブ、チョロ、ガンツ！　お前らも、いつまでも『紙プロ』がつくってきたもんに安住してないで、自分たちの〝座長興行〟でもやれや、ほんなら。
ノブ　俺はクビってことですか！（逆ギレ）
山口　またこいつ額面通りに受け取ってるよ（笑）。
ジャイ子　グフフフぅ、私も〝座長興行〟やろうかなぁ。
山口　うるさいよ、この脱腸！　おまえは読者ページで〝座長興行〟でもやってなさい。
チョロ　俺はキャットファイトの興行やりますよォォォ！
山口　おまえはその前に、前号のアメリカ取材までして原稿落とした落とし前をつけろ。俺が「やめていい」って言うまで、『USA日記』を連載しろ。ネタがなくなってもしろ（笑）。
チョロ　ザッチョ〜ン！（弱火）。

【4月5日／編集部にて収録】

「サクはもう新ルールでは勝てない」と言う向きもあるが、試合後の「ボク的にはストップするのが早いと思うんですけどォ！（語気強く）」というマイクを聞く限り、プロとして負けず嫌いのサクは、必ずや次回リニューアルされたキラーサクとして、復帰してくるだろう。

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　AM11:00〜PM7:00　年中無休

超保存版！ 伝説のスーパータイガー、新日・DOME DOME DOMEがDVDで登場！いまスグ買うべき！

伝説の虎戦士スーパータイガー DVD

2枚組カラー311分¥10,500

前田、高田、藤原、そしてタイガー
一騎当千の強者たちが激闘を展開！

【完全保存版DVD BOXついに完成】
☆16年前の収録素材を最新の技術でデジタル化。市販ソフトのリマスターではありません。（一部の試合を除く）
☆試合は出来る限りノーカット。前田が仕掛けた大阪でのシュートマッチも完全収録。
☆貴重な当時のインタビューや練習風景も収録。高田にキックを教えるシーンは必見。

金曜夜8時のゴールデンタイムに常時20%の視聴率を誇り、史上最高のプロレスブームを巻き起こしたスーパーヒーロー・タイガーマスク。人気絶頂にあったタイガーが突然新日本プロレスを辞め、格闘技としてのプロレスを打ち出していた第一次U.W.F.で復活。格闘王前田日明、現ミスタープライド高田伸彦、関節技の鬼藤原喜明らと、壮絶な闘いを展開した。従来のイメージを覆した本格的なキック、骨が軋むような関節技を主体にしたファイトスタイルは、プロレス界に大きな衝撃を与え、現在の格闘技ブームへと続いている。

収録内容
・藤原喜明戦（1984.9.7後楽園ホール）・前田日明戦（1984.9.11後楽園ホール）・藤原喜明戦（1984.12.5後楽園ホール）・前田日明戦（1985.1.7後楽園ホール）・高田伸彦戦（1985.1.20後楽園ホール）・マッハ隼人戦（1985.2.18後楽園ホール）・マーチン・ジョーンズ戦（1985.3.2後楽園ホール）・木戸　修戦（1985.7.8広島市体育館）・キース・ハワード戦（1985.7.13静岡産業館）・藤原喜明戦（1985.7.17大阪臨海スポーツセンター）・高田伸彦戦（1985.7.21後楽園ホール）・前田日明戦（1985.7.25大田区体育館）・山崎一夫戦（1985.8.25岐阜産業館）・木戸　修戦（1985.8.29大宮スケートセンター）・前田日明戦（1985.9.2大阪臨海スポーツセンター）・高田伸彦戦（1985.9.6東京・後楽園ホール）・藤原喜明戦（1985.9.11東京・後楽園ホール）

飛龍伝説　完結編 DVD VIDEO

180分ビデオ、DVD各7,140円

すでに発売になっている「飛龍伝説」に新たに25試合を収録した完結編。MSGでカルロス・エストラーダを破ってWWWFジュニアヘビー級のベルトを巻いた1978年から剛竜馬との死闘、長州との名勝負数え歌、前田日明戦、木村健吾戦、猪木戦、ベイダー戦、闘魂三銃士との闘い等々、最近のエピソードオブドラゴン3の藤原戦まで収録の完全保存版！藤波だけではなくプロレスの歴史がこの一本で見れます。

収録試合　●1992〜1/4長州戦、7/8リチャード・バーン●1993〜5/3藤波＆猪木vs長州＆天龍、8/7馳戦●1994〜ホーガン戦、4/4橋本戦、5/1橋本戦、8/3パワー戦、8/6橋本戦、12/13長州戦、●1995〜タリーブランチャード戦●1996〜3/26藤波＆越中vs天龍＆荒谷、vs蝶野＆天山、vs武藤＆健介、4/29天龍戦●1997〜1/4藤波＆木村vs蝶野＆天山、8/10長州戦●1998〜4/4健介戦、6/5橋本戦、8/8蝶野戦●1999〜8/10武藤戦●2000〜5/5蝶野戦、6/2西村戦、12/14金本戦●2001〜2/3藤原戦

プライド13 DVD VIDEO

●ビデオ5/25発売9,970円　●DVD6/8発売5,040円

2001年3/25さいたまスーパーアリーナ。グラウンド状態の相手への顔面キックOKの新ルールが施行されたPRIDE13。いつも以上な過激な試合となった。一番の話題は日本の格闘技界の救世主、桜庭和志がまさかの敗北、それも1R1分38秒の秒殺。桜庭だけでなくヘンゾ・グレイシー、アラン・ゴエスと柔術の実力者のKOシーンは衝撃！PRIDEの新しい流れとなるこの大会は要チェック。

収録試合
桜庭vsシウバ、コールマンvsゴエス、ヘンゾvsヘンダーソン、テリグマンvsボブチャンチン、メッツァーvsイーゲン、安田vs佐竹、ビクトーvsゾースワース

船木誠勝ハイブリッド肉体改造法２

〜ダイエット編〜　57分●ビデオ6,930円●DVD5,040円

本もビデオも大ヒットした「船木誠勝の肉体改造法」のビデオ第2弾が登場！今回はダイエット編とマッスル編の2巻に分けて登場。ダイエット編では主に女性や初心者を対象に絞り、無理せず脂肪を落とし、しなやかな体を作ることに重点を置いている。食事についても船木誠勝が解説し、健康的な美しい体を作るための秘訣を分かり易く解説。全部で4コーナーに分かれており、シンプルトレーニング、チュービング、有酸素運動、食事。勿論、食事の所ではローカロリーのハイブリットチャンコ作り方が収録されてます。

〜マッスル編〜　43分●ビデオ6,930円●DVD5,040円

マッスル編では既にトレーニングを始めている人や、より筋肉をつけたい人達を対象に船木誠勝が無理をせず安全に筋肉を付けるにはどうしたらよいかを丁寧に解説している。マッスルトレーニングではショルダー、アーム、バックと身体の各パーツごとに筋肉の意識をどこに持っていくのか、そして、効率よくパワーアップを図る為の各トレーニング種目とその方法を丁寧に説明している。ヨガでは身体の血行を良くすることにより、筋肉の緊張をほぐす運動の説明をしています。

DOME DOME DOME 1〜4 DVD VIDEO

各約168分ビデオ各10,290円、DVD4枚組21,000円

1989年から今年2001年1/4の東京ドーム大会の名勝負を収録。新日本プロレスのメインイベントの中のメインを存分にお楽しみ下さい！

●VOL.1〜1989/4/24ベイダーvs蝶野、橋本vs長州、ベイダーvs橋本、ライガーvs小林、ハシモコフvsビガロ、猪木vsチョチョシビリ〜1990/2/10ウィリアムスvsハシミコフ、M斉藤vsスビスコ、ベイダーvsハンセン、北尾vsビガロ、猪木＆坂口vs蝶野＆橋本〜1991/3/21ヒガンテvsヒューズ、ムタvsスティング、長州vsシン、藤波vsフレアー〜1992/1/4猪木vs馳、スティング＆ムタvsスタイナー兄弟、ルガーvs蝶野、長州vs藤波〜1993/1/4ライガーvsUドラゴン、スティングvs馳、ムタvs蝶野、ヘルレイザーズvsスタイナー兄弟、藤波vs石川、長州vs天龍〜1993/5/3タイガーvsライガー、藤原vs馳、ホーガンvsムタ、藤波＆猪木vs天龍＆長州〜1994/1/4ヘルレイザーズvsヘルナンデス＆ノートン、スタイナー兄弟vs馳＆武藤、ホーガンvs藤波、橋本vs蝶野、猪木vs天龍〜1994/5/1ライガーvs佐山、ルードvsスティング、蝶野vs藤原、長州vs馳、橋本vs藤波、猪木vsムタ

●VOL.2〜1995/1/4猪木vsゴルドー、Hウォリアーvsノートン、猪木vsスティング、馳＆武藤vsスタイナー兄弟、橋本vs健介〜1995/5/3サブーvs金本、越中＆ファンクvs冬木＆蝶野、北尾＆猪木vs天龍＆長州、武藤vs橋本〜1995/10/9石沢＆永田vs桜庭＆金原、大谷vs山本、長州vs安生、垣原vs健介、橋本vs中野、武藤vs高田〜1996/1/4石沢＆大谷＆永田vs山本＆桜庭＆金原、冬木vs安生、猪木vsベイダー、長州vs垣原、高田vs武藤〜1996/4/29サスケvsライガー、トリプルウォリアーvsノートン＆スタイナー兄弟、ムタvs人生、蝶野vsルガー、天龍vs藤波、橋本vs高田〜1997/1/4蝶野vs中牧、M斉藤vs小鹿、猪木vsウィリー・ウイリアムス、ライガーvsUドラゴン、パワーvsムタ、橋本vs長州〜1997/4/12ライガーvsサスケ、猪木vsタイガーキング、ムタvs蝶野、藤波＆木村vs長州＆健介

●VOL.3〜97.5/3.サムライ＆保永＆サスケ＆デルフィン＆浜田vs金本＆大谷＆東郷＆テイオー＆中島、ジャイアント＆ルガーvsノートン＆バグェル、武藤＆スタイナー兄弟vs蝶野＆ホール＆ケビン、猪木＆タイガーvs藤原＆ライガー、長州＆健介vs小島＆中西〜97.8/10.フライvsウォルシャム、中西＆小島vs山崎＆健介、長州vs藤波、橋本vs天山〜97.11/2.大谷vsペガサス、フライvs山崎、橋本vsヌムリック、武藤＆蝶野vs天龍＆藤波、長州vs健介〜98.1/4.長州引退試合、橋本vsデニス、越中vs蝶野、健介vs武藤〜98.4/4.ライガーvsカシン、武藤＆蝶野vs橋本＆西村、健介vs藤波、猪木vsフライ（引退試合）〜98.8/8.ムタ＆カブキvs後藤＆小原、健介vsフライ、大谷＆高岩vs金本＆ワグナー、橋本vs天龍、藤波vs蝶野、〜99.1/4.ライガーvs金本、健介vs大仁田、天龍＆越中vs天山＆小島、ノートンvs武藤

●VOL.4〜99.4/10.蝶野vs大仁田、高岩vs田中、山崎＆藤田vs石川＆大塚、健介＆越中vs藤波＆天龍、武藤vsフライ〜99.10/11.藤田vsマッコリー、永田vsキモ、健介vs天龍、武藤vs中西〜2000.1/4.山崎vs永田、藤田vsキモ、ノートンvsフライ、武藤vs蝶野、天龍vs健介〜2000.4/7.永田vsカシン、金本vsフライ、大谷vs小島、ムタvs蝶野、健介vsライガー〜2000.5/5.真壁vs健三、ライガー＆田中＆CIMA＆フジ二千vs金本＆カシン＆大谷＆高岩、藤波vs蝶野、パワーvsムタ〜2000.10/9.藤波vs橋本、飯塚vsフライ、天山＆小島vs中西＆永田、ノートンvsウィリアムス、蝶野＆Mr.Tvs渕＆越中、健介vs川田、金本＆田中vs真壁＆高岩、飯塚vsカシン、IWGP争奪トーナメント

ジャイアント馬場三回忌追悼興行＆スタン・ハンセン引退セレモニー

115分5,040円

2001年1/28東京ドーム。T・ファンク、ブッチャー、M・マスカラス、大仁田、そしてキム・ドク。馬場が活躍していた頃のレスラーが集結！ブッチャーのフォーク攻撃、テリーのパンチ、マスカラスのプランチャ・スイシーダと懐かしいシーンが甦る！プラス、ハンセンの引退セレモニーも入っていると聞いたら買うっきゃない！（新日本との対抗戦は収録なし。）

収録試合　ウイリアムスvsバートン、テリー＆大仁田vsブッチャー＆キマラ、スミス＆スティール＆ハインズvsロトンド＆ヘニング＆ウインダム、垣原＆長井vs大塚＆ヨネ、マスカラス＆サントvsアルカンヘル＆パンテル　他

フラッシュバック オブ ガイアジャパン VOL.14

140分8000円

2000年9/15横浜文体、9/17＆10/23後楽園。「有明で生まれた新たな闘いの潮流は、9月15日、第一のクライマックスを迎えた。5大シングル戦とクラッシュvsアジャ＆関西。聖地横浜を揺るがす全面戦争は、激闘の末に誰も予想だにしなかった結末を迎えた。そして二日後、後楽園大会ではオールシングル・ハイスパート600ルールによるリマッチが実現した。横浜でさらに激しさを増した時代の渦は、新章の幕開けを前に、ついにデンジャラス・クィーン北斗晶をも甦らせた。」

UFC-J 〜UFC20th FINAL〜 DVD VIDEO

70分●ビデオ6,930円●DVD5,040円

2000年12/16ディファ有明。過去、桜庭のUFC優勝、山喰のUFC-Jタイトル奪取等様々なドラマを生んできたUFC-J。今回はパンクラスの近藤がUFC世界ミドル級王者ティト・オーティズに挑戦、パワーオブドリームの山本喧一がUFC世界ライト級王者パット・ミレティッチに挑戦する2大タイトルマッチを収録。他、シドニー五輪銀メダリスト、マット・リンドランド対200%安生洋二等見所沢山。全7試合収録。

コンプリート アルシオン 6

〜女子大空中祭から浜田姉妹対決まで〜

120分6,930円

2000年7月〜12月日本全国＆ハワイ＆メキシコ。大人気シリーズコンプリートアルシオンの第6作、今回は2000年後半の大総集編。クィーン、ツインスター、スカイ、P☆MIXの2000年後半の全てのタイトルマッチ、ツインスタータッグリーグ全戦やスペシャルマッチが沢山収録されてます。特に今回は府川、奥津、ソチ引退、JWPからPIKO＆日向の参戦、山縣デビュー、浜田家族問題、文子のアジャ越え等など本当にいろんな事があり、アルシオン史上でももっとも重要な半年だったと思います！是非ともこの激動の半年をこのビデオで振り返って下さい。勿論、藤田＆AKINO＆文子のハワイ珍道中、水着撮影、ファンの集いなどオモシロ映像も沢山入ってます。

収録試合　○クィーンタイトルマッチ〜アジャvs下田、アジャvs文子、文子vsソチ○ツインスタータイトルマッチ〜大向＆下田vsアジャ＆吉田、大向＆下田vsGAMI＆玉田、GAMI＆玉田vsリンクス＆PIKO、GAMI＆玉田vsアパッチェ姉妹、GAMI＆玉田vs吉田＆ASARI、GAMI＆玉田vsラスカチョ（12/3＆12/17）○スカイタイトルマッチ〜マリーvs文子（8/12＆10/27）、文子vsASARI、文子vsAKINO、AKINOvsASARI○P☆MIXタイトルマッチ〜浜田親子vsアパッチェ親子、浜田親子（文子）vsペンタゴン＆ソチ○スペシャルマッチ〜アパッチェ親子vs文子＆AKINO＆マルビン（7/30京都）、マリーvs吉田、アジャvsAKINO、浜田vsリンクス（8/20なみはや）、9/29文子メキシコ凱旋試合、ソチ浜田シングルカウントダウン、大向vs吉田（12/8福岡）、奥津札幌引退試合（12/16＆17）、○アルシオンアワード2000

プロレスリング・ノア Explosion in Osaka & Kobe

5,000円

2001年1/13大阪府立体育館＆2/25神戸ワールド記念ホール。2001年の幕開けの関西でのビッグマッチを収録。ついに三沢と橋本が激突。NOAHvsZERO-ONEの頂上決戦！

収録内容
小川＆三沢vs大塚＆橋本、田上＆小橋vs秋山＆ベイダー、（1/13.大阪府立体育館）小川vs佐野、田上vs秋山、力皇＆三沢vs高山＆大森（2/25.神戸ワールド記念ホール）

プロレスリング・ノア バトル・レヴォリューション序章

120分5,040円

2000年8/9ディファ有明〜2001年1/18後楽園。団体の枠を越え、真の本流を歩み始めた「PRO-WRESTRING NOAH」。歴史的旗揚げ戦からこれまでのメモリアル・マッチの数々を満載した永久保存版ビデオ！この一本を見ればノアがわかる。

収録内容●ノア設立記者会見●8/5＆8/6旗揚げ2連戦（有明）三沢＆田上vs小橋＆秋山、小橋vs秋山●8/19有明〜秋山＆金丸vs小橋＆力皇●10/8横浜〜小橋＆大森vs秋山＆高山、三沢＆小川＆丸藤vsベイダー＆スコーピオ＆スリンガー●10/11愛知県〜小橋vs大森●12/23有明〜小橋vs秋山、三沢vsベイダー、橋本vs大森●1/13大阪府立〜三沢＆小川vs橋本＆大塚、ベイダー＆秋山vs小橋＆田上

NOAH DEPARTURE

〜自由…そして信念〜旗揚げ2連戦

2000.8.5＆8.6ディファ有明 2本組320分￥10,000

2000.8.5〜プロレスリング・ノア旗揚げ戦方舟伝説はここから始まった〜森嶋vs橋、力皇＆百田＆R木村vs菊地＆泉田＆永源、金丸＆井上vs丸藤＆志賀、池田＆垣原＆小川vs浅子＆高山＆大森、メインイベント三沢、小橋、田上、秋山出場

2000.8.6〜「ここは俺の色に染める！」今、秋山の言葉が現実に…浅子vs小林、橋＆百田＆R木村vs金丸＆菊地＆永源、森嶋＆井上vs力皇＆丸藤、泉田＆田上vs大森＆高山、小川＆三沢vs志賀＆池田、小橋vs秋山

NOAH GREAT VOYAGE

2000.12.23有明コロシアム 120分￥5,000

NOAHの2000年を締めくくる偉大なる航海、いざ新世紀へ。小林健太＆菊地毅vs川畑輝鎮、橋誠＆百田光雄＆R木村vs浅子覚＆泉田純＆永源遥、杉浦貴＆力皇猛＆井上雅央vs森嶋猛＆金丸義信＆志賀賢太郎、WEWタッグ選手権試合〜丸藤正道＆本田多聞vs黒田哲弘＆冬木弘道、池田大輔＆小川良成vs青柳政司＆斉藤彰利、田上明vs高山善廣、大森隆男vs橋本真也、三沢光晴vsベイダー、小橋健太vs秋山準

NOAH SPECIALSELECTION,2000

NOAH2000総集編　120分￥5,000

プロレス界に新世界を築く新たなる船出、ノア2000年の軌跡。DEPATURE4大会（8.5〜8.19）、EXCEEDING OUR DREAMS20004大会（9.15〜9.25）、NAVIGATION10大会（10.7〜10.20）、One Night Navigation2大会（10.22＆10.28）、NAVIGATION in November10大会（11.4〜11.16）、The Final Navigation2000,10大会（12.2〜12.15）、GREAT VOYAGE（12.23有明コロシアム）、Milenium Horiday in DIFFER（12.24）

キューティー鈴木ビデオ＆写真集

「セカンド・ミッション」〜ガードレス〜

50,000部突破のヌード写真集「ガードレス」の第2弾！さらに過激で、より妖しいセカンドミッション！キューティー鈴木の大胆露出を満載した衝撃のドラマティック・ヌード！ビデオはこの写真集の撮影風景、Vドラマ「ガードレス復讐の女暗殺者（仮）」のメイキング場面、撮り下ろしのセクシーカットとキューティー鈴木の魅力を満載！

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合￥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！（店頭・通販共）

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。また代金引換（税込￥5,000以上）の場合に限りハガキ又はFAXでの注文となります。（手数料￥315が加算されます。）

●郵便振込口座番号　00180−8−65236　レッスル通販
※郵便振替通販に関してのお問い合わせは池袋店にお願いします。

レッスル渋谷店　店頭TEL03-3464-0078 通販部＆FAX 03-3464-1780
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル

レッスル池袋店　店頭TEL 03-3989-0056 通販部＆FAX 03-3987-7817
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306

★レッスルスタッフを募集しています！（女性限定、渋谷・池袋勤務）…履歴書を渋谷店までご郵送下さい。

君も手に職を持たないか！

目指せ!! スポーツトレーナー、カイロプラクティックのスペシャリスト

東京スポーツトレーナー＆カイロプラクティック学院

4月生募集中！

（財）スポーツ会館は健康スポーツの分野で30年間にわたり実績と経験を生かし、21世紀に即戦力として活躍できる知識と技術を備えた人材を育成します。

▶スポーツトレーナー科（昼間部）

当科では、解剖学や運動生理学などの基礎理論、スポーツ障害などのスポーツ固有の疾病についての予防法や対処療法などさまざまな角度から学習します。

アメリカで改良開発されたスポーツ選手や障害者の関節可動域の向上、運動パフォーマンスの向上を主眼においたスポーツＰＮＦの理論と実技。またスポーツ選手の関節障害の予防回復法、コンディショニングを念頭におき、医療と運動を結合したトレーニング科学を学びます。

実習では本学院所有の総合スポーツ施設をフル活用して、現場に即応した実践的学習を行います。

今、フィットネスクラブでは、優秀なパーソナルトレーナーが求められています。パーソナルトレーナーは、個人の目的、目標、ライフスタイルに合わせたトレーニングプログラムの作成と、そのプログラムを利用したマンツーマンの指導を行なう専門家です。スポーツ選手から中高年齢層や生活習慣病などの危険因子を持つ方々まで広範囲にわたってトレーニング知識と医学的知識を最大限に発揮し、指導・アドバイスを行ないます。

卒業生は、当施設や関連施設にて活躍の場が提供されます。

▶カイロプラクティック科（夜間部）

現在アメリカのプロスポーツ界では、トレーナーは非常に重要な役割を担っていますが、その中にも数多くのカイロプラクティックの技術者が活躍しております。例えば、肘や肩の故障、頸椎や脊椎の故障などカイロの専門分野である関節障害が非常に多く、カイロの技術によって故障した選手を短期間で復帰させたり、選手生命を延命させるなどの重要な役割を果たしています。

当学院では、講師に医科大学の教授や開業医を迎え基礎医学を中心に、身体の構造や働きを学びます。またカイロプラクティック独自の検査、診断、治療方法を統合できる能力を養い、技術が身につけられるように徹底して指導します。卒業後は、関連のカイロプラクティック院、治療院への就職ができます。又独立開業を向けてのバックアップも万全です。

▶中国整体科、気功科（昼間部、夜間部）

中国整体は、「手技」による中国医学の伝統的な療法で、各症状に応じて神経分布域・経絡・つぼの各部位に軽重、緩急などの異なった手技により刺激を与え、血行を良くし、神経機能を正常化させると共に、人体が本来、体に備えている自然治癒力を高め健康な状態に戻します。当科では、中国の福建医科大学と提携し、講師には日・中両国での医学博士を迎え本格的な中国の整体法、気功法を伝授しています。

卒業後は、関連の整体院、治療院へ就職可能、独立開業へ向けてのバックアップも万全です。

格闘技を経験した人がトレーナーになるのが一番！

世界サンボ連盟 名誉会長
(財)スポーツ会館 理事長
堀米奉文

21世紀のスポーツ指導者は、専門的指導能力の深さが求められています。例えばストレングス、コンディショニングによる選手づくり。筋力を増大しパワーを付けていくと同時に、脂肪を落としてスピードを付けさせるためのトレーニングがあり、エネルギー源となる食事の採り方も重要となります。もう一つの側面としてマッサージや整体技術、ＰＮＦなど、障害を治しながら運動させていく技術も必要です。

「コーチであり、アドバイザーであり、サポーターであり、カウンセラーであり、交渉人であり、教師である」という、プロ、アマいずれにも通用する理想のトレナーづくりに挑戦するのが本学院の目的です。格闘技などのスポーツを経験した人たちがトレーナーになるのが一番理想的です。

当学院は、日本でも有数規模の施設を活用し、優秀な講師陣を揃え、画期的な教育環境を整えました。即戦力となる人材の育成を目指します。自信を持って参加してください。

財団法人スポーツ会館
東京スポーツトレーナー＆カイロプラクティック学院
21世紀は 良く咲く
0120-21-4939
TEL 03-3364-0155
URL http://www.sports-kaikan.or.jp
〒169-0073 東京都新宿区百人町2丁目23番25号
JR大久保駅より徒歩5分／JR新大久保駅より徒歩10分

「総合格闘技、スポーツサンボ、レスリング」練習生募集中！

ちょっと気が早いのですが、今年のベストバウトは4・7渋谷club『ism』でのPP—7vsアンドゥに決定！——ニャンニャン

2001
No.37
CONTENTS

ちょっと気が早いのですが、今年のベストバウトは4・7渋谷club『ism』でのPP―7vsアンドゥに決定!――ニャンニャン

Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツくん●Kun Matsu
村松さん●San Muramatsu
グッチー●Gutty
ミネ●Mine

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

ZERO graphics
海老沢勇●Isao Ebisawa

古賀ゆきえ●Yukie Koga

Cover Model
小川直也

Cover Illustration
中川画伯

ホギョ! RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味らしいけど、俺には難しすぎるわ。

いまは〃大変なことが『PRIDE』

という流れが〃ベター〃な戦術パター
ンです。で、いずれにしても、そうい

は、ほとんどできなかったんです！
──何発か貰いながらも、ムリヤリか

ド素人でも分かる
『PRIDE.13』大解剖

新ルール必勝パターンを早くも解明!!

時代は「タックル」から「首相撲」へ!!

「PRIDE」よ哲学を持て!!

青春の大発見シリーズ

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

活字バーリ・トゥード講座

賛否両論『PRIDE』新ルール！ 4ポイントでの膝&蹴りを解禁したことにより、格闘環境が激変！ サクがシウバの猛打に沈み、ヘンゾがグレイシー一族初のKO負けを喫した。はたして『PRIDE』はこれからどうなっていくのか？ というわけで、今回の「ド素人のためのVT講座」では、『PRIDE』新ルールをとことん解剖します。

聞き手&構成／山口日昇
生徒&撮影&助手／堀江・アブダビ・ガンツ
designed by さおとめの事務所

いまは〝大変なこと〟が『PRIDE』には起きてるんですよォオォ!!

1時限目 今回露わになった、潜在化していたVTの必勝パターンとは何でしょう？

―先生、恒例の〝ド素人のための活字バーリ・トゥード講座〟のお時間です（笑）。今日は『PRIDE．13』から見えたものを語っていただきたいと思います。

堀辺 はい！ 恒例のドドドド素人のための講座を行います（笑）。

―はい（礼）。桜庭vsシウバ戦は何度ほどご覧になりましたか？

堀辺 今回は、よく見ました！ ハッキリ言って、5回ぐらい見たんじゃないですか。非常に惹きつけられたんですよォォォ！

―試合タイムは98秒ですけど、〝長い〟ですよね。

堀辺 実に長いです！ 試合時間自体は短いけれども、試合内容が濃密なんですよォォ！

―で、その試合の率直な感想はいかがですか？

堀辺 その前にまず、『PRIDE』全体の印象を言うと、私は今回ビデオで全試合を3回ほど見たんですけど、3回見終わったときに、〝これは大変なことが起きてるな〟と感じました！

―大変なこと！ では今日のテーマはその「大変なこととは何か？」ということになりますね。

堀辺 そうです！ 『PRIDE』にいま、大変なことが起きてるんですよォォォ！

―全国1千万人の『紙プロ』読者のみなさま、『PRIDE』には大変なことが起きてます！（笑）。

堀辺 では結論を先に言います!!

―あ、もう結論！（笑）。

堀辺 はい！ 単刀直入に言います。今回ルールが変更になったことでバーリ・トゥード（以下、VT）の必勝パターンが変化したんです！ 長いことVTを席巻したグレイシーの編み出した〝必勝方程式〟に代わって、新たな〝必勝パターン〟の時代になったんですよォォォ！ じゃあ、今日初めてこれを読んでくれる読者の方もいるでしょうから、ちょっと過去を振り返って、以前お話ししたヒクソンとホイスの必勝方程式について復習してみます。

―は〜い。先生、よろしくお願いしま〜す！

堀辺 グレイシー柔術には〝ベスト〟な必勝方程式と、〝ベター〟な必勝方程式という二つの他流試合用の必勝パターンがありましたね。じゃあ、生徒のガンツ君、読者にわかりやすく、この二つを簡潔に説明してみてください。

ガンツ （虎が甘納豆食らったような顔をして）ハ、ハ、ハイ。

―ロボコンだとガンツ先生なのに、顔が似てるっていうだけで、いつまでたっても生徒だね、キミは（笑）。

ガンツ えーっと、まず〝ベスト〟が、タックルで倒してから、マウントを取って、それから極めるヒクソンの戦術。で、〝ベター〟が引き込んで、下から関節を取るホイスの戦術です。

堀辺 はい、百点です!!

ガンツ やった〜ッ!! ありがとうございます（笑）。

堀辺 これで読者も思い出したと思います。タックルで「倒」して、マウントを取って殴って「打」つ、そして関節を「極」める。つまり、「倒」→「打」→「極」がグレイシーの〝ベスト〟な必勝パターンです。そのサブ戦法が、ホイスがよく使う、引き込んで相手を「倒」し、関節なりチョークを「極」める。つまり、「打」→「極」という流れが〝ベター〟な戦術パターンです。で、いずれにしても、そういう二つの他流試合のおける必勝方程式があったんですけど、特にヒクソンの「倒」→「打」→「極」というパターンが、VTでのこれまでの最高の必勝パターンだったわけです。

―はいはい。

堀辺 そのヒクソンの戦術の中でも特に、タックルに注目してください。このタックルということを、もう一度見直さなきゃダメなんです！ なぜならタックルが導入される前の他流試合というのは、組み技系の人が打撃系の人と試合をするときに、打撃をもらわないで相手に組みついて倒すということは、ほとんどできなかったんです！

ゴング前のシウバの“ガンつけ”にムカついてしまったサクは、なんとムキになって“シウバの庭”ともいえる打撃で真っ向勝負！結局はそれがアダとなってKOされてしまったが、その気骨はバツグンだ。はたしてリベンジマッチでサクはどんな戦法を見せるか？

―何発か貰いながらも、ムリヤリかいくぐって掴むような感じが多かったですよね。

堀辺 だからタックルなくしては、組み技系のグレイシー柔術が他流試合に勝てる方法はなかったんですよォォ！

―他流試合でタックルを導入するということは、まさに「青春の大発見」だったわけですね（笑）。

堀辺 そうです！ これを考えたっていうことは、グレイシー柔術がマウントポジション以上に素晴らしいアイテムを持ったということだったんですよォォ！ ところが、今回の『PRIDE．13』ではタックルに行ったらガブられて、ガブッた状態から、膝蹴り!! これでみんなやられたわけです。

―今回から4ポイント（四つん這いの状態）での膝と蹴りが解禁になりましたからね。

堀辺 はい。しかし、このタックルを切って打撃で勝つという戦術は、今回初めて起きたことじゃなくて、これまでもボブチャンチンがほぼ完成させつつあったんです。ただし、これまでの『PRIDE』のルールは残念ながら、これを完全な必勝パターンにはできなかったんですよ。なぜかというと、ルールでガブッた状態ではパンチしか打てないと決められていたから。パンチというのは、相手を固定してる手を離さないと打てないですね？

―手を離さないで打ったら、ホントに離れ技ですね（笑）。

堀辺 そういう戦術がうまい選手であっても、パンチを打とうと手を離した瞬間に相手は動いて、何パーセントかは逃げられたわけです。しかし、第7回の『PRIDE』（99・9・12）ですか？ ボブチャンチンとマーク・ケアーがやったときは、ちゃんとホール

私が「イエス・サクラバ」と言ったのは、大予言だったんですよォオ!!

ドした状態から膝蹴りを加えたことによって、マーク・ケアーが見事に沈みましたね。で、試合後にボブチャンチンも「今日の試合が俺にとって最高の試合だった」というコメントを残してるんですよ。その「最高」の意味は何かというと、確実に仕留められたという格闘家の喜びが出てるんです!!

——ああ、要するに会心の勝利だったわけですね。

堀辺　そうです! つまり、それが何を現してるかというと、『PRIDE』のリングでも、そういう形で、ルール改正前にも関わらず、マウントポジションからではない必勝パターンが既に生まれていたってことなんです! ただ、そのときには4点ポジションですか? その状態での蹴りと膝がルールで禁じられていたので、無効試合になって、そのあとも、その必勝パターンを使うことができなかった。ところが今回は4点ポジションのときでも、頭部への蹴りが認められたことによって、潜在的な必勝パターンが爆発したということですよォォォ!!

——潜在的必勝パターン!

堀辺　そのパターンが顕在化したということ。それが『PRIDE．13』の一番のキーポイントなんですよね。いくつかキーポイントはあるんだけど、最大のキーポイントはそれです。潜在化していた、VTでの必勝パターンが露わになったということです。これが一番の『PRIDE．13』の大きな意味なんですよォォォ!

——つまり、新しい表現が生まれたともいえるわけですね。

堀辺　そういうことです。グレイシーが提示したものじゃない、新しいVTの必勝パターンが生まれたということです。これによってVT第2章が始まったとも言えるんです。

2時限目　桜庭に架せられた十字架と、復活劇の真の意味とは何でしょう?

——ここまではよくわかりました。それでは、桜庭vsシウバ戦を見たダイレクトな感想を聞かせてください。

堀辺　まず、第一コンタクトがありましたよね。そのときは、もっと桜庭が試合を散らかして、隙がない戦法を取るのかと思ってたんですよ。そうしたらいきなり打ち合ったでしょ。〝今日はちょっと違うな〟というのが率直な第一印象だったですね、はい。桜庭の違う面が今回見られたことは確かですね。

——先生は桜庭の敗戦という事実に対しては、ショックは受けたんですか?

堀辺　ショックは受けてないです。

——予想はしてた?

堀辺　はい。今回のルール改正というものを聞いたときには、80%危ないと思いました。

——80%!

堀辺　ただし、彼はいままでもいろんな「今度こそ危ない」と言われる人たちと闘ってきて、それを克服して勝利を収めてきましたよね。だから、残り20%は、そうは言っても、相手の土俵をうまく外して、最後には変なところでヒョイヒョイと勝ってしまうんじゃないかという期待もしてたんですよ(笑)。

——変なところ(笑)。でも、ボクもそういう期待はありましたね。

堀辺　たしかにこのルールでは危ないな、とは思ってました。その理由は、最初に話したように、タックルで倒して寝技で勝つというものが、あの4点ポジションでの足部での打撃を認めると、ほとんど不可能なことが潜在的に進行しつつあったということです。それともう一つは、これは技術的になりすぎちゃうかもしれないけども、桜庭選手のタックルというのは、足へのタックルですね。しかも、もの凄い低いタックル。

——低空足首タックルですね。

堀辺　この場合は、より危険度が高いですよね。たとえば、これまでも片足タックルに行って失敗して、相手の立ってる前で4点ポジションになってる場合もあるんですね。でも、これまでのルール上では、相手はそこで蹴りが使えないから、また4点ポジションで追っていって相手を倒すことができたわけです。

——いわゆる、赤ちゃんのハイハイ状態ですね。

堀辺　はいはい(笑)。

——あ、いま骨法にも打撃革命ならぬダジャレ革命が起きました(笑)。

堀辺　ハッハッハ。桜庭選手は、そのハイハイ状態から相手を倒すのが非常にウマかった。これまででは、そのやり方が非常に効果的だった。それが桜庭選手にこれまで勝利をもたらした、大きな技術的特色なんです。

——これまで、片足タックルを得意としていた桜庭は潰される確立が少ないので試合が動いて面白くなってた。でも、新ルールだとその片足タックルも有効ではないということですか?

堀辺　有効じゃないんです。桜庭選手は、片足タックルが非常にウマく、非常に巧妙だったんですね。でも、それはやはり4点ポジションでの蹴りがないということで、守られてきてたんです。だからルールが変わって、80%負ける可能性が出たな、と。

——桜庭の負け方は、やっぱり凄惨に見えましたか?

堀辺　見えましたね。久しぶりですよ、日本でああいうものが見られたのは。

——ところが桜庭は終盤でシウバの怒濤の蹴りを額でブロックしたり、見事にかわしてるんですよね。

堀辺　はい、見事にかわしてます!! だから、立ち上がってコメントしたときには、もう全然意識もしっかりしてましたよね。だから凄惨には見えたけども、思ったほど深刻なダメージはなかったんだな、ということもわかります。レフェリーが止めるのが早いとか、遅いとかの論議もあったと思うんですよ。でも桜庭選手があああいう元気な状態でストップをかけた島田レフェリーは、正解だったと思います。

——たしかに、あの時点では桜庭に勝ち目はないですからね。

堀辺　あとは翌日から入院するほどのインフルエンザにかかっていたとか、ウェイト差があったとか周りの問題もたくさんあったとは思いますが、ただ、それはどんな選手もそういう問題を抱える場合があるわけだから、言い訳にはならない。その点から考察することはできるけども、やはり試合場で起きたことは、試合場だけで物事を判断するということが、正当な検討の仕方だと思うんですよ。

——でも次に繋がる負けではあるんですよね。終盤のラッシュをかわしてるところなど見ると、改定されたルールへの対応力や、もっと高い技術を見せてくれそうな片鱗も見えましたし。

堀辺　はい。あの試合を見て、桜庭選手が終わったと思う人はほとんどいないと思うんですよ。選手生命がなくなったとか、彼のプロ選手としての価値がなくなったとかって思う人は、よっ

“進化するグレイシー”ヘンゾはヘンダーソンに対し、G戦法メイン戦術であるタックルと、サブ戦術の引き込みの両方を試みるも成功せず。グレイシーはどうなっていく?

桜庭選手は十字架に架けられた！
復活して〝真のイエス〟になるんです!!

ほど特殊な人以外はいないと思います。
――特殊な人。いったいどういう人でしょうか（笑）。
堀辺　ここで、以前『紙プロ』で話した私の話を思い出してほしいんですよ。私は桜庭選手のことを「イエス・サクラバ」って言ったじゃないですか？（※No24参照）
――ああ、実に言いました。
堀辺　あれはね、実は深い意味があったんですよォォォ!!
――ゲ！　さらに深い意味がある！
堀辺　ハッキリ言って、あります！　私は話すときには、あとに繋がる含みを持って、全～部話してるんです！（キッパリ）。
――先生、ぜひ聞かせてください！
堀辺　で、なんでイエス・サクラバかというと、イエスというのは、ガリラヤ地方で伝導師だった。それがある程度人気が出て、信者がゴロゴロついてくるような存在になっていき、古いユダヤ教を圧迫するぐらいの存在になった。これはちょうどね、いままでの桜庭みたいなもんですよ。イエス・サクラバが『PRIDE』という新教を引っさげて連戦連勝して、古いユダヤ教プロレスの価値観を破ったんですよォォォ。
――ユダヤ教プロレス（笑）。桜庭はたしかに新しい経典を作りましたよね。
堀辺　でもね、それはまだ、イエスの生涯から見ると前半なんですよォォ！　イエスがイエスたりえた理由は、多少の民を救ったからじゃない。十字架に架けられて殺されてしまって復活したからこそ、真のキリストになれたわけなんです！「敗北」という十字架があって、彼は宗教上の偉大な人間に昇華することができたわけですよォォ！
――十字架を背負うことよって神になったということですね。

シウバに敗れ、ゴルゴダの丘で十字架に架けられたことが判明したイエス・サクラバ。しかし、「プロ」の負けず嫌いのサクのこと、驚くべき復活劇を見せてくれるに違いない！

堀辺　それまでのキリストは、いろんな宗派がある中で、ちょっと目立つ男だったんですよ！　だから桜庭はこの試合で敗北したことによって、ホントにイエス・サクラバになれるチャンスを得たんです!!
――真のイエスになるチャンスを得た。
堀辺　はい。ただし復活しなきゃいけないんですよ。
――まだ復活してないですからね（笑）。
堀辺　まだ十字架に架かった段階ですからね、いまは。シウバという十字架に架けられて、槍で殺されたわけですよ。これで桜庭が休養を取って、そしてシウバの攻略法を自分の中で考えて、シウバを打ち破ったときに初めて真のイエスになるんです！
――「真のカリスマにもイエスにもなりたくない」って言いそうですけどね、桜庭は（笑）。
堀辺　（無視して）そういう意味を含めて私は「イエス・サクラバ」って言ってたんですよォォォ!!
――はっはぁ～、先生は予言者だったわけですね。モーゼですね、まるで。
堀辺　（テーブルをバンバンと叩きながら）ハッキリ言って大予言だったわけですよォォ！　これはわかってほしいですね。
――ここはツッコまさせていただきますけど……ホントですか？（笑）。
堀辺　いや、本当です!!（キッパリ）。
――なるほど！　今回の桜庭の敗北というのは、キリストが十字架に張りつけられたことに匹敵するぐらい価値がある、しかもスキャンダラスな負け方とも言えるわけですね。
堀辺　そうです。イエスが当時の最高権力者であるローマの権力によって殺されたからこそショックだったわけですね。あれが普通のそのへんのお兄ちゃんに刺されて死んだとしたら、意味がないんですよ（笑）。権力によって殺されたところに、十字架上の死というのが輝くわけですね。今回『PRIDE』がルール改正をして、VTの原点に近づいた過酷な闘いになった。そこでいったん十字架に架かった。でも桜庭はぁ、復活を果たしたときに本当の英雄になるんです！　しかもね、桜庭選手のキャラクターっていうのは、いままでのプロレスラーとは違うんですよ。隣にいるお兄ちゃんでしょ。
――見てくれはそうですよね（笑）。
堀辺　その隣のお兄ちゃんに周りが何を期待してるかというと、いまは我々の生活や環境そのものが激変して、サラリーマンが会社を辞めるとかを繰り返したりしてる。その中でいかにして「復活」するかということが、いまの我々の社会のテーマでもあるわけですよ。あらゆるところで復活を目論んでる人がいるわけです。そんな状況下で桜庭が大復活したら、このときこそ桜庭は真の英雄になるんですよォォ！
――それはもちろん現状のルールでということですよね。
堀辺　そうです！　いまのルールで勝たないとダメです。逆のことを言えば、イエス・サクラバの真価が、このルールの中で問われている。私は、やってくれるんじゃないかと思います。その

タックルの〝現状と未来〟を考察すれば、『PRIDE』を占えます!!

ためには休養を与えて、取材攻勢やテレビの仕事を緩和したり、周りも彼に協力してやってほしいですね。

――じゃあシウバへのリベンジを遂げるまでは『紙プロ』も取材するのをやめましょうか（笑）。でも実に楽しみですね、再戦が。

堀辺　きっと、彼は病院の中でいろいろ考えてると思いますよ。

百子局長　逆にシウバがどれぐらい勝ち続けるのか、これもまた見モノよね。

――そういえば先生は、かなり前から「シウバは四次元のVT」ということを言ってましたよね？

堀辺　はい。つまり、いまの時代は全局面打撃になってきてるんです。私は、どこのポジションに行っても打撃で勝つという時代が来るだろうと思ってましたから。このルール改正で、よりそれが顕在化したんですね。でも、この後はどうなるかはわかりませんよ。人間っていうのは意外と神の次ぐらいに賢い存在だから（笑）。またその方程式を破る人が出て、違った英雄が出るのかもしれません。そういう人間の可能性に期待したいですね。

――人間の可能性をナメてはいけないと。なんか先生、前田日明みたいですね（笑）。

堀辺　ハッハッハ。なんかヒゲは向こうのほうが高貴らしいですけどね。

――ああ、前田日明総帥が前号のインタビューで言ってましたね。「俺のヒゲのほうが高貴や！」って（笑）。

堀辺　ハッハッハ。まぁ、だから、復活した桜庭が見たいというのは、環境が激変に見舞われた人間が、そこからどう復活してくるかという興味です。これは非常にドラマチックで、復活したらそこに真の英雄性が生まれるからだと思いますね。

3時限目　「格闘環境」が激変して浮上した「打・倒・打」の時代とは何でしょう？

――桜庭vsシウバ戦以外で目についた試合はなんですか？

堀辺　そうですね、いくつかありますけど、たとえばボブチャンチンvsテグリマン！

――先生、テリグマンです（笑）。

堀辺　ああ～、テリグマンですか（笑）。

百子局長　先生は、横文字はまったくダメですからねぇ（笑）。

堀辺　彼の試合も、ある重要なことがありますね。これも今後のVTを占うひとつの面白い萌芽的試合なんです。

――あの向かうところ敵なしだったボブちゃんが足下を掬われましたからね。

堀辺　ボブチャンチンが勝てなかった理由というのはハッキリしてます。それはテグリマンが……あ、テリグマンですか？　彼がタックルに行かなかったからなんです。これまでボブチャンチンに負けた選手は、みんなタックルに行ったところをガブられて、グラウンドのパンチで負けてたんですよ。

――ボブチャンチンはガブるのがウマいですからね。

堀辺　ましてや今回から膝蹴りが認められてる状況では、ボブチャンチンがいままで以上にキレイに勝つことができるんです。でも相手は、それを避けた。その前の試合を見ててわかったんですよ、彼は。「あ、これはタックルに行くとヤバいな」と。

――テリグマンはプロボクシングにも上がるほど、打撃が得意っていうのもありますよね。

堀辺　はい。打撃が得意だから、そういう戦法も取れたわけですね。さらに、タックルに行かなかったことによって、勝っちゃったんですよォォォ。だからもう次の課題があるんですよ。『PRIDE』がどう展開していくかを占うキーポイントはタックルにあるんです。〝タックルの現状〟と〝タックルの未来〟を考察すれば、『PRIDE』がどうなっていくか、そして桜庭がどうなっていくかもその中に全部含まれて、解答が出てきますね。

――タックルの未来！（笑）。先生から見たタックルの未来というのは、どういった未来があるんでしょうか？

堀辺　まず選手たちが、このルールではみんなわかったわけですよ。「タックルは危ない」ということが。そうしたら、その……テグリマン？

――テリグマンです（笑）。なんならもう、「テの字」でもいいです（笑）。

堀辺　もう面倒臭いから、略して「テ」にします！（笑）。

――ダハハ！　略して「テ」！（笑）。

堀辺　その「テ」選手がやったように、一番安易な方法は、相手がタックル切るのがうまかったら、タックルに行かないってことです。その次は、桜庭選手あるいはヘンゾ・グレイシーが足タックルに行ってやられましたね。で、「足タックルは避けよう、胴タックルに行けばいいんだ」となる。で、これからも胴タックルを多用する選手は出てくると思うんですよ。しかしね、いまだんだん打撃技術も上がってきてるんで、胴タックルも難しくなりつつある。そのとき何が出てくるかっていうと、実は恐ろしいことが待ち受けてるんですよォォォ！（バンバン）。

――いや、いまゴクリとツバを飲み込んじゃいました（笑）。で、いったいどんな恐ろしいことがあるんですか？

堀辺　これは、シウバ時代が到来しちゃうことになるんですよォ。

――ゲ！　シウバ時代！！

堀辺　はい。それはどういうことかというと、タックルというのはスタンドからグラウンドに移行する技術ですね。タックルがダメだったらば、他のテイクダウンの方法を用いればいいわけなんですよ。で、何があるかというと、一番いいのはムエタイの首相撲！（身振り手振りを交えながら）首を掴んでおいて……まだあんまりやってないんですけども、私が研究してるのは、打撃戦の中から首を取って、そこから前方に崩したところをガブる。そうすると自分はタックルを使わないで4点ポジションを取れるわけです。それと、もうひとつのやり方は、首相撲で崩しておいて、足払いをかけてテイクダウンする。おそらくこういうことが発達していく。これからは、グラウンドに行くのにはタックルとは別な方法でもいい。とにかく、打撃をもらわないということが重要なんですよ。そうすると柔道の技とかはダメなんですよ。で、四つ相撲もあんまりいい方法じゃない。なぜかというと膠着しちゃうから。

――安田vs佐竹戦が膠着しましたよね。

堀辺　そうです。あれは仕方なくてやるポジションなんですよね。さっき言ったことが発達すると打撃戦の中で首相撲がうまいムエタイの人たちは、今度はそこからテイクダウンを取れるわけ。そうすると、このルールの中でい

くと、シウバ的な選手がますます輝きます！　あるいはボブチャンチンです

――わからないで（笑）。

堀辺　ただ膠着を打破したいために、

『PRIDE』は修羅の場!!

くと、シウバ的な選手がますます輝きます！ あるいはボブチャンチンですね。ボブチャンチンは今回、相手がタックルに来ないことで勝てなかったけども、威力を発揮するのにはいい時代なんですよ。もちろん、PRIDE王者であるコールマンなんかも、その筆頭候補に挙がるわけです。そういうふうに、ひとつのルール改正が「格闘環境」を激変させたわけですよォォォ！

——先生が以前言ってた「K戦法」。「打」→「倒」→「打」のパターンが研ぎ澄まされていくということですか。

堀辺 そういうことです。「打・倒・打」の時代になったってことですね。打撃から、テイクダウンを取って、また打撃というね。「打・倒・打」の時代に、VTの必勝方程式が変わった。

——じゃあ「極」はどこに行くんですかね？

堀辺 「極」は、ある程度の実力差があるときにしか出てこなくなりますね。

——第1試合のビクトーvsソースワース戦みたいな。

堀辺 はい。実力に差があるときには、そういうものを見ることができる。しかし実力が拮抗してくると、恐らく「打・投・打」で決まるはずです。

4時限目 『PRIDE』とリングスの棲み分けが進むとよい理由は何でしょう？

——いままで言ってきたことを踏まえた上で言うと、今回のルール改定は先生から見ると「改正」ですか、「改悪」ですか？

堀辺 これは「正」です！ なぜかというと、『PRIDE』は今回、そもそも自分たちが何をしようとしてるかってことがわからないで改正してるんです。

——わからないで（笑）。

堀辺 ただ膠着を打破したいために、集客だけを考えて、とりあえずやったんですね。

——とりあえず（笑）。

堀辺 そういう点では問題はあるんですけども、いまは世界中にいろんな総合格闘技が出てきてるわけだから、『PRIDE』が目指す方向っていうのを示さなければならない。私は〝世界最強の男〟を決める場所にした方がいいと思うんですよ。だったらば、ノールールに徹しなきゃいけないんです！

——世界中の強い格闘家が、〝十字架〟を背負って大博打を打つ場にすべきということですね。

『PRIDE』は修羅の場!! ノールールに徹するべきです!!

堀辺 そうです！ だからKOKとはまったく逆な価値観なんですよ。

——安全面では徹底管理が必要だけど、これを突き詰めて行ったら面白くなりますよね。いまはまだ、たまたまそうなった感が強いですからね（笑）。

堀辺 いまはまだ、主催者側も明確な意図を持っていないで、た～だ膠着があるとブーイングされて、チケットが売れなくなるだろうからっていう程度のレベルでルール改正をやってるだけなんですよね、きっと（笑）。だからこそ、もうちょっとしっかりした哲学を持ってほしいという条件付きで、今回のルール改正は是です。

——なるほど。ボクはルール云々より、「ファンのニーズに合わせて」というのを隠れ蓑にして、『PRIDE』の方向性を、先生の言う哲学なしにコロコロ変えるのが嫌なんですよね。

堀辺 嫌なんですよォォ。私もそうなんです！ ハッキリ言って、もの凄く低レベルの次元から改正してると思うんですよね。もうちょっとしっかりした方向性を主催者側も持ってほしいんですよ。で、もちろん、今回のルールの試合を見たときに、反対意見も観客の中にはあったと思うんですよ。

——選手側にもファン側にも実際そういった声はありますよね。

堀辺 でも、これは主催者が闘いの哲学を明確にすれば変わるんですよ。面白い試合を見せたいのか、それとも凄惨であろうがなんであろうが、とにかく誰が一番強いのかを決めたいのか。これをハッキリさせなかったらダメです。『PRIDE』は誰が強いのかを決める場所なんだ、となれば、多少凄惨であろうが、そこで勝ったヤツが一番強いんだっていうコンセプトを打ち出すべきだと思うんです。ルール改正をした以上は。

——変にKOKを意識して『リングスがスポーツライクになったから、ウチは反対方向に行ってやろう』とかじゃなく、たとえばだけど、『勝ったらステータスも莫大な金も手に入るぞ。世界中の強い格闘家集まれ！ 大博打を打て！』。そういう思想の元に『PRIDE』を開いているからこのルールでやるんだ、というような哲学は欲しいですよね。批判が多いので、次回また元のルールに戻すとかなると……。

堀辺 そういうことがあったら、ちょっとガクッときますね（ジェスチャー付き）。

——ガクッときますか（笑）。

堀辺 いままで曖昧にしてきたでしょ。だから、ハッキリとした方向性をここで打ち出してもらいたい！

——リングスの場合、ルールのある「総合格闘技」として確立させて、世界中に普及させていくという明確な目的がありますからね。

ガンツ 「〝なんでもあり〟で最強を決めるためにこのルールにしました」だったらわかるんですよね。それが、『PRIDE』は逆に「面白くするためにこうしました」っていう（笑）。

堀辺 だから、やってることが違うと思うんですよ。「面白くするためにこうしました」っていうことでいったら、むしろKOKの方がハッキリした哲学として確立してます。

——KOKも、あのルールに決めた前田日明の格闘技的な哲学が最初はわからなかったですよね。『紙プロ』ではその代わりに先生が言語化してくれましたけど（笑）。

堀辺 でも、ヒゲは前田日明のほうが高貴らしいですからね（笑）。

——ガハハハハ。その前田日明は「ル

『PRIDE』の価値は極限まで進む面白さなんですよォオオ!!

ールを制限することによって技術が見えやすくなる。技術が見えやすくなることによって、キャラクターが見えやすくなる」と言ってますね。確かにその通りで、KOKルールにしてから、試合内容は格闘技的に面白くなったし、個々の潜在的なキャラクターも見えてきた。これはルールを制限したことによって生まれたものですよね。

堀辺　だから、KOKっていうのは、総合格闘技の中のいいスタイルを取ったと思うんですよ。ただ、ノールールとは違うと思うんですよね。だから総合格闘技の完成形に近づいたものをKOKは誕生させたと思います。別な表現でいうと、UWFの完成形ですね。「打・投・極」という理念を踏まえた上で、それが回転していく競技性のあるものを誕生させた、と。はからずもその空間が、「打・投・極」が目まぐるしく回ることによって、観客が楽しめるものを作ったと思うんですよね。

――そうですね。だから「面白くするためにこのルールにしたんや!」っていうのはKOKが言うべきことですよね（笑）。

堀辺　そういうことです！『PRIDE』の場合は、選手にとっては、金を稼ぐと同時に、最強というものを手に入れる修羅の場なんですよね。

――文字通りの修羅場にしなきゃいけない（笑）。

堀辺　だから、『PRIDE』の主催者っていうのは、たとえば見る側の人の立場とか、やる側の人の立場とか、格闘技の未来とか、そういうことに対しては、まったく無関心。ただ、集客だけをひたすら考えていた。それが悪いとは言いません。ただし、もうちょっと複眼的に見てもらいたいですね。

ガンツ　あの〜、ボクは思うんですけど、〝世界最強〟の男を『PRIDE』が決めて、〝世界最高の男〟をリングスが決めればいいと思うんですよね。

堀辺　ああ、なるほど。そうですね。

――ヨッ！　いいぞ、ガンツ先生!!（笑）。でも今回、技術の攻防が見れないという批判も、格闘技マニアからはあがってますけど、それについてはどう思いますか？

堀辺　多様な技術を磨いていくのにはKOKルールの方がいいわけですね。ただ、勝てばいいんだってことに徹するんだったら、いまの『PRIDE』でいいわけです。見せる、見せないなんて関係ない。そのシンプルさだけを追求していくのが『PRIDE』じゃなきゃいけない。KOKは、やっててお客さんが楽しめなかったらダメなんですよ。そして、やる側はトータルファイターじゃなきゃいけない。だから今回のルール改正をきっかけに、『PRIDE』とKOKというものの色の違い、棲み分け、そういうものがハッキリすると思うんですね。これはどっちも曖昧にしたらいけないと思うんです!!（ドンドン）。KOKがグラウンドの打撃がないとか「制限」のある方向で走って、『PRIDE』は「禁止事項」を減らしていく方向を取った。全く方向性が逆になったっていうことが素晴らしいことなんですよ。なぜかというと、観客からすれば、全く違ったルール基準、違った環境の中で、選手がどのようになるかということを比較しながら見られるというのは、こりゃ極めて贅沢な世界なんですよね。別の楽しみ方が出るわけですからね。

――たしかに贅沢ではありますよね。

堀辺　そうした方がお互い伸びて行けるんですね。別モノとしてお互いに比較するっていうね。見る側も「ジャンルが違う」と認識した方がいいんですよ。そうしたら、自分たちの世界観がお互い築けるんです。

――違うジャンルといえども、同じフィールドにいる。言ってみれば、総合格闘技の中での「新日本vs全日本」化ですね。「過激な総合格闘技」vs「総合格闘技内総合格闘技」というか。『PRIDE』に出てた人が「これから俺は内容で見せる」って言ってKOKに行ってもいいわけですよね。逆もまたアリですけど。

堀辺　はい。そういう、いい意味の棲み分けができたら一番いいんですよ。選手も長持ちするし。KOKの場合は競技として素晴らしいわけですから。

――逆に『PRIDE』の場合は、汚く見えようが凄惨に見えようが、勝てばいいという場になっていかなきゃおかしいと。でも、そういう修羅の場でも、桜庭なんかはさらにグレードを上げて、魅せる闘いをしてくれそうな気がするんですよね。術を芸に昇華させる天才ですからね、サクは。

堀辺　はい。だから、どのへんに理想を設定するかですよね。一度に理想っていうのは進んで行かない。ルールを開放するということは、危険という部分と、野蛮だといって批判される部分と、技術の進歩というものが裏腹の形で回転していくということを見ておかないと、ただ「危険だ」とかの話で終わってしまう可能性があるんです。我々やる側からすると、技術をどうやって進歩させていくかというのが一番重要なことなんですね。そういう〝場〟としては、未知の部分、空白の部分というものが残っていれば残っているほど、技術の開発につながったり、新しい闘い方を産み出す、大いなる実験場として、非常にありがたいわけです。

――〝常在戦場〟という気持ちが技術を発展させていくわけですね（笑）。

堀辺　そういうことです！　その時点ではそれがよくても、また、それを上回るものが生まれてくる。そういう発展によって人類は伸びてきたわけですからね。それをどっかでストップさせてしまうと、そこで化石化するわけですよォォ。

――化石化したら終わりですからねぇ（笑）。猪木さんの言うように、本当に〝安住の地〟などないわけですね、ましてやリングの上では。

堀辺　はい、『PRIDE』の価値というのは、極限までどんどん進んで行くことの面白さという部分です。そのためにも、「そういう進化の歴史を俺たちが作っていくんだ」という哲学がなければならないわけです！

――あまりにも哲学なくコロコロ変化されるのは困るけど、軸足をキチンと決めた上での変化なら見たいですよね。

堀辺　そうですね。だから『PRIDE』に期待することは、志を持て！　哲学を持て!!っていうことですね。

――先生の言葉に、どう『PRIDE』が反応するか見ものですね。

ガンツ　ターザン山本さんにも哲学を持って欲しいですけどね（笑）。

――大きく出たね、ガンツ先生（笑）。無意味にあっちふらふら、こっちふらふらだからなぁ、ターザンは。それが面白いんだけど（笑）。

堀辺　私も山本さんには、ぜひ背骨を曲げないでもらいたいです（笑）。

――わかりました。今日は長い間のご教授、ありがとうございました。

ガンツ　先生、さよ〜なら。局長、さよ〜なら（立ち上がって礼！）。

【4月6日／東中野・割烹「おおはし」にて収録】

【ほりべせいし】1941年茨城県水戸市出身。"路上の完全拳法"骨法創始師範。その独創的な格闘評論は他の追随を許さない

ターザン山本公式ホームページ『マイナーパワー』の超（？）人気連載『往生際日記』が『紙プロ』を襲撃！　なぜだ!?

春の超大型暴走連載

『2001年往生際日記の旅』

「プロレスがわかるのは俺だけだ」とばかりに様々な媒体でプロレスについて語りまくっているターザン山本。しかし、ターザンの真の狂いっぷりが見られるのは、本人監修の有料webマガジン『マイナーパワー』内の『往生際日記』なのである（浅草キッドも絶賛）。ところが4月にスポンサーが降りてしまい、自主運営を余儀なくされたターザンは「『紙プロ』で連載してくれない？」と可愛らしい声で頼み込んできた。「日記なら喜んで」というわけで、春の超大型暴走連載開始。読まないヤツはバカですよォォォ！

構成／松澤チョロ

designed by さおとめの事務所

3月30日（金）。まずは前口上。これは『紙プロ』版往生際日記として書く。題して「2001年、往生際日記の旅」である。**私の生き方は次の通り。「自暴自棄」「自画自賛」「自業自得」の三つ。わかりやすくいうと〝やけっぱち〟〝好き勝手〟〝野垂れ死に〟**のことだ。

日記もその精神で書く。昼過ぎ歌舞伎町にある、京懐石しゃぶ処『月亭』で友人の斉藤雄一と食事をする。大好物のすき焼き。斉藤氏は「昼間からビールを飲んですき焼きを食べるのはいいですね。リッチな気分で最高ッス」と言った。私の映画批評を載せるのだ。彼のホームページに毎月1回、『ダンサー・イン・ザ・ダーク』など5本、語った。ちなみに14000円也の勘定は彼が出してくれた。

4時前、**フリー雀荘に乗り込んだがボロボロに負ける。新宿の街に放火して「みんな燃えてしまえ！」と思った。本当に私は放火への強い願望にかられたのだった。**

3月31日（土）。朝から中山競馬場へ。「早起きは三文の得」というではないか？　第1レースからやって大儲けしようと思ったら、なんと途中から雨が雪になる。おい、おい桜が満開なのになぜ雪なの？

桜の花に雪が降り続ける。私はこの異様な風景を見て大感動。その瞬間、人生を大得した気分になり、馬券なんかどうでもよくなった。見事、一文無しのボロ負け。おけら街道を歩いていたら、道が水びたし状態なのだ。仕方なくホウレン草畑の中を歩く。ズボンのすそは泥だらけ。

まさに自業自得を絵に描いたような1日。いいんだよ、お金はすっても記憶に残るものがあれば結局、俺の勝ちなんだから。

4月1日（日）。凝りもせずまた中山競馬場へ行く。素晴らしいほどの快晴だ。雪の日もあれば晴れの日もある。この日、大阪杯でティエムオペラオーが4着に負けた。前田日明の言葉を思い出す。「UWFに常勝チャンピオンなんて有り得ない！」。さすが前田だ。

馬券は9レース前に沈没。**東中山駅の郵便局で29000円おろす。それが全財産だ。**

家に帰ってその大阪杯をテレビで見るはめに。みじめだ。最悪だ。馬券を買わずにレースを見るのは、人生というレースに参加していないことと同じ。

それは自暴自棄以前の問題。自己嫌悪の世界だ。チクショー、おぼえていろよ！　**AVを見て一発ヌイた。それでなんの意味があるというのか?**

4月2日（月）。寝起きが悪い。たぶん競馬で2日間、負けたせいだ。午後3時半、再びフリー雀荘に行く。3日前に負けたぶんを取り返そうとしたら、逆にその3倍ぶんも大負け。

午後7時からはいっていた風俗雑誌『ナイトウォーカー』の取材を私はドタキャンして深夜まで麻雀をしてやろうと一瞬そう思った。

しかしそれをやったら人間失格。寸前の処で私にも良心はあった。**高田馬場のイメクラで働く女の子と覆面座談会をやる。顔だけ隠してあとは素っ裸、**店に来て「この仕事をやめろ！」と説教するヤツが一番、腹が立つと彼女はそう言った。なんでイメクラに行って楽しまないんだよ。そんなヤツはドアホだ。

いいんだから心から遊べよ。彼女たちも嫌いでやっているんじゃないんだから**裸になって自分をさらけ出せ。風俗嬢の前ではマナ板の上の鯉になるんだよ。**そうしたら彼女たちも、快く受けて入れてくれるんだから。

4月3日（火）。私がやっているWebマガジン『マイナーパワー』のスポンサーが4月から降りた。**オレから離れて行った者は、人生が没落するのにわかってないよなあ。**そうと決まったら自主運営することに腹を決める。**ある霊感師が「あなた（私のこと）の背後には不動明王がいる！」と言ったんだぜ。私は苦境に立たされると、頭がバイアグラになるのだ。**

昼、『紙プロ』に電話したら山口編集長の奥さんが電話に出る。この山口夫人は年齢的にはおばさんだが、心は天使のような人。こんな天使は世の中、探してもめったにいない。山口編集長には人徳があるということだ。そうしないと天使などくるはずがない。

夜10時、家から自転車で3分の所にある『葛飾FM』の「お笑いプロレス道場」に出演する。山口編集長が出る予定だったが、ヤツは絶対にこないと判断。私が飛び入りしてその穴を埋めたのだ。**そんな私なのに天使はいっこうに降りてくる気配がないのだ。**

4月4日（水）。夕方、風俗界の〝サクちゃん〟こと桜ちゃんと食事をする。私には桜ちゃんの目がいつも、美しいダイヤモンドのように輝いて見えるのだ。

最近のターザン日記に頻繁に登場する、風俗界のサクこと桜ちゃん。ルックス・スピード・テクニック、ともに完璧です（体験者チョロ）。

ターザン山本の

目がすべて言葉（表現）になっている。美人は飽きるけど、桜ちゃんは飽きないよなあ。**年齢、男女の差を超えた〝同時代人〟として、私は彼女のことを同志だと思っている。できるだけ長い付き合いがしたいよな。**

4月5日（木）。午前中〝ブッカーK〟こと川崎氏を取材。ヘンゾ・グレイシーが川崎氏の家に何日も泊まった話などを聞いた。『プロレス激本』の取材だったが、この日は黒須田氏も〝激本〟の取材で馳浩をインタビュー。取材後、2人は一緒にキャバクラに行った。

　私はといえば夕方、東京ドームにボン・ジョヴィのコンサートを聞きに行く。やっぱりプロレス以外の世界に触れるのは気持ちいい。

4月6日（金）。午後7時半、キラー・カンのお店が歌舞伎町に移ったというので、そこで白鳥智香子を取材する。『激本』の仕事。6月8日の引退試合を前に、彼女が初めてレスラーとしてもっていたコンプレックスとトラウマについて語ってくれた。

　自分にだけそれを言ってくれたと思ったら、私は有頂天になると同時に少しほろっとした気分になった。人間とはそんなものである。

4月7日（土）。4月1日から〝馬券日記〟を書き始めたが、これが抜群の効果を発揮。学習能力が高まりサラ金のアコムに25万返すことができた。**1週間に20万円ずつ儲けて働かないで食っていくことを決心。**

　もうワーク（仕事）はしたくない。残った人生をワークに使ってどうするんだ。そうだろう。夜、映画『102』を見た。こんな駄作、見たことがないぞ！

4月8日（日）。前日に続いてまた競馬で勝つ。**『私は競馬日記で借金をみんな返した』**という本を書くことを決意。これは売れる。絶対に私はそれを実現させてみせる。**スイッチがはいった時の私は、それこそ鬼に金棒。もう、勝ったも同然である。**

4月9日（月）。新日本プロレスの大阪ドーム大会に出張取材。『格闘伝説』の編集部は**私に往復の新幹線にグリーン車を用意してくれた。これはいい原稿を書いてくれというプレッシャーでもある。こういうVIP待遇には私の才能は大爆発するのだ。**

4月10日（火）。午前7時前の新幹線に乗り、東京には午前10時ちょうどに着く。もたもたして昼下がり頃に東京に帰ると、1日を損した気分になるのだ。夜、黒須田氏に引っ張り出され、焼き肉を餌にして『激本』の巻頭カラー16ページぶんの話をさせられる。**しゃべっていたら、空気を吸うことを忘れてしまったのか酸素不足になり呼吸困難で息が苦しくなった。**ああ毎日がとにかくハード過ぎる。

4月11日（水）。昨年の6月に**100万円の印税を前借りしていた出版社に行き、やっと企画書を提出。よく私は訴えられなかったものである。**そればかりか4月26日、私の誕生日にはパーティーをやろう、そのあと吉原に招待すると、社長はそんなことまで言ってくれた。

「では、お店はサテンドールをお願いします」

「うん、調べとくよ」と話はまとまった。私も変だが社長も変だ。馬が合うのかも。VIP待遇もここまでくると恐ろしい。

4月12日（木）。夜、ロフト・プラスワンで〝激本祭り〟のイベント。『紙プロ』の山口編集長と吉田豪ちゃんが会場に来ていたのなら、飛び入り出演して欲しかった。私はそれを一番楽しみにしていたのに。2人は私にとって大の友人なのだから。

　深夜、新宿3丁目で桜ちゃんと飲む。**「1週間に1回、ターザンさんとは飲みたいよね?」と言われ、同席していた友達は「55歳の親父が21歳の女の子からそんなことを言われるのは奇跡ですよ。男冥利に尽きる幸せものですよ」**と言われた。

4月13日（金）。昼はスーパー銭湯。夜『月亭』で高山善廣、取材。そのあと栃内良たちと朝、3時まで新宿周辺で飲み歩く。

4月14日（土）。競馬でまた勝つ。全日本プロレスの武道館大会を取材パスではいる。元子さんと久し振りに会う。深夜、元Uインターフロントの鈴木健と用賀で朝まで麻雀。

4月15日（日）。一睡もせずWINS後楽園へ。今日も競馬に勝つ。勝った所で第6レース以後はパス。家に帰った。よって皐月賞も馬券は買わなかった。**アコムの50万円はこの日全額返済を完了。人生の流れが俄然、変わってきた。それは私がいろいろなものを精算し捨てようとしているからだ。ここから先は私は人生を変身させていく。押忍！**

　最後に今月の一言。

「誰もが人生の主役になれるとは限らないが、1日という時間の中では、主役は君自身だ。だったら日記を付けろ。日記はお前自身の鏡だ。でもオレにとっての日記は人に見せるものだから」

4月2日(月)。裸になって自分をさらけだせ。風俗嬢の前ではマナ板の上の鯉になるんだよ

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

――さて、今回井上さんに語っていただくテーマは『桜庭惨敗』です。先日の『ＰＲＩＤＥ．13』でヴァンダレイ・シウバに衝撃的な敗北を喫したわけですけど。井上さんはやはりペイ・パー・ビューで？

井上　そう。

――戦前の予想はいかがだったんですか？

井上　まあ、サクの勝利だとは思ってたんだけども、ただ打撃系は怖いというのはあったな。ああいう、なんだ、なんとかシルバ……。

――シウバです、井上さん。

井上　それそれ。ああいう闇雲に振り回す素人が一番怖いんだよ。

――シウバが素人！（笑）。

井上　ああいうヤツの一発が怖いんだよな。だからサクが負けてショックっていうことはない。ハッキリ言って、10回やれば9回はサクの勝ちだから（キッパリ）。

――相変わらず頼もしいです！　ただやはり、惨敗という印象は残っちゃいましたね。

井上　言うちゃ悪いけど、短い時間で負けたから惨敗っていうことはない！　そんなもん、5秒で負けても1時間で負けても負けは負けだから。

――今回からルール変更があって、打撃系に有利だって戦前から囁かれてましたけどね。

井上　いや、ルール変更なんて関係ないんだから！　むしろサクなら逆利用できたはずだよ。やっぱりね、勝負っていうのは猪木が言うように紙一重なんだな。それをファンもマスコミもわかんないとダメだ。闘う男は常に紙一重なんだよ。そこをシビアに考えろとオレは言うとるんだよ！

――今一度猪木さんの紙一重を噛み締めろということですね。

井上　ただな、こういう『ＰＲＩＤＥ』なんていうのは、もともとサブミッションの方が有利なんだから。そんなもん、掴んだらしまいですよ！

――凄い！　思い切り昭和の論調ですね！

井上　なんで猪木が「プロレスラーこそ最強」と謳ったかというのはそういうことなんだから。猪木vsアリだって、あんなもん、ああいうルールでなかったら、猪木の勝ちなんだから！

――まだこだわってるんですか、そこに（笑）。

井上　あの当時の猪木なら、アリのパンチを2、3発喰らっても、パッとよけて、7分の1くらいの力に弱めることだってできたんだから。

――なぜ7分の1なんだ（笑）。

井上　たぶんね、サクは待っていたんだと思うよ。やっぱりね、スタミナではプロレスラーの方が上なんだから。だからシウバが疲れるのを待っていたんだと思う。たまたま一発が入っただけでね。

――スタミナですか。

井上　昔ね、マスカラスがいいこと言っておったよ！

――は？　マスカラスがどうしたんですか？

井上　こんなこと言っておったよ。

――どんなことを!?

井上　「いきなり飛び蹴りは決まらない」ってな！

――ズルッ。なんかよくわからないんですけど（笑）。

井上　やっぱりね、相手がピンピンしている時にね、技なんか掛からないんだから（キッパリ）。

――しかし、『サク惨敗』を解くカギがまさかマスカラスにあったとは！　驚きました。

井上　そういうことだよ！

――あと、論議を呼んだのがレフェリーストップのタイミングでしたね。

井上　これは難しい。ハッキリ言って！　まあ島田（裕二）レフェリーは早めに止めるので有名だからな。

――「〝早止め〟の島田」（笑）。

井上　ただ、桜庭が止めるのが早いって言うたってな、そんなもん、本当ならレフェリーだけじゃなく、ドクターももっとしっかりしたチェックをする必要があるし、なかなかこれというタイミングで止められるもんじゃないな。ただ、あの場合はあれで正解だと思う。

――まあ今後は桜庭選手のリベンジが期待されますけど。

井上　よくリベンジリベンジ言うけども、オレは勝負にリベンジはないと思ってるから！　オレは選手に「リベンジなんて言うなら、最初から闘うな」って言いたいよ。言うちゃ悪いけど。

――でもやっぱりボクなんかはサクが

今月のお題

桜庭シウバに敗北!! その衝撃の大きさとは?

今号も元気いっぱいでお届けする「プロレスマスコミの哲人」I編集長の喫茶店トーク。今回のお題はズバリ言って「サクの敗戦の衝撃!」である。悪夢のようなあの敗戦に、ガックリきている平成のデルフィンたちは、今すぐこれを読んで悶絶せよ!

聞き手／原一博(元タコヤキ君)

シウバに圧勝するシーンは観たいですよ。

井上 そんなもん、ファンは観たがってるのか?

——それは観たいですよ。ただ、サクとシウバの間に大きなドラマが残るかっていったら疑問ですけど。やっぱりサクとグレイシーのようにはいかないと思いますけどね。

井上 再戦する必要はないですよ、そんなもん。だいたいな、双葉山が安芸ノ海に負けたからって、双葉山が安芸ノ海より弱いなんて誰も思わないって話だよ!

——また古い例えですねえ(笑)。というか、その安芸ノ海っていつの力士なんですか?

井上 終戦後、横綱になったんだな。

——そんな古い話、昨日のことのように喋んないでくださいよ!(笑)。

井上 双葉山は強かったから!

——知りませんよ(笑)。

井上 とにかくな、桜庭がシウバより弱いなんて、オレに言わせれば素人の論調だから、そんなもん。船木とヒクソンだってそうだよ。ハッキリ言って10回やって10回船木が負けるわけないんだから!

——なるほどお。ちょっと脱線になりますが、安田vs佐竹はどう観ました?

井上 まあ安田は一生懸命頑張ったなということころだな。あの試合には二通りの見方があると思うんだよ。佐竹がわざと勝ちに行かなかったというのと、マジでやって安田に勝てなかったというのとな。

——井上さんはどちらだと思われるんですか?

井上 オレ? まあマジでやって勝てんかったんだろうな。でもK—1でパンチが当たらんでも、安田には当たるだろうと思ってたんだけど、当たらんかったな。まあ、佐竹なんていうのは、気がいいというか、プラモデル集めて喜んでるアンちゃんだからな!

——プラモデル集めて喜んでるアンちゃん(笑)。

井上 でも、もうちょっと見せ場を作れると思ったんだけどな。

——なるほどなあ。そうですか、今日はどうも……。

井上 いや、ちょっと最後に言うときたいんだけど、桜庭が負けた背景っていうのを、みんなちゃんとわからないとアカンということをオレは言いたいんだよ。やっぱりね、サクはああいう飄々としたキャラクターでも、試合前は神経質になってたはずなんだから! そこを見抜けと言いたいんだよ。きっと試合前に飲む酒の量も増えてたに違いない(キッパリ)。

——なんとサクが酒に溺れていた!?

井上 きっとパチンコなんかしてても、シウバのことばっかり考えておったんじゃないの、サクは。「お客さん、もう閉店ですよ。誰もいませんよ」なんて言われてたと思うよ。

——どこまでいってもドラマティックですねえ、井上さんは(笑)。

井上 オレなんかでもな、本当のモノ書きっていうのはな、最初の一行目なんていうのは緊張するもんだよ。その書き出しだけで三日も四日も悩んだりするんだから。

——井上さんでも!?

井上 無署名記事なら話しながらでも書けるけどな。やっぱり井上の名前が入るものには、変なことは書けんよ。武者震いすることだってあるんだから!

——原稿用紙の前で武者震いする井上さんかあ。見てみたいです!(笑)。今日はどうもありがとうございました!

【01年4月6日、電話取材にて収録】

言うちゃ悪いけど今月の結論

双葉山が安芸ノ海に負けたからって、双葉山が安芸ノ海より弱いなんて誰も思わないって話だよ!

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのGK金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中(必読)。

堀江ガンツ前特派員の
3.31パンクラス
なみはやドーム（サブアリーナ）大会
観戦リポート

ついでに、もう一丁！
4.1大阪プロレス
デルフィンアリーナ大会
リポート付

なぜだ!?
パンクラスに鈴木みのる時代到来!!

巷ではパンクラス嫌いで通っている『紙プロ』が、細々と続けるパンクラス企画。今回は本誌リングス番ガンツが、よせばいいのに、わざわざ大阪まで飛んで3・31なみはやドーム大会をリポート。そこでガンツが見たものは、なんと鈴木みのる時代が到来したパンクラスの姿だった！　いったい今パンクラスに何が起こっているのか!?

文と写真／堀江ガンツ
designed by さおとめの事務所

いまパンクラスが結構面白い。『紙プロ』で突然こんなことを書くと、皮肉と取られかねないが、会場で試合を見ると実際に面白いんですよ、これが。

もちろん、『PRIDE』やKOKのように豪華外人がわんさか登場するわけではないので爆発力はないし、坂田亘が「こんな試合でええんかな」と言いたくなる気持ちもわかるような試合もあるが、以前より確実に面白い試合が増えている最近の出し惜しみしないカード編成やラウンドガール導入（でも露出イマイチ）、ライティングの強化など、ハード面での「変わらなきゃ」感は確実に伝わってきて非常に好感が持てるのだ（近藤の「桜庭と闘いたい」発言に端を発っする「Show氏出入り禁止事件」など、相変わらずな部分もあるが、これはこれで『イッツ・ア・オザキ・ワールド』として楽しもう）。

そんなわけで3・31なみはやドーム大会も好カードが組まれるのではないかと密かに期待していたのだが、実際に発表されてみると美濃輪vsパウロ・フィリョ、國奥vs高瀬、謙吾vsレイシックという予想以上の好カード揃いでビックリ。歴史的不入りに終わった12・4武道館（船木引退興行）もこれくらいのカード組みゃいいのにと、大きなお世話ながら思ってしまうくらいなのだ。

特に注目は1・8『DEEP』で柔術界の重鎮リボーリオのVTデビュー戦の相手を努め、見事な闘いぶりを見せた美濃輪と、同じく『DEEP』でKEI山宮をボコボコにしてパンクラス・ライトヘビー級王座返上に追い込んだパウロ・フィリョの一戦。これって、現状のパンクラス（内）で実現しうる最高のカードじゃないの？ こりゃ『紙プロ』読者の皆さまにもしっかりと伝えなければ！ そんな使命感に燃えてボクは大阪へ飛んだのであった。決してユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行きたかった（けど、チケットが手に入らなかった）とか、大阪に女がいるとかそんなんじゃねぇんです！

なみはやドームは心斎橋から地下鉄で20分、駅を降りてすぐ目の前にあった。巨大なUFOのようなメインアリーナを後目にサブアリーナに入ると、そこはみちプロが東北で使用しているようなこじんまりとした体育館のような作り。収容人数はざっと千人くらいか。小さいだけにどこからでも見やすいナイスな会場だ。交通の便も悪くないから、各団体はもっとこの会場を使えばいいのにと思う。東京の同規模の某会場より見やすさも絶対いいよ。

ご覧のように円盤状のなみはやドーム。メインアリーナは1万人クラスの大会場だ。ちなみに、この周りはお店が全然ない。今度行こうと思ってる人は食料を用意することをオススメする。

サブアリーナの中はこんな感じ。1階9列2階4列のこぢんまりとした会場。これは試合前の写真で、最終的にはほぼ満員の盛況だった。

パンクラスに既に船木の影なし!!
あるのは「鈴木みのるの世界」と「高橋義生症候群」!!

客の入りはおよそ8割。ということは実数で800人ということで、好カードの割には寂しいとも言えるが、会場のムードは本当に見たいファンが集まっている感じがして好印象。そしてメインに向かって徐々に盛り上がっていく感じはプロレス興行として実に正しいと言っておこう。

さて、前置きが長くなったのでそろそろ試合に移ろう。この日の試合をみて、まず感じたのは船木の影はすでにないということ。実際、会場に来ていなかった（理由はおなじみ「風邪引いてました！」）せいもあるが、もはや現在のパンクラスに「船木の団体」というムードはない。それに変わって際だってきたのが各道場別の個性。グラバカ勢は柔術とVTのセオリーがしっかりしており、横浜はゴッチ式の関節を得意とし、東京は立っても寝ても打撃中心という感じに見事に色分けされていた。言うまでもなく、これらは菊田、鈴木、高橋という各道場長の色。その中でもこの日もっとも輝いたのが、スタンドのアームロックからスリーパーというプロレスラーらしい勝ち方でRJWの星野を破った伊藤と、メインで凄え試合をやってのけた美濃輪の横浜道場勢。つまり「鈴木みのる」という個性である。

鈴木みのるといえば、「柔術嫌い」と「オレはプロレスラーだ」が二大信条。そのファイトスタイルはあくまでアームロックやアキレスなどプロレスラーの関節技を武器とするスタイルだ。しかしこれまでは鈴木自身が負けが込んでいたこともあり、柔術やボクシング、さらには剣道、ヨガまで取り

PANCRASE TOKYO

▲マニア注目の一戦、國奥vs高瀬はお互いが相手の得意分野を拒否する噛み合わない試合に。試合の大半はこの猪木ーアリ状態で國奥が僅差の判定勝ち。

▶KOされ意識朦朧とする謙吾。対するレイシックは次回5・13後楽園大会で、渋谷修身との対戦が決定。このまま常連となるか。

PANCRASE YOKOHAMA

◀ショートタイツにレガースというUスタイルで登場した佐藤。ミドル級王者マーコートに見事な腰投げを見せたが、スリーパーで逆転負けを喫してしまった。

▶不利という下馬評覆し、見事にコンタンターズで上山を破った昨年のネオブラ王者星野に一本勝ちした伊藤。再浮上のきっかけとなるか。

美濃輪育久は「鈴木みのるの理想形」である!

PAURO FILHO

対するパウロ・フィリョは「美濃輪は強い。最後まで一瞬も気が抜けなかった」と美濃輪を評価。パイルドライバーはかなり効いたらしく、ずっとアイシングをしていた。

MINOWA IKUHISA

試合後「お客さんはボクの方が面白いと思う」「デスバレーボムは本気で狙っていた」など、観客論を語る美濃輪。頭の中は完全にプロレスラーだ。

込む船木のスタイルと比べ、長年圧倒的に評価が低かった。

ところがここにきて、鈴木の弟子である横浜道場勢はこの「鈴木スタイル」で結果を出し評価は逆転。その代表選手こそが美濃輪育久である。

1・8『DEEP』でブラジルの重鎮リボーリオ相手にアキレスで勝負に出るという「鈴木スタイル」で勝負を掛けた美濃輪は、この日もポジションを取られまくりながら、キチンウイング・アームロックで柔術王者を極めかけ、〝ゴッチ式〟パイルドライバーで叩きつける大活躍。そして極めつけは「オレはプロレスラーだ!」の雄叫び! こんな試合(そしてこんな台詞も)こそ鈴木がパンクラスマットでやりたかったことなんじゃないだろうか。つまり「美濃輪育久」は鈴木みのるがなりたかった自分ということ。言い換えれば鈴木は「理想型・鈴木みのる」を育て上げることに成功したと言えるのだ。

そして重要なのは、鈴木は決して技術的な部分だけで後進を育てているのではなく、むしろ「プロレスラーとはこうあるべきだ」という精神的な部分をたたき込んでいるであろうということ。デスバレーボムを予告する美濃輪や、ショートタイツにレガースで闘った佐藤光留を見ればそれは明確だ。そして菊田がアブダビで「闘いのレベルが上がるとあとは根性が大事」と言っているとおり、この「プロレスラー魂」こそが、横浜道場勢躍進の秘密なのである。

大活躍だった横浜勢に対し、いただけなかったのが謙吾と石井大輔という東京道場勢。共に打撃ではパンクラスでも定評があるものの、寝技に難があるこの二人。石井はグラバカの佐藤に打撃の間合いを潰されグラウンドで防戦一方。UFCでTKと闘い、KOKにも出場(ジュリアスコフに一本負け)のティム・レイシックと闘った謙吾は、グラウンドを嫌いレイシックのタックルを警戒するあまり、顔面のガードがガラ空きになったところにストレートを叩き込まれ轟沈。もはやこれは高橋義生症候群とでしか言いようがない。高橋のスタイルはイズマイウ撃破という快挙こそ成し遂げたものの、船木がヒクソンに高橋が菊田にグラウンドで完敗を喫したことでもわかるとおり、いまのレベルでは通用しなくなっているのは明白。同じ東京道場の近藤がティト戦で明らかになった課題もグラウンドだけに、早急の方向転換が必要だろう。

そんなわけで菊田のアブダビ優勝により、ますますその力が強大化しそうなグラバカに対抗しうるパンクラス本隊は美濃輪らに代表される「鈴木スタイル」に他ならない。つまりこれからはパンクラススタイル=鈴木スタイルということ(強引)。鈴木みのる本人はデルーシアにキャッチレスリング・ルールで秒殺されようとも、パンクラスマットで鈴木みのるの復権が見事にはたされたのだ。

中途半端な長さだった髪型もファン待望のリーゼントへと復活をはたしたいま、まさに「鈴木みのる」が「帰ってきたぜぇ〜」である。

パンクラス今後の日程

「ネオブラッド・トーナメント予選」

5・5大田区体育館　START 16:30
U−FILE　CAMPから2名
パワー・オブ・ドリームから梁が出場!
■入場料金:全席　前売り¥2,500-　当日¥3,000-

「山田学引退記念興行」

5・13後楽園ホール　START 12:00
■入場料金:SS席 ¥12,000-　A席 ¥9,000-　B席 ¥6,500-
C席 ¥4,500-　D席 ¥3,000-　立見 ¥3,000-
(当日券は全席種500円増し)

■お問い合せ:パンクラス　03-5792-0815

“映画のようなプロレス”大阪プロレスは“マット界の東映アニメフェア”である!!

4.1大阪プロレス デルフィン・アリーナ大会 観戦レポート

せっかく大阪まで来たので、できたばかりのデルフィン・アリーナ目的で、行ってきました、大阪プロレス!

通天閣に程近い総合アミューズメントパーク、『フェスティバルゲート(以下FG)』。その中にデルフィンアリーナはあった。一週間前にこけら落としされたばかりで、これから毎週土日に大阪プロレスが開催されるという。これまで新日やSWS、そしてなぜかネオ・レディースが実現できなかった常設会場を作ったのだから、何気に凄いじゃん、デルフィン。まぁ、常設会場を〝建てた〟というより、テナントを借りただけなんだけど、FGの一番目立つ場所にあるんだから、やっぱり凄い。しかもFGは、この前日オープンした『USJ』の影響をモロに受けると予想されている施設。大阪プロレスはこのFG復興も担っているのだという。

アリーナの中に入るとそこはプロレス会場というよりも、天井の低いスタジオという感じ。大きなビジョンもあり、どこからでも見やすそうだ。お客は2面1列のみのイス指定席以外は、みちプロ同様直接座って観戦(でもゴザはなし)。収容人数はざっと400人。大きくはないが、ぎっしり超満員なのだからたいしたもんである。

大阪プロレスといえば、子供が多いイメージがあるが、実際この日も家族連れ、ちびっ子はかなりいた。その秘密は入場料ある。大人は自由席3500円ながら、小学生500円、未就学児は無料! ちびっ子は親と一緒に来るのだから、これでいいのだ。

それにしてもちびっ子ファン壊滅状態のマット界において、子供を動員しようというデルフィンは偉い。プロレスは自分の目で見たり、プロレスごっこをすることでなんとなく〝仕組み〟分かってくるもの。いきなりネットやシュート活字じゃ、いびつなファンが増えるに決まっている。デルフィンは大阪プロレスを「映画のようなプロレス」と言ったが、まさにこれはマット界の東映アニメフェア。誰もが子供の頃はアニメ映画を見ていたように、大阪プロレスを見ていたちびっ子が、成長して他のプロレスを見に行くようになればと思う。そしてドラえもんの映画を子供と見に行ったお父さんがホロリときてしまうのと同じようなクオリティーを大阪プロレスは目指せばいいのだ。というわけで独身男のボクが大阪プロレスの内容を語るのはナンセンス。子供ができたら、また行くことにしよう。

これがデルフィン・アリーナ内観。客席は2面しかなく、もう2面は1列だけのイス席になっている。小さい会場だけに、ボディスラムの音だけで迫力があった。

『PRIDE.13』で佐竹雅昭を撃破!!

安田忠夫

バクチ、相撲、結婚、離婚、子供、プロレス、借金、自殺未遂……

今だから語れる㊙話が炸裂!!

"人生劇場"(byアントニオ猪木)のすべてを語る!!

「今日は安田の人生[illegible]」『PRIDE.13』の試合後にアン[illegible]ン総帥はコ[illegible]プロレス雑誌などの試合レポートも「人生劇場」の文字が踊り狂うこと山の如し！　だが、ちょっと待ってほしい。安田の人生って何？　借金？　離婚？　ギャンブル？　娘さん？　それだけじゃないでしょ！　というわけで、本誌は人間・安田忠夫の波瀾万丈な半生を幼少期から現在に至るまで"根掘り葉掘り"でほじくり返してみました！　お相撲さんのインタビューなら他誌には絶対負けんでごわすよ！

聞き手／坂井ノブ
撮影／松本 崇
designed by matsu (two three)

――このたびは『PRIDE』での勝利、おめでとうございます！　勝ってみて、気分はどうですか？

安田　いまは嬉しくて、ボワンボワンしてます（笑）。「おめでとう」って周りの人に言われたのが一番嬉しいね。あっ！　一番嬉しかったのは、娘に『パパ、おめでとう』って言われたこと！「あぁ、やった甲斐があった」って心の底から思うよ（笑）。

――猪木さんも『PRIDE．13』の試合後におっしゃってましたね、「今日は安田の人生劇場だった」って。

安田　本来、バカなことやってるだけのことなんですけどね（笑）。

――ちなみに今回の『PRIDE』のパンフレットは、ご覧になりました？　思いっきりテーマが「ギャンブル」でしたけど。

安田　うん。あれは事実だから、しょうがないでしょ。そういうのが売りになっちゃうのかなって。俺は本意ではないんだけどさ。でも、しょうがないかって。そうなった理由は俺にあるわけじゃん。そう思えるようになっただけでも大きいよ。

――以前は思ってなかったんですか？

安田　そうは思えるけど、やっぱクサってた部分もあったから。そういうのを考えれば……ねぇ？　この年になって、こういうバカやってる人は、ほとんどいないわけですから。

――安田さん、いま年齢は？

安田　37歳です。みんなは家庭持ってるトシなのに、バカやったために人生劇場になっただけです(笑)。

――じつは今日、安田さんの「人生劇場とは何か？」ということをうかがいに来たんですよ！

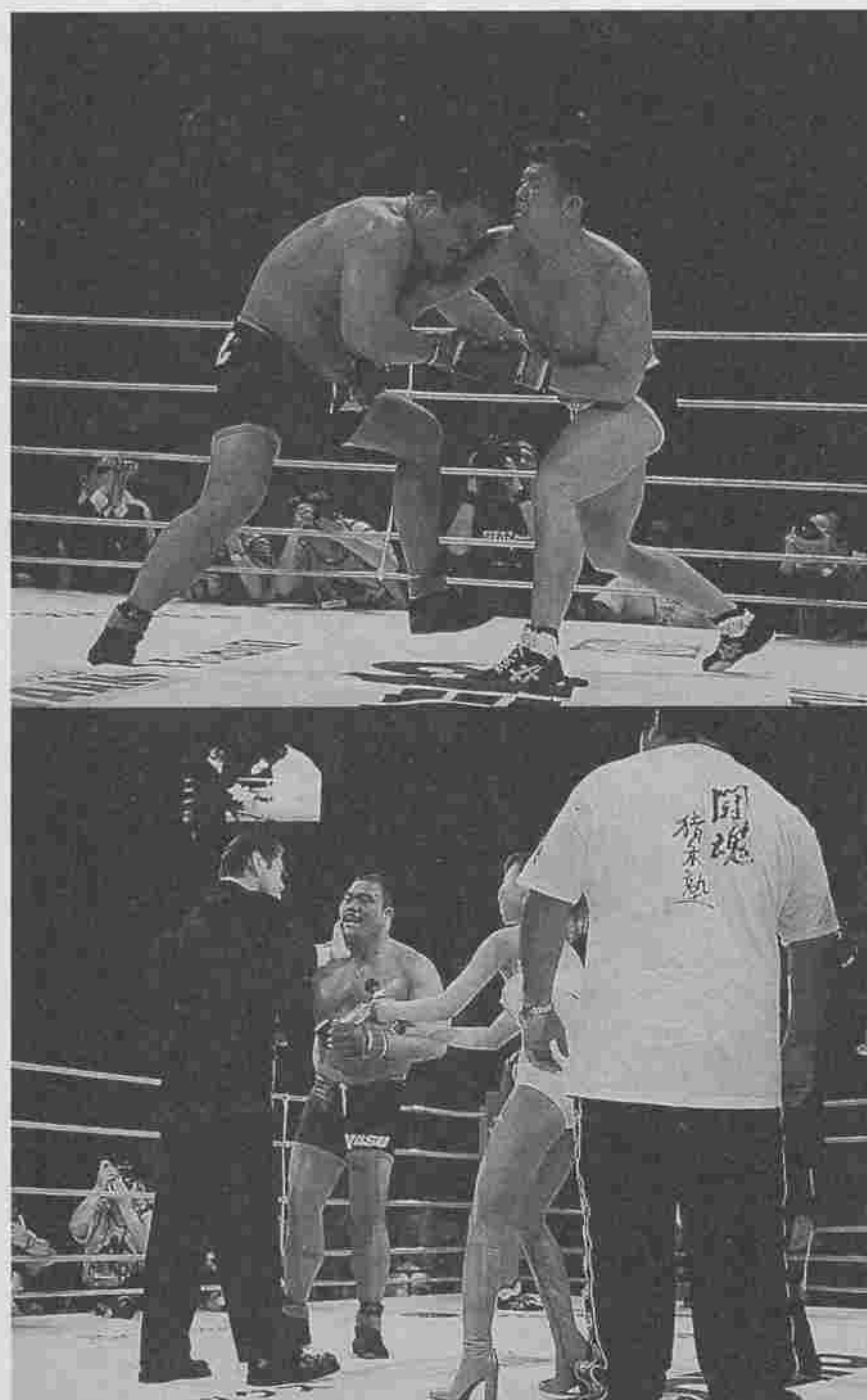
安田　（イヤそうに）振り返んのぉ？

――（力強く）ええ！　やってるご本人は大変でしょうけど、見てるボクらとしては、そこに感動できたし、共感できたんですから。

安田　どうかなぁ？　ただ単に珍しいバカだからじゃないの？

――いやいや（笑）。猪木さんも「馬鹿になれ」っておっしゃってますけど、普通の人はなかなかバカになれないんですよ。

安田　俺はバカにならざるを得なかっただけだよ（笑）。本来は、もっともっと早くに気がついて、そういうのを修正してるのが立派な

中学校で麻雀を覚えて、野球部を辞めてからはトランプ部に入ってた

相撲仕込みの突進力とクソ度胸が、勝利の扉をコジ開けた！　一回はテイクダウンも奪ったぞ！　アントン総帥も張り手で祝福。しかし、佐竹は試合後に「俺の望んだ闘い方じゃなかった」と不満を口にした。

大人ですよ。それを修正できないまま、いままで来ちゃって、どうしようもなくなって、今回たままた修正できただけの話でね。でもまた変なふうにならないためには、もっと頑張って行きたいです。ロサンゼルスまで修業に行ったことで、生まれ変わったので。

――そんなに凄かったんですか、ロサンゼルスは？

安田　凄いっていうよりも、俺は英語が喋れないわけですよ。その上、ローマ字も読めないから。

――それ凄いですよね（笑）。

安田　だから、メシ食いに行こうにも何の店かもわかんないわけですよ。店に入ったところで、メニューもわかんないし。猪木さんとかと一緒にいるときは読んでくれますけどね。そしたら、会長に「お前は英語も覚えなきゃいけない。週末まで迎えに来てやんないから、飯代だけはやるけど、ちゃんとジムに行け」って言われて。ホテルからジムまで1分ぐらいなんで、練習はサボれないんですよね（笑）。

――そういう環境で考え方も変わりましたか？

安田　うん、いままでやってきた自分のバカなことも思い浮かべるし、振り返るわけでしょ？　でも、振り返ってばっかりじゃいけないって気持ちもあるわけ。行く前に橋本さんが持たせてくれた本もあったし。

――どんな本ですか？

安田　それは内緒（笑）。いろんな本を持たされてね、1冊は戦国武将のヤツ。戦国武将にしても、ずっと勝ち続けた人っていないじゃない？　結局、敗北があって、その敗北によって違うステップ踏んで行くわけだから、「まぁ、俺もいいかな？」って（笑）。『そのステップを何回も踏んだだけのことだよ』って。そしたら「これを最後にしたい」って気持ちになるじゃない？

――そうですよね、37歳といえば、あとがないし。体力的にもキツいですよね。

安田　これが最初で最後のチャンスだという気持ちでロスに行きましたから。日本からはみんな取材に来てくれるしね。いままで、全然取材に来なかったのに「ただ猪木さんといるだけで、なんでこんなに来るの？」みたいな（笑）。

――そりゃ行きますよ！　アメリカで取材してたジミー鈴木さんにお会いしたんですけど、「あれだけ練習してるの見たら、応援せずにはいられない」って、わざわざアメリカから『PRIDE』を見に来たそうですからね。飛行機のトラブルで間に合わなかったみたいですけど（笑）。

安田　それがよかったのかもしんないよ（笑）。まあ、冗談だけど（笑）。

――実際、安田さんは変われたわけですよね。

安田　自分じゃ変わったつもりでいますよ。だから、これをまた元に戻すようなことは絶対したくないし、もう借金をきれいにして、また第二の人生も送っていきたいですよね。

――というわけで、今日は第一の人生を振り返って頂きましょう（笑）。そもそも安田さんは大田区出身なんですよね？

安田　そうですね。

——ウチのライターの母親に安田さんの幼少時代を知ってる人がいたんですよ。

安田　体がデカくて、ただのデブだったって？

——小っちゃい頃だったらしいんですけど、近所で「鼻タレヤス」って呼ばれてたって話が出てきたんですけど（笑）。

安田　（ムッとして）そんなの知らない！　俺、覚えてないもん、都合の悪いことは（笑）。過去をウジウジと引きずらないことにしたの！

——わかりました（笑）。でも、やっぱりワルだったんですよね。

安田　ワルっていうか、中学生ぐらいになって、タバコは吸うし、ゲームセンターには行くし。そんなことばっかやって遊んでましたね。

——あとは友だちの家に集まって、酒飲んだりとかしてたんですか？

安田　酒は飲まなかったなぁ。タバコ吸ったり、麻雀したり。

——麻雀！　ギャンブルのキャリアはそんな頃からあるんですね（笑）。

安田　小学校のときは、普通にソフトボール好きの少年だったけどねぇ。中学に入って野球部入ったけど3日で辞めてから、そういう道に……。

——なぜ辞めたんですか？

安田　新入生は球拾いばっかで面白くないじゃん（笑）。坊主にするのも嫌だったし、先輩との上下関係も嫌だったし。ま、ほとんど坊主みたいな頭だったけどね。

——当時は剃りこみ入れたりして？

安田　ちょっとね。だから、今薄くなっちゃった（笑）。それからは太ってたから、とにかくコックさんになりたいと思ってたの。

——ふ、太ってたからコック!?

安田　デブはとにかく食べることが好きじゃないですか（笑）。でも「英語ができないとコックさんになれないよ」とか言われたの。俺は周りの友だちにロクなのいなかったから、授業サボるのとか好きでさ。中学1年の1学期からよくサボってたの。保健室に行って、体温計こすって熱上げて、それを見せて早退して、友だちん家に集合してたから。それで英語を全然覚えなかったんですよね。

——1年1学期といえば、一番の基本となるアルファベットを習う時期ですもんね。

安田　でしょ？　その基本を全然覚えてないから、いくらあとで教わっても、全然わかんないわけ（笑）。

——猪木さんとか藤田さんが、「安田はローマ字すら読めない」って、よくネタに笑ってますけど。それどころかアルファベットも読めなかったわけですか（笑）。

安田　そうです（笑）。だって、自慢じゃないけど中学3年になるまで筆記体書けなかったから！

——はぁ〜、凄いなぁ！　そこからどういう経緯で相撲の世界に飛び込んだんですか？

安田　中学3年の1学期に、急に13センチぐらい背が伸びたの。そしたら目をつけた相撲部屋の親方が来てくれて、「土俵にはお金が落ちてる」とか言われてさ（笑）。「そうかぁ」って思っちゃって（笑）。それで会うたびにお小遣い貰ったりすると、心も揺れるじゃない？　そこから「お相撲さんていいなぁ」って思って（笑）。それで入っちゃったんですよ。もう、九重部屋で稽古しながら、部屋の近くの中学校に通ってましたね。

——ちなみに中学校の頃は喧嘩してたんですか？

安田　全然してない！　もう中学3年のときから相撲部屋で生活してたから、そんな喧嘩なんか出来ないです。

——なるほど。たしか、部屋の同期が北勝海関（元横綱）でしたね。

安田　そうそう。彼の方がちょっと入門は早かったんだけど、強いんですよ！　もともと柔道も強かった人だから。俺が入ったときに、もう序二段ぐらいの人とやっても、いい勝負してたから。で、俺は全然ダメで。箸にも棒にもかからないんですよ。もうね、ただのアンちゃんだから。腕立て伏せは1回もできないし（笑）。

——え〜っ、腕立てもできなかったんですか！　野球部を辞めてからは運動やってなかったんですか？

安田　うん。辞めてからはトランプ部に入ってたもん。

——アハハハハ！　トランプ！

そこでポーカーとかを覚えて（笑）。

安田　違うよ！　そこは籍置いてるだけだったから。

——なるほど、幽霊部員というヤツですね（笑）。相撲に入門するときにご両親は全然反対しなかったんですか？

安田　俺は次男だったからねぇ。親はどっちかっていうと昔気質だから、「家は兄貴のもんだから」って言ってたし（笑）。

——自分で道を切り開くしかなかった、と。

安田　高校に行く気もなくて、もともと料理の専門学校行こうとは思ってたんだけど……相撲でもいいや、みたいな感じで決めました（笑）。

——すごい大胆ですね（笑）。中学校で好きな科目はなかったんですか？

安田　計算は得意だったから、算数は好きでしたよ。

——えっ、それは意外ですねぇ！

安田　（ムッとして）得意だよ！　授業中寝てても、テストで点取るから。通信簿も2だったの。

——3段階評価ですか？

安田　5段階で！

——そ、それって（笑）。じゃあ、他は？

安田　他は1じゃん（キッパリ）。授業中は寝てんだからさ。それでも友達が起こしてくれんの。起こされたらだいたい給食でさ（笑）。

——アハハハハ、最高ですね！

安田　で、食べたらまた寝る。九重部屋に帰ると風呂掃除と便所掃除が待ってるんだもん。

——いわゆる下っ端の仕事ですね。

安田　他の仕事は先輩がやってるんだけど、そこだけは残ってましたね。北勝海さんか俺がやるような感じ。あとはチャンコ番とか洗い物とかやったような気がしますね、あの頃。

——安田さんは大刀光さんも同期なんですよね、たしか。

安田　あいつは年が一緒だけど、相撲取りは入った順だから、俺の方が先輩になっちゃうね。

——ああ、そうか。たしか高校行かずに右翼とか暴走族やってたらしいですからね（笑）。

安田　だから俺はほとんど知らない。一応出世も早かったから、幕下まではね（笑）。いや、俺は普通のスピードで出世したんだよ！　でも、同期に益荒雄とか北尾もいたからね。

——いわゆる「花のサンパチ（昭和38年生まれ）」と呼ばれた代ですよね、大勢出世しましたけど。

安田　あのへんがみんな出世早かったから比べられるとどうしても……ね。

——でも、最終的には安田さんも小結まで行くわけじゃないですか。それって凄いことですよ！

安田　う〜ん、こういう話したくないなぁ（笑）。一応、同じ部屋に千代富士さんと北勝海さんという横綱がいたからね。周りが強くて、稽古つけてもらったから押し上げられたようなもんです。

——相当揉まれたわけですよね！

安田　稽古相手には事欠かないけど、やりたくはなかった（笑）。

——アハハハ！　最近、自分でもしょっちゅう「ナマクラ」っておっしゃってますけど、その頃からナマクラになったんですか？

安田　昔から（キッパリ）。

——生まれたときから？（笑）。

安田　生まれたときからじゃねぇだろうけど、相撲取り入ってからだね。

——関取になっちゃえば付き人もつくし、雑用からも解放されるわけですよね。そのへんから「ナマクラ」が始まったわけですか？

安田　そうかなぁ。博打ばっかりやってたからね。

——ついつい熱中し過ぎちゃうんですか？

安田　もともと博打は好きなんだよね。それで、仕事がうまくいかなくって、流されるままでやってきて、ストレスを発散するのが博打になっちゃったんだろうね。で、やると歯止めが効かない。

——ちなみに何をやってたんですか？

安田　何でもいいじゃん（笑）。それで億近い借金作ってね（しんみり）。それを今でも返してるけど。昔のお相撲さんは、感覚的にみんな「飲む、打つ、買う、が当たり前」みたいな感じだからなぁ。

——カッコいいですよねぇ！

安田　部屋の親方なんかも、そういう教え方ですよね。女性の場合も「水商売の人とはいくらでも遊んでいいけど、普通の人には手を出すな。遊ぶなら、お金できれいに遊びなさい」っていう。じゃあ金がなかったら何するかっていうと、「稽古しかないんだから、稽古せい」って（笑）。

——土俵に金が埋まってる、と（笑）。

安田　お相撲さんて、部屋にいるとお金がなくても生活できますからね。寝るとこと食うものを与えられてるから。あとは稽古するだけっていう環境ですから。

——タニマチの方がお金くれたりするんですよね、給料以外にも。

安田　結構ね（ニンマリ）。

——しかも部屋には横綱二人いたし。

安田　ありがたいですよね（笑）。

——九重親方は生活面の指導も厳しかったんですか？

安田　俺はいっつも呆れられてましたね。親方に付いてるときに「お前、タバコ吸ってるか？」とか言われて「吸ってません」って言ってたんですよ。で、付き人って親方に財布持たされるんだけど、「財布！」って言われたとき、パッと胸のポケットからタバコ落としちゃって（笑）。

——アハハハハ！

安田　「もうお前にはなにも言わん！」って怒られて（笑）。あと、部屋の2階で稽古サボってたらさ、親方が上にあがってきたのがわかったの。ヤバいと思って、布団の山に隠れて、親方がこっち行ったらあっち、あっち行ったらこっちに隠れて、最終的には見つかるんだけど（笑）。「もう、お前だけにはなにも言わん！」って、また言われて（笑）。いっつもそんな感じでしたよ。

——アハハハ！　ホントに漫画みたいですねぇ。

安田　ウソついて稽古サボったのがバレて怒られたり（笑）。

——部活じゃないんですから（笑）。

安田　でも、俺らがいた頃の相撲部屋って、和気あいあいでしたよ。派閥みたいのはあったけど、みんな同じ釜の飯食ってるという感覚はあったし。

——楽しい学校みたいな雰囲気もあるわけですね。

安田　（唐突に）でもさ、「ナマクラ、ナマクラ」って自分では言ってるけどね、自分はそんなにナマクラだと思ってないんだよ。

——えっ、そうなんですか？　キャラで言ってるようなもんだと。

2F

安田

布団

九重親方

安田が九重親方から逃げ回る図

「ナマクラ」って言われるけど自分じゃ「ナマクラ」だと思ってないからね！

安田　そうそう（笑）。自分のことを「ナマクラ」って言ってたら楽じゃん（笑）。ただ相撲時代に「あいつはナマクラだから」って言われてたのは、ウチの部屋は北勝海さんにしろ、千代富士さんにしろ、ものすごく稽古する人がいたからなんですよ。で、俺はそこまでしないじゃん？　だから「あいつはナマクラだ」ってなっただけのことですからね。

——「あの二人はよく稽古するのに……」って（笑）。

安田　そう！　あの二人から比べたら全然しないから、「あいつはナマクラだ」って言われるわけよ。そうすると「あいつはナマクラらしいよ」って噂が勝手に広まるから。でも、ナマクラなんだけど、やるときは一週間でも二週間でも、一生懸命真面目にやるんだよ。ただ、一日休んじゃうと、三日休まなきゃ気が済まないのよ。それがナマクラたる所以かもしれない（笑）。

——アハハハ！　遊ぶときは遊ぶ、張り詰めるときは張り詰める。スイッチがバッチンバッチン切り替わると。

安田　で、そのとき遊びすぎて借金作っただけ（笑）。そのへんはプロレス来ても変わらなくて。要するにぬるま湯に浸かりだすと、すぐそういう悪い病気が出ちゃうんです。

——またそこでギャンブルに手を出してしまうわけですね。返済は相撲やプロレスの給料だけじゃ追いつかなかったんですか？

安田　女房も働いてたから、そういう部分じゃ苦労かけたよね。

——ちなみに、その奥さんとはいつ頃結婚されたんですか？

安田　22歳のとき。

——なれそめはどんな感じだったんですか？

安田（照れて）え〜、言うのぉ？

——いいじゃないですか（笑）。

安田　バカにされそうだからなぁ。

——バカになんかしないですよ！

安田　ホントぉ？　18歳のときに知り合ったんだけどね。向こうが「ファンだ」って来てさ。ちょっと付き合ったんだけど、あいつも向こうの親に反対されて……一度は別れたの。

——ほう！　一度はそういう障害があったと。

安田　それで、また向こうから連絡来たから付き合うようになってね。看護婦なんだけど、准看の頃は実家にいたから、そういうこともないですよね、家に帰さなきゃいけないから。それで正看になるのに、どっかの病院に勤めなきゃいけないから、実家を出たのよ。その後はいまの若い人と一緒で、そういう感じで……（照れまくり）。

——そういう感じといいますと？

安田　あんまりハッキリ言っちゃマズいでしょ？　で、結婚。それを部屋の親方に言いに行ったんだよ。「お話があるんですけど」って切り出したら、「なんだ？　ハガミ（給料の前借り）か！」って（笑）。

——アハハハハ！

安田「いや、違います。結婚したいんですけど」「相手は誰だ」「普通の、看護婦やってる子です」って言ったら、親方が凄い喜んでくれて、「すぐ結婚しろ」という感じでしたね。で、結婚するときも金なかったから親方に借りましたよ。その金は返したか、返してないか、わかんないんだけど。たぶん返してないかなぁ（笑）。

——かぁ〜、いい話じゃないですか！　そのお子さんが、こないだ『PRIDE』のときに来て、感動の抱擁をしたという方ですね。

安田　そうそう。

——いやぁ〜、泣かせますねぇ。

安田　子どもは好きだから、いっぱい欲しかったんですけど。まあ、いまとなっては一人でよかったかもしれない（笑）。

——「またいつか取り返したい」っておっしゃってたじゃないですか。

安田　子どもはね。

——奥さんはいいんですか？

安田　引きずった時期もあるけど、やっぱり悪いのは俺だし……。いまは吹っ切れてるしね。ただ子どもだけはね、俺が父親であるってことは一生涯変わらないから！　だから娘だけにはキチッとしてあげたいっていうのもあるし。で、勝ったおかげでキチッとすることもできるような雰囲気になってきたし。とりあえず、俺がちゃんとしてれば娘とも会えるからさ。以前までの俺だったら会えないじゃん？　することしてなかったし。

──「すること」っていうのは養育費とか、そういう問題ですか？

安田　はい（笑）。あんまり突っつかないでください。

──すいません（笑）。じゃあ、ここからはプロレス入りしたあとの話をうかがいます。以前、どこかのインタビューで「プロレス入りするのは、相撲で落ちた人がするってイメージがありました」とおっしゃってたんですけど、実際にそういう感覚でプロレスに入って来たんですか？

安田　そうですね、そういう部分が凄く大きかったですね。でも、入って1週間経たないうちに「違う」と思いました。「そんな気持ちでやってたら、持たねぇな」って。

──体の使い方から何から、全然違うわけですよね。

安田　全然違いますよね。ベンチプレスなんかやったことないのに、新日本の選手はみんな重いのを上げるじゃないですか。田山レフェリーまで100キロぐらい上げてたからね、あの頃。俺なんか60キロでヒーヒー言ってたのに（笑）。「こいつ、レフェリーかよ！」って思ってましたよ（しみじみ）。

──相撲ではそういう練習をやらないんですね。

安田　自分らの頃は、「ウエイトトレーニングなんかやったら脇が甘くなるから、鉄砲やれ」とか「四股踏め」とか、そういう時代だったから。まだその頃の相撲界は封建的でしたよね。

──プロレスのコーチは馳さんと健介さんだったんですよね。

安田　ホント、馳さんにはかなりお世話になりました（しみじみ）。

──佐々木さんには？

安田　かなり殴られました（しみじみ）。「チクショウッ！」とは思ったけど、「できないのは俺だ」って感覚だったから。あの頃は凄かったもんね。でも、俺はまだ優しくしてもらった方ですよ。俺の後に入ったヤツは相当やられてたから。

──なるほど。

安田　でも、俺が入った当時はメンバーが良かったからね！　当時の寮長が西村（修）さんで、小島（聡）選手、中西（学）選手、永田（裕志）選手、石沢（常光）選手、大谷（晋二郎）選手、高岩（竜一）選手でしょ。彼らは真面目だし、結構面倒見てもらったし。結局、俺なんか後から入ったから「安田！」って言われてもしょうがないのに、みんな「安田さん」って呼んでくれたしね。彼らには「我慢して」って励まされたのも大きいですよ。一緒に生活してるから、「ついて行こう」って思って頑張ってれば、だんだんついて行けるようになりました（笑）。

──連帯感みたいなものですね。

安田　そうそう。だから、人間関係において運がよかったんですよ。人生では失敗ばっかりしてますけど（笑）。

──アハハハハ、自分で落とさないでくださいよ（笑）。だからこそ、デビュー戦はホントに感動的でしたよね。みんながセコンド付いて安田さんを激励して。永田さんなんか泣いてましたよね！

安田　いやぁ～、俺はただ必死にやっただけだから（照れながら）。ただ馳（浩）さんに引っ張られて、ヘロヘロになりながらついてっただけですよ。何やったか覚えてないし。それを「いい試合だ、いい試合だ」って言われてんのも情けないなって思ってたんで。

──ボク、プロレス見て泣いたのって、あれが初めてでしたよ、ホントに。

安田　でも……その後が悪いから。

──それでまた博打にはまっちゃったんですか？

安田　まぁ、はまったり、はまらなかったりを繰り返して（遠い目）。結局、そのうち女房にも愛想尽かされて。

──なるほど。

安田　その後は流されるままにシリーズをこなしてる状態になってきて、「いけない、いけない」って思いながらも、妥協を求めて、楽な方、楽な方に行っちゃいましたね。それで、どうしょうもなんなくなって仕事サボッちゃった（笑）。

──それが去年の秋ですよね。「内臓疾患」という発表でしたけど、あれはサボッたんですか？

安田　もう、どうでもいいと思ってたから。半分「死のう」と思ってたし。

──「死のう」！

安田　俺が失踪した10月9日って俺の誕生日だからさ、命日と誕生日が一緒で、ちょうどいいと思って……それでも結局死にきれなかった。

──前号のインタビューで橋本さんがいきなり言い出したんでビックリしたんですよ。「安田が自殺未遂3回した」って。「え～っ！　それ書いていいんですか？」って聞いたら「構わん、俺が許す！」って。すごいビックリしましたよ……。

安田　俺からは何とも言えないですけど……。そういうことがあって、「もうダメだろう」と思って新日本に行ったら、藤波さんと倍賞さんが「まだやり直せるから頑張れ」って言ってくれて。あんなときに優しくされたらね（しみじみ）。そうじゃなくても、あの当時の俺は性格が荒んでたから、みんなに優しくされるなんてことなかったんですよ。だから凄い嬉しかった。泣きそうになりましたよ。

──優しい言葉が身に染みたと。

安田　それで次のシリーズから出ました。田舎の会場だったんだけど、リングに上がったら、ファンの人が拍手してくれるでしょ？　それが凄い嬉しかったですよね。「またプロレスで頑張ろう」って気持ちにもなれたし。「そのためにはこんなしょっぱい身体してたら話になんねぇや、とにかく体を戻さなきゃ」と思い立って。そしたら12月31日の話が入ってきましたから。参戦を決めたのは安易な気持ちですよ、「小川ぐらいなんとでもなるわい」みたいな。

──かぁ～、小川くらい！　いま

平成6年2月24日の安田忠夫プロレスデビュー戦、相手は馳浩が務めた。同期の仲間たちがセコンドで檄を飛ばす中、安田は必死に馳に食らいついて大きな感動を呼んだ。最も強烈に印象に残った試合である。

激動のマット界
戦国絵巻

（佐竹の）コメントは腹立った！「こいつ、勝負師じゃない！」って。

プロレス界でそんなセリフが吐けるのは安田さんだけですよ（笑）。

安田　だけど、いかんせん俺は技術が伴わないからさ、最初はよくても息切れしちゃうし（笑）。

——試合開始直後の勢いは凄かったですよね。そういえば小川さんのデビュー前に練習相手をやったんですよね、安田さんは。「小川は弱いと感じた」って言ってたらしいですけど。

安田　倒されることはないだろうってのはあったんで。でも、結局パンチもらって倒れちゃったけど（笑）。でも、投げでは倒されてない！

——相撲なら負けない、と。

安田　相撲なら負けないよ！　12月31日の試合も相撲なら勝ってたじゃん、最初は。

——いや、相撲だったら安田さんにかなう人はいないでしょう。

安田　でも、最近は力皇（猛）君もいるしなぁ。若い方が強いよ（笑）。

——でも、安田さんはＵインターの人たちもジャイアントスイングでブン回してましたからねぇ（笑）。で、小川さんとの試合に話を戻しますけど、普通の試合よりも一歩踏み出た、殺気とか怖さが漂うようなプロレスでしたけど。

安田　俺はプロレスも格闘技も全部一緒だと思ってるから、全然そういうのはないですよ。たまたまあの試合が、『ＰＲＩＤＥ』にはつながりましたけどね。

——格闘技もプロレスもないんだ、と。

安田　そう思いますよね。でも、やってみたら、ちょっとは違うけど。技術のなさに自分で腹が立った。あそこまで行ったら、普通はテクニックがあれば勝てるんだろうけど。

——でも、あの試合で猪木さんも安田さんを高く評価してたんじゃないですか？

安田　そうですかね？　でも、大阪が終わって、猪木さんを空港に送りに行くときに「お前、ロサンゼルス来るか？　来るんだったらちゃんと会社と話して、自分の気持ちで来い」って言われましたからね。そこで会社と話して。「ロスに行くんで、契約しません」と。それでいまは契約保留にしてもらってるんですけど。

——なるほど、離脱じゃなくて保留なんですね。

安田　自分ではＺＥＲＯ—ＯＮＥに行きたいって気持ちもあったから、都合よく、そういうふうに持ってっちゃったんですけどね（笑）。それなのに新日本プロレスには、いまでも保留にしてもらってますから。こないだも『ＰＲＩＤＥ』が終った後に挨拶に行ったら「よかったね、いつでも戻っておいで」って藤波社長も倍賞さんも言ってくれるし。

——いい会社ですねぇ（笑）。

安田　それなのに、おたくの雑誌は藤波さんのことボロクソ書いて！　ダメだよ！

——いやいやいや、藤波さんはホントにいい人だと思うんですけどね（笑）。人が良すぎるんじゃないかと。

安田　それと橋本（真也）さんにもお世話になってんだよね、俺は。

——そうですね。橋本さんと安田さんの関係は凄い素敵だなと思うんですよ。橋本さんとはどんな話をするんですか？

安田　いろんな話しますよ。結局、デビュー戦しかいい試合がなくて、壁にぶつかったときに「どうしたらいいですか？」って橋本さんに聞いたら、「おめえ、腕とか細いから、太くしなきゃ無理だよ！」とかハッキリ言われるじゃないですか？　「じゃあ、そういうふうにしてみよう」って思うでしょ。だから、結構本音で話してるんですよね。疑問があればぶつけるし、橋本さんが間違ってれば「嫌だ」って俺もハッキリ言うし。

——友達みたいな感覚に近いのかもしれないですね。

安田　そうですね。プロレスでの先輩であっても、年は俺の方が上だから、強気で言うときは強気で言えるし。面白い関係ですよね。だから大谷選手とかは「うらましい。なんで橋本さんと、そういうふうになれるんですか？」って言うから、「わかんない」って答えてますけど（笑）。

——アハハハハ！　安田さんは一つの世界を極めてからプロレスに来ましたからね。橋本さんが認めている部分もあるんでしょう。

安田　そういう部分は認めてくれるけど、「でも人生においてはお前は逃げてばっかりいる」とかハッキリ言われるんで（笑）。

——耳が痛い、と（笑）。

安田　そう、耳が痛い（笑）。だから、自分が嫌なことでもハッキリ言ってくれますからね。そういう部分においては、一緒にいて楽しいですよ。あの性格だから（笑）。

——豪快ですよね（笑）。そういえば、ウチの人間が橋本さんにインタビューしたときに「安田には俺も金貸してんだよ。でも、あいつが立ち直ってくれれば、そんな金どうだっていい！」って言ってましたよ。

安田　あ、ホント？　それ、ちゃんと契約書取ってきて！（笑）。

——アハハハハ！　なんか橋本さんが「もう博打はやりません」っていう血判状まで作ったって聞きましたけど。

安田　……そこからまた落ちましたもんね。その血判状、まだ持ってるらしいですけどね、破って捨ててくれればいいのに（笑）。『ＰＲＩＤＥ』で勝った日に言われたよ（笑）。嬉しさの絶頂にいるときに、そうやって脅すからなぁ。

——アハハハハ、素敵だ！　同じくセコンドについた藤田（和之）さんとも結構長いつきあいですよね。

安田　俺の後に橋本さんの付き人になったのが藤田君だから、いろいろ仕事教えたりして。で、一緒に飯食いに行くのも、いつも3人だったし。そういう時期もあったから、結構チームワークはよかったなぁ。

——藤田さんとも気が合いそうですね。

安田　俺と藤田君って性格が全然違うじゃない？　それでも話は合うんですよ。飯食ってても楽しかったし。今回もホントに凄い世話になっちゃったし。一番嬉しかったのは藤田君が「安田さん、頑張りましょうよ」って、こっち帰って来てから練習するとき、付きっきりでいてくれたの！　「俺、何にもお礼できないよ」って言ったら、藤田君が「いいッスよ、勝ってくれれば」って言ってくれてさぁ。そういうの、凄い嬉しいじゃない！

——かぁ〜、男ですねぇ！　藤田さんも新日本を飛び出す形で『ＰＲＩＤＥ』に参戦しましたよね。

安田　俺も新日本を飛び出したとは言っても、首に縄が3本か4本ぐらい付いてる状態だからさ（笑）。

——鵜飼の鵜みたいな（笑）。

安田　ただ、一番太い綱を引っ張ってくれたのは猪木さんですよね。ロスに行っても面倒見てもらってお世話になりましたし。

——猪木さんは自分から来る人には、優しくしてくれるんですか？

安田　優しくしてもらいました。

——マスコミに向けては結構ボロクソ言うじゃないですか、安田さんのことにしても借金のことをバラしちゃったりとか（笑）。

安田　でも、二人っきりになると楽にしてくれるんです。「お前なんかどうせナマクラなんだから、目一杯練習すんなよ、八分にしとけ。そしたら続くから」とか（笑）。

——アハハハハ、素晴らしい！

安田　で、『ＰＲＩＤＥ』参戦が決まったときも「負けても関係ないから、力一杯やれ」とか言われるとき、「絶対勝とう！」と思うでしょ！

——そこまで言われたら、やらないわけにはいきませんね。

安田　そうしたら自然と、練習中も言葉の壁を乗り越えて技術を吸収しようと思えてきたしね。それで、猪木さんが日本に帰って来たときに空港に迎えに行けば「みん

激動のマット界
戦国絵巻

な誰でも家買ったりして借金あるんだ。お前はただ博打で借金作っただけだろ？　みんな借金あるんだから、気にすんな。お前の借金なんか可愛い」とか言われるし（笑）。「よし！」っていう気分になりますからね（笑）。

——気持ちがパーッと軽くなると（笑）。ウチも編集長をはじめ借金のある人間ばかりなんで、安田さんのそういう部分はホント勉強になりますよ（笑）。

安田　あっ、そうなの？　借金は早く返した方がいいですよ（笑）。

——わかりました（笑）。じゃあ、猪木さんと接して、安田さんもだいぶ変わったわけですね？

安田　本気で変わりたいと思いましたからね。そのためには練習して、「佐竹選手に勝つことが第一歩だ」と思いましたよ。いままではこういう波に乗るようなこともなかったし。今回はホント、エレベーターで上まであげてもらいましたよね、猪木さんに。で、「エレベーターが止まりました。一歩出しましたか？」っていったら、ロスの時点では一歩出してないわけですよね？

——そのままエレベーターに乗ってたら、また下がっていきますからね。

安田　そうそう（笑）。いままではそういうことが多かったでしょ？　意味のないことを繰り返してさ。でも、『PRIDE』の前にロスで『キング・オブ・ザ・ケイジ』を見に行ったときに感じたんだけど、勝つ人はみんな前に出るんですよね。『PRIDE』でも藤田君は前に出てたし。それが勝つ近道じゃないかなと思ってね。ヒクソン（・グレイシー）だって、仕掛けるときは自分から前に出るし。結局、自分で仕掛けられない人間はダメってことでしょ？

——あとはハートの問題ですよね。

安田　俺は失うものが何もなかったですからね。前に出るしかなかったんですよ！　それに守るものがあったらできないですよ。しかも周りの人に優しくしてもらって、それに応えるには前に出るしかないと思ってました。

——退くことは考えてなかった、と。

安田　そうですよ。でも、試合の前夜なんかだと負けるシュミレーションとかが浮かんでくるんですよ。「負けちゃったらどうなるんだろう？　せっかくここまで周りは盛り上げてくれたけど、消えちゃうんだろうな。『なんだ、安田。情けねぇな』で終わっちゃうんだろうな」とか。

——大刀光さんとか北尾さんとか、相撲の人もいままで『PRIDE』に出てますけど、前に出られなかったですからね。

安田　タチは、レスリングの対応の練習してないでしょ？　俺なんか、まだ新日本で基礎をやってますからね。いくらナマクラでもやらされてきてるから、少しは染み付いてますよ（笑）。だから俺は、「相撲では九重部屋という当時の一番いい部屋に入って、プロレスになったら新日本という業界の一番いいとこに行って、それで『PRIDE』に出るんだから！　大刀光と一緒にしないでよ！」って冗談で言ったんだけど（笑）。

——アハハハ！　でも、安田さんの努力も非常にデカいと思いますよ。それで佐竹さんが試合後のコメントでいろいろ言ってましたけど、そういうことに関しては？

安田　それは腹立った（怒）。「打ち合ってくんなかった」とか言ってたけど、じゃあアイツは蹴りを出して出してくんなかったじゃない？　蹴ってきたら、足取って倒そうと思ってたのに。そういう作戦もあったのに「疲れてない」とか言われてもねぇ。俺は蹴られたくないから前に出たんだし！　それを蹴れるように逃げまわるのもお前の仕事だろって！　それもしないで「何やってたんでしょうね？」なんて言われると、カチンと来るよ（怒）。

——ま、強がってる部分もあるんでしょうけど。

安田　俺は負けてもあんなコメント出さないから。「倒せなかった自分が未熟なんです」って言うと思いますよ。

——あのコメントは佐竹さんのプロ意識が変な方向に出ちゃってますね。

安田　だから再戦する気もないですね。そんな性格のヤツとはやりたくない！　だって、試合が終わった後、俺は一応リングの上で謝ったもん。「前哨戦でボロクソ言っちゃってすいませんね」って。そしたら向こうも「いやぁ、僕もそうですから」とか言ってたからいいヤツだと思ったんだけど、あのコメント見てカチンと来た（怒）。「こいつ、勝負師じゃない！」って。

——アハハハ！　勝負師！（笑）。

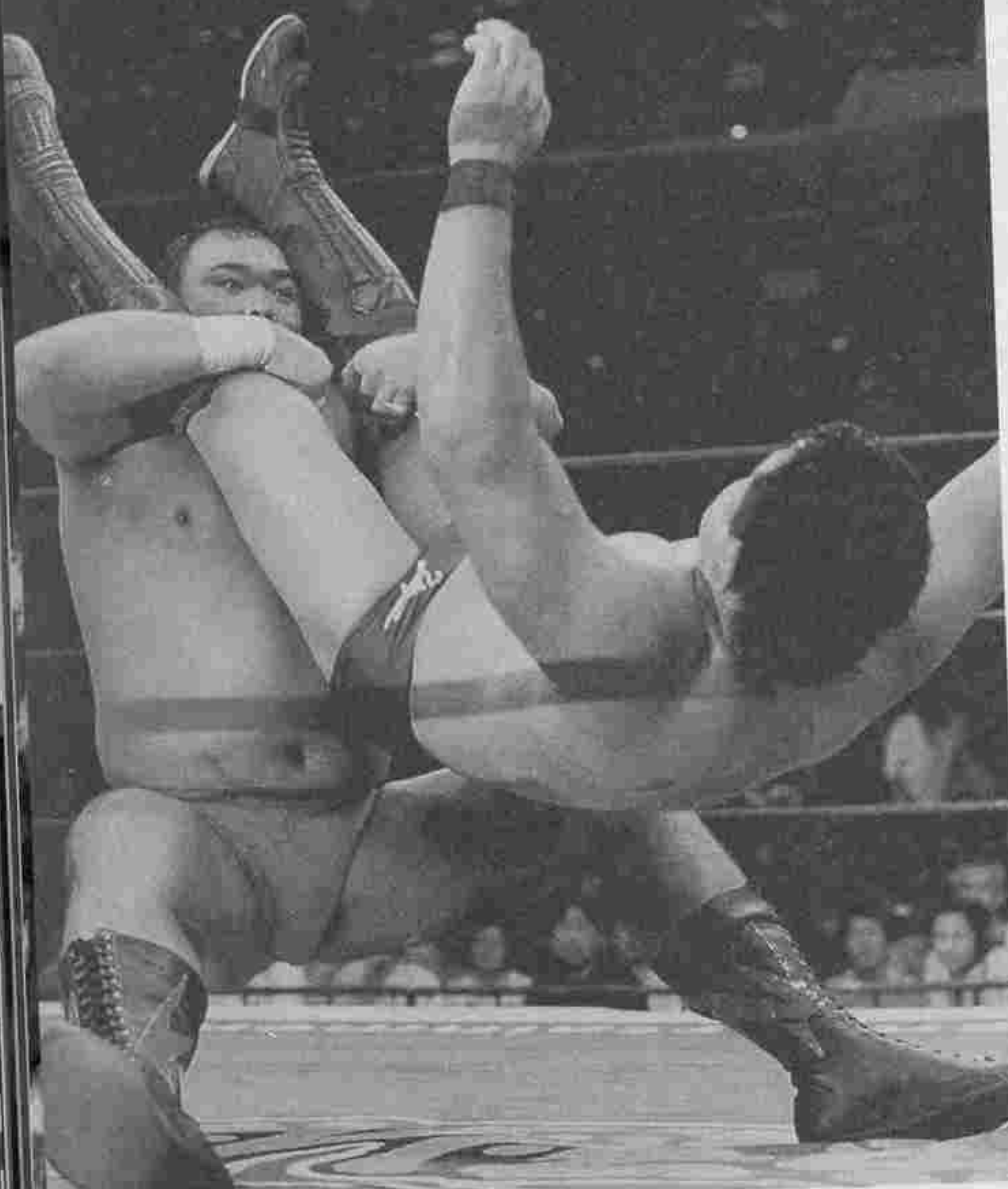
安田　ギャンブルだって負けるのは自分のせいじゃん？　今回は勝ったから、俺もこういうこと言えますけどね。

——いや、カッコいいです！　今回の勝利はプロレスの勝利と重みは違いましたか？

安田　そんなことはないんじゃないの？　レスラーだって、みんな一生懸命やってますから。ただ、今までの俺は流されてただけですよ。「いいや、いいや」って気持ちになっちゃってたから（笑）。むしろ『PRIDE』は勝った、負けただけでしょ？　それだったら勝たないと意味がないんですよ。

——相撲と一緒であると。

安田　そうそう。でも負けたからって他人のせいに出来るわけじゃないし。勝ったのは自分の力かって言われると、それも違うし。今回、猪木さんや橋本さんや藤田君にサポートしてもらってますからね。でも、それで負けたら俺が悪いじゃないですか。

——でも、安田さんにはこういう

新日所属時代の安田は大きな体を活かした技も多かったが、なぜかタイガードライバーのような器用な技も使っていた。そのミスマッチに笑いが飛ぶことも多かったが、今度からは全く違ったリアクションが起こることだろう。

激動のマット界 戦国絵巻

金を稼ぐために強くならなきゃ!

イチかバチかっていう舞台の方が合ってるんじゃないかと思うんですよ。生まれついての勝負師なんですよ、きっと。

安田 でもプロレスだって勝負だからね。俺はプロレスでも這い上がりたいし、両方やりたいっていうのはあるけど。大体、年だからそんなに長くできないでしょ（笑）。もう一回、今回の反省も踏まえて、今度『PRIDE』に出るときはテイクダウンを取って相手をギブアップさせたいなぁ。

——狙うは一本勝ちですね！

安田 でも、俺の性格だとできないだろうなぁ。何もできないままコロッと行かれちゃうと思いますよ（笑）。「安田！ 3ヶ月なにやってたんだよ！」とか言われそうな気がする（笑）。

——そんなことはないでしょう（笑）。

安田 人生で負けてきてるからね、考え方も負ける方から入るんだよね。

——気持ちがネガティブな方向から。

安田 絶対そうなんだよ！ ハッタリではちゃんと言うけど、いざ考えると「次、コロッと行かれちゃうんじゃないかな？ そのためには練習、練習！」って。でも、今回の勝利でまず一歩踏み出せたから、その一歩を踏み出したことによって、二歩、三歩と自分で進めるようにしたいじゃないですか。そのためには練習をしなきゃいけないんですよ。

——そうですね。今回の試合では客席からブーイングも結構飛びましたけど、あれはいかがでしたか？

安田 あの会場に来てた人たちは、お金払ってKOシーンを見に来てるんだから、それができない俺にブーイングが来るのはしょうがないかなって思いますけどね。俺はあの日の時点で出来る限りのことはしたつもりだから。

——膠着したのも勝つためだったわけですよね？

安田 俺が下になっちゃったらどうしようもないと思ってましたから。それが膠着になっちゃったわけだから、次こそは完璧に倒せるようになっていたいですよね。だから、今日もホントは取材を受けないで練習したかったんですけどね（笑）。

——さすが！「ナマクラ」だけど、やるときゃやるよ、と（笑）。それで、さっそく次の試合が決まりましたけど、ZERO－ONEでプロレスルールの試合をやるわけですね。

安田 ま、あと2週間もあればトレーニングできますから。

——対戦相手はいかがですか？ 井上雅央選手と本田多聞選手に決まりましたが。

安田 まあ、俺はプロレスでの実績が大したことないから、こんな相手なのかなって感じはしますけど（笑）。

——でも、いまは『PRIDE』で勝って安田株が上がってるわけじゃないですか。

安田 それは、これからプロレスの実績を作っていくためのステップでしかないと思ってますよ（笑）。

——やっぱりプロレスやるときには、試合スタイル的には以前のような形に戻るんですかね？

安田 （呆れ顔で）それで戻ったらバカでしょ。戻りたくないよ！ そのためにロサンゼルス行ったんだから！ 変わんなかったらバカでしょ。

——そうですよね、ボクもそういう安田さんがプロレスで見たいですから。気分的には盛り上がって来てますか？

安田 いまはボワンボワンしてるけど、そろそろ動き出しますよ。あと2週間もありゃ、なんとかなるでしょ。自分のペースを取り戻すのも上手いんですよ、俺はナマクラだから（笑）。それがナマクラたる所以だよ！

——アハハハハ！ ナマクラにも一流から五流まであると（笑）。では、最後にうかがいたいんですけれども、この後、人生のゴールというか理想はありますか？

安田 理想はね、とにかく、きれいにするもんをきれいにして……。

——『PRIDE』で勝ったとはいえ、さすがに1回じゃきれいにはならないわけですね。

安田 そうです。それをとにかく片して、そのあと第二の人生をやり直したい。

——それは家庭をもう一度取り戻すってことですか？

安田 そういうのもあります。

——プロレス以外の世界でもうひと花咲かせたいという希望はないですか？

安田 プロレス以外の世界って何やんの？

——う〜ん、たとえばちゃんこ屋とか。

安田 無理、無理。俺に客商売は無理。俺、ちゃんこ屋でアルバイトしたことあるんだよ。でも2ヶ月ぐらいでケツまくったけど。客商売は難しいですから。だから相撲でダメになったときに、プロレス入りしたんだから。で、プロレスの難しさは自分なりにはわかってるつもりではいますけど、まだ高いレベルでの難しさはわかってないから。トップに立ったことないですから。

——いずれはプロレスのトップに立ちたい、と？

安田 そりゃ、やるからには上に行かなきゃ意味ないじゃない！

——「このままでいいや」とかいう気持ちはもうないんですね。

安田 そういう部分で俺は素直だと思うから。たまに隠したりするけど、そうするとロクなことないから（笑）。結局、与えられたものでは満足できないんですよ。だから『PRIDE』でも今回は判定で勝ったけど、次は完璧に勝ちたいって欲はあるし。これからは正直に生きたいと思う。いままで助けてくれようとした人たちを裏切ってきたわけだから、期待にこたえたいです。

——失ったものを取り戻す、と。

安田 金以外では信用とかさ、そういうのもなくしてきましたからね。全て自分が悪いと思えば、どうにでも開き直れるし。全部をでも、きれいにしたときには胸張りたいですね。いまはまだ背中丸めてるけど、最後には胸張りたい！ それに向かって、いまは一生懸命ですよ。金を稼ぐためには強くならなきゃいけないから（笑）。

——そうですね。期待してますんで頑張ってください！

安田 もう、あの頃には絶対戻りたくないから。いままでは守るものもなかったけど、守るものができたってだけでも進歩でしょ。じゃあ守るためには攻めて行くしかないんですよ。そういう意味では前向きになってますね。

——今日も顔から自信が溢れ出てますよ（笑）。

安田 いやいや、そんなことないでしょ（笑）。

——これからも、僕らのように借金を抱える人間のために頑張ってくださいよ！「借金も財産のうち」って、よく言いますからね。

安田 バカ野郎っ！ そういうのは、借金がない人が言うんだよ（笑）。

Tadao Yasuda

やすだ・ただお■昭和38年10月9日、東京都大田区出身。「孝乃富士」のシコ名で小結まで昇進。廃業後、平成6年2月24日、東京・日本武道館大会のvs馳浩戦でデビュー。その後、坂口征二のテーマ曲「燃えよ荒鷲」を継承したり、「くじら男」と呼ばれたり、G1では毎年ハッスルしたりしながら新日の中で独自のポジションを築く。昨年10月に借金のために失踪。今年1月に新日の契約を保留し、猪木事務所預かりに。そして、『PRIDE.13』ではご存じのように大活躍。193センチ、140キロ。

アブダビコンバット2001

16ページ、ブチ抜き大特集

今回は原稿アリ!

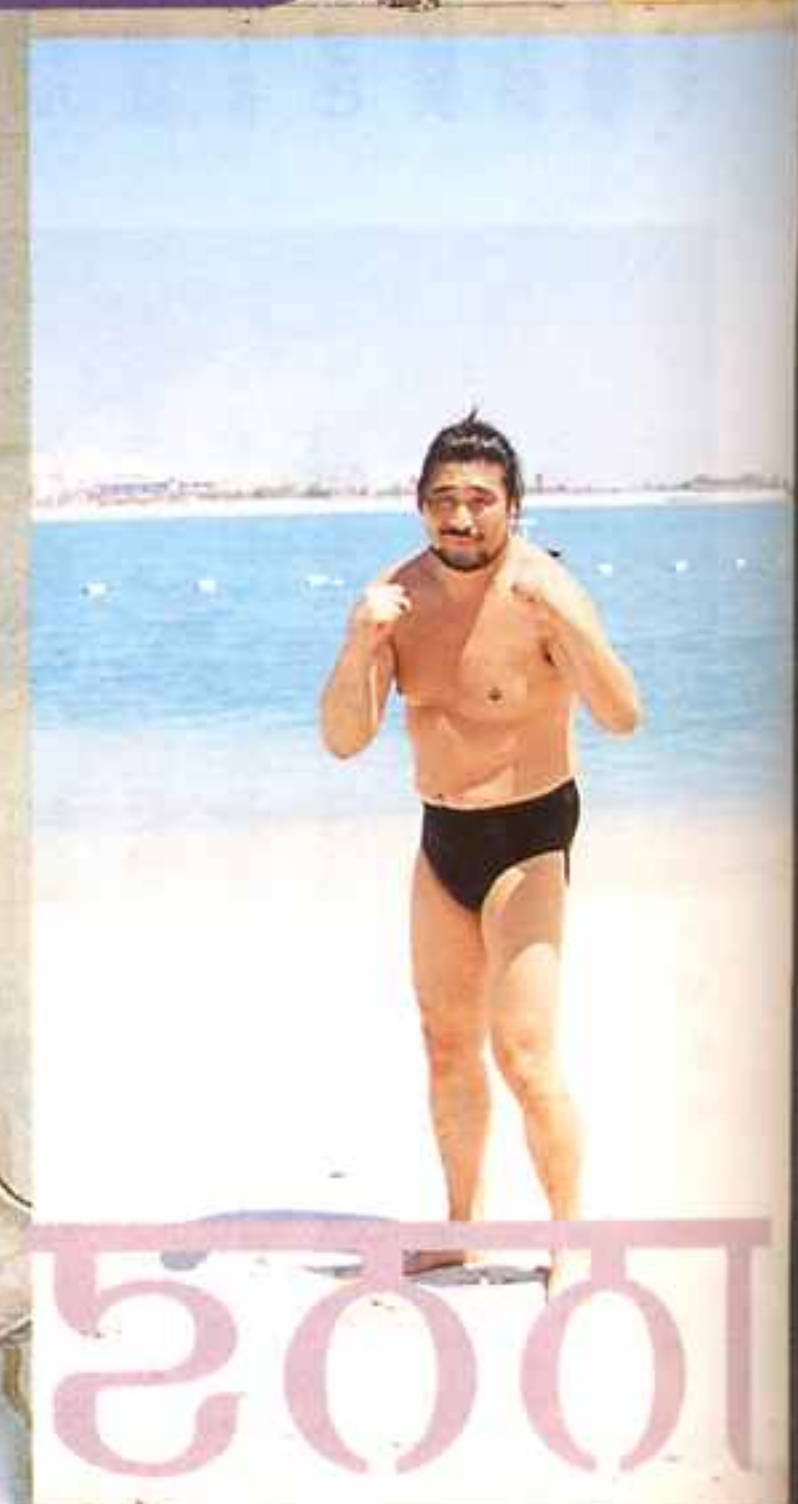
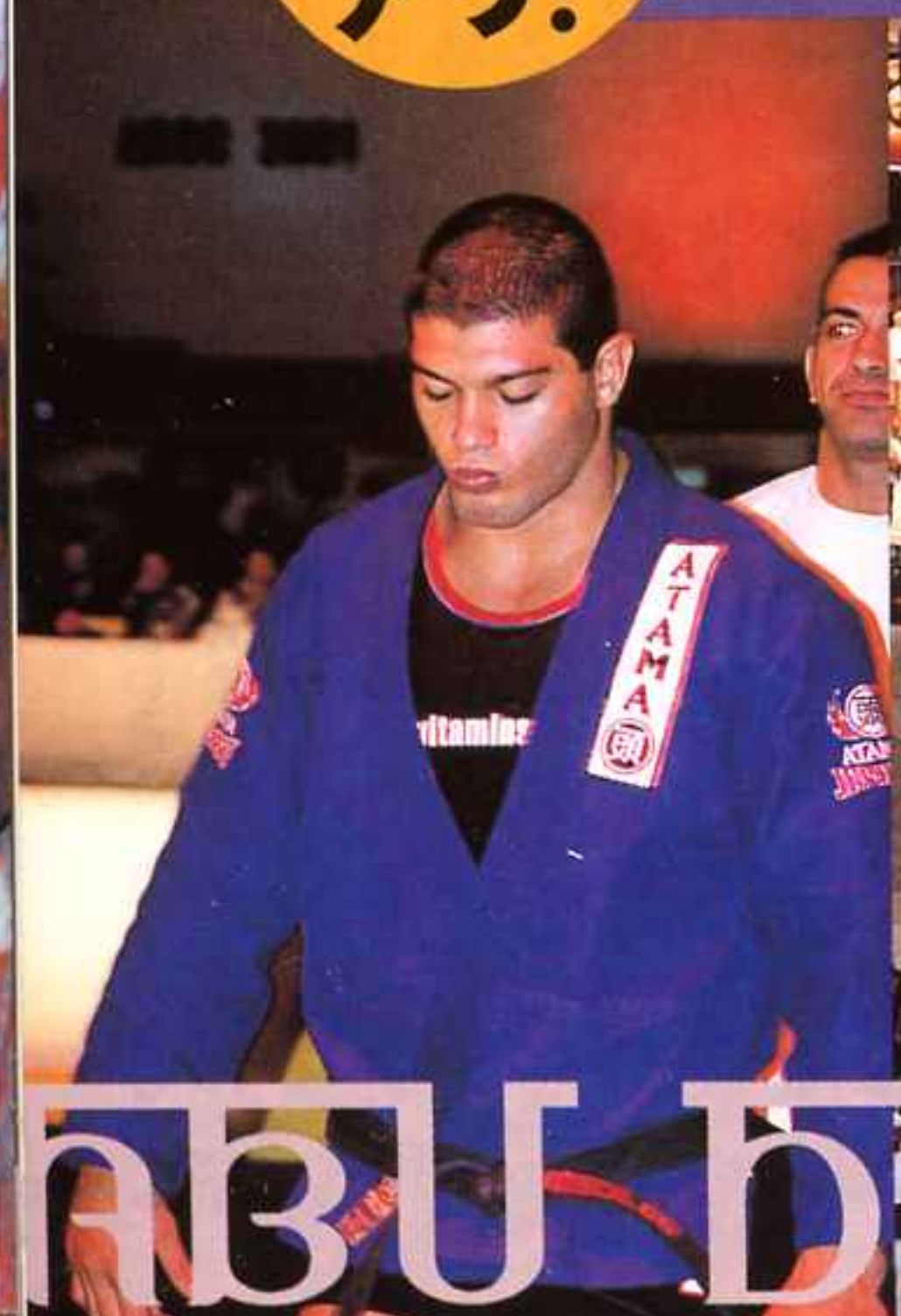
今年もやってきました『アブダビコンバット』！ この“スケールの大きな田中八郎”ことアブダビの王子様が、超大物格闘家ばかりを集めて開催する夢の祭典に今年は田村、TK、菊田、谷津らが参加！ これは見逃せるはずがない！ というわけで『紙プロ』は今回も懲りずに現地取材を敢行——ッ！ では、いきますか——ッ！

文・撮影／堀江ガンツ
イラスト・ロゴ／中川雅博画伯
design by Koga yukie & Kimura yuka

ABU DHABI COMBAT 2001

マット界最後の"宝島"
アブダビ・コンバット2001 探検記

2001.4.11～13
アラブ首長国連邦
『世界サブミッションレスリング選手権』

文・写真○堀江ガンツ

今年もやってきました『アブダビ・コンバット2001』！

『アブダビ』と言えば、世界一の油田王国に住む格闘技大好きの王子様が、世界中から強豪選手ばかりを集結させて開催される、組み技世界最強決定トーナメント。

昨年までは出場する日本人が、修斗勢中心だったためか、どこか遠い国の夢物語のような感があったが、今年は違う！ 田村、TKというリングス2枚看板が出場するだけでなく、谷津嘉章まで出るとなったら、どうして行かずにいられるだろうか！

というわけで、マット界最後のまだ見ぬ宝島『アブダビ・コンバット』の格闘技雑誌には載らない探検記をお送りします。今回は原稿アリ！

アブダビといえば、長い長いフライト。日本からの飛行機直行便はない。今回はシンガポール経由でUAEの玄関口、ドバイへ。時間にするとまずシンガポールまで6時間のフライト、そして7時間のトランジットを挟んで、さらに7時間のフライト。そしてバスで2時間揺られてようやくアブダビに到着。合計24時間！ とんでもなく遠いのです。これじゃいくらアブダビ王子が望んでも、飛行機嫌いサクを『アブダビ』に出場させるには、直行便のコンコルドでも飛ばさない限り、こりゃ無理だわ。

ホテルには朝到着。泥のように眠りたいところだが、午前10時から選手宿泊ホテルでルールミーティングがあるというので、仕方なく、疲れた身体にむち打ってホテルを出る。

ミーティング会場に入るど、それほど広くもない部屋に、これでもかというくらいスター選手が集結。こんな光景『PRIDE』でもKOKでも見られない。やっぱ、凄いよ、アブダビは。ここでTKと立ち話。TKは開口一番「非歓迎ムードをヒシヒシと感じるね」という。何事かと聞いてみると、なんと田村とTKは二人部屋なのだという。ここまではいい。問題はその先。なんとツインではなく、ダブルだというのだ！。つまり部屋にはダブルベッドがひとつあるだけ。まさか田村とひとつのベッドで寝るわけにもいかないので、TKは床で寝ているのだという。世界のTKが床ですよ！ 床！

アブダビは選手は超VIP待遇かと思いきや、VIP待遇は勝った選手のみ。それ以外の選手はエコノミーで来て、ときには床で寝なくてはならないということが図らずも発覚したわけだ。昨年出場した金ちゃんが「アブダビ最悪！」と言う意味がようやくわかった。

ここで説明された『アブダビ』のルールを少し抜粋。試合時間は10分。勝敗はギブアップ、ポイント差、判定によって決着。ポイントは細かく分かれていて、相手にガードを取らせない完全なテイクダウン、完全なスイープが4P、パスガード、バックマウントが3P、テイクダウン、マウント、スイープが2Pとなっている。また、引き込みはペナルティとしてマイナス1Pとなる。面白いのは試合開始から5分間はプラスもマイナスも一切のポイントが入らないこと。だからテイクダウンを奪うのが苦手な柔術系の選手はみな、最初の5分の内に引き込んでくる。これによって労せず得意のグラウンドに持ち込めて、しかも相手にテイクダウンを奪われることはない、ということだ。この辺りが"柔術びいきルール"と言われる所以である。

ルールミーティング後、大会スタートまで時間があったので、しばしアブダビの街を散策。それにしてもアブダビは美しい。来る前は砂漠にラクダのイメージだったが、とんでもない！ 透き通る海、美しい海岸線、近代的な街並み、そしてカラッとした心地よい暑さ。至るところにある巨大な王の肖像画を除けば、これはアメリカ西海岸、ロサンゼルスのよう。元気が一番！ 今日もサンタモニカの朝が始まる、という感じである。

午後、選手バスに同乗させてもらい、いよいよ会場へ向かう。会場は総合運動施設内にあり、格闘技場以外に、テニスコート、ゴルフ場、競馬場、さらにらくだレース場（！）まである巨大で豪華な施設。『アブダビ』が開催される建物は、中にはいると大阪府立体育会館を少し小さくした感じでなるほど見やすい。さすが『アブダビ』を開催するためだけに作られただけのことはある。館内の中央、一番見やすい場所には、国技館の天皇観覧席のような豪華な王族席がある。我々

大会前日と初日の試合前に、日本選手団の合同練習が行われた。ここには日本での公開合同練習を欠席した田村も参加。TK、宇野薫、そして菊田と最終調整を行っていた。特にTKにはTKシザースを伝授されたり（右）、菊田にスイープのコツを尋ねたりと、貪欲な田村がそこにいた。

取材陣は近寄ることすら許されない席であるが、昨年はここに前田日明総帥が座っていたのだから凄い。今回は前田総帥のアブダビ行きが取りやめになったのが実に残念。王子と日明兄さんのツーショット、見たかったな。

初日は本戦は行わず、アラブ人だけのトーナメントと、開会式が行われた。

開会式は世界中から100人以上の選手が参加するだけになるほど豪華。国ごとにプラカードを持った女性（みんなメチャクチャかわいい）に先導されて入場する姿は、オリンピックのよう。気持ちが高揚してくる。昨年はここへ王子がサスケ社長や『プロレス・スターウォーズ』でのフレアーばりに軍用ヘリで登場したと聞いたので、非常に楽しみにしていたのだが、今回は普通で残念。

今日の仕事はここまで、明日はいよいよ本大会。昨年はお昼に始まって、終わったのが深夜12時という過酷すぎる大会だったようなので、体力回復のため早く寝る。

大会2日目、いよいよ本戦開始である。アブダビはマットが2面あり、2試合が同時に試合が行われる。1回戦ぐらいなら、これでもまだいいが、勝ち上がるにつれ両面で見逃せない大物同士の対戦が組まれることもしばしばで、今回カメラマンも兼ねていたボクは常に両面を行き来することになり、忙しいことこの上なし！　王子はどうやって2試合同時に見てるのか、不思議。

個別の試合については他のページを見てほしいが、『アブダビ』の試合を見た、全体的な感想を言えば、想像していたよりずっと面白いということ。

来る前までは、ポイントの取り合いに終始して、地味で面白みのない試合が多いと予想していたのだが、このポイントの取り合いもハイレベルになれば、これほどまでに興奮する試合になるものなのかと感心。

例えば菊田の試合は、本人も「紙一重の勝利」というように、1回戦から決勝戦まですべて僅差のポイントでの勝利。野球で例えれば、1－0の投手戦をものにしてきた形。ホントにひとつポイントを奪われた方が負けるという、緊張感溢れるモノだった。

菊田は試合時間目一杯集中力を途切らすことなく守り抜き、相手のミスを見逃さずにパスガードを奪う。そのパスガードが決まったときの興奮！　パスガードひとつでここまで興奮できるとは思いもよらなかった。

この菊田の試合を始め、『アブダビ』を見て感じたのは、「膠着が悪」だなんていうのは、ウソだということ。

菊田の試合は自分か相手がガードポジションを取った体勢での攻防が大半。言うなればほとんどが膠着である。しかし、その膠着した攻防を凝視することで初めて、パスガードの瞬間を見逃さないことができる。

これは何かに似ていると思ったら「昭和プロレス」だった。昭和プロレスも大技は最後までなかなか出ることはなく、言うなれば退屈な展開。しかしその攻防をくそ真面目に見ることで、フィニッシュホールドが出たときの興奮がある。つまり、「菊田のパスガード」は「猪木の延髄斬り」だったのだ。

アブダビで昭和プロレスを思い出すとは思いもよらなかったが、これによって今『PRIDE』がなぜイマイチ面白くないかもわかった気がした。

『アブダビ』の試合が、みんな投手戦のような試合かと言えば、それは違う。やはりこれだけの寝技の達人同士が闘うだけに、UWFスタイルもビックリの回転体も見られる。

その代表的な試合が別ページでも特集した高阪vsホーレス・グレイシー戦。オリジナリティ溢れるTKのグラウンドはもっともっと評価されていい。

結局この日は全階級の2回戦までやる予定だったが、進行がスムーズだったため、急遽準決勝まで行われた。一日で気が遠くなるほどの試合数をみたが、実に収穫の多かった大会二日目であった。

最終日は各階級の決勝戦と、無差別級トーナメントを開催。

さすがに決勝ともなるとムードが全然違う。選手もプラカードカールに先導され、映画音楽に乗って入場。しかし試合はこの期に及んでまだ2面同時進行。つくづく王子は決勝戦ぐらいじっくり見たくないのか、と思う。

結局、この日は菊田優勝の感動、TK完敗の衝撃、アローナの絶対的な強さなど、『PRIDE』やKOKに負けないほどの面白さと興奮を味わうことができた。

大会終了間際、スタンド席で田村と話しをした。菊田が優勝する中、田村は1回戦でリボーリオに一本負け。田村は何を思って試合を見ていたのか。田村の話で印象的だったのは、「リボーリオは全然強くない」「何年かかるか分からない。ボクの弟子でもいいから、アブダビにリベンジする」「菊田は凄い。でも凄い分、これからが大変」という三つの言葉。読者のみなさんには、この言葉の向こう側にある感情や、言葉の意味を噛みしめてい。ボクはやはりメインイベントを長年張ってきた男は違うと、つくづく感じた。

田村潔司というレスラーを感じてほしい。ボクはやはりメインイベントを長年張ってきた男は違うと、つくづく感じた。

アブダビに滞在したのは僅か3日半。しかし、いろいろな"気づき"を与えてもらうに十分な体験をさせてもらった。

さて、菊田、田村、TK、谷津らはアブダビから何を得、何を持ち帰ったか。それをこれからの試合で確かめるのが実に楽しみである。

アブダビコンバット2001

（写真・1）4月11日、大会初日の午前中に行われたルールミーティング。ほとんどの選手が正式なルールなポイントをこの時に知るというのが凄い。そしてこのミーティングで通訳をやっていたのが、ボブチャンチンの通訳でお馴染み、オバチャンチンことボルシェフスカヤ女史。なんでいるんだよ！　と思いきや、どうやらウクライナ選手のブッキングを担当した模様。それにしても謎が多い人だ。（写真・2）どこかで見た顔！　と思ったら、第1回KOKでコピィロフに16秒殺された柔術世界王者カステロ・ブランコじゃないか。話を聞いてみると、あのコピィロフのヒザ十字で靭帯を損傷。ヒザを手術したため、ずっと試合ができなかったとのこと。恐るべしコピィのヒザ十字！　ブランコは「絶対リングスに戻って、コピィロフにリベンジしたい」と語っていた。（写真・3）これが『アブダビ』が開催された「アブダビ・ヘルス＆フィットネスクラブ」。実に立派な建物だった。（写真・4）大会終了後、見事優勝をはたした菊田を囲んで日本人全選手で記念撮影。今回の日本選手団は非常にいいムードだった。しかし、そこ田村と谷津の姿はなかった。4月13日、田村潔司はどこへ……。（写真・5）『DEEP』の佐伯社長もアブダビを視察に来ていた。夏に予定されている第2弾興行に参加させる選手の物色か。佐伯社長、バーリ・トゥードでのホイラーvsバレット・ヨシダ組んでください、おねがいしま〜す！（写真・6）田村潔司と烏合會の矢野卓見という異色のツーショット。こんな組み合わせが見れるのもアブダビならではである。（写真・7）アブダビ・ヒルトンホテル前のプライベート・ビーチ。アブダビはこんなにも美しいのだ。

菊田と共に新宿スポーツセンターで練習する仲間や、山梨学院大勢に祝福の胴上げをされる菊田

77 Kg to 87 Kg - Weight Class - ADCC 2001

"寝技日本一"菊田早苗、寝技のオリンピックを制す!!

アブダビに日の丸掲揚!!

菊田がやってくれた！ "組み技世界一決定トーナメント"と呼ばれる「アブダビコンバット（世界サブミッションレスリング選手権）」で、日本人が次々と緒戦敗退する中、菊田はE・ターナー、C・ブラウン、イーゲン井上ら世界の強豪を次々と下し、決勝進出。そして最後は柔術世界選手権5連覇という、とんでもない実績を持ったサウロ・ヒベイロにも完勝！ 見事、寝技世界一の座に輝いた。

今回の菊田の闘いぶりで最も感心したことは、菊田が日本人で唯一この大会での闘い方を身体で熟知していたこと。自分のミスを極力抑えて相手のミスは見逃さない。そして確実にポイントを奪うということが、できていたのは菊田だけだ。それが菊田と他の日本人選手の唯一にして最大の差である。アブダビは「組み技のオリンピック」と呼ばれるが、オリンピックが0・1秒、争う競技であるように、この『アブダビ』もいかに紙一重勝ち抜くかが勝負。だからこそ、この優勝は価値がある。

アブダビに日の丸を上げた菊田は日本の誇りである！

87kg以下級　決勝戦
菊田早苗（20分 2-0）サウロ・ヒベイロ

まず最初にテイクダウンを奪ったのはヒベイロ。しかし菊田は試合開始後5分間はポイントが入らないルールに助けられる（その後菊田もテイクダウンに成功）。ヒベイロにパスガードさせない、菊田の守りの堅さも目立った。

試合途中から明らかに疲れが見え始めたヒベイロに対し、菊田は押せ押せムード。そして試合後半、遂に菊田がパスガードに成功！ トップ柔術家から力と技でポイントを奪い取った！ これは快挙だ！

ポイントを取った後も集中力が途切れない菊田。結局は昨年覇者にして、柔術世界王者ヒベイロに完勝！ 日本応援席は大騒ぎ！ 菊田が格闘技界に新たな1ページを記した！

パンクラスTシャツを着たリボーリオも菊田を祝福。菊田の寝技の実力は、今回の優勝によってブラジルの大物柔術家にも認められたのだ。

優勝直後の声

菊田　やったーっ！

郷野　よかったぁ～（感極まって抱きつく）。

――おめでとうございます！

菊田　ありがとうございます！　最っっっ高ですね！

――寝技世界一ですよ！

菊田　いやいや。でも、こういうルールなんでね、紙一重ですよ。トーナメントなんで運もあるし。こうなるとにかくねぇ、技術より根性論の世界なんですよ。"ザ・ガマン"の世界なんで。

――集中力が途切れなかった。

菊田　そういう意味では、諦めなかった自分に「ありがとう」ですね（笑）。2年前に1回戦で負けて、壁を知ったんですけど、今回は調子良ければベスト4までいけるんじゃないかとは思ってたんですよ。でも、前に1回戦で負けてるのにそんなこと言っても何の説得力もないんで、こっちに来て証明したかったし。とはいえ、1回戦突破がホントに難しい大会なんで。1回戦から決勝までまったく一緒ですよ、相手のレベルは。だから、来年は1回戦で負けるかもしれないと言っておきましょう（笑）。ただね、サウロ・ヒベイロは一番尊敬していた柔術家なんで。彼はアブダビでも3年連続で決勝まで来た選手ですから。彼をパスガードできたっていうのがもう……嬉しい！　死んでもいい!!　パスガードした瞬間はね、もう2度と忘れないです！　皆さんも忘れないでください！（笑）。あと、これ（Tシャツ）がボクのスポンサーです。

――スポンサーつきましたか！

菊田　つきました！　優勝して（スポンサーマネー）3倍です！　ありがとうございました！

腹固め！

TKシザースからの十字固め！

TK Eメールコメント

ホーレス戦

試合は負けでしたけど、自分的には色々できて面白かった。ああいう試合をやったら負けるって事もわかっていたんですけど、今回は我慢できなかったです。しばらくやってなかったですからね、グラウンドで動き回る試合って。

−98キロ級1回戦

○ホーレス・グレイシー（10分　5−2）髙阪剛●

TKの相手ホーレスはヒクソン以前に「一族最強」と呼ばれた伝説の柔術家ホーウスの息子。サラブレッドだ。

結果だけ見ればTK2連敗 されどこれだけは伝えたい

『アブダビ』のベストバウトは

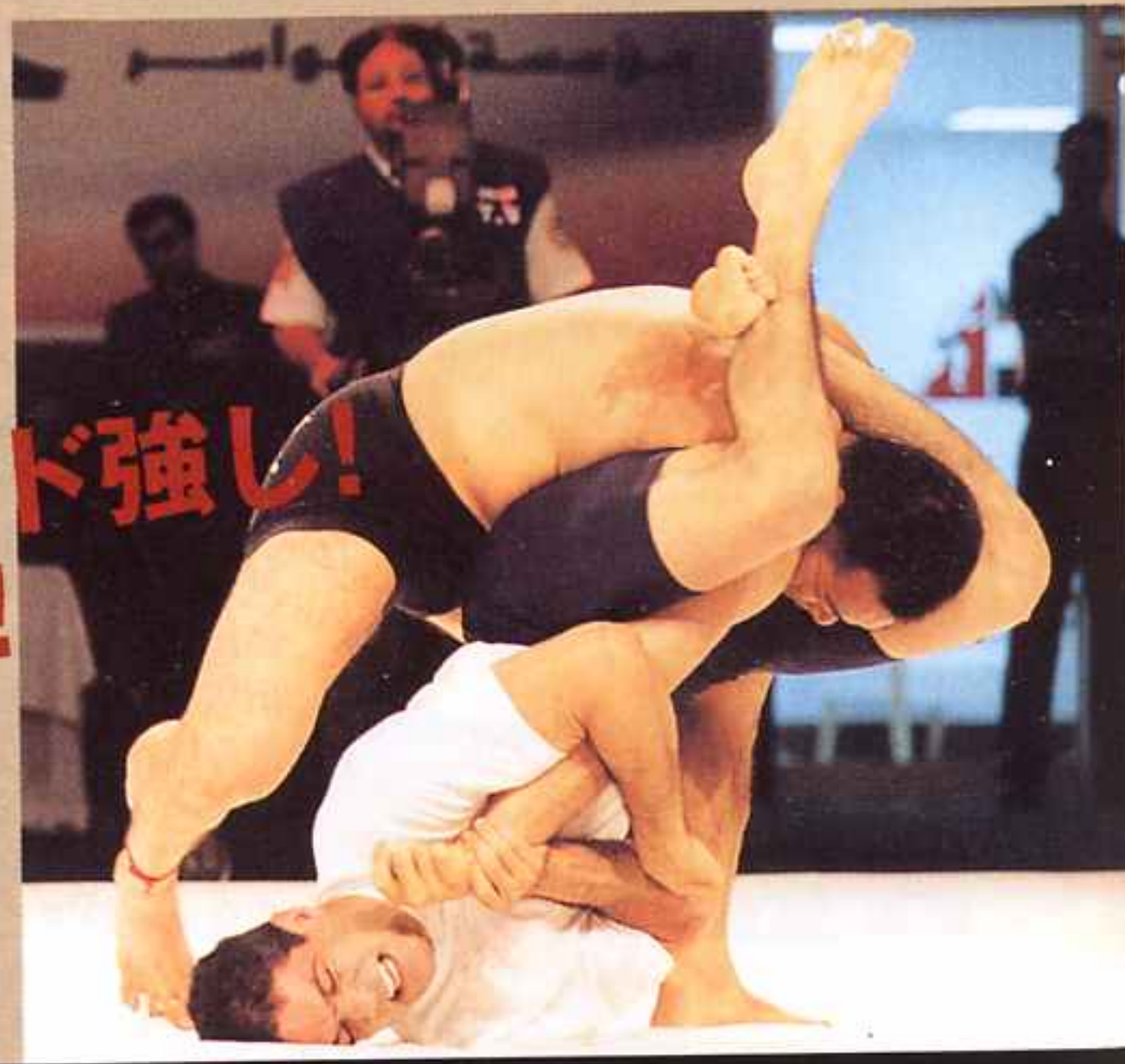
髙阪vsホーレス・グレイシーだ!!

TK Eメールコメント

マチャド戦

触った瞬間この人は強いって思った。でも、自分自身の残りの集中力なんかを考えても長引く試合は止めようと思っていたので、小細工はやめて自分の得意のポジションから攻撃しようと思い、わざと押さえ込ませたんです。でも、マチャドの方が１枚上でしたね。自分のやろうとしていることをまるで吸い取っていかれる様な感じがしました。

左手のないジアン・マチャド強し！ あのTKが何もできない!!

ジアン・マチャドは生まれつき左手の指が3本ない柔術家。あの手でどうグリップするのかと不思議だが、ハンディばかりじゃなく、手が小さいことで僅かな隙間でも手をこじ入れて極めることができるのだという。その極めの強さは今大会ナンバー１か。

無差別級１回戦

○ジアン・マチャド（腕ひしぎ十字固め）髙阪剛●

今回『アブダビ』の取材をして、2日間で96試合という度を超えた数の試合を見てきたわけだが、その膨大な試合数の中で最も日本のファンに伝えたいと思った試合が、高阪vsホーレス・グレイシーである。

『アブダビ』は、いまのところテレビですら見ることができないから、2戦2敗という結果だけを見たファンから「なんだTKダメじゃないか」と思われることはしかたがない。しかし、実際は誰もが絶賛する試合をTKは見せていたのだ。

アブダビ初試合でTKはホーレスを相手に、TK独特としか言いようがない動きで、次々と関節を仕掛け周囲を驚かせる。その姿は初来日当時のヴォルク・ハンを見るよう。こんな芸当を見せたのは80人以上の参加選手の中でTKだ。

結局ポイント無視の闘い方だったため、結果的には負けてしまったが、この試合を見てTKを弱いと思った人は誰もいないハズ。TKもこの試合で「イケル」という感覚が掴めたらしく、すぐさま無差別級へのエントリーを志願。しかし、この無差別級1回戦で先ほどとは逆の衝撃を受けることになる。

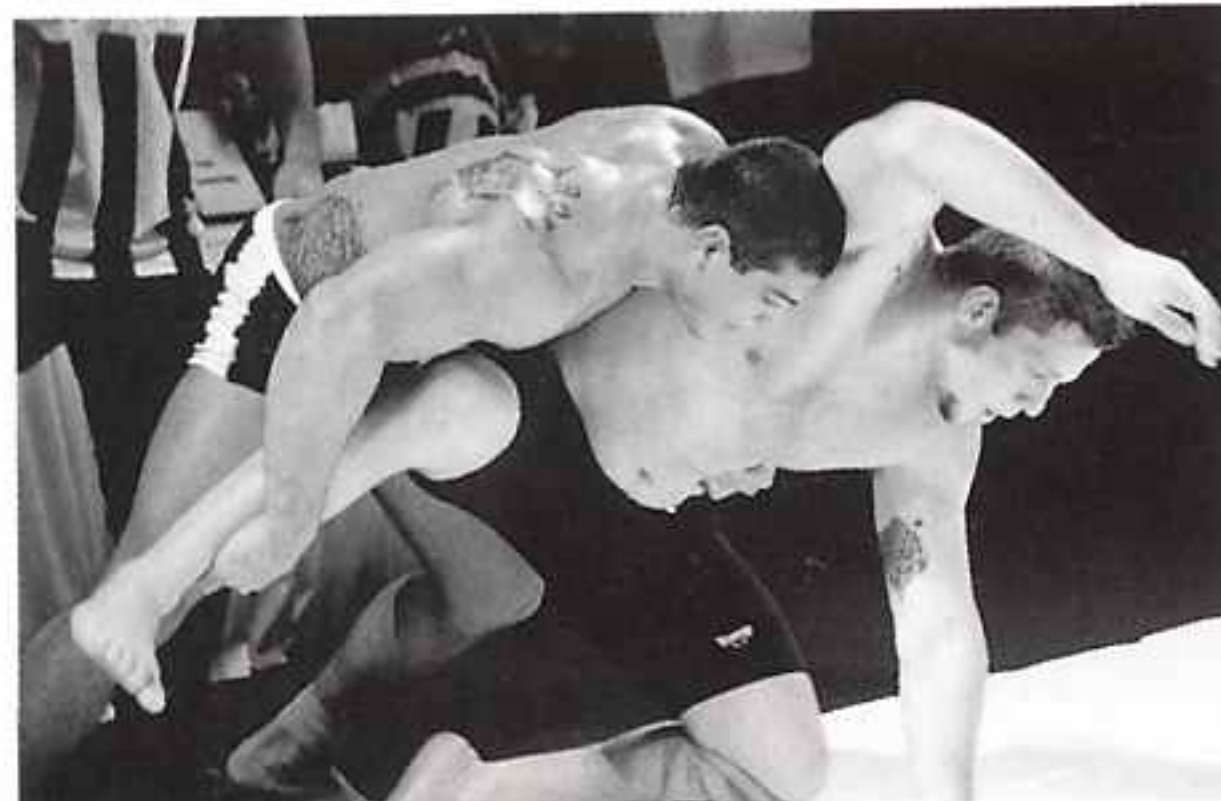
なんとTKが何もできないまま一本負け。とにかく実力が違うとしか言いようがない。それぐらいの完敗だった。結局これで2戦全敗。でも、これでよかったのだ。TKも「今回は、いま自分には一体何ができるのかという事をこの試合をやる事によって知りたくて出たので、純粋にやって良かったと思う」と言うとおり、現時点での『アブダビ』への対応力がわかっただけでも収穫だ。

今回優勝した菊田も初出場の2年前は1回戦負けだった。マット界随一の頭脳派であるTKのこと、来年またこの『アブダビ』に出場することになったら、あっと驚くオリジナルの必勝法で勝ち上がる姿を見せてくれるに違いない。

-87kg級で菊田に敗れた汚名返上のためか、無差別級にも出場したヒベイロ。しかし１回戦でアローナと当たってしまい、完敗。ブラジル格闘技界はいまや完全にアローナの時代だ！

見事２階級制覇をはたし、アブダビの王族に囲まれるアローナ。アローナはスペーヒーと共にＡＤＣＣの先生でもあり、「アローナ」コールが起こるなど大人気。すっかり英雄だ。

“ブラジルの超新星”が堂々2連覇達成！ 組み技のキング・オブ・キングスは ヒカルド・アローナだ!!

ー98kg級 今大会最大の激戦区 アローナがアルメイダを破り優勝

動けるヘビー級ということで、事実上の最強を決定するこの階級。アローナvsババルという、若きブラジル頂上対決が実現。どちらも攻め込めない互角の攻防が続いたが、後半アローナが遂にテイクダウンに成功！ それが決めてとなりアローナに凱歌が上がった。次はこの対戦、ＫＯＫで見たい！（写真・上） 昨年ＫＯＫに出場し、金原に敗れたカカレコも出場。170cmと小柄ながら、３位入賞の殊勲。この選手に一本勝ちした金ちゃんてやっぱり凄い（写真・中）。この階級のダークホースはノルウェーのアイネモ。２メートルの長身を活かした懐の深さで、ヒーガン・マチャドを破る金星を上げてベスト４の成績を上げた。ＶＴの経験もあるので、ゼヒ日本に呼んでほしい（写真・下）。

無差別級 どうにも止まらないアローナ旋風 ヒベイロ、ビクトー、マチャドを撃破！

全階級の中から「我こそは」と志願した選手を集めて行われる無差別級。それだけにアブダビでも無差別級優勝者が真の王者と評価されている。だからこそ優勝したアローナは凄いとしか言いようがない。準決勝ではＢ・トップチームの兄弟子ビクトーと対戦し真っ向勝負で見事ビクトー越えに成功（写真・上）。決勝では“名人”ジアン・マチャドと緊張感溢れるハイレベルな闘いを展開。下からの極めを狙うマチャドからパスガードを奪い、文句なしの勝利。若干23歳にして世界の頂点に立った！ 試合後アローナに話し掛けると「次は６月にリングスに出て、ベルトを奪うよ」と宣言！ “アブダビのキング・オブ・キングス”アローナの勇姿は６・15横浜で見られる！

88kg〜98kg級

優勝：ヒカルド・アローナ

ユーリ・ステツェンコ
ヒカルド・アルメイダ
ディーン・リスター
矢野倍達
マーク・ライモン
アレシャンドリ・カカレコ
ステファン・ボトヴィン
チャエル・ソネン
ルスラン・マシュレンコ
ヒカルド・アローナ
藤田尚史
レナート・ババル
ヒーガン・マチャド
ジョン・オラヴ・エイネモ
高阪剛
ホーレス・グレイシー

99kg超級

優勝：マーク・ロビンソン

ジェフ・モンソン
アレバントロ・アスバス
トム・エリクソン
ホベルト・トラヴェン
マイク・ヴァン・アースデイル
マーシオ・ベ・ジ・バーノ
レオ・カステロ・ブランコ
ジアン・アルバレス
福田大樹
ビクトー・ベウフォート
マーク・ロビンソン
ヴァレリー・ユレスクル
ロジャー・ネフ
アンソニー・ペロシュ
リコ・ロドリゲス
谷津嘉章

無差別級

優勝：ヒカルド・アローナ

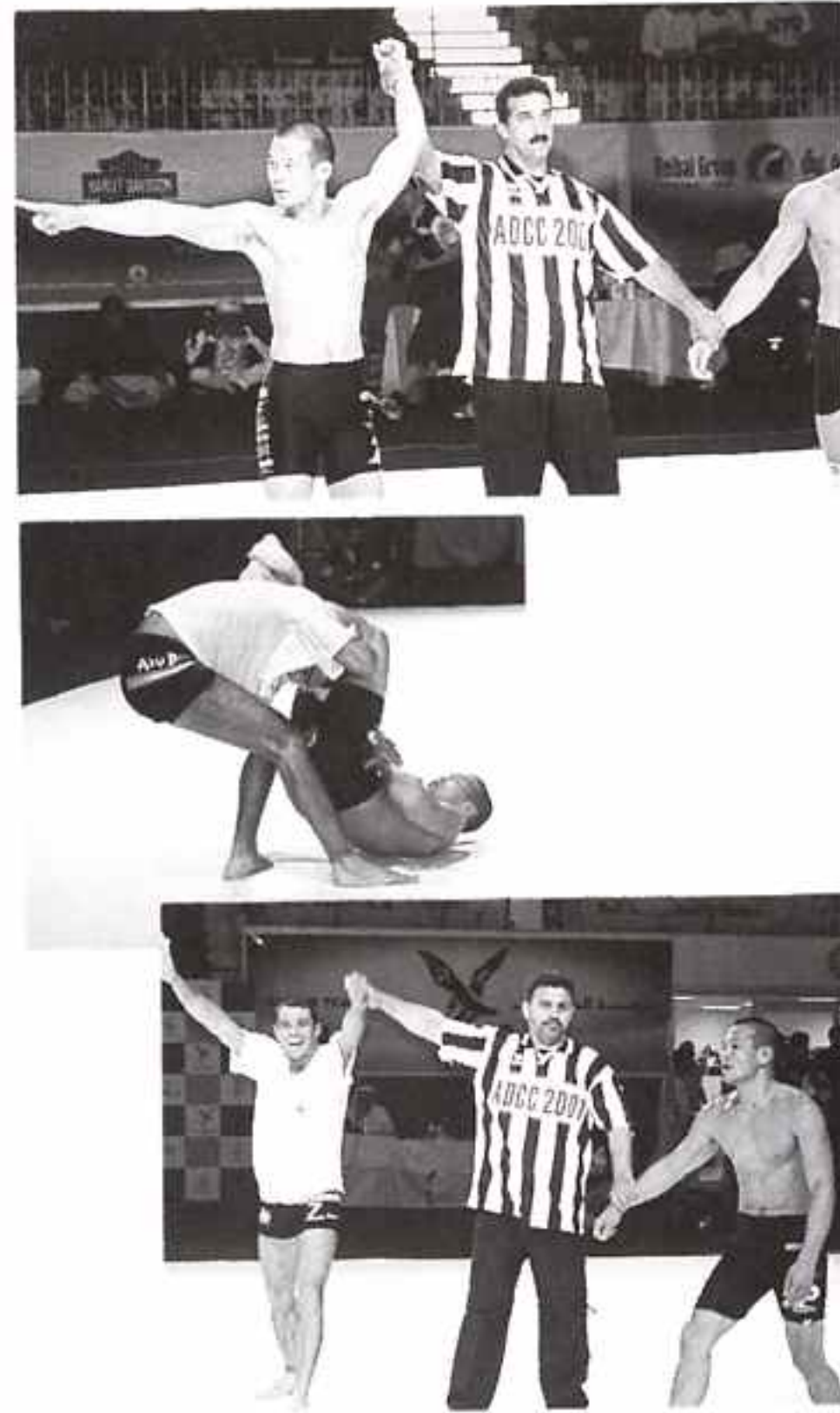
矢野倍達
サウロ・ヒベイロ
ヒカルド・アローナ
ロジャー・ネフ
ビクトー・ベウフォート
須藤元気
リコ・ロドリゲス
アレシャンドリ・カカレコ
ショーン・アルバレス
マイク・ヴァン・アースデイル
ルシアン・マシュレンコ
ヒカルド・アルメイダ
マーシオ・ベ・ジ・バーノ
ホベルト・トラヴェン
高阪剛
ジアン・マチャド

−76kg級

ヘンゾ軍団大躍進！宇野ら日本人5人は緒戦で姿消す

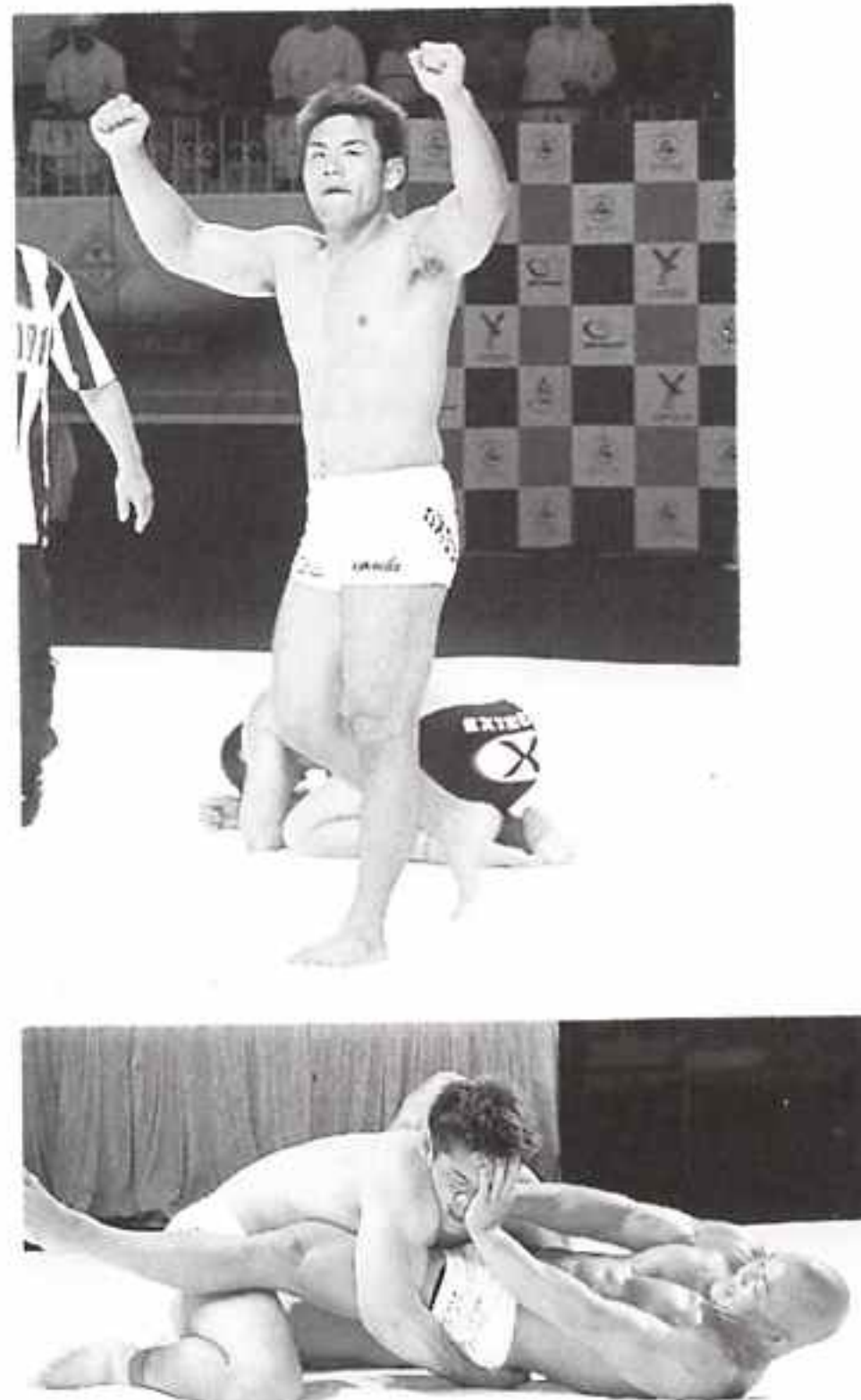
宇野、元気、五味、加藤、池田と日本人が５人も出場し、上位進出が期待されたこの階級。特に先日惜しくもＵＦＣ王座奪取ならなかった宇野にメジャータイトル獲得の期待が集まったが、強烈なバックドロップを食らってしまうなど完敗（写真・下）。結果は１回戦で５人全滅という残念な結果に終わり、世界の壁を見せつけられる格好となった。逆に実力を大いに発揮したのがヘンゾ軍団。フェイトーザが優勝しただけでなく（写真・上）、ベスト４の内３人をヘンゾ軍で独占する大活躍。中でも優勝こそ譲ったものの、ジアン・マチャド、レオ・サントスという大物を下したマット・セラの強さが目立った。これで柔術歴４年なのだから恐れ入る。

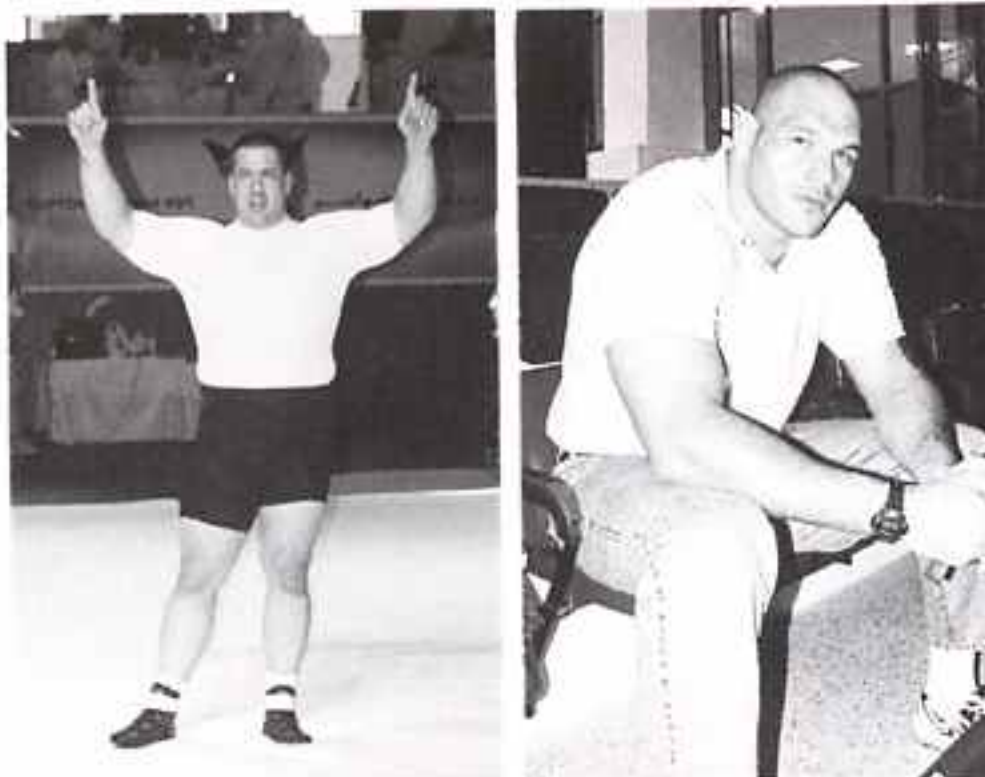
−65kg級

因縁のホイラーvsバレットはまたしても僅差でホイラーに凱歌！

"東洋の神秘"矢野卓見（写真・下・小）が出場したこの階級。昨年ホイラーを攻め込みながら不可解な判定負けを喫したバレット・ヨシダが、今度こそホイラーから勝利を奪えるかが最大の見所。二人は順調に勝ち上がり、準決勝ではバレットが勝ち名乗りを受けながら、隣のマットで試合中のホイラーを指さす（写真・上）など、"因縁の対決"ムードが大いに盛り上がった。決勝はバレットが下から極めにかかり、それをホイラーが凌ぐ展開に終始。結局何度か極まりそうなシーンがあった（写真・中）ものの、結局ホイラーが凌ぎきり、引き込みのマイナスポイントを取られたバレットが、またしても涙を飲むこととなった（写真・下）。ＶＴでの決着戦が見たい！

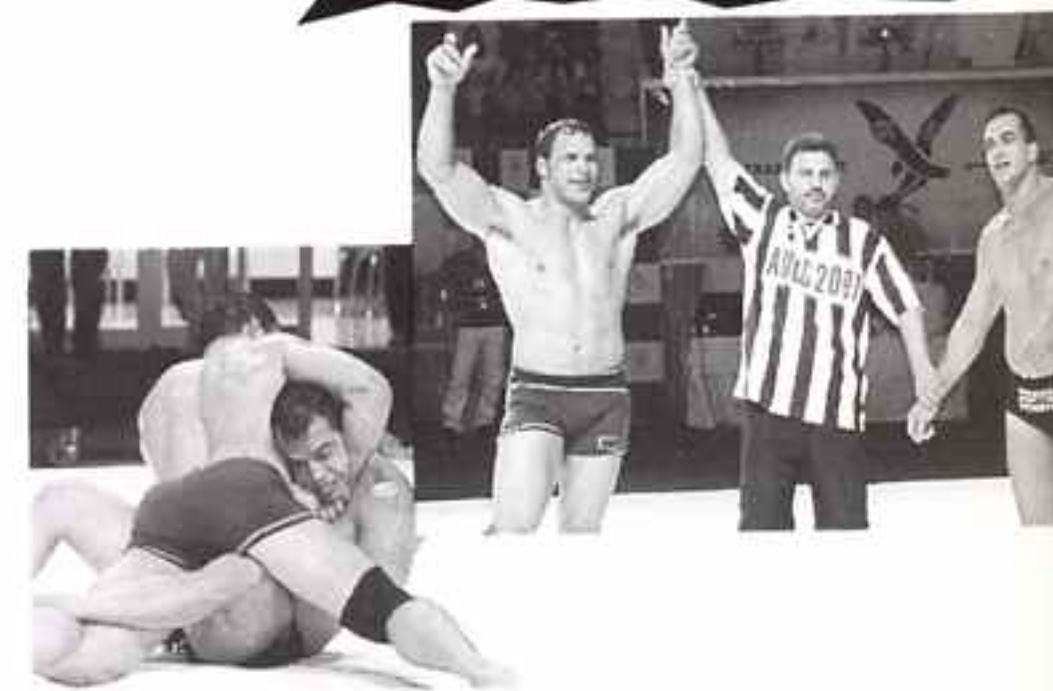
−87kg級

ヘンゾまさかの1回戦負け そして菊田が日本人初の快挙!!

菊田の快挙に尽きるこの階級。菊田はまず緒戦で２月にＵＦＣミドル級王座に挑戦したばかりのタナーに６−０で完勝すると、２回戦ではヘンゾを破ったクリス・ブラウンと対戦。オリンピックレスラーだというクリスのスタンドレスリングに苦しみながらも６−４で快勝（写真・上）。準決勝では、このルールでは『ＰＲＩＤＥ・14』でメッツアーにアッサリ負けた人と同一人物とはとても思えない強さを発揮するイーゲンと対戦。ほとんど互角の展開から、菊田は片足を掴んでのテイクダウンに成功！　遂に決勝に進出（写真・下）。そして決勝、あのサウロ・ヒベイロからパスガードを奪って優勝。１回戦から決勝まで大物揃い、そしてその全員からテイクダウンやパスガードでのポイントを奪っての勝利はホントに凄いことだ。ビバ、菊田！

＋98kg級

どすこ〜い！相撲が寝技世界一？

どうにももっさり感が漂いまくり、谷津敗戦後は日本人プレスの注目度が極端に落ちたこの階級。優勝はなんと世界相撲選手権２位のマーク・ロビンソン（写真・左）。しかし、そのただ倒れないだけの闘いぶりは退屈この上なし、やはり来年は負傷欠場中の柔術怪獣モラエス（写真・右）に、大暴れしてもらいたいものなのだ。

ケアー、アブダビに敵なし！

昨年の無差別級王者ケアーとスーパーファイト王者のスパーヒーが対戦した頂上対決。試合はスペーヒーが下から仕掛け、ケアーが漬け物石のように動かないという展開に終始。途中、一度のテイクダウンを奪いスペーヒーの首を「それ以上やったら死ぬだろ」というくらい締め上げたケアーが２−０で勝利。来年はケアーが無差別級王者アローナの挑戦を受けることになる。

スーパーファイト　20分
○マーク・ケアー（20分　2-0）マリオ・スペーヒー

65kg以下級

優勝：ホイラー・グレイシー

ホイラー・グレイシー
マーティン・ブラウン
平井満生
マイク・カルドソ
ジョー・ギルバート
フレデリン・パイシャン
ホブソン・モウラ
阿部裕幸
グスタボ・ダンテス
バレット・ヨシダ
シャン・ノエル・シャロレイス
植松直哉
アレシャドレ・ソッカ
小西良徳
矢野卓見
コンスタンチン・ヴラチェス

66kg〜76kg級

優勝：マーシオ・フェイトーザ

須藤元気
ホドリゴ・グレイシー
ギャビン・カルバー
池田秀治
ペーター・アンガラー
マーシオ・フェイトーザ
宇野薫
フェルナンド・ヴァスコンセロス
レオ・サントス
加藤鉄史
レオジーニョ・ヴィエラ
モリス・クリフォニ
セルゲイ・オニシュク
ジアン・マチャド
マット・セラ
五味隆典

77kg〜87kg級

優勝：菊田早苗

アンドレアス・シュミット
アレクサンダー・サフコ・サシャ
郷野聡寛
アントニオ・"ニーノ"・シェンブリ
サウロ・ヒベイロ
トラビス・ルター
小幡邦彦
リチャード・アンダーソン
クリス・ブラウン
ヘンゾ・グレイシー
菊田早苗
エヴァン・タナー
ヒカルド・リボーリオ
田村潔司
イーゲン井上
ヴォロディミール・ザルコフ

ヘンゾとは境遇が似てるよね

本誌独占
スクープ対談

田村潔司

RINGS JAPAN/ U-FILE CAMP

あの歴史的一戦から1年2ヶ月……アブダビで夢の顔合わせ再び実現！

夢の祭典『アブダビ・コンバット』で夢の対談が実現！あの武道館に『UWFのテーマ』が鳴り響いた、UWFとグレイシー一族の威信を懸けた感動の一戦から1年2ヶ月。ここアブダビで田村潔司とヘンゾ・グレイシーが再会をはたした！『紙プロ』だからできたこの対談。『Uのテーマ』を口ずさみながら読め！

ゾ・グレイシー

ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー

——今日は素晴らしい顔合わせが実現できて、実に光栄です！

ヘンゾ　ノーノー、タムラサンというビッグスターとスモールスターの対談だよ（笑）。

田村　よく言うわ（笑）。

——お二人が会うのは、武道館でのリング上以来ですか？

田村　いやいや、一回ね東京の焼き肉屋で会ったんですよ。

ヘンゾ　イエス。東京ドームの近くだね。

——いつ頃の話ですか？

田村　一ヶ月ぐらい前。ヘンゾが『PRIDE』で試合を控えてたときだから、ちょっとだけ、その話をしたんですよ。

——そうだったんですか。あの試合以来の再会の方が紙面的には良かったんですけどね（笑）。では、いまさら聞くのもなんなんですけど、1年前の試合の感想を聞かせてください。

ヘンゾ　タムラサンはベリー・ストロング！特に立ち技のパンチがスムーズなのは驚いたよ。

田村　その割にはパンチあんま当たんなかったけどね（笑）。

ヘンゾ　いや、実はボクが試合で顔を殴られたのは、あのときが初めてだったんだよ。それまでは、一度もパンチを顔に受けたことがなかったからね。

田村　え？　マジ⁉

ヘンゾ　あのとき、ボクが立ち上がろうとしたとき、タムラサンの右フックが飛んで来た、あれが初めてだよ。

田村　ああ、確かにやった。そうだったんだ。

——田村さんから見たヘンゾ選手の印象はどうですか？

田村　いや、あの試合のあとで『アブダビ』で優勝したでしょ？　だから勝つには勝ったけど、寝技に関してはボクの方がもっともっと勉強しなきゃいけないと思いましたね。それくらい巧い選手だと思いますよ。

ヘンゾ　そう言うけど、タムラサンも凄くグラウンド強かったよ。タムラサンの他の試合のビデオを見ても凄く感心したからね。でも、ひとつアドバイスさせてもらえば、アームバー（腕ひしぎ）のディフェンスをもっとしっかり覚えたら、いま以上によくなると思う。ボクが見た試合の中でタムラサンが唯一負けてるのが、アームバーだから。ミノタウロ（ノゲイラ）に負けたときも、今回リボーリオに取られたのも、どちらもガードポジションからのアームバーだからね。

田村　あ～、確かにそうですね。

——ヘンゾ選手は田村選手の試合をよく見てるんですね。

ヘンゾ　うん、すごくいい選手だから、研究にもなるし、試合が楽しみだからね。

——アブダビのタハヌーン王子も、田村vsヘンゾ戦のビデオを見て、「ヘンゾに勝った凄いやつがいる」って田村さんを高く評価していたらしいですね。

ヘンゾ　そうみたいだね。

——裏を返せば王子はそれだけヘンゾ選手を最上級に素晴らしい選手だと評価しているということなんでしょうね。

ヘンゾ　王子とはすごくいい友達だからね（ニッコリ）。

田村　友達なの⁉

ヘンゾ　二ヶ月半前にも一度アブダビに来て、王子に柔術を教えていたんだ。

田村　え！　マジで⁉

ヘンゾ　うん、『PRIDE』に出る前に1週間ほど来たんだよ。

田村　へ～、『PRIDE』に出る前ににアブダビ王子に柔術の個人授業かぁ……稼いでるねぇ！（笑）。

ヘンゾ　ノーノー。別に法外な授業料をもらってるわけじゃないよ。ただ、リトル・ギフト。

強しなきゃいけないと思いましたね。それくら

てるわけじゃないよ。ただ、リトル・ギフト。

寝技に関してはヘンゾから勉強になる部分が沢山ありますからね

ちょっとした贈り物をもらうことがあるだけだよ。

——"リトル・ギフト"って、何をもらったんですか?

ヘンゾ　ボクは3月11日が誕生日なんだけど、誕生日の朝目が覚めたら、家に●●●が届いていたんだよ（笑）。

田村　まじっスか!!

——ガハハハハ！　とてつもない"リトル・ギフト"ですね！（笑）。

田村　へぇ～～、凄いなぁ。

——今回はもう王子とはお話したんですか?

ヘンゾ　うん、昨日大会が終わった後に話をして、王子には「少なくともあと3日間はアブダビにいてほしい」と言われたよ（ニッコリ）。でも、5月4日のUFCに弟子のマット・セラとヒカルド・アルメイダが出るから、あんまり長く滞在できないんだ。

田村　弟子って何人ぐらいいるの?

ヘンゾ　今回出場した中ではさっきの二人の他にショーン・アルバレス、それからホドリゴ・グレイシーだね。みんな実力を発揮していい結果が出せてよかったと思うよ。

田村　それは先生がいいからでしょうね。

ヘンゾ　オ～、タムラサン、マンゴージュースおかわりどうぞ（笑）。

田村　あ、どうも（笑）。

——準決勝ぐらいになると、ほとんどの試合でヘンゾ選手がセコンドについていたくらいヘンゾ軍団の活躍は目覚ましかったですよ。

ヘンゾ　もう、声を出しすぎたから、今日は声が出ないよ（笑）。

田村　へ～、凄いなぁ。（ヘンゾに向かって）あんたは凄い！

ヘンゾ　サンキュー（ニッコリ）。マンゴージュースもうひとつどう?（笑）。

田村　もういい、もういい（笑）。

——田村さんもこれから弟子をアブダビに送りたいって言ってましたよね。

ヘンゾ　オ～、ナイス！　タムラサンもスクールもってるの?

田村　イエス（笑）。ボクがアブダビにリベンジするのはもちろんなんですけど、ボクだけじゃなくて弟子もこれからみっちり練習させて、2年かかるのか3年かかるのかわからないですけど、出したいですね。

ヘンゾ　それは素晴らしいね。タムラサンみたいに経験豊富な選手がジムをやって、生徒に教えるということは凄くいいことだよ。格闘技界では結構いい選手が後進の指導をすることなく、年を取ったらそのまま辞めてしまうケースが結構多いので、タムラサンのように技術と経験を伝えていくことは非常に大事なことだよ。

田村　うんうん、なるほどね。ヘンゾっていま（歳）いくつ?

ヘンゾ　サーティーフォー。

田村　34才!?　いつごろまで現役続けようと思ってるの?

ヘンゾ　アフター、ヒクソン！　ヒクソンが引退するまでは辞められないよ（笑）。だからヒクソンが引退した2年後に引退するよ

田村　へ～、マジで!?　頑張るなぁ。疲れとか残らない?

ヘンゾ　ボクの周りにはアブダビで活躍するようないい弟子が集まっているんだけど、道場でスパーリングをしても彼らには負けないんだ。だから自分ではまだまだできると思ってるよ。

——あの蒼々たるメンツの中で負けないっていうのは凄いですね。

ヘンゾ　いまは幸い試合するのに非常にいい環境に恵まれていて、経済的なことを心配しないで試合に打ち込めるような環境にあるんで、まだ自分自身試合集中していけるんだよ。

田村　は～、いいなぁ。

残念！　田村、ヘンゾ揃って1回戦敗退！

ヘンゾ初戦の相手はオーストラリア予選優勝者のブラウン。ヘンゾはテイクダウンを試みるために組み付こうとするが、ブラウンはバックステップで逃げるという本来ならば反則行為でグラウンドにいかせない。徐々にイラついてきたヘンゾが不用意に組み付いてきたところへ、ブラウンは片足を取りテイクダウンに成功！　ヘンゾはなんとか挽回しようとスイープを試みるが成功せず。結局このポイントでブラウンに逃げ切られてしまった。

−98キロ級1回戦
○クリス・ブラウン（10分 3-0）**ヘンゾ・グレイシー●**

田村の記念すべき『アブダビ』デビュー戦の相手は、なんとB・トップチームの重鎮リボーリオ！　いきなり昨年の準優勝者との対戦となった。試合開始直後、リボーリオはいきなり引き込み、そしてスイープ。ポイントにこそならないが、田村いきなりのピンチ。リボはそこから身体を反転させ一気に十字固めに、田村はノゲイラ戦の時と同様、足で腕をロックしようとするが、リボはそこを支点にさらに絞り、田村無念のタップ。

−98キロ級1回戦
○ヒカルド・リボーリオ（1分1秒、腕ひしぎ十字固め）**田村潔司●**

——なんか田村さんの理想型がヘンゾみたいですよね。

やってるんだけど、凄く強いよ。

——それはゼヒ、リングスに送り込んでほしい

のが徹底されてない部分があるんだよ。だから大会の運営やレフェリーの質が良くなるのはこ

も
り

りを発揮し
回の取材地
は田村を座
なれた感じ
影用のアラ
サービス精
れていませ

―なんか田村さんの理想型がヘンゾみたいですよね。

田村　うんうん。でもまぁ、環境は似てますよね。ボクもヘンゾもジムをやって、その他にファイトマネーももらってっていうね。ただひとつ違うのはボクは誕生日に"リトル・ギフト"が届かない（笑）。

ヘンゾ　アハハハ！　タムラサンもいい友達を作った方がいいよ（笑）。

一同　アハハハハハ！

―でも、田村さんも去年ヘンゾ選手に勝ったときに、前田さんから金無垢のロレックスをもらってますからね。

ヘンゾ　へ～、いくらのロレックス？

―2万ドルやで、2万ドル！　って自慢してましたから、たぶん2万ドルです（笑）。

ヘンゾ　2万ドル？　オ～、スゴ～イ！　でも、ボクは去年アブダビに優勝したときに王子から●●●の●●●●をもらったけどね（笑）。

―ガハハハハ！　田村さん完敗！（笑）。

ヘンゾ　だからボクの方がまだ、いい友達がいるね（笑）。

田村　はぁぁぁ、凄いなぁ。

ヘンゾ　でも、ちょっと傷ついただけで、価値が一気に下がっちゃうから、クローゼットに入れたままなんだけどね（笑）。

田村　そうそう、ボクも押入の中だから（笑）。ところでヘンゾってブラジルに住んでるの？

ヘンゾ　いや、ニューヨークに道場を出してるんだ。

田村　いつから？

ヘンゾ　4年前だね。今回78キロ以下級で準優勝したマット・セラはそのころボクのところに来たから、まだ4年しか柔術やってないんだよ。

田村　4年！　凄いなぁ！

ヘンゾ　それとマット・セラは22歳の弟（ニック・セラ）がいるんだけど、彼も凄く強いよ。体重は90キロで、もうノールールで何試合しかやってるんだけど、凄く強いよ。

―それはゼヒ、リングスに送り込んでほしいですね。

ヘンゾ　リングスには大きい選手を送り込みたいね。ショーン・アルバレスなんかいいと思うよ。彼なら期待できるよ。

―ところで、今回の『アブダビ』はお二人とも残念な結果になってしまったんですけど、試合の感想を聞かせてもらえますか？

ヘンゾ　今回はルールの中に3歩下がると減点されるっていうルールがあるのに、それがちゃんと使われなかった。そこで少しイライラして冷静さを失ってしまったところがあるんだ。『アブダビ』はまだ歴史が浅いから、そういうのが徹底されてない部分があるんだよ。だから大会の運営やレフェリーの質が良くなるのはこれからだろうね。現時点ではまだ混乱がいろいろあるよ。

―王子も残念がってましたよ。「相手がそんなに強いヤツだって思わなかった」って（笑）。

ヘンゾ　ボクはクリスが4回もオリンピックに出ている強い選手だっていうのは知ってたよ。キクタ相手に通じるほどではなかったけどね。

田村　ヘンゾは試合に負けたときの気持ちの切り替えっていうのは、どうやってるの？

ヘンゾ　ボクの周りに起きる全てのことは、常にいい方向に向かうためにあると考えてるんだ。どんなことがあっても、全ての試合から新

タムラサンは腕ひしぎの防御を覚えたら、もっとよくなるよ

「これはちょっと恥ずかしいぞ」と違和感アリアリの田村に対し、ヘンゾはやっぱり涼しい顔でジュースを飲みながら「タムラサ～ン、グッドルッキン」。このあと自分の頭にも被らせ、ニッコリ笑って写真をとらせた。このあと親父にさりげなくチップをわたすヘンゾ。チップの払い方までスマートだ。

突然、ターバンを用意され戸惑う田村と、涼しい顔でジュースを飲むヘンゾ。ちなみにこのジュースもすべてヘンゾのおごりなのだ。そうこうしている内にターバン屋の親父は、テキパキと田村の頭に布を乗せる。もはや取材は完全にヘンゾペース。

ヘンゾ、またしても兄貴っぷり全開

今回もヘンゾが抜群の兄貴っぷりを発揮してくれたので、紹介しよう。今回の取材地はオールドマーケット。ヘンゾは田村を座らせると、ターバン屋へ直行。なれた感じで親父に注文すると、自腹で撮影用のアラブ衣装一式を購入！　ここまでサービス精神旺盛で取材に協力的な選手なんていませんよ！

しいものを吸収しようと思ってるからね。だから負けたりしたら、その経験を生かして、自分の生徒が同じような間違いをしないように指導できるし、常になにかあったら自分へのレッスンとして生かすようにしてるよ。

田村　うんうん、発想の転換だよね。

――では、田村さんの方はどうですか、アブダビの感想は。

田村　う〜ん、暑い！

――暑い！　それはアブダビという土地の感想ですよ！（笑）。

田村　だってホントに暑いんだもん（かわいらしく）。いま、真夏？

ヘンゾ　ノーノー。真夏はもっともっと暑いよ。ボクがアブダビで経験した最高気温は54℃だからね（笑）。

田村　ゲ！　ごじゅうよんどぉぉぉぉ!?

ヘンゾ　うん。しかも温度計がそれ以上計れなかったから、もしかしたらもっと高かったかも知れないよ（笑）。

田村　か〜〜、凄いなぁ。

――田村さん、アブダビの気温に感心してないで、そろそろ試合の感想話してくださいよ（笑）。

田村　そうですねぇ、闘い方が難しい……っていうか、まだわからないですね。しっかりと対策を練らないと勝てない。

ヘンゾ　タムラサンにとっては、いつもと全然違うスタイルだったんで、しょうがないと思うよ。相手のリボーリオはいままで、自分の全ての人生をこのスタイルでやってるんだからね。しかもリボーリオはタムラサンのことよく知っていて、試合前に「ガードポジションから腕が取れる」って言ってたんだよ。

――へ〜、そうなんですか。

田村　でも、リボーリオに限らず、みんな足の使い方や下からの返しが上手いですよね。

ヘンゾ　『アブダビ』に出てくるような柔術家は、みんな下からの攻めが上手くて差がなくなってるんだ。だから柔術家の中でも自分からテイクダウンが奪えるヒカルド・アローナとか、アルメイダが一歩抜きんでてきてるんだよ。

田村　ああ、なるほどね。

――田村さんもヘンゾ道場と交流したらいいんじゃないですか？

田村　うん、それもいいですよね。あ、その前に高阪が「7月にヘンゾ道場に練習しに行きたい」とか言ってたんですよ。

ヘンゾ　7月は『PRIDE』があるから、その前にTKが合流してくれれば助かるね。TKとホーレス（ヘンゾの弟子）の試合は凄くよかったから。

田村　彼とは、どういう関係なの？

ヘンゾ　イトコ。

田村　ヘンゾが練習教えてるの？

ヘンゾ　彼はボクがブラジルにいた時に所属していた『バッハ・グレイシー』という道場の選手なんだけど、この15日間ぐらい一緒に練習してたんだ。

田村　彼も強いですよね。

ヘンゾ　ホーレスはいままでウエイトとかやったことなくて、最近筋力アップを始めたばっかりなんだよ。身体も大きいし、これからどんどん強くなっていくだろうね（ニッコリ）。

田村　（呆れたように）ほんっっっと、グレイシー一族って、次から次へと強い人が出て来ますね！

ヘンゾ　その他にもホジャーっていう若いのがいるんだけど、それがまた大きくて凄い強いんだよ。もう、今後は小さいグレイシーっていうのは、出て来ないよ（笑）。

田村　もう、ええわ（笑）。

ヘンゾ　ウチの息子はまだ5歳なんだけど、その年のアメリカ人の中で、息子よりデカいのは3%ぐらいしかいないんだよ（笑）。たぶん20年後には凄いデカいグレイシーになってるよ（ニッコリ）。

――もちろん息子さんもファイターに？

ヘンゾ　そうだね。でも、もし本人がやりたく

えてると、教わる方も、どんどん楽しくなって、結果的に強くなっていくんだ。それとテクニッ

て、それができるようになると、どんどんハマッてっちゃうから。そして選手は強くなってい

タムラサンと次にやったらボクがお返しするよ（ニッコリ）（ヘンゾ）

――もちろん息子さんもファイターに？

ヘンゾ　そうだね。でも、もし本人がやりたくなければ、それは全然構わない。グレイシーがバスケットボール・プレイヤーなったっていいんだよ（笑）。

田村　ちょっと聞きたいことがあるんですけど。日本て、まだ格闘技が注目され始めて浅いから、他に仕事を持ってて格闘技やってる人が多いんだけど、ヘンゾの周りの人は、どういう環境でやってるの？

ヘンゾ　ボクの周りには、なるべく教える仕事を与えるようにして、指導員としての給料で普段の生活ができるようにしてるよ。

田村　じゃあボクんとこと似てますね。それで試合に出してファイトマネー貰えるようにして。

ヘンゾ　このやり方が一番、自分自身と、生徒にとっていいやり方じゃないかと思うよ。いまアメリカはレスリングであまり金メダルが取れなくなっちゃったんだよ。あれだけ豊かな国で、身体能力もあるのに、なんで落ちてきちゃったかっていうと、いいレスラーが辞めたあとにレスリングの指導をしないで、他の仕事に就いちゃってるからなんだ。ロシアとか、トルコっていうのは、ボクたちがやってるように、引退したレスラーが若い人に、どんどんテクニックを伝えていくっていうやり方をしてるんで、いまだに強い選手がいっぱいいるんだよ。そうやっていかないと選手は育たないよ。

田村　うんうん、なるほどね。ヘンゾは頭がいいね、僕と同じで（笑）。

ヘンゾ　オ〜、イエ〜ス（笑）。いい選手が教えてると、教わる方も、どんどん楽しくなって、結果的に強くなっていくんだ。それとテクニックを勉強するっていうことは、自分自身を情熱的にさせてくれると思う。ただ単に試合をこなしているだけだと、疲れて嫌になってくるけど、新しいテクニックを勉強して、それにトライして、それができるようになると、どんどんハマッてっちゃうから。そして選手は強くなっていく思うんだ。

田村　ちなみにジムの月謝はいくら取ってるの？

ヘンゾ　ビジターは1回25ドル、週に2回来る人は月に140ドル、週に3回だと月185ドル、4回だと215ドル、毎日だと250ドル。タムラサンのジムは？

田村　僕のとこは、月1万2千円。

ヘンゾ　それは安すぎる。もっと取った方がいいよ（笑）。日本はなんでも高いんだから。

田村　う〜ん、でもね、ジャパニーズ・ステューデントは、ノーマネーだから（笑）ヘンゾは毎日教えてるの？

ヘンゾ　つい最近までは週に7日間。いまは週に6日だね。

田村　凄いねぇ！

ヘンゾ　ブラジル人ていうのは、たいてい週に2〜3日しか働かないような怠け者ばかりだから、おそらくブラジル人で週に6日働いてるのはボクだけだよ（笑）。

――実は田村選手も働き者だから、5日後にリングスの試合があるんですよ（笑）。

ヘンゾ　え！　ホントォ!?

田村　イエス、イエス。リングス・ボス・イズ・クレイジー（笑）。

ヘンゾ　クレイジ〜、マエダサ〜〜ン（笑）。

田村　アハハハハ！

――では、働き者のお二人がいつの日か再戦することを夢見て、お開きにさせていただきます。ありがとうございました！

ヘンゾ　タムラサン、次はお返しします（笑）。サンキュー、マイフレンド（ニッコリ）。

【01年4月14日（現地時間）アブダビ・オールドスークにて収録】

【たむら　きよし】1969年12月17日岡生。180cm、87kg。U－FILECAMP主宰。
【へんぞ・ぐれいしー】1967年3月11日生。178cm、79kg。ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー主宰。

見てみ、この笑顔！　実にいい盛り上がりを見せた今回の対談。『アブダビ』では二人とも1回戦で負けてしまったが、この笑顔を見れば、「明日があるさ」という気になるというものだ。二人のこれからの活躍に期待！

アブダビコンバット2001

自腹やぞ、自腹!! ガンツのアブダビ土産プレゼント

家宝モノ！田村&ヘンゾサイン入りアブダビTシャツ&パンフ！　1名

今回の目玉プレゼントは田村とヘンゾのサイン入り、アブダビTシャツとパンフだ！　もう2度と手に入らないこの一品！　時間がなくて田村のサインが入っていないが、必ず書いてもらうので、どしどし応募してください！

アブダビTシャツ　5名

ホイラーサイン入りアブダビキャップ　1名

ヒカルドアローナサイン入りパンフ　1名

アブダビシール付パンフ　5名

アブダビキーホルダー　2名

今年は種類が大かったアブダビグッズ。Tシャツ、キャップが共に10デュラハム（約350円）と激安！　当然わんさか購入してきました！　今回は当たる確率高いぞ！

は、みんな下からの攻めが上手くて差がなくな（ニッコリ）。

『アブダビ』日本選手団

谷津嘉章団長 格闘技論を大いに語る

俺はプロとアマの架け橋になるために業界に入ったようなもんだ

『PRIDE』参戦に続いて、まさかの『アブダビ』参戦をはたした、我らが谷津嘉章！「目ェつぶって30秒！」の谷津が、『アブダビ』で何を見せてくれるか、多くのファンが注目していたが、当の谷津に気負いなし！ 谷津は試合に勝つより大事なことがあったのだ。これからのマット界は谷津が鍵を握ってるかもしれない、なっ！

──そもそも谷津さんが「アブダビ」に出るきっかけというのはなんだったんですか？

谷津　もともと（山梨学院大学の）高田監督とはナショナルチーム時代から一緒なんですよォ。それで俺が『PRIDE』に出ることになって、山梨学院大に練習に行ったときにそんな話になって、協会に話し話が通って学生を出すことになった。だから今回ね、自分は選手じゃ出たくなくてよォ（笑）。

──やっぱりそうでしたか。なんか引率の先生みたいでしたもんね（笑）。

谷津　まぁ、そんなようなもんだな（笑）。他のメンバーの前では言えないですけど、練習もランニング軽くやった位だから。かといって、格闘技の連中やプロの連中とアマチュアの連中が一緒にいる場合にね、やっぱりどうしても歪みがあるから。それを埋めてあげなきゃいけないでしょ。そのために俺は来たんだけどな。

──谷津さんがプロとアマの橋渡しになろうと。

谷津　橋渡しっていうのか、少なくとも潤滑油ぐらいにはなってんじゃないかと思ってるけどな（笑）。それと来年また選手を送るにしても、プロデュースするにしても、やっぱりこっちのこと知らなくちゃなんないから。いい機会だなあと思って来ただけですよ。

──谷津さんの試合でビックリしたのが、セコンドに田村さんが付いていたじゃないですか。それってこういう大会ならではですよね。

谷津　そりゃあ、やっぱ、長老が来たらまとまるわな（笑）。みんな俺のこと団長と呼びますから（笑）。

──団長！（笑）。いいですねぇ〜。

谷津　格闘家でこういう感じでアブダビに来る連中は、みんなそういった枠とか垣根は関係ないですよね。それがやっぱりフロントの立場になると損得になってきちゃうから。逆に選手のほうが懐大きいかもしれないよな。

──いまはそうかもしれませんね。

谷津　選手は凄いピュアだよね。修斗もリングスもパンクラスみんな協力してね。そんなの関係ないと。日本人の1人だっていう感じだよな。全員で菊田くんの優勝を喜んでましたよね。あれが一番ですよ。

──山梨の学生も勝てませんでしたけど、みんなホントに身体能力が凄いですよね。アブダビの練習をしたのは短期間ですからね。

谷津　短期間っていっても数えたら一週間もやってないんじゃない。体験してやっとあいつらルールがわかったみたいだから。

──それで一流選手とあんだけ渡りあってるって、末恐ろしいですね（笑）。

谷津　でも彼らも一流選手なんですよ、一応は。だからそれでうまいこと架け橋できたら最高ですよね。

──プロとアマのこういう交流は、谷津さんが昔から訴えてたことですしね。

谷津　ボクはもう15年前から言ってますから！ そのために自分、この業界に入ったような感じしますよ。そういう人間が1人位いったていいですよね。そういえば今回出場した後、学生がいいこと言ってましたよ。「次回も出れるんですかね」って。「次回は絶対チャンピオンになる」って。全員言ってましたよ。

──そんだけ興味が出て来てるということですね。

谷津　勝てるという自信が付いたんじゃないの。でも「次は予選からだぞ」って言うときましたけどね（笑）。だからそういう気持ちなんですよね。ある意味、勝負に対してプロよりもレスリングの連中の方が貪欲ですよ。やっぱりプロってのは、所属選手だから団体を立てなくちゃならないっていうプレッシャーあるんですよ。背中に背負ってるんですよ。

──メンツが絡んできますからね。

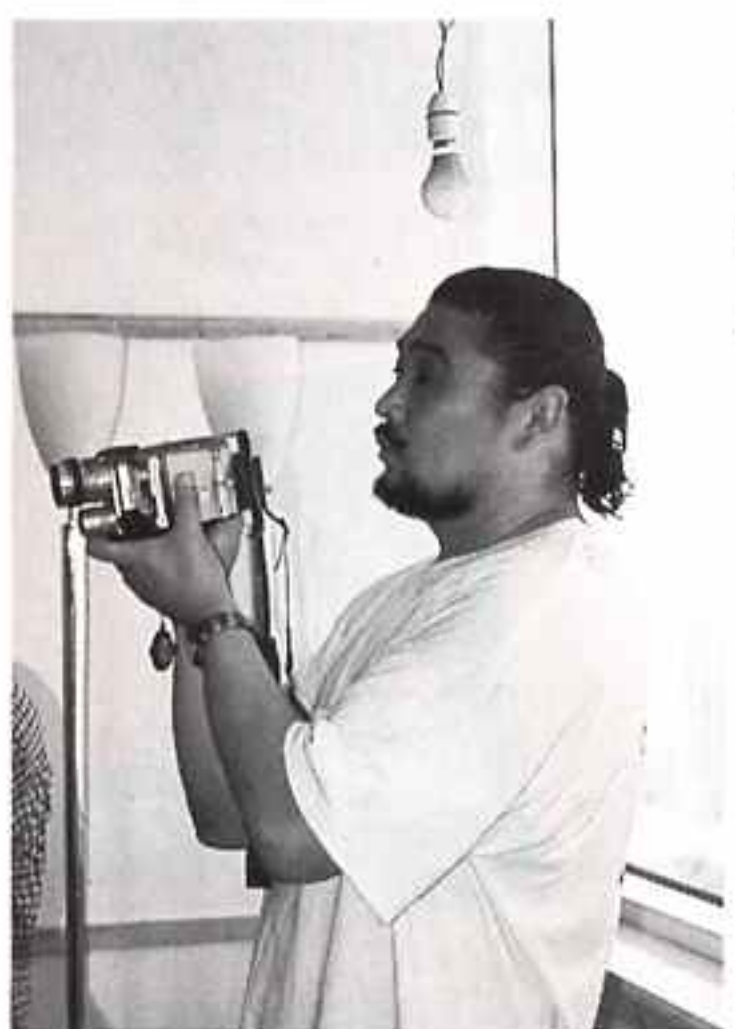
谷津　それが取れれば一番いいですよね。アメリカの選手なんかはUFC行ったりブラジル行ったり日本に来たり。そこで賞金稼ぐっていうひとつの貪欲さがあるじゃないですか。それが欲しいですよね。それがなくちゃ日本の総合格闘技は伸びないですよォ！

──日本もそういう時期に来てますよね。

谷津　パンクラスもリングスも大会だけ開けばいいんですよ。そのネットワーク持ってんだから。それで小銭持ってる格闘技好きな人がスポンサーになってあげて、道場でも作って、「チーム谷津」でもなんでもいいから、やらせりゃいいんですよ！

──チーム谷津！（笑）。

谷津　みんなチームでいいんですよ。こ

これからのさらなる交流のために、常にビデオを回していた谷津団長。ボーダレス時代に団長の役割はさらに大きくなっていくだろう。

今回はJOCオリンピック委員会からの派遣で、山梨学院大学の高田監督らがアブダビに派遣された。これを機に、オリンピック級の選手と総合格闘家の交流が深まるか。今後、本当の意味でアブダビが組み技のオリンピックのようになる可能性もある。

のほうがかっこいいでしょ。面白いし。それがなぜできないかっていったら、プロレス界の連中がやってるからね、そういう発想しかできないわけですよ。

――リングスもパンクラスもプロレスラーが作ったものですからね。

谷津　だからその点高田道場なんかがいいですよね。あそこはそんなのなくて。いまは『PRIDE』に全面出してるけど、違うところにも出してんじゃない。ああいうのがいいですよね。進んでますよね、高田道場は。

今年中に前哨戦なしで"アイツ"とやったらぁ！

――高田道場と言えば、今回谷津さんが闘ったリコも高田道場の選手なんですよね。あの試合についてはいかがですか？

谷津　リコとの試合って、あれはリコとドレッシングルールで和気藹々と話して、「頑張れ！」と応援してやったんだけどね（笑）。

――対戦相手応援しちゃだめですよ！（笑）。

谷津　もうホントは一番短いやつ狙ったんだけどね（笑）。

――秒殺賞を狙ってましたか！（笑）。

谷津　でも、みんな応援に来てる中で、変な負け方できないから、一生懸命やってみたんだけど、結果的には格好良く取られたわな（笑）。

――今大会で一番派手な決まり手でしたからね（笑）。

谷津　だけどリコは言ってましたよ。「一度高田道場に来て、一緒にスパーリングやってくれ」って。「高田なんて言うんだ」って言ったら、「エヘヘヘ」って笑ってましたけどね（笑）。

――谷津さんが高田道場に行くというのはスバラシイですね（笑）。

谷津　まぁ、高田も話せばわからない人間じゃないですからね。みんな同じ位の世代で新弟子だったから。まだ高田が16歳の頃から知ってるんだから！

――「俺の後輩だぞぉ」って感じですか？（笑）。

谷津　いや、高田の方が1、2ヶ月先輩（笑）。

――あ、そうでしたか（笑）。では最後に、谷津さんのバーリ・トゥード再挑戦はいつごろになりそうですか？

谷津　コンディション次第だね。とりあえず、今年はもう1回！　いまは話題が早いから、間を開けずにいきなりアイツとやっちゃおうかと思って、アイツ！

――アイツですか（笑）。

谷津　前哨戦なんかなしで、ある程度自分の体と心と、それがだんだん充実してきたら、行こうかなと思ってますよ！　ただ、練習の疲れが取れないだよな（笑）。足はガクガク、膝は痛くなっちゃうわ、筋肉痛は抜けないし、年なのかなって思うけど。

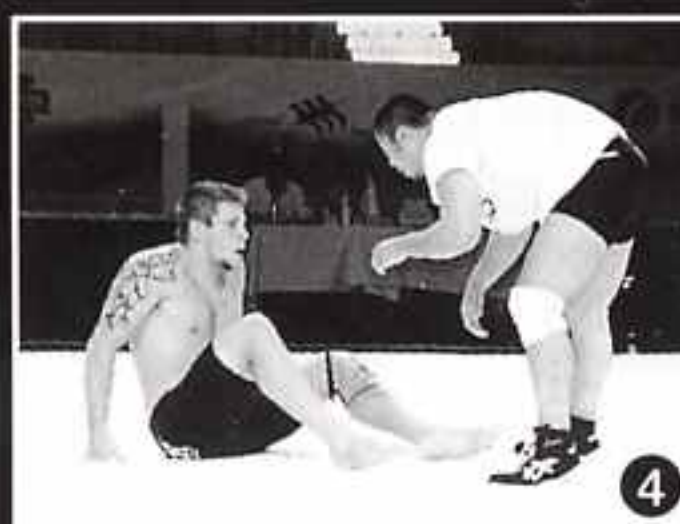
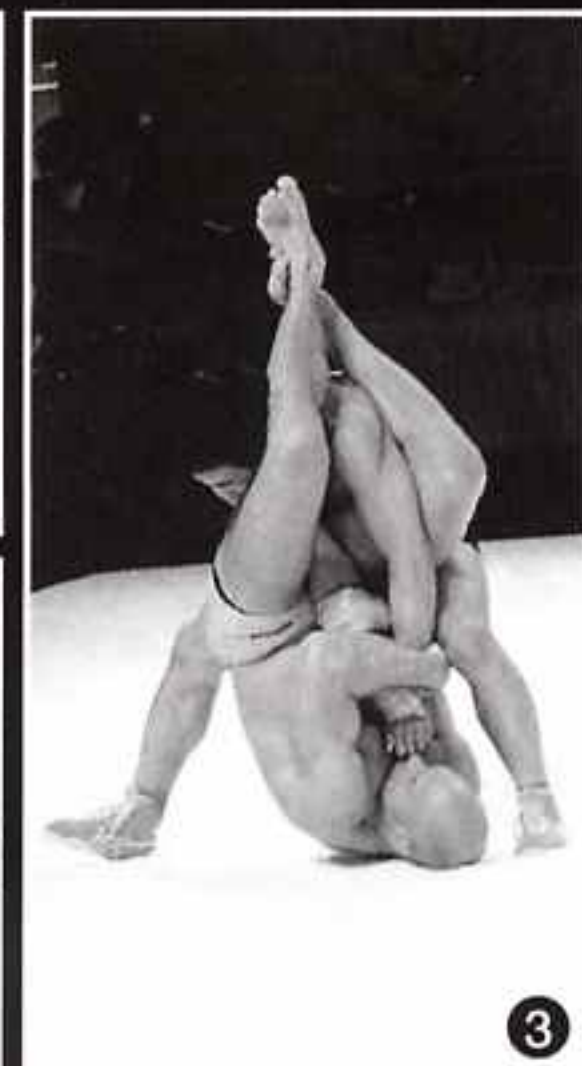
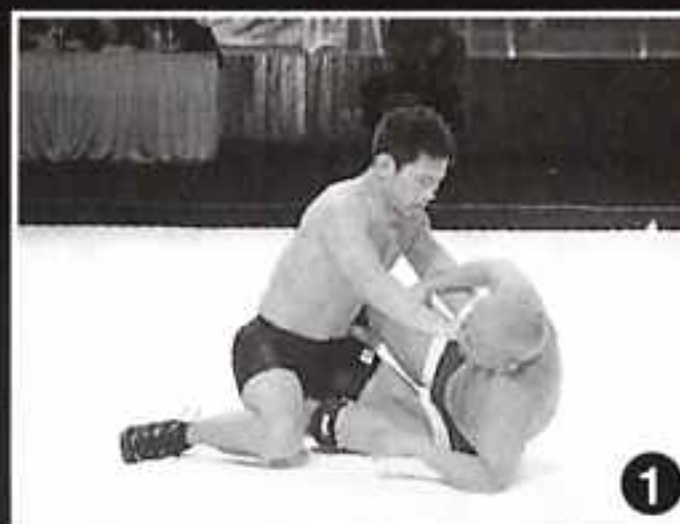
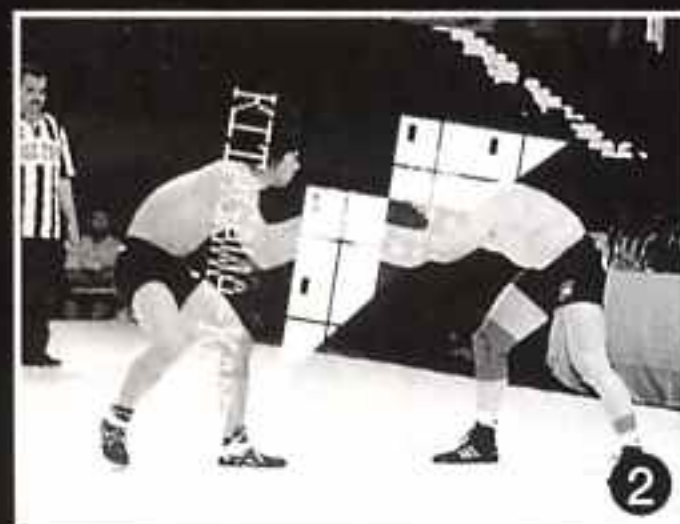
――谷津さんの練習は、もの凄いって聞いてますから。

谷津　始まっちゃうと毎日レスリング、ボクシング、ランニングって2、3個やりますよ。でも目標が定まんないと、練習しないタイプなんですよ。ナマクラだからさ（笑）。糠に釘みたいなもんだよなっ（笑）。

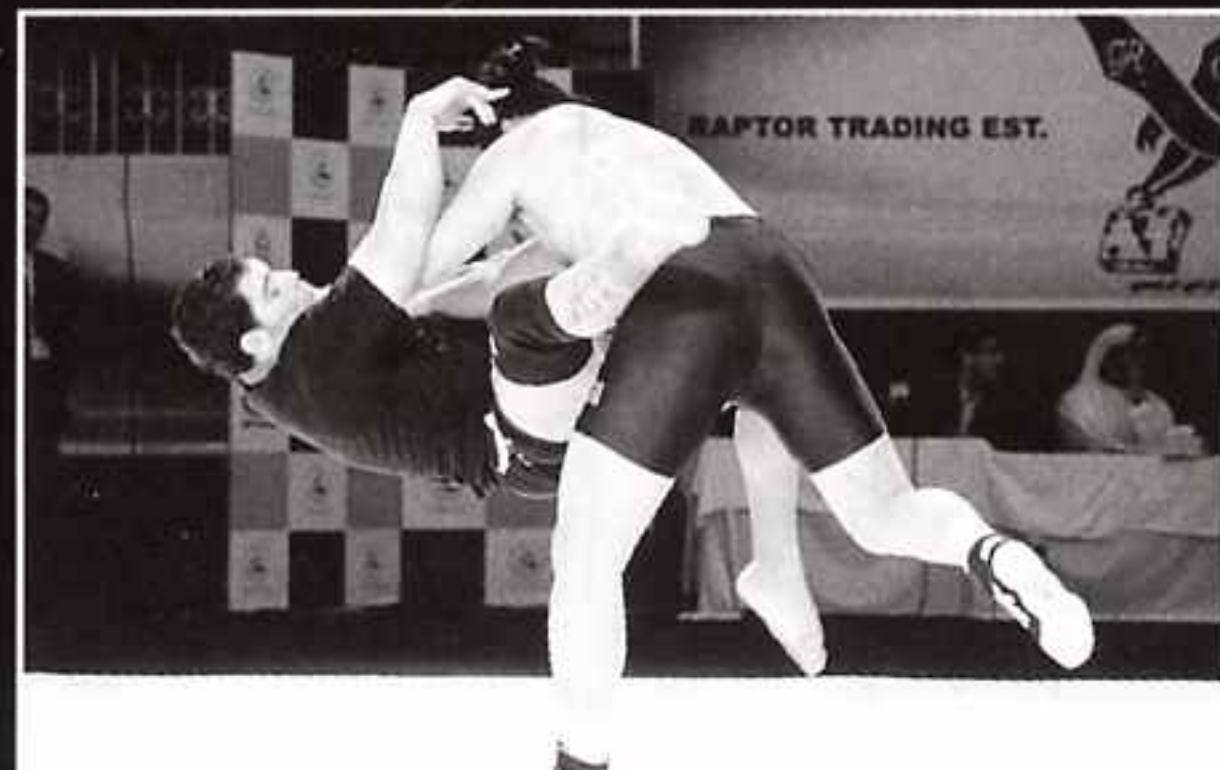
――アハハハ！　では、早く目標が決まることを期待してます！

インタビュー終了後、谷津団長は山梨学院大勢を連れてビーチに直行！　伝説の「五輪コンビ」時代を思わせる黒のショートタイツで充電開始。果たして谷津がこの次目覚めて『PRIDE』に出場するのはいつになるか!?

アブダビコンバット2001

山梨学院大勢、1回戦で全滅！　されど、大いなる可能性を見た!!

各階級に一人ずつエントリーした山梨学院大勢。スタンドレスリングで有利に試合を進めながら、最後は初体験となる関節技で敗れるパターンが多かったが、大いなる可能性を見せた。まず65キロ以下級に登場した平井はアブダビUSA予選優勝者と対戦、延長までもつれ込む奮闘を見せたが逆転負け（写真・1）。グレコ全日本王者の池田はオーストラリアのギャビン・カルバーにポイント判定まで持ち込む（写真・2）。78キロ以下級の小幡は引き込みからの十字固めという柔術のセオリーにハマり、スウェーデンのアンダーソンに秒殺負け（写真・3）。最も善戦したのが98キロ以下級の藤田。リングスのババルを相手に、テイクダウンを許さず、試合の主導権を握る。最後は足関節に敗れたが、面構えもよく、プロ入りしてほしい逸材だ（写真・4）。今回もっとも活躍が期待された福田は、ビクトーの鋭いタックルからの流れるようなチョークで完敗。プロの洗礼を受けた（写真・5）。

目ぇつぶって130秒(？)

谷津団長、リコの飛びつき十字固めにタップ！

谷津のアブダビでの対戦相手は、谷津とは因縁浅からぬ高田延彦が主宰する高田道場所属のリコ！　リコは高田道場ニューTシャツで登場だ。試合開始後2分近く両者は腕を探りあったが、谷津が不用意に前に出たところをリコの飛びつき十字固めがズバリ！

まさにアブダビならではのツーショット！　谷津のセコンドにはなんと田村がついた。チーム荒武者アブダビバージョン結成だ。

組み技だけということで、日本アマレス史上重量級最強のレスラーの片鱗が見られるかと思ったが、遂にそれは見ることができなかった。タックルを一度も出さなかったことが逆に幻想を守ったと言えるか……。

来年いよいよ桜庭出場か!?

その前に王子からのお願い『PRIDE』のルールを元に戻して下さい!!

「桜庭のファン」という王子に、日本のプレスからサクマシン・フィギュアとサクベルトがプレゼントされた。フィギュアをもらった王子は笑顔を見せたが、ベルトは「？」という表情でポイ。どうやらサクベルトは知らなかった模様。王子はベルトやフィギュアではなく、サク本人に来てほしいと願っている。

今年も大成功に終わった『アブダビ・コンバット』。その大会終了後、もっとも会いたかった人物である、王子にようやく話を聞くことができた。そして静かに語る王子の口から、遂に“桜庭”の名前が飛び出した！

“格闘道楽王”シェイク・タルヌーン王子

王子　日本の皆さん、今日は遠いところ、ようこそアブダビにいらっしゃいました。今回、日本人の選手が1人優勝して本当に良かったと思います。

ところでまず最初に、日本の皆さんにぜひ言っておきたいことがあります。それは『PRIDE』のルールは変えた方がいいということです。ゼヒ変えて欲しいと思います。いまのルールでは、非常にバイオレンス過ぎます。ノールールファイトでも、選手を守ってあげる最低限の部分は必要だと思います。『PRIDE』には私の友人たちも出場しています。事故があってからでは遅いので、ゼヒ真剣に考えてほしいと思います。

（ここで山梨学院大高田監督から、レスリングの銅像が贈られる）

高田監督　今回はお招きありがとうございます。来年はレスリングの他にアブダビコンバットのルールを勉強してぜひまたチャレンジして行きたいと思います。

王子　日本のアマレス選手たちはルールが違う中で初めて来てくれて、非常に感謝しています。

高田監督　いま日本のJOCオリンピック委員会が柔道と相撲とレスリングの三つの競技のプロジェクトを組んでいるんです。来年はぜひ柔道の選手を連れて来たい。ゴールドメダリストの試合をアブダビで見せたいと思います。

王子　これまで日本人で練習したことがあるのは柔道の選手だけなので今後やってみたいと思います。桜庭選手とか。マーク・ケアーがスーパーファイトに出場出来ないかもという話があったので、もしダメなら桜庭選手をと考えたんです。わたしがいま一番招きたい選手は桜庭選手ですね。

――王子はなぜこのような大会を開こうと思ったんですか？

王子　ノールールはスゴく好きというわけではありませんが、見ることは好きです。このルールだと柔道からもレスリングからも、いくつかのジャンルから参加出来ますので。選手をサポートするという気持ちで始めました。

――大会のトーナメントの組み合わせは王子自分自身で決めてると言われますが？

王子　初めは私が決めてました。でも今では初めから強い選手と強い選手を当てようという気はないです。たまにこの世界で知られてない強い選手を有名選手と当ててしまうことはありますけどね。今回でいうとヘンゾ・グレイシーに勝利したオーストラリアのクリス・ブラウンがそうです。なるべくそういったのは避けたいですし、同門対決は避けたいと思ってます。

では、みなさんごゆっくりしていってください。

TLINDEX

全日本プロレス ☎03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12

プロレスリング・ノア ☎03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25

新日本プロレス ☎03-5468-3111
〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11

FMW ☎03-5496-0671
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F

リングス ☎03-3461-0257
〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202

WAR ☎03-5477-0461
〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F

みちのくプロレス ☎019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8

SPWF ☎03-3814-6371
〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル

パンクラス ☎03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25

IWAジャパン ☎03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401

大日本プロレス ☎045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347

バトラーツ ☎0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43

DDT ☎03-3356-8493
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内

髙田道場 ☎03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1

UFO ☎03-5447-2121
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F

大阪プロレス ☎06-6243-5131
〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301

闘龍門JAPAN ☎078-333-9797
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901

ダイプロデュース(大仁田興行) ☎03-5496-4900
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F

ZERO-ONE ☎03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11

掣圏道 ☎03-5456-7333
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607

レッスル夢ファクトリー ☎03-5828-8494
〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11

キングダム・エルガイツ ☎0423-31-2797
〒206-0822東京都稲城市坂浜2305

キャプチャー ☎044-959-3333
〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1

国際プロレス ☎0467-86-0197
〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14

メビウス ☎03-5382-6991
〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15

つぼプロモーション ☎03-3498-4710
〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F-E

華☆激 ☎092-522-1901
〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302

喧嘩プロレス二瓶組 ☎044-588-2438
〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル

ZIPANG ☎03-3312-0328
〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21 ハイネス梅里201

T.A.M.A ☎042-572-6795
〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5

CMLL・JAPAN ☎075-601-7816
〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151

UNW ☎03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

栗栖ジム ☎06-6790-8896
〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7

ドリームステージエンターテインメント ☎03-5775-5700
〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103

K-1事務局 ☎03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14

修斗コミッション ☎03-5725-7338
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン

GCM COMUNICATION(和術慧舟會、A²GYM、RJW) ☎03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F

シュートボクシング協会 ☎03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F

UFC-J事務局 ☎03-3343-2444
〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F

怪獣王国 ☎03-5952-1177
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F

コロシアム事務局 ☎03-5473-3148
〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内

全日本女子プロレス ☎03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17

JWP ☎03-3839-4161
〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502

LLPW ☎03-3945-7926
〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ピクセル文京105

GAEA JAPAN ☎03-3795-2555
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F

Jd' ☎03-5561-0522
〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F

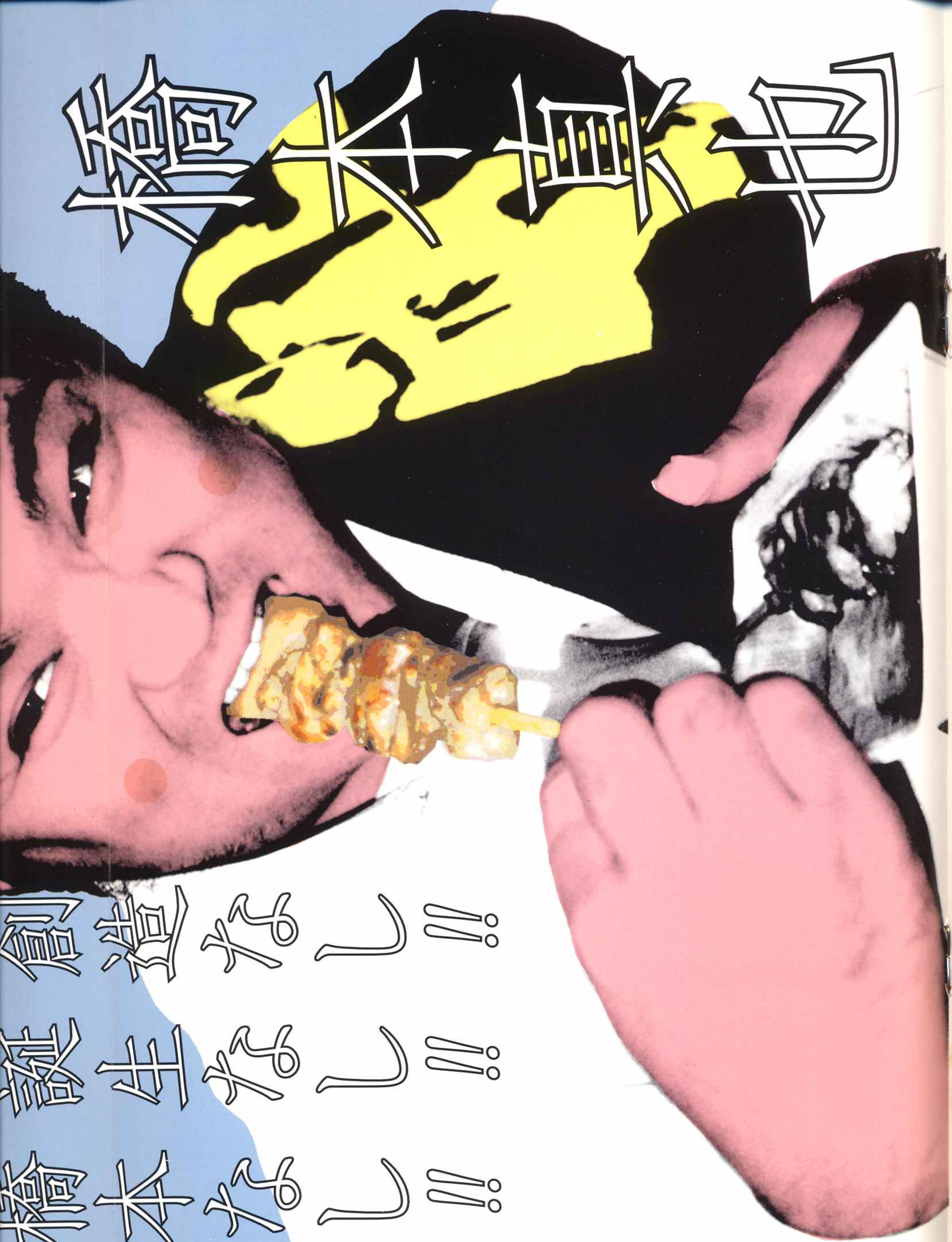
アルシオン ☎03-5720-5217
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F

NEO ☎044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102

エヌ・イー・オー ☎03-3796-7461
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13 ドミシール平野503

夢なき時代と嘆く世に
夢を作れる人となれ

アントニオ猪木

（『SMAP×SMAP』出演時に朗読したポエムより）

モデル／このポエムがピッタリあてはまる　安田忠夫さん（37歳）

橋本真也
創造なし!!
誕生なし!!
橋本なし!!

破壊なくして創造な
創造なくして誕生な
弁当なくして橋本な
破壊王 橋

CAL CALENDAR

3:30)
ル(10:20)

ター(18:30)
:30)
:30)
ンホール(17:30)

0)
00)★
5:00)

体育館(13:00)

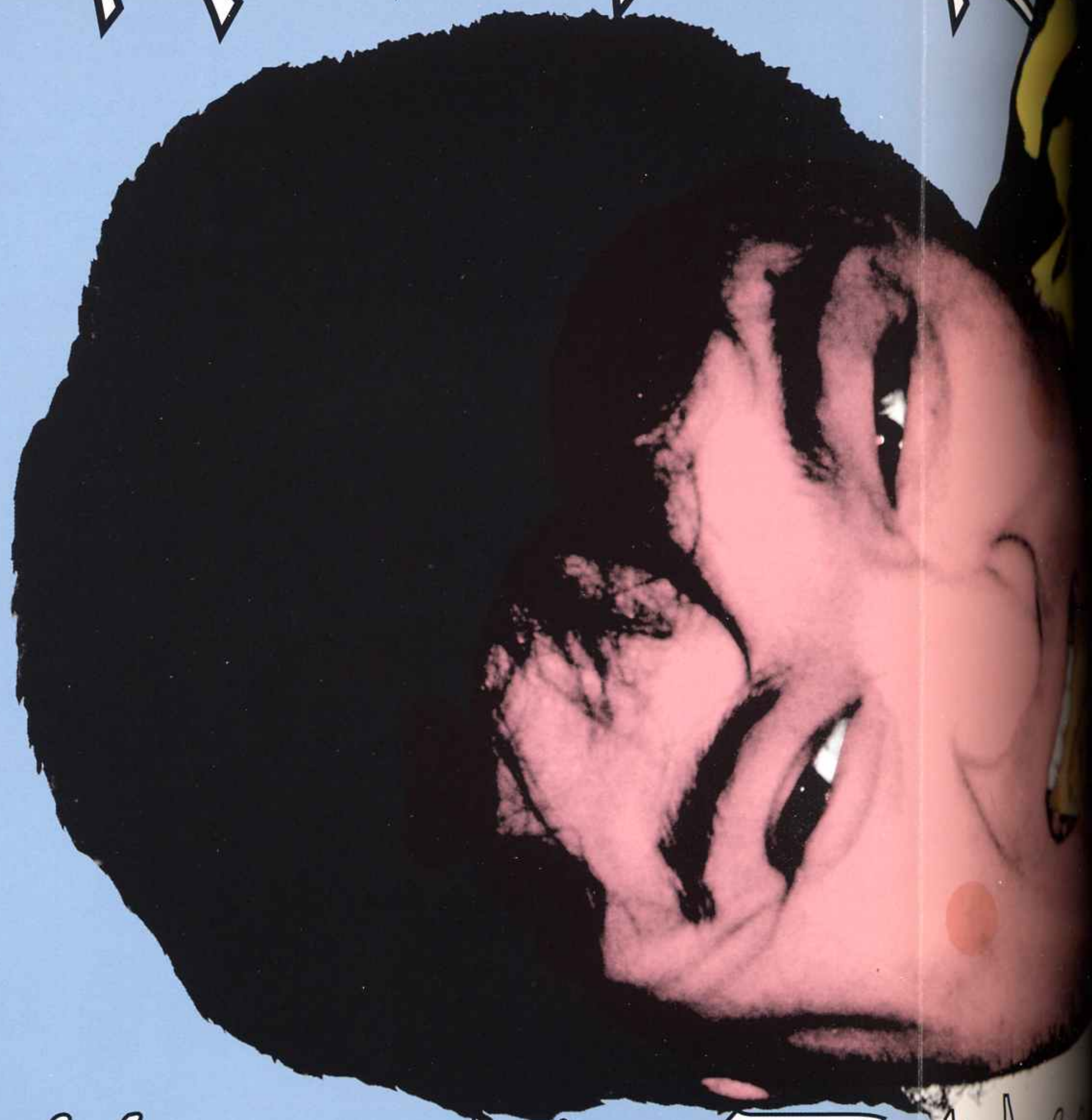
体育館(17:30)♠
)

(15:00)
5:00)

5:00)
30)
(18:00)

3:00)
00)
0)
00)
園ヴェルチー公園(13:00)
00)

ンター(15:00)
)◎

園屋内競技場(18:30)★
第2競技場(18:00)
)

11 FRI.

FMW■東京・後楽園ホール(18:30)

12 SAT.

大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
ノア■東京・ディファ有明(18:00)
掣圏道■釧路・鳥取ドーム(18:00)

13 SUN.

パンクラス■東京・後楽園ホール(12:00)◆
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(15:00)
ノア■東京・ディファ有明(12:00)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(18:30)
NEO■東京・ディファ有明(18:30)

15 TUE.

SPWF■千葉・千葉ポートアリーナ(18:30)
ノア■青森・青森県総合運動公園体育館(18:30)

16 WED.

ノア■北海道・室蘭市体育館(18:30)

17 THU.

Jd'■東京・北沢タウンホール(18:30)

18 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
ノア■北海道・北海道立総合体育センター(18:30)
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス(19:30)
アルシオン■兵庫・神戸サンボーホール(18:30)

19 SAT.

新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館(18:30)
大阪■大阪・なんばマザーホール(18:00)
ノア■北海道・釧路市鳥取ドーム(17:00)
アルシオン■岐阜・恵那市民体育館(18:30)

20 SUN.

新日本■茨城・古河市立体育館((15:00)
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(15:00)
ノア■北海道・北見市立体育センター(18:00)
JWP■東京・ディファ有明(12:30)

21 MON.

ノア■北海道・旭川市大成市民センター体育館(18:30)

22 TUE.

FMW■北海道・月寒グリーンドーム(18:30)
みちのく■熊本・山鹿青果市場(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)
大建工事主催■東京・後楽園ホール(19:00)

23 WED.

FMW■北海道・函館市民体育館(18:00)
みちのく■長崎・佐世保市体育文化館(18:30)
アルシオン■長野・佐久市総合体育館(18:30)

24 THU.

みちのく■鹿児島・国分市屋内運動場(18:30)
SMACK　GIRL■渋谷clubATOM(19:00)

25 FRI.

ノア■神奈川・横浜文化体育館(18:30)◎
みちのく■福岡・アクシオン福岡(18:30)
アルシオン■水戸・茨城県立武道館(18:00)
新日本■福島・ビックパレット福島(18:30)

26 SAT.

新日本■神奈川・海老名運動公園総合体育館(18:30)
DDT■東京・北沢タウンホール(18:00)
大阪■新潟・新潟フェイズ(19:00)
みちのく■福岡・甘木市甘木青果市場(18:30)
全日本■岩手・岩手県営体育館(18:00)

27 SUN.

大日本■東京・後楽園ホール(12:00)
大阪■宮城・蔵王町勤労者体育センター(15:00)
イーグルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
DSE『PRIDE.14』■神奈川・横浜アリーナ(15:00)★
GAEA■名古屋・千種スポーツセンター(13:30)
Jd'■東京・ディファ有明(12:30)
全日本■青森・黒石市中央スポーツ館(17:00)
新日本■静岡・グランシップ(15:00)

28 MON.

大阪■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・葛飾区金町地区センター(19:00)
新日本■宮城・宮城県スポーツセンター(18::30)

29 TUE.

大阪■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■青森・むつ市民体育館(18:30)

30 WED.

全日本■秋田・大館市民体育館(18:30)

31 THU.

DDT■東京・渋谷club　ATOM(19:00)

6 June

1 FRI.

新日本■香川・高松市総合体育館(18:30)
アルシオン■金沢・石川サンアリーナ(18:30)
全日本■静岡・アクトシティ浜松(18:30)

2 SAT.

バトラーツ■石川・石川産業会館第2(18:00)
UNW■東京・ディファ有明(18:00)◆
全日本■兵庫・神戸サンホール(18:30)
新日本■島根・平田市湖遊館(6:00)

3 SUN.

バトラーツ■埼玉・所沢くすのきホール(17:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
全日本■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:00)
GAEA■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(18:00)
新日本■岡山・津市総合体育館

RADICAL CA

4 April

26 THU.

新日本■熊本・熊本市総合体育館（18:30）
闘龍門■岐阜・岐阜産業会館（18:30）
ノア■東京・後楽園ホール（18:30）
アルシオン■愛知・西尾市錦城体育館（18:30）
SHINOKI祭り■東京・渋谷club　ATOM（19:00）

27 FRI.

新日本■宮崎・延岡市民体育館（18:00）
大日本■新潟・新潟市体育館（18:30）
アルシオン■愛知・津島市文化会館（18:30）
華☆激■福岡・さざんぴあ博多多目的ホール（19:00）
GAEA■愛知・千種スポーツセンター（13:30）

28 SAT.

新日本■大分・別府ビーコンプラザ（18:30）
みちのく■福島・本宮体育館（18:30）
大日本■茨城・鹿島市体育館（18:30）
SPWF■栃木・おおひら町民ホール（14:00）
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋区立産文ホール（19:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
アルシオン■三重・三重県立サンアリーナ（18:30）
JWP■東京・ディファ有明（18:30）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:00）

29 SUN.

新日本■長崎・長崎県立総合体育館（15:00）
FMW■埼玉・本川越ペペホール・アトラス（15:00）
みちのく■新潟・新潟フェイズ（15:00）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）
SPWF■栃木・河内中学校北側特設（14:00）
DDT■東京・北沢タウンホール（昼　13:30　夜　19:00）
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
大阪■大阪・和泉市民体育館（13:00）
TAMA■東京・ニューシティホール国立（11:30）
K－1■大阪・大阪城ホール（16:30）
Jd'■東京・後楽園ホール（12:00）

30 MON.

新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ（15:00）
FMW■三重・津市体育館（18:00）
みちのく■山形・米沢市営体育館（15:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（15:00）
アルシオン■東京・後楽園ホール（12:00）
タイタンファイト■東京・アールンホール（14:00）♠

『紙プロ』編集部
おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江

5 May

1 TUE.

みちのく■福島・鶴ヶ城体育館（18:30）
大日本■北海道・帯広市総合体育館（18:30）
バトラーツ■埼玉・戸田競艇イベントホール（10:20）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）

2 WED.

新日本■山口・徳山市総合スポーツセンター（18:30）
みちのく■青森・三沢市総合体育館（18:30）
大日本■北海道・釧路市鳥取ドーム（18:30）
キングダム・エルガイツ■東京・北沢タウンホール（17:30）

3 THU.

FMW■長野・佐久市総合体育館（18:30）
みちのく■岩手・一関文化センター（15:00）★
大日本■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（15:00）
アルシオン■名古屋・愛知県体育館小体育館（13:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（18:30）
ReMix■東京・国立代々木競技場第2体育館（17:30）♠
掣圏道■北海道・函館市体育館（16:00）

4 FRI.

みちのく■宮城・岩沼市民体育センター（15:00）
大日本■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（15:00）
全日本女子■神奈川・川崎市体育館（15:00）
NEO■東京・板橋区立産文ホール（18:30）
バトラーツ■東京・TOKYO　FMホール（18:00）

5 SAT.

新日本■福岡・福岡ドーム（14:00）★
FMW■神奈川・川崎球場（18:00）
みちのく■山形・中山町総合体育館（13:00）
大日本■北海道・函館市民体育館（13:00）
パンクラス■東京・大田区体育館（16:30）
大阪■大阪・羽曳野・Licはびきの（15:00）
アルシオン■神奈川・横須賀市臨海公園ヴェルチー公園（13:00）
NEO■東京・板橋区立産文ホール（16:00）

6 SUN.

みちのく■岩手・岩手町トレーニングセンター（15:00）
大日本■神奈川・川崎市体育館（17:00）◎
大阪■兵庫・高砂総合体育館（15:00）
アルシオン■東京・ディファ有明（12:00）
Jd'■東京・ディファ有明（18:30）
LLPW■東大和市駅前広場（18:00）

10 THU.

バトラーツ■東京・駒沢オリンピック公園屋内競技場（18:30）★
TEAM　KURISU■大阪府立体育館第2競技場（18:00）
DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）

11 FR

FMW■

12 SA

大阪■
ノア■
掣圏道■

13 SU

パンクラ
大阪■
ノア■
Jd'■
NEO■

15 TU

SPWF■
ノア■

16 W

ノア■

17 TH

Jd'■

18 FR

新日本■
ノア■
DDT■
アルシオ

19 SA

新日本■
大阪■
ノア■
アルシオ

20 SU

新日本■
全日本■
大阪■
ノア■
JWP■

21 MO

ノア■

22 TU

FMW■
みちのく■
修斗■
大建工事

23 W

FMW■
みちのく■
アルシオ

24 TH

みちのく■
SMACK

25 FR

ノア■
みちのく■

プロレスが「他に比類なきジャンル」だと言うならば
「他に比類なきプロレス」がアメリカにはある!
designed by hisa (Two Three)
日本のプロレスが
ズッコケまくってる間に
アメリカは遂に
ここまで来た!!
11ページぶち抜き
アメリカ大特集
敢行ーッ!
他に比類なき4大特集
レッスルマニア目撃者による
日米プロレス比較論
WCWついに崩壊!!
最後の放送はこうだった!!
田中正志が語る
WWFのWCW買収
アメプロ伝道師ジミー鈴木が
シュート活字に激怒!!

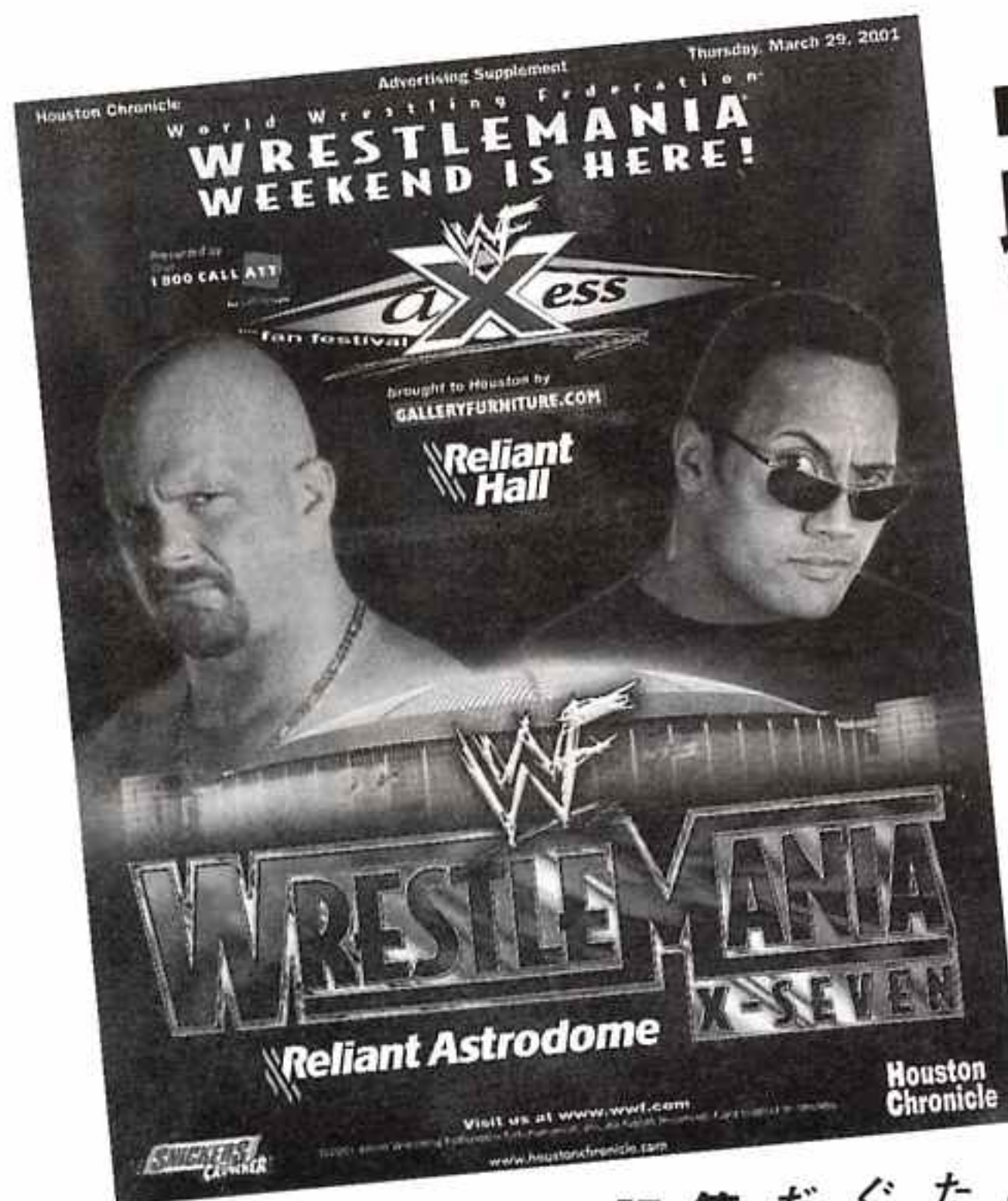
Houston Chronicle　Advertising Supplement　Thursday, March 29, 2001

WRESTLEMANIA WEEKEND IS HERE!

Reliant Hall

WRESTLEMANIA X-SEVEN

Reliant Astrodome

Houston Chronicle

比べちゃいけないとわかっていながらそれでもやります

レッスルマニアで見る日米プロレス比較論

先月、WWFは遂にWCWを吸収して、アメリカのプロレス界を制覇してしまった！　プロレスが「他に比類なきジャンル」というならば、そのジャンルの中でもアメリカの、というかWWFは「他に比類なきプロレス」となって君臨している。日本のプロレス（というか、新日本プロレス）がズッコケまくっている間に、アメリカはこんなに進化していた！　ここから学ぶことは多いはずだ。というわけで、ぶち抜き11ページの大特集です！

——というわけで、今回はレッスルマニアを体験してきた羨ましい限りの皆さんにお集まり頂いたわけなんですけど、お土産話をたっぷりうかがいたいと思います！　まずは、あっちゃんから聞きましょうか。どうでした？

篤　楽しかったです。全てが日本を上回ってました！

阿部　あれ見ちゃうとね、日本のは見れないですね。お金のかけ方も尋常じゃないし。

二郎　完璧って言葉の上の表現がないと、伝えられないんですよ。ホント、そうだよね。

笠井　「この程度だろう」っていう想像を最大限膨らませたよりも、劣ってる部分が全くなかったのよ。客の入りも、試合も、内容もね。

イナズマ　凄いっていうのも、面白いっていうのもわかってたけど、それよりも凄かった（笑）。

篤　自分の中ですごく高く設定してったつもりだったんだけど、全然余裕でクリアされちゃいましたね。

——なるほど。で、ただ凄かったという話をしてもらうだけじゃ伝わりづらいと思うんで、日本のプロレスと比較して頂こうかなと思うんですよね。やっぱりモノサシがあるとないとじゃ、読者のわかりやすさも違うだろうと思うんで。

二郎　まず、会場のアストロ・ドームに入った瞬間に感じたのは、東京ドームの1．7倍ぐらいあるんですよ。グワーッて見上げるんだよね。

笠井　で、壁にさ、豆みたいに人がビッシリ張り付いてんだよ。

二郎　でも、6万7千9百人って発表してたんですよね。ってことはですよ、K—1とか猪木引退が7万人だったら、あの会場は9万人ぐらいで発表できるよ（笑）。

笠井　俺、「10万人」って言われても、「あ、そうか」って言えるよ（笑）。

二郎　WWFが水増しをしないっていうのは、逆に強気を感じましたよね。

笠井　それと観客のノリが凄かった。

二郎　試合が始まるまで会場のビジョンで、大会前の煽り番組を同時中継してたんですよ。オーロラビジョンに司会のタズが映っただけでみんなウォーッ！って立ち上がってましたからね。

——日本でケロちゃんが挨拶に立つのとは違いますか（笑）。

イナズマ　タズはあんな高圧的じゃないんだよ。「モノを投げないでください」とか言わないし。

二郎　日本はケロちゃんが下がるしかないと思いますよ。いまの中継だったら、6時半からみのもんたが出たりね（笑）。とにかく日本で一番人気がある司会者が出てくるぐらいじゃないと追いつけない。

——やっぱり会場の雰囲気も日本とは全然違うんですか？

笠井　いまのビンスって大ヒールでしょ？　でもビンス出てきたときにね、凄い大ブーイングかと思ったら、みんな違う感情なんだよね。リスペクトのあるブーイングなの（笑）。

二郎　「お前のやってることは最高だからブーイングするぞ」みたいな（笑）。

笠井　そういう感じ！　もしかしたらアメリカのマニアは、日本のマニアよりもレベルが高いような気がしたんだよな。

——マニアを作り出す環境が凄い熱狂的なんでしょうね。

笠井　たとえば椅子攻撃とかやると、ECWコールが起こるんだよ？　WWFの大会なのに（笑）。自分の主張をアピールするって感じで「ECW！ECW！」って（笑）。

二郎　別にECWから移籍してきたレスラーじゃないのにね（笑）。日本だとマニアになればなるほど冷める傾向があるじゃないですか。向こうはマニアになればなるほど乗ってみせるっていうか。客もプロだと思いますよ。大仁田にペットボトル投

レッスルマニア2001とは？

基本的にWWFはオーナーであるビンス・マクマホンを中心に回っている。それはリングの中でも外でも変わらない。そうなのだ、リングの中でも中心にいるのが他の団体の社長とは決定的に違う。いつも蚊帳の外な某パーマ社長やリング外では中心だけどリングにはほとんど上がらない2丁目の社長とは違うのだ。ここ数年は「家族の断絶」が著しく、特に根深いのがビンスと妻・リンダの断絶だろう。ビンスとオースチンが抗争すれば、オースチンの肩を持ち、ビンスとミック・フォーリーが抗争すればミックを後押しする。そこにドラ息子・シェーンやアバズレ娘・ステファニーなどが絡み合って複雑な人間模様を描き出しているのだ。ちなみに、今年のレッスルマニアでは、ビンスが妻憎さから愛人のトリッシュ・ストラータスと不倫しまくり。精神的ショックとビンスによる無茶苦茶な投薬治療で抜け殻のようになるリンダ。母の悲惨な姿に、父と闘うことを決意するシェーン。受けて立つビンスという図式であった。車椅子に乗り、虚ろな表情で息子の奮闘をボンヤリ眺めるリンダだったが、息子が絶体絶命のピンチに陥ったとき、突如立ち上が

げる客みたいな感じですよね？

――じゃあ、日本では大仁田興行が一番近い世界なんですかね？

二郎　生み出す熱狂度という意味では近いかもしれない。近いかもしれないけど……認めたくないですねぇ（笑）。

笠井　ここで「うん」と言ったら、俺はもうダメだ（笑）。

――大仁田のカリスマ性がそうさせてると思うんですけど、向こうのスター選手もそういう意味じゃものすごいカリスマ性ありますよね？

阿部　出たら必ず沸かせるものを持ってる人が強いですよね。

笠井　日本のプロレスだとさ、客の方がこうして欲しいっていう欲求で渦巻いてんじゃん。そういうの、全然ないよ。「来たら全部楽しむぜ！」っていう感じで。

イナズマ　そうそう。だから、みんな乙女の心になっちゃうんだよ。「好きです」って（笑）。

――当然、選手がそれぐらい凄いものを与え続けてるわけですよね。

笠井　そうそう！　カート・アングルとベノワの試合んときに、グラウンドの展開になったときに、客も散漫になってたんだけど、遠くからでもチョップの「バチン」って音が聞こえたときに、みんなワーッてなってたよね。凄ぇ沸いたねぇ。

イナズマ　あのドデカいドームであれだけの音を出せるっていうだけでも凄いことなんだよ！

笠井　見てると、勝負する場所がいっぱいありすぎるね。

――勝負ですか！　それは相手との勝負というよりも、むしろ観客との勝負なんですね？

笠井　「強ければいいんだ！」とかいう考え方がね、凄いショボく見えてくるんだよ。ラリアット耐えてるから強いって言われても、ちょっとなぁって感じになっちゃうよ。日本のプロレスはどっかでさ「強い方がいい」とか絡んでくるから、余計面倒臭いんじゃない？　レッスルマニアとか、そういう勝負じゃないんだモン！

――よく猪木さんが言うじゃないですか、「日本は違うんだ」って。

二郎　それは猪木さんが言うんだから間違いないですよね（キッパリ）。

笠井　ホント、一番簡単なのは強きゃいいってことですよ。強い人がエンターテイメント性の高いことやりゃいいんだよ。だって、猪木さんは実際それやってきたじゃん？

イナズマ　カート・アングルなんか明らかに強いのに「俺は金メダル持ってるから、お前ら俺を尊敬しろ」って。

――筋は通ってんですよね（笑）。

イナズマ　普通にアマレスでマーク・ケアーに勝ってる人なのにね（笑）。

――そう考えると、日本のプロレスの道理の通らなさってないですね。

二郎　『PRIDE』とかだと選手は勝ち続けなきゃいけなくて、それが一番キツいようなイメージありますけどね。でも、負けても光らなきゃいけないっていうことを考えればWWFで売れてるヤツっていうのは一番強いですよね。客を熱狂させない限り干されるわけだから。

――その熱狂してる客層っていうのは、どんな感じでしたか？

二郎　ホントにちっちゃい子からディック・マードックみたいなおじさんがオースチンのTシャツ着てうろうろしてますからね。揺りかごから墓場までって感じで（笑）。

笠井　まんべんなくどんな層もいるんだよ！

二郎　俺も、あれと同じ客層で同じ熱狂を味わえる空間は日本じゃ絶対あり得ないと思ってたんだよ、昨日までは。でも昨日、横浜アリーナにモーニング娘。見に行ったら、全く同じだった（笑）。日本で一番WWFに近いのは『PRIDE』でもK−1でも新日でもなくて、モーニング娘。ですよ！

――意外なところにライバルが（笑）。

二郎　モーニング娘。がたまたまスクリーンを使ってたんだけど、メンバーの名前出ただけで、客が「ウォーッ！」って盛り上がってて、目からウ

レッスルマニアに乗り込んだ5人の男たち

北野篤●日本のシェーン。まともに学校に行かない割には、プロレス会場にはマメに顔を出す典型的なドラ息子。こう見えてもバッファロー柔術（ただのチーム名）のトップ。

ハチミツ二郎●芸人さん兼トンバチプロ社長、自身もカミナリボーイズというユニットで活躍中。「レッスルマニア」は第一回から（テレビで）見てる筋金入りのWWFファン。

笠井修●デザイナー。自宅にスカパー導入後、テレビ視聴があまりにも多忙なため、すっかり引きこもり気味の入れ墨獣。バッファロー柔術の一員でもある。

イナズマ★K●場外乱闘が起こると、必ず至近距離まで追いかけたり、DJをやりながらブースから飛び降りて骨折したりのバイオレンスな音楽ライター。

阿部猛●某ゲーム会社勤務の熱血サラリーマン。以前はアフター5はプロレス三昧だったが、部下もできて仕事が忙しいためか、最近は自爆気味も、WWFで大爆発。

これが4横綱

ってビンスの股間を一蹴！　試合は見事にシェーンが勝利を挙げた。この奇跡の復活に観客は大熱狂！　なんと、この瞬間のために『週プロ』の須山記者は、前日の夜「LINDA WAKE UP」というプラカードまで作成する気合いの入れようだったとか。今後、ビンス率いるWWFと、シェーンが買収したWCWの抗争に雪崩れ込む模様だ。

と、まあビンスが中心に動いていると いってもスター選手もとてつもなく素晴らしい選手ばかり揃えているのがWWFのWWFたる所以。今回ツアーに参加した人たちの話によれば、ちょっと前までは、不動のスーパースターだったストーンコールドも昨年の長期欠場により、やや人気は下降気味だったとか。しかも、「レッスルマニア」ではまさかのヒール転向を果たした。そうすると不動のエースはザ・ロックで決まり！　HHHとアンダーテイカーはほぼ互角の勝負だという。時代は確実に動いているのだ！

とにかく高級車を破壊しまくるWWFだが、それを親切丁寧にも展示してくれるのだからマニアはヨダレもの！　リムジン、バス、バイクなどとにかく躊躇なく破壊してみせるWWFの真骨頂とも言える。日本で言うならば、シンに破壊された馳のセリ

もちろん、アメリカにもいます！　スター選手そっくりのコスプレ野郎ども！　この写真のダッドリーズ以外にもロック様が大人気。女の子はリタやステファニーもどきがウジ

どんなに遠くの席にいても、熱と衝撃を感じるというケインの入場シーンの火柱！　こうした破壊力のある演出が会場の雰囲気を嫌でも高めてくれるのだ！

昔のスター選手の記念品なども展示されていた。写真はアンドレ・ザ・ジャイアントの遺品なのだが……なぜか、ジャイアント・マシンのマスクが！　コレを見たアメリカ人は何を思うのか？

ロコが落ちたもん。プロレスじゃないとこにWWFがあったね（笑）。

笠井　じゃあ、つんくがビンスだ（笑）。

二郎　そうそう！　だから『ASAYAN』が『RAW IS WAR』に近いと思うんですよ！　ホント、どう考えても、日本のプロレスに例えられないんですよね。全盛期のドリフとか、モーニング娘。とか、そっちになっちゃう。

笠井　新日の選手が東京ドームのスクリーンに映っても、なんも盛り上がらないもんね。「焼肉のIWGP」のCMぐらいじゃん（笑）。

――アハハハ！　あれは最高ですけどね。もう、WWFはプロレスの枠を飛び越えちゃってるんですね。

二郎　ドリフのコントも、大人が見ればしっかりわかるんだけど、子どもは「志村、後ろ！」って1年間言い続けるっていう感じですよ（笑）。志村が後ろを向くことは絶対ないんだけど、それでも「後ろ！」と言わずにはいられなくて。で、『レッスルマニア』で初めてチラッと後ろを向くわけですよね？

笠井　その「後ろ！」を言い続けるんだよ、1年間も（笑）。

阿部　その『レッスルマニア』でまたストーリーが始まりますからね。観客のテンションが下がらないんですよね。もう一生見続けるしかないですよ！

――あっちゃんはどう感じました？

篤　（考え込んで）日本の場合は……（小声で）気持ち悪い。

――日本のファンは気持ち悪い！

篤　いやいや、そうじゃないんです！

二郎　もう、どら息子だからね（笑）。

篤　そうじゃなくて、ボクが風邪ひいてて、いまちょっと気持ちが悪くなってきただけなんですよ！

――あっ、大丈夫ですか？　すいませんね、風邪なのに。

篤　でも、大丈夫です……日本のファンが気持ち悪いわけじゃないですから！（笑）。でも、向こうの客席は何だか居心地よかったですね。

笠井　でもさ、ホント日本の会場で右手を全力で突き上げられる機会ってないよね。

篤　知らないうちに上がっちゃう感じですよね。たとえば（佐々木）健介選手が勝っても、手は上がらないじゃないですか。

二郎　恥ずかしい思いって全くなかったよね。でも、たとえ健介選手のことが嫌いであっても、WWFだったら「健介ェーッ！」って俺らが言わなきゃいけないような感じがするでしょ。よくわかんない例えだけど（笑）。

――きっとWWFの健介選手は「健介ェーッ！」って言わせてくれるわけですよね（笑）。

笠井　だから健介選手がWWFに出てみりゃいいんだよ。そしたら俺らも躊躇なく応援できるかもしんない。でも健介選手が嫌いなわけじゃなくて、そうさせてくんないレスラーはダメなんだと思うんだよ！

イナズマ　いまたまたま健介選手が代表として名前が出てるってだけで、日本のレスラーはそうさせてくれる選手がホントに少ないよね。

笠井　日本人なら桜庭（和志）の試合だなぁ。ホイスvs桜庭戦のときなんて、俺は自然に「ウワーッ」って声出してたもん。

イナズマ　だから、日本人の試合でも決して無理なわけじゃないんだよね。

二郎　でも、WWFには桜庭みたいに試合で沸かせて、なおかつ完璧なマイクアピールできる状態の選手がゴロゴロいるってことだからさ。

笠井　ファンが「負けたらどうするんだろう？」ってぐらい相手のことをボロクソに言いまくるんだよ、ホントに。そうやって2～3ヶ月も煽ってさ、ボコボコに負けるんだから（笑）。そりゃダイナミックだよね！

イナズマ　全盛期の落合とか、そういう感じだよね。

笠井　悪いことばっかり言って三冠取るっていう

会場内に設置された巨大入場ゲート「タイタントロン」で映像と音楽とプロレスの融合を実現！ 金のかけ方が尋常じゃないということはわかるのだが、それでも日本との差が気になってしまう。

もう、最高！ 大観衆、リング、その中央で両手を突き上げるオースチン！ もはや何もいらない陶酔の極地！ ここに大歓声が被さるのだから、飛ばされるはず！

レッスル・マニアには出場できなかったが、ファン・フェスティバルでは試合をしたTAKA&ショーの海援隊。もちろん、アフレコもやりました！

感じ？（笑）。でも、ホントにみんな落合なんだよ（笑）。自分の言葉で勝手に背水の陣を引く感じ。

——たとえ負けても負けたら「正直言って、すまん！」とか、そういうレベルじゃないわけですね（笑）。健介選手の話ばっかりで申し訳ないですけどね。

二郎 あと、なにが凄いって、『レッスルマニア』でロックvsオースチンという大一番があってさ、二大横綱が闘ったんですよ！ そしたら、次の日に『RAW IS WAR』の会場行ったら、またロックvsオースチンがメインで組まれちゃって（笑）。

笠井 しかもケージマッチ（笑）。

二郎 だから、ドームで小川（直也）vs橋本（真也）をやって、その次の日には後楽園ホールでもう一回小川vs橋本を金網マッチでやるようなもんですから（笑）。

阿部 でも、それなら日本でもできますよね？

笠井 だから対戦カードだけに価値観をつける必要って全くないんだよね。試合内容が面白いとか言ってる割には、対戦カードの価値観でしか客を引っ張れないわけでしょ？ 試合なんか面白くねぇじゃん……って、これは言い過ぎか（笑）。

——WWFって試合がどうだっていう問題じゃなくて、ストーリーの作り方が凄いじゃないですか？ それがカードの魅力を上回っちゃってますよね。

二郎 WWFが選手をタレントって呼んでるように、レスラー使うんじゃなくて、本物のタレントを使わないと日本は追いつけないですね。

笠井 俺もそう思う。WWFは、もう毎週猪木vsタッキーをやってるようなもんだからね。

阿部 日本のプロレスには惹きつける何かがないんですよ。WWFのプロレスは試合だけじゃないですからね。

二郎 日本で同じことやるには、『HERO』の脚本書いたヤツも入んなきゃダメだし、『電波少年』のスタッフも入んなきゃダメだよね。

——まあ、そういうところに行き着くまで、かなり時間がかかりますよね。

二郎 でも、ビンスが「エンターテイメントだ」ってカミングアウトすればするほど、「プロレスなんか八百長だろ」って客がいなくなってんですよね、アメリカの場合は。それでいて、もの凄い熱狂を生んでますからね！

篤 モーニング娘。のコンサートも全部アドリブだと思って見に行く人はいないですもんね（笑）。

二郎 風邪で調子悪いかと思ったら、こういう話だけは食いついてくるな。さすが、ドラ息子（笑）。

イナズマ でも、カミングアウトしてるのに「勝った」「負けた」でこんなにときめくのはなぜだろう？

笠井 だからさ、いい興行は客がすげえ期待をしてなきゃ無理なんだよ、絶対に。レッスルマニアなんて相乗効果だったよね。客がつんのめってるから、選手もそれに応えて、どんどん高くなっていく感じ。

——多分、雰囲気的に近いのって、一時期のW★INGみたいな感じなんでしょうね。客とレスラーの乗せ合いっていう部分では……。

イナズマ だけどスケールが全然違うから、ここでそういうのを言うとねぇ……。

笠井 そういうのにね、「うん」とは言いたくねぇんだよ！

イナズマ 前号で「W★INGがどうのこうの」って書いたけど、ごめん、あれ全部ナシ！

——アハハハハ！ そんな手の平返し（笑）。

イナズマ でもね、あれだけデカい規模のプロレスを見たらさ、逆にインディーの良さも明確に見えたような感じはするなぁ。

笠井 そうそう。それはアメリカでもみんなで話したけど、DDTには絶対可能性あるんだよ。

——やっぱり日本のエンターテイメントはDDTですか！

笠井 たとえばの話だけど、DDTがケビン・サリバン呼んで来て、毎週ケビン・サリバンvs高木三四郎とかやってたら、凄え面白くなるんじゃな

いかなって（笑）。

阿部　なんでまたサリバンが（笑）。

二郎　やっぱり重要なのは素材なんですよ。高木三四郎という考える人がいるんであれば、あとはいかに外人レスラーを呼ぶかとか、そういう問題でしょ、と。

笠井　新日よりそっちの方が可能性あるんじゃねぇかと思ったもん。

イナズマ　山川（竜司）にしても、本間（朋晃）にしても、やってることはハーディーズとあんまり変わんないんだけど……でも、何かが違うんだよね。

笠井　問題はそこだよねぇ（笑）。

――じゃあ、逆に日本のプロレスはどういう部分を変えてけばいいんですかね？　客も、フロントも、選手も変えなきゃいけないんですかね？

二郎　客は変われますよ。スキャンダルを全部出しちゃえばいいんですよ。

――突然、そこまで変えて大丈夫ですかね？

笠井　絶対そうだよ。

イナズマ　破壊王か誰かがマイクで長州に「ふざけんじゃねぇよ、このチャーシュー力！」ぐらいのこと言ってさぁ（笑）。

笠井　破壊王が、長州の車をガンガン破壊したり。

イナズマ　いきなり会場で客全員に弁当配ったり（笑）。

――ホントのスター選手が、それぐらいバカなことやってくれれば変わりますよね。

笠井　もうＷＷＦを見た後だと、こういう話聞いても全然普通のことのような気がするもん（笑）。

イナズマ　でも、レッスルマニアだって、ここまでキチンとしたイベントになるまで17年もかかってんだから。

笠井　いろんな人を切り捨ててきた歴史もあるわけじゃん。

二郎　うん、最初はついて行けない人がいても全然いいんですよ。でも、キッチリ作り上げていけば、その倍は帰ってきますからね。

イナズマ　年月かければ、そうなるんだよ。でも、上層部でやろうとする人がいないんじゃない？

笠井　みんなＷＷＦを見てないんだよ。

二郎　オースチン、髪の毛生えてる頃しか知らないでしょ。

――藤波社長は知らないでしょうね。

笠井　「蝶野とやったヤツだろ？」って（笑）。だって、みんなでＷＣＷ見たとき「凄い！」って言ってたじゃん。それでいいのかよ！

――あのダメな時期のＷＣＷを（笑）。

イナズマ　それで猪木に怒られてたじゃん（笑）。

笠井　ダメだよ、それじゃ！　猪木さん、あのときに「ＷＣＷは絶対潰れる」って言ってんだから。みんなで感激してどうすんだって（笑）。

二郎　藤波社長も見に行くべきだね。俺は芸人で、お笑いの興業会社やってますけど、俺と同じぐらいの若手芸人は一人もＷＷＦを見に行ってないわけですからね。俺は圧倒的な差がついたと思ってますよ！

笠井　マジで人に物を売る商売の人は絶対行くべきだよ！

――やっぱり日本のプロレスが生き残っていくためには、いろいろ必要なものは多いですよね。

二郎　そうだよ！　死んだことを認めて本気で建て直さないと。新日なんて、素材は豊富なわけだからね。

笠井　たとえば日本にはヒールと思える人なんか一人もいねぇじゃん。みんなどっかしら、「頑張ってるな」とか「よくやってる」とか思われたがってるのが丸見えじゃん。日本にヒールなんて一人もいねぇよ！

――馬之助とか、シンの姿勢ですよね。

笠井　ホント、そうだよ！　自分が落ちても相手を光らせようっていうのが、まったくないよね。ＷＷＦなんかジェフ（・ハーディー）みたいに自分でバカバカ当たってってもさ、見てるヤツってＥＣＷコールだったりするんだけど圧倒的に応援してるもん。それに比べたら天山選手小島選手とかの声援は応援されてるうちには入らない！　どっちでもいいよ、あんなの！

――あんなのって（笑）。

二郎　裏情報によると、天山と小島は昨日モーニング娘。のコンサートに行ってるんですよ。そこで何を長州に報告したかってことなんですよ！

――「ＷＷＦみたいでしたよ」とか言ってたり（笑）。

【01年4月5日、東京・渋谷「王将」にて収録】

インタビュー後記■と、最後の方は話が思いっきり脱線して、新日本とＷＷＦの比較論になってしまった。その新日4・9大阪ドーム大会で、ゴールデン生中継を実現させたが、ＷＷＦを咀嚼したようなところもあり、エンターテイメント方面にも少し指針を傾けている様子はうかがえる。もっとハジければ、日本のプロレス界も変わるかもしれない。

なんと！　レッスル・マニアの翌日、「RAW」会場に移動する際、スーパースターズとバッタリ遭遇！　阿倍さん。ここぞとばかりに記念写真を撮りまくりだ！　ＷＷＦを見てる人にしかわからないこの至高の瞬間！　（左上・ジェリコ、右上、ミック・フォーリー、左下・クリスチャン、右下・Ｄーボン）

たかが椅子、されど椅子！ レッスルマニアの椅子はこんなにもプレミアム！

レッスルマニアツアーといえば、おなじみの「リングサイドは椅子つき」という特典。この椅子、じつはかなりプレミア度が高いらしく狙われることも多いという。というわけで緊迫の現地リポートです！

――今回、二郎さんと笠井さんと薫君はリングサイドで見たから特製の椅子をもらえたんですよね？

阿部　なんか、あの椅子は暴動が起こるんですよね。もう奪い合いみたいで（笑）。

二郎　薫はドラ息子だから、椅子から目を離してたら、ホテルのロビーなのに褐色系の少年が堂々と椅子持って行こうとしてたもんな（笑）。笠井さんが気付いたら、置いて逃げて行きましたけど。

阿部　バスの入り口で「頼むから売ってくれ」って待ってるヤツがいたし。

二郎　会場の外出るまでに、子どもが欲しがってるお父さんが「売ってくれ」って来たもんね。

笠井　「売ってくんねぇか？」っていい笑顔で言うから、「メチャメチャ高い！　売らねぇ！　子どもに言っとけ！」って言ったら、子ども、凄ぇ怒ってんの（笑）。

ジャイ　普通のパイプ椅子なの？

二郎　パイプ椅子にアストロドームがイラストが入ってんの。カッコいいよ！

――みんな持って帰って来たんですか？

二郎　薫なんかドラ息子だから「いらない」だって（笑）。だから俺2個持って帰って来ましたよ！　重いから成田空港で預けたら「20キロです」だって（笑）。

イナズマ　ジェリコも「お前ら、これ買ったのか？」って言ってビックリしてたよね（笑）。「バブルラットたちが椅子持ってるぜ」みたいな感じで（笑）。

二郎　会場内でも「なんでジャパニーズだけ椅子持ってんだ」とか言われて。

笠井　凄ぇ悪い言葉で言ってたよ。

二郎　でも、俺らには二世タレントいますから、ファッキンジャップぐらいはわかるよ、バカヤロウ！って……言えなかったですけど。

アメリカ通信

や一言が致命傷にもなりかねない。

DE．13」で安田忠夫の応援に駆け

アメリカ通信員の元祖!! ジミー鈴木吠える!!

田中正志ナンボのモンじゃい!! ゴング系の〝プロ〟のプロレスマスコミが大激怒!!

シュート活字にモノ申す!!

ここ最近、本誌はアメリカンプロレスを〝シュート活字〟的な切り口で取り上げてきた。日本のプロレスとの分かり易い比較をする上で避けては通れない道であることは間違いない。だが、そんな状況に牙を剝く男が、本誌に「出してくれ!」と直談判してきた! 誰あろうアメリカ在住のジミー鈴木氏である! 同じアメリカを拠点にする者同士の意地なのか? プロレスマスコミ・イデオロギー闘争が遂に始まる!

良くも悪くも様々な反響があった、ここ何号かの〝シュート活字〟字特集。やってはみたものの、何だかとっても「他人事」というか「遠い世界のこと」というふうに捉えてる人も多いんだなぁと思うことが最近は多い。絶賛されるような類のものではないことは初めからわかっていた。というか、下手すればプロレスラーの皆さんからボコボコにされることもあるだろうなという心配の方が大きかったというのが正直なところ。もうちょっとオオゴトになるつもりで腹は括っていたのだが、少し肩透かしを食らったような気分ではある。

そんな中でも、真っ正面から否定してくれる人はこちらとしてもありがたいし、是非とも話をうかがいたい。逆にどんなところがダメなのかというところをガンガン言ってもらったほうが、その人の立場も〝シュート活字〟の立ち位置もハッキリする。

「そういうのは相手にすると、自分の価値が下がる」という気持ちも分からないでもない。ボク自身、〝シュート活字〟信奉者でもなければ、従来の〝活字プロレス〟ドップリの人間でもない。

どっちつかずの立場だから、どっちの意見も聞いてみたい。

「コウモリだ!」

と言われたって別に構わない。コウモリになれるのが、この仕事の醍醐味だと思うくらいだ。

●

というボクの立場を踏まえた上でこの原稿を読んでいただきたい。

●

本誌34&35号で連続掲載した田中正志氏のインタビューを読んでいただいた方には、わかっていただけると思うが、〝シュート活字〟とは決してプロレスを貶めたり、攻撃したりするものではない。とは言ってみても、立場が違えば、何気ない一行や一言が致命傷にもなりかねない。言葉の使い方を一歩間違うと、すべてが台無しになる危険性を孕んだものである。ミニコミ時代からコツコツと積み重ねてきた田中氏の手法が、インターネットの時代とマッチして、徐々にファンレベルで浸透しつつあるのは、ボクも肌で感じている。

ただ、それが何か〝大事なもの〟を奪ってしまうんではないだろうか? というボンヤリとした危機感みたいなものも、同時に感じていたりする。もう、ボンヤリしすぎて何だかわからないが——。

というような気分でいたところ、それが何だかわかった瞬間に出くわした。

ジミー鈴木氏から、この言葉を聞いたときだ。ちょっと震えてしまった。

〝プロレス活字〟

「あっちが〝シュート活字〟なら、こっちは〝プロレス活字〟だよ!」

という、まあ売り言葉に買い言葉みたいな感じだが、これがなぜだか妙に懐かしさを感じさせてくれる。〝活字プロレス〟ではない、〝プロレス活字〟。ターザン山本編集長時代の『週刊プロレス』が発信していた〝活字プロレス〟よりも、なぜかもっと懐かしい感じがする。

●

なぜ、ボクがジミー鈴木氏と接触したかを説明しなければなるまい。

ジミー鈴木氏といえば『ゴング』『ファイト』『激本』『東スポ』などで絶賛活躍中のプロレス・フォト・ジャーナリストである。今回、『PRIDE.13』で安田忠夫の応援に駆けつけるためにわざわざテキサスから飛来したジミーだったが、飛行機の遅れで試合には残念ながら間に合わなかったそうだ。しかし、安田の勝利には、喜びを隠せない様子。そんな熱い男である。

そんなジミーさんが、業界内で忌み嫌われることに関しては右に出る者がいないと思われる本誌に、なぜか執拗に「出してくれ」と売り込んできてくれた。本誌鬼畜編集長の携帯に直電である。あいにく、『さくぼん』の入稿期間と重なってしまったため、代理としてボクがお話をうかがいに参上したという次第である。

なぜ、また急にウチの雑誌で?と思いその理由を尋ねてみたのだが、これがまた最高にイカしてた!

「〝シュート活字〟について、どうしても言いたいことがあるんだよ!」

これだ!

もう、ずっとこの瞬間を待っていたような気がする。

石川雄規や高山善廣など、レスラー側からの見解は直接聞くことは出来たが、マスコミ側から(しかもゴング系!)〝シュート活字〟に噛みついていただけるなんて!

今回はスペースに限りがあるので、ひとまず「ジミー鈴木氏から、〝シュート活字〟(というか、田中正志氏?)に宣戦布告があった!」ということだけをお伝えしたいと思う。来月発売号で、大々的に〝プロレス活字〟代表・ジミー鈴木氏のインタビューを掲載するので、乞うご期待!

3・26WCW最終大会テレビ観戦レポートfromアメリカ
……その詳細を克明にレポートします

WWFがWCWを飲み込んだ日

日本では猪木がスッパ抜いたWCWの買収問題。その詳しい内情は田中正志氏のページを読んで頂くとして、ここでは最後のWCW中継『マンデー・ナイトロ』の模様をお届けしたい。インターネット上のプロレス&格闘技の観戦記サイト『KANSENKI.NET』の協力を得て、本誌はそこにアップされていたアメリカ在住のひねリンさんの原稿を抜粋しながらお届けしたいと思う。（本文中の太字はひねリンさんの抜粋原稿。細字は本誌の原稿です）。
構成／坂井ノブ

（前略）この日、とうとう5年以上に渡る月曜生戦争が、WCWを買収したビンスの完全勝利という形で決着が付きました。しかもライバル番組をジャックして同時二元中継を行い、ガチの興行戦争の結果をそのままアングルにしてしまうという前代未聞の方法が取られました（ええと、WWFとWCWの戦争初期についてもっと知りたい方は、田中正志氏の幻の著作『開戦！プロレス・シュート宣言』をどうぞ）。

というわけで今回のレポートは、8時開始のナイトロの模様から始まります。「まあ最終回くらいナイトロ見るか」と軽い気持ちでテレビをつけたら、WCWのロゴが出たあと、いきなりRAWのインタビューセット（RAW is WARのパネル付き）を背景に、得意満面のビンスが登場して仰天。「なぜこの私、ビンス・マクマーンがWCWの番組に出てるのかな？　私は私の競争相手を買収したのだよ。私がWCWを所有しているのだ。だから、今日この番組の最終回で、（嫌みたっぷりに強調して）君達WCWファン、君達WCWスーパースター達に、WCWの命運を教えてあげよう。今夜このスペシャル同時中継で、すべてが明かされる。なぜなら、WCWの命運は私の手の中なのだからだああ（と自分の掌を見せて嫌みに笑う）」

その後、いつものナイトロの番組開始のクリップが流れ、中継開始。今日は春休み特別企画で、ビーチの野外会場からの中継（企画したときには、まさかこれが最終回になるとは考えてなかったはず）。いつものように花火がバンバン上がり、ファンがきゃーきゃー騒いでいる（後方にちょっと空席あり）。日本だったら、団体最終興行でファンがこんなにノーテンキに騒ぐことは在り得ない。今日は「Night of the Champions」と銘打って、5大タイトルが全てかけられるとのこと。

オープニングからすでにWWFが乗っ取っているというのも凄い話だ。完全制圧、というか「蹂躙」という言葉こそが相応しいこの演出。この日は、むしろ試合以外の部分に語るべきことが集中しているため、試合に関するレポートは割愛させていただく。

【2001年宇宙の旅のテーマで背広姿のフレアーが登場】

「（しばらく静かに上を見つめてからいきなりハイテンションになって）さっき私が、Hooo！（この雄叫びはフレアーの代名詞）私が聞いたのは、ビンスマクマーンがWCWをその手に握ったという宣言だったのか？　それは、お前がジャック・ブリスコ、ドリー・ファンク、ハーリー・レイス、ロード・ウォリアーズ、スティング、ルーガー、スタイナーズ、バグウエル、リック・フレアー、（リッキー）スティンボートを全て手に入れたという意味か？　そんなはずはないね！」

フレアーの一言一言叫びながらの渾身のマイクは続きます。

「（中略）ビンス、ちょっとしたことだか、1981年にお前がWWFのアナウンサーになりたがっていたとき、重役会議でお前の父親は、私をチャンピオンにするように投票したんだぞ！　Hooo!!（と叫んでロープに飛んで戻ってきて）どうだ！　そしてそれ以来私は、リムジンに乗り、ジェット機で飛び、女の唇を盗み、辣腕をふるい（limousine-riding, jet-flying, kiss-stealing, wheel-ing-dealing）、WCWと共にやってきて、世界中の女とキスをし、泣かせてきたのだあ！」（これはingで韻を踏んでいるわけです）

「我々はWCWとして生き、呼吸をし、汗を流し、最高となるためにやってきた。だが、いつも重要なのはボーイズ（レスラー達）ではなく、オフィスにおけるWWF vs WCWだった。ボーイズは毎晩リングに上がり、最高となるため、やれることを全てやってきた。自分で選んだこの生きる道のために。そんなボーイズが今夜ここにいる。我々はどこにも行かない。お前は我々を所有し、我々の命を予言することなどできない。我々はWCWだ。我々は血を流し、汗を流す。お前が前回一時間戦い、身を切り刻み血を流し続けたのはいつだ!?　お前はそんなことはしていない。絶対にしていない。お前はいつも、ドレッシングルームにはいなかった。毎晩血と汗を流しながら次の街に向かう、その旅にお前はいなかった！　お前には人々の命を握れない！　もう一度言う。お前に我々を支配することなどできない」

「最後に言いたい。私のこのスポーツにおけるキャリアの中で、最大の敵はスティングだった。そこで今日我々はやるぞ。スティンガー、ネイチャーボーイはお前を求めている。スティング！　スティング！　我が最大の敵！　スティングよ！　これがお前の……（ここで観客がスティングコールを始める。フレアーもいっしょに叫ぶ）これがお前の英雄（the man）になる最後のチャンスだ！　なぜなら、私こそthe manだからだ!!」

いやあ、俺はいつもフレアーの血走ったおおげさなアピールはうざいだけだと思ってたけど、今回ばかりは圧倒されました。すごいすごい。ほぼ完全収録しちゃいました。ちなみにこのアピール時、「WWFサックス！」とか「ビンスは悪魔だ」とうと書いた観客のプラカードも映されていた。

泣ける！　NWA～WCWを通じての象徴的な存在であるフレアーのこのマイク。重さが違う！　そんな重苦しい雰囲気の中継の合間に、何度もビンスのビンスのイジワル映像が挟み込まれている。それを抜粋してお届けしよう。

【RAWの会場のいつもの控え室】

ビンスが弁護士と電話している。「奴らはこの最後の放送の舞台に、レッドネック（日に焼けて首の赤い奴ら＝白人労働者への差別語）の安酒場を選びやがった。なんて奴らにふさわしいんだ。」

【再びビンスの控え室】

やっぱり電話をしていて「彼の才能は悪くないよ」とか、早くも使える選手の見積りをしている様子。そこにトリッシュがシャンペンを持ってやってくる。ビンス「本当にこの特別な夜を祝福するなら……」とトリッシュをソファーに押し倒す。（※編集部注　ここで試合を挟むのだが、その後もさらに濡れ場は続く）トリッシュがビンスのシャツのボタンを外しているところに、マイケル・コール

ホントはこの原稿も、WCW『ナイトロ』とWWF『RAW』の模様をほぼ完全採録してあったのだが、スペースの都合上、編集させていただきました!!
というわけで、『KANSENKI.NET』でひねリンさんの完全原稿が読めます!! http://www.sportsnavi.com/kakuto/kansenkinet/をご覧ください！

がインタビューに。不機嫌になるビンス。「お前は今、この時間に私の邪魔をしようとするのか？」それでもマイケルが、ＷＣＷファンと選手たちが今後を心配していますけど？　と質問。ビンスは「そうか。お前、自分の仕事の保証についてはどう思うんだ？　失せろ！」

ビンスのエロ＆極悪っぷり、最高！　商売敵をブッ潰して勝利の美酒＆美女に酔うとは……これぞ男の鏡である！　ちなみにマイケル・コールとはWWFのヘナチョコ・アナウンサー。日本で言うなれば真鍋アナあたりが適役か。合間合間にブッカーTやダイヤモンド・ダラス・ペイジによるファンへのお別れコメント映像を挟みながら試合は進んでいく。そして迎えたメインイベントがこれ。そして、当然それだけで終わるはずもなく……。

【フレアーvsスティングの、ＷＣＷナイトロ最終試合】
フレアーはナイトロのシャツを着たまま戦う。試合はまあ、ふたりの黄金スポットを丁寧に確認するように魅せて行く試合に。アナウンサー達も、ＷＣＷの歴史と二人の戦いの歴史を確認している。しかし客は単に沸いているだけで、感傷的なムードなどこれっぽっちもないなあ。この試合、俺が最後に観た二年くらい前の二人の試合に比べても、双方ともちょっと動きは落ちてるかなと思ったけど、まあ今日に限ってはそういう問題でもないでしょう。フレアーの４の字を逃れたスティングが、サソリでギブアップ勝ち。スティングはフレアーを抱き起こし、そのまま抱きしめる。そして握手、抱き合う二人……。

感動的な場面もそこそこに、いきなり画面がＲＡＷの中継に切り替わる。実況もＪＲとヘイマン（＝ポール・Ｅ・デンジャラスリー）。リングから引き上げかけていたビンスが、再び紹介されて戻ってくる。ヘイマンは「月曜戦争の勝者、ミスターマクマーン！」とか言ってる。リングに立ちマイクを持ったビンスは、これは史上初の同時二元中継であって、このシーンをナイトロの視聴者も観ていることを説明。

「こんな歴史を作れるのは一人しかいない。私はＷＣＷを獲得した。私は私の競争相手を買ったのだ。タイムワーナー社が他に売る相手がいないから、誰もＷＣＷをどうしていいか分からないから、私に買ってくれと頼んだのだ。タイムワーナーはすでに契約にサインした。しかし私は、この日曜、レッスルマニアにてサインするのだ。ターナー自身が会場に契約書を持ってくるのだ……」等々。

ビンスの絶好調ゴーマン節は続きます。

「（中略）そうだ、ＷＣＷの最後の放送はビアホールで、酔っ払いのレッドネック達の前で行われたのだ。なんと最適な場所だろうか。とにかく私は、その試合会場に行きリングに上がり、すべてのＷＣＷスター達の目の前で言ってやろうかと思っていたのだ『お前ら、首だあ！』と。実際そうなるのだ。私はＷＣＷを棚に押し込む。奴らは埋葬されるのだ！　ＷＣＷは埋められ続けるのだ。このアリーナの全ての者達、私に立ちはだかろうとした全ての者と同じように！」

ここで"ass hole"と叫ぶ客がちらほら。ビンスはさらに煽る。

「それを始めるな。私は尊敬に値する者だ。この野郎、私はビンス・マクマーンだぞ！　俺はＷＣＷもＷＷＦも所有しているのだ。私を尊敬しろ！」

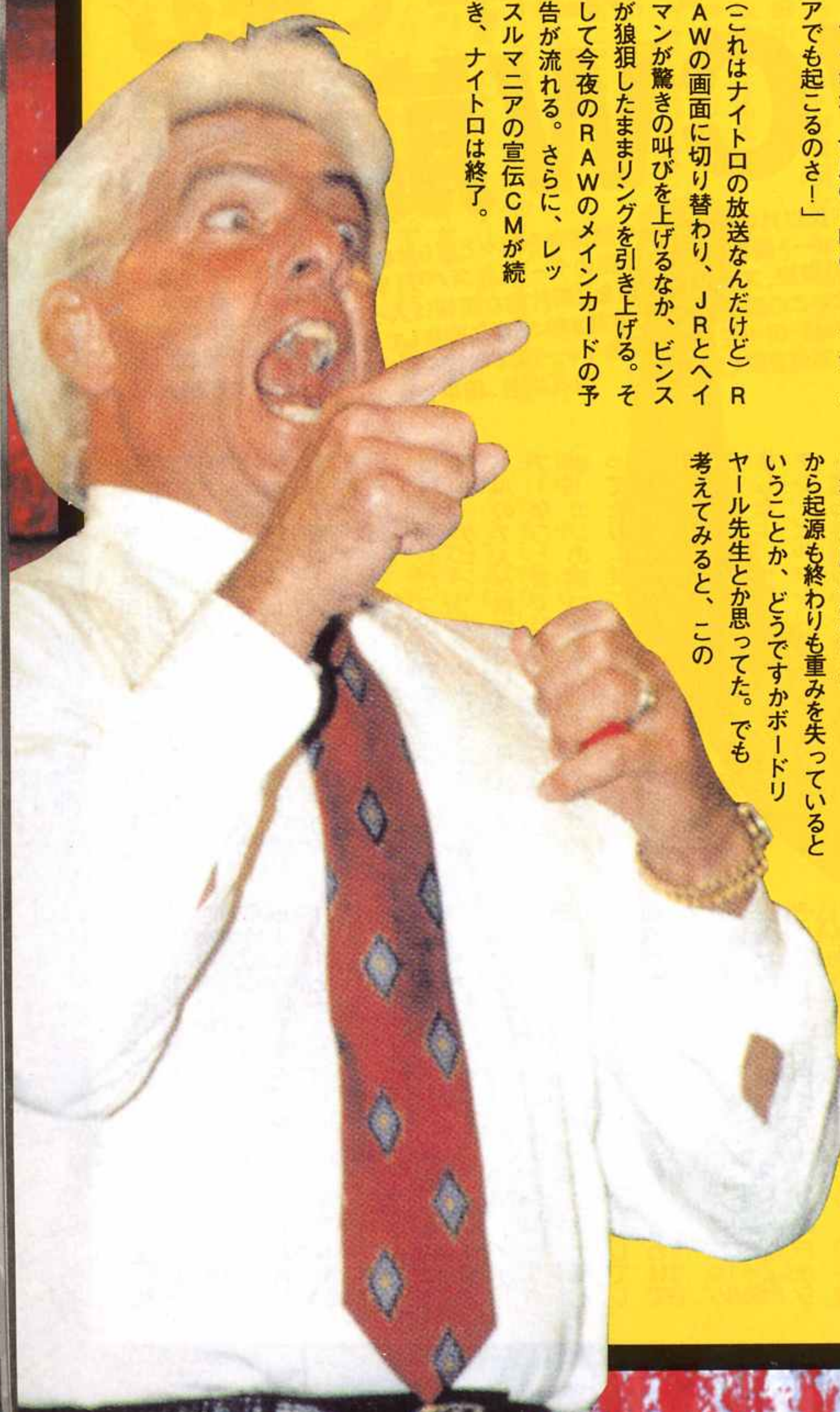
もう、凄すぎる！　差別、侮蔑、傲慢、不遜、このビンスのマイクには人間のありとあらゆる嫌らしい要素が凝縮されている。ここでマクマーン家のテーマ曲が鳴り、スクリーンにはシェーン・マクマーン（ビンスの息子）が登場。

シェーン「やあビンス。驚いたかい。僕はこのパナマシティビーチの、ＷＣＷのリングに立っている。ダッド、いつものように、お前のエゴがお前を滅ぼしたのさ。お前は（すぐ契約せずに）厚かましくもターナーにレッスルマニアに来させてそこでサインをしようとしたんだろ。僕はそれを狙っていたのさ。もうＷＣＷとの契約は完了したんだよ。マクマーンの名でね。だがそれは、シェーン・マクマーンの名でなされたのさ。そうさ、僕が今、ＷＣＷを所有しているのさ。ダッド、ＷＣＷはかつてお前をやっつけたように、またお前をやっつけるのさ。そしてそれが、今度の日曜のレッスルマニアでも起こるのさ！」

（これはナイトロの放送なんだけど）ＲＡＷの画面に切り替わり、ＪＲとヘイマンが驚きの叫びを上げるなか、ビンスが狼狽したままリングを引き上げる。そして今夜のＲＡＷのメインカードの予告が流れる。さらに、レッスルマニアの宣伝ＣＭが続き、ナイトロは終了。

WCWの番組でWWFの告知！　ワールド・プロレスリングの中継で、全日本の大会を告知するようなものか？　もう日本のプロレス界では考えられないようなことが、信じられないスケールで行われている。かくして、WWFがアメリカ制覇を成し遂げた瞬間であった。日本で、ポカンと口を開けて見てるしかない僕らには、もう何も口を挟む余地などない。というわけで、この原稿の締めはひねリンさんの文章で。

まったくすごい話ですよね。他局のライバル番組にのっとられたまま最終回を終える番組なんて、聞いたことがない。しかしこの最終回、最後だというのにファンがあまりにノーテンキに騒いでて、番組中でもノスタルジックに歴史を回想したりする場面はごく僅かしかなかった。ひたすら大量に情報とイメージを流し回転し続けるアメリカのプロレスからは本当に歴史感覚が消えてるなあ、だから起源も終わりも重みを失っているということか、どうですかボードリヤール先生とか思ってた。でも考えてみると、この番組では結局本当の意味での「終わり」は来なくて、ライバル会社のストーリーに組み込まれながらＷＣＷの物語も続いていくことが示されて終わった。プロレスってのは会社が潰れない限り、どこまでも物語が生産され続けるドラマだと思ってたけど、会社が潰れても物語が続いちゃうこともあるんですね。しかしそれにしても、自分が一方的な大ヒールとなることでＷＣＷ全体をベビーフェイス化してしまうビンスにも脱帽ですね。

インディード！（その通り！）というわけで、この翌週に結局ビンスとシェーンはレッスルマニアでシングルマッチで激突して、シェーンが勝利を収めた。WWF vs WCWの内ゲバ抗争は、その火蓋が切って落とされたのだ！　これを見る限りWWFは、間違いなく新日本の何倍も懐が深い！

シュート活字一筋20年
田中正志 再び登場!!

WWFがWCWを買収？ やはりアメプロはこの切り口でしょう!!
シュート活字で読む WCW崩壊

前出のジミー鈴木氏以外にもレスラーや関係者を続々と怒らせながら、それでもなぜか続いていく本誌のシュート活字特集！ 今回のテーマは、ズバリ「WCW崩壊」！ 経営不振、身売り、選手の離脱、スタッフの刷新など断片的な情報は入ってくるのだが、どうにもその実態は掴めないこの問題。そこで、本誌34&35号に登場して賛否両論を巻き起こしたシュート活字の始祖・田中正志氏を緊急キャッチして取材を敢行した！ なぜ、WCWは崩壊したのか、その本質を鋭くえぐります！ そして次号、田中氏に何かが起こる!!

聞き手／坂井ノブ

――相変わらず読者や関係者からは賛否両論なんですけど、今日はシュート活字的観点から見たWCW崩壊ということで、再び田中さんに登場して頂きました！ よろしくお願いします。

田中 よろしくお願いします。今日はまずボクが聞きたいんですけど、日本にも「WCWはヤバい」っていう情報は入ってたんですか？

――そうですね。なんか『日刊スポーツ』のプロレス面には、毎日そのへんの海外情報が載ってますからね。だから、ある程度のファンは知ってたと思いますけど……新日と提携してる団体ですし、ブランド・イメージは大きいですよ。

田中 そうですか。最近はCSでも放送してるみたいですけど、ボクが一番残念なのは95～97年のWWFにすら勝ってた時期のWCWを日本のファンが見られなかったことですよ。

――それはNWO全盛期ですよね？

田中 いや、それもそうですけど、やっぱりクルーザー級ですよ。エディ・ゲレロ、ディーン・マレンコ、クリス・ベノワ、ウルティモ・ドラゴンが活躍したあの時期です。トップはNWOなんですけど、前座で彼らが素晴らしい芸術的なプロレスをやってるんですよ。WCWも『マンデー・ナイトロ』の新路線を始めるにあたって、日本で成功したヤツを雇おうということで、ベノワやディーンやゲレロに声をかけたわけなんです。

――その頃NWOっていうのは、あちらではさほど凄くはなかったんですか？

田中 すごい人気だったし、実際面白かったですよ。なぜNWOがブレイクしたのかというと、「言葉のシュート」を仕掛けたからなんですよ。

――「言葉のシュート」ですかっ！

田中 武藤敬司も去年、WCWに来て「こっちは言葉のプロレスをやってるからオレたち日本人は困る」って言ってましたけどね、その通りなんですよ。もうシュートとワークの境界線を超えて、暗黙の了解以上のことをしゃべっちゃうんです。

――はぁ～、物騒な（笑）。その路線では誰が中心だったんですか？

田中 ケビン・ナッシュとスコット・ホールの2人が筆頭でしょうね。相当タブーなことまでしゃべってましたから。ホーガンの悪口を2人して延々しゃべってたり（笑）。

――じつはNWOっていうのは、そういう運動だったんですか（笑）。

田中 でも、それ以外の選手もやってましたよ。一番面白かったのは、ブライアン・ピルマン（故人）です。彼はホント狂ったヤツで、言ってる内容の半分以上は支離滅裂でしたからね。いつも、ケーフェイ破りのような内容をベラベラしゃべったりして（笑）。もう「誰が勝つか予想してやろう」っていう望月（成晃・本誌34号の田中氏インタビュー参照）の比じゃないんですよ！

――それは怖いけど面白そうですね。

田中 もうボクらみたいなほんの一握りのマニアは毎回大笑いして見てました。

――WCWはずっとその危なっかしい路線を続けてたんですか？

田中 そうですね、その路線がある時期を境に悪い方向に行っちゃったんですよ。たとえば、スコット・ホールが遂に解雇されたときのことなんかは象徴的ですよね。

――あの人は、かなりお酒好きみたいですね。

田中 そうです、もう「何回捕まってるんだ？」っていうぐらいトラブルを起こしてるわけですよ。でも、何度トラブっても「NWOの貢献者だから」ってWCWも温情をかけてきたんですけど、たまりかねて解雇したんですよね。そしたら次の週の放送で、ナッシュが出てきて「こんなことは許せない！」ってアピールするわけですよ。もうリング上のストーリーとか全然無視して、「解雇は無効である」だって（笑）。そりゃやっちゃいかんだろう～ってことなんですよ。だから「言葉のシュート」が悪い方向に行っちゃったいい例ですよね。ハッキリ言っちゃえば勘違い！ やっぱりブッカーの言うことは絶対なんですから！

――じゃあ、WCWが崩壊する一端というのは、ブッカーの権力が低下してしまったからだということも言えるわけですね？

田中 そう。それで誰にもコントロール出来ない状態に陥っていったというね。そこでトドメをさしたのは、WWFから引き抜いてきたビンス・ルッソーの存在でしょう！

――鳴り物入りで引き抜かれたシナリオ・ライターですね。

田中 彼が移籍したときは『ウォールストリート・ジャーナル』と『NYタイムス』が「（WWFやWCWには）シナリオ・ライターがいて、彼らがストーリー展開を決めてるんだ」ということを書いてるんですよね。それで一躍、有名人になっちゃったんです。

――へぇ～、経済界まで注目してたんですね！

田中 ルッソーはもともとボクも関わってるプロレス業界紙『レスリング・オブザーバー』の熱心な読者でね。そっからWWFに入社して広報誌の『RAW』マガジンを作ってたらしいですよ。それで、マクマホンに気に入られて、だんだんと出世していき、WCWに引き抜かれたことでヘッド・ブッカーになったんですよ。でも、その地位になった途端に

自分がブレイクしようとしてリングに上がったりね。挙げ句の果てにはルッソーがWCWのチャンピオンになっちゃいましたからよ!

——ああ、そういえばそんなこともありましたねぇ(笑)。でも、そんな人がいたら当然レスラーは反発しますよね?

田中　最初はルッソー派のレスラーたちも結束して、「ルッソー体勢でやるんだ!」って感じでしたけどね。そのうち、ルッソーが何をやったかというとアメリカで有名なコメディアンをチャンピオンにしちゃったんですよ!

——アハハハハ! それはやり過ぎですね(笑)。

田中　あとはクルーザー級のチャンピオンにメデューサがなったり。男も女もプロも素人もなくなっちゃって。もう、過去のチャンピオンはカンカンに怒ってましたよ。いくら、『ウォールストリート・ジャーナル』に「完全なエンターテインメントである」って書かれたとしても、チャンピオンベルトの価値まで落としていいかっていうと、そういうわけじゃないですから。「ベルトの価値は落としてはいけない」という大原則を忘れちゃったための失敗ですね。

——もう、エンターテインメント・プロレスが思いっきり悪い方向に行っちゃったんですね。では、そういうWCWをアメリカの『シュート活字』はどう評価してたんですか?

田中　真面目に批判してました。いまの新日を批判するのと同じような感じですよ。その点、WWFはシュート活字をしっかり読んでますね。

——そのへんのリサーチ力で団体としても差がついてるんですかね?

田中　それもあると思いますよ。結局、ルッソーは今年の早い段階で切られましたけど、それでも遅いぐらいだと思いますから。

——その時期にホーガンもWCWを離脱して、ビショフと新団体を作るという噂がありましたよね?

田中　ああ、映画会社のFOXが色気を示してたみたいですけどね。それも正式な話じゃなかったでしょう。

——でも、ハリウッドがプロレス作ったら面白いでしょうね!

田中　そうでしょうね、FOXはチャンスだったと思いましたけど。もうWWFが買っちゃいましたからね。

——で、今年の3月26日を最後にWWFに吸収されてしまった、と。いままでWCWはTBS(ターナー・ブロードキャスティング・システム)の傘下として活動してきたわけですよね?

田中　そうですよ。だから今回の放送打ち切りが、TBSとプロレスの29年間の歴史に終止符を打っちゃったんです!

——あれ、WCWってそんな歴史がありましたっけ?

田中　テッド・ターナーがプロレスをビジネスにして自分の局で放送し始めたのは29年前からなんですよ。

——あっ、そうだったんですか?

田中　もう南部のローカル団体からずーっと放送してきたのにね。まあ、今回のWCW買収問題も「経営不振が原因」とか言われてますけどね、もともと29年間ずっと赤字なんですよ。

——えーっ! そうなんですか?

田中　NWO全盛の96年とか97年以外はね。でも、それでいいんですよ。TV局のイメージ作りとして持ってるものだから。ターナーが持ってるアトランタ・ブレーブス(大リーグ)と一緒ですよ。

——宣伝なわけですね。

田中　そうです。ターナーのTBSもCNNがあるおかげで報道のイメージが強いですけどね、もともとはアトランタの小さなテレビ局で「報道もプロレスもやりますよ!」っていうのが売りだったんです。それが、今回(ターナーが筆頭株主を務めていた)タイム・ワーナー社がAOLに買収されてしまって、ホントに実権を失ってしまったんでしょう。

——そんな雲の上の世界で、WCWの放送打ち切りは決まっていたんですか(笑)。

田中　いや、それで新しく入ったTVの編成局長が「俺はプロレスに興味ない!」って鶴の一声で終わってしまったということです。それで29年間続いたTBSとプロレスのアソシエーションが切れちゃったということで。寂しい限りですよ。

——結局、どうにもならなくなったところをWWFが買収したわけですか?

田中　あれは買収なんてもんじゃないでしょ? お金で名前を買っただけですよ。別に団体を丸ごと抱えるわけじゃないから。でも、それを『日刊スポーツ』がそのまま事実関係を書いてたのがビックリしましたよ。一応、「WCWは存続させる」というストーリーをWWFが作ってるのに、裏を書いちゃうんですから。

——ああ、たしかに珍しいですね。

田中　日本のマスコミもちょっとずつ変わってきてますよね。

——さあ、これでWWFがアメリカを制圧しちゃいましたね! ホントにしたたかだし、強いですよねェ。

田中　やっぱりルッソーはスター・ライターかもしれないけど、編集長じゃなかったんですよね。これはボクの友人が言ってたんですけど。

——ほう、それは面白い意見ですね!

田中　ビンスという強力な編集長がいたから、ルッソーは力を発揮できたんですよ。いわばビンスがI編集長で、ルッソーがターザン山本という関係と一緒でしょ? ルッソー体勢のWCWは、ターザン山本亡き後の『週プロ』●●さんみたいな感じで。

——アハハハハ! 暴走しがちなわけですね(笑)。

田中　上に「NO!」を言う人がいないとね。やっぱりライターには編集者が必要なんです! じつはボソッと言ってくれる一言が重要だったりしますからね。

——はぁ〜、身に染みますね(笑)。

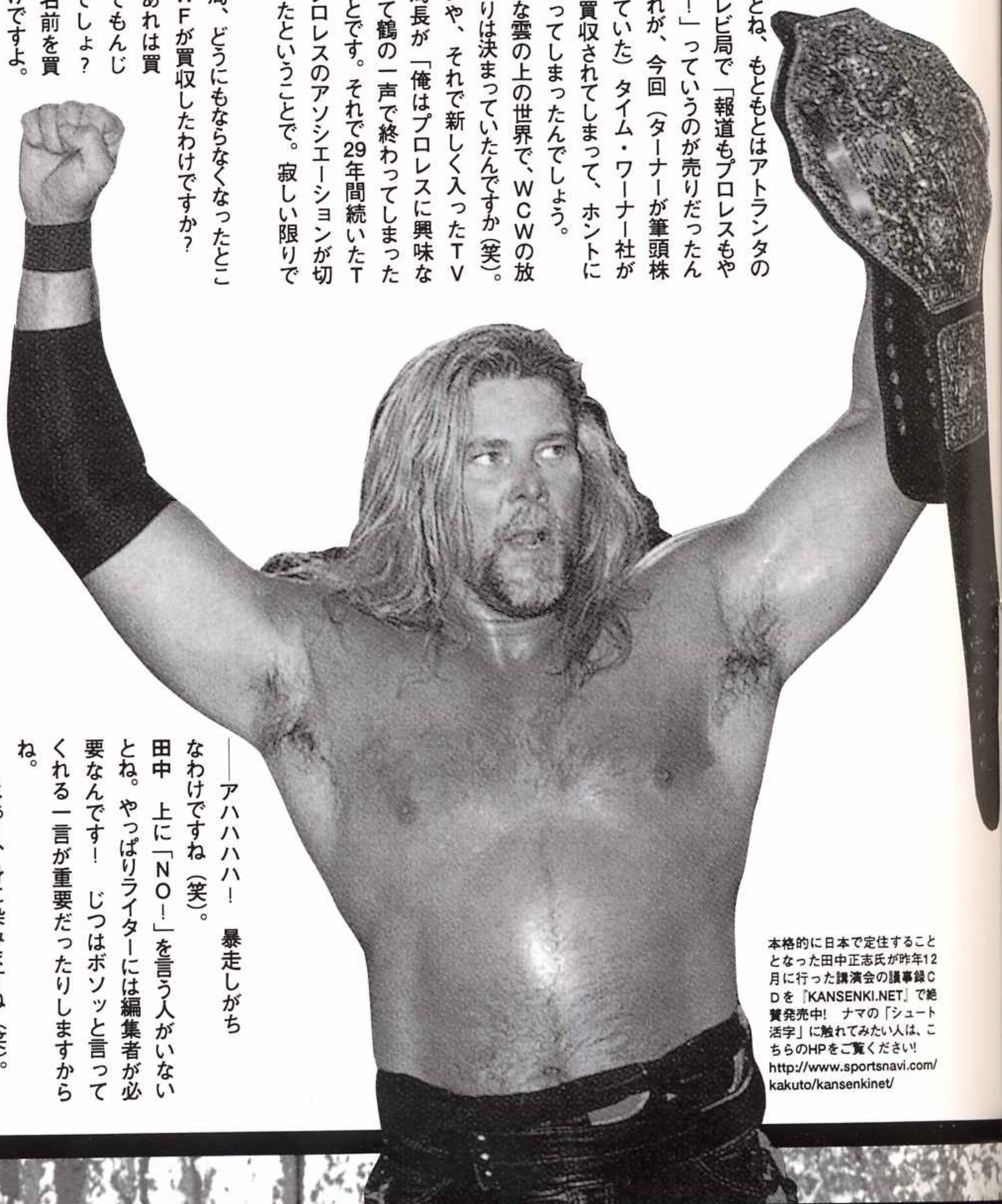
田中　ボクの場合はI編集長の一言とかね。ノブさんも山口編集長の一言でハッと思うことありませんか?

——ああ、最近は多いですねぇ……。

田中　そういう編集長がいるところは強いですよ。

——それでビンスが一人勝ちしたわけですからね。だけど、ウチはどうにも一人勝ち出来そうにないですけどね(笑)。編集長がしょっちゅう失踪してるんで(笑)。

【3月31日、東京・渋谷「王将」にて収録】

本格的に日本で定住することとなった田中正志氏が昨年12月に行った講演会の議事録CDを『KANSENKI.NET』で絶賛発売中! ナマの「シュート活字」に触れてみたい人は、こちらのHPをご覧ください!
http://www.sportsnavi.com/kakuto/kansenkinet/

DDTの10年後?
なんもなければWWFになってますすよ!

「日本のプロレス界は遅れてますよ!」

高木三四郎

インディーと呼ばれる団体のほとんどが観客動員の減少に頭を悩ませている。そんな中、規模は小さいながら、インディー団体のメッカ、北沢タウンホールを札止めにするなど勢いづいているのが高木三四郎率いるDDTである。「常々、ウチは100%エンターテイメントショー」と公言し、想像を裏切りまくる、そのストーリー展開は、まさに日本版のWWFと言えるだろう。DDTの主役、高木三四郎は言う。「日本のプロレス界は遅れてますよ!」

聞き手/チョロ
撮影/モーリー
designed by matsu (Two three)

DDTに関して言えば100%エンターテインメントショーですから

――大方の予想に反してと言うと失礼ですが（笑）、DDTは5年目に突入したわけですけど、高木さん的には計算通りでしたか？

高木　いやぁ、計算通りじゃなかったですよ（苦笑）。ハッキリ言って行き当たりばったりなところも多かったですから。ただ、ボクが育ってきた中で見てきたことや教えられてきたのは、やっぱりプロレスっていうのはアメリカで出来たモノってことなんですよ。

――まあ、そうなりますよね。

高木　ファッションの流行の最先端は、みんなフランスとかって言いますけど　俺はプロレスの流行の最先端っていうのはアメリカだと思うし、そう教えられたんですよ、高野拳磁さんに（笑）。

――高野さんは高木さんの師匠になりますからね（笑）。

高木　はい（笑）。それで、アメリカが今どういう状況になってるかというと、WWFというプロレスというジャンルを遥かに超えた産業が出てきてるわけですよ。

――もはや巨大産業ですからね。

高木　ウチは、旗揚げ当初のコンセプトしては気迫を全面に出すとか、ガムシャラにっていうのがあったんですけど、もう一歩踏み込んだところに行こうってなった場合、普通にレスリングを見せたりとかバチバチのシバキ合いを見せるんだったら上には上があるわけですよ。ハッキリ言っちゃえば、新日本、全日本を見れば済むワケじゃないですか？

――同じようなスタイルでいったらかなわないと？

高木　かなわないですよ。だから、ウチの特色を作る必要があったんです。で、それが何かってなった時に、これはWWFしかないなって。盤石としたモノがあったし、これを日本でやれば、必ずいけるっていうのがありましたから。

――それでエンターテインメント路線に方向性を変えたんですね。

高木　そうですね。2年目ぐらいから、観客動員も落ちてきて、このままいったら普通のインディー団体で終わっちゃいそうだなっていうのがあって。もう何か仕掛けないと無理だなって思ってたんですけど、そんな時にファンが差し出してくれたのがWWFのビデオだったんですよ。

――気が利くファンですね（笑）。

高木　それ見た時に、やっぱ衝撃的だったんですよ。あんだけ観客もいっぱいいる中で、試合が全てじゃないじゃないですか。ビジュアル面でも、日本人とは明らかに違うカッコイイ人達がリング上でビールぶっかけたり、車イス押して突き落としたり、失禁したりとか「なんだよこれ、ムチャクチャ面白いじゃん」って（笑）。これを日本流にアレンジすれば絶対いけるっていう確信があったんですよ。それで、とりあえず連続ドラマを一つ作ってみようと。第一弾が一連の篠社長の登場ですね。

――篠社長が金にまかせてDDTを買収するっていう、NEO・DDTの登場からですよね。

高木　もう一つが、佐野直対シャーク土屋の抗争だったんですよ。

――今では日本でも結構行われてますけど、男対女対決ですね。

高木　その路線は団体的にいい効果を生み出して観客動員もアップしてきたし、その路線でいきたかったんですけど、一時期、試合内容がちょっと疎かになってきてんじゃないかとか言われたんで、試合内容を重視して、ドラマ部分はあんまり考えないでやっていこうかってなったんですよ。そしたら観客動員が明らかに落ちちゃったんですよ。

――これはエンターテインメント路線でいくしかないなと？

高木　やっぱり俺の考えは間違ってなかったと思いましたね。ネット上とか会場アンケートで批判してるヤツもいたけど、でも、団体として運営を維持できないと、ただの夢物語になりますからね。どうせ落ちていってるんだったら、潰れてもいいから好き放題ハチャメチャにやるしかないと。「DDTはショーだ！　ニセモノだ！」って言われてもいいや、行き着くとこまで行かないとダメになってしまうと思ったんで。まあ、そうじゃなきゃ蛇人間改造エキスなんて有り得ないですよね（笑）。

――確かに新日本とかでは有り得ないでしょうね（笑）。

高木　でしょ（笑）。ポイズン澤田ジュリーの蛇界転生の成功で完全に吹っ切れたんですよ。俺は今は自信持ってDDTが世に出してるモノは100%エンターテインメントショーだと思ってるし、結局、日本のプロレスは全部そうだと思うんですよ。観客からお金を取って満足させて返すわけですから。ただDDTは従来のプロレス界とは考え方を変えようと思ってるんですよ。

――それはどういった意味で？

高木　選手をブッキングするとか言いますよね。DDTでは言い方を変えてキャスティングにしようと。

――そういえば、エースではなくて主役にとも言ってましたよね。

高木　ドラマがそうじゃないですか。それで、アスリートじゃなくて、見られてる存在、タレントとしての意識をもっと持ってやろうと。タレントって言うとまた頭の固い連中が「バカじゃねえか！」って言うと思うんだけど（笑）、違うんだよと。表現する舞台がリング上なんだから、リングっていうのが、ボクらの中ではモデルさんがいうところの花道なわけですよ。そこで表現する人として、タレントだと思うんですよね。

――ポイズンさんは「格闘アーティストだ」って言ってましたね。

高木　アーティストも同じですよ。で、ハッキリ言ってウチはアスリートはいらない。アスリートっていうのは、結局は自分のタメじゃないですか？　マラソンとか陸上、あとサッカーの選手もアスリートだと思うし。その競技のファンは頑張ってるアスリートの姿を見て共感を覚えるわけですよ。全盛期の猪木さんにしても馬場さんにしても、あの人達のことをアスリートだと思ってたかっていうと、たぶん思ってないですよ。

――まあ、アスリートっていう感じはしませんね。

高木　言ってみればヒーローだしカリスマですよ。それで、ウチが目指すのはあくまでもタレントなんで。他の団体は「ウチは違う」って言ってもDDTに関して言えば100%エンターテインメントですから。

――エンターテインメントっていう言葉も幅広い解釈ができますけど、「ウチはエンターテインメント団体」とは言いたくないっていう所も多いでしょうね。

高木　まあ他の団体はよくわかんないし、勝手にやってくれって感じですけど、だってプロレスっていうのは、ある意味、何でも有りじゃないですか。自らその幅を狭くしたってしょうがないと思うし、ウチはプロレスが持つ可能性をトコトン追求していきたいし、そう考えると、100%エンターテインメントになると思うし、ショーだと思うんですよ。で、その中でキャスティングされたタレントがリング上で自分の才能を表現するっていうことはプロレスだと思うんですよね。

――そういった意識っていうのは、DDTに出場してる各選手がしっかり持ってるわけですか？

高木　今は各自がそういう意識を持ってますよ。まあ、最初は全然バラバラでしたけどね（苦笑）。

——そういった意味で、DDTの方向性に踏ん切りを付ける意味で、WWFというものは、もの凄く大きかったんですね。

高木　そうですね。去年、TAKAみちのくとの抗争があって、WWFのレッスルマニアに行って、その凄さを体感してますからね。それも会場だけじゃなくWWFの内部にも潜入して舞台裏を覗いてきたんですよ。それが一番大きいですね。

——一番、衝撃を受けたのは、どういうところですか?

高木　一番ショックを受けたのは、WWFは選手以外の裏方が異様に多かったってことなんですよ。WWFには自前の映像班があって、美術がいて、衣装がいて、ヘアメークがいて、大道具がいて、それに食堂までありますからね。

——WWF食堂ですか?

高木　そうです。専属のコックもいるし、とにかく全部揃ってるんですよ。ホント、日本のマット界との規模の違いに驚かされましたね。全部自前でやっちゃうわけですから。じゃあ、DDTには何があるっていったら、リングはある、自前の映像班はあると。それ以外から着手していこうということで、今は衣装もコスチュームも自前で用意出来るようになったし、ヘアメークも専属で付けてるし、あとは、近いうちに美術を付けようと思ってますから。

——外堀をどんどん埋めていこうっていう感じなんですね。

試合以外にも、マイクパフォーマンス、コスチューム、蛇界ダンスなど、現在のDDTで一番キャラが立っているタレントが、このポイズン澤田ジュリーである。

高木　全部自前で出来る環境を整えようと思ってますね。DDTは形態上インディーって呼ばれるかもしれないけど、ウチみたいに、ヘアメークを入れて、衣装の人間も入れて、映像班まで全部自前で付けてやってる団体はどこかありますかね。

——現段階ではないでしょうね。それに新日本でも、さすがにヘアメークはいないと思うし（笑）。

高木　女子プロなんかは、なんでヘアメークを付けないか凄い不思議なんですけどね。プロを名乗るんだったら魅せるっていう部分も徹底した方がいいと思うし、俺はそういった部分でもDDTは日本マット界で突き抜けた団体にしていきますから。一時期、大仁田さんがカリスマと呼ばれてデスマッチ市場を独占したように、俺はエンターテインメント市場を完全に独占するつもりなんで。これは言っておきたいんですけど、ウチらはWWFの上辺だけをマネしてるんじゃなくて、ズバリ言っちゃえば、中身もマネしてますから。

——「DDTはWWFの上っ面だけパクってる」って言ってるファンも結構いますからね。

高木　WWFの上辺だけパクるんだったら誰でも出来ると思うんですよ。ウチはハッキリ言って中身もパクってますから！　それにパクるにしても徹底的にパクってるし、その差ですよ。他の団体と一緒にしてもらっちゃ困りますね。

——日本ではFMWもエンターテイメントプロレスって言ってますけど、一緒にはされたくないと?

高木　FMWも気にはしてますけど、あくまでもウチが目指しているのはWWFの環境なんですよ。それを全部整えようと思ってますから。今は約半分ぐらいまで進んでるんで、あと今年中にしなければいけないのはメディアを押さえるっていうことですね。CSしかりBSとも話してますけど、もちろん最終的には地上波ですよ。まあ、そこに至るまでは露出をして知名度を上げなくちゃいけないと思ってるんで、俺とMIKAMIに関しては芸能プロダクションに所属してるんですよ。

——えっ、それは初めて知りました（笑）。それで高木さんにはマネージャーが付いているんですね。

高木　俺が出演した映画ももう少しで公開されますし、他にも映画、ドラマ含めていろんな話が来てますから。やっぱ知名度ですよ。いくらリング上でレベルの高いプロレスを見せても、それが世間に届くかといったら今はもうそれだけじゃダメだと思うんですよ。

——それだけじゃ世間には届かないですよね。

高木　俺が芸能事務所に所属してるのも、言っちゃえばレスラーとしての知名度を上げるためですから。まあ、これからいろいろと仕掛けていきますけど、結構驚くような展開を発表できると思いますよ。それも今年中に。『ReMix』じゃないですけど、芸能人をリングに上げることも考えてますし、デビ夫人なんかプロレス向きじゃないですか（笑）。

——ヘビ夫人として蛇界転生に入るとか、いろいろ可能性はありますよね（笑）。でも、WWFを参考にするっていうのはわかるんですけど、日本の他の団体で参考にしてるところはないんですか?

高木　あんまり参考にするとこはないですね。ハッキリ言っちゃえば安室ちゃんやスマップとかのライブとか芸能戦略、そういうのと比べると全然違いますよね。俺はそういうのと比べちゃうんですよ。『PRIDE』とかK—1も、派手だなぁとは思いますけど、アーティストのライブとかと比べると、日本マット界の演出っていうのは目を見張るモノじゃないと思うし、俺がやるんだったら違う方向の演出をしますよ。

——WWFの演出っていうのは高木さんがやりたいような形と言えるわけですか?

高木　WWFは、そういうモノと比べても最上級ですよ。花火の使い方とか照明とかも凄いと思うし、ウチはそっちを目指しますよ。

——でも「WWFを目指す」って言うと「国民性の違いもあるし、日本では根付かない」って、よく言われるじゃないですか。

高木　いや、日本でも根付く要素はいっぱいありますよ。だって『ガチンコ・ファイトクラブ』がウケてるわけじゃないですか。

——WWF的なものに、ジャパニーズテイストを盛り込んでいけば受け入れられるはずだって、篠さんとかもよく言ってますよね。

高木　そうですね。まあ、ウチは完全にジャパニーズオリジナルだと思ってるんで。だって、蛇界転生とかって、アメリカじゃ有り得ないわけじゃないですか?　日本だからっていうか、DDTだからこそ有り得る

ハード面やシステム面で日本の団体をマネる必要はない

わけであって。でもホント、試合は別ですけど、ハード面やシステム面で日本の団体をマネる必要はないんですよ。そういう部分は、全部WWFに転がってるんで。逆に日本の団体はマネしたくないなっていう部分の方が圧倒的に多いですね。

——そういった部分で、日本の団体で評価されているのはガイアとか闘龍門になりますよね。

高木　闘龍門は試合内容は素晴らしいし、一見さんを惹きつける部分っていうのは凄いと思いますよ。ただ、進行とかそういった部分に関して言えばちょっとなぁってところがあるんで。そういう意味ではソフトは凄いですけど、ハードは絶対負けてないですよ。ウチの弱点はハードはしっかりしてるけど、ソフトが弱いっていう点なんで（笑）。

——ソフトが充実すれば完璧なんでしょうけどね。思いきって引き抜きでもしますか？（笑）

高木　ホントに三人ぐらい欲しいですよ（苦笑）。そういう意味では、ハッキリ言って引き抜きもするだろうし「それはやりすぎじゃないか」ってこともしていこうと思ってるんで。ある程度、上に行くためには手段は選びませんから。

——手段は選ばない（笑）。DDTは現在、ほぼ週イチで興行を打ってますけど、変な話、三人ぐらい選手を引き抜いたとして、経営的には問題ないわけですか？

高木　問題ないですよ。今はATOMしかないんで、あそこでやってますけど、そろそろ手狭になってきてるんで、毎週ジオポリスでやろうかなとか考えてますよ。

——ジオポリスの様な1000人規模の会場で週イチでやれたらメジャー団体もビックリですよ。でも、以前、高木さんは、PPV興行は入場無料にして、PPV収入だけで運営できるようにしていきたいって話をしてましたよね。

高木　そういう形にしたらジオポリスでの週イチ興行も不可能じゃないですよ。大きなこと言うわけじゃないですけど、ウチの団体を買うんだったら今のうちですよ。今なら全然間に合うんで（笑）。

——なんだか凄い自信があるみたいですね（笑）。

高木　今は総合格闘技にプロレスラーが出たりとか、そういう流れになってますけど、そういうのは大賛成ですね（笑）。逆に、既存の団体がみんながみんなエンターテインメント路線に走っちゃうことの方が脅威だと思ってるんで。

——ウチの雑誌では「新日本はエンターテインメントに針を振るべきだ！」とか、よく言ってるんですけど、それは困るんですね（笑）。

高木　そんな煽んないでくださいよ（笑）。

——よく言われることですけど、WWFも始まりは、ちっちゃなインディー団体だったわけですから、やり方次第ではインディー団体でも可能性はありますよね。

高木　WWFも今の規模になるまで25年ぐらい掛かってますからね。全米進出から計算すると約20年で、レッスル・マニアを始めたのが17年前ですよ。大体、20年掛かってるんですけど、DDTがそれを何年で出来るかですよ。ノウハウは既にあるわけだから、それをなぞって日本で成功することができるかどうかってことですね。

——「目指せWWF」ということですね。それで、高木さんにはシュート活字のことも聞きたいんですけど（笑）。

高木　やっぱ、そうきますか（笑）。

——朝日新聞で「ウチは100%ショーだしエンターテインメントだ」というようなことを言ってたんで「日本でも情報公開する気か？」って思ったんですけど（笑）。

高木　アハハハ。ハッキリ言って、そういうことはウチにとって関係ないことなんですよ。DDTでは、これからもストーリーを作った展開になるだろうし、そのストーリーがどういう流れになるかとか、最初から決まった台本があるのかどうかなんてのは、こっちから発信することでもないし、んなことぁどーでもいいんだよ！って感じなんですけどね（笑）。

——やっぱりそう来ますか（笑）。

高木　でも、別に隠してるとかそんなんじゃなくて、ウチはこういう形でやってますよって言ってるだけですからね。俺はシュート活字の田中（正志）さんとも会いましたけど、俺はあの人に「日本のプロ

DDTは試合以外にも見所が非常に多い団体である。試合前には、毎回のように、これまでのストーリーの説明、試合を盛り上げるための演出が行われているのだ。そこで当日の対戦カードが大幅に変更するなんて朝飯前である

夢物語を語ってるって言うヤツはそう取ってもらっても構わない

レス界は7、8年遅れてますね」って言ったんですけど、田中さんも「そうですね」って。UFCがそれぐらいに出てきて、いま日本では『PRIDE』がブームになってるじゃないですか？　だいたい7、8年遅れてるんですよ。

――UFCもK―1も始まったのは93年とかですからね。

高木　ですよね。ただ俺が田中さんに対して言いたかったのは、シュート活字に対しては自分の視点であれこれ言うのは別に構わないと思うんですよ。あの人は好き放題いろいろと書いてるけど、アメリカのインターネットから拾ってきた伝聞だとか関係者から聞いた噂話とか、そういう話がほとんどじゃないですか？

――たとえレスラー自身が語っていたとしても、それが事実かどうかは分からないですからね。

高木　あの人の本は一冊丸ごと読みましたけど、結局あの人は業界関係者でもなんでもないわけだし、実際にプロレスをクリエイトした人間でもないわけですよ。プロレスをクリエイトした人間の言葉であれば、俺は「それはそうだ」って手放しで賞賛するけど。

――ミスター・ヒトさんとかの話だったらOKなんですか（笑）。

高木　俺はヒトさんはアリなんですよ。まあ、田中さんにも悪い印象はないんですけどね。

――でも、田中さんはDDTは見たことがないみたいですよね。

高木　そうそう。それでガイアと闘龍門は評価してるじゃないですか。ウチを見たらシュート活字どうのこうの言ってるのを根底から覆させる自信はありますから！　それに、情報公開も何も、それよりも、もっと根本的な問題を考えないとプロレスはダメになるんじゃないかって思うんですよ。俺はプロレスはエンターテイメントだしショーだって言いきってますけど、その言葉自体をカミングアウトだとか仰々しく取られちゃうと困っちゃうんですよね（苦笑）。

――困っちゃいますか（笑）。

高木　そういうのはファンタジーでいいんですよ。客がシュートだワークだどうのこうのっていうのは勝手に語ってろって感じだし。あと、シュマークだとかよくわかんないですけど（笑）、「何だよ、それ！」って思いますよ。

――それは言えますね（笑）。

高木　でもね、やっぱりWWFは一度ナマで見た方がいいですよ。とにかく一回ナマで！　ホントにプロレス観が変わりますから。

――ボクはWWF事情は疎いんですけど、実際に見てる人の話を聞くと凄いんだろうなって伝わってきますよ。で、日本のプロレス界は10年遅れてるっていうことでしたけど、10年後のDDTはどうなっている予定なんでしょうか？

高木　なんもなければWWFになってますよ。世界百十カ国に映像を提供してるでしょうね。

――とにかく凄い自信ですけど、それは10年で可能なんですか？

高木　やっぱり、言葉の壁があるんでヘタしたらアジアマーケットのみになるかもしれないですけど、韓国、香港、台湾、中国、フィリピン、インドネシアあたりでの映像提供が出来れば最終的な目標はクリアって感じですね。今は、アジア圏の国では日本の文化に憧れに近いものを持ってるところが多いし、共通性を考えられる市場ではあるんで、アジアマーケットには進出したいですね。

――韓国、香港とかでは、アイドルからミュージシャンまで日本文化が持てはやされてますからね。

高木　そうなんですよ。そう考えると、10年後のDDTはアジアのWWFになってる可能性が高いですよ。まあ、地方大会もしてない団体が何を偉そうなこと言ってんだって感じでしょうけど（笑）。まあ、夢物語を語ってるって言うヤツはそう取ってもらっても構わないですよ。ビジョンは大きい方がいいじゃないですか（笑）。

――それはそうですよね。

高木　要は10年後までにやればいいだけの話ですから。

――高木さんの計算通りに事が進めば、何年後かにはWWFのスーパースター並のビッグマネーを手に入れてるでしょうね（笑）。

高木　そうなりたい……そうなるように変えていきますよ！（笑）。

――従来のマット界は、WWFと比べると待遇面では夢のある世界ではなかったわけですからね。

高木　せめて年俸を公表できるぐらいまでには変えていきたいですね。シュート活字の人達じゃないけど、ファイトマネーに関しては情報公開出来ない世界ですから、とりあえず、ファイトマネーを公開できる世界を目指して頑張りますよ！（笑）。

【4月8日、東京・代々木の中華料理屋にて収録】

三四郎 NEW Tシャツを着てファイヤー！

高木三四郎のNEWTシャツを『紙プロ』読者3名様にプレゼント。宛先はP159を三四郎、いや参照！

今回はインターネット野郎に宣戦布告!!

石川雄規

[BATTLARTS]

「遂に崩壊か?」と噂される中、この男が立ち上がる!!

バトラーツはたたんでもいいよ!! だけど、お前らはもう二度と"熱い闘い"を見られなくなるぞ!!

聞き手/坂井ノブ
撮影/松本 崇
designed by matsu Two three

ちっぽけながらも、メジャー団体を遙かにしのぐ壮絶な闘いと狂気で大きくなってきたバトラーツ だが、ここにきてその勢いもなくなり、観客動員数も激減! 悪いことは重なるモノで、3・1の後楽園大会では村上のテロ逃走事件に観客席からは「金返せ!」の野次が力無く飛ぶ有様 いったい、旗揚げ当初の熱い空気はとこに行ってしまったのだろうか? 社長がアメリカでトレーニングで不在だった期間に起こった不祥事とはいえ、あまりの事態に本誌も前号では事件を「無視!」とさせていただいた もう見るに耐えない いったい誰がこんなバトラーツにしてしまったのか? 社長、答えてください!

――今日は、バトラーツについてかなり厳しい質問もぶつけてみたいと思ってますんで、よろしくお願いします！

石川 こちらこそ（ギラリと目の奥が光る）。

――で、本題に入る前にですね、こないだ社長はアメリカにトレーニングに行ってきたんですよね？ そのことについてうかがっておきたいんですけれども。

石川 気持ちよく毎日練習してきましたよ。

――たしかデュセル・バット（元バトラーツの常連選手。現在は『PRIDE』のジャッジ）のジムに行ってきたんですよね。

石川 うん、そもそも最初に上陸したのはアリゾナ州だったの。そこでWWFを見ようってことで。（ショー）船木とTAKA（みちのく）がいるからね、ちょっと顔を見に行って。

――久々に会ったTAKAさんや船木さんはどうでした？

石川 頑張ってんなぁと思いましたよ、ホントに。船木は向こうで家も買ったらしいしね。

――永住するつもりなんですよね。

石川 そう。TAKAは「永住する気はない」と言いつつも、なんだかんだ言って、道場持ってて、偉いなぁと思いましたよ。凄く生命力があるね。レスラーに一番大事なのは、そういう生命力なんじゃないかっていうのを特に感じましたよ！

――そもそも社長が今回渡米した目的は、膝の治療と肉体改造でしたよね？

石川 そうです。極論を言っちゃえば、俺はこの5年間、全然練習できなかったんですよ。

――え～っ！ 5年も練習してなかったんですか？

石川 会社のいろんな立場上のこともあって、忙しくて。集中もできなかったし。それで、いままで練習してきた貯金みたいなものを使い果たしたから。で、ちょうどバトラーツもね、本当の意味で脱皮しなきゃいけない時期だから。それも突き詰めて考えると、俺が変わんなきゃ会社も変わらないんですよ！ それで「俺がここで変われなかったらおしまいだ」っていう気持ちで、もう一回貯金をしてきましたよ！

――どんな練習をしてきたんですか？

石川 ウェイトトレーニング、カディオキックボクシングっていうエアロビクスのすんごいキツいヤツ、ボクシングジムでミット打ち、グラップリング。もうすべてやってきました。それを毎日繰り返すんですよ！

――遊ぶ暇ないじゃないですか。

石川 だって遊ぶ気もないし、遊ぶとこもないし（笑）。ひたすら練習するのが楽しかったから。

――向こうで有力な選手は発掘できましたか？

石川 ゴロゴロいますよ！ 嬉しくなっちゃうぐらい強い連中がね（笑）。いずれバトラーツにも連れてきますから、期待してください。あとね、フロリダ滞在中に嬉しいことがもうひとつあったんですよ。

――えっ、何ですか？

石川 ゴッチさんに会えたことですよ！

――うわっ！ 会えたんですか！ 何か家も売り払って隠居してしまったという説もありましたけど？

石川 引っ越しちゃって、なかなか連絡つかなかったからね。バットも連絡先知らなくて。で、帰る1週間ちょっと前にオーランドでシュート・ファイティングの試合があって、そこにバットと2人で視察に行ってね、その中でゴッチさんを知ってる人がいて。それで電話したら、帰る直前に会えたんだよ（嬉しさを噛みしめるように）。

――そうなんですか！ お会いしてみて、どうでした？

石川 会った瞬間は穏やかなイメージはあったんだけどね。その家で何をしてるかっていうと、「そういえば、この練習道具はどうだ？」っていろんな器具を引っ張り出してきて、「これは俺が開発してなぁ、あで、こうで」って始まって（笑）。それで「ちょっと来い」って外に連れてかれて、ロープを階段にひっかけて、練習やり始めて（笑）。

――まだやってるんですか！（笑）。

石川 まだやってんの。素晴らしいよ（笑）。一生懸命ノートに回数とか書いて、ひたすらやってましたよ。

「何で石川がいねえんだ！」と島田氏に毒づき、ヨネとは乱闘を繰り広げただけで逃走してしまった村上。取り残されたバトラーツに罵声やモノが浴びせられるという最悪の展開に。村上が悪いのか、逃走を許すバトラーツが悪いのか？ この一件によってバトラーツの問題点が浮き彫りになり、バトラーツ崩壊危機説が囁かれるようになる。

――ホント、凄いなぁ（笑）。

石川 そして、なんと！ 今月末にバットがフロリダで主催してるシュート・ファイティングの大会があるんだけど、そこにゴッチさんが来ることになりましたから！

――おお！ ゴッチさんが表舞台に！

石川 大体、ゴッチさんはアメリカ人大嫌いなんだけど、バットのことは大好きで凄い信頼してるの。バットが「こういうわけで、今度やるんだけど」って言ったら、大喜びして「行く！ その代わり、俺は道がわからんから、迎えに来てくれ」って（笑）。ちなみに臼田がそこに参戦するんですよ。

――えっ！ そうなんですか？ 誰とやるんですか？

石川 ケビン・クックってヤツなんだけど、筋肉モリモリでバネがあって。アマチュアだけど強い！

――臼田さんも久々の海外試合ですねえ。勝算はありそうですか？

石川 あっちの選手はスタミナに難があるからね。そのへんを乗り越えちゃえば、絶対平気だと思うんだけどね。臼田のグラウンドテクニックならまず負けませんよ！

――なるほど。そのアメリカ遠征を通じて社長はどう変わりました？

石川 肉体的にも変わったし、選手として精神的にも自信がつきますね、練習してると。この半年間は足が全然ダメだったから。だって、朝歩けなかったんだから！ トイレに這って行ってたもん。なんとか駒沢大会（'00・11・26）で村上（一成）とは試合したけど、あそこでパンクしちゃったよね。駒沢の前に手術しちゃうと出場できなかったから、なんとかダマしダマし試合はしましたね。だけど、

やっぱり思うように動けないんですよ。駒沢はなんとか情念だけで模索してるとこだから。

石川 まあ、俺たちも頑張り方を

だったと思うの。だから……今回の件はその時代の、つまり第一期

始める・P101参照）。最初、俺たちは最初小っちゃいコップだ

か言ってるバカに限って、そういう予定調和のものばっかりを見て

やっぱり思うように動けないんですよ。駒沢はなんとか情念だけで試合をしてた感じで（笑）。あれはホントの意味での俺じゃない。俺の中にも、まだまだポテンシャルはあるから。

——でも、バトラーツの原点は駒沢大会の石川vs村上のような「ケンカ格闘プロレス」でしたよね。

石川　そうそう。それはよかったんだけど……もっと違う部分もあるから。

——と、いいますと？

石川　最近は「団体の方向性がいまいちどっちを見てるのかわかんない」って言われることが多いけど、俺が引っ張って行けなかったのも原因のひとつだから。そのへんは、自分の中でももどかしい部分がある。

——そうですよね。で、今日はそのバトラーツが抱える問題についてうかがいたいんですよ。最近は「旗揚げ当初のような熱がない」っていう声もかなり上がってますよね。

石川　（ムッとして）熱がないわけじゃねぇんだよ！　だけど、いま旗揚げの頃と同じ頑張り方をしても観客には届かないよ。

——届きませんか？

石川　現在の頑張り方があるでしょ？　だけど、ハッキリ言って、その頑張り方なんかわかんないんですよ（キッパリ）。最初の頑張り方はあれでいいの。急に一種のバブルかもしれないけど、バトラーツの外枠がグーッと広がっちゃったからね。

——そうですよね。98年に両国大会を成功させてからファンもマスコミも見る目が変わりましたもんね。

石川　そうでしょ？　たとえば、こういうことですよ（と絵を描き始める・P101参照）。最初、俺たちは最初小っちゃいコップだったの。その中にみんながありのままの「感情」とか「頑張り」を入れてたら、そのエネルギーがアッと言う間に溢れ出てきた。それが、器が大きくなっちゃって、エネルギーは前より増えてるんだけど。それでも溢れ出るまでにはなってないよね、確かに。

——溢れてないから、いまひとつ熱がないように見られてしまう、と。

石川　あの頃は「明日バトラーツが消えてしまうかもしれない、今日の試合を見逃したら、もう終わりかもしれない」っていう気持ちがファンにもあったと思う。俺たち選手にも当然あったし。俺たちは、いまでもその気持ちは変わってない。でも、ファンの人たちは「バトのリングは見れて当たり前」って思ってないかな？

——まあ、団体としても安定感は出てきましたからね。

石川　だけど、ひょっとしたら4月で俺たち終わっちゃうんだよ。

——え～っ！　そんなヤバい状態なんですか？

石川　背水の陣もいいとこですよ。

——たしかに今年に入ってから観客動員減も凄いですもんね。

石川　（力なく）そうそう。やっぱり、最初は後楽園も年に1回とか、いつやれるかわかんない状態だった。だけど、TOKYO FMホール（以下、TFM）大会を毎月やれるようになったら、「いつでも見れるや」とかね。そういう気持ちで臨まれたら「まぁ、こんなもんか」って思われるよね。だから、どうしようかなって考えてる。

——どうするんですか？

いまは一応器が出来たけど、器から価値観から全部ブチ壊すしかねえのかな……

投下爆弾 Interview

石川　まあ、俺たちも頑張り方を模索してるとこだから。

——でも、4月で終わりって、そんな唐突な……。

石川　当たり前だよ、みんな3・1の後楽園大会に来た人を4・13の後楽園大会に無料で招待してんだもん！

——まあ、そうは言っても3・1では、楽しみにしてたメインイベントがいきなりなくなっちゃったわけですからね。いくら村上の襲撃が原因とはいえ。

石川　確かにお客さんに迷惑はかけてしまった。それはお詫びしますよ。だから無料で招待もしますよ！　でも、それっきりで「あとは知らねぇ」ってされるのは、俺たちですから。経営っていうのは、遊びでやってんじゃないんですよ。だから……助けてくれよ！

——助けてくれよって（笑）。

石川　だって、ラーメン食い終わってから「マズかったから金返せ」って、そんなヤツはいないじゃん？　じゃあ次から来なきゃいいだけなんだから。だけど、いまはそうも言ってられないからって、お詫びをしようと。

——でも、3・1の「金返せ」コールはラーメン食おうと思って来たけど、ラーメンが出てこなかったという怒りじゃないですか？　その怒りも昭和・新日全盛期とかに比べると「これは怒ってるのかな？」っていうぐらいのもんだったと思うんですよ。その波風の起こり方が、余計に不安を感じさせたんですよね。

石川　う～ん……ある意味バトラーツって、最初は石川雄規の情念の世界だったと思うの。だから……今回の件はその時代の、つまり第一期の終焉だったと思うんだよ！

——終焉！　バトラーツが「石川雄規の情念の世界」じゃなくなるわけですか？

石川　いまは器が一応できたけど、その器や価値観、何から何まで全部ブチ壊すしかないのかなぁと思ってる。

——たしかに守りに入るよりは、壊しちゃった方が簡単ですよね。

石川　そうだよね？　やっぱり壊すしかないな。そういう状況だから選手の中にも何か胎動があるはずなんですよ。次に生まれてくるものが必ずあるからね。これは何かといったら、選手のバトラーツに対する愛し方。

——あ、愛し方っ!?

石川　いままで彼らはバトラーツを愛してたけど、愛し方がわからなかったの。そして、いまになってようやくみんなそれを見つけはじめたんですよ。みんな旗揚げの頃よりもバトラーツのことを考え始めたんだから！

——たしかに、Bルールが始まったり松井（大二郎）選手が参戦してきたり、最近の新しい動きはいろいろありますよね。

石川　その胎動をなぜ感じられないんだよ、もったいないな、オイ！　それを感じるのがプロレスファンの感性じゃねぇのか？って問いかけたいよ！（だんだん言葉に力が入り始め）3・1後楽園の村上の件にしても、インターネット上で「あれは予定調和」とか言ってるバカに限って、そういう予定調和のものばっかりを見て騒いでやがって……あんなの予定調和じゃねぇもん！

——その件についてはぜひともうかがいたかったんですよ。こないだ村上の襲撃事件もバトラーツが悪いって一概には言えないんでしょうけど、一番槍玉にあがってるのがプロデューサーの島田（裕二）さんなんですよね。社長もアメリカに行っていなかったし、村上さんもああいう選手だし、それにしてもなぜなんだろうと。社長はなぜだと思います？

石川　そういうこと言ってるヤツらは悔しかったら、俺に直接、文句を言ってみろって！

——社長は不思議と槍玉にあがらないですよね。

石川　島田に言うな、俺に言え！　全て黙らしてやる！

——社長も、島田さんに任せてた部分があったわけですよね。

アメリカで身体をイジメ抜いて、すっかり心身共にリフレッシュした感のある石川雄規。ちなみにバット（石川の左隣）は元ハイチの軍人さん。（撮影／遠藤政文）

石川　それもあるけど……必ずこのケツは俺が全部拭いてやるよ！　だいたいなぁ、予定調和で、こんなバカなことやってられっかよ！　後楽園で大会やるのに何百万円かかると思ってんだよ！　ネットでふざけたこと書いてる連中を一人残らず黙らせてやる！

——ホント、執念深いですねぇ。

石川　執念だったら絶対負けないよ！　最後の一人まで追いかけ回して、一人残らず黙らせてやるから！　ったく、ふざけやがって！　悔しかったらバトラーツ来てみろよ、バカ！

——悔しかったら！　社長は、いろいろとネットに書き込んでるファンが嫌いなんですか？

石川　大嫌いだよ、一部のバカは！

『猪木ボンバイエ』？ダメだね！　あそこで石川vs村上を見せたかった

因縁、遺恨など、様々な感情がもつれ合って紡ぎ出される石川vs村上は、常にハイテンション！　写真を見ればわかるように、もはや技術の攻防というレベルを超越して、狂気と狂気がぶつかりあうマット界でも希有な狂い咲きバトルロードとなっている。

——具体的にはどういうところが嫌なんですか？

石川　ハナから偉そうな経営者気取りでさ、見下したようなモノの見方をする人間が少数いて、それが「悪魔の機械」と言われるインターネットに自分の意見を書き込むじゃん！　それを読んだ人が、また洗脳されてね。

——悪魔の機械って（笑）。

石川　黙示録に出てくるらしいよ、そういう記述が。（ザ・グレート・）サスケ社長が言ってたから。

——サスケ社長も、そのへんは異常なまでに詳しいですからね（笑）。

石川　それに、あのバカどもは自分の名前を言わねぇじゃん！

——な、名前ですか！

石川　くだらねぇペンネーム使いやがって！　俺はこういうとこで、俺の名前出して発言してるんだもん！　俺に文句があるんだったら刺しに来りゃいいんだよ！　刺しに来いよ！

——いや、刺すとか、そこまでは……。

石川　（質問も耳に入らず）俺はそんだけの度胸があるから言ってんだよ！　悔しかったら俺みたいに偉くなってみろよ！　俺なんかインターネットでは、エロサイトしか見ねえもん！　あれは便利だけどさ、あんなもんはそれ以外に使いようがない（キッパリ）。

——もうちょっと有効活用してもいいんじゃないかと思いますけどね（笑）。

石川　ネットやってる人全員が問題あるわけじゃないだろうけど、夜中にコソコソキーボードで悪口書いてる一部のバカね。悔しかったら一人前になってみろよ！　責任持ってペンに命賭けてる記者にかなうわけねえだろ？　実際に怖いでしょ、俺？

——ええ。こうやって怒りながら話してるときが、一番怖いですね（笑）。

石川　記者の人は、いつブン殴られるかわかんない状態で、体張って来てくれるんだからね。それにハッキリ言ってやるよ！　ウチの選手やスタッフは手取りが5万で、リングの上で寝て、そんなとこから、みんな俺に付いてきてくれたんだよ。そんな中でどうしてみんなが俺に付いてきてくれたか、お前らにその友情がわかるか？　信頼関係がわかるか？　そんな友だちがいるか？

——……（あまりのテンションに質問を挟めず）。

石川　ふ〜（深呼吸をして、興奮を鎮める）。……そういうことなんだよ。その信頼関係、友情、愛情がバトラーツの第一期を作ってきたわけ。そして今度は第二期が生まれ始めてるんですよ。スタイルがどうのとか、そんなの関係ねぇ、俺たちの生命力のエネルギーがようやく同じベクトル向き始めたんだから！　みんな愛し方をわかり始めたんだから！

——……す、すいません。あまりのテンションにちょっと言葉を失ってしまいました（笑）。もうホントにインターネットの悪意ある書き込みが嫌いみたいですけど、たとえば会場で野次飛ばすとかは……。

石川　いいじゃん、どんどん飛ばせ！　それは面白いよ。

——まあ、そういうファンも減ってきてますけどね。むしろ最近はインターネットが発達した影響も大きいんでしょうけど、一般ファンがプロレスのタブーと言われる部分にまで踏み込んで議論してるんですよね。いわゆる「シュート活字」と呼ばれるものなんですけど。

石川　あれはね……テレビもよくないよね。『ガチンコ』って番組まであるんでしょ？　一体、何がガチンコなんだよ！　わけわかんねぇ。だいたい、放送禁止じゃねぇのか、「チ●コ」っていうのは！

——社長！　「ガチンコ」の話です（笑）。

石川　ったく！　でも、何の意味があるんだよ、そのシュート活字……だっけ？

——要は、「もう僕らはファンタジー活字には騙されません」ということなんでしょうけど。

石川　何言ってんだよ、だったらテレビでニュースだけ見てろよ！　漫画も映画もドラマも一切見るなよ！　「私は一生ニュースしか見ません」って言うなら許す。さもなかったら、俺に土下座して謝れ！　俺は異常に言葉に敏感なんだよ！　俺は語学も勉強してんだよ、大学でも国文科を出てるから！　ナメんじゃねぇよ！　ボキャブラリーがケタ違いだよ、インターネット野郎とは！

——インターネット野郎って（笑）。ちょっとシュート活字について説明しますと、89年にWWFが「ウチは真剣勝負じゃない」って言ったことによって大変革を遂げたわけですよね。いまリング上にお姉ちゃん上げたり、ドラマ仕立てのプロレスをやって大成功してるんですけど。社長もこないだ実際にWWFをナマで見て、何か感じることはありましたか？

石川　素晴らしいね！　ただ、みんなレスリングを見に行くんじゃなくて、TVの公開録画を見に行

くっていう感じだね。「あ、いつもテレビで見てるスターがいる！」っていう。

——そういえば、向こうは選手のことを「タレント」って言うんですよね。

石川 そうでしょ？ 「テレビに出てる有名な人が出てる！」っていう盛り上がり方なの、基本的に。そのビンスの言葉、「これは真剣勝負ではありません」って英語で言うとどうなるんだろう？

——要は「我々がやっていることはエンターテインメントだ」って宣言したんですよね。

石川 じゃあ、それを日本人が変に意訳しちゃってるんだなぁ。エンターテインメントだって、真剣は真剣なんだよ。ふざけてやってるわけじゃないんだから！ 彼らは真剣に勝負してたもん。

——そうですよね、ミスは許されない世界ですからね。日本も規模は違えど、そういうエンターテインメント路線の団体が増えてきてますよね。逆に『PRIDE』みたいな総合格闘技というものが出てきてます。そういう状況の中でバトラーツの立ち位置は凄い微妙になってきてますけど。

石川 そうだね、非常に微妙だよ。どっちに向けばいいのか……でも、ウチはどっちにも行かない！ バトラーツは、そういうものを超越したもんじゃなきゃいけないから！

——たとえば去年の大晦日に『PRIDE』の選手がプロレスをやるという大会があったんですが、あれは社長の目にどう映りましたか？

石川 ダメだね！ ……というか、プロレスリングをわかってないよ。ただ技を見せればいいんじゃないよ！ プロレスは闘いなんだから！

——あの場で俺は石川vs村上戦を見せたかったよ。

——おおっ！ それは絶対面白いですね。

石川 じつは、あれのちょっと前に俺たちは答えを出してたんですよ、駒沢大会でね。恐らく猪木さんが一番見せたかったことは、あいうもんだと思う。世間に届かなかったけれど！

——そこがつらいですよね。ボクも格闘プロレスが、いまの時代の中で総合格闘技より下になっちゃってる状況が歯がゆいんですよ。ホントに凄い試合やってるのに。

石川 プロレスはホンット難しいんですよ。ただ技を見せればいいってもんじゃないから。俺なんか、技は何にもねぇじゃん！

——いやいや、あるじゃないですか（笑）。

石川 駒沢で村上とやった試合は何もやってねぇよ！

——まあ、あの試合はそうでしたけど。

石川 じゃあ、オレは聞きたいよ。あの試合はプロレスじゃないんですか？

——いや、素晴らしいプロレスの試合ですよ！ ああいう試合を見てると、バトラーツって凄いことやってんのに、なんでこうなっちゃったの？っていう思いが強くなって。日高（郁人）さんと松井さんの絡みだって、バッグンに面白いんですよ。だから、さっきの社長の話じゃないですけど、新しいモノが生まれる胎動は確実にあるんですよね。それがなぜか届いていかない。なぜなんですかね？

石川 つまり、こういうことですよ。よく川が濁ってくると「魚が見えなくなった」とか言うでしょ？ 川の水が濁ったから見えないのか、見る人間の目が濁ったから見えないのか。全部が全部どっちかだとは言わないけど、100％「川の水が濁ってる」とは言えねぇんじゃねぇの？

——じゃあ、ちょっと意地の悪い質問ですけど、バトラーツに濁ってる部分があるとしたら、どういう部分ですか？

石川 （即座に）生命力！ もうビックリするぐらいに器が大きくなっちゃったから。それはいいことなんだけどね。だから、今度は自分で渡ってきた橋をブチ壊す色気というか……。

——自分で渡ってきた橋を壊す色気！ ものすごい自虐的なエネルギーですね。

石川 でも、そういったエネルギーが色気になってくるんじゃないかな？ そういうのがないと、お客はひきつけられないと思う。

——そうですねぇ。最近、話題になってるのって、スキャンダルな噂レベルのことばっかりなんですよね？ サイドビジネスのことで社長もいろいろネットで批判されてましたけど。

石川 くだらねぇ！ あんなもん、ふざけんじゃねぇ！ あれは、フアックスにコンピューターがくっついてるヤツなんだよ。あんまり今は普及してないけどね（笑）。別に石川豊彦（本名）個人の問題ですから。

——あと、『噂の真相』とかで島田さんがギャラ抜いてるとか書かれてましたよね。ホント、自分で壊すってよりも、他人にボコボコに壊されてるイメージが最近のバトラーツにはあるんですよね。そういう話題ばっかりが飛び出してくるのも良くないなぁと思うんですけど。

石川 くっだらねぇよな！ 抜けるぐらいのギャラがあったらな、もっといい生活してるよ。

——とか言いながら、社長！ いまキャデラック乗ってるんですよね!?

石川 （ニコニコ顔で）そうそう、乗ってるよ！ あんなもん、即金で叩きつけてやったよ！

——そ、即金なんですか!?

石川 800万円、バーンとね！ 俺のポケットマネー。フル装備だよ！

——それって十分いい暮らしだと思うんですけど（笑）。

石川 しかも見えないところでオシャレしてるからエンジンが金でできてんの。よくあるじゃん、学生が制服の内側に刺繍入れるヤツ。これが江戸ッ子なんですよ。見えないとこにオシャレしてるから。

——う～ん、これ読んでファンや選手がどう思うか非常に怖いですけどね……。バトラーツのみなさん見てると、大変そうじゃないですか。貧乏団体っていうイメージがありますもんね。

石川 貧乏じゃないですよ。だって貧乏だったら、みんな出てってるよ。どう思う？

——実際に出ていった人もいるじゃないですか？

石川 それは生き方だから。それをなんで数字に置き換えるの？ お前ら、税務署かっていうんだよ！

——お前ら税務署か（笑）。まあ、そういうふうにファンが団体の懐具合を査察しちゃう時代ですからねぇ。

石川 みんな売上、売上って言うけど、そうじゃねえだろ！ この業界は旅費と交通費がね、化物みたいにかかるんだよ！ アメリカから選手を一人連れて来たら、いくらかかると思ってんだよ、このバカ！ そんなに利益上がってねぇよ、クソッタレ！ ホント、ムカつくわ！

——その中で社長は800万のキャデラックをキャッシュで買ってるわけですか（笑）。

石川 （得意げに）そうだよ。この話を信じるも、信じないも、これを読んでるアンタ次第だけどな！（とテレコに向かって凄む）。

——なんだかんだ言われながら、「安い」って噂されてる給料もちゃんと払ってるですよね。

石川 給料だって一時期に比べれ

【初期】 【現在】

感情、頑張り。
あふれる
あふれない

P99で石川が語っていた「器の論理」がコレ。左が昔のバトラーツ。右が現在のバトラーツである。その器さえもブチ壊して、無理矢理にでも感情を溢れさせてしまおうというのが、石川の考えなのだろうか？

投下爆弾 Interview

レス界は
て言った
「そうです
ぐらいに
『PRID
じゃない
年遅れて
——UF
は93年と

夢物語
言うヤ
もらっ

高木 で
に対して
ト活字に
これ言うの
ですよ。
と書いて
ーネット
関係者か
う話がほ

ばえらい上がってますよ！ 業界でちゃんと払ってるとこはないよ。テレビもちゃんとついてないのに選手10名、フロント10名抱えて、何人結婚してる人間を食わせてる？ そういうことを外からグジャグジャ偉そうなことネットに書いてるクズども！ 悔しかったらキャデラック買ってみろ！ あれはなぁ、誰でも買えるんだよ！

——それじゃ自慢にならないですよ（笑）。

石川 ところが、維持費が大変なんだよ！ 俺は買ってから気付いたんだよ！ ふざけんなってんだよ！

——それでも意地で維持すると（笑）。

石川 そういうことだよ！

——相変わらず狂ってますねぇ（笑）。

石川 でもな、冷静になって考えてもみろよ、中古のキャデラック800万円するかってんだ！ このバカ野郎！ まんまとダマされやがって！ ざまあみろ！ チクショウ！

——えっ、ウソだったんですか！（笑）。

石川 フフフ、それは自分で考えろ！ 俺からの謎かけですよ（笑）。今度はセカンドカーでフェラーリを乗り回そうと思ってるからね。

——キャデラックとフェラーリ！ そんなの業界で誰も乗ってないですよ？

石川 でも、それより俺はカローラのリムジン作ってやりたいね。

——カローラのリムジン！ わけわかんないですね、そこまでくると（笑）。

石川 ビビるぜ！ カローラがこ〜んな長いの（と両手を広げる）。金があるんだか、ないんだかわかんないようなヤツ（笑）。

——アハハハハ！ もう、何がホントで何がウソなのかわかんなくなってきますね。え〜、だいぶ話が脱線してきちゃったので元に戻しますね（笑）。まあ、いままでは団体外の問題点の話をうかがってきましたけど、ここからは団体内部の問題点についてうかがいたいと思います。

石川 はいはい。

——ボクはバトラーツの選手の目が他団体出場に向いてるんじゃないかって気もするんですよね。実際、格闘探偵団ということで、いろんな選手がいろんな団体に討って出るのがひとつの魅力でしたよね？ アレクさんやヨネさんなんか、特に頑張ってますけど。

石川 でも、ヨネは最近、自分に疑問を感じてるみたいだよ。これから外には出ないようになるね。だから俺は言ったよ、「鎖国するからね」って。

——でも、外に出て行くっていうのはバトラーツをアピールする上ではいいと思うんですよ。

石川 そうそう。ヨネもそう思って行ってんの。まだまだいろんなことが起きますよ。

——ホントにガラッと変わって行くわけですね。

石川 変わんなかったら「サヨナラ」だよ。でしょ？ それはお互いに言えることなの。俺も「サヨナラ」するかもしれないし。

——え〜っ！ 社長がバトラーツを離れてどうするんですか？

石川 だから、「みんな、そんぐらいの意気込みで生きろよ」ってことだよ。

——じゃあ、ズバリ聞きますけど、現在のバトラーツと昔のバトラーツ、社長としてはどっちがよかったですか？

石川 （しばし絶句）。……どうだろうなぁ？ でもさ、人生ってみんな「昔の方がいい」って言うよね。

——だいたいの人がそうですね。

石川 ちょっと遠まわしな表現になるけど、たとえば俺たちは昔、好きな子に対して片想いで終わってたじゃん。もし、いまの精神状態でタイムスリップして高校生に戻ったら好きな子もきっとすぐ落とせるよね？

——さあ、それはどうかわかんないですけど（笑）。

石川 （鼻息も荒く）俺は絶対落としてみせますよ！ でも、あのときみたいに熱く愛せないと思うんだよ。心の底からは思い焦がれないと思うんだ。どっちがいいのかなぁ？

——う〜ん、難しいですねぇ。

石川 でも、こればっかりは戻れねえんだから、しょうがねぇじゃん！ もし、バトラーツが昔のまんまだったら会社は小っちゃいまんまだし、いまいる仲間と出会えなかったはずだよ。それと同じこと！

——いろんな人が出ていったかわりに、新しく来た人も大勢いますからね。

石川 ファンも、あの頃は「頑張れ！」ってみんな応援してくれたけど、じゃああのまんまの状態でいまも応援してくれてるかっていったら、そんなことないじゃん？ しょうがないよ、生きてるんだから。背負ってるものが増えてきてるんだから！ でも、俺自身のスタイルは変わってないよ。

日本に帰ってきてからもボクシングトレーニングは継続中。junji.comのパンチをヒョイヒョイかわしていく。その目にはバーニング・スピリットが！

——そうですね。今日、お話うかがっててもそれは感じます（笑）。

石川 でしょ（ニコッ）。バトラーツも、昔は不器用なヤツらが不器用な闘いをやってたわけでしょ？ でも、いまは器用になったヤツらが器用に闘っているわけだよ。

——そうですね。そういう部分が「バトラーツは変わった」と言われる原因なんでしょうけど。

石川 じゃあ、今度は器用になったヤツらが不器用に闘ってやりますよ！ これは面白いと思うよ。そのへんの匙加減が難しいとこなんだけどね。そのへんをもう一度見直そうっていうのが、今年から始まったBルール（打撃を禁じたグランド・レスリング主体のルール）なんですよ。

——あれは面白いですよね！ 小野（武志）さんとかもの凄い試合するじゃないですか。普段と全然違うけど、ホント凄えなって再認識できるいい機会だと思いますよ。

石川 そうでしょ？ あれは食べもので表現すれば、「これとこの食材だけで、前菜を作ってみろ」っていうことですよ。

——まさにそうですね！ ホント贅沢ですよ。

石川 でしょ？ でも、あれは後楽園じゃ見せない！ そして、今度なんと5月4日にはTFMでBルールのトーナメントをやるんですよ、バト全員参加で。それも公開抽選します。ファンがクジを引いて決めますから。

——へぇ〜、それは面白いですね！

石川 凄えワクワクする（笑）。なんでこのワクワクがわかんないの、バカどもには！ 何気ないサインがメッセージにならないのかね？ Bルールは、自分たちがワクワクするんだよなぁ。この意味、わかるよね？

——ええ、もちろん！ それを聞いただけで見に行きたくなりましたよ！ メインでやってる選手が、第一試合でやってる選手にコロッと負けちゃう可能性もあるわけですから、ホントに価値観がガラガ

からさ。（笑）。

——ただ、いま体育会全盛って時

ラと音を立てて崩れるシーンが出てくんですよね。ハッキリ言って

れからどうしますか？

石川 どうしますかねぇ？ バト

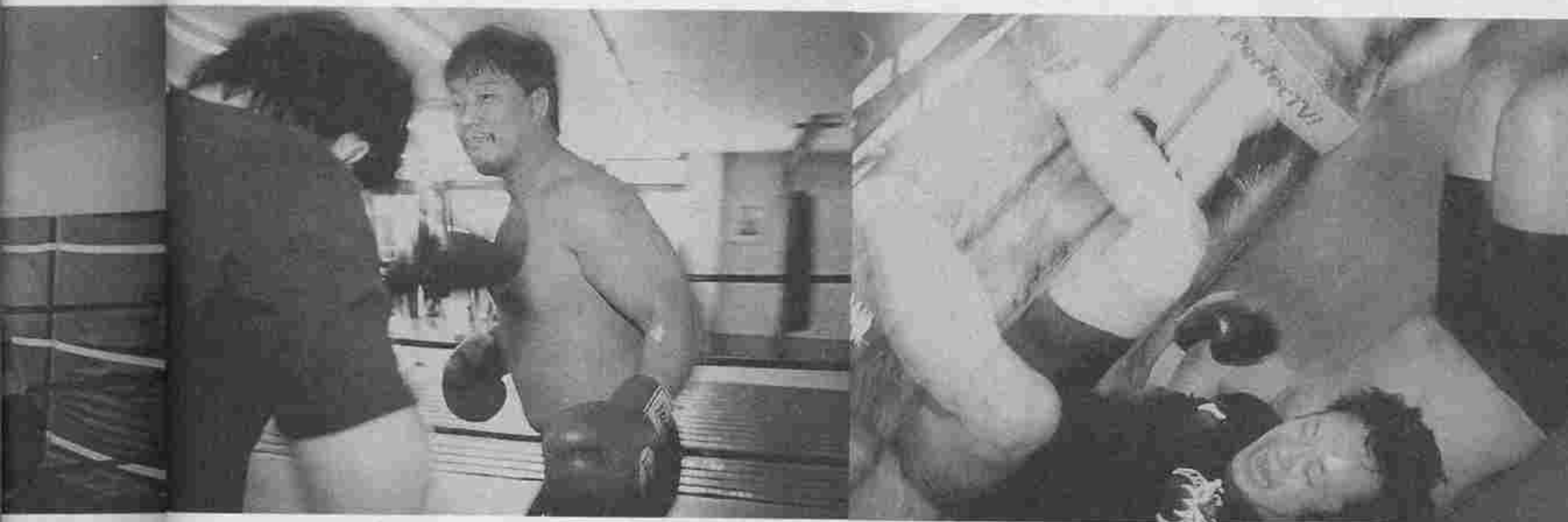
——さっき社長も「第一章の終わり」って言ってましたけど、この状

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

ご近所に“ライバル（グレート・アントニオ）”開店!!

チャンピオン

Champion されどチャンピオンは

燃える商魂 ダンチョー（コスプレ店長）

ラと音を立てて崩れるシーンが出てくんですよね。ハッキリ言ってこれはバトラーツじゃなきゃできないですよ。ホントに贅沢です。

石川　これはレスリングで、どんだけ見せれるかがテーマですよ！　人の評価なんか、あとからついてくるでしょ！　気にしてらんねぇよ！

——まあ、その贅沢なTFM大会も、最近は目に見えて観客が減ってきてるじゃないですか？　観客動員減というのは、経営的にこたえてるんですか？

石川　凄くこたえてますよ。だから、さっきも言ったようにヘタしたら4月でバトは終わりですよ。ホントに経営難で潰れますよ、冗談じゃなくてね。

——今年から巡業を廃止したっていうのは、そのへんが原因なんですか？

石川　行きたい気持ちはあるよ。1人、2人のためにでもやりたいけど、でもそれをやってたら、明日にでも団体が潰れるもん。

——それであまりお客さんの来ないとこはやめよう、と？

石川　あまり来ないじゃなくて、あまりにも来ないんだよ（笑）。だって選手とスタッフの方が多いんだもん。さすがにそれは難しいよ。「地方を切り捨てるのか」っていう意見はあったけど、そういうわけじゃない。俺たちだって行きたいよ！　でも、いまは再び地盤を作んなきゃいけなくなったから。ただし、仙台と札幌はだんだん観客が増えてくれてるから行くけど。

——なるほど。では、全体的な建て直しのメドはついてるんですか？

石川　（即座に）ないね。

——ない！　う～ん……社長、これからどうしますか？

石川　どうしますかねぇ？　バトラーツを畳むかもしんないね、ホントに。

——いま、じつは社長なら「やらない」という表現をやる可能性はあるかな、と思って聞いてみたんですよ。

石川　その可能性は十分にありますよ。平気で畳みますからね。（急に真顔になり）ホント、辞めようかなぁ？　ただ、これだけは言っておく！　畳んじまったらお前らはもう二度と熱い闘いを見られなくなるぞ！　それでもいいのかと、俺はファンに問いたい！　でも、俺には辞め方の夢があるんですよ、絶好調のときに辞めてやるっていうね！　米米クラブみたいに「祭りは今日で終わりだ！　バトラーツ解散！」って（笑）。

——さすが米米の解散ライブでバックダンサーをやった社長としては思い入れが強いですか（笑）。

石川　うん（笑）。だって、ファンが迎合するものがいいとは限らないからね。世の中、評価されてるもんばっかりがいいとは限らないんですよ。

——でも、あんまり逆ばっかり進んでると、最終的に誰もついていけなくなっちゃいますよ。「こうしたい！」っていう展望は、ホントにないんですか？

石川　今年、俺は自分のことだけを考えて闘おうと思ってるから。社長業は放棄しようかな（笑）。

——また大胆なことを！　猪木さんみたいに追放されちゃいますよ（笑）。

石川　そうか（笑）。じゃあ、追放されることが俺の夢だよ。（呟くように）追放されてぇな……。

——さっき社長も「第一章の終わり」って言ってましたけど、この状況ってある意味じゃバトラーツ旗揚げ当初に似てますよね。「潰れるんじゃないの？」って言われながら、上を目指していくわけですから。

石川　うん、何にもないとこからやって来たことに比べれば、怖いもんなんてないよね。でも、ホントの一番の財産は人の心だよ。レスラーたちの心。何だかんだ言ったって、長い時間かけてつながってるからね。夫婦だってそうでしょ？　最初っから夫婦じゃねぇんだよ。喧嘩したり、誤解したりして、それで夫婦になっていくんだよ。だからバトラーツは、やっとバトラーツになったんだと思う。

——また、ふりだしに戻ってデカくしていこうということですね？

石川　でも、俺はただデッカくするばっかりがいいとは思わないんだよ。俺はどっちかっていうと行列のできるラーメン屋の方が好きだし。チェーン店にはしたくねぇな。だから早くバトを軌道に乗せちゃって、俺もホームレスになろうと思うんだ（笑）。

——人生のホームレスですか（笑）。

石川　そう（ニヤッ）。

——やはり猪木さんのホームレス姿にやられましたか？

石川　うん！　カッコ良かったなぁ。あのときの含蓄のある言葉ね、いまの猪木さんのファンには凄いもったいないと思うよ。きっとわかってねぇだろ？　あんな含蓄のある、哲学的な言葉はないぜ！　俺、ナマで聞いたらきっと涙が出てたと思うよ。猪木さんのお爺さんが「寛治、乞食でもいい、世界一の乞食になれ」って言ったらしいじゃん？　いまこそ、猪木さんはそれを理解したんじゃないかな……猪木さんの詩集も読んだんだけど、素晴らしいね！　やっぱり猪木さんは文系レスラーだよ。俺はまだまだスケール小っちゃいし、力もねぇけど、文系レスラー継承者として闘いを挑んでいくよ。この業界、みんな体育会系ばっかだからさ。（笑）。

——ただ、いま体育会全盛って時代でもないんですよね。あえて言うならコンピューターとかネットワーク中心の情報化社会になってきてますからね。文系じゃなくて理系の時代なんですよ、きっと。

石川　嫌だねぇ。ああいう無機質なもんばっかりはびこってると、いったい何に対して闘えばいいのか、わかんなくなるなぁ。まさに悪魔の機械だよ。人間は、その悪魔の機械に飲み込まれてしまうのかな？

——映画でも、コンピューターvs人間みたいなの、ありますよね？　『マトリックス』とか。

石川　そうだよね。俺たちは戦いを挑んじゃいけないものに闘いを挑んでいるのかもしれない。それをドン・キホーテと言われるんならいいよ、這いつくばるまで、死ぬまで闘ってやるよ！

——死んじゃうんですか、社長!?

石川　絶対負けねえぞ！「世界征服」の野望も忘れちゃいねえよ！　駒沢でバト第2章の幕開けを見せてやるから、覚えとけ！

【01年4月10日、越谷・デニーズにて収録】

爆弾投下 Interview

インタビュー後記■マット界随一の人間狂気・石川社長の目には、確かな未来が見えていると思う。それが、いままでは見えにくくて「謎かけ」になっていたのだろう。今回のインタビューも様々な誤解や批判を呼ぶのは必至だが、表層的な部分だけで、この男を審判してはならない。さあ、この社長の姿勢を評価するもしないもアナタ次第！　あとは、その目で確かめていただきたい。・

4・13後楽園大会　日高vs松井の「新・ケンカ格闘プロレス」こそバト第2章の指針である！

バトラーツの軸はここだ!!

投下爆弾 Interview

3・1の不祥事で、今度こそガラガラだろうと思われたバトラーツの後楽園大会であったが、意外にも（失礼！）客席はかなり埋まっていた。3・1の半券を持っていった人はタダになるという「お詫びサービス」があったのも功を奏したようだ。その客席からは醒めたような、それでいて熱さを求めているような空気が漂っている。3・1のこともあり、ファンも会場に来たとはいえ、バトラーツの姿勢に半信半疑であったのかもしれない。

そんな中で、この日最も熱い闘いを繰り広げたのは日高郁人vs松井大二郎（高田道場）のシングルマッチであった。バックを奪い合い！　蹴りとパンチが激しく交錯！　ブランチャはミサイルキックで迎撃！　他団体の選手同士が闘う試合の緊張感や殺気が、リング上からあふれ出ていた。特に松井のアグレッシブな姿勢は、『PRIDE』と何ら変わることなく発揮されていた。試合後のインタビュー中に松井が言った「ボクはプロレスも格闘技も、同じ気持ちでやってますから！」という言葉こそが、この試合を爆発へと導いた導火線であるとボクは思う。それに呼応するように日高も導火線に火が付いていた。「クール・アイ」と呼ばれた頃の日高ではなく、プロとしての懐の深さを見せつけながら、松井と同じ土俵で闘いを挑んでいく負けん気の強さは素晴らしかった。

プロとしての気迫と技術の上に乗っかって火花を散らしあった両雄は、紛れもなく本物のプロレスラーだった。インタビュー中で石川が語っていた新しい胎動とは、まさにこれだ！　気迫だけじゃない、技術だけでもない。ケンカでもない。でも、そこにはすべてがあった！　観客も次第に熱を帯びていく。他団体の選手との試合とはいえ、近年稀にみる内容だったと思う。

逆に、その導火線の途中で火が消えてしまうのがアレクであろうか？　この日は、アレク＆jun－i．comvs大谷晋二郎＆高岩竜一というカードだったのだが、その存在感が見事に存在感が消えていた。大谷とjun－iはアニマル浜口道場の先輩と後輩、その再会というドラマの中に飲み込まれた形である。松井のような言葉がアレクの口から飛び出したときこそ、バトラーツの第二章が本格的に始まる瞬間だと思うのだが……。

メインはまたもや試合そっちのけで殴り合った石川と村上。そこに田中将斗が入ることに若干の違和感はあったが、石川はそんなことおかまいなしに狂気全開の大乱闘を展開！　石川の中の揺るがないプロレス観が爆発していた。

プロレスと格闘技に共通している根っこの部分、それが「ケンカ」である。その「ケンカ」の雰囲気がバトラーツから消えて久しい。今回の大会では、久々に原点である「ケンカ」が軸になっていた。「ケンカ格闘プロレス」が、ただの「プロレス」や遺恨も何もない「格闘プロレス」になったとき、気が付いたらバトラーツは熱を失っていた。だが、今回は「ケンカ格闘プロレス」の発展型が観客に熱を取り戻させた。バトラーツの軸は、だいぶ遠回りしたが一周回って原点に戻ったのだ。旗揚げ当初と同じで、これからが勝負だ！

日高vs松井!!
これぞ「プロレス」!!
名勝負、誕生一!!

日高vs松井は殴り合い、蹴り合い、バックを奪い合い、ブランチャ仕掛ければドロップキックで迎撃とお互いの意地と技術が大爆発！　アレクは大谷との因縁に決着をつけるべく駒沢大会で激突！　大谷は小馬鹿にしたようなジェスチャーで心理戦を仕掛けた。村上が田中将斗と異色のタッグを結成！　初参戦で若干とまどいが見られたが、もっとバトのリングで見てみたい選手である。石川と村上は、またもや試合そっちのけで大乱闘。技ではなく、情念だけで立ち向かった石川の狂気を見ろ！

春のバチバチ大会スケジュール

5月1日（火）埼玉・戸田競艇場
5月4日（土・祝）東京・TOKYO FMホール（18：00）
5月10日（木）東京・駒沢オリンピック公園屋内球技場（18：30）
6月2日（土）石川・石川産業展示館2号館（18：00）
6月3日（日）埼玉・くすのきホール<所沢>（17：00）
6月23日（土）埼玉・桂スタジオ<越谷>（18：00）

何と、6月2日はZERO－ONEとの全面対抗戦！　再び外敵を迎えるバトラーツはどう立ち向かう？　さらに見逃せないのはBルールで誰が一番強いのかを決める5月4日のTFM大会！　そして遂に迎える春の大一番・駒沢大会については、右の囲みを見ろ！

格闘ロード　バトラーツ旗揚げ5周年記念スペシャル　FINAL

5月10日（木）東京・駒沢オリンピック公園屋内球技（18：30）

【対戦カード】
石川雄規vs村上一成（UFO）
モハメドヨネvs田中将斗（フリー）
アレクサンダー大塚vs大谷晋二郎（ZERO-ONE）
カール・マレンコvs松井大二郎（高田道場）
日高郁人&スペル・クレイジーvs邪道&外道（フリー）
高岩竜一（ZERO-ONE）参戦！

【チケット料金】
特別リングサイド／¥8000（当日¥9000）リングサイド／¥6000（当日¥7000）
2F指定席／¥5000（当日¥6000）2F自由席／¥3000（当日¥4000）

奇跡の旗揚げから遂に5年。ひとつの時代が終わるのか？　ホントにバトラーツ新時代はやってくるのか？　そして、バトラーツは存続できるのか？　すべてはこの大会を見ればわかること！　平日の夕方だからって、見逃すと絶対後で後悔するぞ！　必見！

【お問い合わせ●バトラーツ】
TEL.0489-63-0005

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

【広告のページです】

ご近所に“ライバル(グレート・アントニオ)”開店!! されどチャンピオンは いつ、何時、誰の挑戦でも受ける!!

燃える商魂 ダンチョー (コスプレ店長)

まさにプロレスグッズのチャンピオン・カーニバル!! 買い逃すなよ、マジで!!

格闘アストラル特製 無冠の帝王タオル
鈴木みのるのコスプレには欠かせないタオル（¥500）ならコレ!

新作・鈴木みのる(黒or白)、エンセン、船木フィギュア
おなじみのフィギュア（¥1500）でみのる&エンセンが新登場! 船木の新色も登場!

大人気サクTシャツ発売中! もちろん『さくぼん』も発売中!
サクTシャツ（¥3900）も各種取り揃えております! 単行本『さくぼん』（¥1000）もあるぞ!

破壊王ハチマキが遂に発売!
破壊王の魂がこもったハチマキ（¥2000）も買おう! 中央にロゴマーク入り。

T2000 缶コーヒー(ブラック)
黒のイメージでブラックコーヒー。品切れ間近!! 急げ!!

新ブランド『SWEEP』のTシャツ!
猪木アリ状態のシルエットがTシャツ（¥3900）に! 黒or白or紺。M～XLあります。

魂(ソウル)ジャージ 絶賛発売中!
ツートン・カラーのジャージ上下（¥10290）、人気爆発! 他の色もありますよ!

単色バージョンもあるぞ! 野獣、着るべし!
ジャージ上下（¥10290）も同じく発売中! 色違いもあるので要確認。

新日のテーマ曲CD 最新版が遂に発売!
武藤、ムタ、飯塚、大谷、吉江、高岩らのテーマ曲を収録!（¥3500）

武藤のかっこいいマウスパッド（非売品）
上のCDの初回出荷分特典として、非売品の特製マウスパッドがついてくる!

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ! いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法!

＜グッズ通信販売＞

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!! もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える! プロレスファンよ、いますぐ来い!

通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金+送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

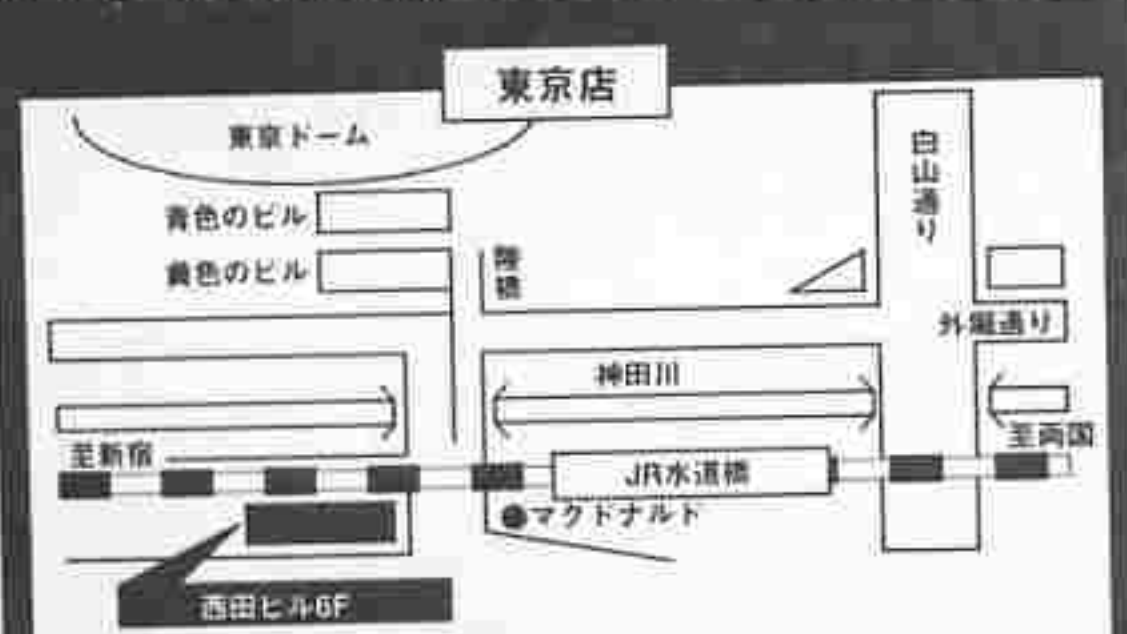
＜ビデオのレンタル方法＞

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!! レンタル方法は以下の3通り! どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ!

1. **店頭にてレンタル、店頭へのご返却**
2. **店頭にてレンタル、宅配便でのご返送**
3. **TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル**

いずれかの方法で注文をお願いします! 東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店

東京店 東京ドーム 白山通り 青色のビル 黄色のビル 神田川 外堀通り 至新宿 JR水道橋 至両国 マクドナルド 西田ビル6F

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237 FAX.03-3221-6267
営業時間 11:00～22:20(年中無休)

Champion大阪店

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186 FAX.06-6645-5187
営業時間 11:00～22:00(年中無休)

オフィシャルビデオランキング

このところリリースラッシュのプロレス&格闘技ビデオですが、チャンピオンならどんな商品でもノー問題でレンタル中!

- 1位 『猪木ボンバイエ』(パイオニアLDC)
- 2位 『ZIONトーナメント2000』(クエスト)
- 3位 『レスリング・ウィズ・シャドウズ』(ビームエンターテインメント)
- 4位 『新日本vs全日本 全面抗争2』(ビームエンターテインメント)
- 5位 『新日本vs全日本 全面抗争1』(ビームエンターテインメント)

※このところ、ヘルニアに悪わされ欠場続きだったダンチョーですが、マッチョ・ドラゴンばりに華麗に復活。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

Championホームページアドレス：http://www.champion-j.com

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

ボクの私物古本販売コーナーを『グレートアントニオ』（神保町）＆『タコシェ』（中野）の2店に設置したりと、ショップ展開もスタート！　そしてなんと、『Title』（文藝春秋）では橋本真也＆前田日明＆マサ斎藤＆ガッツ石松＆輪島大士という5大大物インタビューにも挑戦！　そんな調子でこの連載にも力を入れたいのは山々であり、あと何本か書評しようと思ってたんだが、たったいま編集サイドから「明日までは待てないので、それだけでいいです」と言われてしまったから、今回もまたコーナー縮小となった書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『佐山聡の掣圏道』

（佐山聡／ぴいぷる社／1500円）

佐山聡の掣圏道
Satoru Sayama
佐山聡著
ロシアンフック炸裂！
バーリ・トゥードを超えた
新世紀格闘技バイブル!!
ぴいぷる社　定価1500円+税

基本的には掣圏道の技術解説に、路上では寝技よりも打撃が有効という掣圏道スタイルの元ネタになった路上の王・藤原敏男先生との対談なんかも絡めた一冊。この2人ならバカ話をしただけで単行本を作れるぐらい面白いはずなんだが、お堅い作りなのでちょっと物足りないのが正直なところ。

しかし、だ。佐山聡という素材自体があまりにもズバ抜けすぎなので、そんなのどうだってよくなること確実なのであった。

たとえば、業界内で「天才」だの「常に10年早い」だのと常々言われているだけあって、89年にサンボ着を使ったジャケットシューティング構想を発表した時点で**「競技化にこぎつけたら、背広に似せた襟のついた道着をつくる予定」**だったと語る佐山。

それだけ先見性はあるのも事実だし、**「私の判断が正しければ、その後掣圏道は大変な格闘技になる」**とまで言われたらだんだんそんな気もしてくるんだが、掣圏道自体はともかく近頃の佐山イズム溢れるフレーズだけは10年後に流行るとは思えない。それが、ボクの素直な感想なのであった。

なにしろ、**「佐山格闘技」**に**「トータル格闘技」**、**「タックラー」**に**「未来を打つアッパー（ロシアンアッパーの別名）」**である。

これまでの**「ロシアンフック」**や**「ライフバランス」**も含めて、佐山の常識を超え過ぎた言語感覚は、もはや真似しようと思ったって誰にも真似なんかできないはず！

ぶっちゃけた話、ちょっと電波系チックな気もするんだが、やっぱり天才と何とかは紙一重ということなのだろう、きっと。

……と思ったら、なんとビックリ。**「文明と神を存在させるものこそが格闘技なのだ」「闘いから生ずる覚悟は、アドレナリンを最大限に上げ、無限の境地を極め、いざという時その器が大地の基礎となり、地表においてリラックスさせた不動の姿が自然に表れる。これこそ神に導かれた真の格闘技者なのだ」**など、あまりにもスケールのデカすぎる神がかり的なことまで言い出しているのだから、さすがは佐山！　とりあえず、これもプロレスの神様・ゴッチイズムだと考えれば合点がいく次第なのであった。

『ブレイヴ・オン・ハート 真の勇者とは』

（佐山聡／ビジネス社／1300円）

表紙に書かれた**「キレたら負ける」**という副題を見ただけで、ついついプロレスファンなら突っ込みたくなる衝撃の一冊。

なにしろ、佐山聡のUFO電撃離脱直後にボクがインタビューしたところ、猪木はこんなことを言っていたものなのである。

「いまは原因もなくて、いきなり怒りだすのが見渡すといっぱいいるんだけど、最近その原因がわかったんだよね。ミネラル不足！　先日、佐山（聡・初代タイガーマスク）がキレちゃった（興行の打ち上げの際にキレて団体離脱）のもミネラル不足なんです、本当に！　甘いものを摂ると、すごく大量にミネラルを消費するんです。だから佐山には、早く健康になって欲しいなと」

そんな調子で「キレやすい若者」扱いされていた佐山が、**「格闘技に、そして武道にキチンと取り組んでいる人間が、いわゆる『キレる』状態になってしまうことは考えられない」「私のように、格闘技をやっている者は、いわゆるケンカ（ストリートファイト）というのをしない」**とまで言い切ってみせるんだから、本当にとんでもなさすぎ。

そもそも、マーク・コステロとキック・ルールで闘った際、**「コステロの腕関節まで極めた。大反則である。のちにテレビ放映でもここはカットされていた」**りのエゲツないことをやってきた男が、キレもしなければケンカもしないわけがないのである。

少なくともボクが数年前にインタビューした限りでは、「ここだけの話、喧嘩の数は数えられないです。もう、何百っていうレベルですね」と小声で告白していた彼氏。

「身体が大きくて『俺は強いんだぞ』って偉そうに歩いてくる奴が駄目なんですよ。ボディビルダーとか。目の前からそういうのが現れると、『やるのか？』ってなるわけです。昔は道路の反対側からデカいのが意気がって歩いてくると、道路を渡って『てめえ、この野郎！』って始めました（笑）」

「ボク、新日時代にある先輩とやっちゃいましたからね、道場で果たし合い。耳に齧られた跡あるでしょ。そこまでの喧嘩だと思わなかったのにいきなりガ～ッと噛じられて、肉片をペーッと捨てられたの。普通だったら怯むでしょ。俺、怯まないでガーンと目ぇ突いて、そのままハイキックを2発入れてバ～ンとひっくり返したら、イビキかき始めちゃったの（笑）。『ああっ、殺したな』と思って、キャハハハハハハ」

以前はそんな調子で楽しげにストリートファイトを語っていた佐山が、いまでは**「ストリートファイトとはしょせん憤慨した者同士の、単純権力争いである。どちらが先に多くアドレナリンを出したかによって勝敗がつく、**馬

鹿らしい世界である」と断言するまでになったのだから、サヤマニアとしてはシビレずにはいられないのである。

……とすっかり浮かれていたら、**「私を支持してくれるサヤマニアの人たちは、世間でよく言われる『オタク』に属していると言える」**とボクも含む読者にオタクの烙印を押してみせるのだから、さすがは佐山。

まあ、自分のことも**「格闘技オタク」**と自称しているので別にいいかと思ったら、そこにもカラクリがあったようなのである。

「私は私自身を、格闘技オタクですと自己紹介する。すると、格闘技知識の浅い人ほど喜んで肯定したがる。今はそういう時代なのだ。実は私はいつもこの言葉をバロメーターにさせてもらい、その人の格闘技の器を測らせてもらっている」

そういうことなので、ボクは「格闘技知識が浅くて器の小さいオタク」に決定！

まあ、そんなことは別にどうでもいい。なぜなら、ここで佐山が修斗との確執らしいことに珍しく触れているという事実だけで、ボクはもう大満足なのであった。

「総合格闘技というものは、まだまだ歴史的には浅く、いろいろな試行錯誤を必要とする時期である。ほんとうにカッコだけではない、命をかけた革命の最中なのである。欲望、裏切り、弱さ、お金、すべてが本物の革命と同じことが起こる。いずれ真実は暴かれるであろうが、今、私がそんな苦労話をしている、男の腐った人間であるべきではないと思う」

果たして、人間的な弱さから金という欲望に負けて裏切っていったのは誰なのか？

これまたボクがかつてインタビューしたとき、修斗を離脱することになった件について佐山はこう語っていたものだ。

「まあ、それも裏がいろいろあってね。金のために動いてるような人間見てると、すごい馬鹿みたいでしょ（笑）。いまお金に溺れた人間は、お金がなくなったらものすごいあたふたするわけだから、今度どういう行動に出るのかなあっていうのが楽しみですね。悲しいかな、みんなお金で動くんですよお」

実際に何があったのかは知らないが、余計なことをゴチャゴチャ言わずに達観している佐山はやっぱりカッコいいのであった。

ブレイヴ・オン・ハート

真の勇者とは

キレたら負ける

佐山聡

Satoru Sayama

アントニオ猪木を越えた！

これは闘う男のハート論だ!!

平野啓一郎氏（芥川賞作家）推薦！

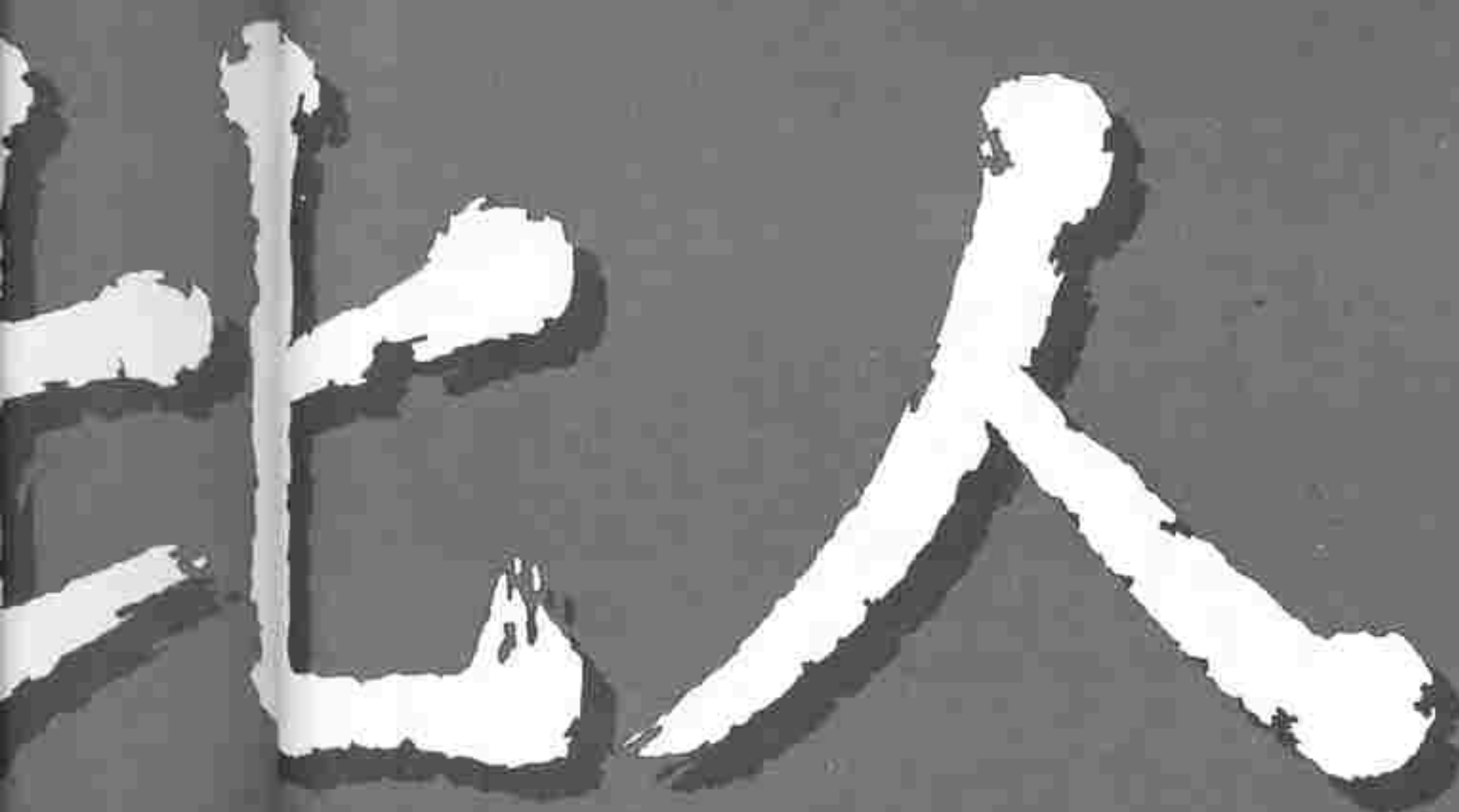
ついでに言えば、いまも掣圏道の道場訓に**「掣圏士たるものクールであれ」**というフレーズがあるのはかなりカッコいいとボクは思っていたのだが、それもそのはず。

佐山によると、**「ここの、『クール』という言葉は、冷静さということを言っているのではない。英語でいう『かっこよくあれ』といっている」**のだから、もうビックリ。

最後は、スポンサー筋のことも考慮して**「掣圏会館はトータルエネルギー（ガス会社）が私の理想を現実化してくれたからできたのだ。掣圏道は必ず格闘技の歴史にナンバーワンの実績をつくらせていただく。その時の最強の後援者がトータルエネルギーであることを、皆さんも頭に入れ、後々まで語り継いでほしい」**とキッチリ言い残してみせる佐山は、最高にクールなのである。

次号完結

巨匠入魂第27回

無比人

真樹日佐夫

illustration▶ 中川雅博

(57)

前回までのあらすじ

天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜きプロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。交渉は難航したものの、道場での非公開試合という形でヒクソンと運命の対峙を果たし、そこで無比人は互角の闘いを繰り広げたのだった——。

無比人は、WBC・IBF統一ヘビー級王座を防衛したレノックス・ルイスが勝ち名乗りをあげるところに乱入、リング上で王者に対し強烈な正拳突きを叩き込んだ。この無比人の突飛な行動は、最前列で観戦しているマイク・タイソンに対してのアピールであった。数ヵ月後、紆余曲折の末、実現したタイソン戦はダブル・ノックアウトという結果に終わったが、続いて、巻道場主催の大会ではエキシビションながらレノックス・ルイス戦も実現。さらに忘年会の席上で無比人の口からは新世紀の仰天プランが明かされた。名付けて〝ザ・ストロンゲスト・センチュリー21〟。出場メンバーは、ヒクソン、カレリン、タイソン、ホースト、天龍、三沢等々、世界中の大物格闘家がズラリとラインナップされた。決戦のゴングは5月15日——。

巻道場の稽古は昼の部と夜の部とあり、日曜祝日を除いては午後九時半に閉館となる。

夜の部の稽古が終わりを告げる頃、無比人がショッキング・ピンクのベンツで乗り付け、門下生らと入れ違いに上半身裸に黒タイツという試合のときと同じスタイルで道場入りする。

それから二時間、巻が引き続きマンツーマンで稽古をつけるが、その内容は余人には窺い知れない。秘密特訓ということで、中から鍵を掛けられてしまうからだ。

この特訓は三月中旬にスタートして一カ月、休日以外は一日も欠かさずに続けられ、〝ザ・ストロンゲスト——センチュリー21〟まで一月足らず、ということもあって情報をキャッチした格闘技マスコミが連日詰めかけたが、すげなく取材は拒否された。一言のコメント、一枚の写真も入手できず、『四角いジャングル』誌もしかりで千堂からいくら無比人に申し入れても、巻師範の意向だからの一点張りで埒があかなかった。

そしてこれは当の無比人も知らされていないのだが、三月も旬日を経た休日の昼下がりに、巻の許へ氷見子がやってきて、

——先生、万の命が危険に晒されているんです。力をお貸し頂けないでしょうか。

と縋ったのが秘密特訓を開始する契機となった、といえるだろうか。

氷見子は電話でアポを取っており、そこは道場の上階にある巻の私室であったが、さらに彼女はこう続けた。

——勿論、只でとは申しません。とは言っても、お金や品物では失礼でしょうし、どうかこれを。

次いで対座していたソファから静かに立ち上がると、ドレス風のワンピースの吊り紐を肩から滑らせた。

——何の真似かね。

ノーブラでパンティー。パンストの類は着けていない氷見子の痩せすぎの躰を上目ごしに見て、巻。常と変わらず、間然するところがなかった。

——ご笑納下さい、とでも言ったらいいのかしら。

少年を思わす腰の線が無意識のように科をつくっていた。

——遠慮しとこう。服を着なさい。

——先生。初めてお目にかかったときにわたし、ぴんときたんです。先生はM男でもご主人様でも大王様でもない、紛うかたもない雄だって。そういう男性に対しては女性も気取ったりすることなく、素直な気持ちで可愛い雌になれるんだろうなあ。そう思えて、するとわくわくするとともにどぎまぎもしちゃって、機会があれば是非一遍抱いてもらい自分の感性に狂いがないことを確かめたいものだと。

——還暦を過ぎた身には勿体ないような申し出だが、万くんというものがありながらそのようなことを言い出すのを不謹慎と思わないのかね。

——思いません。万もわたしもそういう感性を何よりも大事にして生きてきましたし、またこれからも。その点ではわたしたち、理解し合ってるんです。ですから不謹慎とか疚しいとかは全然。

——感性が大事か。なるほど聞こえはいいが、しかしどっちとも好き勝手なことやっとるんじゃ、一緒に暮らしている意味がないのでは。

——割れ鍋に綴じ蓋っていうか、お互いに相手を必要としているから。で、そのパートナーを失うかもわからない非常事態なんだし、彼だってわたしには感謝はしても怒ったりなんてことにはなりっこない。ねえ先生、お願いよ、恥を掻か

せないで。

どの声も演技なんかじゃなく切迫してい

さあ好きな方を。

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

先生、万の命が危険に晒されているんです。力をお貸し頂けないでしょうか

せないで。
氷見子はテーブル沿いに巻の方へ回り込み、両手で頚を掻い込むとともに横向きに膝に乗ったのだった。
――力を貸せと言われても徒手空拳、やれることは知れている。危険に晒されているというのは、具体的にどういうことなのか。
巻も意を決したかにみえた。膝に氷見子を乗せたままである。
――例のドームでのワンナイト・トーナメント。あの対戦カードを公表した途端に脅迫電話がじゃんじゃん掛かって、それも一箇所や二箇所じゃないんです。というのも万が選手たちの所属団体を通さず、ダイレクトに札束攻勢をかけたケースが多く、またそれぞれのスポンサー筋が絡んでの事情などもあるようで、とにかく興行を中止しろ、開催したら生きてはいられないものと思えって、もうそんなのばっかり。
――資金が潤沢だったのが逆に裏目に出たっていうわけか。もっと各方面との交渉に時間をかけておればなあ。で、万くんは何と。
――放っておけと言うだけで。単なる威しか厭がらせか、その程度にしか受け止めてないんでしょうけど、でも電話を取るのはいつもわたしで。何となくわかるんです。どの声も演技なんかじゃなく切迫していて、このままだと無事ではすまされないってことが。
――だからといって万くんとしても、ここまできては中止するわけにはいかんだろう。となると護衛として四六時中付いて回る、か。しかし現実には、それもちょっとねえ。
――いえ、ボディガードみたいな失礼なことを先生にお願いしようというのではないんです。万を呼んでなんとか思い止まるように説得して頂きたい、先生に言われたら彼も逆らえないのではないかって。
――男が命懸けでやり遂げようとしているのを止めさせる、などというのは性に合わんが、まあ案ずる気持ちもよくわかる。翻意を促すだけはしてみるか。
以上のやりとりがあり、その後に二人は奥へ引っ込んでひとときを過ごした。そして翌日。巻は無比人を道場へ入れて対座し、そこで用意の包丁二本を前に置くと、
――何も聞かずに五月の興行を止めにする、と約束して欲しい。約束できんというのであれば、一本を取りなさい。
――包丁で、まさか師範と……。
無比人は顔色を失くしていた。
――こういう場合の道具として空手を用いるのは、潔しとせんのでね。どちらでも、さあ好きな方を。
無比人は、かたまってしまったかのように動かなかったが、ややあって、
――きょ、恐怖症なんです。
わざとのように舌を縺れさせた。
――恐怖症？
――ええ、刃物恐怖症。見ただけでもう呼吸が苦しく、腰から下の力が抜けちゃって。
――本当かね。
――ほ、本当です。剃刀なんかも駄目で、髭を剃るのにも電動のやつで。そんな自分に包丁で渡り合えだなんて、も、もう死ねと言ってるのと同じじゃないですかぁ。
突然、横ざまに床に突っ伏すと無比人は肩を震わせた。嗚咽の声を弾けさせた。
巻は呆れ返った様子で打ち眺めた。うーん、と一つ唸って腕組みし、
――強行したいということなんだな、たとえ命を落とすような羽目になったとしても。
言ったのへ、素より危険は覚悟の上だしどうなっても悔いはない、どうか目溢し願いたいというようなことを背中を波打たせつつ切れ切れに無比人。
なんとも芝居がかっており、千堂あたりが見たら眉を顰めたことだろうが、巻は温顔を絶やすでもなく、

——では包丁は引っ込めるとするが、条件が一つ。
——何でしょう。
無比人が半身を起こしてきた。空涙か、目許を濡らしていた。
——明日といわず今日から、ここでまた特訓に入る。
——それは、ええ、もう喜んで。四月になったらもう一度お願いに上がろうかなって、考えていたところでして。
——今度のはしかし、興行に備えてのものではないぞ。
——え？　といいますと……。
——すてごろのだな、持てるノウハウの総てを伝授して置きたい。そのため特訓だ。
——すてごろって、つまり素手喧嘩。喧嘩のテクニックですね、そりゃ有難い。
——できるものなら、良好なコンディションのうちにドームのリングに立たせたい。きみを見ていると昔を思い出すというか……。あんまり期待してもらっても困るが、いざというときにも少しは役にたつならば、ということでだな。
——押忍、是非。
かくして巻道場での特訓は再開され、張り付いていた報道陣も諦めたものか一社減り、二社減りして遂に皆無となった四月も終わり近い夜のこと。
十一時を少し過ぎて、無比人が道場の通用口を出てきた。玄関前に駐めた愛車へ乗り込むと、外苑西通りの方へ向かった。と、十メートルほど手前からワンボックスカーが、これを追うように発進。『四角いジャングル』社の車で、ハンドルを握っているのは千堂であった。
社の車といっても取材が目的ではなく、隠密裡に無比人をマークしてかからなくてはならぬ訳が千堂にはあったのだ。尾行を悟らせぬよう、車間距離に留意しつつ青山墓地下の交差点へ。特訓が終わるのを待って後を尾ける、それがもう半月は繰り返されたろうか。
墓地下交差点の信号は、ベンツを通過させた直後に赤に変わったが、しかし千堂は動じなかった。交差点を渡ったところに終夜営業のラーメン屋があり、そこ

へいつも無比人が立ち寄るのを知っていたからである。

果たしてベンツはその店の前を行き過ぎたすぐ先で停まり、無比人が降りた。

ところが店へと踵を回すより早く、先着していたマイクロバスから揃いのジャージーの男たちがばらばらと出てきて彼を取り囲んだ。

交差点の手前から見ていて千堂は、無比人の姿が男たちの陰になったことで気が揉めた。一行は全部で五人。ヴェールのように無比人を囲い込んだまま、墓地の参道入口へと急くふうでもなく移動して行く。

信号が変わるのと同時、前の何台かに強引に追い越しをかけて交差点へ突っ込んだ。車をベンツの後ろにくっ付けて止め、飛び出すと駆けたいのを我慢して小走りになった。

参道へ入ってほどなく、千堂の目が捉えたのは無比人と五人と、その者たちの手許で鈍い光を放つ消音器付きの拳銃。

参道が左へも折れて延びるT字路の奥寄りに、無比人は、五挺の銃を向けられながら平然と風に吹かれて佇っており、

「前回と頭数は同じだが、顔触れはまったく違う……な。てえことは、別口か。光栄だねえ、こんな時間まで網を張っててくれる闇の組織がいくつもあるなんてさー」

ぐるり取り巻く形に布陣した一行へと視線を巡らしつつ、その口付きも心地良げだ。

前回というのは無比人の尾行を千堂が開始して三日目だったか、好機を掴めないまま大森のマンションへ着いてしまい、駐車場でベンツを降りたところを待ち伏せしていた五人組に襲われた、それを言っているのだと知れた。T字路の角の物陰から六人を注視するうち、その夜の光景と眼前のそれとがオーバーラップしたようにも感じられた。

マンション駐車場での五人の得物はいずれも匕首だったが、諦めて一旦は車をUターンさせた千堂が只ならぬ気配に取って返したときには丁度乱闘の火蓋が切られたところで、あっという間に二人がぶん投げられて悶絶。

残る三人も踏み込まれて手刀を浴びたり突いて出たところを蹴りで狙われたりで忽ちにして匕首を取り落とし、示し合わせたように逃げ腰を見せるのへ、

——仲間を置き去りにする気か。警察を呼んで引き渡すぞ。

と無比人。三人が思い直した様子でぐったりした二人に手を藉し、こけつまろびつ駐車場を出て行くのを千堂は、路上に停めた車の中から茫然と見送ったことであった。

「消しちまわんでいい！　脚に射ちこんで入院させろ！」

リーダー格とおぼしい後ろの一人が言い放ち、銃口が一斉に二十センチばかり下がった。そして、発砲。おっつかっつに無比人の躰がゴムボールにも似て跳ねた。

両側に位置する二人が派手にのけぞった。

千堂にはしかとは見極められなかったが、空手にいう跳び横蹴上げの左右同時蹴りがそれぞれ下顎にヒットしたのだ。正面の男が慌てて銃口を上げんとしたが、宙空にあって右腕だけを振りかぶっての手刀脳天打ちに先んじられた。

その男は膝からすとんと沈んだが、そこへ無比人が降ってきて前のめりとなるのを逸早く横抱きにするとともに、後方の二人へと向きを転じた。

二人は銃を向け直したが、弾が味方に当たるのを危惧してか射ちかねた様子。無比人は、真っ向から突進して一人をボディへの足刀横蹴りで斬って取り、脚に射ち込めと指示した最後の一人へ楯にしていた男を浴びせ、尻餅を突かせた。銃が手を離れて千堂の足許近くまで滑ってきた。

「帰って上の者に報告するんだな。万無比人を入院させるには、銃の五挺じゃ足りませんって」

腰を抜かしたらしい男にそれだけ言うと、無比人は背を向けた。

（刃物ばかりか銃までも——）

千堂は、うつろな思いで身を翻した。

(58)

三日置いた夜半。

国道十五号線を川崎方面へ向かう無比人のベンツに四百五十CCのバイクが並んだかとみるや、モンキースパナで運転席のドアガラスを割られた。この日、千堂の車は尾けてきていなかった。

抜き去るバイクを無比人はエンジン全開で追走。海岸通りの先で袋小路へ入った。そこにショベルカーがこちら向きに道を塞いでいて、バイクはその後方へ。と、待っていたようにショベルカーが前進を開始。ベンツはバックを余儀なくされる。

そこへ十トントラックが進入してきた。

〈以下次号〉

次号完結の 本格格闘プロレス小説『無比人』

はたして無比人の運命やいかに？

※衝撃の『無比人』完結編は6月下旬発売の『紙プロNO.39』を待つべし！

破壊王弁当、発売延長!!

第2弾のきしめんやパンも登場

『紙プロ』本誌も 半額セール延長決定!!

気になる申込み方法

●現在は1号～7号、9号、10号、12号、18号『猪木とは何か?』は完売しました。プロレスショップにはまだあるので元気に探せ!!　気になるお値段は、ナント『紙のプロレス』8号は700円→350円、11号～22号は780円→390円、パンクラス公式読本『矛』『盾』1260円→630円、『極真とは何か?』1530円→800円と大変お買い得です。　☆『紙の前田日明』送料込みでサービス価格の2000円となります。　●送料は1冊＝310円、2冊＝380円、3～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上は700円となります。

【郵便振替振込先】

00130-3-769154　（株）ダブルクロス

※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。

※必ず本誌かRADICALかを明記してください。

リング外情報通信▶マット界関係者の皆さん、リリース待ってます!…Vol.5

KamipuroWalker

NEWS & EVENT ブチ込み情報

■前田CEOの高貴なおヒゲが間近で見れる、8・11リングス10周年記念大会ロイヤルリングサイドチケット(ペア)を手に入れろ!!
5月27日の大会よりアマチュアKOKに移行することになったアマチュアリングス。それに伴い「アマチュア」という枠にとらわれない幅広い視野でのネーミングを大募集! 見事採用された方には8・11有明コロシアムで行われる「リングス10周年記念特別興行」のロイヤルリングサイドチケットなどをプレゼント! 官製ハガキに「大会名」「住所「氏名」「年齢」「電話番号」を明記の上……150-0036 東京都渋谷区南平台町13-1 サトウビル202(株)リングス「アマチュアリングス実行委員会」係まで 5月2日(水)必着!

●

■いまだからこそ立ち上がれ!! バトラーツ・ファンクラブイベントのお知らせ
バトラーツFCイベントが石川社長の初プロデュースによって行われる。バトの危機に遂に立ち上がった社長が何を見せてくれるのか、ズバリ言って注目だ!
【日時】5月5日(土、祝)開始18:30〜
【場所】TOKYO−FMホール
【料金】FC会員無料 一般5000円

●

■バトラーツ・アマチュア総合格闘技大会「STARTING−B(仮)」開催! 島田裕二プロデュースよる総合格闘技の登竜門を目指すこの大会で自分のチカラを試せ!!
【日時】5月4日(金、祝)11:00〜
【場所】TOKYO FMホール
【大会参加費】3000円【観戦料】2000円
【問い合わせ】バトラーツ(0489-63-0005)

●

■キックボクシングvsトランスミュージック全面対抗戦!?「RAVING FIGHT IN THE WALL」開催
リングの三面8割がスタンディングというダンスフロアーで、ムエタイのワイクーも吹っ飛ぶキックとトランスの大競演! 演出効果でキックを変える! キックに光を! あのトーワ杯で佐竹と激闘を繰り広げた稲葉紀之やK-U戦士たちが繰り広げる、キック版タイタンファイトの今風な闘いを見逃すな!!
【日時】5月2日(水)開始18:30
【場所】東京・渋谷ON AIR EAST
【お問い合せ】PS CLUB(03-5727-5655)

●

■女子選手も募集中の『THE CONTENDERS』アマチュア大会
宇野薫、高瀬大樹らがレフェリーを務め、花くま先生も参加したこの大会。女子選手も大募集だ。参加出来なくても、開催場所のTIGER PLACEは、恐ろしく設備が整ったファイテング・スタジオだけに、行ってみるだけでも十分価値アリ。闘いは入門してからでも遅くはない!
【日時】
5月20日 フェザー級、ライト級トーナメント(予定)※5月10日締切
5月27日 ウェルター級、ライトヘビー級、クルザー級トーナメント(予定)※5月17日締切
6月3日 ミドル級、ヘビー級、女子トーナメント(予定)※5月24日締切
【場所】横浜・TIGER PLACE
【問い合わせ】
GCM COMMUNICATION(03-3538-5801)

●

■トークライブも、ノーフィアー!!
藤沢市スポーツ振興財団設立記念イベントに藤沢育ちの高山が凱旋トークライブを敢行。PRIDE.14で藤田戦が決まった高山だけに一言一句が気になるところだノーフィアー!
【日時】5月18日(土)開始14:00〜
【場所】神奈川・藤沢市石名坂温泉プール(小田急江ノ島線「藤沢本町」下車徒歩10分)

●

■『PRIDE.14』直前! 島田裕二プロデュースイベント『PRIDE』とは何か?
【日時】5月18日(水)開場18:30 開演19:00
【場所】渋谷ロックウエスト(渋谷区宇田川町4-7トウセン宇田川町ビル7F)
【料金】入場無料です。は〜い。
出演:島田裕二、山口日昇、谷川貞治(※「今回は必ず出席します。んあ〜」とのメッセージが届いております)
【問い合せ】渋谷ロックウエスト(03-5459-7988)

●

■狂乱の格闘技・プロレスショップ戦国時代にワールドスポーツプラザKINGSが全国侵略展開中!!
プロレス&格闘技団体公認のもとに、世界で初めて格闘技グッズを一堂に集めたプロレス&格闘技専門ショップKINGS。ズバリ言って進出してない地域はないと言っても過言ではない。先日には水戸店がオープンし4月28日にはKINGS史上最大フロアで上野店がオープン。
【問い合わせ】
水戸店(029-226-0380)上野店(03-5807-2260)

●

■アレク&エンセントークショー!
『PRIDE』が横浜に帰ってきたぜェ〜! 今回で東京ドームと並び4回目の最多開催となる横浜アリーナ『PRIDE.14』。KINGS主催で直前ライブイベント開催が決定。『PRIDE.14』情報は勿論のこと、いま話題のルール問題、今後の展望などをアレク、エンセンが熱く語る!『PRIDE.14』まで待ちきれない方は横浜で風になれ!
【日時】5月6日(日)開始14:00〜
【場所】横浜クイーンズスクエアB3F スタジオ「アット!」
【参加選手】アレクサンダー大塚 エンセン井上など
【参加方法】トークライブは参加自由、握手会の方はスタジオ「アット!」にて格闘技グッズ購入の方、先着300名まで。
【問い合わせ】
ワールドスポーツプラザ横浜みなとみらい店(045-682-2830)

●

■第5回闘魂猪木塾 in USAはもうすぐダーッ!
オイッ!! オマエへの一番好きなことやってやるから行って来いッ!! オマエらの好きな会長とトパンガキャニオンを上がってこい!! 行きますかーッ!
【日時】6月22日〜27日 【料金】24万8000円
【内容】ズバリ言って良く知らねえんです。担当の永崎さん、間野目さんに聞いてくれというかなんというか。ダーッ!
【申し込み&問い合わせ】
近畿日本ツーリスト(03-3341-2411)

呼ばれて飛び出てジャイジャイジャイジャ——イ

ジャイどく

ギョッ！　グフフ、珍かと思ったぁ？　残念でしたぁ、ジャイ子で〜す。前号までここを担当してた珍は、バッシングもOKみたいなフリしてたけどさ、読者様からの「珍なんて知りません。俺は堀江ガンツを愛しています。リングスをよろしくお願いします」（東京都・橋爪健太・22歳・フリーター）、「なんか気持ち悪いですね。友達にはなりたくない」（東京都・大類正和・29歳・会社員）、「リングスの両国大会で見た目と裏腹なつまらない息を吐いてました」（神奈川県・甲下雅也・31歳・犬の散歩）、他にも「社会不適応者」、「ターザンと同じくらい顔が汚い」等々、暖かいメッセージにションボリして『紙プロ』を辞めてアメリカに旅に出ちゃったので、なぜか編集部でプラプラ遊んでたジャイ子が今回担当しま〜す。ジャイジャイ。

珍が「ギョッ！　ギョッ！」うるさいから、ハガキ来なくなっちゃったじゃん、バーカ。ノブは「デンマーク式ダイエットだ！」とか言ってるしさ、お前スモーじゃん、痩せんなよ。しかもダイエット成功して、会社で細身のパンツに履き替えちゃって、どこ行くのかと思ったら寝てんの。意味わかんねーよ。チョロメ〜ンはテンパッてて遊んでくんないし、ガンツは締め切り寸前のいま、「アブダビの紀行文はあとまわし」って言ってるよ。落としちゃえばいいのに。吉田豪は相変わらずキャバクラばっか行ってるしさ。あ、そうだ。ジャイ子、こないだアルタ前で一人で転んでたら、ちょうど吉田豪に目撃されて、チャリでひき逃げされたんだよ。キャー、恥ずかしい。それでなんだっけ？　あ、読者ページね。読者も嫌なんだよなぁ。窪塚洋介みたいな人ばっかだったら頑張るんだけどさ、たいていダメ人間じゃん？　ま、いいや。適当にハガキ載っけとこ。

前号で原稿を落としたチョロを断罪コーナー

●チョロ！　原稿落とすなバカヤロウ！　しかし自腹で（たぶん貧乏なのに）おみやげ沢山買ってきたからとりあえずは許してやる（京都府・高木健治・21歳・学生）
ジャイ♥たぶんどころか思いっきり貧乏です。財布に銭湯の回数券しか入ってないこともしばしば。チョロメ〜ン、こないだ貸した電車賃早く返して。

●キャットファイトをやるなら、本業をきちんとこなした上でですよ、チョロさん。（東京都・片岡健太郎・25歳・ごくつぶし）
ジャイ♥ケッ、なに言ってんのぉ？　偉そうに。チョロメ〜ンはキャットファイトが本業（しかも売れっ子）なんだよ。

●バカじゃないの？　最低！　それでも商業誌か！　どうせならオクタゴンガールのグラビアにしろ！（東京都・荒幡一夫・37歳・在日米軍基地職員）
ジャイ♥まぁ落ち着いて。たかが雑誌ごときで、いい大人がそんなにエキサイトしなくてもいいじゃん。人生うまくいってないんじゃないの？　ちょっとかわいそうになってきちゃった。ジャイ子からのアドバイスとしては、基地がなにするとこか知んないけどさ、戦車とか乗り回してウサ晴らしすればぁ？

●原稿がなくてもそれなりにまとまって見えるところが頭にくる（福島県・松田文・26歳・フリーター）
ジャイ♥ジャイ子も最初、原稿入ってないの気がつかなかったよ。

今月の社長さん

（大阪府・英加直純）
またまた切り絵で登場です。ジャイ子は切り絵を始めたきっかけとか、作業風景とかが非常に気になるので、ビデオにでも収めて送ってくれるといいと思います。もしくは編集部に実演しに来てください。

「どこまで本気？」
そんなプロレス
「たまに」見たい
ダ…ダメ？…おやすみ

（東京都・白鳥大輔）
『FRIDAY』でスキャンダル発覚のCEO。実は、そこに出てた噂のA氏は、ジャイ子、同じ美容院に通うほど仲よしなんだ〜（なぜか反町と辻よしなりも一緒。）

KWIK KIK LEE

（埼玉県・中川雅博）
資料に相田みつをの本を購入されたそうです。エロ本買うより恥ずかしいんだってさ。ジャイ子が平子理沙のCD買うとき、モーニング娘。のビデオ買うより恥ずかしかったのと一緒かなぁ？

四角いジャングル OKだけどね ホントのジャングル 弱いねオレ たつみ

前号でよかったものなど

●下北のダイエーでMENSティオーを見ました！　ちゃんとポイントも集めてるようでした。（東京都・金子英邦・30歳・会社員）
ジャイ♥ジャイ子は下北で乙武君見たよ。一人でブーンて動いててうるさかった。話は変わって、こないだジャイ母から「カ●●でも結婚できるのに、なんでアンタは

結婚できないんだ！」っていうメールが来てビビりました。で、テイオーさんね。下北界隈在住のジャイ子は、テイオーさんもよく見かけます。あ、ひなのちゃんも見たよ。ジャイ子にそっくりで超かわいい♥

●**桜庭さんのニューTシャツを私にください。友達にいじめを受けて、いまものすごくおちこんでいる私に、ごほうびをください。たのみます。（茨城県・大沼由衣・14歳・学生）**

ジャイ♥たのみますってねぇ……、落ち込んだぐらいでご褒美もらえると思ったら大間違いよ、図々しい！　だからいじめられんの！

●**ナベちゃんはどう考えてもパン屋に収まるべき器ではなし。（大阪府・国原章子・20歳・フリーター）**

ジャイ♥そんなナベちゃんが、そこらのパン屋にいるなんて、あゆが連れ出しパブにいたことより凄いと思います。

●**私はW★INGを知らない小娘ですが、今回この特集を読んで、そのあまりの享楽的・セツナ的ヤケッパチな暴れっぷりに（中略）目頭が熱くなる思いでした。そしてそんなW★INGを好きでたまらんのであろうイナズマ氏の切ないソウルも思いっきり届きましたよ。（大阪府・国原章子・20歳・フリーター）**

ジャイ♥そのイナズマ氏は『レッスルマニア』生観戦ですっかりイカレてしまい、W★INGはもういいそうです。その程度のソウルです。切ないね。

●**チョロ様。6・2ハーリー・レイス戦はジャイ子にラウンドガールやってもらいたいんですけど、水着じゃなくて和服でやりたいのですが、聞いてみて頂けませんでしょうか。（東京都・セッド・ジニアス・プロレスラー）**

ジャイ♥特注の超カッコいい振袖があるんだけどね……（もちろんサイズの問題での特注。ジャイ子、コンタクトもサイズがなくって特注なの）。ディファに着物で行くの面倒くさいから、お断りしま～す。

……あ～あ、ジャイ子、ホントはこんな子じゃないんだけどさ、金髪鬼・吉田豪が「お前は嫌われ者キャラ全面に出せ」って言うから、言いなりになっちゃったの。きっとジャイ子のこと、誰にも渡したくないんだよ、クスッ。愛情の裏返しっていうヤツね。あ、そうそう、忘れてた。珍だけじゃなくて、水戸泉も机に『こんな会社辞めてやるTシャツ』を残したまま辞めちゃいました。見かけた人、半殺しにしといてください。

今月のヤマグチノボルコーナー

介護保険　大きく育て

山口　昇

（東京都・杉田八郎・49歳・会社員）

どうも先月の失踪は長いと思ったら、こんなことしてたのね……ってさ、ジャイ子ちゃんと読んでないままデザイナーさんに原稿渡しちゃったんで、なんのことやらわかりませ～ん。福祉がどうのだよね、たしか。

●●●●今月のポエム●●●●

『ライオネス飛鳥はごきげんななめ』

谷津の炸裂監獄固め
誰かここから出してくれ
チョウチョがお空を飛んでエレレ
誰かココから出してくれ
インターコンチネンタル王竿を俺にくれ
カサスが中を飛んでーレレ
P・P・P・P・
PWF
I・I・I・I
IWGP
ガードポジションからの大学受験
シンが新聞配達
偉いね　ムゴン色っぽいね
誰かCOCOから出してくれ
山田が宇宙を飛んでエレレ
誰かココバット
谷津の指導が嬉しいぞ
チョップがチョップがチョップが年、通算五万回
ドスコイ

（東京都・杉田八郎・49歳・会社員）

ジャイ♥『SRS・DX』でもおなじみの彼です。朗読すると超楽しいよ、ドスコイ。

ハガキ大募集♥

『ジャイどく』では、みなさまからのお便り、イラスト、自慢の写真等々、大募集中で～す。別にプロレスと関係なくってもいいので（ジャイ子へのラブレター、ジャイ子への養子縁組のお誘い、簡単なご飯の作り方、ノイローゼの治し方など）ジャンジャンお便りくださ～い。

すべての宛先は…　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス『ジャイどく』係まで。

あばよ！　幸田珍

ギョッ！　珍が芸人？　3・15『狂い咲きインディロード』とは何か？

前号でも珍が書いてたけど、去る3月15日、北沢タウンホールで行われたトンパチプロのライブ『狂い咲きインディーロード』に珍が参戦しました。なぜ珍が出たかというと、ジャイ子がマブダチのトンパチプロ・ハチミツ二郎社長に「今度のライブは二部制にして、昼の部は素人を含めた若手のゴングショーをやろうと思うんだけど、誰かいない？」って言われて、ふと思いついちゃったからなの。珍なら会社にいなくても業務に支障ないからいいやと思って。変な顔だし。「あと、出演者が素人だから審査員を豪華にしたいんで、山口編集長にお願いできない？」と二郎社長。なぬぅ？　豪華じゃないじゃん！　引き受けてもドタキャンするに決まってるのに、ジャイ子「いいよ」って言っちゃったの。

それからが大変。毎日のように山口日昇に「芸人さんに『紙プロ』読者がいっぱいいるから、会長が来るの楽しみにしてますよぉ」とかおだててさぁ……あーめんどくさい。芸人さんがみんなプロレスファンだと思ったら大間違いだっつーの。そんなにいねぇよ！　……案の定、本番2日前から音信不通になっちゃいました ぁ。

ライブ前、ビビりながら楽屋に謝りに行ったら、二郎社長はこう言ったよ「俺も会社のトップにいる以上は山口さんみたいなことしてみたい」ってさ、若干26歳で人間できてるね、さすが社長！

そのあとも、他の芸人さんから問合せ殺到でます。「すいません、本当に消えます。しかも、しょっちゅう」って何回も説明したよ。でも、なぜかみんな喜んでくれるのよ。変わり者って芸人さんの方が多いのかと思ってたのに変なのぉ。O川興業所属の芸人さんにも「ウチのE頭はアンタの上司と違って、いたって常識人だ」と言われて非常にショックでした。あぁ、恥ずかしい。っていうか、マジで？

恥ずかしいことは続くもんで、謝罪も一通り済んで、あとは珍の舞台をあざ笑ってやろうと呑気に客席に着いたジャイ子に「テメエんとこの編集長が来ないんなら責任取って審査員やれ」という指令がきたのが開演5分前。ショボ～ン。当然、気の利いたことなんて一つも言えませんでしたぁ。

肝心の珍のネタは、編集部で散々練習させて見飽きてたから、全然見たくなかったんだけど、その場になると、珍がステージでネタをやってるという状況が面白いの。ジャイ子、うっかり爆笑しちゃって、いまだに猛反省中だよ。

珍の出番が終って、油断してたジャイ子にビック・サプライズ!!　149センチの身長を誇る、全裸芸人・猫ひろしに目の前に立たれちゃったから、ジャイ子、珍でもないのにギョッとしちゃったよ。でも、男子の裸なんて見るの久しぶりだから、ちょっと得しちゃった♥

そのあとは大川興業勢のパラパラ、元JWP・ヤマモ大絶賛の西口プロレスと続いて第一部終了、夜の部へと続きました。平日の昼間っから全裸のチビッ子が会場を走り回ったことから始まって、なんやかんやで会場側が激怒。肝心の夜の部はマイクを使わせてもらえないという前代未聞のトラブルがあったにも関わらず、素晴らしいライブでした。芸人さんも戦ってるよ。つまんないプロレス惰性で見るんだったら、こっちの方がよっぽど〝戦い〟を見れると思ったね。あれぇ、ジャイ子ちょっとカッコいいこと言ったんじゃない？

でもさぁ、この日で珍と会ったのが最後だったんだけど、特に感慨深いとか、そういうの全然ないの。実はロクにしゃべったこともありませ～ん。ジャイジャイ。

（審査委員長・ハチミツ二郎さんからのお言葉）

なにっ？　幸田珍君辞めたんですか？　まだ始まってもいねぇよ。せっかくこないだウチのライヴで芸人としてデビューしたのに。コント自体はいいフォームで演じてましたよ。何故かおっぱいパブの形態模写でしたけど。最後は逃げるような形で辞めたんですか？　それはよくないなぁ。でも顔がおもしろいとゆうことでオールOK！です。

（司会・マキタスポーツさんからのお言葉）

幸田君とは付き合い長いですから彼との思い出は結構ありますよ。最初に出会ったのは、劇男「一世風靡」の時です。僕と珍君と中野英雄は遅刻トリオでしょっちゅう柳葉さんに叱られてました（笑）。それからこんなこともありました。僕と珍君の二人で、ホコテンの～（以下略）。

（ジャイ子・注）マキタさんはお年を召しているので、誰かと勘違いされてるのか、はたまたなにか患ってるのか、珍が経歴ごまかしてたのか、ジャイ子にはちょっと判断つきかねますのでご了承ください。

藤波の呪いが現実に!?
ギョ!! 幸田珍がケツまくった!!

本誌ポンコツ野郎

文・坂井ノブ

ボクがこの会社に入って早くも4年が過ぎた。その間、中村カタブツ君に始まり大西タマリンやらツネ・ザ・ナントカとかいう名前でプロレス原稿書いてる人など様々な人間を見てきた。「小説家になってやる」と書き置きして辞めてくヤツもいれば、「やめまする」と最後まで"不思議ちゃん"で辞めたヤツもいれば、電話でタマリン相手に朝まで号泣していつのまにか会社に来なくなったヤツもいた。でも、過ぎ去ってみればみんないい思い出だ。

というわけで、今回は3月末日を最後に辞めていった幸田珍。こいつだけは、いい思い出にはなりそうにない。実際、"思い出"などと呼べるモノなどは何もないのだ。「ああ、あのハゲね。暗い顔した」とか「バカだったね」とか、そんな"印象"でしかないのだ。この原稿も覚えているウチに書き残しておこうという程度のものでしかない。

まあいい。このバカ珍、本誌では「バカ」だの「ハゲ」だの「面白いのは顔だけ」だのとさんざんな言われようだったが、じつは国立大学の大学院で伊勢エビの研究（というか、エサをあげたり観察したり）までしていた『紙プロ』史上最高学歴を誇っていたのはあまり知られていないだろう。だが、就職したのは某スーパーの水産部。そこで毎日朝早くから魚をおろすこと2年半。パートのおばちゃんたちには、その下世話なギャグが受けてそこそこ人気者だったという。この辺からすでにバカの兆候は見え隠れしているのだが、まあ敢えて突っ込まずに読み進めて頂きたい。そんなウンコ的毎日（©竹本幹夫）に区切りをつけ、一念奮起して「もう死んだ魚の目は見たくない」と某スーパーを退職。勇んで上京してきたまでは良かったが、本誌での仕事をこなしていくうちに次第に自分が死んだ魚の目になっていくという見事なオチをつけてくれたまでは良かった。いま思えば、その時点で自分の才能のなさに気が付いていれば、もがき苦しむこともなかったのだろう。他の編集部の人間は「こいつは絶対才能がない」ということを1ヶ月しないうちに見破ったのだが、最後の最後まで本人はその現実が受け入れられなかったようだ。

そもそも読者ページを担当すれば、「つまんない」「ギョ！って言うな」「面白いのは顔だけ」などなど、見事な嫌われっぷりで大不評。不快なまでにドぎつい関西フレイバー（例・ヘルスから帰ってきて一言、「女、ババ濡れでしたワァ！」などなど）で、しゃべってる言葉の意味さえも理解不能。おまけに、読者ページの担当にもかかわらず、他のプロレス雑誌の読者ページなどは一切読まず、『title』や『BUBKA』など自分が好きな雑誌の読者ページばかりを読み漁り、挙げ句出してきた企画が『ゴング』の読者ページですでにやってる企画だったというダメっぷり。おまけに「小さい頃の『紙プロ』が好きでしたワァ！」とか言うわりには、隅から隅まで読み込んでいたわけでもなく、おまけに『RADICAL』になってからはほとんど読まずに入社してくるのだから、当然話についてこれるはずもない。というか、もっと言っちゃえば「プロレスとかウソ臭くて嫌いでしたワァ。やっぱ、空手の方が好きっスね！」などと言い出すほど、見事な"空手バカ"なのであった。単なる"空手が好きなバカ"って意味の"空手バカ"だけど。

辞め際もバカはバカなりに精一杯考えたのだろう。見事なバカっぷりであった。

前号で藤波のシャモジを持った途端、見事に風邪を引き、「藤波の呪い伝説」を証明してみせたところまでは見事だったが、どうやらその風邪が必要以上に珍を弱気にさせてしまったようだ。『PRIDE.13』の会場でも、体調悪いんだかやる気がないんだか（たぶんその両方）な態度。

サクがインフルエンザであそこまで凄い試合をやってのけたにも関わらず、珍は蚊の泣くような声で「……風邪ひいてダルいんですわ」と言うのが精一杯。『PRIDE』から数日経っても、シケたツラからドヨ〜ンとしたため息を吐き続けていたので、「辛いなら帰れよ、バカ！」「サクはあんなに頑張ったのに、なんでお前はそんなダメなんだ」さんざんな言われ方をして、トボトボと帰りかけたそのとき！　珍はボクに言った。

「今月いっぱいで辞めさせていただきたいんですわ。自分に才能ないこと気が付きましたわ！」気づくの遅せえよ、バカ！と全員が突っ込んだのは言うまでもないだろう。これが3月28日のことである。「今月いっぱい」って3月31日？　3日後？　ね、バカでしょ？

しかし、こうして珍の略歴を振り返ってみても、カタブツ君のような弾けたバカっぷりもないし、かわいげもないし、もう人間的にくすぶってるヤツは、結局原稿にしても面白くねえモンなんですね。あ〜、気分悪くなってきた！　というわけで、本誌は幸田珍のようなバカはもういりません！　下記の通りに人材を募集させていただきます。

2001年度 第1回新入社員募集

（株）ダブルクロスは下記の要項で新入社員を募集いたします。

❶『紙のプロレス』ホームページ作成スタッフ

【業務内容】紙のプロレスのＨＰ作成とＩＴ関係全般のお仕事です。
【資格】コンピューター関係に強くて出版とプロレス＆格闘技に興味のある方
【待遇】要相談。経験に応じて優遇します。
【学歴】不問
【年齢】35歳以下
来たれ、『紙のプロレス』をITで展開したいと思ってる熱のある人！

❷『紙のプロレスRADICAL』編集者

【業務内容】紙のプロレスおよび小社刊行物の編集
【資格】経験2年以上の編集者　要普通免許
【待遇】要相談。経験に応じて優遇します。
【学歴】不問
【年齢】35歳以下
来たれ、何でもいいから面白れェ本を作りてえと思っている人！

❸編集見習い

【業務内容】（株）ダブルクロスの雑用全般
【資格】プロレス＆格闘技に興味のある人　要普通免許
【待遇】要相談
【学歴】不問
【年齢】30歳以下の独身者
来たれ、打たれ強くて明るい人！

こういうバカは即不採用!

CAT FIGHT WORLD

第12回「ルール制キャットファイトの魅力」

バトルビデオ企画・制作担当　木根さん

ルール制キャットファイトとは？

女の子達が感情むき出しで本気でぶつかり合えるように、あえてルールを設けたのが“ルール制キャットファイト”である。今回はバトルビデオ企画・制作担当の木根さんが、その魅力について語ってくれました。

女の子達の本性が飛び出すルール制キャットファイト。怒った女は怖い！

——今回はルール無用のキャットファイト界に、ルールをもたらしたバトルだと聞きましたが？

木根　はい、そうです。あっ、でも、そもそもキャットファイトがルール無用ってことはないんですよ（苦笑）。

——えっ、そうなんですか？

木根　前回までで、色々お話した通り、様々なファイトがあるんですけど、やっぱりルールはあるんですよ。

——ふんふん。今回はじゃあ？

木根　今回のはですね、ルールを全面的に押し出したゲーム感覚のキャットファイトなんです。

——ゲーム感覚のキャットファイト……ってどういうことですか？

木根　よく、深夜番組なんかでグラビアアイドル達が相撲やったり、レスリングをやったりするじゃないですか？　あんなノリなんです。

——それは、つまり相手の靴下を剥ぎ取ったら勝ちとか、そんなルールがあるバトルなんですね？

木根　そうですそうです。

——じゃあ、終始お笑いが絶えないキャットファイトなんですね。

木根　それが、そうじゃないんです（笑）。逆に言うと、ルールがあるから女の子達が本気でぶつかり合えるんですよ。

——と、言いますと？

木根　やっぱり女の子は優しいですからね。ルール無用だと相手に遠慮してしまったり、加減をしてしまうんです。だから、我々がどんなに本気で取っ組み合いをしても怪我をしないようなルールを提供するんですよ。

——なるほどなるほど。じゃあ、ルールを設定することによって女の子達は用意されたリングの上で、思いっきり闘えると。

木根　そうです。そして、試合が進んで優劣が見えて来た時に女の子達の本性が飛び出すんですよ（笑）。

——ほ、本性……？

木根　もう凄い迫力ですよ。「あんたみたいなブスが私に勝てるはずがないじゃない！」とか（笑）。

——うっわ～……こ、怖い。

木根　そうやって口を開いちゃったら、もう後には引けないですし。言われた方も黙っているわけにはいかないじゃないですか？

——そうでしょうね。対戦相手にブスって言われちゃあ……。

木根　だから、女の子達はこれでもかってくらいに、ぶつかってくれますから。女性を怒らせると、こんなに怖いんだって一面が見られますよ（笑）。

——最近の女性は特に強いみたいですし……凄そう。

木根　もちろん、キャットファイトならではのお色気アクションもありますし、例えば、身体のスタイルを馬鹿にされた女の子が「じゃあ、あんたはどうなのさ!?」って服を脱がしたり、ブラを剥ぎ取ったりね。

——女子プロレスじゃ、そうはいかないもんなぁ（笑）。

木根　素人ならではですよ。吹っ切れた女の子ってのは……もうもう、とにかく凄いんです（笑）。

——ところで、そのゲーム感覚のキャットファイト、ルールはどんなものがあるんですか？

木根　土俵から相手の身体を押し出す押し相撲マッチ。相手の着ている物を全て剥ぎ取ってしまうパンツ剥ぎ取りマッチ。相手の両肩をマットに5秒間押し付けるピンフォールマッチ等ですね。

——パ、パンツ剥ぎ取りマッチですか!?

木根　女の子が本気になるわけでしょう？

——そんなルールは、バトルならではですね！（笑）。

木根　はい、これからも宜しくお願いします（笑）。

今月のオススメビデオです!!

ゲームバトル1

さやかvsちか

ちょっとロリ系のさやかちゃんとちかちゃんの対決。腕相撲で勝った方がコスチュームを選び、そこから女の熱い闘いがスタート。ルールは押し相撲マッチ、パンツ剥ぎ取りマッチ、ピンホールマッチの三種類。（45分・￥8000）

ゲームバトル4

ゆうかvsかずみ

バスト90の巨乳ファイターゆうかちゃんと165センチの長身セクシー系かずきちゃんのゲームバトル。腕相撲、押し相撲と感情むき出しファイトの連続。もちろん男性必見のパンツ剥ぎ取りマッチも収録！（45分・￥8000）

国不手際日記★その1

れや、死ぬまで!

わたくしチョロは前号で8ページも原稿を落とすという前代未聞の失態をお見せしてしまい、『紙プロ』を御購入された読者の皆様には本当にご迷惑をおかけしてしまいました。何度謝っても謝り足りないのは重々承知しておりますが、本当に本当に申し訳ありませんでした。読者からも当然のように「金返せ、コラッ!」「ふざけるな!」「チョロは死んで下さい」「落とすにしても芸がない」といった、ごもっともな意見から、「お前、ホント最低だな。もうチンチン切り落とすしかないよォォォ!」と葛飾にお住まいの落武者さんからの意味不明なお叱りまで、全て深く受けとめ心から反省しております。今後はこのような失態はもう二度と致しません!(当たり前)。本誌鬼畜編集長・山口日昇からは「取材費50万以上かかってんだから、原稿落とした分、死ぬまで連載続けろ、ボケッ!」との言葉を頂きましたので、ブーイングは承知で、今号から死ぬまで『チョロの米国不手際日記』を続けさせてもらいます!

俺もやっぱり死なねばダメか?

前号が発売されると同時に「チョロのバカ!」「ふざけるな!」「金返せ!」「ご愁傷様、チ〜ン!」といった、怒濤の電話&ハガキ攻勢を食らい、俺の目はみるみる死んだ魚のようになっていった。

今回の不手際により、もう二度とロス(っていうか海外)へ取材に行くことはないだろう。もし行くことがあったとしたら、それは本物の乞食になる時だ。それじゃあ、行きますかーッ!(かなり強引に)。

●

すべては、本誌鬼畜編集長・山口日昇のこの一言から始まった。

「チョロ、お前、来週のUFCとキング・オブ・ザ・ケージ、取材しに行って来いよ」

その言葉を聞いた俺は、思わず「ギョ!」と、今は亡き幸田珍のようなリアクションを取ってしまった。普通、アメリカ取材に行かせてもらえると聞いたら「ヒャッホーーーー!」と辻アナみたいに、はしゃぐのが当然の姿だろう。

しかし、俺が取ったリアクションは「ヒャッホー!」ではなく、あくまでも「ギョ!」だったのだ。言い訳をするつもりは毛頭ないが、いま思えば、それが原稿を落とした要因だったような気がしてならない。

もちろん、UFC初見参の宇野選手のタイトルマッチは見たいし、日本人が大挙出場のキング・オブ・ザ・ケージもナマで見たい。それなのになんで、「ギョ!」だったのかというと、すべて俺が貧乏なのが原因。一応、会社の名誉のために言っておくけど、別に給料が安いっていうわけではない。

俺が貧乏なのは、全部自分の責任。まあ安田選手に比べれば、俺の借金なんて握りっ屁にもならないだろうけど。プー。

さらに言わせてもらえば、俺は免許もない、パスポートない、もちろん、お金もあるわきゃないといった「おら東京さ行ぐだ」状態なのだ。

さすがに、人間失格の俺でも、パスポート取得に金が掛かるのは知ってるし、日本で日常生活を営むのも困難な金銭状況で、初の海外、それもUFC、KOTCの両大会ともカジノクラブで開催と聞けば目の前が真っ暗になるってもんだ。

「誰かに金借りりゃあいいじゃねえか」っていう声も聞こえてきそうだが、そんなもん借りられるんだったらとっくに借りてるっちゅーねん! まあカードでも持ってれば話は違うんだろうけど、カードはカードでも、財布の中には、武富士、アコム、アイフル、アルコといった、深夜のプロレス中継のスポンサーになってるようなものばかり。いかりや長介でなくても「ダメだこりゃ」と思うはずだ。親にも、もう金は借りられないし、会社に「海外での生活費、貸して下さい」なんて、高校生みたいなこと言えるはずもなく、とにかく、ひとりでひたすらブルーになっていた。

まあ会社としても、お遊びで「アメリカ行ってこい」って言ってるわけじゃないし、「これは仕事なんだから、いくら悩んだところで何もはじまらない。行くしかない」と自分に言い聞かせ腹を括った。

前号では8ページも原稿を落としてしまい
本当に、本当に申し訳ありませんでした

当然、取材だから旅費は出るわけだし、もしアメリカで食うのに困ったら、それこそホームレスにでもなればネタにもなるし、それもいっかと納得。会長(山口日昇のアダ名)に「行かせてもらいますけど、パスポート持ってないんですよ」と伝えた。すると、すかさず、

「いい年して、パスポートぐらい取っとけよ! お前、ホントに社会人失格だな」

ギョ! 確かに、来年三十路になるというのにパスポートのひとつも持ってないというのは社会人失格と言われても仕方ない。

「急いで取ってこいよ! まだギリギリ間に合うだろ」

アメリカ行きの話を聞いたのが出発の10日前。調べてみると、なんとかギリギリ間に合うものの、パスポート取得のために、なんと一万円も掛かるという。残り少なくなったレコードを泣く泣く売って、どうにかパスポート代を捻出。安田選手のように『PRIDE』に出て一発バクチでも打てれば話は違うが、いかんせん俺は、ただの小男キャットファイター。そんなドリームなステージは誰も用意しちゃくれない。

問題のパスポートも、なんとか出

裕はないが、苦笑いを浮かべながら

ら、アメリカの地理は、ほとんどブ

不穏な空気を察知し、黒田さんに

春の弱火新連載!!

“人間失格”チョロの米国

発前日（！）に手に入れ、慌てて海外支度を始めた。そしたら、ボロアパートから、出てくる出てくる請求書の山！ モチのロン、支払期日はとっくに過ぎてるものばかり。そこで、ふと思い出したのはパンクラスの高橋選手。俺のあやふやな記憶だと、確かイズマイウに勝った時、オクタゴンに入るってことは、日本に戻って来られない可能性もあるから、親に見られたら恥ずかしい公共料金の請求書を全部アメリカに持って行っただか、捨てたかしたという話だ。手にした請求書をギュッと握りしめ「同じUFCに向かう男として俺も持っていくぞ！」と、誰も得しないような弱火な決意をし、バックの中に請求書をねじ込んだ。

そうこうしているうちに、出発の時を迎えてしまった。成田空港に到着し、勇気を出して初めての出国手続き。見よう見まねながら無事完了し、ホッとしていると、「保険は入らなくて大丈夫ですか?」と、意味もなくナイスバディな保険屋さん。もちろん、そんなの入る余裕はないが、苦笑いを浮かべながらキョロキョロと周りをリサーチ。どうやら保険に入るのは日本の常識のようで、しかたなく「一番安いヤツでお願いします」と、7千円コースを選択。年金とか保険のたぐいは一切払ったことのない俺にとって、7千円は痛すぎる。オクタゴンにたどり着く前からKO寸前の大ダメージを受けてしまった気分である。

そこへ、今回のアメリカ取材の同行者、カメラマンの黒田さんが登場。黒田さんは長いことアメリカに住んでいたこともあり、安田選手並の英語力の俺にとって神様のような存在。まさに、黒田最高ーッ！ さらに今回、UFC事情に詳しいUさん（最近の『フライデー』ではAさんとなっていたが）から出発直前に「私の友達もUFC見に行くんですけど、たぶんチョロさんが乗る飛行機と時間が同じだと思うんで、もし良かったらアメリカまで一緒に行ってあげてもらえません？ 綺麗な人だから（ウフッ）」との電話が。「綺麗な人」という一言に、飛行機の時間も調べず「こちらこそ、お願いします！」と即答。たまたまホントに同じ飛行機だったため成田で合流。これがまた非常に美しい人だったのですっかりウキウキ&ウォッチング。即席の成田会見（質問攻め）も終え、仲良くアトランタ行きの飛行機に乗り込んだ。

「アトランタといえば、永田選手が名付け親のオバケジムがあったところだよなぁ、フィラデルフィアはCZWの本拠地だし、デルフィンアリーナは大阪かぁ」などと思いながら、アメリカの地理は、ほとんどプロレスでインプットされている自分がちょっぴり恥ずかしくなったり、初めての機内食が予想以上にうまくて感動したり、ドリンクサービスでアルコールも頼めるのに、お金を取られると思って注文できず飲みたくもないコーラを飲んだり、桜庭選手も言ってたけど、飛行機ってヤツはどうしてこうも寝にくいんだ。「ケツが痛くてしょうがねえ」とブツブツ文句を言ってるうちにアトランタに到着。

しかし、まだまだ油断はできない。なぜなら、今回のUFCの会場に行くには、そこからフィラデルフィアを経由して、アトランティックシティーまで行かなければならないのだ。俺はアトランタ空港で喫煙所を発見し、久しぶりの一服で、すっかり気が緩んでしまったのが不幸の始まりだった。

なにげに空港カウンターを見ると行列ができているのに気付いた。しかも、みんなの表情は怒りの獣神。不穏な空気を察知し、黒田さんに話を聞いてもらうと、オーマイガッ！ どうやら雪のせいで、フィラデルフィア行きの飛行機が欠航になったというのだ。

それでも、大会前日に現地入りという日程だったので安心しきっていたのだが、ここ何日かフィラデルフィア近辺は大雪らしく、さらには近くにいたカントリーのおじさんの「この分じゃ明日も飛ばねえよ！」との話が耳に飛び込んできてから、さあ大変！ ギョ！（しつこい）っと一気に血の気が引いていくのを感じた。海外まで行っておきながら「試合は見れませんでした」なんてシャレにもならない。感動させてよ――。

※というわけで、第1回目の「チョロの米国不手際日記」はここまで。次号では、マット界を揺るがす衝撃の新事実を『紙プロ』読者だけに大公開！ えっ、あの●●選手が●●が原因で●●になった……。

〈以下次号〉

チョロの外人発掘列伝

コイツはやると思ってた! 見事、アブダビ優勝!!

Vol.1 マーク・ロビンソン

米国取材は不手際だらけだったのは認める。しかし「コイツはくる！」と思う選手には、ちゃんとツバを付けてきた。その代表例がマーク・ロビンソン関。俺と同じくUFCではダメだったが、見事、アブダビ優勝！ 俺も続くぞ。

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

紙のプロレス RADICAL

NO.1～NO.4/NO.6
NO.8/NO.9/NO.18
NO.22/NO.27は、完売!!!!

『紙プロ』を見て女にモテろ!!（逆でもよし!）

モデル／「チヤホヤはされるんだけど最後までいけないですから」と、最近ボヤき気味の杉作J太郎さん

No.5★徹底検証! 高田延彦×ヒクソン戦直前大特集号
ドン荒川&藤原組長／前田日明／柳澤龍志／ディック東郷／サスケ／佐山聡

No.7★田村潔司、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健悟／サスケ／前田日明／冨宅飛駈／垣原賢人／モハメドヨネ／冬木弘道

完売御礼

No.9★アントニオ猪木・闘魂連鎖! 無礼講大特集!!号!
前田日明／高田文夫／春一番／石川雄規!／TKロングインタビュー／谷津嘉章

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本

No.11★衝撃対談第二弾! 高田延彦vsエンセン井上
前田日明／佐山聡／福田雅一／ザ・グレート・カブキ／アポロ菅原／石川雄規

No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号!
浅草キッド／アポロ菅原／サク／アレク／前田日明／菊田早苗／八木淳子

No.13★アレクサンダー大塚、『PRIDE.4』で大ブレイク記念号
高田延彦／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘

完売間近

No.14★世紀の大一番!前田日明×カレリン戦大決定記念号
山本美憂・聖子／金原弘光／高田延彦／サク／村上一成／宇野薫／小路晃

No.15★小川直也、橋本を破壊! 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき

No.16★猪木! 前田! エンセン! ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／コールマン／語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO襲撃三昧! オーちゃん大特集号!
桜庭和志／高田延彦／アントン／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／T・山本

No.19★ケアー戦直前! いま一度高田延彦に大注目号!
小川直也／前田日明／ドン荒川／エンセン井上／上田馬之助／「世界のプロレス」

完売間近

No.20★小川直也特集! 人間UFO咆哮三昧号
前田日明／アレク／高田延彦／語ろう藤波辰爾／小路晃&宇野薫／内藤恒仁

No.21★小川直也、橋本を返り討ち! 恐怖のプロレス大魔王降臨号
大仁田厚／前田日明／鶴見五郎／桜庭和志／CIMA／田中健一／平直行

No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦／大仁田VSエンセン／前田日明／ヒクソン・グレイシー／ヘンゾ

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介

No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前! やっちゃてくれサク!
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!前田日明&田村潔司／小川直也／大仁田厚

No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史

No.29★「格闘環境」は激化する! ノア勢『紙プロ』にフル登場!
秋山準／三沢光晴／丸藤正道&金丸義信／桜庭和志／仲野信市／里村明衣子

No.30★『PRIDE.10』直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
村上一成／小川直也／石沢常光／「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り／高阪剛

No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／サク&TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司

No.32★リングスvs新日! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村

No.33★リングス、『PRIDE』、猪木祭り、世紀末イベント大検証号
小川直也／橋本真也／谷津嘉章／ミスター・ヒト／山本宜久／前田日明

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり! 特大号
小川直也／高田延彦／「紙プロ大賞2000」発表!／金原弘光／ヴォルク・ハン

No.35★「純プロレス」を考え倒せ!「純プロレス」徹底検証号
橋本真也／大仁田厚／馳浩／杉浦貴／ジョー樋口／リングスKOK大特集

No.36★面白きなきを面白く! 純プロレス復興記念号
橋本真也／三沢光晴／高山善廣／前田日明／桜庭和志／金原弘光／鍋野ゆき江

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込みは郵便振替でお願いします（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）

●用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130－3－769154（株）ダブルクロスまで。代金は、NO.5～NO.10=680円 NO.11～NO.19=780円 NO.21、NO.24～NO.32、NO.35=840円 NO.20、NO.22～NO.23、NO.33、NO.34=880円 NO.36=800円 送料1冊=310円 2冊=380円 3冊～4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円 ※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●「紙のプロレスRADICAL」バックナンバー常備のえらい店
アイドール新宿店、新宿ファイター、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、書泉ブックマート、書泉ブックタワー、書泉グランデ、横浜"AO"CORNER、ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）、グレート・アントニオ

春です!!　次回、ラーメン王に何者かが襲いかかる!!!

APRIL.2001

★今号のラインナップ★

- ●花くまゆうさく『リングの汁RADICAL』
- ●掟ポルシェ(ロマンポルシェ。)『業☆勝ちます』
- ●イナズマ★K『最狂プロレスファン列伝 LOW-IQ-ICHIさん』
- ●大坪ケムタ『エロ・サムライ』
- ●ラーメン王・石神秀幸『闘魂たべある記』
- ●武田いつみ『ディスカバー・シンニホン』
- ●真下純子『ひりきな奥さん』

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

スーパーコラム BEST OF THE

今年の全日本コンバットレスリング大会。佐藤ルミナと同じ階級に〝足関十段〟今成正和が出場と知れば行くしかないでしょ！ バレットも出るみたいだしね。

バレットはいきなり判定で負けてギャラリーしょんぼり。それにしても相手の小島直人はなつかしい。修斗に全日本体術連盟が参戦し、ピリピリしてたあの頃はもう遥か昔か。

思いどおりにルミナと今成で決勝、それもレフェリーは植松直哉でマット上には足関スペシャリスト3人衆勢揃い、役者はそろった！ 足関の取り合いにルミナが乗ってくれれば今成が勝つ！と思ってたので凄えドキドキして見てたこのカード。しかしルミナは足関にこだわらずオールラウンドに幅広く攻めて完勝でさすが。アブダビ出てほしかったね。でも修斗で、三島☆ド根性ノ助、五味隆典、マーシオ・クロマド、ディン・トーマス、ライアン・ボウなど誰と当っても面白いからそっちの実現を期待。

辻や柴田の口から「バーリ・トゥード」って言葉聞きたくないよね &菊田選手アブダビ優勝凄え！ おめでとうございます

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

今成もいいよね。アブダビ出てほしかったなあ〜。まだそんなに顔が売れてない今ならノーマークで相手も警戒せず、大物を足関で食うチャンスだったんじゃないのかな。来年はたのむぞ、王子。

そのアブダビだけど、今年もメニュー（出場メンバー）見ただけでもうお腹いっぱいだよ、王子！ よくそんなに注文できるな、この食いしんぼう！ 格闘技バイキングだよ、皿に盛りすぎ！ デザートに谷津まで盛ってるよ、腹こわすなよ！

「ラーメンうまい店特集」とかそんな本見て舌なめずりするのや、食いほうだいの店に行く時のワクワク感と、アブダビメンバー表を見てニヤつくのって、なんか似てるよね。んで実際店に行くと、そうでもなかった……なんてとこも似てる。今号が出る頃にはとっくにアブダビコンバット終わってんだろうけど、どうなっちゃってるんだろうか。とにかく、植松・ヤノタク・高阪とこの3人が出場するだけで満足だ、ありがとう王子。いまは大会前なのでワクワクしてますよ。

そのアブダビ王子、開口一番日本人に爆弾要求！『PRIDE』のルールを元に戻してください！

そんで『プライド13』。とにかくアタマにきたのは橋本！ なんの後ろめたさもなく呑気にリング上がっちゃったけど、いいのかみんなは!? ちゃんと試合するのならもちろん全然OKだけどさ、ありゃないんじゃないの？ 例えばあれが健介だったら、それでもみんな盛り上がるのか？ 健介が試合しにくんのならもちろんOKだけどね。

橋本に足りないのは、「ここ数年で失った強さのリアリティ」と「デコトラで入場」（これは俺個人の希望）だって本人は判ってないのだろうか。ゼロワンが盛り上がろうが、それは小川や三沢であって橋本じゃないんだよ。

WWFの会場にデニス・ホッパーが!! ずいぶんやせた…

「リングス会場に勝新」以来のオドロキ大物だ。

「強さのリアリティ」がないと何の説得力もないからいまいちなんだよ、日本だとさ。WWFは「度を超えたファンタジー」だから面白いんだけど日本じゃあそこまでできないんだから、「強さのリアリティを持った者達のファンタジー」で勝負するしかないんじゃないのかな。もしも橋本に「強さのリアリティ」がバリバリ発光してたらさ、いま橋本がやってることや言ってることはスゲエ面白く感じるはずだと思うよ。新日だって、健介とかに「強さのリアリティ」がバリバリあったらだいぶ印象違うよ、きっと。小川に潰されて失った「強さのリアリティ」は、グットリッジとのプロレスや虚勢を張った発言じゃ取り戻せないよ、もうそんな時代じゃないの！ せめて今回の安田みたく『プライド』で試合してほしいよ、あんな風に『プライド』のリングに上がったんならさ。

自力で桜庭戦までたどり着きゴールも極めたシウバは凄いね。試合前からなにかを発光してたね、あの目つき。そんなシウバのメンチに目を合わさない桜庭もかなり燃えてるなと思いつつ、赤井英和の話を思い出した。爆走連勝中でガンガン勝ってる時の赤井はゴング前のリング中央の時、けっして相手と目を合わせなかったそうだ。それが大和田戦ではなぜかゴング前にバリバリ異常に睨み付けた、そしたらあのような結果に……とそんな話を昔テレビで見たような気がする。だから、ギラギラした目で入れ込みすぎのシウバに対し目を合わせない桜庭が冷静に燃えてるように見え、これはやっぱ桜庭がさっさと寝技に持っていきあっさり勝つなと思ったんだけど、あんなに打撃でやりあうとは意外も意外。でも再戦したら今度こそ桜庭があっさり勝つと思う。

そんでコールマン戦でのアラン・ゴエス。あのはじめのムーヴ（ライダーキック＆カポエラ）は、2年前のコンプリートファイティングに出場した時の矢野卓見のムーヴそのまんまだ。完全コピーだよ、ゴエスが矢野さんをパクッたのか!? んなことあないか（コージー富田風に）。

はなくま・ゆうさく■アマコンテンターズで勝利。はじめてリングで試合して感激――

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

祟☆勝ち申す

『シウバの対戦相手は？』の巻

BEST OF THE スタコラム

シウバが真の意味で「プロレスラーの敵」となるには藤波を鼻血大流血させるべし！

桜庭が負けた。いつかは負けるが日来るとそりゃあ誰もが思っていただろう。つーか、問題は相手だ。ヴァンダレイ・シウバってナニよ!? グレイシーという名の熱闘甲子園。桜庭は延長6回という大激戦や真夏の猛暑のなかで死闘を繰り広げ、時にルールに難クセをつけられたりもしながら、全て勝ち進みドラマを生み出して来た。残るは決勝、ヒクソン学園を倒すのみ…と思っていたら決勝の前に3位決定戦をやっておくことになったという。甲子園ストリーには関係ないが、明訓が出てこないと『ドカベン』にならないように、今や桜庭が出ないとプライドが成立しない。まあ、しょうがねぇからやっとくかとストリーに関係のない試合をしてみたところ、コールドゲームでボロ負け。何かまるで明訓が犬飼兄弟相手に激戦をくりひろげた後でブルートレイン学園にアッサリ負けたような「負けるにしてもそいつはねぇだろ」な展開。ヤケ酒すら飲めない非常に困った敗戦に、男ヤモメが蛆虫さんざん沸かせながらプロレス談義する試合後の飲みもいつもと違って明らかに不完全燃焼。誰からともなく「山の手線ゲームでもする？」とか言い出しかねないしょうもさなに満ち溢れた夜だった。

しかしそれにしても、何故あそこまでヴァンダレイ・シウバに俺達は感情移入できないのか？ 対桜庭戦を前にしてサクの写真をビリビリに破いてみてもなんか「森下社長がやれっていったから感」が拭えなかったシウバ。江夏や衣笠、田上や田中将斗などと同じラインの最高の男前ヅラで、俺の美的感覚にもバッチリ来る野生丸出しなルックス。なのにどうして両手を挙げて賛美したり、親の仇のように憎んだりのどちらでもできないのは何故か？

シウバは桜庭戦を前にして「俺はブラジルの威信にかけて桜庭を倒す！」と語っていたが「ブラジリアン」と聞くと「柔術」と連想してしまう単純な俺からすれば、どちらかと言うとムエタイを基調としたストライカーの印象が強いシウバに「ブラジルの総意」としての雪辱を見ることは出来ないんである。高田や船木の雪辱に数見肇が出て行って一本勝ちしてしまうような「それはちょっと違う…」な印象と同じなんではないのかと。柔術家でもあるシウバにたいして妙な言い掛かりつけてるようにしか聞こえないかもしれないが、高田や船木やヤマヨシや木村浩一郎をアッサリと激破した来たあの柔術家とはかけはなれすぎているがために、シウバはプロレスラーの対立概念たり得ない憎しみきれないいろくでなしなのである。つまり、今回の桜庭戦になにか言いようのない納得のいかなさを感じる俺、あるいは君は自分が「プロレスファン」であるということをイヤというほど思い知らされているだけなんじゃないかと思う。

では、プロレスファンが今後のシウバの試合に興味を持ち、ある種のドラマ性を感じるようにするにはどうすればいいのか？ それは当然、シウバが「いかにも」なプロレスラー然としたプロレスラーをボコボコにして勝ち続けてくれるだけで十分。

大流血のドラゴンをシウバはおかまいなしに殴り続ける!! 見てぇ!!

ということで次回の『PRIDE.14』、シウバの対戦相手は川田利明に決定！ 試合前の舌戦ではいつも通りの川田節（「別にやりたくてやってるんじゃない」「シウバ？ ジュニアなら渕さんとやってよ」）でシウバを心底イラつかせ、試合前の視殺戦ではバリバリにガンたれるシウバに一切目線を合わせないフットルースが見もの。そしてゴングが鳴るやシウバがたまった怒りを一気に放出するかにようにデンジャラスKを一方的にボッコボコにするが、特別レフェリーが何故かジョー樋口だったために開始早々失神しており誰も止められない!! 金龍飛のチョムチョムばりに棒立ちになり（自分の身が）デンジャラスKな川田を見せつけられればプロレスファンは燃えずにいらないはず！ そして続く『PRIDE.15』ではついにキング・オブ・スポーツの新日から後ろ髪Kこと佐々木健介が参戦！ 「シウバ、チャンピオンベルト獲られちゃてスマン！ IWGP王者ない俺だけどやってくれるか？」と消極的な対戦要求でまたしても逆ヒートアップ！ 当然シウバは対戦を却下するだろうが、それを見透かしたように一部クラスマガジンが「シウバ逃げる気か！」とアオればシウバのヒール度も上がっていくのでOKだ。試合はラリアットと逆一本背負いしか狙わない健介に対し、ヒットアンドアウェイのシウバという異種格闘技戦らしい好勝負になるだろう。なんぼボコボコにされても辻アナの「止めるのが早すぎますよねぇ柴田さん！」が聞ければ大成功だ。そして『PRIDE.16』ではプロレスラー界の期待を一身に背負って「最もプロレスラーらしいプロレスラー」こと、あのNEW WAVEパーマ社長が対戦!! vs橋本戦のような鼻血大流血が見られれば相手のシウバも輝くってものですよ!! これでシウバも『プロレスラーの敵』という代名詞が出来上がって少しは人気もでるとは思うが、どうですかねぇ森下社長？ 桜庭と再戦させるのはそれからでも遅くはないと思うが、『PRIDE.16』以降、シウバが突如謎の体調不良を訴えたりして（もちろん原因は藤◯の呪術）…。呪われたら怖いんで今月はこの辺でヤメときます。

おきて・ぽるしぇ■藤波をマジギレさせたアントン、本当に大丈夫か？ 俺の予想では小川Xタイソン戦実現↓思いっきり斑入り不入りでアントンが多額の借金を再びかかえこむことになるんじゃないのかと。「触らぬドラゴンに祟り」なし。俺も気をつけまーす

実録 最狂プロレスファン列伝

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

構成／イナズマ★K

PROFILE

No.13 音楽とプロレスの人間橋
LOW−IQ−ICHI
（ろー・あいきゅう・いち）

SUPER STUPIDでデビュー、現在はソロ活動中。アルバム『MASTERLOW』は発売後1年半も経つが今だに熱いぞ。4月からviewsicで番組もスタート。新作は秋？そんな彼はまさに音楽とファッションと格闘技を結ぶ、今の空気を体現する代表者の一人と言って良い。「ルミナくんマッハくん、謙吾ちゃんとか、DEVILOCKのイベントとかで知り合って。99年修斗のバリ・ジャバ後にDEVILOCK NIGHTがあって、リング上で最後バク中しました。小学生の時からブリッジして人乗っけたり、運動神経の良さはそこで付けた（笑）。今のステージングに繋がってるかも。あと入場テーマが凄い好きで。やっぱりスピニング・トーホールド！ ライブのオープニングでも使ってましたよ」

ストリート系のファッション誌の表紙を飾る等、多くのキッズの支持を集めるLOW−IQ−ICHIがファン列伝登場だ。修斗選手と交流もある格闘技好きの原点は、プロレスだった。

「僕の三大ショックは、ロック、プロレス、ジャッキー・チェンなんです。小学生の頃はもう凄かったですね。タイガーマスクが出てくる前、NWA全盛期のハーリー・レイス、ホーガン前のハンセンが新日で猪木と良い感じの頃。バックランドとかの時代です」

新日・全日両方たまに国際、タイガーマスク登場の衝撃と、まさしくプロレス黄金期にバッチリハマったICHIクン。

「やっぱ新日、もちろん猪木イズムですよ。小学生の時の愛読書は東スポとファイト。ファイトは祐天寺に売ってなかったから渋谷まで買いに行ってましたね」当時の好きだったレスラーはシブいぞ！

「重戦車ダスティー・ローデス！ 太ってるし見た目は良くないけど、何か魅力的だったな。スター性があった。今のアメリカンプロレスの原点ぽいよね。テリー・ファンクとか一番の頃のホーガンも好きだし。ザッツメモリアルアルバムはほとんど集めてたなー」

家のそばの田園コロシアムでの試合は欠かさず観戦。チビッコらしく選手のサインが欲しくてたまらなかったそうだ。

「友達が楽屋に入ってっちゃって『大変だ、藤波にサインもらったよ！』。お前ずるいって皆で行こうとしたら、坂口征二に入っちゃダメって（笑）。そこで普通サインもらうけど、坂口には言わなかった（笑）。横にいた上半身裸のゴッチを『神様だ〜！』って見てました（笑）。有名な選手のサインもらえないから、誰がこれから強くなりそうか予想して若手行ったんです。で、オレがもらったのが平田選手（笑）。当時、身体デカくて良かったんだけど、しばらくマシーンだったし平田として出てなかったから今イチありがたみが……（笑）」

そして遠足へ行く時に、青山で新日本プロレスの看板を発見。翌日友達と見に行き、中へ入ろうとしたら、やっぱり怒られた。

「『お父さんの働いてるとこにいったらダメだろ。それと一緒。レスラーも来てないから』ってポスターもらって帰りました。そしたら中に新間寿が見えた（笑）」

小学校の卒業アルバムには『夢はレスラー。でもレスラーには身体小さいからプロレスの記者になりたい』と、まさにチビッコ・ファイト読者の正しき夢である。

「毎日プロレスが見れればこんな幸せなことはないと思ってましたからね。区の施設でマットひいてプロレスやってましたよ。ジャーマンもちゃんとできた。でもあの時代のプロレス好きで良かった。本気でかけてたから、今の技はヤバいでしょ」

そんな彼も、軍団抗争が激しくなり多極化が始まると徐々にプロレスから離れて行った。

「プロレスが変わってっちゃったからね。今はパーリ・トゥードとかがバッチリですね。でも見方がプロレス的な流れから入ってる。プロレスもリングスも見たり。ヴォルグ・ハン好きだったなあ。当時関節の革命だったから。今だったらグレイシーなんだろうけど。寝技とか今のヴァーリトゥードに至ったのもプロレスを見てたおかげです」

さて最近のお気に入り選手といえば？

「やっぱオーちゃんが一番好き。何か面白い先輩っぽい。バラエティの面白さと、あの変わり具合も。新日だったらは永田選手！」

それでは、彼が音楽をやるにあたって、格闘技とどう繋がっているのだろう。

「エンターテイメント性は同じ。見せることも実力の一つだから。凄いって思うじゃない。それとライヴ前にやるぞ！か緊張のどっちかで顔パンパン張ったりしますもん。レスラーがやるのがどこかに頭にあるのかもなあ」

さて男なら誰もが憧れるチャンピオンベルト。ICHIクンだってベルトのとりこだ。

「NWAのチャンピオンベルトが一番好きだった。昔自分で作りましたよ。今度は、ロックで使いたいなと思ってるんですよ。チャンピオンベルトって言葉を使って曲にしたいなっていうのはありますね」

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

vol.4 DDT売り子純情派の巻

海賊チャンネルで言えばティッシュタイム的紙プロ内肉色紅一点の当コーナー、今回はDDT専属カリスマ風俗嬢売り子ユニット・ノーブラーの祐天寺うらんちゃん。「うらん組」組長として慕われる人気風俗嬢であり、モデル・イラストレーターとしても活躍中と多才な彼女。しかし地方興行の花束嬢のような、プロレスを知らない女のコの単なるお遊びと思ったら大間違いなのだ。

「小さい時はキライだったんですけど、中2の時に全日をテレビで見て『なんて面白いんだ！』ってハマっちゃったんですよ。何度も見ようとお年玉でテレビとビデオ買ったくらいだから。それでどうしても『全日のレスラーになりたい』と思って」

と超世代軍の三沢に恋狂いだった中学生時代。しかし母親の反対に遭い、結局「一度入学したらすぐヤメてもいいから」という条件付きで高校に行くことに。

「それで馬場さんに『全日に入りたい』って手紙出したんです。そしたら和田京平さんから手紙が来て、直筆で優しく『女の子は女子の団体に問い合わせてください。全日は女の子はダメですよ』って（笑）。じゃあ女子プロかと。でもそのころ学校で暗くて全然喋れなかったんだけど、男の子の方がまだ平気だったんですよ。だから次はFMWだと、今度は大仁田さんに手紙を（笑）」

プロレス観戦歴2年足らずでこの行動力！ しかし馬場・大仁田に入門を直訴した女子は世界唯一だよなぁ。

「でもすぐ返事が来なかったからJWPに応募したら、こっちはすぐ返事が来て即テストで合格しちゃったんです。断っちゃったけど、FMWからも遅れて荒井さん直筆で返事も来たんですけどね。でも入団したものの自閉気味で挨拶も出来ないから、やる気ないって言われて。練習は楽しいし、内なる闘志は秘めてたんですけどね。でも人に触れないんですよ、悪くて（笑）。でもよく考えたら、触れないと試合できないなと気づいて（笑）ヤメてしまいました。DDTで山本さんに会った時、『お前はちゃんとやめるって言ってやめたなぁ』って覚えてくれてたんですけどね」

というワケで3ヶ月の練習生生活を致命的欠点により断念し、その後フリーター生活ののち19歳で風俗業界入り。しかし昨年、プッツリ切れていたプロレスとの糸が突如復活する。

「去年の夏頃、飲み屋でバイトしてたらそこに高木（三四郎）さんや（タノムサク）鳥羽さんが来てくれるようになったんです。それで『クラブアフター』がDDTのコーナーを連載してて、その頃会場で販売してたから売り子ならタダで入れると聞いたんです。それでグループとか作るの好きなんで、相方のぼぼたんと二人でじゃあ売り子ユニット・ノーブラーだ！ と」

最初は反応が薄かった休憩中のグッズインフォメーションも徐々に定着。しかも最近ではグッズ販売だけでなく、試合前のリング設営から加わっているのだ。

「DDTの中で自分の位置をもらうためには何かしないと！ と。今まではゲストっぽいから仕事も振られないし、スタッフでもお客さんでもないちゅうぶらりん状態。どうせ行くなら仲間になった方が楽しいじゃないですか。それでお手伝いを始めて。位置が出来たなぁって感じでちょっと最近嬉しいんですよ」

おぉなんと甲斐甲斐しい！ では最後にプロレスと風俗の共通点といえば？

「どっちも作ってるものだけど、汗かいたりとか痛いとか気持ちいいとかはホントのものじゃないですか。演出とか見せたりとかして、誰かがその中にホントの部分を見て感動したりするところがどっちも好きなんですよ」

しかしうらんちゃん、最近自分のポジションに違和感も感じるという。

「キャーとかカワイイとか声援もらうのは嬉しいんですけど、『いやー、この声援じゃないんだよなぁ』とたまに思うんですよね。ウォーとかスゲェ！とかプロレスラーにかけるような声援が欲しいなぁと」

嗚呼さすが元プロレスラーの血、25歳定年制が破れた今なら24歳デビューもありだろ！

おおつぼ・けむた■現在発売中の『デラべっぴん』（英知出版）で「エロライターの1日」を追われてます。地味な生活ですよ、ホントに。

うらんちゃん&ノーブラーHP「裏うらん」は http://www.uran.org/でファイアー！

ラーメン王・石神秀幸の

闘魂★たべある記

VOL.3 『宮戸優光とゆかりの深い"麺厨房"』

全国に3万軒以上あるといわれるラーメン屋の中で、プロレスマニアが経営する店は1割を超える（と思う）。その謎に包まれた実体を探るべく企画されたこの連載だが、何故か新日マニアの店ばかり。いくら全日が分裂したとはいえ、新日がナスダックに上場予定といったって、いるでしょう？　NOAHファン、FMWファン！　やっとの思いで見つけたのが今年の二月に出来たばかりで情報も希薄な新店。U系レスラーと関わりがあるらしいが・・・？

店長さんも心なしかUっぽいただずまい。

「桜庭和志や高山善廣がやって来るラーメン屋がある」そんな情報が入ったのは奇しくもサクがシウバに衝撃のTKOを喫した翌日。居酒屋「舌心」に続く高田延彦サイドビジネス計画の第二弾か？　店のある狛江は東京でも指折りの地味な市だったが、前市長がバカラ賭博で多額の借金を抱え失踪し、一躍脚光を浴びた。そんな荒波にもまれた狛江市役所の隣に噂の店はあった。数々の障害を乗り越えてきた高田の店が、この市役所と隣り合わせているのも何かの運命か。「もう一丁！」狛江も高田もまだまだ終わらない。「ネバーギブアップ……」囁きながら店内へ。

壁にはウンチクが張り出されており、理想を追求しやがて崩壊したUWFの姿がオーバーラップする。すでに「舌心」も閉店しており不安がよぎる。闘魂だけでなく商才まで猪木の影響を受けてしまったのが高田の不幸だ。店内にはサクや高山の写真が飾ってあるが、高田の姿は見あたらない。その奥ゆかしさに胸を打たれつつ、主人に話を伺った。

「高田さんの店？俺が経営者だけど？」高田の店でもなんでもなかった。私も歳をとるにつれ妄想が激しくなってきたが、しっかり者っぽい主人を見てまずは一安心。きっとこの店は地域に根付く老舗になるだろうと、50年後をフッと想像して幸せな気持ちになってみた。しばらく現実逃避した後、話を進める。「Uインターの道場が狛江にあった頃、隣にある会社の寮を管理してたんだ。それで寮祭をやる時ずうずうしく協力を頼みに行ったの（笑）」チャリティということもあり、高田はじめ選手達も快く手伝ってくれた。それまでプロレスと縁のなかった主人だが、これを機に選手達と親交が深まり、会場へも足を運ぶようになった。寮祭も翌年からは規模が拡大、仕切の達人・宮戸優光が陣頭指揮をとったのだ。Uインターの思想から演出まで全てを創りあげた伝説の男は、祭りでもその手腕をいかんなく発揮した。「料理の鉄人が流行った頃で、宮戸さんがチャーハン対決をやろうと言い出したんだ」現役レスラーが料理を作るのだから会場は否応なく盛り上がる。「審査員には誰が作ったか分からないようにしたけど、見事宮戸さんが優勝したね。アワビやウニを使った高級チャーハンを作った人もいたけど、宮戸さんはネギと鮭のシンプルなの。腕の違いを見せつけた横綱相撲だった」プロ並みの腕を持つと業界でも評判の宮戸だが、主人によるとちゃんこも若手が作ったものでは飽きたらず、必ず自分で二、三品作っていたという。「ウチのラーメンも宮戸さんにずいぶんアドバイスしてもらったよ（笑）彼の指摘は鋭くてねぇ。ウンチクの貼り紙も彼が考えてくれたんだ」恐るべし宮戸優光！最強のプロレスラーの次は、究極のラーメン屋をプロデュースする気か？

数ある思いでの中でも、特に印象に残っているのが阪神大震災の時の炊き出しだ。「Uインター代表として高山が名乗りを上げてね。車に食材を積み込んで神戸に行って、600人分のちゃんこを作ったよ」Uインターが解散しても親交が途切れないのは店主の温かい人柄ゆえだろう。ラーメンも人柄が滲み出た優しく穏やかな味わいだ。健康に配慮し化学調味料やラードを使わず、老鶏や干し貝柱など極上の素材でとったスープは、滋味と風味をしっかり蓄えながらも後口はスッキリ。「もう一丁！」高田じゃなくても叫びたくなる。内臓疾患が噂されるサクはこの店に通って食事療法したらどうだろうか？

ラーメン麺厨房●狛江市和泉本町1-6-15 電話03-3430-8838 小田急線狛江駅より徒歩4分 11:30〜14:30、17:30〜22:00、日祝11:30〜15:00、17:00〜20:30 定休 月（月が祝の場合は火曜が休）ラーメン600円、塩ラーメン600円、みそラーメン700円、ごまみそラーメン750円

ラーメン王もビックリ！　宮戸のアドバイスのタマモノか？ うまい!!

いしがみ・ひでゆき■『PRIDE.13』でも前回と同じ前列四番目で観戦し、サクの敗北に悲嘆にくれると同時にハセキョンの美貌に恍惚としている今日この頃。ポパイなど連載多数。

武田いづみの

ディスカバー・シンニホン

VOL.3 興味とは何か？の巻

例の、嵐のように広がって消えた、現役プロレスラーのホモビデオ（っていうのか？）出演の話。聞いただけで、自分がまた変なモノに興味を持ってしまったことに気付いた。なんだそれ。ともかく、見たい。いや見たくないか。

「ホモセクシャルの人と仲良くなりたい」と、ことあることに私が言うと、友達が「でも、向こうはなりたくないだろうね、たぶん」と言う。たぶんじゃなくて、きっとそのとおりだ。ヘテロセクシャルが大多数を占める世の中で、少数派の道を歩む人は、こういうおもしろがりには嫌な思いもしてるだろうし。

そもそもなんでこんなことを言ってるかというと、私はヘテロセクシャルなので、その世界に入りたいからでは全然なくて、失礼ながら、自分の持ってない才能の持ち主への単純な興味だ。

しかし、「あなたはおもしろそうなので」と言われたら、馬鹿にしてると思う人もたくさんいる。だから簡単にそういうことを言うものではない、というのが友達の意見。やっぱりそんなもんか。もちろん私は馬鹿にする気があって言ってるわけではない。

興味は無節操だ。他人に悟られることなく持つことができるし、捨てることもできる。持った興味を捨てたところで、責任取れと言われることもない。

興味とは、何か。いろんな言い方はあるけれど、それは対象に、「無意識に気を許して近寄ってしまうこと」だと思う。そのとき人は、気を許してしまった自分と折り合いをつけるために、興味に責任をショア！……じゃなくて、背負わせてみる。ある程度納得した形をみるまでこれを継続させる、という責任だ。そうすることで、持った興味をすぐに捨てて「飽きっぽい」という、いかにもダメそうな冠が自分の手元に残るのを避けようとする。「飽きっぽい」は「しつこい」より、なんかどうもダメそう。

つまんねーと言いながら、しつこく気になる、「堕ちていくのを黙って見ていられない」『アレ』は、なぜかといえば、自分の中に責任を背負った興味があるゆえ、だ。おなじように……って、おなじではないが、「あたらしいこと（ビデオ出演等）に挑戦する」某選手を、無視できなかったりもする。面倒ではある。でもそれは、しょうがねえなぁ、だ。興味を持ってしまったというだけで、すでに一本取られてしまっているのだから（一本にも大小有り）。

某選手への「プロレスを冒涜した」という批判も、「その話には触れないであげようよ」という中途半端にやさしい擁護も、それは、じつにお寒い。お「さぶ」い、なんつって。おまえが寒い。ハイ。

シンニホンについてぜんぜん書いてないし。

たけだ・いづみ■人生の逆フライング（単なる出遅れ）万歳。「ファンタ グレープ」にビタミンBが入ったことを知り深夜のビリヤード場で憤慨。体によくないのがあたしの「ファンタ」なのに。

スペースローン・ワイフ

真下純子の

ひりきな奥さん

VOL.3 勝負アイの巻

「人の視線を集め、あなたの印象を決定づけてしまう目もと」と、書き出しに困って手元にあった女性誌の化粧品広告の唄い文句を書き出してみましたが。

確かに、目もとは大事です。わたくしのように長く女をやっているとくたびれが目もとに滲み出てきますし、全般的に、女性がお化粧するときは目もとに力を入れがちです。まぶたに色を乗せ、まつ毛に「長くなれ、濃くなれ」とマスカラを塗る。この「まつ毛長く濃く」へのガンバリズムがエスカレートし、「アンタ目にひじき生えてるよ」ってなまつ毛になろうとも、色を乗せすぎて「どうしたの？　殴られたの？」ってなまぶたになろうとも、わたくしたち女子は目力（めぢから）を求め今日も明日もあさっても手鏡を手に口を半開きにし、目もとを彩り「勝負アイ」を作り出します。

先日、とてつもない「勝負アイ」を見ました。PRIDE.13でのバンダレイ・シウバ選手です。ボッコリとくぼんだまぶたは濃い陰を作り、上下びっしり生えたまつ毛はまなこを黒く縁取り、その黒い額縁によって白目はより白く、キトッとした黒目（グレーっぽい不思議色）はリングを見据え。見た人誰もが「ひいいっ」と楳図悲鳴を思わずあげてしまうような凄まじい目をしていました。

わたくしたち女子が日毎鏡にうつす、「白目むいて下まつ毛にベロベロマスカラを塗る・口は半開き」な表情も男性の方々が見ればかなりおっかなかったりするのでしょうが、同じ「口半開き顔」でもシウバ選手の「命（タマ）取ったる！」って台詞が漏れてきそうな半開きとは天と地ほどの、山田まりやと山田花子ほどの差があります。あんな目力は、化粧では作り出せません。闘う者の選ばれし「勝負アイ」にわたくしはうっとりです。モッ最高！（クッキングパパ）。

その目力全開のシウバ選手の待つリングに桜庭はしゅくしゅくと入場、ビン底メガネの下の桜庭選手はいつものようにゆううつそうな、寝足りないような、でもそれがかえって怖いよ、という目をしていました。いつもの、静かに怖い目力でした。

さて、毎試合「今日は何をやってくれるんだろう」と甘えによく似た気持ちでもって桜庭選手を見つめてきました。知らず知らずに大きく甘えていました。桜庭選手が負けたらさぞやショックだろうなぁと思っていました。しかし、あの入場時の目力そのままにシウバ選手は闘い、1分38秒の闘いの後、シウバ選手はひまわりのような笑顔をフワワとリングの上で咲かせました。

あの恐怖の「勝負アイ」からこの笑顔。この落差。今や世界の格闘家から首を狙われる桜庭選手に見事勝利したシウバ選手にわたくしは拍手を贈りました。あんな怖い目を見せてくれてありがとう、と。一方、セコンドに介抱されつつもとても悔しそうな桜庭選手の目は澄むように黒く、顔面の血を拭いてもらっている様子はまるで今生まれ落ちた赤ちゃんのような、なんかこー、「誕生」って感じで。これからの桜庭選手を期待せずにはいられない、希望の光を見た気がしました。笑顔でのマイクもやはり目は笑っていなかったし。

これからも様々な選手の「勝負アイ」にしびれていきたいと思います。入場の時の目、ゴングの鳴る直前の目、試合中の目、試合後の目。自分の目もとを塗るときと同じような、真剣（だけど口半開き）な目で格闘家のみなさんの目を観察していきます。塗りすぎてひじきになってしまったまつ毛で。

ました・じゅんこ■シウバよりシワの怖い31歳。よその編集部員さんの相撲ギミックに目くじらを立てる紙プロ編集部員さんがデンマーク式ダイエットを実施中なのはここだけのひみつ

ザ・検証

プロレス点と線

先月号で椎名さんが指摘していたとおり、固めてからの打撃が『PRIDE』で猛威を振るっておりました。今回もちょっとシリアスに総合格闘技における技術検証第2弾！ そして、前号でお伝えした通り「死神Tシャツ」が遂に完成！ さらに商品化も決定！ いよいよ次号でその全貌が明らかになります。乞うご期待！（編集部）

ザ・検証

【今月の検証】「総合におけるスタンドとグランドの際」

by椎名基樹

おめでと〜！ 菊田早苗選手、アブダビ77kg〜87kg級優勝！ いや〜あの大会で優勝するなんてすごい。快挙ですよ。ネットで速報見ていて、最初見た時は他の日本人選手が早い段階で負ける中、準決勝まで残っているSANAE KIKUTAの名前を見て、興奮しったっす。で、次の日見たら、一番高いところにその名前があるじゃないですか。何か妙に感動しましたよ。やはり、我が道を行った人が報われるってのは、イイもんですね。菊田選手はファンに色々誤解を与えていると思うけど、それも総合格闘技黎明期の今に先頭を走っている故。その誤解の中をテメーの食いぶち確保しながら行く道行くってのは、なかなか出来る生き方じゃないっす。それが、できるってのは、目先じゃない遠いところに何かを見ているからだろうけど、それが何か見届けたい気持ちになるですよ。偉い！

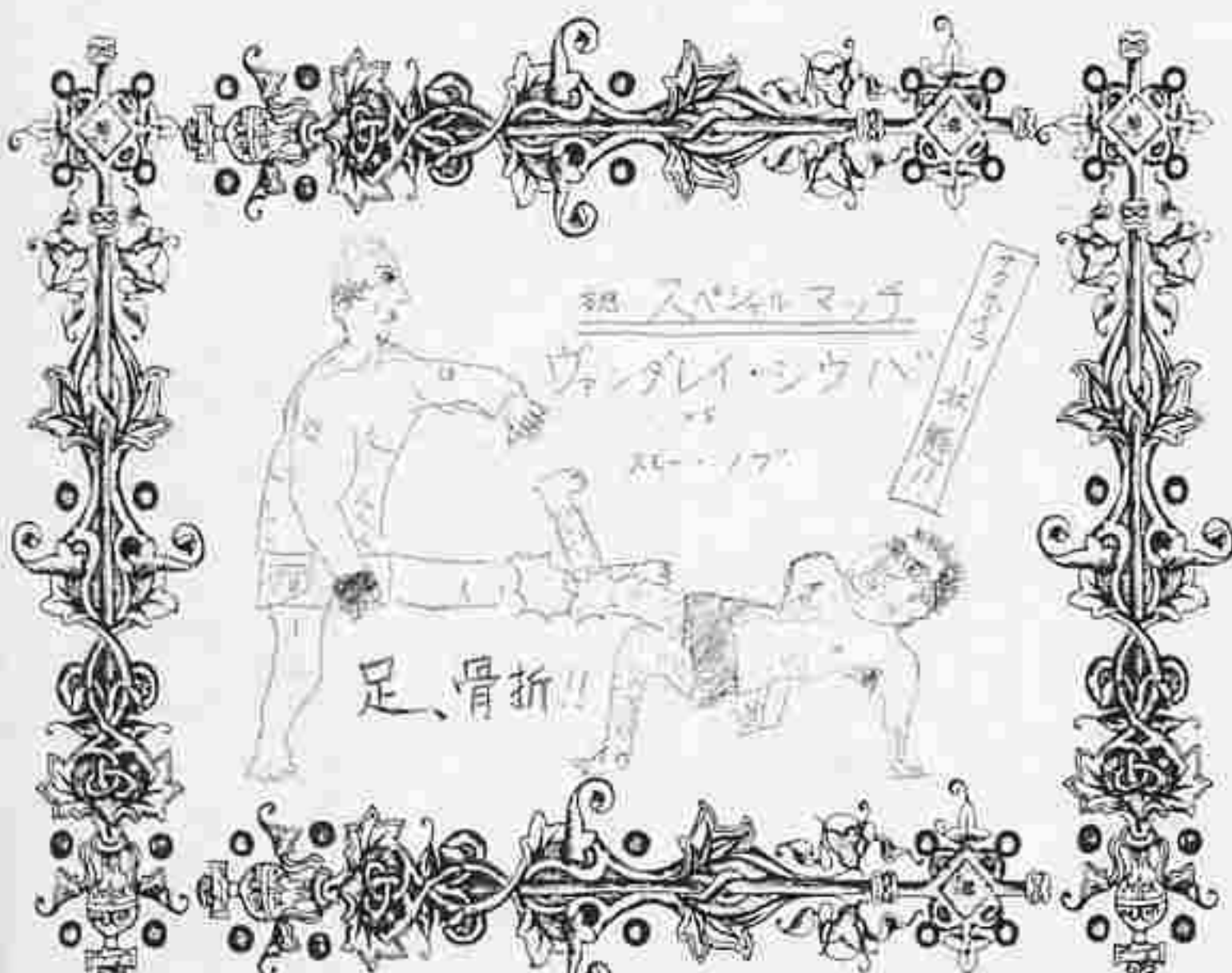
しかし、誤解を与える人物というのは、それだけ魅力的でもあるワケっす。

プロレス・格闘技界にもなかなかそういう人はいないけど、やはり今は村濱選手に頑張って欲しいっすね。ホイラーと引き分けて、リングスに出場して一本勝ち（アキレスで！）、今度はIWGP獲るって言ってるんでしょ？ 面白いねえ。実力とプロデュース能力を兼ね揃えた希有な男ですよ。俺としては、新日に乗り込んで、金本や田中稔あたりのネムテー選手を、何かの間違い（のフリ）でボコボコにしちゃったりなんかしたら、笑っちゃうなあ〜などと悪いこと考えたりするんすけどね。村濱選手はシュート・ボクシングをやめた時に、俺は彼があまりに真っ当な意見を主張しているのに、孤立していくのを見て、スゲー可哀想で一時期、勝手にシュート・ボクシングのルールを考えていた時期があったのですよ（なぜだ？ 俺ってバカ？ 暇？）。でも、結局村濱選手はシュート・ボクシングを辞めたワケだけど、それは彼が小さな枠の中からは、はみ出さざるを得ない存在で、時代が彼を必要としていたとからだと思えますね、俺は。UWFの分裂と同じ理由ですよ、それは。あと、我が道歩く男って意味では、佐竹選手に期待してます。まずなんとか、プライドでいい勝ち方ができることを祈っております。どっちも、がんばって！

さて、本題の検証です。今回のテーマは「総合におけるスタンドとグランドの際」。ご承知の通り、前回の『PRIDE』は「カメの状態の相手の頭部に足での打撃」が許される新ルールとなり、予想通り、というか、予想以上に壮絶な試合満載になった。そこで感じたのは、桜庭敗戦は置いとくとして、なぜヘンゾやゴエスはあんなに簡単にヘボ両足タックルを、こともあろうにレスラーに仕掛けたか？ってことだ。新ルールの中、飛んで火に入る夏の虫とはあのことだ。あれならなぜ引き込んでいかなったのだろう？ もっといえば桜庭戦のホイラーのように、猪木・アリ状態になったって構わないはず。膠着すれば立たされるだけで、ルール上問題はないんでしょ？ そもそも、あの形になっただけで、なぜ観客はブーブー言うんだろう？ 俺は「いかにも異種格闘技」って感じの緊張感を感じるけど。もち、膠着は嫌だけど、レフェリー次第でしょ？ もし、格ゲーであの『遊星からの物体X』みたいにカサカサ動く柔術キャラがいたら、面白くって使っちゃうけどなあ。とにかく、ヘンゾとゴエスには自分がどう戦うか？っていう戦略が全然練れていないように感じた。その戦略が端的に表れるのが「スタンドとグラウンドの際」だと思う。無難に差し合っていくか、いきなり寝るのか、テイクダウン覚悟で打撃を出すか。グラウンドへの移行の過程を考えるのが作戦のハズだ。

総合の練習に「テイクダウンの練習」ってのがあって、要するにキックボクシングありのレスリング。ダウンを奪えばベストだけど、とにかく倒して上になったら終わりで、また立ち上がってそれを続ける。俺みたいな全然知らない鼻くそが言うのはおこがましいが、すごくキツイ練習の一つではないだろうか？ それを競技化しようとしたのが、佐山聡が制圏道の前に提唱した、αβのαのほうだった。その頃ちょうど、前記の村濱選手が、シュート・ボクシングが元来のオリジナルスポーツでなく、キックやムエタイとの対抗戦になっていくのを批判して辞めていった。俺は寝技を排除して、総合のスタンド部分だけを競技化しようとした佐山のアイディアが素晴らしいし可能性があると思ったので、それと似たようなコンセプトを持ったシュート・ボクシンを確立できずに、去っていく村濱がすごく可哀想に感じて、ついついルールを考えてしまったのだった。

なぜ素晴らしく可能性があると思ったかというと、それをやっていればVTに勝てる可能性がある競技だと思ったからだ（もちろんVTに勝てるうんぬんだけが大切じゃないけど、当時のシュート・ボクシングにそこは避けて通れない道だったと思うので）。グラウンドで上になることがVT、特に最近のジャッジが付く競技化されたVTを勝つためには一番の近道であるハズだ。だから、打撃をかいくぐってテイクダウンを奪う、又は、レスリングを捌いて打撃を当てる競技を突き詰めれば、すごく強い選手ができると思ったからだ。とにかく上になる打撃ありの競技。それさえできれば、あとはVTに出るぞって時に、下から十字、三角、スイープだけ気をつけて、コツコツ殴る練習と、もし下になった場合の防御だけ練習していけばいい。もちろん、それだけでも難しいし、戦いは何が起こるかわからないけど、寝技を排除し、スタンドでの攻防を突き詰めた競技を極めたら、先月書いた「固めての打撃」や「タックルに合わせてのカウンター」等、様々なユニークな技術体系を持った格闘技ができあがったんじゃないかと想像する。

『PRIDE』でもなんでも、どんどん上になる選手が有利になっている。柔術の選手はヘンゾやゴエスみたいに中途半端な戦い方だとやられてしまうだろう。でも、だから猪木・アリ状態になった柔術の選手を頭ごなしにブーブーいうのは、戦いの幅を狭めると思う。あれは、不利が覚悟のギリギリの際だと思う。ごめん、全然まとまりませんでした！ 脱稿。

担当編集・坂井ノブの
線路歩いて絵を描いて……vol.7

ザ・検証

【今月の検証】

完成！ 死神Tシャツ（試作品）

byせき詩郎

震は力なり（滝沢賢治）。

というわけで、マット界は大変なことになっている。桜庭の敗戦（見てない）、猪木の強権発動＆生放送で大激震の新日本プロレス（見てない）、高山を下し何だかというベルトの初代王者になった三沢（見てない）、その三沢の団体とノアと新日直系選手との闘いを実現させたZERO-ONE（見てない）、そして一方では全日での川田と武藤の絡み（見てない）、その他いろいろ（見てない）。

自慢ではないがここ一ヶ月ほど大事な試合は全く見ていない。春先は引越しだの（してない）、新入学や進学だの（関係ない）で何かと忙しいからであろうか。とにかくプロレス＆格闘技に限らず他のスポーツや『愛の貧乏脱出作戦』さえも見ていない。最後に見たと言えばサッカーの試合であろうか？ 日本対フランス。1０9対0というラグビーとは思えない（ラグビーじゃない）大差で日本が負けた試合だ。そもそもあれは代表に高木がいないからであって……（以下略）。

そういえば野球も見てない。来年の筋肉番付に向けて野球で特訓する清原の姿も見てない。筋肉番付といえば、あのなんか跳び箱をたくさん飛ぶ世界記録はまだ池谷の弟が保持しているの？ そういう情報全般にすら疎くなっている。学園祭の女王はまだ杉本彩なの？ タモリンピックってまだ鶴瓶のいる水曜日チームだが弱いの？ 幕ノ内一歩は潜るの大得意な沖縄の選手に勝ったの？ どうです、この世間との隔離されっぷりは⁉

では一体私はここ最近プロレスをロクにも見ずに何をしていたかというと、斎藤彰俊選手のTシャツを作っていたのだ。前回発表した『第1回斎藤彰俊Tシャツデザインコンテスト』で見事グランプリに輝いた中川氏のイラストでTシャツを作成していたのだ。夏休み最終日の子供のように、泣きながら親兄弟に手伝ってもらってやっと数枚のサンプルを作ったわけだが、これがまた彰俊選手本人にも「いいですね、これ」とお褒めの言葉を頂いけるほどなかなかの仕上がりになった。

写真ではわかりにくい部分もあるとおもうので、ここでこのTシャツがどれほどの利点を持っているのかいくつか説明しよう。

①黒を基調としたシックな色合い！

黒のボディに白のプリントという、シンプルかつ流行に左右されない色使い。また黒ということでフォーマルな場にも着用可。お葬式だってバッチリ。中川氏の死神のイラストが葬式の雰囲気をよりいっそうリアリティのあるものへと変化させてくれることだろう。あと汚れが目立たないので泥んこプロレスで着用してもへっちゃら！

②機能性十分

綿100%のために激しい運動をして汗を大量にかいても、もしくは会社の大事な書類を無くしてしまって変な汗をかいてしまっても、全て吸収してくれる。また台風の中をこれを着て歩けば、台風の威力を実感できるほどの通気性も。おまけに標準学生服のように丸洗いもOKだからいつだって清潔でさわやかだ。

③無味無臭

例えば食べ物の香りのする消しゴム。チョコレートやケーキやコーラなどいろいろ存在する。しかし消しゴムは結局消しゴムなのだが、あまりの美味しそうな香りに負け、ついつい口に入れてしまった人も多いであろう。大人なら「もう仕方ないわね！」と彼女の母性本能をくすぐるくらいで済むが、幼児だったら大変！ そんな事故を未然に防ぐべく、このTシャツは無味無臭である。

④腕に「覇」の文字

袖部分には、彰俊選手の中にいまだ根強く残っている〝維震魂〟を象徴する「覇」の文字。維震フリークの男たちのハートを鷲掴みにするだけではなく、合コンでも「なんでここに覇って書いてるの？」と相手から話題を振られることだろう。あとは永遠と維震軍について語り、プロレスには興味の無い相手にうんざりされてみるのはいかがであろうか。

その他詳細は次号で発表。今回紹介したのはあくまでサンプル版ということで、デザイン等変更する可能性は無限大。完成品＆購入方法が掲載されるであろう次号を首を長くして（首輪を少しずつ増やして首を長くする部族のように）待つべし。そして是非ともみなさん買いましょう（みんな買いまくって、いつしか古着としてアフリカ等の恵まれない子供たちに送られ、アフリカにも維震魂を根付かせることになるくらいに）。そういうわけで私はゲームに戻るとしよう。世間と隔離されるくらいにゲームに熱中します。

★お店情報

改装工事も終わり、リニューアルオープンする彰俊選手のお店『ココナッツリゾート』。これを記念して彰俊選手から思わぬ提案が！ その提案とは、お店に行って「紙プロみました」と言うと、彰俊選手が維震軍カルトクイズを出題。それに見事答えることができると、なんと『紙プロ』なる名前のオリジナルカクテルがサービスとなるのだ。どんなカクテルか想像もつかないが、このサービスを逃がす手は無い。みなさん、さっそくお店へGO！ そしてどんなカクテルだったか私にそっと教えてください。

最近の斉藤彰俊選手がフィニッシュの直前に決めるこのポーズがモチーフ。背中には、この写真よりもアキトシ選手の腕に入っているタトゥーがでっかくプリントされる予定。そしてバックの裾の部分には本誌のロゴやココナッツリゾートのロゴや椎名氏やせき詩郎氏の実家の家業のロゴなどが格闘Tシャツのようにレイアウト。まだ試作段階なのでデザイン変更の可能性もあります。

★斉藤彰俊選手のお店「ココナッツリゾート」は、名古屋市東区徳川3-17-38／TEL.052-933-0899

FIGHTING NETWORK
RINGS

21世紀最初の夏には"桜"が咲く!!

桜庭退院!! 復活会見全再録(With 髙田延彦)

ルールで負けた?「それは、どうだろう…?」

撮影/丸山剛志
designed by hisa (Two Three)

『13』か……とんでもないことが起こらなきゃいいが」という大会キャッチコピーの通り、あの桜庭がシウバの〝戦慄のヒザ〟に沈むという、とんでもないシーンが現出した3・25『PRIDE.13』。

サクは試合翌日から、インフルエンザ&顔面骨折の疑いで入院。かなりの体調の悪さ（試合前日には38度の熱があった）と、試合のダメージのダブルパンチで今後の去就が心配されたが、4月8日に無事退院！（ニコニコ）。4・9新日本大阪ドームの翌日（これはまったく関係ないが）の4月10日に退院報告会見を行った。この時点では、まだ咳が止まらないサクだったが、リング復帰&シウバへのリベンジに向けては、いつものように飄々としながら、静かなる闘志を燃やしてること、この上なし!!

大復活に向けて動き出したサクの声に耳を傾けてください。

広報・M氏　最初に髙田（延彦）の方から、現在の桜庭の状況の方を御説明させていただきます。

髙田　え～、本日はお忙しい中ありがとうございます。ファンの人たちには大変心配と迷惑をかけましたけども、先日の埼玉アリーナにおいて、ヴァンダレイ・シウバ戦で顔面を強く打たれてですね、顔面骨折の疑いがあるのではないかということで、翌日に入院、検査しましたところ、幸いにも脳には全く異常はなく、顔面にも……骨の方ですけども異常はなく、眼球にも異常はなく、外傷の方はひとまず安心したのですが。思いのほか試合数日前から……本人は、さほど大きな自覚症状はなかったのですが、ダルさと発熱の原因を調べましたところ、かなりひどいインフルエンザで入院、療養が必要であると。このインフルエンザが、かなりひどいということを先生に言われましてですね、約2週間の入院療養生活を経て、一昨日、やっと出所……出所というか退院することが（場内笑）、え～、出来ました。

まあ、あの、今後のですね、復帰に関しては現段階では全く白紙です。白紙だからといって、1年先、2年先になるわけではありませんが、そのインフルエンザの数値そのものを、これはまだ完全に下がって完璧ではないので、数値を検査しながら練習を徐々に始めるなかで、体調が万全に近い状態になったところで、いろんなモノをですね、第一は復帰戦に向けて具体的なスケジュールを出して行こうというふうに本人と確認しましたので、今日の段階では具体的な日時というモノは決まってません。え～、今年2001年始まってですね、本人なかなかスーパースターなってしまったものですから、取材あるいはCM撮影などスケジュール的にもね、かなりスポーツマン、アスリートでありながらも大変葛藤の中、体作りしてきたものですから。え～、ましてね、練習好きな桜庭にとっては本意でないという数ヶ月を過ごしてきました。

ですから、まずは、ベストの桜庭和志の体調を呼び戻す上にも、これからのスケジュールを考慮したなかでですね、リングに向かう心と体を、まあ今日ちょっと、さっき軽くウェイト・トレーニングなどしてましたけども、きょうからまた新たな桜庭和志がスタートすると思いますので、まあ復帰の日時が決まりましたら、またファン共々、マスコミの皆さんにも多大なる応援、後押しを、また桜庭和志によろしくお願いしたいなという風に思っております。以上です。

広報・M氏　髙田の方はこれで席を立たさせて頂きますので、質問等の方は桜庭本人の方から受け答えしますので。

髙田　お手柔らかによろしく。ひとつよろしくお願い致します（笑）。失礼します。（爽やかに去っていく）

広報・M氏　続きまして桜庭の方から現状の心境を皆さんにお伝えさせて頂きます。

桜庭　心境？（笑）。心境ですか？　皆さん御心配おかけしまして、どうもすいません。また練習して頑張りたいと思います。

——とりあえず体調は？

桜庭　まだあの～、あれですね、咳が止まらないですね。あの、入院した頃よりはよくなってますけど。

試合前に（シウバが）睨んでるのがわかったんで。ムカムカしてたんですよ

桜庭 vs シウバ

PUTIT REVIEW

【01・3・25『PRIDE.13』さいたまスーパーアリーナ】
●1R10分、2・3R5分『PRIDE』新ルール
ヴァンダレイ・シウバ（1R1分38秒 TKO）桜庭和志

シウバのゴング前のガンつけ&一発入れられてムキになってしまったサクは、なんと正面から打撃戦に！　右フックで先にひざまづかせたのには驚きです！

しかし、打撃戦になったら、ムエタイ経験者の〝シウバの庭〟。コーナー、ロープに詰められて、とうとう〝戦慄のヒザ〟を顔面にブチ込まれてしまった！

ダウン気味に倒れながらも、足首を掴みに行き、テイクダウンを狙うサク。闘いに対する気骨と、負けず嫌いの部分が凄惨な状況の中でも見て取れる

4.10 桜庭 復帰会見 全再録

——入院中はどうだったんですか？ かなりインフルエンザがきつかったんですか？ だいぶいい休養になったようなイメージがあるのですが。

桜庭 どっちもどっちですかね。あの……寝ると咳が止まんないんですよ。それで何回も目覚めて。起きてる時も、しゃべると咳が止まんなくて。でもゲームずっとやってたんで、あんまりしゃべってなかったですけど。

——シウバ戦のビデオは見ました？

桜庭 見ましたね。

——あらためて見て、どういうふうに思いますか？

桜庭 いやあ、特に……いい勉強になったなと。

——具体的な反省点とかそういったものはないですか？

桜庭 反省点ですか？ 反省は……。

——体調のことは別にしてですけど。

桜庭 体調は全然あれですけども、あの……ムカついてたっスね。熱くなるとあんまりよくないなぁと。顔しか見れなかったですね。

——あの、なんで熱くなったのか？ 普段と全然違う……。

桜庭 試合前に（シウバが）睨んでるのがボクわかってたんで。で、その……睨み返して向こうのペースなるのもあんまりよくないなぁと思って目を合わせないようにしたんですけど。でもなんかムカムカしてたんですよ、腹立ってたんです。それで一発殴られて、あの～、（さらに）熱くなりました。（笑）

——対戦相手のシウバは結構冷静でしたよね？

桜庭 そうじゃないですか？ あの、向こうの闘い方はあういう闘いなんですけども、ボクが向こうのペースにはまっちゃたんじゃないですか？

——ワンマッチで久しぶりに負けて、実際ショックというのはありました？

桜庭 ショックっていうのは、あんまりないですね。でもあの、練習で取られてるとかもありますから。別にそれは……あれですけど。

——試合の時も体のダルさみたいなものは？

桜庭 いや、特にはないですね。

——退院したばかりなんですけども、次に向けての気持ちっていうのはもう沸いてる状態なんですか？

桜庭 まだ、あの、少し運動すると咳とかも出てくるんで、とりあえず軽くだったらいいって言われたんで。軽くやってる段階なので。今日から始めたので。練習っていってもホント軽～いもので、ウェイト・トレーニングやっただけなんで。あとは、その様子を見て少しずつ元に戻そうかなと思いますけど。

——5月に『PRIDE』がありますけども……。

桜庭 どうですかね、その調子を見てですね。調子が良ければ、そのままポポポ～ンとこう、練習が出来るようになれば間に合うと思うし。まだこう、咳とか引きずるようだったら激しい運動するのもキツいんで。様子を見ながらですね。

——体調が良ければ出る可能性もまだあると？

桜庭 はい。

——次にやるとしたら、いきなりシウバとやりたいか、それともワンクッション置いてやりたいか。どっちなんでしょうか？

桜庭 それはどっちでも。ボクが決めることではないんで。

——いきなり組まれても大丈夫？

桜庭 大丈夫かどうか、そりゃやってみないとわかんないですけどね（ニコニコ）。

——熱は何度位出たんですか？

桜庭 熱は37度ちょうどが、ズゥ～ッと。

——微熱が続くような感じですね。休みを取ったのは久しぶりだと思うんですけど、その間、自分ではいい休養になったと？

桜庭 はい。もうちょっと（休養を）続けたいです（ニコニコ）。

——2週間入院したのは初めて？

桜庭 はい、初めてです。

——これまで入院経験は？

桜庭 入院したことあるんですかね……記憶ないですね（笑）。あ、ちっちゃい頃に車に轢かれて入院しました。（他は）記憶にないです（笑）。

——病院っていうのは雑音がなくていいですよね。

桜庭 そうですね。なんか、よくヒマだなんて聞くんですけどもね。全然ヒマじゃなかったです（笑）。食べ物もなんか、あんまりおいしくないっていうイメージで行ったから、結構おいしかったです。

——ルールが変わったというのは結果的に不利だったわけですか？

桜庭 それはどうだろう……わかんないなあ……。

——前のルールだったら、もっと違う闘いの展開が見えたというのは？

桜庭 あんまり変わんないんじゃない

試合展開的には、フィニッシュのちょっと前の写真。今回から4ポイント（四つん這い）でのヒザ＆蹴りが解禁されたことで、シウバのヒザがサクを襲う

容赦なくサッカーボールキックを放っていくシウバ。しかし、この状況でもサクは、蹴りを額でブロックし、大きなダメージを追わないような対応力を見せる

トドメを刺そうと放たれたシウバの蹴り。だが、これも的確にかわすサク。新ルールへの対応もできる片鱗は、短く凄惨に見える試合の中でも見れる

亀の状態でヒザを頭部に叩き込まれたサクは、たまらず仰向けにポジションを変える。そこにシウバの戦慄の蹴りがブチ込まれた。ここでレフェリーストップ！

4.10 桜庭 復帰会見 全再録

（シウバのサッカーボールキックは）川田さんほどじゃないんじゃないですかね（ニコニコ）

ですか。このルールでボク、一番効いたヒザ蹴りは立ってのヒザ蹴りでしたからね。その……ずっと下になってやられたヒザ蹴りは、特にそんなに。

——効いてないってことはないですよね？

桜庭　少しは痛いですけど（笑）。立ってやられたヒザ蹴りの方が痛かったですけども。

——サッカーボールキックの時、頭を押さえて（痛がって）ましたが。

桜庭　ん〜。まあ、1番効いたっていうイメージは、この（立っての）ヒザ蹴りが一番効いたっていう……。あとはあの……川田（利明）さんほどじゃないんじゃないですか（笑）。

——川田さんのサッカーボールキックって受けたことあるんですか？

桜庭　いや、ないですけど（笑）。

——イメージで（笑）。

桜庭　イメージで。はい。ヒザは……これ（立っての）が一番効きましたよね。

——リング上では、「止められるのがちょっと早かったかな」と言ってましたけど。

桜庭　だからあの、一瞬ボクはまだ意識があったので、止められて、あれって？　こうレフェリーを見たんですけど。でもまぁ、鼻血もバァーッと出てるから。まぁ、イメージ的にしょうがないかなって思って。次にブツブツ言ってましたけどね。『止めるの早くない⁉』とか言って、2〜3回位言ってたんですけど。まあ、しょうがねえなあと思って。

——見た目ではむしろ遅いような感じなんですけど。

桜庭　あ、そうですか？　ん〜、やってるボクは別にあれですけど。だから、ボクはそんなアレだったんで、早いかなぁと思ったんですけど。でもこう、自分の鼻血出てることとか思ったらしょうがないなと思ったんです。

——喰らったヒザで意識が薄れていくというのは？

桜庭　そういうのはなかったですね。……夢見てるような感じですよね？　それはなかったです。

——退院して何日か経ってるとは思うんですけども、お酒の方は？

桜庭　飲んでないです（笑）。怒られるから（笑）。まだ完璧に体直ってないから、飲まないようにって言われましたから。

——これを機会に辞めようかなとは思わないですか？

桜庭　それはないですね（笑）。

——摂生しようかなとか、思わないですか？

桜庭　それは特にはないですね。

——インフルエンザの影響で内臓の方も悪いと。

桜庭　そうですね。その……、最近凄い飲み過ぎてたんで、ヤバイのかなぁ、ダルいからヤバイのかなぁと思ってたんですけど、なんか調べたら全然平気だったみたいですけど。

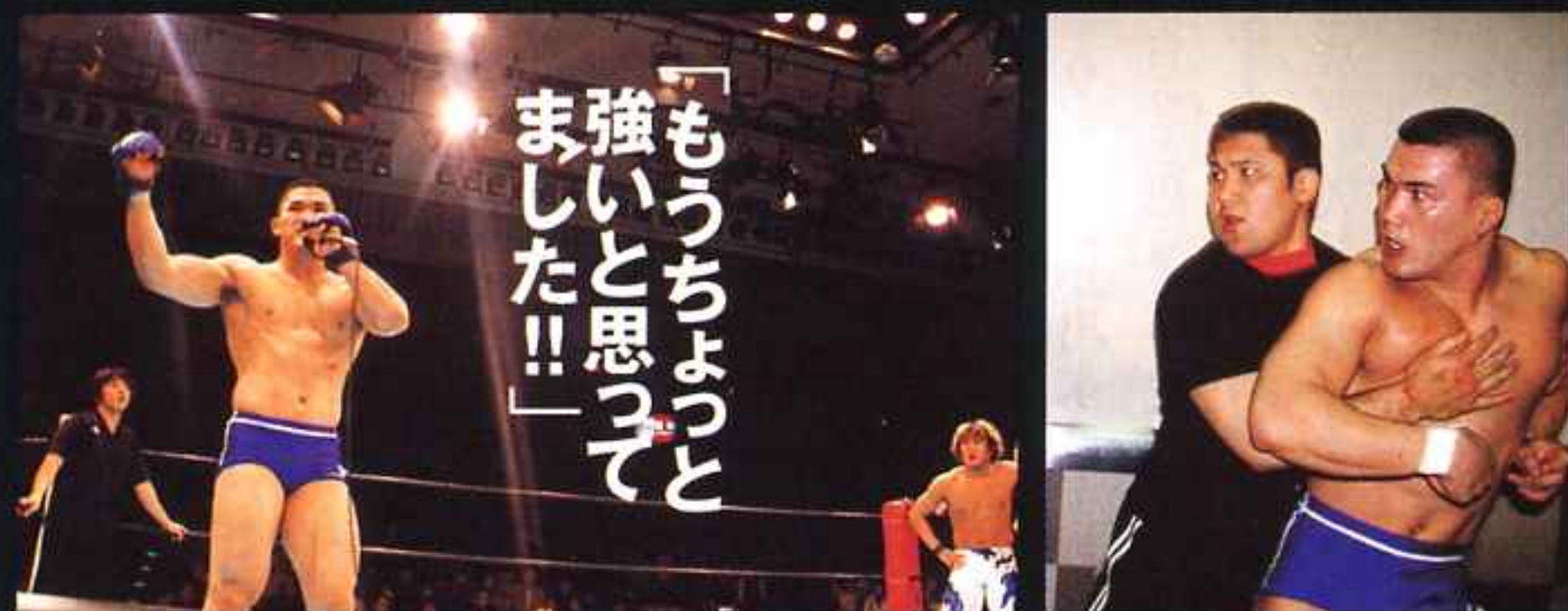
——内臓の方も？

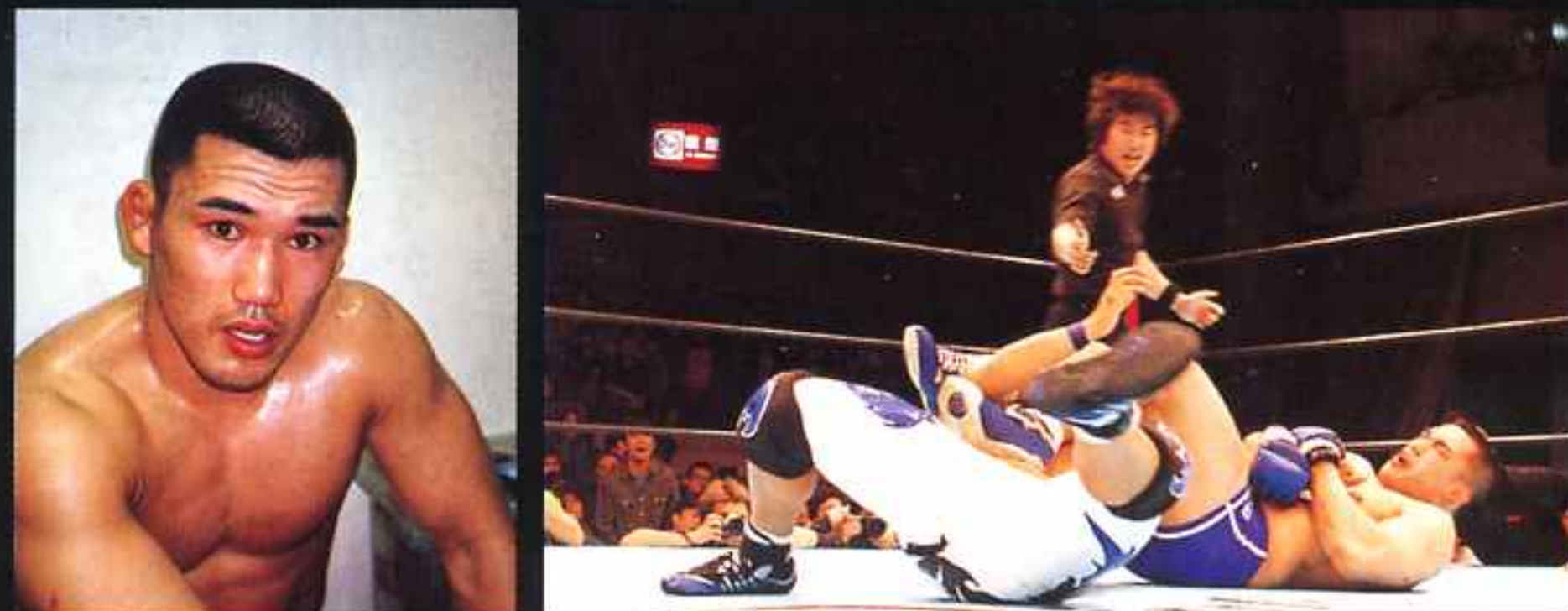
桜庭　そうですね。あの、ヤバイかなあと思ったんですけど。あと、かなりクシャミとか咳とかいっぱい出たので、花粉症になっちゃったかなあと思って。花粉症とインフルエンザなら、インフルエンザの方がいいですからねぇ、ボクは（笑）。花粉症だと毎年来るから。

と、ここで会見はタイムアップ。

この時点では、しゃべると咳が出てしまうサクだったが、思いのほか表情は元気に見えた。5月の『PRIDE．14』にはおそらく間に合わないだろうが、大復活に向けて着実に動き出したサクだ。

本誌は断言します！　2001年最初の夏には、きっと季節はずれの桜が咲く!!　そしてまた世界中がビックリ。ことこの上なし！　というシーンを見たい。頼むぞサク!!　ということです。

4・13バトで日高を撃破!! 松井大二郎KOTCに再出撃!!

「もうちょっと強いと思ってました!!」

昨年の10月1日、佐野なおき（当時）のセコンドについた松井と日高が乱闘を繰り広げてから約半年。3・1での前哨戦を経て、遂にシングル・マッチが実現した！　試合は、グローブ着用でパンチを叩き込んでいく松井に、日高が掌底で応戦！　熱い魂がバチバチとぶつかり合った。試合が進むにつれて松井はグランドへ、日高は場外での空中戦や乱闘へと活路を見いだす展開に。休むことなくお互いの意地をぶつけ合った両者。最後には松井が腕固めで勝利！　大熱戦で観客席もヒートアップ！

『PRIDE』やアメリカの金網VT大会『キング・オブ・ザ・ケイジ（以下KOTC）』では結果に恵まれていなかった松井だが、この日は見事に闘志と技術が大爆発！　ベストバウトだった。それを松井に伝えると、威勢のいいセリフが返ってきた！　「プロレスルールだからとか、そういうことは意識しませんでした。普段通りの気持ちでやってますから！」。たしかに、『PRIDE』のリング上で見せる、あのギラギラした表情の松井がそのままバトラーツのリングに立っていた。そして、そのままの表情で4月29日にカリフォルニアで行われる『KOTC』に出場するのだ。「前回アミールに負けたことで、『PRIDE』でいい試合をやってきた貯金をすべて使い果たしました。今度こそ絶対に勝ちます！　勝てば『PRIDE』にまた出場できる道も開けてくると思うんで！」やはり目指すものがある人間は目の輝きも違う！　では、『PRIDE』で闘いたい選手はいるのだろうか？「ヴァンダレイ・シウバです！　あいつに勝って、ボクが世田谷区認定SAKUベルト3代目王者になりますよ！」。貯金を失ったというが、まだまだこの男は終わっちゃいない！　むしろこれから始まるのだ！

25歳・OLから“サクへの手紙”が届きました。
おもしろいので、みんなで読みましょぉ〜。

私は楽にさせるつもりはない。
楽にさせてどうする。
罵倒しろ！　ねぎらうな！
負けは負けだ！　囲め囲め！
全員のランドセルを持たせて
次の電柱まで歩かせろ!!
私は持たせる。　絶対に持たせる。
なんならよろける桜庭の尻を蹴る。
負けるとは、そういうことだからだ。
誰であっても。

読者投稿

負けず嫌いの天才小学生
〜言わずと知れたサクラバカズシ

佐々木亜希（25歳・OL）

昨年暮れのリングス餅つき大会で、前田日明総帥にスリーパーをかけられ落ちる寸前の筆者

桜庭和志が負けた。映像をやっと見た。何度も見た。

完敗……って感じだよなぁ。……。

……くやしいぞぉ！　チキチョー！！　負けちゃったよーーーー！！　桜庭が負けちゃったよぉぉぉ！

くやしいですぅ～！今はただ、ひたすら、くやしいですぅ～！！（スクール・ウォーズ風に）

くそぉ！！　ヴァンダレイ・シウバめ！！　誰が許すか！！

桜庭ぁ！！　お前は、痩せ過ぎだぁぁ！！　デブれ！デブれデブれデブれぇ！！　うわぁーーーーーーー！！　ちきしょーーー！！

あーーーあ。桜庭があんなに痩せてるのに、なんであんなにノンキに太ってる奴が出てくるんだよ。お前だよ、橋本真也！！　お前面白いよ！！　次のZERO―ONEも行くよ！！　チキショー！！

桜庭和志が負けた。その圧倒的事実に、私はかなりヘコんだ。そして、いろいろな人たちの、試合に対する数々の言葉を聞いた。

人は冷たい。

私は、桜庭和志というひとがいなかったら、格闘技も、プロレスも見なかった人間である。

今、格闘技界で最もうざったがられている「にわか桜庭ファン」である。どうだ、読むのをやめる気になったか。

今回のルール変更について、主催者側のDSEに対して何か言うのはカンタンだ。実を言えば、うちの母親にまで言われた。しかも試合の翌々日の朝に。

「ちょっと！桜庭負けちゃったらしいじゃない！　なんか、ボコボコにされちゃったみたいねぇ。ルール変わったんでしょ？　うつぶせになった相手も、蹴っていいことになって。あれ、危ないわよねぇ！　でもファンの人はショックなんじゃないの!?　あんなの見せられちゃって！！」

なんでテメェそんなことまで知ってるんだよ、とちょっと朝から泣きたくなった。ふと、普段インターネットの掲示板で私のようなミーハーファンの知ったようなカキコミを見ている人というのは、こういう気分になるのだろうか、と少し思った。そうですか。ごめんなさいね。

見に行っていたら、私は、もっと別のことを言う。だが、今回は見に行っていない。スカパーも見ていない。だから、DSEには何も言わない。言いたいのは、前田日明インタビューを読んだからだ。

さえ、人に見せたくない。

25歳・OLからの読者投稿・緊急掲載

負けず嫌いの天才小学生
～言わずと知れたサクラバカズシ

そして、勝つことと負けることについて考えたからだ。

サクラバカズシは、負けず嫌いである。紙のプロレスNo.36の前田日明インタビューより。

「聞き手：桜庭さんは負けず嫌いだし、意地っ張りですよ。それを普段出すか出さないかの差ですよね」

「前田：桜庭は痩せ我慢できるんだよ。痩せ我慢してることさえ見せないっていう痩せ我慢ができるんだよ。それがあいつのダンディズムなんだよ」

桜庭が負けず嫌いだということはわかる。だが、そもそもダンディズムとは何か。辞書を引いてみた。

「ダンディズム＝おしゃれ、伊達ごのみ」と書いてあった。

……わからなくなってしまった。おおよそは予想つくが、わからない言葉は使いたくない。そして「ダンディズム」という言葉は、私の中のサクラバカズシには、あまり似合わない。彼の負けず嫌いは、ダンディズムから来るものだとはあまり思えない。そして、痩せすぎだとは思うが、痩せ我慢、という言葉も、桜庭の負けず嫌いとは、少し違うと思う。だから、私はこう言いたい。

「サクラバカズシの負けず嫌いは、小学生の負けず嫌いである」

小学生にとって、ゲームで負けることは、精神の死を意味する。小学生にとって、「マリオブラザーズ」や「南国指令！　SPY＆SPY」や「アイスクライマー」で負けることは、その後からの発言権が全くなくなることを意味する。小学生にとって、負けることは「や～い負け犬」「なんだかんだ言ってもオレにはかなわねぇだろ」「プップップ～」などの罵声を浴びることを意味する。

そこには、人の尊厳などない。人間的な素晴らしさも、頭のよさも、体育の成績も、何も意味はない。たとえ、それが途中までは「仲間モード」でやっていた「マリオブラザーズ」であろうとも「負け」は「負け」なのだ。（このへんのファミコンゲームの名称等がわからない方は各自、20～30歳前後の男性に訪ねてください）

桜庭和志ほど、勝ち負けにこだわっている格闘家はいないと思う。「負けたくないから、負けない」そう思って闘っているにちがいない、と私は思う。

負けないために、勝ち続ける。負けたくない。負けるのが悔しいから負けたくない。負けるのが悔しいなんて思っていること

そして、桜庭は負けた。いろいろな人が、いろいろなことを

さえ、人に見せたくない。
どうしてかといえば、負けることは精神的な死を意味するからだ。負けることで、誰かの笑う顔が目に浮かぶからだ。それが小学生の負けず嫌いである。
勝ち続けた彼に、別の名称を授けたのは見ている側だ。桜庭和志は、ただ、負けたくなかっただけだ。たとえ小学生でなくても、負けるということは、苦しいことだ。
勝負とは、いつも、負けるかも知れないと思う自分との闘いである。それは、こうありたい自分と、現実の自分の差をさらけ出してしまう。
ある者は、当たり前のことを言う。勝つときがあれば負けるときもある、とか言う。ある者は、流れでものを見る。負けることで、もっと強くなる、とか言う。
「やられちゃいました」
負けることで受ける精神的ダメージを軽減させるために、ある者は、勝負自体を軽いものにしようとする。数ある試合の中のひとつだから、とか言う。
またある者は、勝ち負けは関係ない、お客さんが楽しんでくれれば、それでいい、とか言う。
そうすることで、闘いは小学生のゲームよりも負けたときの精神的ダメージの低いものになる。
小学生は、己の存在意義をかけてゲームという闘いの場に上がる。一部の格闘家は、「勝つときもあれば負けるときもある」と言って、リングに上がる。
私は何かを背負って闘う人が好きだ。そういう闘いをする人が正しいとは言わない。ただ単に私は好きだ。
今、桜庭ほど「背負っていた」人がいるだろうか。格闘技も、プロレスラーという肩書きも、日本人格闘家という肩書きさえも全て背負って闘っていたのが桜庭和志だった。
桜庭に背負わせることで、他の日本人は負けても平気になった。桜庭は有名になりすぎていい気になっているということになった。
その分、他の者は「いい試合」をすればいい、ということになった。そうでなかったなんて、私は絶対に思わない。
桜庭和志が天才であったとしたら、他の者はどんなに楽だろう。もし、桜庭和志が努力家でコツコツタイプであったら、他の者はどんなに苦しいだろう。勝ち続けている人に、見ている側は夢を見る。勝つということに、別の意味を持たせる。「負けたくないから勝つ」それだけで闘っていられなくなる。

そして、桜庭は負けた。いろいろな人が、いろいろなことを語る。
負けることもあるだろう、と言う。ルールが悪い、と言う。DSEはダメだ、リングスこそが素晴らしい、と言う。
桜庭が痛々しく負けたことにいろいろな意味を持たせて、自分が言いたいことを言う。もう、桜庭が勝っていることで、誰のことも「ぎゃふん」と言わせることは、できない。
負けは負けなんだ。それ以上でも、それ以下でもない。桜庭に背負わせていたものが大きかった罪悪感からか、桜庭が負けたことで「これで桜庭が楽になった」と言う人がいる。楽に闘えるようになる、と言う。
「今までは勝ち過ぎていた。これからは、本来の彼らしいのびのびしたファイトを見せて欲しい」週刊プロレスは「さあ、自然に帰ろう」とまで言い出す始末。
お前は生協か。
またこういうのが始まったか、と思う。
なんだよ「本来の彼」って。取材が多いのは、取材が多かった、ということで、それだけだし、風邪を引いていたのは、引いていた、それだけのことだ。
サクラバカズシに実は愛人が5人いるとか、実はストリートファイトで人を殺しているとか、それが本来の姿で、今後それを出していくというなら驚くが、ホイスに恥ずかし固めはするわ、メインで秒殺はするわ、ハイアンに「お尻ペンペン」はするわの男の「本来の姿」っていったい何か。ちょっと隠させておけよ。
私にはわからない。私は楽にさせたいとは思わない。
私は楽にさせるつもりはない。
楽にさせてどうする。
罵倒しろ！ねぎらうな！　負けは負けだ！　囲め囲め！
全員のランドセルを持たせて次の電柱まで歩かせろ！！
私は持たせる。絶対に持たせる。なんならよろける桜庭の尻を蹴る。
負けるとは、そういうことだからだ。誰であっても。
でも、次に桜庭が勝ったら、桜庭の家までランドセルを持っていく。山ほどのランドセルを背負ってよろける桜庭の背中を見ながら、こっそり祈る。
どうか、全ての格闘家が、志高く、無事で楽しくいられますように。
どうか。
神様。

読んでますすよ〜ッ!!

『さくぼん』を読んだ人たちからこんな声が届いていま〜す。

★最高ですかー!? 最高でーす!!

★俺のようなファンにはまさに打ってつけ。早速明日から知ったかぶります。【室井和男・男・廃棄物処理業・31歳】

★なまらよかった。読み応え大あり!! 子どものころの本を思い出し楽しめた。次は写真集をだしてほしい【富岡久美子・女・主婦・32歳】

★おもしろかった!!『肉』が最高!! SAKUちゃんのやる気のなさ、ぐうたら病がよくわかった?紙のプロレス最高!!【佐々木直子・女・販売員・28歳】

★付録は全部作ってしまいました。（サクマシンのお面は飾ってあります）【荒井芳明・男・会社員・25歳】

★センスが私のツボです!でもコンビニで買うのちょっぴり恥ずかしかった……。【横山三春・女・保母・25歳】

★この厚さで千円ポッキリは安いです。中身もおもしろかった。ますますサクが好きになった!!さくぼん、バンザーイ。がんばれっ、サクちゃん。【清宮幸代・女・医療事務・21歳】

★サクTシャツを着用し釣りに行った所「サクラマス」という魚をGET!! サクに感謝すると同時に「もっとサクのことを知りたい!」と思ってこの本を購入しました。【森谷菜穂美・女・主婦・29歳】

★こんな本を待ってました!! 今まで知らなかった素顔が見れたような気がする!!

★変なつくりだとか、付録やシールにはかり目がいってたけど、まとめて読むと、インタビュー集としては秀逸すぎます。〇〇〇〇〇〇社の出す本や〇〇〇のつくる安易な本とは全然違うのがわかります。【末永功・男・学生・17歳】

★桜庭選手に一歩近づいた気がした。おもしろい。もちろん『さくぼん2』も出るんですよね!?【破壊王きしめん・男・会社員・27歳】【佐藤友宏・男・自営業・28歳】

★大変に良い。

★桜庭和志は、男が「カッコイイ」と思える久々の人です。【谷嘉之・男・会社員・27歳】

★読みやすくて、3歳〜70歳用というのは納得。私の職場の98歳のおばあちゃんでも付録で遊べそう。【匿名・男・学生・20歳】

★ファンにとったら桜庭学習テキストみたいでOKでした。【増井夏子・女・老人ホーム勤務・25歳】

★昔懐かしいマンガ本のようで楽しかったです。

【片山正昭・男・建築業・23歳】

★桜庭が全部載ってる本を見たのが初めてだったのでうれしかった。お面も付いていて凄くよかった。【薮下裕一郎・男・看護士・25歳】

★この本見つけた時、手に汗べっとり脳みそからミソ汁出そうになりやした。アホタンクすぎる表紙。もうやんなっちゃうよ。サク、いつも楽しませくれてエクストラサンクス。そして、俺をラマンにして下さい!! 保存版とW買いだぜ。【池田滋行・男・社会人・18歳】

★1人にやにやしながら楽しく読む私は、娘に「なんか、ママへん」と言われてます。とにかく楽しい本です!!【岡田たえこ・女・会社員・24歳】

★花くまゆうさく先生の『サクラバの汗』がおもしろかったです。

【青木美才・女・専業主婦・34歳】

★サクの歴史が面白い。表紙もいい!GOOD!【大塩虎徹・男・旅人・28歳】

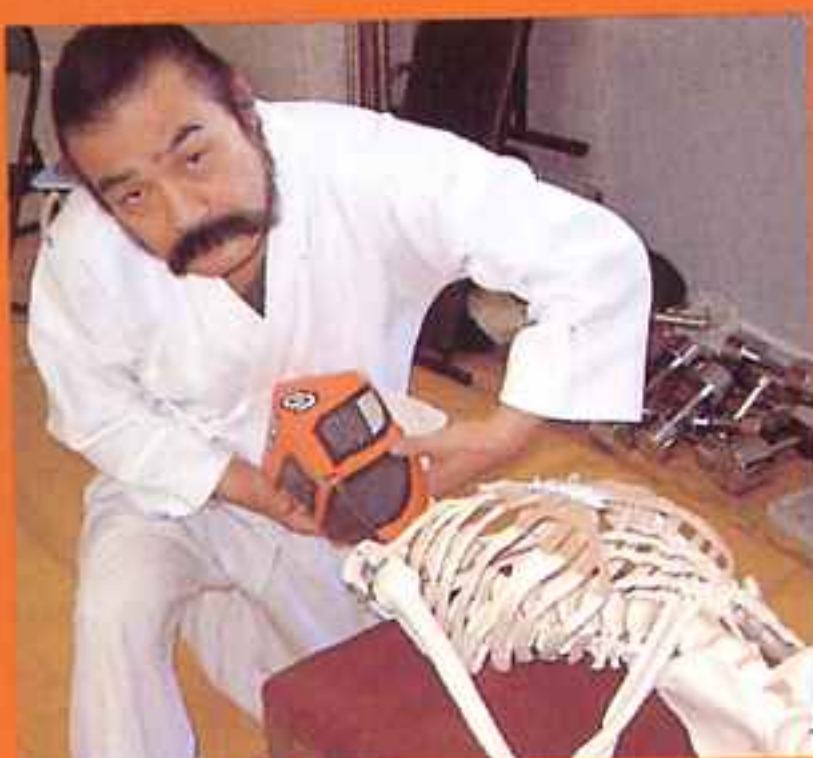
★立派すぎる。もっと安くして欲しかった。このハガキ代もならないありさま。【嶋崎修・男・会社員・36歳】

★『さくぼん2』もほしい。

【小杉勉・男・無職・34歳】

★けっこうおもしろいわい。買ってよかったな。この、けっこうおもしろいってのが実にいいのじゃないのかなあー【川野透・男・会社員・23歳】【落合正史・男・食品製造業勤務・43歳】

有名人・付録の活法用❶

ギョ!! 堀辺始範 そこでいったい何をしてるんですか?

サクのことを、"イエス・サクラバ"と呼ぶ、骨法創始師範・堀辺正史先生。さっそく『さくぼん』の付録・サクマシン立体お面を組み立て、サクマシンに整体を開始したらしい。「桜庭選手のカラダの調子が少しでもよくなるように、サクマシンに整体しました。これで桜庭が大復活しますよォォォ!!」

著名人書評!

水道橋博士（浅草キッド）様

ステーキ亭一人で食事。『さくぼん』（ワニマガジン社）読みながら。『紙のプロレス』誌で4年間にわたって掲載された桜庭和志のインタビュー集。俺たちもキャラクター化されている、さまざまな付録付きで、定価千円は、お買い得。もちろん、俺は、雑誌で全て読んでいる。「リングサイドの自分のコーナーに友達がいたら、ニヤニヤしてましょうか」などと、あのホイス戦の印象的なシーンを97年の初インタビューの時から宣言していたり、あらためて読み返すと、オモロ発見多々あり。確かに猪木様や、前田日明に比べると言葉の強度はなく、ふわふわと、のらりくらりと、すかしているのだが、桜庭のふわふわ言葉を受け止め、リング上の言葉にならない偉業を言語化する作業は、紙プロ色。そのへんは、さすがに山口日昇仕事なのである。とにかく、「紙プロ」読んで、好きなレスラーに影響され、私生活に反映させよ、って思っている俺も、ここ4年で確実に桜庭に影響され、侵食されている。桜庭出現以前は、「プロレスラーがプロレスラーらしくあるために」と同じように、プライベートでも芸人も舐められてたまるか、とどこかで思っていた。それが、今や私生活上では、全然芸人らしく振る舞わなくなった。舞台やテレビ以外では、おとなしく、テンション低く過ごすことに、なんにも、気にしなくなった。これ、確実に桜庭効果なのだ。

（浅草キッドのHP『Kid Return』「博士の悪童日記」より）

こいつが何考えてるかわかるんだよ。恋愛の仕方も全部わかるね！

山本　（真っ先に缶ビールを開け）俺、この取材終わったらウェイトやるんだよ。

成瀬　やったらええやん（笑）。

山本　血行が良くなるからいいんだよ。昔よく前田さん言ってたやん。練習とかメシ食う前にビール飲めって。

成瀬　懐かしいねぇ（しみじみと）。ビール飲んでから寝た方がいいとかあったね。

ガンツ（以下・G）　前田さんが新日本の新弟子時代は、身体を大きくするためにビールを飲めって、よく言われてたみたいですね。

山本　あれだよ、牛にさぁ、霜降り付けるためにビール飲ませるとか言うでしょ。

G　それじゃ、身体が霜降りになっちゃうんじゃないですか（笑）。

成瀬　俺のような身体になれってことじゃないの（笑）。

山本　それ載せていいわけ？（笑）。

成瀬　それは新日本っていうか、角界の伝統でしょ。力道山が角界出身で日本にプロレスを持って来た人だから、チャンコとか付き人とかそういうシステムが現在にも残ってるんでしょ。

G　それが今の総合格闘技界に脈々と受け継がれてるのが凄いですよね（笑）。

成瀬　受け継がれてるよ、一応。

山本　（突然）山口編集長って、ちょっとSっ気あるみたいやね。よく叩くらしいやん、女性を（笑）。

チョロ（以下・C）　何言ってんですか（笑）。

山本　でもさ、女性は顔殴っちゃいけないからボディーってよく聞かない？

C　KOKルールみたいですね（笑）。

山本　アッハッハッハッ！　昔言ってたやん、三原順子が。「顔はやめな、ボディボディ」って（笑）。

成瀬　古ぅ～（笑）。

山本　山口さんは、それ受け継いでるわけ。三原イズムだね（笑）。

リングス10周年目前記念企画

最初で最後の“同期の桜”対談

成瀬昌由×山本憲尚

もうすぐ、リングスは10周年！ その10周年を支えてきたのが山本憲尚と成瀬昌由の生え抜きコンビである。デビュー戦、ヘルニア、そして復帰戦と苦楽をともにしてきたこのふたり。先のディファ大会で1年9ヵ月のブランクを乗り越え復帰戦を飾った成瀬。セコンドとして成瀬をサポートしてきた山憲。「天気いいからお花見しようよ。ゴザとかも買ってきてさ」という山憲の一言で、急遽インタビューは公園で行わることに。最初で最後の“同期の桜”対談、敢行ーーッ！

聞き手／ガンツ＆チョロ
撮影／吉場正和
designed by hisa (Two Three)

悪いけど俺もわかるよ。お前の乱れ具合も全部知ってるから（笑）

成瀬　どんなイズムだよ！（笑）。でも、なんでお前そんなに詳しいの？
山本　独自のCIAがあるんだよ（笑）。でもね、やっぱり女性は愛着しなきゃ。
成瀬　愛着って意味わかんねえよ（笑）。愛撫の間違いじゃないの？
山本　間違ってないよ。愛着って言うよね？　愛着だよ！（キッパリ）。
C　（勢いに押され）山本さんが言うんだったら言います！（笑）。
山本　でもね、二人の対談は最初で最後だと思うよ。だから、俺、引き受けたの。
G　それは貴重ですね！
成瀬　（山本に向かって）なんで？
山本　え？　なんとなく（笑）。
C　で、成瀬さんは1年9ヵ月振りの復帰戦を終えたわけですけど。
山本　俺はいたせりつくせりしたよ！
成瀬　は？　なんて言ったの？（笑）。
山本　いたせりつくせりしたじゃん！
成瀬　もう一回言って（笑）。
山本　なんだよ、うるせえなぁ！（笑）。
G　“至れり尽くせり”ですね（笑）。
山本　あ、そうか（笑）。でも、俺は間違ってねぇよ！
成瀬　俺らが間違ってたんだ（笑）。
山本　（気にせず）ていうか、俺が持ってる100％を彼に注入してあげたね。
成瀬　いや、確かに山本がいなかったら俺の復帰はなかったね。いろいろとサポートしてもらったから。
山本　だって、こいつ、試合の一週間前から緊張してんだもん（笑）。
成瀬　してねえよ！（笑）。
山本　いや、してたしてた。結構青くなってたよ（笑）。だいたい一週間前だったら、（練習）抜くんだけど、やっぱり復帰戦っていうのは、なかなか勘が取り戻せないんだよね。そういうので本人は焦るわけよ。
G　山本さんも同じような経験があるからよくわかるんでしょうね。
山本　そうそう。練習でも思うほど動けないんだけど、実戦はまた練習と違うからね。こいつは一週間前と追い込みの時期と練習量、あんま変わんないんだよ（笑）。
成瀬　あぁ～、確かに（笑）。
山本　それで、試合の前日、寝てる時に、成瀬から電話が掛かってきて「スパーリングやろ」って言われてさ（笑）。
G　前日の夜ですか（笑）。
山本　「はぁ～？」と思って（笑）。「明日試合やで？」って言っても「いや、やるよ」って。しょうがないからやったけどさ。
C　やっぱり成瀬さんにとって、そういう時に頼れるのは山本さんなんですね？
成瀬　デカかったんで（笑）。“仮想フィエート”ってことで。だけど、フィエートは（構えが）オーソドックスなのに山本はサウスポーでやりたがるんだよ。
山本　ていうかね、一つの型にはまっちゃいけないわけ。

成瀬　「当日、フィエートがサウスポーになるかもしれないじゃん」って（笑）。

山本　だって、あらかじめインプットしてさ、インプットしたものが来るとは限らないでしょ？　人間って何くるかわかんないわけじゃん。ジャンケンだってそうだよ。ジャンケンも「グー出すかな？」って思ってても、チョキ出すかもしれないじゃん。まず、枠を決めつけちゃいけないわけ。

成瀬　いや、根本がオーソドックスかサウスポーかっていうの……。

山本　（遮るように）ていうか、普通にスパーリングやってたら、誰が来ても関係ないんだよ。わかるでしょ？

C　でも試合前日にフィエートを想定して欲しいのに、それは混乱させるだけだと思うんですけど（笑）。

成瀬　最初はオーソドックスでやってるんだけど、いつの間にかサウスポーに変わっちゃうんだよ（笑）。

山本　（可愛らしく）だって、俺、オーソドックス出来ないもん。

成瀬　まあ、なんとかなりましたけどね。

山本　それに、緊張してたから、なんとか自信持たせなきゃいけないじゃん。そのためにはガチガチのスパーリングやるんじゃなくて、相手がやりたいことをワザとやらせたり、腕の一本でもくれてやったりするわけよ。「お前の技術凄いよォ！」ってさ。

成瀬　見え見えだったよ、あれは（笑）。

山本　気付いてたんだ（笑）。でもね、自信を持たせることって大事なんだよ。

成瀬　パートナーは伊藤（＝練習生）と山本にやってもらってたんだけど、途中で伊藤がまたヘルペスにかかりやがって（笑）。山本もまだ肩と拳がまだ完治してなかったから、試合直前になってしばらく1人で藤原道場に行ってたんですよ。そういう時に肋骨折ったりしたんだけどね（苦笑）。

C　肋骨折ったのは試合の何日前だったんですか？

成瀬　10日前ですね。

山本　それはオーバートレーニングだね。オーバーワークになるとケガするわけよ。

G　でもオーバートレーニングって言えば山本さんも有名じゃないですか（笑）。

山本　でもね、オーバーワークって自分で決めちゃいけないわけよ。

成瀬　お前が言うな！（笑）。

山本　藤原先生は「オーバートレーニングは本来ない！」っちゅうわけよ。「お前は自分で自分の限界決めてんだぜ！」って言われたら、こっちも「決めてません」って言うしか言いようがないじゃん（笑）。それを毎日言われてたら洗脳されて「俺にはもうオーバーワークはないんだな」って思うわけよ。要は気持ちの問題よ。

「俺はオシャレ格闘家だけどね」（山本）「アハハハハ！　そうだったの？」（成瀬）

成瀬　（うなずいて）山本が正しい！　今のオシャレ格闘家、オシャレ志向の平成の格闘家達に言いたいね（笑）。

山本　俺はオシャレ格闘家だけどね（笑）。

成瀬　アハハハハ！　そうだったの？

山本　でもオシャレになりきれない。

C　願望はあるわけですね（笑）。

山本　あるある（笑）。

成瀬　こいつ、自分で暴露してるよ（笑）。

山本　オシャレで強ければそれが一番いいことじゃない？　汚くて泥臭いよりさ。

C　今の時代はそれじゃダメですか？

山本　今はウケないでしょ。それはもう藤原さんの時代のものだからね。今は「カッコ良くてオシャレで強い」っていうのが憧れの格闘家のイメージなわけじゃない？

成瀬　でもウチの前田道場で1人も眉毛に手入れしてるヤツいないよ。しいて一番着る物に気をつけているのは金原さんだな。金原さんが身に付けているものってほとんどがブランド品とか一流品だよ。道場のサンダルも『グッチ』とかだしさ（笑）。

山本　あのサンダルも最初便所スリッパかと思って「金原さん、なんで便所スリッパで入ってくるんですか？」って言ったら「これ、『グッチ』ですよォ～」って（笑）。

成瀬　前田道場の超オシャレさんだね。時計も『ブルガリ』だし。

山本　ただ……。

G　“ただ”なんですか？

成瀬昌由　1年9カ月振りの復帰戦　2・20ディファ有明

背中に“狂”の文字と成瀬家家紋が入った和風コスチュームで1年9カ月振りにリングへ帰ってきた成瀬。一方、久々の来日となるフィエートも、存在感は相変わらず抜群。序盤は、フィエートの打撃にたじろぐ場面も見られた。

成瀬のセコンドには山本、高阪、金原といったリングスジャパン勢が勢揃い。なかでも、この日、会場一番乗りの山本は、試合直前まで、成瀬の緊張をほぐしたり、ウォーミングアップさせたりと、持てる力を100％注いだ。まさに、いたせりつくせりしたと言えるだろう。

フィエートの打撃に手こずりながらも、成瀬は素早いタックルでテイクダウンを奪うと、すかさずマウントへ。成瀬がアキレス腱固めを極めると露骨に嫌がり暴れるフィエート。最後は足首をキュッと捻ってタップを奪った。

（笑）。

山本　ただ……なんでもない。

G　アハハハ！　そういえば、初期、前田道場は茶髪禁止だったんですよね。

山本　俺、前田さんの引退試合の時に金髪にしたじゃん。前田さんはよく「俺は金髪が嫌いや」とか言ってたから、最後の試合は、ちょっと怒らせようかなと思って。

G　でも、色的には満足出来ない色だったんですよね。

山本　俺的には、あれは金髪じゃないわけよ。あれは『ブルータス』にも出たんだけどさ、俺の行きつけの……あれっ、なんて言うんだっけ？

C　カリスマ美容師ですか？

山本　そうカリスマ！　でも、カリスマなんとかなんだけど、美容師じゃないヤツ？

G　カリスマ理容師ですか（笑）。

山本　いや、床屋やで。

成瀬　だから理容師だっていうの（笑）。

山本　（唐突に）床屋にあるクルクル回ってる青い色と赤い色のヤツ、なんの意味か知ってる？

C　知ってますよ。あれは静脈と動脈ですね（アッサリと）。

山本　（寂しそうに）なんだ、知ってんだ。

成瀬　こいつ、こういうつまんない雑学を「どうだ」って感じでよく言うんだよ（笑）。

山本　そんなのどうでもいいんだけど、とにかくカリスマ床屋に任してるんだよ。「今日は前田さんの引退試合だから青いイメージでいくよ」って言われたわけよ。要するにあれは青なんだよ！（キッパリ）。

G　えっ、アレは青だったんですか！　それは衝撃の新事実ですね（笑）。

成瀬　どっから見てもあれは金だよ！

山本　でもね、あれはカリスマから言わせると青なんだよ。で、なんだっけ？

G　成瀬さんの復帰戦の話をしていたような気がしますね（笑）。

山本　復帰戦当日はね、セコンド付かなきゃいけないと思って、気合い入れて会場に入ったんだけど誰もいないんだよ。

C　アハハハハ！　山本さん、会場一番ノリだったんですか？（笑）

山本　そうそう（笑）。でも、あれだね、高阪（剛）もセコンド付いていて一瞬目が合ったら、あいつガラにもなくセンチメンタルな顔してたよ（笑）。

成瀬　どんな顔やねん（笑）。

山本　「お前は松本伊代か？　伊代はまだ16だから」って顔だよ（笑）。「お前、なにセンチメンタルになってんねん！」って。

C　でも、金原さんもセコンドに付いていたし、豪華なセコンド陣でしたよね。

成瀬　金原さんも付いてくれたのは嬉しかったね。TKには「付いてくれ」って頼んでたけど、金原さんは声掛けてなかったのに黙って付いてくれたからさ。

山本　でもさ、本来一対一で闘う競技なのにセコンドって、おかしいよね。

成瀬　いきなりセコンド論か（笑）。

前田さんと闘ったときは、俺的には、金髪じゃないわけよ!

山本　そう思わない？　セコンドの指示に従って人間が操作されるわけじゃない。ようするにロボットなわけ。『鉄人28号』の正太郎君だよ（笑）。「右パンチ！　左パンチ！」って操作するわけ。そうでしょ？

成瀬　でもさ、この間のフィエート戦の時、俺がマウント取ってる時に、お前、ちっちゃい声で「サイド、サイド」って言ってるんだけど、向こうに丸聞こえなわけよ。サイドだから向こうもわかるんだよ（笑）。

C　アハハハハ！　山本さんの指示通りサイドにいった瞬間に……。

成瀬　フィエートもサイドになるのを待ってて、サイドになるのに合わせて起き上がったからね。バレバレやん（笑）。

山本　（自信満々に）だろ？

成瀬　いや、「だろ？」じゃなくて（笑）。

山本　俺の「サイド」っていう発音が良かったわけよ！（笑）。

C　外人にも通じたわけですね（笑）。

山本　そうそう（笑）。

C　でも、やっぱり10年も一緒にいるわけだし、成瀬さんの心情とかは、山本さんが一番わかるんでしょうね。

山本　わかるよ。こいつが何考えてるとか、こいつの恋愛の仕方も全部わかる。

G　アハハハ。恋愛の仕方まで（笑）。

成瀬　悪いけど、俺もわかるよ。お前の乱れ具合も知ってるよ（笑）。

山本　「手つなごうか？　いや、やめとこうか」とか考えてるのが想像できるよ（笑）。

C　そうなんですか（笑）。

山本　でもね、こいつはヘルニアで苦しんだけど、試練を乗り越えられない人間には試練は与えられないんだよ。

成瀬　それって、誰の言葉？

山本　あ？　俺の言葉だよ。

成瀬　ウソだぁ（笑）。何か読んだろ？

山本　読んでない。試練を乗り越えない男

成瀬が勝ち名乗りを上げると、サザンの「希望の轍」が流れ、場内が感動で包まれる中「今日が最後の闘いの日だと思ってやりました。今までありがとうございました」と成瀬はアピール。場内は「引退なの？」と、一瞬にして静まり返った。

試合後、「俺に引退を勧めた医者にザマーミロって言いたいですね」と成瀬がコメントを出していると、突然、前田社長が現れ、「成瀬、お前、頭飛んでないか？　お客さんみんな、お前が引退すると思ってポカーンと口開けてたぞ。ちゃんと説明してこいよ。俺までビックリしたよ（笑）」とツッコミを入れた。ちなみに成瀬は試合の10日前に肋骨を骨折していたことを明かした。

成瀬昌由は営業力も凄いんです！　というわけで、1年9カ月ぶりの復帰戦には、成瀬の友人、知人、親戚など、なんと100人以上の関係者がチケットを買って来場したという。最後にみんな集まってもらい会場内で集合写真。成瀬を探せ！（バレバレ）

には試練は与えられないんだよ。わかる？いい意味で、成瀬はもう一段階精神的に強くなるために、神様が試練を与えたわけ。これを乗り越えたら人間的に大きくなるよと。現に乗り越えたわけだから、精神的に一回り二回り大きくなったんじゃない。この先、なにがあろうとも、やっぱり克服したって自信があるからなんでもクリアー出来るんじゃないかな。

成瀬 （感心して）凄いなぁ。こいつね、普段はズレッぱなしじゃないですか（笑）。でも、たまにこういうこと言うからさ、みんな「おおッ！」って思うのよ。

山本 どこがズレてんの！ （ガンツに向かって）ズレてないよね？

G ズ、ズレてないですよ（笑）。でも、山本さんもヘルニアには相当苦労したみたいじゃないですか。

山本 俺？ 俺は大丈夫だったね。あっ、でもダメだった？

G どっちなんですか？（笑）

山本 いろんな整体行ったんだけど、ますます悪くなってさ。もう足が痺れてさ。でも、ヘルニアの時って痺れるんだけど、あっちの方はビンビンなわけよ（笑）。

C アハハハ！ それも神様の与えた試練なんですかね（笑）。

山本 きっとそうだね（笑）。ビンビンだけどさ、痛くて出来ないわけよ。

成瀬 ビンビンなのは練習してないからだよ。結局、練習で使うエナジーが発散されないから、アッチにいくわけでしょ。

山本 （話も聞かず）ちゃんとね、ヘルニアの説明書に書いてあるんだよ。まず、正常位ダメでしょ。駅弁ダメでしょ。

C そうなると、上に乗っかってもらうしかないわけですね（笑）。

山本 いや、女性上位もダメだよ。これはマジメな話、医者から言われたんだけど、あらゆる体位はほとんどダメで、一番いいのは横になって、後ろからそっとって言われたから（笑）。これね、ちゃんとヘルニアのパンフレットに書いてあるんだよ。

成瀬 それマジメな話？

山本 マジメな話。正常位とかは腰痛めるから、横から女性にくっついて、背後から小刻みにやれって（笑）。適度な運動は腰にはいいらしいんだよ。でもね、ブリッジしたらダメだよ。

成瀬 お前、それは特殊な体位じゃねぇかよ！ アクロバットじゃん（笑）。

C アハハハハ！

成瀬 ●●さんじゃないんだから（笑）。

山本 でも●●さんってブリッジした後、悪くなったらしいんだよね。

G アハハハ。それは初耳です（笑）。

成瀬 俺もコイツも、お互い別府にヘルニアに凄くいいとこがあるんだけど、よく行ってたんだよな。

山本 俺ね、別府に行った時、ヒロ斉藤さんに会ったんだけど、ヒロさんは、俺を見て「凄いですねぇ！」って言ったんだよね。

鶏肉ともやし中心のプロフェッショナルな食事療法の結果、両国大会のリングに立った山憲は必用以上にグッドシェイプ。しかし、オーフレイムに秒殺負けを喫してしまう。

子供達が大騒ぎしている中で行われたお花見インタビュー。突然、子供に輪ゴムで攻撃したり、ガンツの頭を空き缶で殴ったりと実にアグレッシブな山憲。

成瀬 えっ、何が？

山本 よくわかんなくて、「何が凄いんですか？」って聞いたら、「何かわかんないけど、凄いですねぇ」って言うわけよ（笑）。

成瀬 何かを感じたんだよ、お前の何かを（笑）。で、なんて言ったの？

山本 「凄いですねぇ」って言われて、よくわかんなかったけど、「あっ、ボク凄いんですよ」って言ったよ（笑）。

成瀬 アッハッハッハッ！

山本 それで、ヒロさんと会ったの冬場だったんだけど、ヒロさんは顔黒いんだよね。

成瀬 だから何だよ（笑）。

山本 「凄いですねぇ」って（笑）。

C どういうオチですか（笑）。

成瀬 あと俺、試合後、「医者のバカヤロー！」って言ったんだけど、俺が言いたい

ヘルニアの時って痺れるんだけど、あっちの方はビンビンなわけよ（笑）

プレイバック 山本vs成瀬 最初で最後のデビュー戦（そりゃそーだ）

旗揚げ1周年記念大会で行われたリングス初の生え抜き対決。2人とも実に初々しい。ちなみにこの日の興行にはK-1でお馴染みのピーター・アーツも出場！【H4・5・16有明コロシアム】

見てみ、このキレイな弧を描く山本のフロントスープレックス！今ではあまり見られなくなったがKOKルールでも豪快にブン投げてもらいたい！　試合は15分時間切れ引き分けという結果に。

激しいしばき合いは山本と成瀬の代名詞ともいえるだろう。両者の対決はデビューから3試合続き、いずれも時間切れ引き分けとなっている。再び両者がリング上でぶつかり合う日は来るのか？

今はね、ミスタードーナツ。ミスタードーナツは1回に最低10個は食うよ！

医者っていうのは最初に行った病院の医者だから。最初の医者はホント腑抜けでやる気なくて、自信がないみたいだったから、「こいつはダメだ」って見切って一週間で退院したんですよ。その後にいろんなとこ調べたら、立川の病院に脊髄専門に研究してる人がいて、その先生はやる気で「大丈夫だ」って言ってくれて、メンタルな部分でも俺をやる気にさせてくれたんだよね。

山本　バカとハサミは使いようってことよ。医者にもいろいろいるわけやん。人間の内面ってハッキリ言ってわかんないから。金儲けでやってるかもしれないし、ちゃんとリサーチしなきゃいけないんだよ。

G　デカイ病院がいいってわけじゃないですからね。

山本　そうそうそう。バカとメスは使いようってことだよ（笑）。

成瀬　いい言葉だ（笑）。

山本　でも、あれはあれであれじゃない？

C　アハハハハ！　なに言ってんだかさっぱりわかりませんよ（笑）。

山本　ペンは拳より強しって言うやん！

成瀬　（山本に向かって）どういう意味？

山本　だから、ペンの冒涜でさ、拳より強いってことだよ。

成瀬　うん。あってるあってる（笑）。

山本　でしょ。あなた達は、ペンを俺らに振りかざしてるみたいなもんだよ。振りかざしてて、インタビューしてるでしょ？

成瀬　いや、別に彼らは俺らのこと攻撃してないじゃん（笑）。

山本　攻撃はしてないけど、拳を持ってインタビューしてるわけよ。「復帰どうですか？」みたいに（笑）。で、なにかあるとブッた斬ろうと思ってるでしょ？

C　「復帰どうですか？」ぐらい聞いたっていいじゃないですか（笑）。

成瀬　そうだよな（笑）。

C　そんなこと言うんだったら山本さんの性病の話とか聞きますよ（笑）。

山本　（即座に）性病って怖いよね！　梅毒とか特に怖いよ。

C　そっちのキャリアはボクの先輩なんですよね（笑）。

山本　いや、俺じゃないよ。チョロのことだよ（笑）。

C　ずるいよなぁ（笑）。

山本　でもね、安いヘルス行くからいけないんだよ！　●●られてもいいけど●●ちゃダメなんだよ！

C　アハハハ！　でも、それは格闘技にも通じますよね（笑）。

山本　そうそうそう（笑）。

成瀬　そうなのかぁ？（笑）。

山本　「やられる前にやれ！」ってこと！

C　素晴らしいお言葉です（笑）。

G　ちょっと、脱線しましたけど（笑）、新弟子時代、二人が最初に会った時の印象を聞かせてもらいたいんですけど？

山本　そんなの聞きたくもないよ！

C　それを言うなら言いたくもないですよ（笑）。

山本　あっ、そうか（笑）。でもね、昔を振り返ってもしょうがないんだよ。現在に生きなきゃ！　未来を振り返らなきゃ！　昔や過去に戻ってもしょうがないでしょ？

G　未来の話としては、今度ベルトが新設されますけど、山本さんはヘビー級とミドル級、どっちを目指すんですか？

山本　俺は両方出来るよ（アッサリ）。

C　両方エントリーしますか（笑）。

山本　この間の両国の軽量の時に藤原さんに「お前体重落としすぎだよ！」って言われて（笑）。いつの間にか93キロまで落ちちゃってさ。自分でもビックリしたけど、ヘビー級は100キロないとダメ！

成瀬　気づくの遅いよ！（笑）。両国の試合前は、山本は凄い節制してて、ホントにプロフェッショナルな食事をしてたからね。「食べた方がいいよ」って言ってたんだけど「これでいいんだ！」って。

山本　腕、骨折してたから、全然ウエート出来なかったんだよ。こうなったらスピードとスタミナで掻き回すしかないなと思ってね。でもね、もう、そんなのやめた（キッパリ）。今はね、ミスタードーナツだね。ミスタードーナツは1回に最低10個は食うよ！

C　それは食い過ぎですよ！（笑）。

成瀬　節制してた頃は、鶏肉ともやしだけとかだったのにね（笑）。

山本　ミスタードーナツはうまいよ。あとモスバーガー。酒もやめてたんだけど、もう関係ない。要は勝てばいいんだよ！（笑）。

成瀬　オシャレになりきれないのはこういうところだろうな（笑）。

G　でも、山本さんの魅力はそういうところですからね（笑）。

山本　なんで？　俺オシャレじゃん。

G　ホントはどぶろくかなんか持って入場してきたらバッチリはまると思うんですけどね（笑）。

山本　あぁ～、昔はよくウォッカ1・5（リットル）とか飲んでたからね。酔っ払って隣のヤツに噛み付きとかしてたもん。

C　噛み付きは反則です（笑）。でも、食うもん食って、たくさん練習して、試合に勝って、それでおねえちゃんともしっかり遊ぶっていうのが一番ですよね。

山本　でもね、俺はチョロみたいに性病ならないよ。だけどさぁ、セックスするなら帽子被るなって言うでしょ？

成瀬　誰が言うんだよ！（笑）。

山本　人前で帽子被るの失礼やん！

C　それは確かに失礼ですね（笑）。

山本　だから、人前では帽子取って挨拶するわけやん。それと一緒なんだよ。おねえちゃんと一緒の時は帽子を取って敬礼するわけよ。理に適ってるでしょ。

G　それがエチケットですね（笑）。礼儀が大切ということで、今日は最初で最後の山本さんと成瀬さんの同期対談でした（笑）。次回は1年後に、また同じように花見でもしながらやりましょう！

山本　今度はさぁ、ノーパンしゃぶしゃぶとかにしようよ（笑）。

成瀬　そんなのもうねえよ！（笑）。

山本　こんなんで記事なるの？　くだらない話ばっかりやん！（笑）。

G　いやいや、十分面白かったですよ。今日はありがとうございました（笑）。

【4月6日、神奈川県・大倉山公園にて収録】

【なるせ・まさゆき】昭和48年3月15日、東京都杉並区出身。山本と同じくリングス一期生。トーナメント21初代王者。椎間板ヘルニアを克服し、2・20有明大会では感動の復帰戦を飾った成瀬。はたして次の相手は誰だ？　そして、成瀬が返上したチャンピオンベルトは再び自身の腰に戻ってくるのか。注目！　173センチ、95キロ。

【やまもと・のりひさ】本名・宜久、昭和45年7月4日、山口県下松市出身。リングス第1回入団テストに合格し、平成4年5月16日有明コロシアムでの成瀬昌由戦でデビュー。ヘルニアに苦しみ長期欠場していた時期もあるが、現在は必用以上に元気！　最近パソコンを買うもすでに飽きたという。190センチ、97キロ。

明大会「バトルジェネシス Vol.7」

リーグ恒例 ファイター賞は差し上げます!

れる逸材。こんな選手が突然現れる

気合い入りすぎ男のマグマ爆発!!

滑川康仁

勝ってもまだ興奮状態の滑川は、倒れる園田に「秒殺するんじゃなかったのかよ!」と咆吼!またしても慌てて霊長類ヒト科最強のレフェリー・和田良覚が、身を挺して止めに入る。

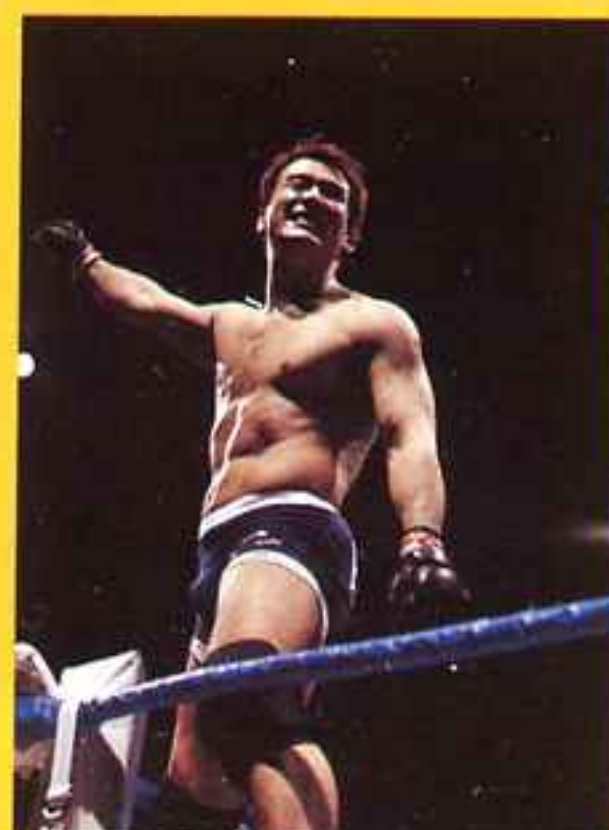
例によって試合前からレッドゾーンをとっくに超えている滑川は、いまにも襲いかからんばかり。人類最強のレフェリー・和田良覚に押さえられる。

3・20リングス『バトルジェネシス』は実に収穫の多い大会だった。旧「実験リーグ」の流れを汲むこの「バトジェネ」は中量級の活性化、若手の育成、そして選手発掘をテーマそしているが、この日はそのテーマどおり、村浜、平、港らビッグネームが中量級の面白さをアピールし、江宋勳という新星の発掘にも成功。そして成瀬も復帰戦を白星で飾り、かなり満足度の高い興行となった。

でも最大の収穫は、滑川康仁とブライアン・ロアニューの存在。まず、ロアニューはコスチュームだけでも合格なのに、あの村浜を打撃で追い込むなど実力を兼ね揃えており、今後リングス・オランダ中量級エースにな

ぶっ殺すモードで狂ったようにパンチを繰り出す滑川、しかし冷静さを欠いているため、決定打を当てることができず逆にカウンターをもらって尻餅をつくが「俺ダウンなんかしてないっスよ!」と言い張る負けず嫌いな面も。

グラウンドになれば完全に滑川のモノ。トップポジションを奪うと、鬼の形相で腕ひしぎ逆十字でしぼり上げた! その間わずか42秒! 熱すぎる男・滑川、日本で久々の勝ち名乗り!

帰ってきた"総合格闘技の申し子"平、快勝!

この日一番の大歓声で迎えられた平。久々の総合ながら、サイドキックやかかと落とし、そして変幻自在のグラウンドと平らしいプロの試合を見事に披露。やっぱり平が一番輝けるのは総合のリングだ。

注目された名キックボクサー、港太郎の総合格闘技再デビュー戦。港はもちろん立ち技で勝負。正確無比なパンチのコンビネーションや、ローキックは明らかに総合格闘技のリングで見るそれとはひと味違った。

おっと出た！　キン肉マン

ブライアン・ロアニュー

元Ｋ－１フェザー級王者の村浜に対し、カウンターのヒザ蹴り一閃！　ロアニューのこの飛び込みざまのヒザは、大いに効果を発揮した。

3.20 リングス ディファ有明大会「バ

実験リー

本誌が勝手に

ベスト・ファ

この2人に差

村浜とロアニューの激しい打ち合い。回転の速い村浜のパンチに対して、ロアニューはよく伸びるストレートで応戦！　ダウン寸前に追い込む場面も。

「相手の苦手な分野で勝負」というスマートな考えの村浜は、グラウンドに活路を求め、ヒザ十字、アキレスからアンクルでタップアウト勝ち。

れる逸材。こんな選手が突然現れるのもバトジェネの魅力だろう。

そして滑川康仁。過酷さでは定評のある前田道場で雑用を4年間努めあげ、今年晴れて解放された滑川。ある意味この日が〝新弟子状態〟から、本物のファイターへの正式デビューという感すらある。それを裏付けるように、初めてその内面をリング上爆発！　4年間のマグマを一気に吐き出すような気迫を見せてくれた。

その熱は控え室でも冷めることはなく、「『DEEP』に出たい」「VTをやってみたい」「パンクラスともやりたい」と咆吼三昧！

滑川よ、そのままの勢いでリングスを突き動かせ！

吠えよ、銀狼！

U-FILE CAMP勢は1勝1敗

第１試合でU-FILEの大久保一樹とスポーツ会館の森素道が対戦。大久保は何度か危ない場面が見られたが、立ち技寝技の総合力で上回り判定勝ち。

『PRE-PRIDE』優勝の肩書きを引っさげて、江宋勲がデビュー。なんと守りの堅い上山相手に、パワーでアームロックを極め、一本勝ちの金星デビュー。この名前覚えておくべきだ。

構成／堀江ガンツ
撮影／黒田史夫
designed by matsu (Two three)

村上一成(U.F.O.)×小路晃(フリー)

俺達の“熱”でマット界に大きな渦を巻き起こしてやる！

小路に何が起こったか？　一昔前のキョンキョン主演のドラマではないが、ここ最近の小路の動向は謎に包まれている。ZERO-ONE、バトラーツ、そして新日本。いつからか村上一成が出場する試合にはセコンドとして小路の姿が見られるようになった。一部では、行方不明説、慧舟會離脱説、格闘技はやめた説など、噂だけが一人歩きしていた小路を真夜中の歌舞伎町でキャッチし真相を聞いてみた。もちろん、村上一成の乱闘付きである。

聞き手／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by さおとめの事務所

——さあ、小路さん！　一時期、行方不明だったみたいですけど、今までどこに行ってたんですか。はっきり教えてください！（笑）

小路　え〜、旅に出てました（微笑）。

——旅！（笑）その割にはよくプロレス会場に出没してましたけど（笑）。

小路　まぁ色々とぉ（微笑）。

——インターネットとかでは「小路晃は慧舟會を離脱したんじゃないか」という噂が出てましたけど、その辺は事実なんでしょうか？

小路　それは事実です（正式には4月18日をもって慧舟會を独立）。

——小路さんがやってたA3ジムの方は？

小路　まぁ……、お返ししました。いまはフリーとして、自分の力でどこまで出来るか試してみようと思います、はい。

——ぶっちゃけた話、辞めた経緯というのはどういうことなんですか。

小路　え〜と、ホントに自分のわがままで。もっと自分というものを色んな意味で広げてみたいと思いまして。

——ま、言いづらい話だと思うんですけど、ズバリ言って金ですか（笑）。

小路　いや、それは違いますよ！

——じゃあ、なんか不平不満とかがあったりしたわけですか？

小路　それは全くないッスよ。ホントに自分のわがままだけで、はい（微笑）。

——不満はないと。

小路　ないです。ホントに自分自身、一回外に出て、世界をもっと広く見てみようというか。ホントに、自分のわがままなだけで。

——すべて小路さんのわがままってことなんですね（笑）。

小路　そうです。わがままと思ってください。

——ところでZERO—ONEの大乱闘の中でも、4・9新日本の大阪ドームでも目立ってましたよね、ただ居るだけなのに（笑）。

小路　はい（照）。村上は自分の兄弟分みたいなもんなんで多勢に無勢でなんかあった時はボクが絶対、力になりたいと思って。ただ、あいつが暴れると誰も手をつけれないんで。止めるだけで大変ですから（笑）。

——小路さんはプロレスに行くんじゃないかって噂も出てますけど、実際のところ、その可能性はどうなんでしょう？

小路　行くとかそういうのじゃなくて、村上と一緒に行動を共にするというそれだけで、すぐプロレスに行こうとかそういう風には思ってないんで。カズと一緒に行動を共にする中で、何があるか分からないですけど。

——TVのプロレス中継とかで見たら「小路はUFO入りなのかな」って思う人当然もいるでしょうけど、その辺はどうなんですか。

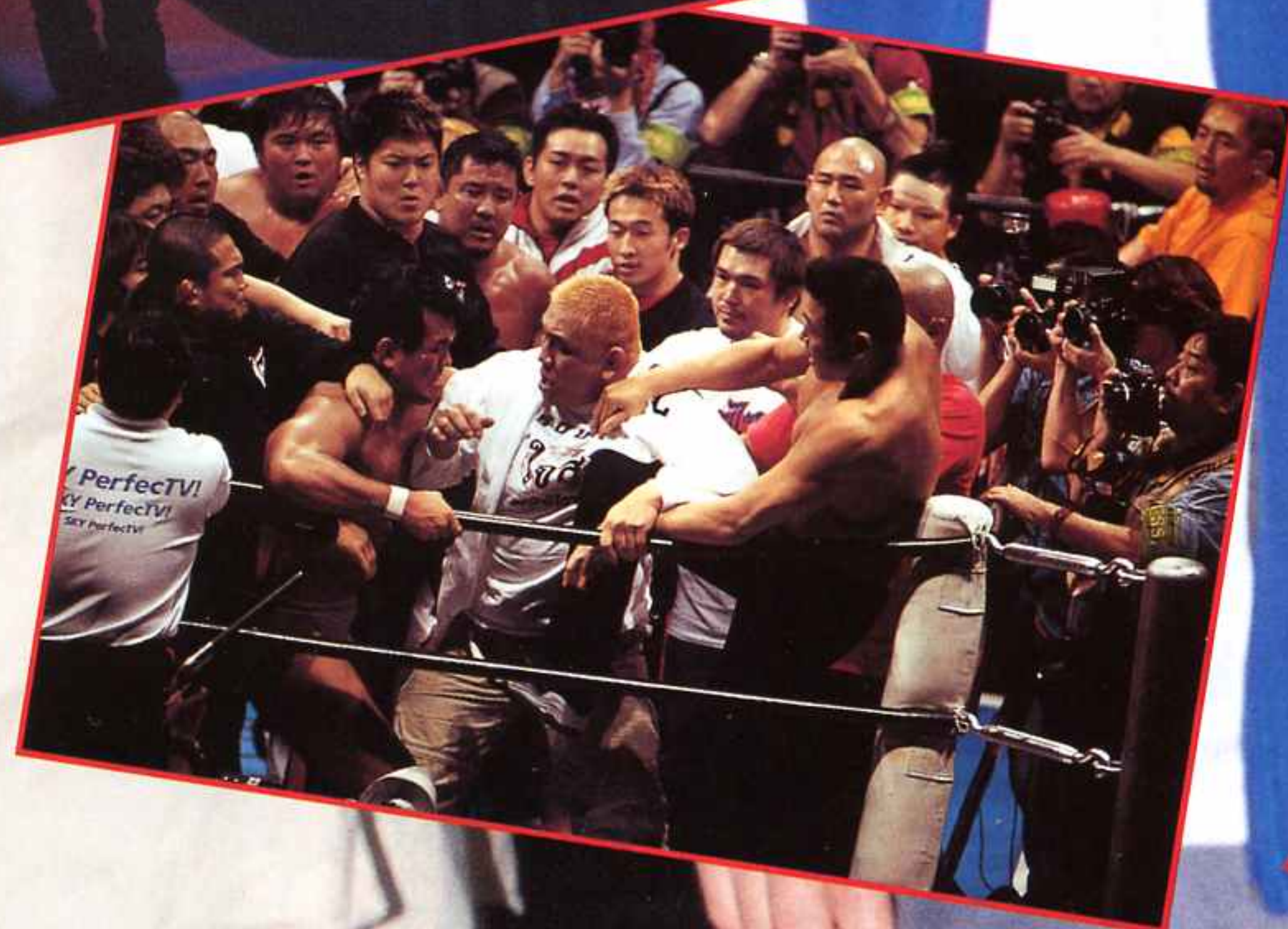
小路　それは今は、全くないです。

——兄弟分みたいな関係でとりあえずサポートに付いているっていう。

小路　はい、そうです。

——このまま格闘技を辞めてしまうんじゃないかという話も一説にはありましたけど？

小路　一時はそういう気持ちに少しなったこともありましたけど。やっぱ、みんな温かい言葉掛けてくれたり、お手紙頂いたりとかがあったんで、やっぱ辞めれないなと。もう今までの中で、一番なんか、人の温かさというのを感じましたね。

〝平成の暴れん坊大将軍〟
村上と合体！
小路に何が起こったか？
LARK

小路晃

——現時点では、さしあたっては試合の予定はないわけですか?

小路 そうですね。次の『PRIDE』に出るつもりで今は練習してますけど。

——辞める直前にはリングスに上がる話もありましたけど、ミスター・プライドとしては『PRIDE』を主戦場にしていきたいっていう気持ちが強いんですか。

小路 そうですね。ただ、前田さんとも共通の知り合いがいまして。たまたまお電話で話して「フリーになりました」というご挨拶はしましたし。

——じゃあ、機会があればリングスにも、という感じですか。

小路 はい(微笑)。

(突然、村上が乱入!)

村上 ウオリャヤァア! お前、余計なこと詮索してんじゃねえよ!(と聞き手のチョロに蹴りをブチ込む)。オリャヤャヤ!!(さらにパンチを叩き込む!)

——ああああぁぁぁ! (怯えて)すいませんすいません!

村上 つまんねぇこと聞いてんじゃねぇよ!

(ガツッ!)。

——イタッ!

小路 うわぁ、相変わらずだなぁ(微笑)。なんか大阪を思い出すなぁ(笑)。だけど、ホントになんにもないですよ、全部ボクのわがままなんで。

——そんなことより早く止めてくださいよ、小路さぁ〜ん!(と助けを求める。小路が羽交い締めしたことでなんとか村上は静まり、改めて村上・小路対談をスタート)

——で、では仕切直していきますけどぉ、小路さんが村上さんのセコンドに付いたのはいつ頃からなんですか?

小路 あれ? 武藤さんとやった時だっけかなぁ。確か2月ぐらいだと思います。

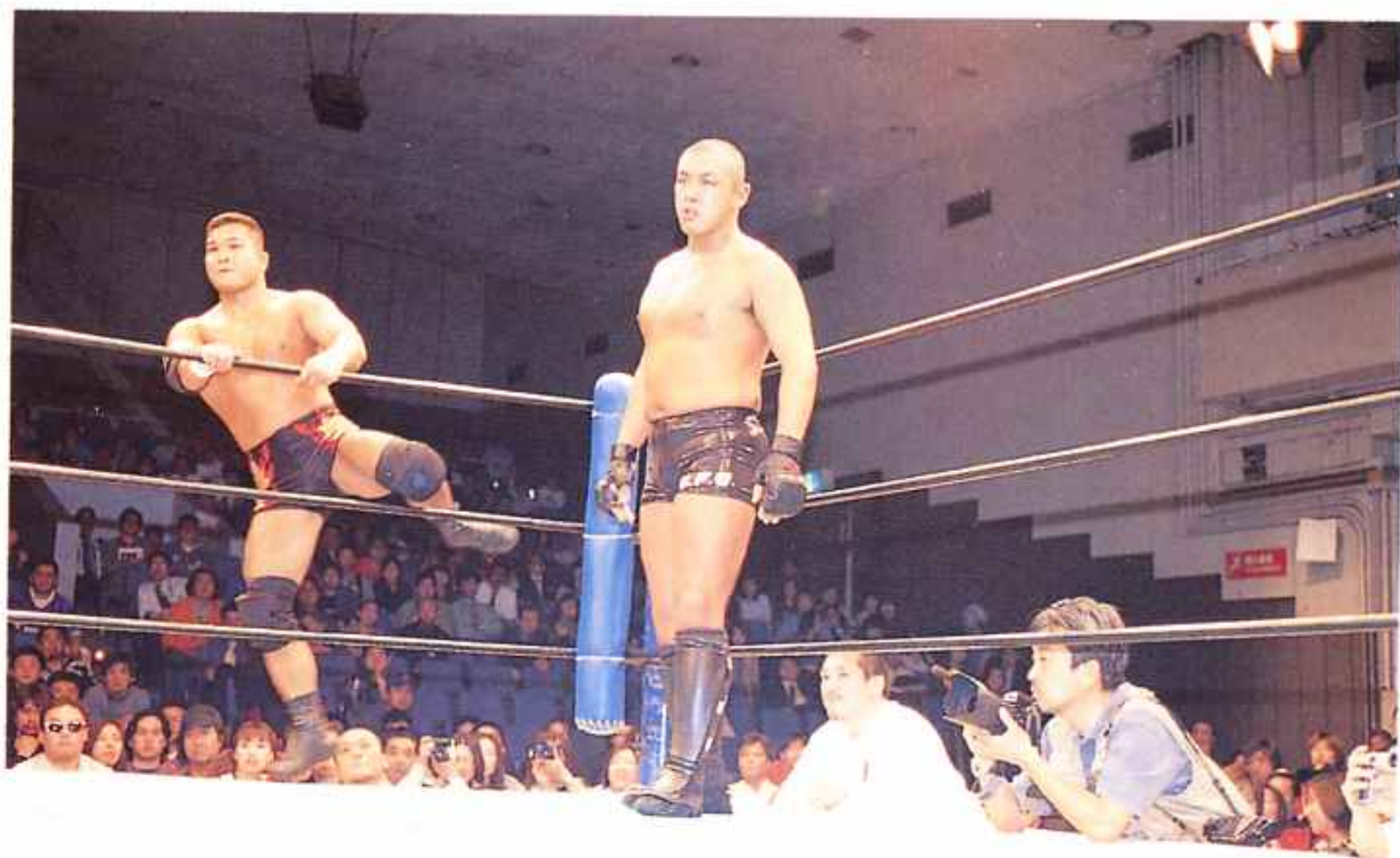
——あぁ、猪木さんがホームレスの格好で現れた両国大会からですね。それで、お二人はどういう関係なんですか。小路さんの方は兄弟分と言ってましたけど。

村上 小路とは学生時代からの仲間で、今回フリーになるって話を聞いたんで「じゃあ、一緒に練習しようよ」っていう軽い気持ちからですよ。で、軽い気持ちでセコンドも頼んだと。軽いタッチで(笑)。

——そんな軽い気持ちだったんですか(笑)。

小路 はい(微笑)。

村上 それが、巷ではそうは取ってくれてないようで(笑)。

ボクは村上のセコンド付いても全然目立ってないですよね(微笑)(小路)

——そりゃ、村上さんも慧舟會を辞めた人ですし、意味深に取られるのはしょうがないでしょう。小路さんもほとんどアピールもせずにセコンドに付いてるだけだし(笑)。

小路 はい(微笑)。ボクは全然目立ってないですよね。

——目立つことは目立ってるんですけど、どうしたいのかなっていうのが、いまいちよくわからないですからね。

村上 あえて説明するのも面倒臭いし、流れ的にそうなっちゃったと(笑)。

——簡単なことだったんですね(笑)。二人の合体については自然の流れでそうなっただけで、何も邪推することはないと?

村上 そうッスね。あとはいま、オレの周りに気がつけば誰もいなくなっちゃったんですよ。暴れてばっかりいるから(笑)。そこに小路が現れたんで、イイ感じですね。

——村上さん的には、昔付き合ってた彼女と久々にやったら気持ち良かったって感じですかね(笑)。

4・13バトラーツ後楽園大会では、カール・マレンコの欠場により、急遽、田中将斗と異色タッグを結成した村上。試合は、久々の対戦となる石川雄規相手に、これぞケンカ格闘プロレスと言える壮絶な蹴り合い殴り合いを披露。

村上 やっぱり気持ちいいなと(笑)。やっぱりここだろうっていうのがわかりますからね。なんか凄い刺激的でしたよ(笑)。

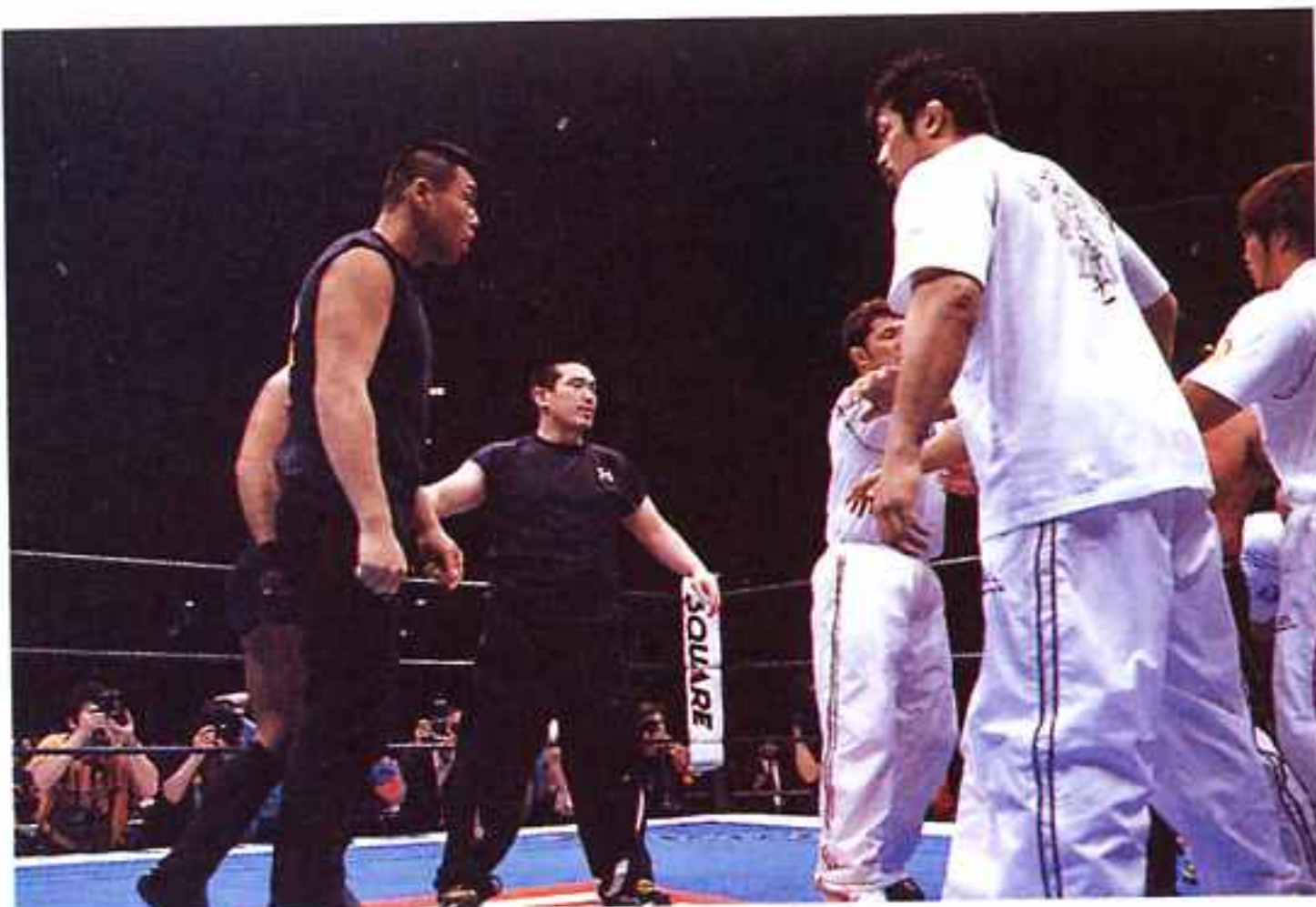
——お互い気持ちいいところが分かり合ってると(笑)。とはいえ、やっぱり村上さんが試合でキレちゃったら、小路さんは止めるのも大変なんじゃないですか?

小路 大変ですねぇ。ホント、あれは大変なんですよぉ(しみじみ)。

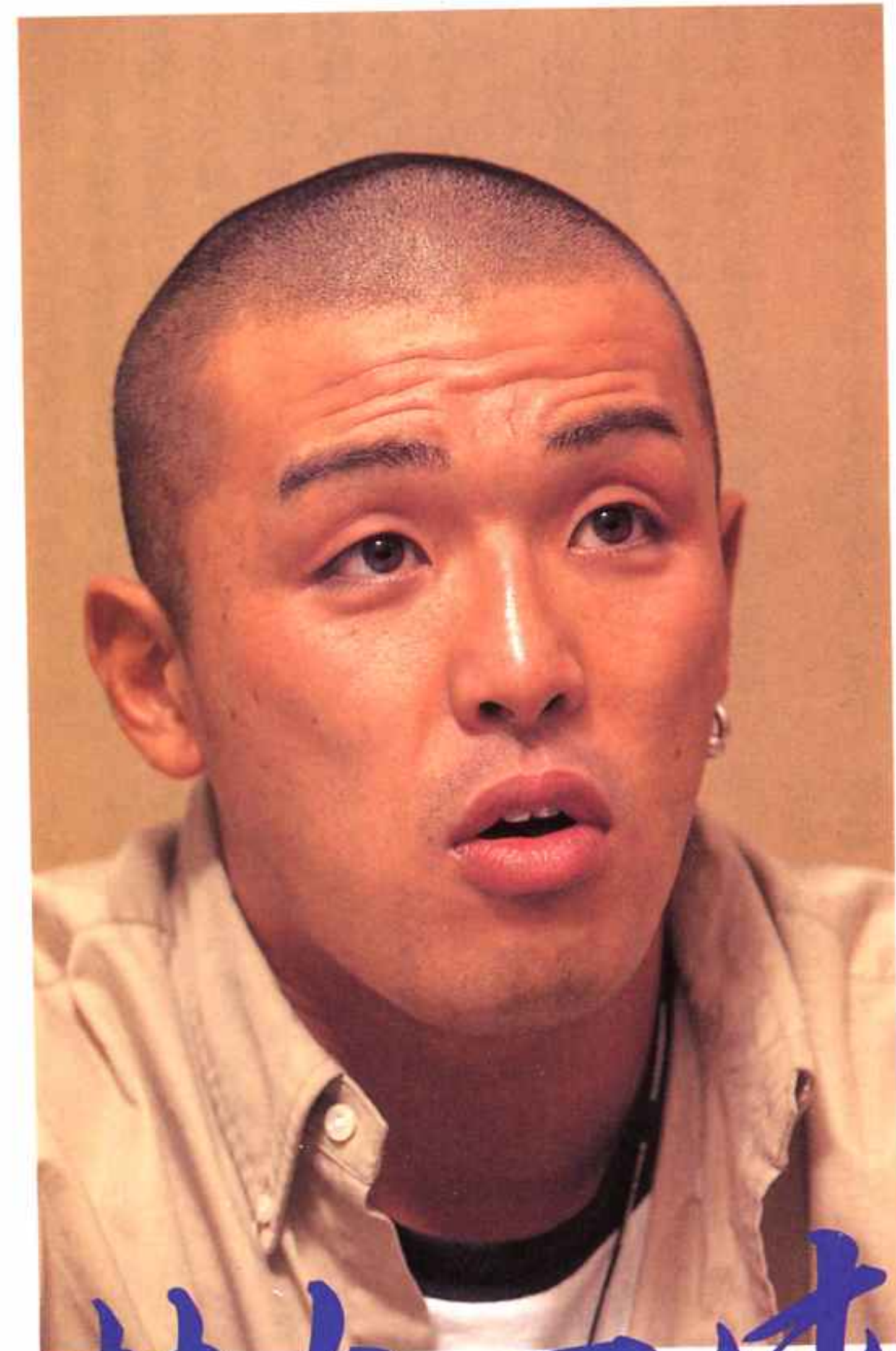
村上 ガハハハハ! 我ながら、ご迷惑お掛けしてます!(笑)。

——この間の大阪ドームのライガー戦なんですけど、ボクはTV観戦だったんで、試合展開は全然分かんなかったんですよ(笑)。

村上 TVでは試合写ってなかったみたいですからね。(突然)でも、ライガーってなんであんなカッコつけてんの! マスクの下にまたマスクって何あれ!

――でも、一応あれはライガーさんにとっては戦闘用マスクということなんですけど。
村上 戦闘用だか何だか知らないけど、風呂でも入ってろって！
――アハハハハハ！ それは銭湯用ですよ（笑）。でも、村上さん的にはライガーさんがマスクをとったのはカッコ付けてるように見えちゃったわけなんですね。
村上 そりゃそうでしょ！ 最初、自分からマスク取るから「あ、やる気あるなぁ」って嬉しくなったら、その下にまたマスクでしょ？ からかわれてるのかと思って。じゃあ、マスクを取ってやろうと思ったんですよ！

4・9の新日本大阪ドーム大会では村上、小川と共に花道を入場、TV中継では何故かそのことには一切触れられなかった。そして村上のセコンドと言えば乱闘が付き物。しかしながら、小路に手を出す選手は何故かいない。

――とりあえず、すぐにマスクを剥ぎにいきましたもんね（笑）。
村上 で、なんかオレがマスク取って反則負けだとみんな思ってるみたいなんですけど、オレ途中までしかマスクの紐取ってないんですよ。なんか面倒臭くなっちゃって「もういいや。殴れるだけ殴っておこう」と思って。
――面倒臭いから殴っておけと（笑）。
村上 そしたらセコンドがライガーの顔を隠そうとするからまた腹が立ってきちゃって。
――そんなとこに気をつかうなと（笑）。
村上 そうそうそう（笑）。闘ってる最中に何をやってんだよって。で、気付いたらセコンドとかも殴ってて、レフェリーも殴ってて、来る者来る者みんな殴ってて。
――殴り放題！（笑）。
村上 そう！ そしたらいつの間にか「反則負け！」とか言われて。周りも入り乱れちゃってて。あらあらあらって言ってるうちに小川さんとかもワアーってなっちゃって。
――「あらあらあら」とか「ワアー」とか、よくわかんないですけど、とにかく凄いことになってましたよね（笑）。
村上 それで、今度は小川さんが大乱闘を起こしちゃって藤波社長にまで噛みついてましたからね。
――小川さんの存在感っていうのはやっぱり凄かったですからね。
村上 そりゃ凄いッスよ。ボクは唯一フェンスを客に投げた時ぐらいですかね。もうあの時が一番キレてましたね。
――村上さんがフェンスを投げてるところはTVでも写ってましたからね。
村上 フェンス投げちゃったのは客に殴られたからですよ。「そんなにオレのことが憎いか？」って感じッスね。ちょっと、いつもより多めにブチキレちゃいました（笑）。

戦闘用だが何だか知らないけど、風呂でも入ってろって！（村上）

――間近で見ていた小路さんから見て、あの試合はどうでした？
小路 自分は小さい頃からライガーさんは好きだったんで（微笑）。
――「新日本で闘いたい選手はライガーさん」って、前からよく言ってましたからね。
小路 ライガーさんは凄い好きだったんですけど、あの日はなんか……小さく見えましたねぇ。あれっ、こんなに小さかったんだと思って。（突然）でも、乱闘の時に長州さんのテーマが流れた時はビックリしました。WWFみたいでしたよね（微笑）。
――あれは、みんなビックリしましたけど、乱闘中そんなこと思ってたんですか？（笑）。
小路 はい（微笑）。あれがストロングスタイルなのかなぁって思いましたね（微笑）。
――今日は言いますねぇ（笑）。でも、小路さんは性格的に乱闘とかはどうなんですか？ あんまりケンカとかはしないようなイメージがあるんですけど。
小路 ボクはちっちゃい頃から、一回もキレたことはないですね。そういう意味では、凄い勉強になりましたね。みんな殺伐としててちょっとでも気を抜いたら、もう危ないし。
――小路さんが必死になって小川さんとかを止めていたのが印象的でしたね。まだまだ場慣れしてないという感じで（笑）。
小路 正直、ドキドキしました（微笑）。
――小川さんは藤波社長に「なんなんだ、このルールは？」って、言ってましたけど、村上さん的にはルールはどうなんでしょう？
村上 だから、オレが知ってるプロレス・ルールっていうのは、30分一本勝負って言われたら、30分越えたら終わりって、それだけ！
――まあ間違ってはいないですね（笑）。
村上 男だったら普通、売られたケンカは買うでしょ？ 寝小便垂れてんじゃねぇよ！ とにかくブチ込んでやりゃあいいんですよ！
――何でもいいからブチ込めと。さすが写真誌を賑わした暴れん坊だけありますね（笑）。
村上 ガハハハ！ そんなこともありました（笑）。でも、気抜いてるヒマは無いよというのがオレのやり方なんで。逆にこっちが気を抜いてたらやってくれてもイイですし。あのルールじゃ、なにが面白いのかホント分からないんですよ。会長の言う「魂が抜けてるよ」っていうのはああいうことなのかなって思いましたね。
――それじゃ、村上さんがこれまで闘った新日本の選手の中で、こいつは魂があるなって

小路晃

思う人は誰なんですか？

村上 ん〜、新日本で誰かいるかなぁ。

――そんなに考え込んで、もしかして誰もいないんですか？（笑）。

村上 でもこの間、大谷選手と闘った時は熱かったですよォ。だから、一度外に飛び出した選手は違いますよね。オレが言うのもおこがましいですけど、新日本から出た人間って凄いなと思いますよ、やっぱり。やってても熱を感じますし、見てても熱を感じますから。でも今の新日本からは熱は感じない。

――熱は感じませんか？

村上 だからオレは思うんですよ。新日本には凄くいい選手がいっぱいいると思いますよ。強い選手とかも。でも何かくすぶってるっていうか、皮を被ってるっていうか。

――アハハハ！ 皮被りなんですかね（笑）。

村上 ムケてないッスよ（笑）。特に、「あの、上の人達は何なの？」ってオレは言いたいですね。

――上っていうと、長州さんや永島さんたちにまで噛みつきますか（笑）。

村上 まあ、藤波さんに対してはなんかやってくれるだろうなと思ったんですよ、新日本の社長として。やっぱり会長を凄い慕ってるし、会長の気持ちも一番分かってるんじゃないかなと。オレは単純に、熱い闘いがしたいなと思ってたんですけど、なんか空回りっていうか。会長が今の新日本に言ってる言葉の意味は、新日本をドロ舟にするか、火の船にするかってことだと思うんですよ。

――ドロ船で沈むより、火の船で燃えながら突き進めってことですね。

村上 そう！ その辺をウダウダ色々言ってますけど、それだったら「やあ、参った」って会長に言わせてみろよって。「いやぁ、お前らには参った。凄えなぁ、かなわねえよ！」って、まあ会長はそんなことは絶対言わないんだけど、そう言うぐらいのことをすればいいわけですから。オレだったらやりたいですね。会長に「参った」て思わせることになったら凄いなぁって思わないのかなぁ。

――まあ猪木さんは選手じゃないわけですからね、新日本の立場からだったらオレ達がリング上で闘ってなんぼというのが当然あるわけですから、それを出してみろと。

村上 なんか新日本は熱持ってる人がいるのかいないのかわかんないけど。なんか、リングに上がれば冷めちゃうっていう感じがするし。だいたい、入場シーンと試合後のコメントの方が熱いですからね。

――試合後のコメントとかでは、やたらと勢いがいいですからね（笑）。

村上 その勢いは違うだろ、そこじゃねえだろ！

――次のZERO—ONEが終わると、また福岡でビックマッチがあるみたいですけど。

村上 そうですねぇ。長州、中西組でしたっけ？

――さすがにその二人は把握してますよね？

村上 それも記者の人達に聞いたぐらいですけど（笑）。ホントにあるんですかね？

――実際にやるかどうかもわからないと（笑）。当然、小川さんと長州さんの絡みが注目されるカードなんですけど、村上さんも長州さんにはいろいろとあるんですよね。

村上 そうですね、2発顔面もらってますからねぇ。まあ20発ぐらいこうかなぁと（笑）。

――10倍返し（笑）。

村上 はい、10倍です（キッパリ）。

――中西さんはどうですか？

村上 まあ一回やってますからねぇ。パワー的には凄いモノを持ってるなと前に闘った時思ったぐらいで、、ああどうでもいいですけどね。やると決まったら殺ってやりますよ！

――大阪ドームでは、どこに行っちゃたのという状態でしたけど（笑）、村上さん的には、どうせやるんだったら、小川さんより目立ってやろうという気持ちはあるんですよね。

村上 目立ってやろうというか、殺ってやろうという気持ちしかないんで。別に小川さんに頼るわけでもないし。リングに上がった以上は1人の闘う人間としてガンガン行くだけかなぁって。結果はどう出るか分かんないけど、行くだけ行って勝とうが負けようがっていう部分で結果は結果でいいかなあと思うんですよ。とりあえず完全燃焼したいというか、オレの中のくすぶってるモノとかをしっかり返したいと思うし、まあ、とりあえず、いつも以上に暴れたいなと思ってますね。

――いつも以上って、いつも十分暴れてますから、いつも以上っていうのがどれくらいかは全然分かんないですけどね（笑）。

村上 それは、オレもわからない（笑）。

――新日本の福岡ドーム大会も、小路さんは兄弟分のセコンドに付くんですよね。

小路 はい。なんかあったら絶対助けに行きます（微笑）。

――この間、ウチのインタビューでも「長州さんとも闘いたい」って言ってましたけど、その可能性もないことはないですよね。

小路 そうですね、なんかあったら。やれるんだったら、いろいろやってみたいですね。

――小路さんも、例えば2発殴られたらやっぱり20発は殴りかえすわけですよね。

小路 殴り返します！（キッパリ）。カズが20発だったら、それ以上やりたいです（微笑）。

村上 オォ、頼もしい。もうジャンジャンバリバリ殴ろう！

――アハハハハ！ 「ジャンジャンバリバリ」って、パチンコ屋じゃないんですから（笑）。

小路 なんかあればいつでも行きます。

――実際プロレスのことに関していえば、小路さんの方が村上さんより詳しかったりするんじゃないですか、特に選手名とかは（笑）。

小路 選手はボクの方が詳しいかもしれないです。「アイツはあんな奴だ、こんな奴だ」とかは話はしますけど「関係ねえよ！」っていう感じなんで（笑）。

――ゴングがなっちゃえば関係ないと。そういう意味ではセコンドで指示を出しても聞く耳を持ってくれないんですね？

小路 そうですね、ゴングが鳴ると、もう、

もうジャンジャンバリバリ殴ろう！（村上）

ボクも村上になんかあればいつでも殴ります！（小路）

とんじゃってますからね（笑）。
——という証言があるんですけど、村上さんはセコンドの声は聞こえてますか？（笑）。
村上 聞こえてません！（キッパリ）。
——アハハハハ！　まあ、セコンドがいると思っただけでも心強いですよね。
村上 それはそうでしょう。半年ぐらい前に「タッグ組んだら面白いよねぇ」なんて話をしてた中で、それが実現可能な雰囲気になってるから、いまは楽しいですね。
——『PRIDE』とかのリングではタッグは無理なんでしょうけど、プロレスのリングだったら、村上&小路組が実現するかもしれないですからね。
村上 で、セコンドに村上ショージが付くと（笑）。
——それは抜群ですよ！（笑）。
村上 （急に怖い顔になって）そりゃダメだろ！　いい加減に相づち打ちやがって！
——あぁ、すいません。ところで、小路さんは小川さんとかと話はされてるんですか。
小路 はい。「ジャンジャンやってくれ！」って言われました（笑）。
——アハハハ！　とりあえずジャンジャン殴っとけと（笑）。
村上 そういうもんですよ（笑）。
——猪木さんとは話はされたんですか？
小路 はい！　猪木さんとは大阪ドーム大会の時に挨拶させていただきました（笑）。30分ぐらい猪木さんのスイートルームで、「プロとはなんぞや」みたいなお話をしていただいて……凄かったですね（微笑）。
——どうですか、闘魂は注入されましたか？
小路 いやあ、ホントに自分の考えが狭い……凝り固まった考え方してたんだなと。ホントにアマチュアの気持ちだったなぁと思いましたよ。やっぱりスケールが凄いんですよ。
村上 ハンパじゃないよなぁ（笑）。
——デカすぎるんですけどね（笑）。
小路 ホンット、スケールが凄いんですよ（微笑）。考えてることが全然違うと思いました。「プロだったらこうしなきゃいけないよ。お客さんあっての商売なんだ」とか、いろいろと話を聞きまして、凄い勉強になりました。
——村上さんは、最近、会長のご機嫌なアントンギャグはありませんでしたか？
村上 最近の挨拶で必ず言われるんですけど「お前、スッキリした顔してるなあ。抜いたのか？」って（笑）。
——アハハハハ！
村上 最初は「え？」ってなってたんですけど、毎回毎回会う度に言われて。この間も言われたんで、「あ、これは挨拶なんだ」と（笑）。あと会長に言われて一番嬉しいのは「村上、やり過ぎだな」って一言（笑）。
——それは、どういうシチュエーションで言われるんですか？
村上 試合後、挨拶をしに行くと、凄い顔して「そこに座れ！」って言うんですよ。で、座ると笑って「おい、お前、やり過ぎだな。ダハハハハ！」って（笑）。「あ、いいんだ、それで」って思うと嬉しくって（笑）。
——それは猪木さん流の最高のホメ言葉なんでしょうね（笑）。
小路 最大のホメ言葉ですよね（笑）。
村上 「ありがとな」とか、「お疲れさん」っていう会長の言葉をもらうと、次ももっと何かやらななきゃ、暴れなきゃなと思いますからね（笑）。
——じゃあ、これからもずっとやりすぎで突っ走るわけですね（笑）。
村上 やりすぎを越えてビンタをされるぐらいになろうかなと（笑）。それぐらい熱を持ってリングで試合していきたいですね。小路も加わってもっとデカイ熱を持ってやればみんなほっとけねえだろうなって思いますよ。
小路 ボクも熱を持ってやっていきたいです。あと、プロレスラーはあんまり練習しねえって言ってる変な奴もいると思うんですけど、全然そんなことはない。総合の奴よりも凄いやってる人もいるし、言いたい奴には言わせとけばいいんです。ボクにしても「小路は練習やってないんじゃないか」とか御心配してくださる方もおられますが（微笑）。
——おられますか（笑）。
小路 心配ご無用！　リング上が全てなんで！
——村上さんとは戻るべくして戻ったと。練習で汗を流して、試合で暴れて、夜の方も一緒に暴れるわけですね（笑）。
小路 ボクは女遊びはないです（微笑）。でも、村上は暴れん坊大将軍でしたね（笑）。
——暴れん坊大将軍ですか（笑）。
村上 ガタガタ言わずにね、好きなようにやりゃいいんじゃねえのって。みんな、なんでも好きなようにやろうよって感じっスね。
——リングの中でも外でも好きにすりゃいいじゃねえかと（笑）。
村上 ズレてる奴は蹴散らせば終わりかなぁと。来ないヤツには、オレらから巻き込みにいきますよ！　簀巻きにするとか、拉致するとか、テロ仕掛けるとか、オレら、なんでも考えてやりますから！　火のないトコに火を付けるっていうね。
——マット界の放火魔宣言！（笑）。まあ、これからも、とことんやり過ぎてください！

【4月13日（金）歌舞伎町「大馬鹿地蔵」にて収録】

「タッグ組んだら面白いよねぇ」なんて話をしてたことがあったんですよ。セコンドは村上ショージで（笑）。（村上）

【むらかみ・かずなり】
1973年11月29日、富山県婦負郡出身。慧舟會時代は若きエースとして海外でも活躍、名を馳せた。今や人気爆発の『PRIDE』では記念すべきオープニングマッチをつとめ勝利。UFO入り後は小川の舎弟分として各団体を無差別襲撃。数々の暴走ぶりはリング外にも及ぶ。185cm、95kg

【しょうじ・あきら】
1974年1月31日、富山県魚津市出身。青柳館長のもと誠軍団1号として東京プロレスでデビューした経歴を持つ。『PRIDE』での出場回数は最多を誇り、まさしくミスタープライド。最近、乱闘三昧の村上と行動を共にするが、なぜか巻き込まれないことでも有名。172cm、85kg

村上、小路と一緒にいるのは、2人と同じく富山出身の島端明。黒沢道場に10年以上いた島端は小路と同じようにフリーの道を選択。4・13バトラーツ後楽園大会では試合後の乱闘で臼田とやり合うなど気の強さを見せつけた。

村上一成

あの感動をもう一丁!

女子総合格闘技 ReMix 5秒前!

GOLDEN GATE 2001

5月3日(火)
代々木第二体育館
(17:30ゴング)

注目は桜庭あつこに続く"巨乳"女子プロレスラー中山香里だ!

締め切り直前に飛び込んできたReMixのリリースから、2回目を迎える『ReMix～GOLDEN GATE』の目玉が判明した。前回の桜庭あつこに続く、注目選手とは、ズバリ、ギャングスター こと中山香里である。

FMW出身の中山は、現在コンプリートプレイヤーズとして田中将斗、邪道・外道、保坂秀樹とともにフリーランス集団として、様々な団体で暴れている。しかし、FMW以外で、男子対女子の試合を行っているところは少ないため、中山はもっぱら竹刀片手にマネージャー業に徹している。本人は、それはそれで満足してると言うが、母親は全女でチャンピオン、父親はプロモーターというプロレス一家に育った娘として、生まれ持った闘争本能はかなりのものがあるはず。さらに、ギャングスターを名乗っている中山だけに、比較的ノールール(but新日本)に近いReMixルールなら当然負けられない一戦になるだろう。

中山自身、格闘技は、ほとんど知らないということだが、逆に、これまで男子レスラーとともに培ってきた技術と意地でキックボクサー相手に立ち向かってもらいたい。セコンドに付く予定の邪道・外道とともに、プロレスファンなら必見の試合になること間違いなし! 巨乳つながりということで、桜庭あつこ級の活躍を期待したい。

続いての注目選手は、昨年末の『L—1・2000』に出場した久保田有希。『L—1』ではReMixの優勝者マルロス・クーネンと闘い、下からの十字を極められ病院送りにさせられるという屈辱を味わった久保田は、その後、アマチュアバトラーツなどアマ大会に積極的に出場し勝利を収めている。知る人ぞ知るビジュアルファイターの久保田だが、ルックスばかりでなくバックボーンの柔道の実績は相当なもので、第2の藪下になる可能性も十分に秘めている選手なのだ。クーネンにリベンジして一気に日本人エースへ昇りつめろ!

もちろん、前回のReMixで一躍ブレイクした藪下めぐみもメインで出場が決まっており、前回のグンダレンコ戦での感動を越える、女同士の熱い闘いを期待しながら、大会当日、レポーターを務める桜庭あつこさんにお返しします。

中山香里vs
リー・ヨンファ
(韓国/キックボクシング)

セコンドはモチのロン!
邪道&外道!!

あの性転換ムエタイ選手
パリンヤーも登場!

今回は、性転換(まさにReMix)キックボクサー・パリンヤーも出場。高橋洋子との対戦が決定している。おかまちゃん時代も抜群の強さを見せつけていたパリンヤーだが、はたして性転換の影響はいかに? いろんな意味で注目!

ReMix対戦カードは次の通り

石原美和子(日本/禅道会/総合)vsユタ・ダム(オランダ/柔道)
東条まい(日本/柔道)vsコボチノバ・タチアナ(ロシア/柔道)
小山亜矢(日本/プロレス)vsアンナ・コビリーナ(ロシア/空手)
中山香里(日本/プロレス)vsリー・ヨンファ(韓国/キックボクシング)
久保田有希(日本/柔道)vsマルロス・クーネン(オランダ/総合)
高橋洋子(日本・Jd'/プロレス)vsノントゥム・パリンヤ(タイ/ムエタイ)
八木淳子(日本・総合)vsグンダレンコ・スベトラーナ(ロシア・柔道)
藪下めぐみ(日本・Jd'/プロレス)vsエリン・トーヒル(アメリカ・LAボクシングジム/総合)

■お問い合せ (株)エヌ・イー・オー
03-3796-7461

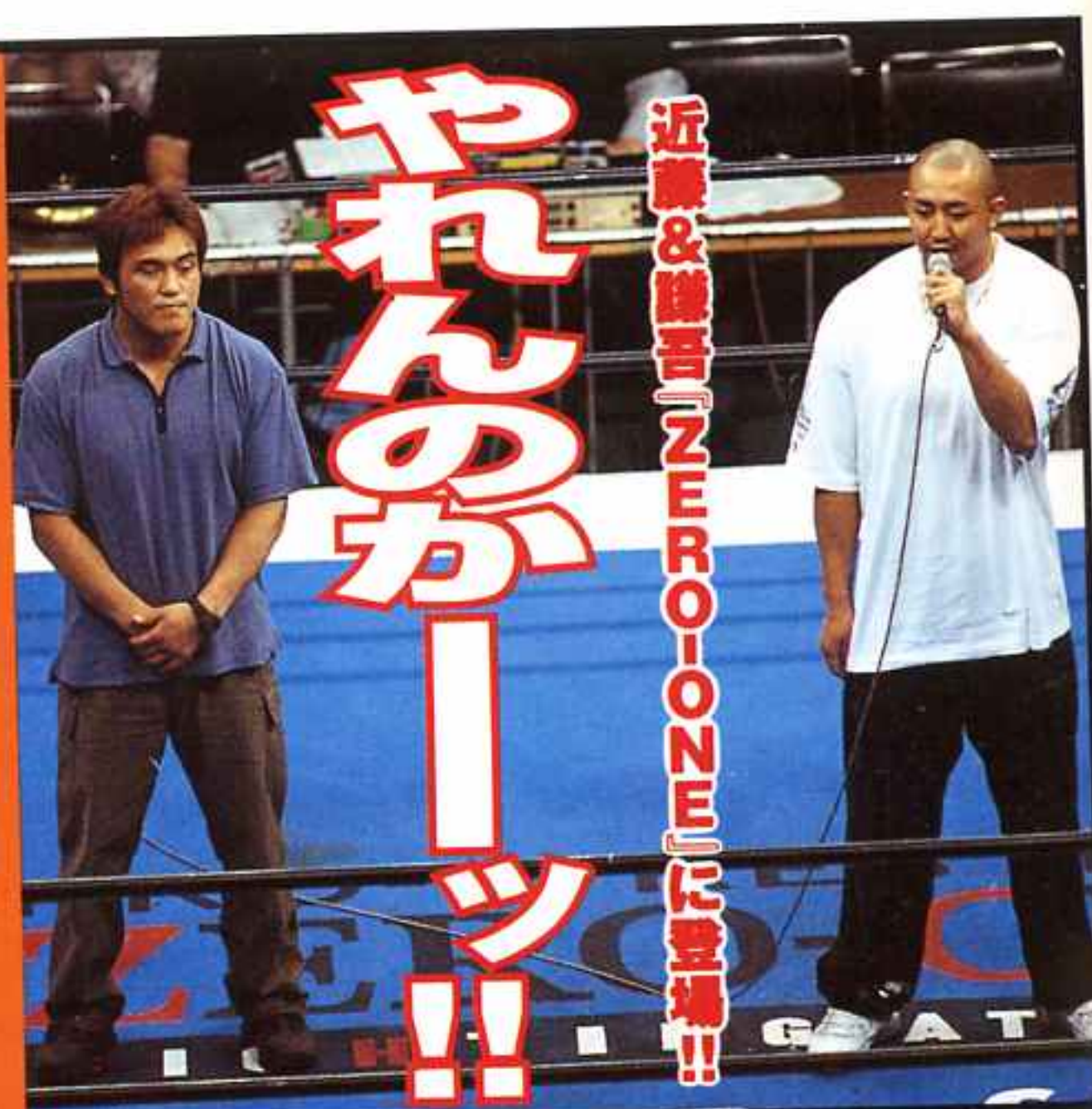
3/14➡4/19 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN
（毎月22日発行）
発行所：（株）ダブルクロス

4月号

ガンツに「忙しいからここ書いて」って言われちゃったので吉田豪とジャイ子の特別な関係のことをみんなに教えてあげる。あのね、吉田豪はジャイ子のことだけはぶったり蹴ったりするの。売れっ子ぶってスカしてるけどさ、素顔は子どもっぽいんだよ。これ内緒だよ。（ジャイ子）

編集長／堀江ガンツ　秘書／ジャイ子

近藤＆諸吾『ZERO-ONE』に登場!!
やれんのかーッ!!

3/13 【新日本プロレス】福岡・西日本総合展示場新館
天山が長州に髪切りマッチを要求！

「現役完全復活」宣言をはたした我らが親方・長州力が、この日カゼで欠場。復帰後、あっという間に有り難みがなくなった親方の試合なので、一日ぐらい休んでもノー問題なのだが、ひとり激怒する男がいた。いつ何時でもカメラの前では毒づく男・天山である。天山は「出たり出なかったり、いい加減なことやってんじゃんーぞ、オラッ！　20日の代々木（テンコジvs長州&真壁）でオレたちに負けたら、頭を丸めてもらおうじゃねーか、オラッ！」と、「カゼで欠場」と「負けたら丸坊主」に何の脈略もないが、とにかく髪切りマッチを要求。そして結局この試合、テンコジと長州という後ろ髪愛好家たちが、大事な襟足を賭けて骨肉を争う壮絶な一戦に……はならず、10分弱でテンコジの勝ち。髪切りもなし。は～カックン。

3/14 【ワールド・パンクラス・クリエイト】
パンクラス×シャムロック問題、和解金で決着

この日、（株）ワールド・パンクラス・クリエイトから、マスコミ各社（『紙プロ』を除く）に「ウェイン・シャムロック（当時のリングネーム）が選手契約及び、エリアマネージメント違反をすべて認め、パンクラスに和解金を支払い決着した」というFAXが送付された。要は5年前にパンクラスと契約を残しながら、"偽装引退"して、パンクラス離脱→他団体登場を図ったシャムロックから、尾崎社長が執念で違約金をぶん取ったというもの。これによって、いよいよリングス前田社長を相手取った裁判に集中できることとなった。がんばれ、尾崎社長！　またしっかり和解金ぶん取って、その金で選手のギャラ上げてやれって！（日明兄さん調）

3/16 【PRIDE】新東京国際空港
安田帰国、「佐竹は秒殺負けが多いね」

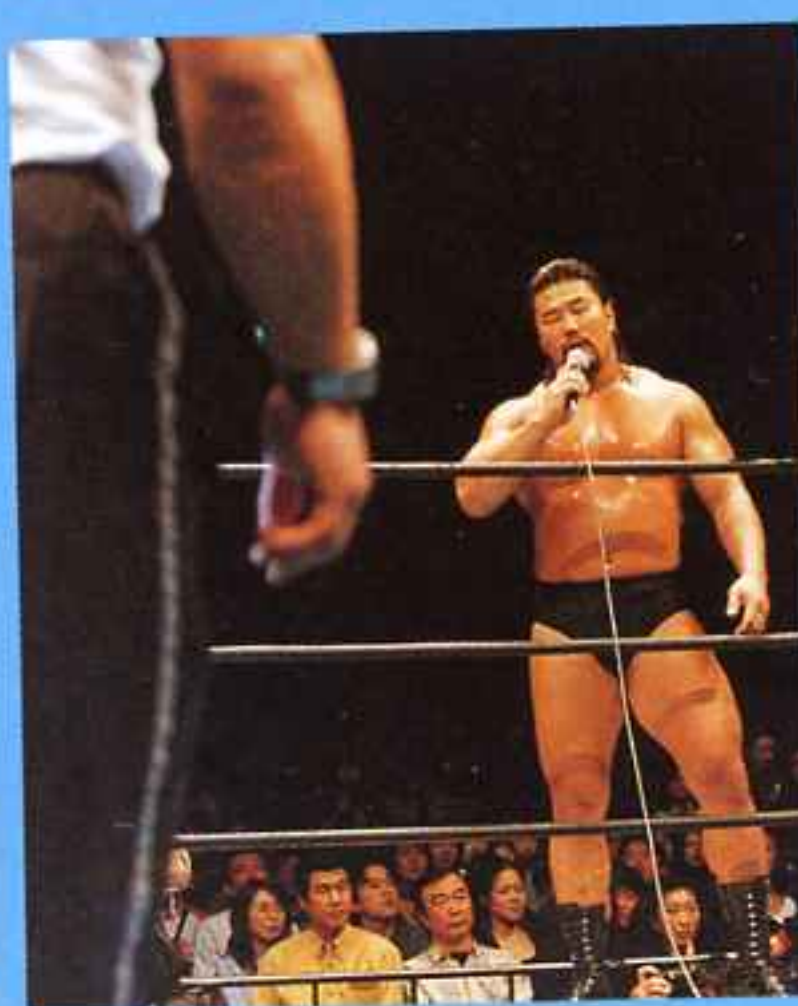
「ローマ字もロクに読めない（破壊王・談）」安田忠夫が、ロスでの1ヶ月半に渡る単身修行を終え、この日報道陣と藤田和之の出迎えを受け帰国した。『LAボクシング』での特訓は肉体面だけでなく、精神的にも安田を強くしたようで、佐竹戦について聞かれると「PRIDEに出たビデオを見ると、（佐竹は）明らかに秒殺負けが多い。俺も秒殺したい」と自信満々。しかし、佐竹の『PRIDE』での秒殺負けはデビュー戦のコールマン戦のみ。対戦相手の戦績をよく把握していない安田、おそらくこれは競走馬の戦績に対しても同様と思われ、安田のギャンブルの弱さの要因はこの辺にあるのではないかと思うのだ。

3/18 【WCW】
ドラゴン無念！　WCWが遂に活動停止！

ここ数年、不振が続いていたWCWが遂に活動停止に追い込まれた。WCWは今年1月にフュージョン社が買収し、3月にE・ビショフを社長に迎えて新体制をスタートさせる予定で、新日本プロレス社長のドラゴンも旧知のビショフ氏が社長に就くというだけの理由で「いい形にもどる。いままでできなかったことができる」と脳天気に喜んでいたものだが、結局買収自体が成立しなかった模様。これによって3月26日、フロリダ州パナマシティーの「マンデー・ナイトロ」生中継が最後の興行になることとなった。どうにもうまくいかない藤波外交。やはりドラゴンが関係を密にできる外国人は、「世界ウルルン滞在記」（TBS）で友情を築いた、パプア・ニューギニア、コロラ村の人々だけなのか……。

3/20 【新日本プロレス】代々木第2体育館
ドラゴン激怒！「オレの気持ちは尋常じゃない」

アントンが藤田、安田、そして破壊王という「猪木軍団」を呼び寄せ、新日のリングジャックに成功した。これに激怒したのがご存じドラゴン。顔を真っ赤に紅潮させ「何もオレの許可を得ていない。オレの気持ちは尋常じゃない」と、いまにも自慢のパーマヘアーをハサミで切り落とし、飛龍革命2001をブチ上げそうな勢いで吐き捨てた。そして「大阪ドームがどういう結果になろうが、オレが全部責任を取る」と不退転の決意を新たにするドラゴンがどう責任を取るのか（もしくは、ごまかすのか）非常に楽しみである。

【新日本プロレス】代々木第2体育館
王座転落の健介、マイクで藤田に謝罪

「オレの名前を言ってみろ」「新日本のトップはオレ」「もう俺たちの時代だ！」など、ひたすら熱く、それでいて絶妙にズレた発言がたまらない最近の健介。いまやドラゴンに続く天然語録王としてブレイク寸前であるが、この日も期待通りやってくれた。猪木軍団としてリングジャックし、なじる藤田に対し「藤田、正直すまなかった、ベルト…」とバカ正直にリング上で異例の謝罪！　しかもこの発言にアントンが激怒し「『ごめん』なんて謝る奴と藤田をやらせても面白くねぇ」と藤田戦を中止にされる始末。健介はきっといい奴なんだろうなぁ、と伺い知れる今回の一件。しかし、プロレスラーとしては、致命的な性格であるのもまた事実である。アーメン。

3/20 【ZERO−ONE】ZERO−ONE事務所
時は来た！「破壊王弁当」遂に発売！

「食えば誰もが破壊王ボディになれる」恐怖の逆ダイエット食品「破壊王弁当」がこの日からコンビニチェーン「サンクス」で遂に販売されました！ カロリーコントロール流行りの世間に風穴を開けること確実なこの弁当は、「勝（カツ）カレー」「スタミナ弁当」「ジャンボ焼き鳥」の3種類。いずれ劣らぬ超ボリュームの一品ばかりだが、特に凄いのが「スタミナ弁当」1500キロカロリー！ なんと一食で成人男性1日分のカロリー取得を可能にした掟破りの一品である。ちなみにこの日の夕方ZERO−ONE事務所に現れ小腹が空いた破壊王は、おやつ代わりに「スタミナ弁当」と「ジャンボ焼き鳥」をペロリと平らげてしまったという。破壊王最高！

3/21 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
"蒙古の怪人"が新日入団！

次世代のスター発掘を目指して、先月「スカウト部」を設立した新日本プロレスが2001年度の新入団選手を3人紹介した。歌うスカウト部長・キムケンが獲得を宣言した清原和博の名前こそなかったが、いずれ劣らぬ逸材揃い。中でも特に注目は世界初のモンゴル人レスラーを目指すセルブジデ。セレブジデは大相撲の幕内力士、朝青龍の実兄で、モンゴル相撲では小結まで昇進しているという。モンゴル相撲の小結がどれぐらい凄いのか想像もつかないが、とりあえず"マット界の小結"川田&健介超えを目指して頑張ってほしいものだ。

3/22 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
4・9大阪ドームのカード、猪木強権発動で白紙に！

この日、猪木を囲んでドラゴン、長州、永島、倍賞が4・9大阪ドームのカードについての会談を5時間ぐらいやってたらしいんだけど、この人たちは、ドラゴンや長州が言ってる言葉が聞き取れるんでしょうか？ 「え？ ドラゴン、もう一回言って」っていうのを延々やって、5時間経過してしまったとしか思えません。疲れ果てた参加者の「白紙でいいや、猪木さん決めて」という思いが一致して（ドラゴン以外）、このような結果になったと思えばシックリくるね。聞き取ってもらえなかったドラゴンはプンプンこれがきっかけで、後日『ワープロ』に字幕が出るようになりました（妄想）。（ジャイ）

3/23 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン出社拒否！ 引きこもり中年誕生！

前日、猪木に対して「正直、キレました」という発言を残してドラゴンがこの日、出社拒否を敢行。そりゃそうだよ、一生懸命しゃべってんのに、意味どころか、言葉を聞き取ってもらえないんだもん。グズッちゃうよ、会社なんて行きたくないよ。お家でゴロゴロしちゃうよ、引きこもり寸前だよ。でも、破壊王の「そんな抵抗しかできないから、世の中見えねえんだ」っていう指摘はまさにその通り！ ドラゴン、すぐ社会復帰できてよかったね。（ジャイ）

3/23 【PRIDE】東京ドームホテル
シウバ陣営、高田狩りを宣言！

桜庭敗れる！ 衝撃ニュースが一瞬にして全世界に広まった『PRIDE・13』。その3日前、桜庭を破った張本人・シウバが公開練習を行っていた。シウバは首相撲からのヒザ、跳びヒザ蹴り、カメになった相手へのヒザなど、必殺パターンを惜しげもなく披露。打倒・桜庭への自信を報道陣に見せつけた。そして練習後の会見でシウバ陣営はさらに怪気炎。なんと桜庭を破った後の次の標的まで言及したのだ。その相手とは新番組「すぽると」キャスター高田延彦！ 商売っ気丸出しの指名という感はひめないが、はたして『PRIDE』はあと1試合を公言する高田とシウバの"わがままな膝小僧世界一決定戦"は実現するのか!?

3/25 【PRIDE・13】さいたまスーパーアリーナ
ということで、石沢vsハイアンが決まったようです

『PRIDE.10』でみんなをションボリさせた石沢vsハイアンの再戦が決定？ ま、それは置いといて、「ということでリベンジマッチが決まったようです」発言です。ジャイ子はDSEが展開する新事業への試金石だと見たね。「決まったようです」発言のアントンは、まるで司会者or仲人。「え、アントンが仲人？ なって〜！」という猪木信者の独身貴族がこぞって入会、「決まったようですね」「マジ？ 結婚するぅ〜」となって入会金、成約両がガッポガッポ。さすがアントン！ 抜け目ないね（また妄想）。（ジャイ子）

3/28 【コロシアム2001】
ヒクソン、コロシアムのプロデューサー就任？

このところ、まったく進展のないヒクソン・グレイシーの次の試合。サクが敗れ、オーちゃんが純プロレス方面で活躍する中、ヒクソン戦の話題も途絶えがちである。そんな中、11・3東京ドームでの小川vsヒクソンをすでに公言している『コロシアム』が将来的にヒクソンを「エグゼクティブ・プロデューサー」に迎える意向があるという、気が早いにも程がある意思表示をした。そんなことはつゆ知らず、ヒクソンはようやく初期練習であるランニングを始めたばかりという、谷津嘉章ばりゆったり調整を続けているのであった。

3/29 【ZERO−ONE】ZERO−ONE事務所
アレク、破壊王に三沢戦直訴するも大谷が横槍！

昨年から、バーリ・トゥードでは結果が出ず、プロレスはやることなすこと裏目にでてしまい、ネットレベルではすっかりバッシング・レスラーとなってしまったアレク。本人もそうとう悩んだようだが、破壊王の突き抜けた説法によりZERO−ONEに賭けることを決意し、破壊王になんと4・18武道館での三沢戦を直訴した！ それにしても三沢が「出ない」と公言しているにも関わらず、事務所で勝手に三沢争奪戦を行ってしまうZERO−ONEはやっぱり最高なのであった。

4 2

【新日本プロレス】新日本プロレス事務所

健介、"藤田に謝罪"を反省

3・20代々木で「藤田、正直言ってすまなかった、ベルト」という正直にもほどがある、マイクアピールを行い、藤田やファンだけでなく、アントンまでもが呆れさせた健介。その発言に対するあまりの反響の多さに健介自身「代々木では恥ずかしいことを言ってしまった」と反省。それだけではとどまらず、「なぜ、あんなことを言ってしまったのか、自分でもわからない。あんなことを言った自分に腹が立つ」と自己嫌悪に陥ってしまった。しかし、その直後「この自分への怒りを橋本にぶつけてやる!」と、突然怒りの矛先を方向転換。自分とはまったく関係ない怒りをぶつけられたら、破壊王もたまったもんじゃないだろう。

【ZERO－ONE】ZERO－ONE事務所

ZERO-ONE格闘技部門、6・14大阪で旗揚げ

旗揚げ戦大成功、破壊王弁当発売と、乗りに乗っている『ZERO－ONE』が、プロレスだけでは飽きたらず、格闘技部門『ファイティング・アスリートZERO－ONE』を6・14大阪城ホールで旗揚げすることになった。これは、プロ、アマ、流派、国内外問わずに参加選手を「リングに上がりたいヤツ、みんな来い!」と「テレビに出たいヤツ、みんな来い!」ばりに無作為に呼びかけるという、実に破壊王らしい、大胆かつ大雑把なもの。要は「猪木祭り」ならぬ「橋本祭り」である。当の破壊王は「PRIDEみたいになるか、プロレス色が強くなるか予測がつかん。成り行きだ!」と、無責任に豪語! 破壊王最高!

4 3

【W★ING】

ポーゴ、松永抹殺の"武器"完成!

W★ING同窓会マッチを控えて、ミスター・ポーゴが久々に新しい武器(凶器ではない)「口裂きガマ」を完成させた。「亡きポーゴ大王様の愛人だった"口裂き女"ポー子様から授かった」という往年のポーゴらしい理由のこの武器。オークションに出される際は刃は丸めてあります。

【ボクシング・花形ジム】

世界王者・星野、必殺「イボ痔パンチ」完成!

WBM世界ミニマム級王者星野敬太郎が、16日の防衛戦を控えて必殺パンチを完成させた。星野はこの日までの猛特訓で、ミット打ちの相手を努める花形会長に強烈なパンチを連発。そのパンチの振動で花形会長は、なんとイボ痔になってしまい、この日緊急手術を受ける羽目になったのだ! 手術を終えた花形会長は「パンチを踏ん張った反動でイボ痔になった。名付けてイボ痔パンチ」と呑気に命名。どうやら星野はチャナ・ポーパオイン(タイ)をKOするだけでなく、イボ痔で病院送りにする腹づもりのようだ……。星野さん、やっちゃっていいんですか!(日明兄さん調)

【新日本プロレス】

ドラゴンが遂に猪木にキバを剥いた!

社長就任当初「猪木プロレス復興」を掲げながら、復興しすぎて自分が隅に追いやられてしまったドラゴン。これまで散々コケにされても気づかなかったドラゴンであるが、このところのアントンのやりたい放題ぶりに、遅ればせながらキバを剥いた! その理由が凄い。「このところファンから『プロレスは色あせた』という厳しいメールが殺到してるんだ。いま一度プロレスと格闘技を線引きする時期にきている」と、なぜか自分のところにきた批判メールをアントンに責任転嫁。

4 5

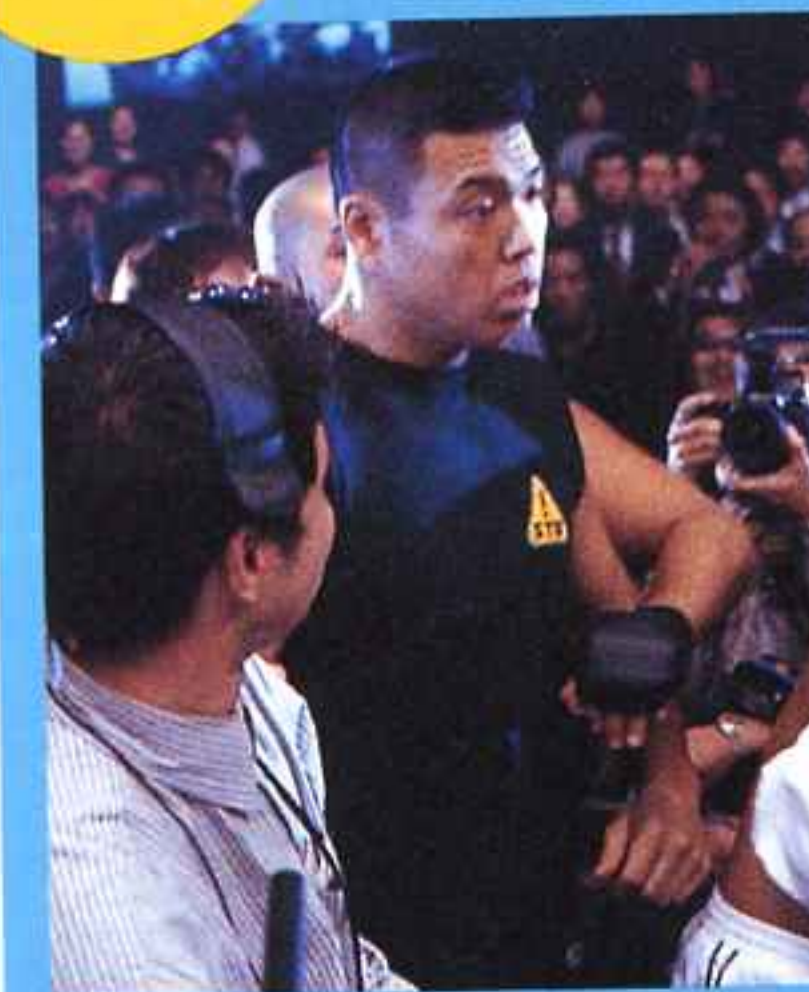
【新日本プロレス】

武藤の評価、川田が小結から幕下に陥落

「健介と川田は小結同士」という秀逸な発言がすっかり有名になってしまったBATTの武藤敬司が、今度は4・14武道館で一騎打ちを行う川田を幕下呼ばわりした! 「川田は小結だと思ったが、この間の試合は幕下。泣き言ばかりいってる」と、武藤はこのところジメジメしたボヤキ発言に終始する川田を「自分の中では幕下陥落」とばかりに断罪した。
その後も懲りずに「もう新日でない」などとボヤキ続ける川田も素晴らしいが、やはり4・14武道館での一騎打ちのあと、「小結とか言ったけど、アイム・ソーリー」という彼にしか言えない天然コメントを残す武藤は最高なのであった。

4 9

【新日本プロレス】

ドラゴン、どさくさに紛れて現役続行宣言

ドラゴンがまたしてもアントンに激怒した! 猪木軍vs新日本となった4・9大阪ドームで新日勢が惨敗。その怒りは頂点に達し「人間、本当に怒ったら、言葉なんかでない」と言いながら、べらべらと怒りを爆発させたドラゴンはどさくさに紛れてまたしても「これからはスーツ姿は減る。自分の身体を元に戻す」と「大阪ドームがどういう結果になろうが、オレが全部責任を取る」と引退を先送りする発言。「大阪ドームの責任は全部自分が取る」とは、現役本格復帰を指していたのか……。はたして、これからのドラゴンロードはどうなるのか? とりあえず今は見守りましょう!(ドラゴン調)。

4 11

【リングス】南平台会館

前田デザイン新ベルト公開!

噂の前田日明デザインのリングス世界ヘビー級新ベルトがこの日公開された。これでリングスはミドル級(75キロ以上90キロ未満)ヘビー級(90キロ以上)アブソリュート級(無差別)の3階級で王座を争うこととなる。まず、その中でミドルとヘビーの王者が決定する「10周年記念興行」が8月11日、有明コロシアムに決定。そこに「カレリンを呼ぶ可能性もある」と爆弾発言。はたしてこのリングスによるカレリン招聘と人生のホームレスのマイク・タイソン招聘、どっちの可能性が高いのでしょう?

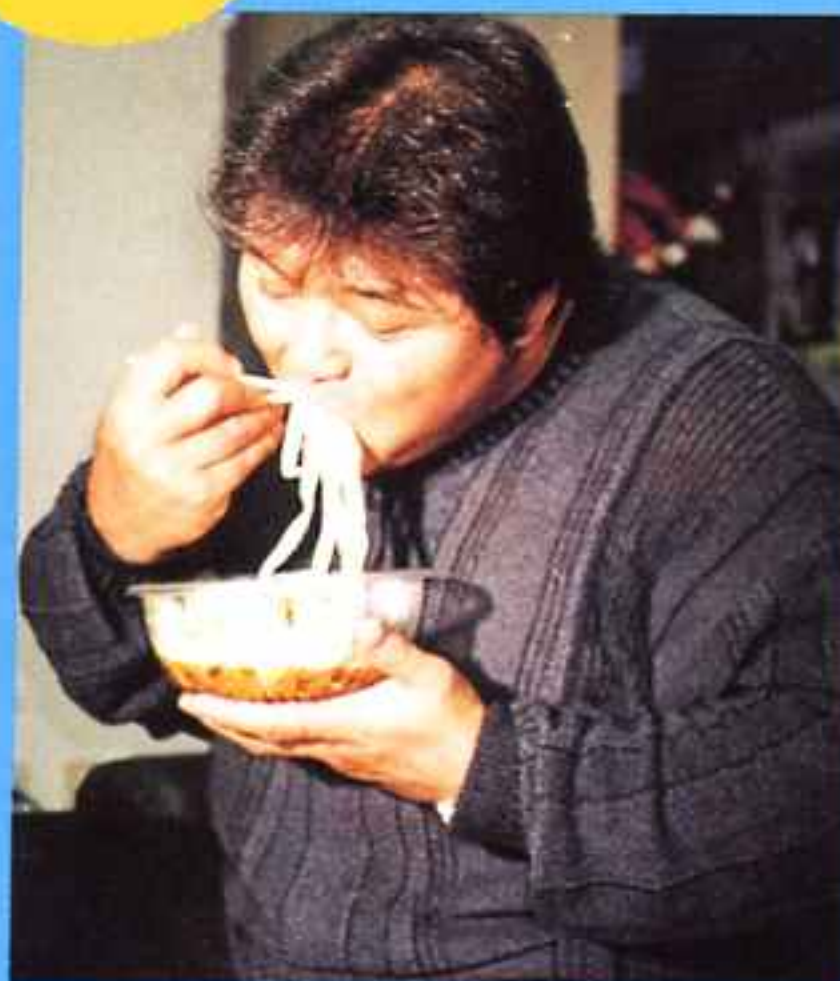
【新日本プロレス】成田空港

アントン、ホームレスから営業マンへ格上げ

アントンが恒例の成田会見で、興行的に惨敗に終わった大阪ドーム大会リベンジとして、福岡ドーム大会に新日本の浮沈をかける覚悟を示した。「福岡が本当の勝負」というアントンはコールマン、ゴールドバーグの投入を示唆するなど、アントン自身が「新日本の正念場」という福岡ドーム満員作戦を開始。アントンはカードだけではなく、自ら5000枚のチケットを予約し、「俺もホームレスから営業マンに格上げになったかな。ダーッハッハ!」とアントン節を轟かせつつ、「これで不入りなら、役員全員クビだ!」とアジることは忘れなかった。

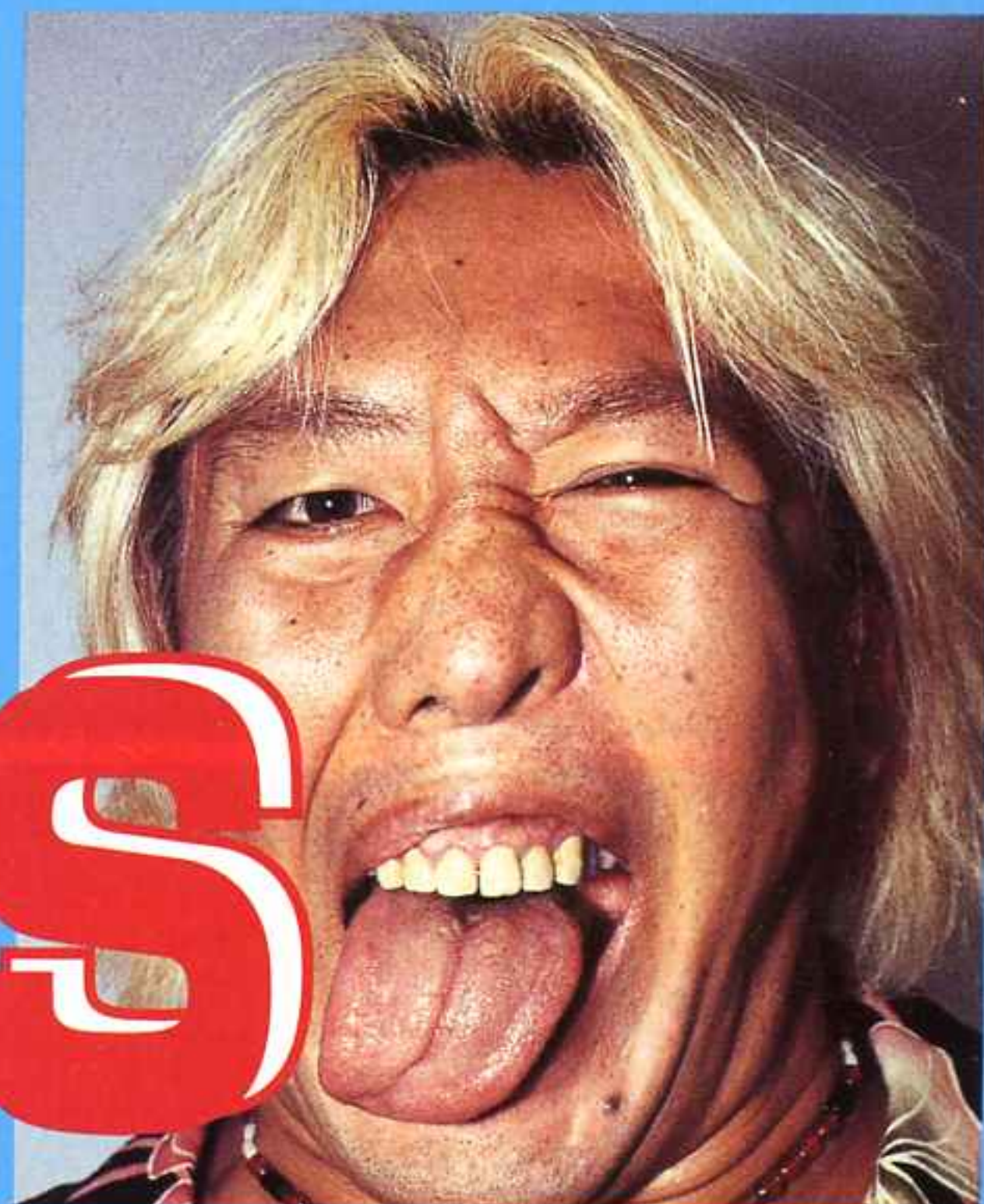
番外編 【UNW】
どうなる!? ジニアスvsレイス

『ファイト』誌上で叩かれた6・2、ディファ有明のハーリー・レイスvsセッド・ジニアス戦。そんな矢先、ジニアスからチョロメ〜ンにこんなファックスが! 「レイス戦消滅も含めた今後の展開によっては、ジニアスvs三沢遺恨決戦という流れになる可能性もあるかもしれません。そうなった場合、橋本が絡んでくる可能性もあるので、橋本の名前は入れておいた方がいいと思います」……だそうです。ポジティブな気持ちの大切さを痛感しました。さて、6・2、ジニアスvsレイス戦は無事に行われるのか! 乞うご期待?

4/12 【ZERO−ONE】ZERO−ONE事務所
破壊王弁当、奇跡の大人気! 第2弾発売決定

みなさ〜ん、破壊王弁当食べて満腹になってる? 「俺、もう食えないよぉ」なんて弱音を吐いちゃダ・メ。なんと第二弾の発売が決定で〜す。今回のメニューも大きさ&カロリー重視! サンドイッチ(もちろんデカい)は900キロカロリーという、軽食の概念を軽くフッ飛ばす一品。写真のサラダうどんみたいなヤツ(やっぱりデカい)は、なんと小っちゃいマヨネーズ1本丸ごとついてます。どうしたいんだ、サンクス! 余談ですがジャイ子は破壊王に「破壊王弁当食べた」って言ったら「あんなもん、体に毒だ!」って言われちゃったぁ。(ジャイ子)

番外編 【リングス】千葉マリンスタジアム
俺の球打ってみィ! 前田日明、マウンドに立つ!

千葉マリンスタジアムで行われた千葉ロッテマリーンズvs西武ライオンズ戦の始球式に前田日明CEOが登場! ピンクレディーを彷彿とさせる華麗なフォームで投げたのはキャッチャーも吹っ飛ぶ剛速球。スタンドは割れんばかりの前田コールどころか、リングスコールまで始まり、興奮した観客がグラウンドに降りてくる一幕も。このどさくさでなぜか試合にまで出たCEOは抜群の守備のテクニックを披露し、マリーンズに勝利を呼び寄せた。以上、ジャイ子の妄想レポートでした。(ジャイ子)

4/19 【PRIDE.14】緊急情報
藤田和之vs高山善廣決定!? 人類のワクを越えた闘い!!

VS

桜庭が欠場する『PRIDE・14』は真IWGPヘビー級王者、藤田和之初の"座長興行"になることが決定した! 注目の対戦相手は20日現在発表されていないが、なんと! 驚くべきことに"人間トーテンポール"こと高山善廣が濃厚! 日本人同士とは思えない、いや、人間同士とは思えない、予想不能のバーリ・トゥードになることは確実だ。チケットはすでに発売中。横浜アリーナはさいたまスーパーアリーナよりチケット枚数が少ないので、いますぐ押さえるのが賢明だ。
■問い合わせ:DSE 03-5775-5700

©中川画伯

ジャイアンハー読者サービス vol.3

担当のチョロメ〜ンが締め切り前で、また原稿落としそうなのでジャイ子がここだけ書いてま〜す。あのね、ここだけの話だけど、吉田豪はジャイ子のこと「大玉」って言うの。「上玉」って言うのが照れくさいみたい。可愛いね。ジャイジャイ。

ここでしか手に入らないジャイアントプレゼントだポーッ!

“狂える猿”葛西純がファイプロに乱入!

大好評につきプレゼント再び!

ファイヤープロレスリングD

前号に引き続き、大好評の『ファイヤープロレスリングD』をもう一丁! 太っ腹だね、『スパイク』さん!

3名様

『スパイク』さんが実際のゲームには登場しない葛西純キャラを作ってくれたぞ。砕け散る蛍光灯もリアルだが、理解不能な動きの葛西を忠実に再現するとは恐るべし! 次号では本人(本猿?)にやらせるぞ!※お問い合せ(03・5722・7799)

5・3『ReMix〜GOLDEN GATE2001〜』大会直前特大プレゼント!

超限定 1名様

デヘッ。桜庭あつこ着用コスチューム(サイズXL)

見てみ、このブラッ! 巨乳セクシータレント桜庭あつこが撮影で着用したコスチュームを、ReMixしのきプロデューサーからいただきました。アリガトーッ! 当選者には、完全密封状態でお届けします。【篠泰樹提供】

5・3『ReMix』大会チケット

10組20名様

さらに太っ腹のしのきプロデューサーが5・3 ReMixチケットを、なんと10組20名様にプレゼント! ご希望の方は電話番号を必ず明記の上、5月1日必着でお申し込み下さい。

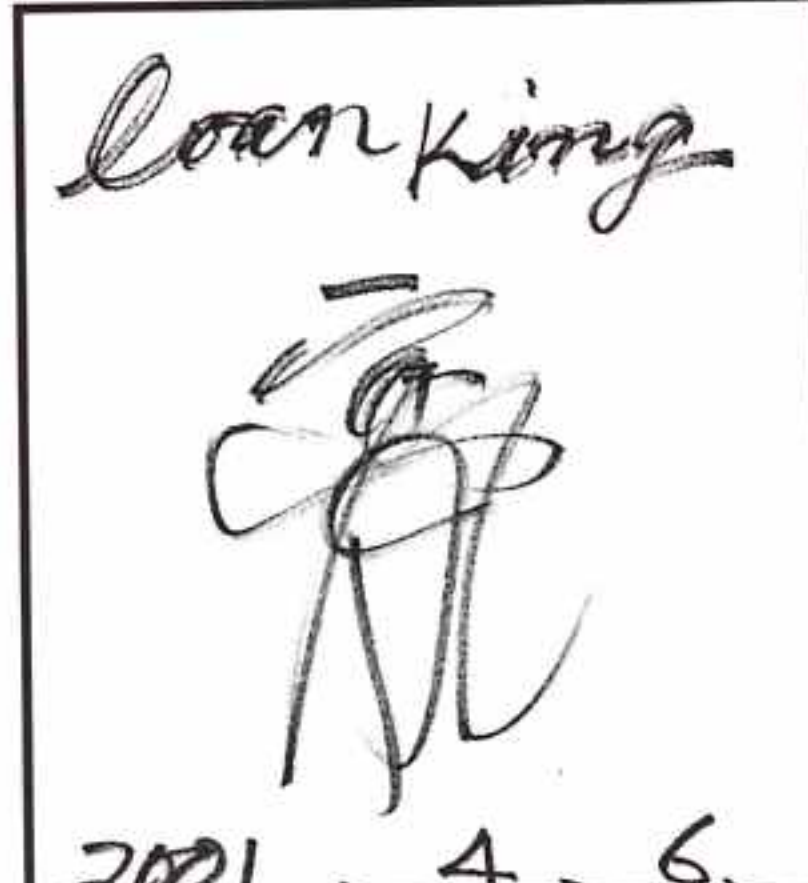
女子総合格闘技 ReMiX

“悲しき天才”提供 チャイナのヘアヌード

2名様

すでにご覧になった方も多いと思うが、チャイナのヘアヌードが掲載されたプレイボーイを2名様にプレゼント【セッド・ジニアス提供】

アイアム“ローンキング”安田サイン色紙

1名様

安田のサイン入り色紙を1名様にプレゼント。色紙には英語(!)でズバリ「ローンキング」

元気があれば何でも着れる！ 春の新作Tシャツ大放出ダーッ！

春の新作・パンクラス美濃輪育久Tシャツ
【subscabs提供】
※お問い合せ
(03-3342-3014)

春の新作・ウォークオンTシャツ（サイズS・M・L・XL）
【イーフォース・ジャパン提供】
※お問い合せ
(047-378-6403)

春の新作・大和魂家紋Tシャツ（サイズM・L・XL）
【イーフォース・ジャパン提供】
※お問い合せ
(047-378-6403)

春の新作・大和魂炎Tシャツ（サイズM・L・XL）。
【イーフォース・ジャパン提供】
※お問い合せ
(047-378-6403)

春の新作・ジークンドーTシャツ（サイズM・L・XL）。
【イーフォース・ジャパン提供】
※お問い合せ
(047-378-6403)

春の新作・公認凶器Tシャツ＆暴力殺戮軍団Tシャツ。
【ハードドコアチョコレート提供】
※お問い合せ（03-3637-5105）
HPアドレスhttp://hardcore.hoops.ne.jp

こんな会社やめてやるTシャツ、革命Tシャツ、不敗伝説Tシャツ。どのTシャツを選ぶかはあなた次第！
【チャンピオン提供】
※お問い合せ
(03-3221-6237)

春の新作・春一番Tシャツ（2種類）元気が一番！ 増殖する春さんグッズ
【IVYブックス提供】
※お問い合せ
(0568-31-0727)

『SRS・DX』オフィシャル・ショップ『グレート・アントニオ』から~~盗んで~~いただきました

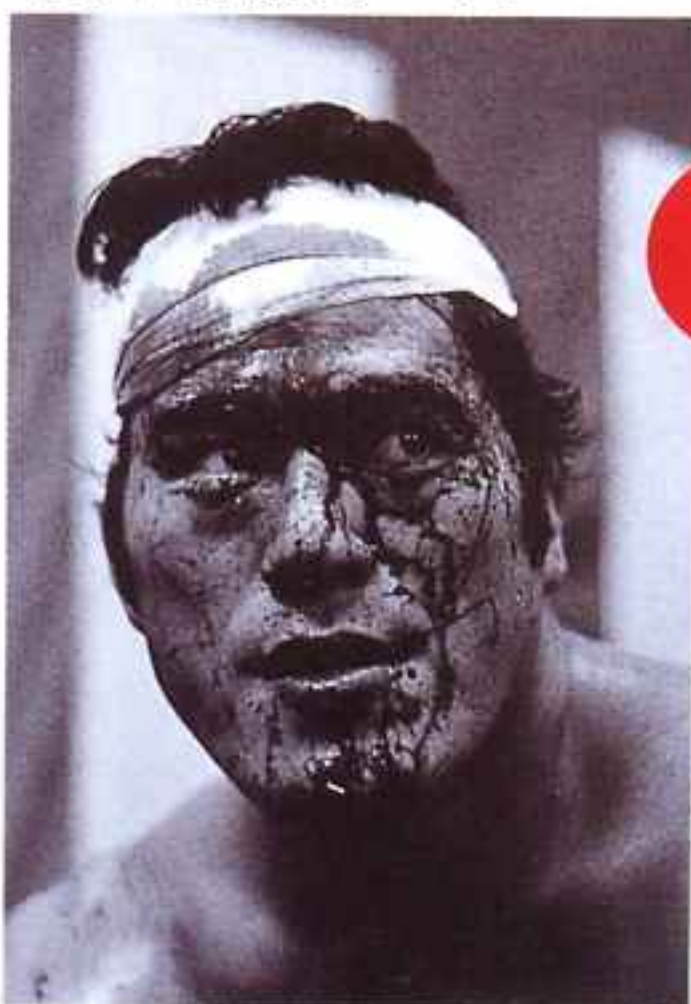
メチャ売れ！ 猪木×ハイロウズTシャツ
『グレート・アントニオ』の売れ線ナンバルワン商品、猪木×ハイロウズTシャツ！ アントンファンもハイロウズファンもみんな仲良く着てください。

INOKIキャップ（黒）or（ライトグレー）
♪ピチピチ、キャップキャップ、ランランラァ〜ン。どうですか？

『紙プロ』は井上きびだんごを応援します！
※読者プレゼントをいただいた時に限り

桜庭和志フィギュア
限定1000体の桜庭フィギュアはいかがでしょう？ まだ間に合う！

SAKUキーホルダー
ちなみに、このキーホルダーは左がフロントで右がバックです。

猪木顔面ポスター（顔面流血＆新聞見出し）
部屋中、アントンだらけで埋め尽くせッ！ 貼りますかーーッ！

猪木顔面Tシャツ
豆腐パンもいいけどTシャツもね。インパクト大。着るんだーッ！

グレート・アントニオキャップ
グレート・アントニオを被れ！
営業時間は11時〜20時（月曜定休）

誰も知らない真のアントンが見られる！ アントニオ猪木写真集「人生のHomeLess」撮影・橋本田鶴 猪木信者超必見ダーッ!!

ヤスベガスTシャツ
このTシャツに続きヤツベガスTシャツも作っていただきたい！ なっ！

工作キット SAKUベルト
アブダビの王子様も持ってるサクベルト。君はもう持ってるのか？

※グレート・アントニオの商品に関するお問い合わせは
グレート・アントニオ ☎03-3219-9550まで

元気があれば何でも見れる！　春のビデオ&DVD祭りだワッショイ！

☆愚零闘武多 1997〜2000（DVD）

初のシリーズ全戦参加となったムタの貴重なバウトの数々と武藤自身が語るリアルアメリカドキュメントを収録。【ヴァリス提供】

☆武藤敬司 1997〜2000（DVD）

プロレスLOVEの原点がここにある!! 天才が集大成構築に向けて、苦悩・革命・理想・決意を熱く語る!!【ヴァリス提供】

☆狼達の視軸 〜武藤敬司ワールド〜

テリー、スチュ・ハート、ダイゴーと、武藤と異色の三大対談が実現!! 狼たちが見据える新世紀レスリングとは？【ヴァリス提供】

☆新日魂5

21世紀の新日魂は何処へ…動乱の新日本を天コジ、西村らの言葉から想い、探し出せ!! 若手時代の試合も脱録。【ヴァリス提供】

☆これが新日道場だ!! 〜新日魂4〜

各 3 名様

新日本プロレスの原点でもある道場が一本のビデオに!! 入門テストからちゃんこの作り方まで全てを大公開!!【ヴァリス提供】

☆K-1 WORLD GP2000決勝戦

天国のアンディ、見てるか!! K−1戦士たちが贈る今世紀最後の闘い。新世紀を担うアビディの活躍も見逃せない。【ポリスター提供】

☆ヒストリー・オブ・ジュニア・ヘビー

強烈なキャラクター揃いの新日ジュニア戦士。その彼らの歴史を全てシングルマッチで収録!! 咆吼は届くか!!【ヴァリス提供】

☆猛牛伝説・天山広吉特集

天山と共にバッファローロードを駆け抜けろ!! 猛牛の歴史と猛牛トークの炸裂にモウ〜、たまらんぞ!!【ヴァリス提供】

☆佐々木健介 パワー・ウォリアー

健介とケンスキーの強烈なダブル・インパクト!! ライバルへの想いも強烈!! さあ、俺の名前を言ってみろ！【ヴァリス提供】

☆ケンドー・カシン（DVD）

DVDの感想？ 知るか、バカ!! お前が見て俺に教えろ!!（カシン調）【ヴァリス提供】

センス抜群!

3 名様

なんと大和魂グッズがせんすになったヨ。これさえあれば、暑い日も安心！【イーフォース・ジャパン提供】

アイム・チョーノ出演

セットで 2 名様

蝶野正洋ゲスト出演のＬｙｕ（リュウ）のビデオとメジャーリリース第1弾「リズム&ライムズ」をセットで2名様にプレゼント！ 聴けェ！

レッスルマニア大爆発記念みやげ&その他（マクロスとか）

セットで 1 名様

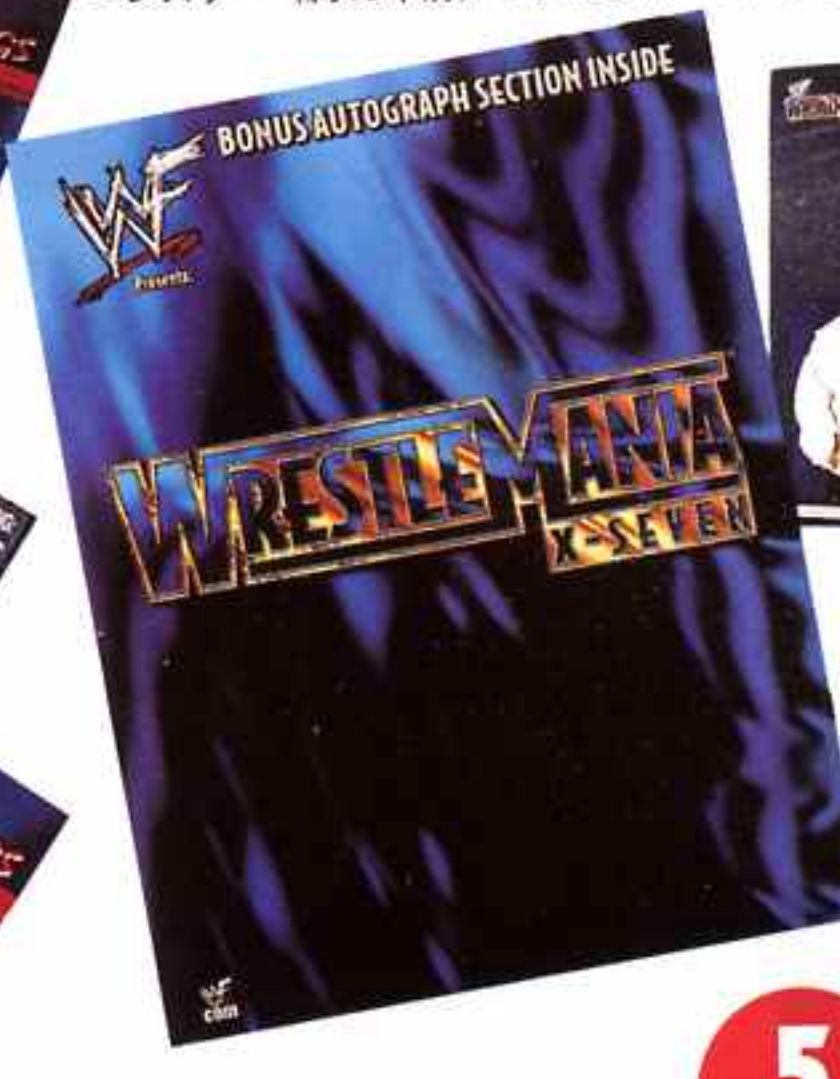
『レッスルマニア17』大爆発記念に、ReMix、『渋女』でお馴染みの篠プロデューサーが、事務所を移転した際に出てきたWWFグッズをまとめて1名様にプレゼント！

『レッスルマニア17』大会パンフ（極厚）

『レッスルマニア17』の大会パンフレットを3名様にプレゼント。しかも、超セクシーレスラー（約40年前）ファビラス・ムーアとメイ・ヤングのサイン付き♥

3 名様

マクロスM3

5 名様

レッスルマニアでフィーバーしてきた阿部さんから頂いたドリキャスソフトです【阿部武さん提供】

応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼『紙プロ』でやって欲しい企画をあげてください。

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「G・読者サービスvol.3」係まで

※締切は2001年5月21日（月）当日消印有効

♪悔しいけれどお前に夢中

16歳の大型新人！ 浅田りょうのカードを5パック3名様にプレゼントします!!【さくら堂提供】
※お問い合せ（03・5686・7671）

3 名様

オシャレ番長にあげる

1 名様

サント&カラテカポスター
【EROSTY POP!提供】
※お問い合せ（03-5610-1781）

元気があればホームレスにもなれる

3 名様

誰も知らない真のアントンが見られる！ 猪木信者超必見ダーッ!! アントニオ猪木写真集『人生のＨｏｍｅＬｅｓｓ』撮影・橋本田鶴子【ぴいぷる社提供】
※お問い合せ（03・5232・6661）

“黒”の時代、到来!?

着ちゃうぞ、バカヤローッ!!

リングおじさん パーカー(黒)

FRONT

BACK

アイム・紙プロ!! T2000グッズにも合うよっ

¥6.000

[サイズ] M or L

以前、大人気だったリングおじさんのパーカーが、遂に復活! 着回しのきく黒パーカーだけに、男の子も女の子もみんなバンバン着てください!

リングおじさん パーカー(黒×白)

FRONT

BACK

黒と白のエクスタシー!!

¥6.000

[サイズ] M or L

背中は思いっきりロゴTと同じもの(色違い)。特製のラグランボディで仲間に差をつけろ!!

紙のプロレス RADICAL おもいっきりロゴT

FRONT

BACK

ツーサウザンッ!! でも2001 Tシャツ!!

¥3.800

[サイズ] S or M or ~~L~~ SOLD OUT

以前リリースした『紙プロ』ロゴTシャツが夢の競演! 2001年を記念した21世紀初の『紙プロ』Tシャツを着てプロレス観戦に出かけてください! 背中には本誌ゆかりの関係者が、格闘技Tシャツばりに総登場してるので、お楽しみに!

★通販方法は左のページを参照してください。★紙プロウェアは全て(メイドインジャパン)特別注文でつくってま〜す。

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、パトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい。

紙のプロレス RADICAL
No.37
2001年5月25日発行
No.38は5月下旬発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

●編集兼発行人
山口日昇
●編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
八木賢太郎
(映画「みんなのいえ」の試写会に感動したためつき非番)
●編集見習い
斉藤フリテンくん
●スーパーバイザー
吉田豪
●助っ人
中村愚乱
金田謙太郎
中村カタブツ君
●アートディレクター
出田さん(TwoThree)
●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
ミネ(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
古賀ゆきえ
●出前
出前持ち入江(TwoThree)
●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
●試合写真
平工幸雄
乾晋也
●血液型はAB型
ジャイ子
●お勘定&衣料部
林ヘックション一枝
●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
●印刷
図書印刷株式会社
●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

祝 破壊王弁当 200万食突破!!

紙プロTシャツも（オーチャンTシャツ同様）200万着突破を目指してバク進します!!

U.M.F. Tシャツ〈黒×黄〉

¥3,800 SorMorL SOLD OUT

大好評「U.M.F.Tシャツ」の新色!! 特注ラグランボディで着やすさ200%。花くまゆうさく先生書下ろしイラストです。

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉

¥3,500 SOLD OUT SorMorL

すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード! 花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉

¥3,500 SOLD OUT SorMorL

最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ! 同じく花くまゆうさく先生・画。

紙プロネックピース

¥~~1,200~~➡大特価¥600

決算のため、大処分特価でご奉仕します! 数に限りがあるのでお早めにお申し込み下さい!!

必読!! 通販方法が変わります

通販方法

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも:ネックピースだけなら¥300）を郵便振替で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を通信欄に必ず記入すること! これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのTシャツやパーカーと一緒に申し込みもOKですよ。

■郵便振替の宛先
00130-3-769154

（株）ダブルクロス
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

お問い合わせ先 （株）ダブルクロス TEL03-3403-5188

SS Tシャツ長ソデ、リングおじさんトレーナー、パトTシャツ、ジャイ子Tシャツの通販分は完売しました。下欄外の直販店でお求め下さい。

●紙プロウェアは通販以外だとチャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237）、チャンピオン大阪店（TEL.06-6645-5186）、岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）、宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）、大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）、東京（神保町）・グレートアントニオ（TEL.03-3219-9550）で入手可能です!!

WANIMAGAZIN MOOK 174
2001 No.37
平成13年5月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税

9784898296554

雑誌　69862-74
ISBN4-89829-655-6
C9476 ¥800E

1929476008008

印刷：図書印刷株式会社